

科目名	地域社会と大学教育（総合経営学部）		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL11101	研究室	学生セグ
担当者	住吉 廣行		必修選択	必修	科目種別	講義	ワイズワ-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
総観										
<b>授業概要</b>										
本講義は、初年次教育の意味合いを持たせています。大学のミッション、大学・学部・学科の3ポリシーについて確認します。大学生の特徴を捉えた教育手法を説明し、課題解決型の学びを展開しようとしていること、学生支援についての大学側の考え方がCSの向上にあるのではなく学生をパートナーと見なすというパラダイムシフトを考えていることを説明します。各種センターの機能について説明し、それらを大学生活の中で活かせるようにします。										
<b>学修到達目標</b>										
大学の教育に対する考え方、大学側が用意している学修支援システムの種類や場所やその機能等について理解すること。そしてそれらを活用するためにも、学生一人一人がこれからの大学生活をどのように送るべきかを十分に考え、カリキュラムの組み方、取得すべき資格、地域連携・ボランティア活動等学生の自主的な活動への参加などについてプランニングが出来るようになること。										
<b>授業の進め方</b>										
オムニバスでの授業となります。学長、学部長・両学科長、各センター長などが交代で担当します。加えて、大学の「自主独立の精神に基づいて、それぞれの学部に適した内容で前向きな姿勢で講演して下さるゲストをお招きし、熱く語っていただきます。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	長野県、松本市などの特徴	松本大学が立地する長野県、松本市がどのような特色を持った地域であるか、地勢、文化、歴史などから概観し、そのような地で学ぶ事の意義を考える。				事前：パンフレットを熟読する。(2時間)事後：配布したプリントに基づき復習する。(2時間)				
2	大学設立経緯と学校法人の組織	長野県、松本市及び広域連合、松商学園が1/3つ出合った本学の設立経緯、地域立大学と呼ばれる本学及び学生への期待と存在意義、法人組織の全容を紹介する。				事前：配布したプリントを読む。(2時間)事後：本学及び本学部について文章でまとめる。(2時間)				
3	松本大学の教育手法、具体例紹介	松本大学の地域連携による多様な取組をいくつか紹介し、それらが学生の成長をどのように促しているかを具体的に把握して貰う。				事前：以前に配布したプリントを読む(2時間)事後：地域連携に必要な資質を考える(2時間)				
4	本学での国際交流の現状と将来	本学の国際交流の現状を具体例を用いて説明し、学生にどのような可能性があるかを確認させる。その中で国際交流委員会が果たす窓口機能の役割も説明する。				事前：グローバル化について検討。(2時間)事後：自身の学修計画に国際を組み込む。(2時間)				
5	健康安全センターの役割、本学における図書館機能	前半は学生の健康を守る者としての健康安全センターの役割を周知し、身体検査結果の解説や喫煙や受動喫煙が体に及ぼす影響に警鐘をならす。後半は大学での学修拠点となる図書館から賢い利用方法を提示する。				事前：キャンパスガイドで健康安全センターと図書館の機能を把握する。(4時間)				
6	地域づくり考房『ゆめ』の存在意義	地域づくり考房『ゆめ』設立の経緯とその理念を理解して貰う。予め準備されたシートに書き込むことによって、自らの地域との関わり方とその可能性を認識する。				事前：活動事例を調べる。(2時間)事後：『ゆめ』を訪問し、活動に触れる。(2時間)				
7	特別講義 ホスピタリティの精神を学ぶ	これまでのキャリアにおける職場環境を例に挙げ、真のホスピタリティ精神を發揮することの意味を理解し、これからの学修やいざ訪れる就活等、学生生活に生かす。				事後：講義を聞いた感想を短くても良いのでまとめる。(4時間)				
8	特別講義 プライダグル業界の経営と志事	八芳園の経営戦略を学ぶ。顧客本位の姿勢を従業員と共有することにより、結婚式場への誘客数において見事V字回復を果たした要因を理解する。				事前：八芳園のホームページを閲覧しておく。事後：講演を聞いた感想をまとめる。(4時間)				
9	学部の理念と特徴、学ぶべき内容	学部のACDポリシーを説明し、学びの体系とその狙いなどを語る。2つの学科が存在することに對する大学側の思いや考え方にも触れ、学生の学修意欲を高めたい。				事前：学部の3ポリシーを理解する。(2時間)事後：ポリシーを踏まえ目標を検討する。(2時間)				
10	学科の理念と特徴、学ぶべき内容	2つある内の一つの学科について、どのような学びの可能性があるかを説明し、将来の就職先との関連などにも言及する。具体例に基づき学生のイメージを膨らませる。				事前：学部の3ポリシーを理解する。(2時間)事後：ポリシーを踏まえ目標を検討する。(2時間)				
11	学科の理念と特徴、学ぶべき内容	もう一つの学科について、その学科の特徴を踏まえて、上と同じような説明を行い、学生の学びへの意欲を高める。				事前：学部の3ポリシーを理解する。(2時間)事後：ポリシーを踏まえ目標を検討する。(2時間)				
12	教職センターの役割1	教職の免許を取るための学びの枠組みや履修するための諸手続きについて詳細に説明する。卒業要件に含まれない単位取得に伴う時間的な制約についても理解する。				事後：配付された資料を読み、教職センターを訪問し疑問点をなくすようにする。(4時間)				
13	教職センターの役割2	教育実習を含む学びの具体的な内容に加え、先輩である卒業生の状況、教員採用状況などについて理解する。学修支援の体制（試験対策）の利用を促す。				事前：前週配布のプリントを読む(2時間)事後：教職課程を取るが否かを検討する(2時間)				
14	大学側の学生支援の考え方を理解	松本大学が“B”ポリシーとして学生支援を積極的に考えており、学生をカスタマーではなくパートナーとして見ようと考えているが、その哲学を理解して貰う。				事前：事前配布のプリントを読む。(2時間)事後：自分たちに何が出来るかを考える。(2時間)				
15	松本大学の地方創生戦略と大学教育 授業のまとめ	松本大学がこれまで実施してきた地域連携活動が認められ、COC（地（知）の拠点）大学として認定された。こうした活動を踏まえ、大学がこれからの地域連携を考える。全講義のまとめ、期末試験の注意点を示				事後：蒼穹を読み松本大学のCOCがどのような内容であったかを学んでおく。(4時間)				
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>					
講義用プリントが配布されます。					定期試験：100% S:大学の使命、教育手法等を正しく理解したうえで、大学生活に意欲を持ち、卒業に向けた準備学修の計画を立て、試験で特に優れた結果を出すことができる。A:大学の使命、教育手法等を理解したうえで、今後の大学生活に意欲を持ち、卒業に向けた準備学修の計画ができ、試験で80点以上である。B:大学の使命、教育手法等を概ね理解したうえで、卒業に向けた準備学修の計画ができ試験で70点以上である。C:大学の使命、教育手法等を踏まえ、準備学修の計画がある程度でき、試験で60点以上である。					
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>					
本学が発行する各種パンフレットなど。					講義は前の席で聞きたい学生を予め募集し、席を2列ほど確保します。残りの学生は座席指定とします。シラバスをよく読んで、講義に臨んで下さい。受講票に記入された感想、質問、要望には次の時間に返信したいと思います。					

科目名	知の技法		学年学期	1年後期	単位数	2	ナパリング	UL11102	研究室	A-16
担当者	守 一雄		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C	2017年度～					
<b>授業概要</b>										
教養ある大人となるための「知の技法」を実習します。「知の技法」は広範囲に及びますが、この授業では言語の活用技術に絞って「読み・書き・聞き・話す」という4つの技能について実習を通して学びます。具体的には、3冊の課題図書を読み、レポートを6回書き、本の内容について6回ディベート（聞き、話す）をします。なお、最終試験の受験資格が与えられるのは「ディベートに5回以上出席し、すべての読後レポートを提出」した者としてします。										
<b>学修到達目標</b>										
1) 本を決められた期間内に読めるようになる。2) パラグラフ・ライティングで文章が書けるようになる。3) ディベートで相手の主張を正しく聞き取ることができるようになる。4) ディベートで自分の意見を決められた時間内に話すことができるようになる。										
<b>授業の進め方</b>										
全部で15回の授業のうち、6回を講義と実習、6回を小グループによるディベートに充てます。講義を聞くだけでなく、課題図書を読み、読後レポートを書き、ディベートで聞き、話すことで、言語の4つの機能をフル活用する授業となるようにします。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	この授業の進め方/ディベートのやり方と利点				課題図書(1)の読書(4時間)				
2	パラグラフライティング	レポートの書き方実習(三論点意見文章法)/パラグラフライティング				課題図書(1)の読書(4時間)				
3	ディベート	ディベート導入の是非についてディベート				読後レポート(1)の作成、提出(4時間)				
4	相互添削実習	レポート(1)の返却と相互添削実習 文章推敲の意義と方法				レポート(1)の書き直し(4時間)				
5	ディベート	ディベート導入の是非について再度ディベートします				レポート(1)の完成版提出(4時間)				
6	意見と感想	レポート(1)完成版返却とコメント 絶対評価と相対評価				課題図書(2)の読書(4時間)				
7	ディベート	課題図書(2)に関するテーマについてディベートします				課題図書(2)のレポート(3)提出(4時間)				
8	レポート(3)の相互添削実習	レポート(3)の相互添削実習/三論点文章法の応用				読後レポート(3)の推敲、完成版作成(4時間)				
9	ディベート	課題図書(2)に関するテーマについてディベートします				レポート(3)の書き直しと完成版(4)の提出(4時間)				
10	英語を学ぶことの意義	レポート(4)返却とコメント/科学的思考方法				課題図書(3)の読書(4時間)				
11	ディベート	課題図書(3)に関するテーマについてディベートします				課題図書(3)のレポート(5)提出(4時間)				
12	英語学習の実際	レポート(5)の相互添削実習/三論点文章法の応用				読後レポート(5)の推敲、完成版(6)作成(4時間)				
13	ディベート	課題図書(3)に関するテーマについてディベートします				読後レポート(6)の作成、提出(4時間)				
14	知の技法まとめ	レポート(6)返却とコメント				総合的復習(4時間)				
15	最終試験・授業アンケート	最終試験・授業アンケート				総合的復習(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「ザ・ディベート」茂木秀昭著(ちくま新書) ISBN:978-4480058928(生協で購入してください。) 課題図書 「残念ながら、その文章では伝わりません」山口拓朗著(たいわ文庫) ISBN:978-4479306597(生協で購入してください。) 課題図書 「英語を制するライティング」キム ジョンキョウ著(講談社現代新書)(別途、指示します。) 課題図書				定期試験:100% S:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C:課題すべてを基準レベルで達成した。なお、最終試験では、知識を問うような試験はしません。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
特になし。				楽な授業ではありませんが、本を読む習慣が付き、文章を書く力がつくはずですが、また、ディベートを通して、自分の主張をわかりやすく話し、相手の主張をしっかりと聞き取れるようになると思います。						

科目名	基礎ゼミナール（観光）		学年学期	1年通年	単位数	4	ナバリング	UL11103	研究室	
担当者	各教員		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
<p>大学での学生生活は高校までとは異なります。本講義では「高校生から大学生へ意識や行動を変えること」、「大学生としての基礎的資質を固めること」の2つを目的としています。これらは導入教育、初年時教育などと呼ばれるものです。上記の2つの目的を実現するために、本講義では「大学での学び方が身につく」、「教員や他の学生と関わりを持つことができる」、「自分の将来（職業）について考えられる」、「大学での学びに慣れる」ことを基軸に講義計画を立てています。</p>										
<b>学修到達目標</b>										
<p>学修態度の基礎が身につく、友人や教員との人間関係の基礎づくりができる。また、大学における学びをより実りあるものに行うことができる。</p>										
<b>授業の進め方</b>										
<p>テキストや配布資料を用いた授業のほか、グループワーク、講演会参加など皆さんの積極的な参加を求めます。また、貸与したタブレットやパソコンによるアクティブラーニングもおこないます。</p>										
<b>授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	各ゼミの発表	自己紹介、履修相談等				テキスト第1章1.1の予習				
2	コンピュータ指導	履修登録等に不可欠な本学のコンピュータシステムに関する実習等				テキスト第1章1.2の予習（2時間）、第1章1.1の復習（2時間）				
3	学内施設の見学	図書館、基礎教育センター、キャリアセンター等				テキスト第1章1.3の予習（2時間）、第1章1.2の復習（2時間）				
4	ノート・テイキング	大学での学びとノート・テイキング				テキスト第1章1.4の予習（2時間）、第1章1.3の復習（2時間）				
5	ノート・テイキング	実践的なノート・テイキング				テキスト第2章2.1の予習（2時間）、第1章1.4の復習（2時間）				
6	キャリアセンターによる講演会	自己発見レポートのフォロー				テキスト第2章2.2の予習（2時間）、第2章2.1の復習（2時間）				
7	情報を集める	大学での学びと情報検索				テキスト第2章2.3の予習（2時間）、第2章2.2の復習（2時間）				
8	情報を集める	様々な情報源				テキスト第2章2.4の予習（2時間）、第2章2.3の復習（2時間）				
9	リーディング	大学での学びとリーディング				テキスト第2章2.5の予習（2時間）、第2章2.4の復習（2時間）				
10	リーディング	様々な文章とその読み方				テキスト第3章3.1の予習（2時間）、第2章2.5の復習（2時間）				
11	リーディング	読解のスキル				テキスト第3章3.2の予習（2時間）、第3章3.1の復習（2時間）				
12	学生委員会による講演会	防犯・防災に関する講習等				テキスト第3章3.3の予習（2時間）、第3章3.2の復習（2時間）				
13	ライティング	大学での学びとライティング				テキスト第3章3.4の予習（2時間）、第3章3.3の復習（2時間）				
14	ライティング	レポートの基礎知識				テキスト第3章3.5の予習（2時間）、第3章3.4の復習（2時間）				
15	ライティング	引用・注・参考文献表の書き方				テキスト第3章3.6の予習（2時間）、第3章3.5の復習（2時間）				
16	後期ガイダンス等	後期履修相談、前期の復習等				テキスト第4章4.1の予習（2時間）、第3章3.6の復習（2時間）				
17	ゼミ学生の親睦をはかる	各ゼミで主催する大学祭の企画に関する話し合い				テキスト第4章4.2の予習（2時間）、第4章4.1の復習（2時間）				
18	ゼミ学生の親睦をはかる	各ゼミで主催する大学祭の企画に関する話し合い				テキスト第4章4.3の予習（2時間）、第4章4.2の復習（2時間）				

科目名	キャリア入門（総合経営学部）		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL11104	研究室	W-24
担当者	上野 隆幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
本授業ではキャリア教育の初歩的段階として、自らのキャリアを考える上で必要となる情報を提供し、併せてこれらの情報を基に「考えてもらう」ことを目的としています。具体的には「自らのキャリアを考える上での情報提供」「実際に自らのキャリアを考える」「就職活動の基礎事項の情報提供」の3点に焦点を絞って展開します。										
<b>学修到達目標</b>										
現在の若年者の就職・労働に関する知識を修得し、大学生の就職活動の流れを理解した上で、自らの「働くこと」への初期ビジョンを形成できること。										
<b>授業の進め方</b>										
毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。なお講義では、毎回ミニレポートを作成してもらいます。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	導入 - キャリアとは何か、そしてなぜ重要か -	キャリアという言葉の説明を行うとともに、本講義で扱う内容等について説明します。				「キャリア」とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
2	企業における人事管理の基盤 - 企業の社員区分制度の概要 -	人事管理の基盤システムの一つである社員区分制度について解説します。				社員区分制度とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
3	企業における人事管理の基盤 - 社員区分制度の詳細と学歴との関係 -	社員区分制度が学歴別管理とリンクしている点について説明します。				学歴別の賃金カーブについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
4	フリーターとしての働き方 - フリーターのタイプと所得の問題 -	フリーターの現状やタイプを説明した後、フリーターと正社員の生涯所得について説明します。				フリーターのデメリットについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
5	フリーターとしての働き方 - 雇用・能力開発・年金の問題 -	フリーターと正社員の違いについて、雇用の安定や老後など、所得以外の面から比較し、説明します。				国民年金と厚生年金の違いについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
6	産業研究 - どのような産業・業種があるのか -	社会にはどのような産業(業界)があるのかを紹介します。				自らが興味を抱く産業を理由とともに5つ考えて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
7	職種研究 - どのような職種・仕事があるのか -	社会にはどのような職種(仕事)があるのかを紹介します。				自らが興味を抱く職種を理由とともに5つ考えて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
8	転職のメリットとデメリット	転職した場合に有利になる点、不利になる点について解説します。				転職した場合に不利になる点について調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
9	ライフデザイン - 人生設計 -	人生の節目のイベントを経済的側面からみることで、生涯にどれだけのお金が必要かを解説します。				自らのライフデザインについて考えて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
10	働く上でのリスク	会社の倒産やリストラ、病気など、働く上でのリスクについて説明します。				企業の人員整理に関する事例を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
11	大学生の就職活動 - 大学生の就職活動の流れ -	大学生の就職活動の大きな流れについて説明します。				就職活動に関する新聞記事を探し、読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
12	大学生の就職活動 - データでみる大学生の就職活動 -	大学生の就職活動について、就職支援企業の調査結果を基に、その概要を説明します。				企業の採用活動に関する新聞記事を探し、読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
13	松本大学生の就職活動	松本大学生の就職活動をデータを用いて説明します。				就職活動の流れを調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
14	先輩方たちから学ぶ就職活動	就職活動を終えた先輩方の経験談を聞きます。				先輩方に対する質問を考えて下さい。講義後、先輩方の就活成功の秘訣を考えて下さい。（4時間）				
15	講義全体のまとめ	これまでの講義内容を簡単にレビューします。				これまでの講義での不明点を確認して下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
プリントを配布します。				小テスト：55% 出席レポート：45% 小テストと出席レポートの合計点が100点の場合にS、80点以上の場合にA、70点以上の場合にB、60点以上の場合にC、59点以下の場合にDとなります。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
「キャリアデザイン入門 1 基礎力編」大久保幸夫著（日経文庫）				皆さんの将来の働き方や就職活動を考える上で、必ず役に立つ授業です。なお、授業は就職活動前の学生に対する内容のため、4年生の受講は可能な限り避けして下さい。						

科目名	地域史（地誌）			学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL11105	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性				カリキュラムポリシーとの関連性				履修対象入学年度（読替科目）			
				A	B	C					
<b>授業概要</b>											
地域の歴史を正しく理解することは、地域の観光や福祉を考える場合にも有効だろうし、地域商工業の発展をはかるうえでも不可欠といえます。しかし地域史を学ぶ本当の意味は、歴史を見る際の勘所をおさえることにあります。松本地方の地域史は松本だけのことで他の地域とは全く関係がない、ということでは決してありません。皆さんが、他の地域の歴史を知ろうとするとときに、どういふところに目を付けてその地域の歴史をたどったらよいか、そのポイントを把握することになるのです。											
<b>学修到達目標</b>											
日本全体の歴史の中で、信州や松本地方の歴史はどこに特徴があるのかを理解することが目標です。											
<b>授業の進め方</b>											
基本的には教員からの説明を主体とした講義形式で進めます。アウトキャンパス等は計画していません。											
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンスと講義全体についての基礎知識を説明					事前、テキスト1～3頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
2	中世の信州	戦国時代の信州と松本について概略的に解説する					事前、テキスト4～8頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
3	近世の地域（全国的傾向）	太閤検地を起点として日本近世の仕組みを概説する					事前、テキスト10～13頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
4	信州の年貢	近世において領主と農民の関係の基軸である年貢収受関係に関し、特に信州の各藩を取り上げ、年貢の実態を解説する					事前、テキスト14～18頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
5	江戸時代の松本	信州の中でも特に松本平に関し、その特徴を解説する					事前、テキスト18～20頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
6	“県”の成り立ち	明治期になって繰り返される県の合併について、詳述する					事前、テキスト22～29頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
7	「長野県」の誕生	初期の「長野県」および第二次「長野県」、そして現代の長野県が誕生するまでの複雑な経緯を詳述する					事前、テキスト30～33頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
8	市町村の整備	府県レベルの整備に続き、市町村の整備が展開する過程を詳述する。併せて町村合併が強行された事情にも触れる					事前、テキスト34～36頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
9	“市”の誕生	町村レベルの整備と併行して、わが国で初めて「市」が設定された経緯と、その実態について詳述する					事前、テキスト36～41頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
10	地域の商工業	地域に展開する商工業に関し、商工会議所を取り上げて解説する。特に松本商工会議所には特徴的な歴史があり、その点についても詳述する					事前、テキスト42～48頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
11	松本の製糸業と商工業	信州全土で盛んとなった製糸業について概説し、松本での製糸業の展開を、商工業全体の発展と関連付けて説明する					事前、テキスト42～48頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
12	信州の産業組合	信州で著しく発展した戦前の産業組合について、実態に即した説明をする					事前、テキスト50～58頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
13	地域の実業教育	松本市の誕生とともに始まる松本成成商業学校問題について、市議会資料にもとづいて解説する					事前、テキスト60～69頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
14	戦後の地域	戦前の歴史の上に、戦時中の特殊事情が加わり、どのように戦後の地域経済が形成されるのかを、概略的に説明する					事前、テキスト71～80頁を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
15	総括	地域の歴史を、政治・経済・社会という側面ごとに振り返り、総括する					事前、テキスト全体を通読(4時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
「地域史（地誌）」木村晴壽著松本大学総合経営学部編(生協で購入してください。)						基本的には期末試験の結果を重視します。授業に出席するのが基本なので出欠に関してはあまり重視しません。レポート：20%、定期試：80%。S:授業内容を十分に理解し、日本の経済発展について解説できる。A:授業内容を理解している。B:授業内容をおおよそ理解している。C:授業内容を6割程度理解している。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>					
「長野県史」長野県編 「松本市史」						本講義では「遅刻」という範疇はありません。時間通りに着席することが基本です。					

科目名	総合英語（観光）Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 総合英語					
<b>授業概要</b>										
この授業では、基礎文法を復習しながら、実際のコミュニケーションに使える英語を修得します。ネイティブが話す英語にある音の変化を学び、聞き取れるよう取り組みます。また、同じような場面設定で実際に会話ができるよう、様々なフレーズを学習します。										
<b>学修到達目標</b>										
ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。基礎文法を使って海外で日常生活ができる程度のスピーキング力をつける。短い文章を読み、推測しながらおおまかな概要を把握できる。										
<b>授業の進め方</b>										
DVD教材を使用し、アウトプット中心の体験型学習を通して会話を修得していきます。課題もアウトプットが主になります。100語程度の短い文章のリーディングも取り入れます。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 英語学習のための意識改革と学習方法	英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。				自分に合った学習計画を立てロードマップ記入、音声ダウンロード(1時間)				
2	Scene1: It's so nice to meet you! be動詞と一般動詞, 挨拶をする	授業の概要と目標、授業の進め方を説明。be動詞と一般動詞の性質や使い方の確認「握手」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
3	Scene2: Is he a popular professor?疑問文と否定文、自己紹介をする	疑問文と否定文の特徴自己紹介する際の口語表現「クラブ活動」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
4	Scene3: He showed me "a" way 現在形と過去形、感想を言う	現在形と過去形の使い方自分の感想や感情を表す口語表現「ホームステイ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
5	Scene4: For here or to go?可算名詞と不可算名詞、注文をする	可算名詞と不可算名詞の違いと使い方注文をする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
6	Scene5: She is so beautiful 代名詞、お願いをする	代名詞の確認お願いをする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
7	Scene6: Catching a cab 前置詞、場所を説明する	前置詞の性質と使い方場所を説明する時の口語表現「チップ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
8	中間テスト(口述) Scene7: How Romantic!	中間テスト: ロールプレイ発表 残り時間: 形容詞と副詞の違いと使い方人を描写する際の口語表現				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
9	Scene8: I'm not feeling well 助動詞、体調を述べる	助動詞の種類と使い方体調を表現するときの口語表現「旅行保険」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
10	Scene9: Tickets for a Yankees Game 進行形、誘う	進行形の使い方行動を誘う時の口語表現「大学スポーツ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
11	Scene10: What's on the shopping list?接続詞、誘いを断る	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
12	Scene11: MoMA is fun! 現在完了形、聞き直す	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
13	Scene12: The "Fourth of July" is coming up 未来形、予定を尋ねる	未来形の種類と使い方予定を尋ねる時の口語表現「独立記念日」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
14	Scene13: Who is that guy?!不定詞と動名詞、提案する	不定詞と動名詞の性質と使い方提案する時の口語表現「カレッジタウン」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
15	まとめ	口述テスト: スピーチ 残りのユニットを確認				期末試験に向けての準備(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久、本多吉彦 Braven Smillie 著(金星堂) ISBN:9784764740112(生協で購入してください。)				受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。PC、スマホのいずれかが必要です。英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。楽しみながら受講して下さい。						

科目名	総合英語（観光）Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	非常勤
担当者	清澤 理恵		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 総合英語					
<b>授業概要</b>										
この授業では、基礎文法を復習しながら、実際のコミュニケーションに使える英語を修得します。ネイティブが話す英語にある音の変化を学び、聞き取れるよう取り組みます。また、同じような場面設定で実際に会話ができるよう、様々なフレーズを学習します。										
<b>学修到達目標</b>										
ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。基礎文法を使って海外で日常生活ができる程度のスピーキング力をつける。短い文章を読み、推測しながらおおまかな概要を把握できる。										
<b>授業の進め方</b>										
DVD教材を使用し、アウトプット中心の体験型学習を通して会話を修得していきます。課題もアウトプットが主になります。100語程度の短い文章のリーディングも取り入れます。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 英語学習のための意識改革と学習方法	英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。				自分に合った学習計画を立てロードマップ記入、音声ダウンロード(1時間)				
2	Scene1: It's so nice to meet you! be動詞と一般動詞, 挨拶をする	授業の概要と目標、授業の進め方を説明。be動詞と一般動詞の性質や使い方の確認「握手」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
3	Scene2: Is he a popular professor?疑問文と否定文, 自己紹介をする	疑問文と否定文の特徴自己紹介する際の口語表現「クラブ活動」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
4	Scene3: He showed me "a" way 現在形と過去形, 感想を言う	現在形と過去形の使い方自分の感想や感情を表す口語表現「ホームステイ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
5	Scene4: For here or to go?可算名詞と不可算名詞, 注文をする	可算名詞と不可算名詞の違いと使い方注文をする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
6	Scene5: She is so beautiful 代名詞, お願いをする	代名詞の確認お願いをする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
7	Scene6: Catching a cab 前置詞, 場所を説明する	前置詞の性質と使い方場所を説明する時の口語表現「チップ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
8	中間テスト(口述) Scene7: How Romantic!	中間テスト: ロールプレイ発表残り時間: 形容詞と副詞の違いと使い方人を描写する際の口語表現				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
9	Scene8: I'm not feeling well 助動詞, 体調を述べる	助動詞の種類と使い方体調を表現するときの口語表現「旅行保険」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
10	Scene9: Tickets for a Yankees Game 進行形, 誘う	進行形の使い方行動を誘う時の口語表現「大学スポーツ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
11	Scene10: What's on the shopping list?接続詞, 誘いを断る	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
12	Scene11: MoMA is fun! 現在完了形, 聞き直す	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
13	Scene12: The "Fourth of July" is coming up 未来形, 予定を尋ねる	未来形の種類と使い方予定を尋ねる時の口語表現「独立記念日」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
14	Scene13: Who is that guy?!不定詞と動名詞, 提案する	不定詞と動名詞の性質と使い方提案する時の口語表現「カレッジタウン」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
15	まとめ	口述テスト: スピーチ残りのユニットを確認				期末試験に向けての準備(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久、本多吉彦 Braven Smillie 著(金星堂) ISBN:9784764740112(生協で購入してください。)				受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。PC、スマホのいずれかが必要です。英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。楽しみながら受講して下さい。						

科目名	総合英語（観光）Cクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 総合英語					
<b>授業概要</b>										
この授業では、基礎文法を復習しながら、実際のコミュニケーションに使える英語を修得します。ネイティブが話す英語にある音の変化を学び、聞き取れるよう取り組みます。また、同じような場面設定で実際に会話ができるよう、様々なフレーズを学習します。										
<b>学修到達目標</b>										
ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。基礎文法を使って海外で日常生活ができる程度のスピーキング力をつける。短い文章を読み、推測しながらおおまかな概要を把握できる。										
<b>授業の進め方</b>										
DVD教材を使用し、アウトプット中心の体験型学習を通して会話を修得していきます。課題もアウトプットが主になります。100語程度の短い文章のリーディングも取り入れます。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 英語学習のための意識改革と学習方法	英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。				自分に合った学習計画を立てロードマップ記入、音声ダウンロード(1時間)				
2	Scene1: It's so nice to meet you! be動詞と一般動詞, 挨拶をする	授業の概要と目標、授業の進め方を説明。be動詞と一般動詞の性質や使い方の確認「握手」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
3	Scene2: Is he a popular professor?疑問文と否定文, 自己紹介をする	疑問文と否定文の特徴自己紹介する際の口語表現「クラブ活動」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
4	Scene3: He showed me "a" way 現在形と過去形, 感想を言う	現在形と過去形の使い方自分の感想や感情を表す口語表現「ホームステイ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
5	Scene4: For here or to go?可算名詞と不可算名詞, 注文をする	可算名詞と不可算名詞の違いと使い方注文をする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
6	Scene5: She is so beautiful 代名詞, お願いをする	代名詞の確認お願いをする時の口語表現「キャンパスライフ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
7	Scene6: Catching a cab 前置詞, 場所を説明する	前置詞の性質と使い方場所を説明する時の口語表現「チップ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
8	中間テスト(口述) Scene7: How Romantic!	中間テスト: ロールプレイ発表 残り時間: 形容詞と副詞の違いと使い方人を描写する際の口語表現				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
9	Scene8: I'm not feeling well 助動詞, 体調を述べる	助動詞の種類と使い方体調を表現するときの口語表現「旅行保険」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
10	Scene9: Tickets for a Yankees Game 進行形, 誘う	進行形の使い方行動を誘う時の口語表現「大学スポーツ」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
11	Scene10: What's on the shopping list?接続詞, 誘いを断る	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
12	Scene11: MoMA is fun! 現在完了形, 聞き直す	単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
13	Scene12: The "Fourth of July" is coming up 未来形, 予定を尋ねる	未来形の種類と使い方予定を尋ねる時の口語表現「独立記念日」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
14	Scene13: Who is that guy?!不定詞と動名詞, 提案する	不定詞と動名詞の性質と使い方提案する時の口語表現「カレッジタウン」についての長文				単語リストを覚える、Let's Watchパートのロール別シャドーイング、音読筆写(1時間)				
15	まとめ	口述テスト: スピーチ 残りのユニットを確認				期末試験に向けての準備(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久、本多吉彦 Braven Smillie 著(金星堂) ISBN:9784764740112(生協で購入してください。)				受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				インターネットでダウンロードした音声や映像を使った課題が出ます。PC、スマホのいずれかが必要です。英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。楽しみながら受講して下さい。						

科目名	総合英語（観光）Dクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	N-01
担当者	大石 文朗		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、月曜日4限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 総合英語					
<b>授業概要</b>										
この講義では、英語の基礎的な文法や語彙を復習することによって、英語に関する総合的基礎力の向上を目指します。また、実用英語技能検定の過去問に基づいた小テストを実施して、英語力の自己診断を行います。クラス編成はプレイスメントテストの結果に基づいて行い、受講生の英語力に適した授業内容を実施します。										
<b>学修到達目標</b>										
主語と動詞と目的語、物の状態や時をどう表すか、そんな英語の基礎を完全に理解し、説明することができるようになること。										
<b>授業の進め方</b>										
1. 実用英語技能検定に関する小テストを行います。2. 前回授業の簡単な復習を行います。3. テキストの解説を行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方、英語能力の確認テスト				テキストP14～19を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
2	文脈に合う適切な語句を補う	Unit 1 & Unit 2				テキストP20～25を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
3	文脈に合う適切な語句を補う	Unit 3 & Unit 4				テキストP26～31を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
4	語句の並び替え	Unit 5 & Unit 6				テキストP32～37を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
5	語句の並び替え	Unit 7 & Unit 8				テキストP38～43を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
6	空所に適切な語句を補う	Unit 9 & Unit 10				テキストP44～49を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
7	空所に適切な語句を補う	Unit 11 & Unit 12				テキストP14～49の授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
8	英語力の確認	中間のまとめと試験				テキストP50～55を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
9	長文の読解	Unit 13 & Unit 14				テキストP56～61を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
10	長文の読解	Unit 15 & Unit 16				テキストP62～67を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
11	リスニング	Unit 17 & Unit 18				テキストP68～73を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
12	リスニング	Unit 19 & Unit 20				テキストP74～79を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
13	リスニング	Unit 21 & Unit 22				テキストP80～82を事前に読む。授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
14	リスニング	Unit 23				テキストP50～82の授業内容や英語表現などについて復習する。(1時間)				
15	英語力の確認	講義全体のまとめと試験				英語力を確認して、今後の学習意欲につなげる。(1時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「First Primer」Tetsuzo Sato etc.著(南雲堂) ISBN:978-4-523-17710-4 C0082(生協で購入してください。)		定期試験:50% 小テスト:20% 受講態度:30% (受講態度とは、授業中の発言回数を点数化して評価するものです) S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
「英和辞典、和英辞典」		予習・復習は必ずしておいてください。								

科目名	総合英語 (INT) Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	非常勤
担当者	ミゲル アルバート ミョン		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
○		A	B	C	~2016年度 総合英語					
<b>授業概要</b>										
実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。										
<b>学修到達目標</b>										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。										
<b>授業の進め方</b>										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。				授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間)				
2	The World's Best-Selling Medicine 1	ガイドンスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The World's Best-Selling Medicine 2	授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	Fighting Diseases with Diseases 1	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Fighting Diseases with Diseases 2	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Saved from Certain Death 1	致命的なウイルス感染による病気からの回復について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	Saved from Certain Death 2	致命的なウイルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	Dolphins to the Rescue 1	動物と人間の不思議な関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	Dolphins to the Rescue 2	動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	The Gentle Giant from Africa 1	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	The Gentle Giant from Africa 2	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Animal Detectives 1	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	Animal Detectives 2	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	How the Kiwi Got Its Name 1	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	How the Kiwi Got Its Name 2	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「READ THIS! 2」Daphne Mackey, Alice Savage著(Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9 (生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
特になし。		原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。								

科目名	総合英語 (INT) Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	非常勤
担当者	イサー フィリップ		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
	○		A	B	C	~2016年度 総合英語				
<b>授業概要</b>										
実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。										
<b>学修到達目標</b>										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。										
<b>授業の進め方</b>										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。				授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間)				
2	The World's Best-Selling Medicine 1	ガイドンスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The World's Best-Selling Medicine 2	授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	Fighting Diseases with Diseases 1	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Fighting Diseases with Diseases 2	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Saved from Certain Death 1	致命的なウイルス感染による病気からの回復について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	Saved from Certain Death 2	致命的なウイルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	Dolphins to the Rescue 1	動物と人間の不思議な関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	Dolphins to the Rescue 2	動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	The Gentle Giant from Africa 1	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	The Gentle Giant from Africa 2	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Animal Detectives 1	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	Animal Detectives 2	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	How the Kiwi Got Its Name 1	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	How the Kiwi Got Its Name 2	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「READ THIS! 2」Daphne Mackey, Alice Savage著(Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9 (生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
特になし。		原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようしてください。								

科目名	総合英語 (INT) Cクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12101	研究室	A-08
担当者	和田 順一		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、水曜日3限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
	○		A	B	C	~2016年度 総合英語				
<b>授業概要</b>										
実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。										
<b>学修到達目標</b>										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。										
<b>授業の進め方</b>										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。				授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間)				
2	The World's Best-Selling Medicine 1	ガイドンスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The World's Best-Selling Medicine 2	授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	Fighting Diseases with Diseases 1	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Fighting Diseases with Diseases 2	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Saved from Certain Death 1	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	Saved from Certain Death 2	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	Dolphins to the Rescue 1	動物と人間の不思議な関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	Dolphins to the Rescue 2	動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	The Gentle Giant from Africa 1	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	The Gentle Giant from Africa 2	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Animal Detectives 1	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	Animal Detectives 2	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	How the Kiwi Got Its Name 1	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	How the Kiwi Got Its Name 2	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「READ THIS! 2」Daphne Mackey, Alice Savage著(Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9 (生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
特になし。		原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。								

科目名	総合英語（総経）Aクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	N-01
担当者	大石 文朗		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限、火曜日4限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 観光英語				
		○								
<b>授業概要</b>										
カナダへの旅行を想定した内容のテキストを使用し、旅に必要な英語を旅行の順番通りに学ぶことができます。また、旅行英語だけではなく、旅行中に人と出会う際、自分のことについてどういう風に話せばよいのかも網羅しています。この授業では、将来、観光関係の職場で役に立つ実践的な英会話表現を習得します。さらに、観光英検の問題にもふれたいと思います。										
<b>学修到達目標</b>										
海外旅行で使用する重要な英語表現を身につけることが最終的な目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
1.観光英検に関する小テストを行います。2.前回授業の簡単な復習を行います。3.新出単語を音読し、意味、発音などの学習を行います。4.テーマごとの英文問題を解きながら、内容を把握してペアワークによる会話の練習を行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 現状の英語能力の確認	授業の進め方、英語能力の確認テスト				テキストP8～15を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
2	旅行目的地を尋ねる時の英語表現	Where are you heading?に関する英語表現について				テキストP16～23を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
3	入国時の英語表現	May I see your passport?に関する英語表現について				テキストP24～31を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
4	行き先を答える時の英語表現	Where to? に関する英語表現について				テキストP32～39を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
5	宿泊先での英語表現	I asked for a double?に関する英語表現について				テキストP40～47を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
6	観光のおすすめ先を尋ねる時の英語表現	What would you suggest?に関する英語表現について				テキストP48～49を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
7	Unit 5までの復習	Review を行う				テキストP8～49の授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
8	英語力の確認	中間試験				テキストP50～57を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
9	レンタカーを借りる時の英語表現	Here are your keys.に関する英語表現について				テキストP58～65を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
10	道を探る時の英語表現	Turn left at the light.に関する英語表現について				テキストP66～73を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
11	買い物の時の英語表現	How much is this?に関する英語表現について				テキストP74～81を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
12	予定を探る時の英語表現	Are you free tomorrow?に関する英語表現について				テキストP82～89を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
13	レストランでの英語表現	I'll have the steak.に関する英語表現について				テキストP90～91を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
14	Unit 6～Unit 10までの復習	Review を行う				テキストP50～91の授業内容や英会話表現などについて復習する。(1時間)				
15	英語力の確認	講義全体のまとめと試験				英語力を確認して、今後の学習意欲につなげる。(1時間)				
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>					
「Encounters Abroad with CD」Michael P. Critchley著(南雲堂) ISBN:978-4-523-17539-1(生協で購入してください。)					小テスト:25% 課題:25% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
「英和辞典、和英辞典」					辞書を必ず毎回持参してください。授業中に次回の予習部分を周知するので、分からない単語などは、事前に調べて授業に臨んでください。また、授業への出席は言うまでもなく、課題への積極的な取り組みが重要です。					

科目名	総合英語（総経）Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	非常勤
担当者	久田 康子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 観光英語				
		○								
授業概要										
外国人観光客を街角などで「おもてなし」するための会話表現を習得するとともに、英語コミュニケーション能力を向上させるためのヒントと海外の観光地事情を、主体的なアクティブラーニングを通じて学びながら、英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）をスキルアップしていきます。										
学修到達目標										
外国人観光客にシンプルな英語で対応できる会話力と、コミュニケーション能力を、アクティブラーニングによって向上させていく中で、主体的に学び問題解決する力と、様々な価値観を受容する能力を高めていくことが目標です。										
授業の進め方										
個人、ペアやグループでの、アクティブラーニングを中心とした演習形式で行います。具体的には、簡単なディスカッション、街頭インタビュー、プレゼンテーション、ビデオ視聴、会話と音読のトレーニングなどを行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	体験授業(どこでも使える基本フレーズ他)・授業概要				テキストを購入後、テキストの概要を把握。				
2	道案内	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
3	街角	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
4	交通	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
5	食事	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
6	買い物	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
7	プレゼンテーション[1]	街頭インタビュー[1]についての英語プレゼンテーション				プレゼンテーション[1]の準備				
8	観光	前々回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前々回の復習と出席レポート				
9	宿泊	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
10	社会・文化	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
11	交流[1]	前回の復習。出席レポートの発表。プレゼンテーションの準備。				前回の復習と出席レポート				
12	プレゼンテーション[2]	街頭インタビュー[2]についての英語プレゼンテーション				プレゼンテーション[2]の準備				
13	交流[2]	前々回の復習。出席レポートの発表。				前々回の復習と出席レポート				
14	トラブル[1]	前回の復習。出席レポートの発表。				前回の復習と出席レポート				
15	トラブル[2]	前回の復習。出席レポートの発表。				定期試験の準備。				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「キクタン英会話【おもてなし】編」一杉武史著(アルク) ISBN:978-4-7574-2636-8(生協で購入してください。) 必須テキストですので、早期に購入をお願いします。		出席レポート:40% 課題:30% 定期試験:30% S:授業内容を高度に理解し実践力を身に付け批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み応用問題が解ける。A:授業内容を理解し実践力を身に付け積極的な探究姿勢をもって課題に取り組みやや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「辞典(例:ジーニアス英和・和英辞典) 電子辞書を推奨します。」英和・和英辞書を持参してください。		主体的に緊張感を持って取り組みたいという意欲的な姿勢を歓迎します。								

科目名	総合英語（総経）Cクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	非常勤
担当者	林 英美		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 観光英語					
○										
<b>授業概要</b>										
この講義の目的は、大学で学ぶ皆さんが、コミュニケーションの手段としての英語を楽しく学び、世界に自分の気持ちを発信できる英語を身につけることです。英語に興味はあるけれど、あまり得意ではない学生でも履修できるように、学び直しができる内容となっています。映像を用いた授業では4技能をバランスよく使いながら、英語だけでなく異文化についても学びます。										
<b>学修到達目標</b>										
コミュニケーションの手段としての英語を楽しく学び、世界に自分の気持ちを発信できる英語を身につけることを目的とします。										
<b>授業の進め方</b>										
海外旅行や生活で使える英語表現を学び、会話練習をします。Listening練習で自然な速度の英語に慣れるように練習します。また英語表現を通じて異文化理解を深めます。単語クイズ、会話テスト、定期試験を通じて包括的に評価します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス、Unit 1	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方についての説明をします。教科書の構成について説明をし、予習や復習の進め方を説明します。be動詞について学習します。				Unit 1の復習とUnit 2の予習。				
2	Unit 2	可算名詞、府可算名詞について学習します。				Unit 2の復習とUnit 3の予習				
3	Unit 3	一般動詞の現在時制について学習します。				Unit 3の復習とUnit 4の予習をする。(1時間)				
4	Unit 4	代名詞について学びます。				Unit 4の復習とUnit 5の予習をする。(1時間)				
5	Unit 5	一般動詞の過去時制について学びます。				Unit 5の復習とUnit 6の予習をする。(1時間)				
6	Unit 6	進行について学びます。				Unit6の復習とUnit 7の予習をする。(1時間)				
7	Unit 7	will/be going to~について学びます。				Unit7の復習とUnit 8の予習をする。(1時間)				
8	Unit 8	助動詞について学びます。				Unit8の復習とUnit 9の予習をする。(1時間)				
9	Unit 9	前置詞について学びます。				Unit9の復習とUnit 10の予習をする。(1時間)				
10	Unit 10	現在完了について学びます。				Unit10の復習とUnit 11の予習をする。(1時間)				
11	Unit 11	比較について学びます。				Unit10の復習とUnit 11の予習をする。(1時間)				
12	Unit 12	WH疑問文について学びます。				Unit 11の復習とUnit 12の予習をする。(1時間)				
13	Unit 13	動名詞/不定詞について学びます。				Unit 12の復習とUnit 13の予習をする。(1時間)				
14	アウトキャンパススタディ	外国人が多く訪れる観光地に出かけ、これまでに学習してきた事項を活用した街頭インタビューを実施し、日本への海外旅行者の動向について英語で調査する。				アウトキャンパススタディの事後レポートを作成する。(1時間)				
15	これまでの学習まとめ	Unit 1からUnit 13までのまとめ学習をします。				Unit 1~Unit 13までの総復習(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「We Love L.A.！」Robert Hickling, Misato Usukura著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4049-5(生協で購入してください。)				定期試験:30%、小テスト:30%、レポート:10%、出席レポート:30% 定期試験には、リスニング試験、筆記試験、会話試験が含まれます。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
英和辞典、和英辞典				会話の練習をたくさんして、使える英語の習得を目指します。これから英語圏へ出かけてみたい方、英語を仕事で使いたい方、英語を学び直したい方、ともに役立つ英語表現を実践的に学びましょう。						

科目名	総合英語 (INT) Aクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	非常勤
担当者	ミゲル アルバート ション		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 観光英語					
		○								
<b>授業概要</b>										
前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。										
<b>学修到達目標</b>										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。										
<b>授業の進め方</b>										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・Ice Hotel 1	ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
2	Ice Hotel 2	またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The Traveling Chef 1	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	The Traveling Chef 2	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Sail High in the Sky 1	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Sail High in the Sky 2	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	The Mysterious Disappearance of Kaiko 1	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	The Mysterious Disappearance of Kaiko 2	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	An Ocean of Plastic 1	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	An Ocean of Plastic 2	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	Ed Pulaski and the Big Burn 1	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Ed Pulaski and the Big Burn 2	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	The Flying Housewife 1	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	The Flying Housewife 2	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	Blade Runner	Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「READ THIS! 3」Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
特になし。				原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。						

科目名	総合英語 (INT) Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	非常勤
担当者	イサー フィリップ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 観光英語					
		○								
<b>授業概要</b>										
前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。										
<b>学修到達目標</b>										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。										
<b>授業の進め方</b>										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・Ice Hotel 1	ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
2	Ice Hotel 2	またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The Traveling Chef 1	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	The Traveling Chef 2	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Sail High in the Sky 1	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Sail High in the Sky 2	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	The Mysterious Disappearance of Kaiko 1	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	The Mysterious Disappearance of Kaiko 2	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	An Ocean of Plastic 1	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	An Ocean of Plastic 2	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	Ed Pulaski and the Big Burn 1	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Ed Pulaski and the Big Burn 2	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	The Flying Housewife 1	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	The Flying Housewife 2	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	Blade Runner	Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「READ THIS! 3」Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
特になし。		原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。								

科目名	総合英語 (INT) クラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12102	研究室	A-08
担当者	和田 順一		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 観光英語				
		○								
<b>授業概要</b>										
前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。										
<b>学修到達目標</b>										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。										
<b>授業の進め方</b>										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・Ice Hotel 1	ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
2	Ice Hotel 2	またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The Traveling Chef 1	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	The Traveling Chef 2	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Sail High in the Sky 1	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Sail High in the Sky 2	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	The Mysterious Disappearance of Kaiko 1	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	The Mysterious Disappearance of Kaiko 2	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	An Ocean of Plastic 1	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	An Ocean of Plastic 2	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	Ed Pulaski and the Big Burn 1	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Ed Pulaski and the Big Burn 2	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考え方を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	The Flying Housewife 1	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	The Flying Housewife 2	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	Blade Runner	Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「READ THIS! 3」Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
特になし。		原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。								

科目名	総合英語 (総合経営学部)		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UL22103	研究室	非常勤	
担当者	久田 康子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性	A	B	C	履修対象入学年度(読替科目)				
	○						~2016年度 時事英語				
<b>授業概要</b>											
時事英語の記事、論説、映像、音声資料にして、インプットとアウトプットすることで、英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)を高めるレニングをします。また、批判的思考を伴うコンテンツを理解して、ペアやグループワークで自分が形成した意見を効果的に発信していきます。											
<b>学修到達目標</b>											
TOEIC(L&R)のスコアアップに役に立つ、記事、論説やニュースなどの情報の要点を、的確かつスピーディーに把握できる能力を強化します。また、論理的で説得力のあるスピーチ原稿を作成すると共に、聞き手に伝わるプレゼンテーション技術を磨いていきます。											
<b>授業の進め方</b>											
アクティブラーニングを実施し、家庭での自律学習が大きな役割をにない、クラスの大半で、自主的に演習に取り組んでいきます。ペアワーク、グループワーク、学び合い・教え合いといったスタイルをとり、課題の発表後には相互にフィードバックをします。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	Introduction ネコ派? イヌ派? Do you like cats or dogs?	授業ガイダンスの説明を受けた後に、授業の概要を体験します。 What is critical thinking? (批判的思考とは)					Unit 2 [Flip side] 背景知識のインプット				
2	Unit 2A 社内公用語は英語 English as In-House Language	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング					Unit 2 [Speech Writing]				
3	Unit 2B 社内公用語は英語 English as In-House Language	スピーチの発表とフィードバック。音読トレーニング					Unit 3 [Flip side] 背景知識のインプット				
4	Unit 3A レディファースト Ladies First	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング					Unit 3 [Speech Writing]				
5	Unit 3B レディファースト Ladies First	スピーチの発表とフィードバック。音読トレーニング					Unit 4 [Flip side] 背景知識のインプット				
6	Unit 4A オリンピックの商業化 Are the Olympics Business?	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング					Unit 4 [Speech Writing]				
7	Unit 4B オリンピックの商業化 Are the Olympics Business?	スピーチの発表とフィードバック。音読トレーニング					課題[1]発表の準備				
8	課題[1]の発表	課題[1]の発表とフィードバックの作成。					Unit 5 [Flip side] 背景知識のインプット				
9	Unit 5A 国際結婚 International Marriage	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング					Unit 5 [Speech Writing]				
10	Unit 5B 国際結婚 International Marriage	スピーチの発表とフィードバック。					Unit 6 [Flip side] 背景知識のインプット				
11	Unit6A 遺伝子組み換え食品 Is GM Food Safe?	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング					Unit 6 [Speech Writing]				
12	Unit6B 遺伝子組み換え食品 Is GM Food Safe?	スピーチの発表とフィードバック。					Unit 7 [Flip side] 背景知識のインプット				
13	Unit7A SNSと人間関係 Social Networks and Personal Relations	家庭学習の内容確認。スピーチのアウトラインの作成。 音読トレーニング					Unit 7 [Speech Writing]				
14	Unit7B SNSと人間関係 Social Networks and Personal Relations	スピーチの発表とフィードバック。					課題[2]発表の準備				
15	課題[2]の発表	課題[2]の発表とフィードバックの作成。					定期試験の準備。				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
「意見交換のための英語 リーディングからスピーチへ。」幸重美津子・尾鍋智子・赤尾美和・Carl Nommensen・西山史子著(三修社) ISBN:978-4-384-33467-8(生協で購入してください。) テキストを使って授業が進行しますので、毎回持参してください。						出席レポート:40% 課題:30% 定期試験:30% S:授業内容を高度に理解し実践力を身に付け批判的思考力に基づく探究姿勢で課題に取り組み難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し実践力を身に付け積極的な探究姿勢で課題に取り組みやや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおよそを理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し実践することができ、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
「辞典(例:ジーニアス英和・和英辞典)」英和辞典を毎回持参してください。電子辞書が便利です。						自主的に緊張感を持って取り組みたいという意欲的な姿勢を歓迎します。					

科目名	総合英語（総合経営学部）		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	UL22104	研究室	非常勤
担当者	久田 康子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C	～2016年度 ビジネス英語					
○										
<b>授業概要</b>										
ビジネス関連の記事や映像等を基に、自宅学習によって各自で完成させたライティングの課題をクラスでシェアして理解を深めます。また、現場で役に立つ実用的なビジネス英語のリスニングとスピーキングの演習を通して、リアルな職場環境の一例を体感していきます。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC(L&R)テストに対応する実践的なビジネス英語や、ビジネス・パーソンのためのブログやビデオ等を資料にして、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングに関する知識と技能を高めるとともに、ビジネスで重視される主体的、協働的な取り組みをしながら、具体的な問題把握能力と課題解決能力等を発揮していくことが目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
アクティブラーニングを実施します。例えば、ミニ課題をベースにした反転授業、グループ・ディスカッション、ペアワーク、街頭インタビュー、プレゼンテーション等を行います。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	1A Business cards	例題の課題に取り組みながら具体的な授業の流れを把握します。				事後学修：課題の完成と発表練習				
2	1A Business cards	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
3	1B Business cards	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
4	2A Working hours	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
5	2B Working hours	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
6	3A What kind of company?	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
7	3B What kind of company?	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[1](課題)の準備。他				Presentation[1]の発表練習				
8	Presentation[1]	Presentation[1](課題)の発表。フィードバック。				ミニ課題の完成と発表練習				
9	4A Corporate culture	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
10	4B Corporate culture	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
11	11A Future plans	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
12	11B Future plans	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
13	12A Entertaining	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				ミニ課題の完成と発表練習				
14	12B Entertaining	ミニ課題(出席レポート)のシェア。Presentation[2](課題)の準備。他				Presentation[2]の発表練習				
15	Presentation[2]	Presentation[2](課題)の発表。フィードバック。				定期試験の準備				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「Get Ready for Business Level[1] Student Book 生協様、注文は日本出版貿易に願います」 Andrew Vaughan & Dorothy E Zemach 著 (MACMILLAN) ISBN: 978-0-2300-3979-7 (生協で購入してください。) 生協様、発注は日本出版貿易に願います。  テキストは必須資料ですので、生協で早期の購入をお願いします。				出席レポート：40% 課題：30% 定期試験：30% S：授業内容を高度に理解し実践力を身に付け批判的思考力に基づく探究姿勢で課題に取り組み難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し実践力を身に付け積極的な探究姿勢で課題に取り組みやや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおよそを理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C：授業内容の60%程度を理解し実践することができ授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
「電子辞典（例：ジーニアス英和・和英辞典）」 辞書には、英作文を容易にする例文が豊富に記載されています。 毎回持参して自主学習に役立ててください。				松本やその周辺の企業でも、年々国際化が進んでおり、就職後に英会話やTOEICに取り組む人たちが増えています。自主的な姿勢で緊張感を持って受講していきたいという意欲的な姿勢を歓迎します。						

科目名	英会話 Aクラス (総経・人間)	学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12105	研究室	非常勤
担当者	フレデリック 加ース	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)				
		A	B	C	~2016年度 英会話 (入門)				
○									
<b>授業概要</b>									
さまざまな日常的な話題について、英語を聞き、話すことを練習します。 We will practice listening and speaking English about a wide variety of everyday topics.									
<b>学修到達目標</b>									
日常的な英会話を修得し、自信を持ってコミュニケーションをとることができる。 Upon finishing this class, students will be able to communicate more confidently in English.									
<b>授業の進め方</b>									
毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。									
<b>授業計画 (各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	ガイダンスGuidance	授業への導入 Introduction to the class					Preparation for a test.(1h)		
2	Getting to know each other	Get to know each other game					Write a self-introduction.(1h)		
3	Getting to know each other	Teacher interview					Report on an English reading book.(1h)		
4	Dates and Ordinal Numbers	Japanese holidays and events; Birthdays					Write Japanese holidays.(1h)		
5	Dates and Ordinal Numbers	Describing weather around the world					Write about the weather in your hometown.(1h)		
6	Personal Information	Ask and answer questions about yourself					Write about yourself.(1h)		
7	Personal Information	Japanese celebrities					Write about a Japanese celebrity.(1h)		
8	Likes and Dislikes	Ask about likes and dislikes					Write about something you like.(1h)		
9	Likes and Dislikes	Interviews about likes and dislikes; favorites					Write about your favorite.(1h)		
10	Counters and Singular/Plural	Ogui contest; Review singular/plural					Report on an English reading book.(1h)		
11	Counters and Singular/Plural	Card activity to practice singular/plural					Write about "What's in my refrigerator." (1h)		
12	Wh- Questions	Question formation; Adverbs of frequency					Write about something you like.(1h)		
13	Wh- Questions	Discussion about interests					Write about a T.V. show or movie you like.(1h)		
14	Can and Can't	Talk about abilities					Write about some of the things you can do.(1h)		
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination					Prepare for final examination.(1h)		
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>							
「Talk a Lot, Starter Book, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。)		課題：25% 定期試験：25% 授業への参加度：25% 努力点：25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude:25%, Assignments: 25%. S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。							
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</b>							
辞書 Any dictionary		いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.							

科目名	英会話 Bクラス (総経・人間)		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12105	研究室	非常勤
担当者	久田 康子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 英会話 (入門)				
		○								
<b>授業概要</b>										
ナチュラルで実用的な基礎英会話を、考えなくても自動的にできるまでに習得していくために、スピーキングとリスニングのトレーニングと、ペアでの英語コミュニケーションを重ねていきます。まとめとして、ユニットごとのミニ・プレゼンテーションと、2度の総合プレゼンテーションをすることで重要構文を繰り返し復習し、より正確で自由度の高い会話力とコミュニケーション力を高めていきます。										
<b>学修到達目標</b>										
日本語を通さずに直接英語で考えて実用的な基礎英会話ができる達成感を段階的に積み重ねることで、学ぶ意欲と自信を高め、社会にでてからも自主的に学び続けることのできる方法を身に付けていきます。自主的な姿勢で自らとパートナーのコーチになって工夫しながらトレーニングをすることができるようになることをめざします。										
<b>授業の進め方</b>										
アクティブラーニングを実施し、文法事項の予習クイズの後、テキストに沿ってリスニングとペアワークで話す練習をします。クラスの後半では、完成させた総括課題をクラスの中でシェアして学び合います。										
<b>授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	現状の英語能力の確認のためにプレイズメント・テストを受けます。				基礎的な英語の総復習。				
2	Unit 1AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
3	Unit 2AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
4	Unit 3AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
5	Unit 4AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
6	Unit 5AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
7	Unit 6AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
8	Presentation[1](課題)	Unit 1-6 テキストを見ないでペアで行う会話試験。				Unit 1-6の総復習				
9	Unit 7AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
10	Unit 8AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
11	Unit 9AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
12	Unit 10AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
13	Unit 11AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
14	Unit 12AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
15	Presentation[2](課題)	Unit 7-12 テキストを見ないでペアで行う会話試験。				Unit 7-12の総復習				
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>					
「Get Real! New Edition Level [1] Student Book 生協様、注文は日本出版貿易に願います」Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson著 (MACMILLAN) ISBN: 978-0-230-44708-0 (生協で購入してください。) テキストは毎回使用しますので、早期の購入をお願いします。					出席レポート: 30% 課題: 40% 定期試験: 30% S: 授業内容を高度に理解し実践力を身に付け批判的思考力に基づく探究姿勢で課題に取り組み難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し実践力を身に付け、積極的な探究姿勢で課題に取り組みやや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおよそを理解し実践することができ、与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C: 授業内容の60%程度を理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</b>					
「辞書(例: ジーニアス英和・和英辞典など) 電子辞書を推奨します。」辞書には、作文に役立つ例文が豊富にあり、大変便利です。毎回持参して下さい。					授業の大半は演習ですので、皆さん一人一人が主役となって自主的な姿勢で活躍してください。また、お互いに助け合い、学び合ってください。					

科目名	英会話 Cクラス (総経・人間)	学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12105	研究室	非常勤
担当者	フレデリック 加ース	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)				
		A	B	C	~2016年度 英会話 (入門)				
○									
<b>授業概要</b>									
さまざまな日常的话题について、英語を聞き、話すことを練習します。 We will practice listening and speaking English about a wide variety of everyday topics.									
<b>学修到達目標</b>									
日常的な英会話を修得し、自信を持ってコミュニケーションをとることができる。 Upon finishing this class, students will be able to communicate more confidently in English.									
<b>授業の進め方</b>									
毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。									
<b>授業計画 (各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンスGuidance	授業への導入 Introduction to the class				Preparation for a test.(1h)			
2	Getting to know each other	Get to know each other game				Write a self-introduction.(1h)			
3	Getting to know each other	Teacher interview				Report on an English reading book.(1h)			
4	Dates and Ordinal Numbers	Japanese holidays and events; Birthdays				Write Japanese holidays.(1h)			
5	Dates and Ordinal Numbers	Describing weather around the world				Write about the weather in your hometown.(1h)			
6	Personal Information	Ask and answer questions about yourself				Write about yourself.(1h)			
7	Personal Information	Japanese celebrities				Write about a Japanese celebrity.(1h)			
8	Likes and Dislikes	Ask about likes and dislikes				Write about something you like.(1h)			
9	Likes and Dislikes	Interviews about likes and dislikes; favorites				Write about your favorite.(1h)			
10	Counters and Singular/Plural	Ogui contest; Review singular/plural				Report on an English reading book.(1h)			
11	Counters and Singular/Plural	Card activity to practice singular/plural				Write about "What 's in my refrigerator." (1h)			
12	Wh- Questions	Question formation; Adverbs of frequency				Write about something you like.(1h)			
13	Wh- Questions	Discussion about interests				Write about a T.V. show or movie you like.(1h)			
14	Can and Can ' t	Talk about abilities				Write about some of the things you can do.(1h)			
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination				Prepare for final examination.(1h)			
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>							
「Talk a Lot, Starter Book, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。)		課題 : 25% 定期試験 : 25% 授業への参加度 : 25% 努力点 : 25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude:25%, Assignments: 25%. S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。							
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</b>							
辞書 Any dictionary		いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.							

科目名	英会話 Dクラス (総経・人間)		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12105	研究室	N-02
担当者	マネット ショーン		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限、木曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 英会話 (入門)				
		○								
<b>授業概要</b>										
どんな状況でも自信を持って英語を使えるようにすることがこのコースの目的です。特に、物事を表現したり、意見を述べたり、説明やプレゼンの仕方を学びます。異文化コミュニケーション、クリティカルシンキング、ポキャブラリーの増強、正確な文法、流暢な会話を目指してください。										
<b>学修到達目標</b>										
本コースではスピーキング力を伸ばすために、個人的かつ学術的に興味深いトピックについてディスカッションを行います。「TED Talks」からスピーチを学び、実際に自分の「TED Talks」を作り上げましょう。様々なトピックについて自然で文法的に正しい会話ができるような教材を準備しますので、教員の指示に従い、グループディスカッションやプレゼンで使用するツール持参してください。										
<b>授業の進め方</b>										
積極的に授業に参加すること。教員およびクラスメートの話を注意して聞くこと。全ての授業に出席すること。クラスを休むと宿題が出ます。宿題の内容について教員または級友に連絡すること。予習をして遅刻をせずに授業に来ること。										
<b>授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション。	Orientation to this "English Speaking" class. Introduction to the evaluation of this class, as well as to the textbook.				Purchase the textbook, and then become familiar with its format. Study ユニット 1.				
2	ユニット 1- Friends and Family (Lesson 1)	ユニット 1- Friends and Family (Lesson 1)				Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。				
3	ユニット 1- Friends and Family (Lesson2)	ユニット 1- Friends and Family (Lesson2)				Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。				
4	ユニット 1- Friends and Family (Lesson3)	ユニット 1- Friends and Family (Lesson3)				Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。				
5	ユニット 1- Friends & Family (Lesson 4)- Test.	ユニット 1- Friends & Family (Lesson 4)- Chapter Test.				Study ユニット 1. それらは、クラスで公表します。				
6	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 1)	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 1)				Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。				
7	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 2)	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 2)				Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。				
8	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 3)	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 3)				Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。				
9	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 4)- Test.	ユニット 2- Jobs Around the World (Lesson 4)- Chapter Test.				Study ユニット 2. それらは、クラスで公表します。				
10	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 1)	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 1)				Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。				
11	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 2)	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 2)				Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。				
12	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 3)	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 3)				Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。				
13	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 4)- Test.	ユニット3: Houses and Apartments (Lesson 4)- Chapter Test.				Study ユニット 3. それらは、クラスで公表します。				
14	ユニット4: Possessions (Lesson 1)	ユニット4: Possessions (Lesson 1)				Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。				
15	ユニット4: Possessions (Lesson 2)	ユニット4: Possessions (Lesson 2) ~The final class of this semester .				Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「 World English Introduction (Second Edition, 2015) 」 Martin Milner, Rebecca Chase, And Kristen Johannsen 著 (National Geographic Learning - Cengage ) ISBN:978-1-305-08955-6 (生協で購入してください。)				定期試験 : 30% 各回のプレゼンテーションに対する評価 70%						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</b>						
「Any English language dictionary.」				Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.						

科目名	英会話 Aクラス (総経・人間)		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12106	研究室	N-02
担当者	マレット ショーン		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限、水曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 英会話 (基礎)				
		○								
<b>授業概要</b>										
どんな状況でも自信を持って英語を使えるようにすることがこのコースの目的です。特に、物事を表現したり、意見を述べたり、説明やプレゼンの仕方を学びます。異文化コミュニケーション、クリティカルシンキング、ポキャブラリーの増強、正確な文法、流暢な会話を目指してください。										
<b>学修到達目標</b>										
本コースではスピーキング力を伸ばすために、個人的かつ学術的に興味深いトピックについてディスカッションを行います。「TED Talks」からスピーチを学び、実際に自分の「TED Talks」を作り上げましょう。様々なトピックについて自然で文法的に正しい会話ができるような教材を準備しますので、教員の指示に従い、グループディスカッションやプレゼンで使用するツール持参してください。										
<b>授業の進め方</b>										
積極的に授業に参加すること。教員およびクラスメートの話を注意して聞くこと。全ての授業に出席すること。クラスを休むと宿題が出ます。宿題の内容について教員または級友に連絡すること。予習をして遅刻をせずに授業に来ること。										
<b>授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション。	Orientation to this "English Speaking II" class. Introduction to the evaluation of this second semester class, as well as to the latter half of the textbook.				Refresh yourself with the textbook. Study the latter half of ユニット 4.				
2	ユニット4: Possessions (Lesson 3)	ユニット4: Possessions (Lesson 3)				Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。				
3	ユニット4: Possessions (Lesson 4) ~ Chapter Test.	ユニット4: Possessions (Lesson 4) ~ Chapter Test.				Study ユニット 4. それらは、クラスで公表します。				
4	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 1)	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 1)				Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。				
5	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 2)	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 2)				Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。				
6	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 3)	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 3)				Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。				
7	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 4) ~ Chapter Test.	ユニット 5: Daily Activities (Lesson 4) ~ Chapter Test.				Study ユニット 5. それらは、クラスで公表します。				
8	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 1)	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 1)				Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。				
9	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 2)	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 2)				Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。				
10	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 3)	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 3)				Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。				
11	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 4) - Chapter Test	ユニット 6: Getting There (Directions) (Lesson 4) - Chapter Test				Study ユニット 6. それらは、クラスで公表します。				
12	ユニット 7: Free Time (Lesson 1)	ユニット 7: Free Time (Lesson 1)				Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。				
13	ユニット 7: Free Time (Lesson 2)	ユニット 7: Free Time (Lesson 2)				Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。				
14	ユニット 7: Free Time (Lesson 3)	ユニット 7: Free Time (Lesson 3)				Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。				
15	ユニット 7: Free Time (Lesson 4) - Chapter Test.	ユニット 7: Free Time (Lesson 4) - Chapter Test.				Study ユニット 7. それらは、クラスで公表します。				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「World English Introduction (Second Edition, 2015)」 Martin Milner, Rebecca Chase, And Kristen Johannsen 著 (National Geographic Learning - Cengage) ISBN:978-1-305-08955-6 (生協で購入してください。)		定期試験: 30% 各回のプレゼンテーションに対する評価 70%								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</b>								
「Any English language dictionary.」		Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.								

科目名	英会話 Bクラス (総経・人間)		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12106	研究室	非常勤
担当者	ルデリック ガース		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 英会話 (基礎)				
		○								
<b>授業概要</b>										
さまざまな日常的话题について、英語を聞き、話すことを練習します。 We will practice listening and speaking English about a wide variety of everyday topics.										
<b>学修到達目標</b>										
英会話 で修得した英語能力をさらに向上させ、さまざまな日常的话题について自信をもってコミュニケーションをとることができる。 Upon finishing this class, students will be able to communicate more confidently in English.										
<b>授業の進め方</b>										
毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。										
<b>授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンスGuidance	授業への導入 Introduction to the class					Preparation for a test.(1h)			
2	Simple Present and Describing Things	Listen and guess the creature; Simple present					Report on an English reading book.(1h)			
3	Simple Present and Describing Things	Describing food; Food crossword					Write a description of an animal or insect.(1h)			
4	Family	Talk about relatives					Bring family pictures.(1h)			
5	Family	Ask and answer questions about family and pets					Report on an English reading book.(1h)			
6	Simple Past: Questions and Stories	Ask and answer questions about what you did yesterday, last weekend					Write about what you did last weekend.(1h)			
7	Simple Past: Questions and Stories	Telling a story					Finish the story on page 33.(1h)			
8	Jobs	Talk about jobs and what they are like					Report on an English reading book.(1h)			
9	Jobs	Talk about jobs					Describe a job.(1h)			
10	Making Comparisons	Study comparison forms, then play the Comparison Game					Write a comparison of two things.(1h)			
11	Making Comparisons	Ask and answer comparison and superlative questions					Write about the most ____ in your life.(1h)			
12	Numbers	Numbers: pronunciation, bingo, math game, tell time					Write about your daily schedule.(1h)			
13	Numbers	Ask and answer questions about your daily schedule					Write about what you did today.(1h)			
14	Present and Past Progressive	Ask and answer questions about actions					Be ready to play the Action Game.(1h)			
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination					Prepare for final examination.(1h)			
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>					
「Talk a Lot, Starter Book, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。)					課題: 25% 定期試験: 25% 授業への参加度: 25% 努力点: 25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude: 25%, Assignments: 25%. S: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。					
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</b>					
辞書 Any dictionary					いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.					

科目名	英会話 Cクラス (総経・人間)		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12106	研究室	非常勤
担当者	久田 康子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 英会話 (基礎)				
		○								
<b>授業概要</b>										
前期より上級の文法事項を含むナチュラルで実用的な基礎英会話を、自動的にできるまでに習得していくために、話す・聴く演習とペアでの英語コミュニケーションを重ねていきます。まとめとして、ユニットごとのミニ・プレゼンテーションと2度の課題発表をすることで、重要構文を繰り返し復習し、より正確で自由度の高い会話力とコミュニケーション力を高めていきます。										
<b>学修到達目標</b>										
日本語を通さずに直接英語で考えて実用的な基礎英会話ができる達成感を段階的に積み重ねることで、学ぶ意欲と自信を高めて、社会にでてからも自主的に学び続けることのできる方法を身に付けていきます。自主的な姿勢で自らとパートナーのコーチになって工夫しながらトレーニングをすることができるようになることをめざします。										
<b>授業の進め方</b>										
アクティブラーニングを実施し、文法事項の予習クイズの後、テキストに沿ってリスニングとペアワークで話す練習をします。クラスの後半では、完成させた総括課題をクラスの中でシェアして学び合います。										
<b>授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	現状の英語能力の確認のためにプレイズメント・テストを受けます。				基礎的な英語の総復習。				
2	Unit 1AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
3	Unit 2AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
4	Unit 3AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
5	Unit 4AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
6	Unit 5AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
7	Unit 6AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
8	Presentation[1](課題)	Unit 1-6 テキストを見ないでペアで行う会話試験。				Unit 1-6の総復習				
9	Unit 7AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
10	Unit 8AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
11	Unit 9AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
12	Unit 10AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
13	Unit 11AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
14	Unit 12AB	予習クイズ、会話演習とミニプレゼンテーション。				予習クイズの準備				
15	Presentation[2](課題)	Unit 7-12 テキストを見ないでペアで行う会話試験。				Unit 7-12の総復習				
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>					
「Get Real! New Edition Level[2] Student Book 生協様、注文は日本出版貿易に願います」Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson著 (MACMILLAN) ISBN: 978-0-230-44710-3 (生協で購入してください。) テキストは毎回使用しますので、早期の購入をお願いします。					出席レポート: 30% 課題: 40% 定期試験: 30% S: 授業内容を高度に理解し実践力を身に付けて批判的思考力に基づく探究姿勢で課題に誠実に取り組み難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し実践力を身に付けて積極的な探究姿勢で課題に取り組みや難しい応用問題が解ける。 B: 授業内容のおおよそを理解し実践力を身に付けて与えられた課題に誠実に取り組み応用問題が解ける。C: 授業内容の60%程度を理解し実践することができ与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</b>					
「辞書(例: ジーニアス英和・和英辞典など) 電子辞書を推奨します。」 辞書には、作文に役立つ例文が豊富にあり、大変便利です。 毎回持参して下さい。					授業の大半は演習ですので、皆さん一人一人がクラスの主役となって自主的な姿勢で活躍してください。また、お互いに助け合い、学び合いましょう。					

科目名	英会話 (総合経営学部)		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UL22107	研究室	非常勤
担当者	ルデリック ガース		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 ホテル英会話				
		○								
<b>授業概要</b>										
ホテルで、あるいはレストランで使われる、基礎的で実践的な英語を学びます。働く時の英語コミュニケーション能力を高めるのがねらいです。 We will study the basic, practical English used in hotels and restaurants. Improve your ability to communicate in English when working.										
<b>学修到達目標</b>										
ホテルやホスピタリティ業界で働くための基礎英語力を身につけている。 After finishing the class, students will feel more confident with the English required to work in the hotel and hospitality industry.										
<b>授業の進め方</b>										
各単元はリスニングから始まり、次に役に立つ語彙や文法の学習へ移ります。練習は、最初は型にはまったものから次第に自由なものになります。また練習は、個人、ペア、小グループで行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンスGuidance	授業への導入 Introduction to the class				Prepare to talk about an English reading book.(1h)				
2	Introductions	Names, nationalities and jobs at hotels				Prepare to talk about an English reading book.(1h)				
3	Check-in	Handling reservations				Write Personal Job File, p. 71.(1h)				
4	Hotel bedroom	Describing with "There is/are"				Draw a hotel bedroom and describe it.(1h)				
5	Hotel services	Talking about what the hotel can do for guests				Write Personal Job File, p. 73.(1h)				
6	Hotel facilities	Talking about hotel facilities				Write Personal Job File, p. 74.(1h)				
7	Room services	Responding to requests from guests				Write Personal Job File, p. 75.(1h)				
8	Problems and Solutions	Handling complaints; helping guests				Write Personal Job File, p. 8.(1h)				
9	Taking bar orders	Taking orders in the bar; describing drinks				Write Personal Job File, p. 77.(1h)				
10	In the restaurant (1)	Taking orders in the restaurant				Write Personal Job File, p. 78.(1h)				
11	In the restaurant (2)	Describing food				Write Personal Job File, p. 79.(1h)				
12	Enquiries	Handling questions from guests				Write Personal Job File, p. 80.(1h)				
13	Using the phone	Telephone procedures; being polite to guests				Write a telephone conversation.(1h)				
14	Check-out	Checking guests out; paying bills				Write a check-out conversation.(1h)				
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination				Prepare for final examination.(1h)				
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>					
「Be My Guest, English for the Hotel Industry」(Cambridge University Press)(生協で購入してください。)					授業への参加度25%、努力点25%、宿題25%、定期試験25% Assignments: 25%, Effort: 25%, Homework: 25%, Final examination: 25% S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。					
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
辞書 Any dictionary					いつでもメールで連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.					

科目名	英会話 (総合経営学部)		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22108	研究室	非常勤
担当者	ルデリック ガース		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 トラベル英会話				
		○								
<b>授業概要</b>										
移動中、ホテルで、あるいはレストランで使われる、基礎的で実践的な英語を学びます。旅行の時の英語コミュニケーション能力を高めるのがねらいです。 We will study the basic, practical English used in transportation, at hotels, restaurants, etc. Improve your ability to communicate in English when traveling.										
<b>学修到達目標</b>										
旅行するための基礎英語力を身につけている。 When the class is finished, students will feel more confident using English in travel situations.										
<b>授業の進め方</b>										
各単元はリスニングから始まり、次に役に立つ語彙や文法の学習へ移ります。練習は、最初は型にはまったものから次第に自由なものになります。また練習は、個人、ペア、小グループで行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンスGuidance	授業への導入 Introduction to the class				Prepare to talk about an English reading book (1h)				
2	Introduction; Where are you from?	Talking about people and travel				Write about some place you'd like to visit (1h)				
3	On the airplane	Asking and answering requests on the airplane and at the airport				Listen to the CD and write the conversation (1h)				
4	Landing in a new country	Asking and answering questions at immigration				Write a conversation for "Activity." (1h)				
5	Talking about your family	Ask and answer questions about your family.				Bring some pictures of your family (1h)				
6	On a homestay	Ask and answer requests at the host's home				Write a conversation between host and guest (1h)				
7	Ordering at a restaurant	Conversations at a restaurant; describing food				Write a conversation for "Activity." (1h)				
8	Destination: the U.K.	Talk about the U.K.; Compare Japan and the U.K.				Write about your trip to the U.K. (1h)				
9	Directions	Asking for and giving directions				Give directions in New York (1h)				
10	Banking	Using ATMs; changing money				Write a conversation at the bank (1h)				
11	Staying at a hotel	Making reservations; checking in; requests at a hotel				Write a phone conversation for "Activity." (1h)				
12	Talking about minor medical problems	Conversations at a pharmacy				Write a conversation at the pharmacy (1h)				
13	Talking about countries	Talk about Japan and other countries				Write about your hometown (1h)				
14	Destination: New Zealand	Talk about New Zealand; Compare Japan and New Zealand				Write about your trip to New Zealand (1h)				
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination				Prepare for final examination (1h)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「Passport to New Places: English for International Communication」(生協で購入してください。)		授業への参加度25%、定期試験25%、努力点25%、宿題25% Assignments: 25%, Effort: 25%, Homework: 25%, Final examination: 25% S:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A:主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C:意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
辞書 Any dictionary		いつでもメールで連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.								

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバ`リ`ン`グ`	UL12109	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`ワ`ー`			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレースメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
<b>授業の進め方</b>										
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。				自分に合った学習計画を作成する(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2)				Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5)				Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1)				Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)				Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2)				Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4)				Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7)				Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7)				Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 小テスト	Lesson5 問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2)				Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5)				Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
14	リスニング演習 リーディング演習	Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6)				Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバ`リ`ン`グ`	UL12109	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`ワ`ー`			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレースメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
<b>授業の進め方</b>										
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。				自分に合った学習計画を作成する(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2)				Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5)				Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1)				Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)				Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2)				Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4)				Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7)				Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7)				Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 小テスト	Lesson5 問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2)				Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5)				Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
14	リスニング演習 リーディング演習	Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6)				Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバ`リング`	UL12109	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレースメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
<b>授業の進め方</b>										
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。				自分に合った学習計画を作成する(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2)				Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5)				Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1)				Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)				Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2)				Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4)				Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7)				Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7)				Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 小テスト	Lesson5 問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2)				Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5)				Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
14	リスニング演習 リーディング演習	Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6)				Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」を受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバ`リ`ン`グ	UL12109	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`ワ`ー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC」を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で370点以上取得することを目指します。ブレイクメンテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC L&R で320点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
<b>授業の進め方</b>										
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。				自分に合った学習計画を作成する(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2)				Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5)				Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1)				Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)				Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1,2)				Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3,4)				Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7)				Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7)				Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 小テスト	Lesson5 問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2)				Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5)				Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
14	リスニング演習 リーディング演習	Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5,6)				Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12109	研究室	非常勤
担当者	清澤 理恵		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
<b>授業概要</b>										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけで使うものではなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC」を通してTOEIC Bridge 140点以上を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC Bridge 120点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。										
<b>授業の進め方</b>										
講義形式ではなく受講生のみなさんの参加形式です。英語を声に出し会話を楽しみながら、文法演習やTOEICの演習問題にも多く取り組み、英語の基礎力(特に文法力とリスニング力)の向上を目指します。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。				自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング(1時間)				
2	TOEIC Bridge演習(1回目) 課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。				テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(名詞・動詞)の問題演習 Part 1 基礎問題				文法(名詞・動詞)の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(形容詞・副詞)の問題演習 Part 2 応用問題				文法(形容詞・副詞)の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト Part 2 When 単語テスト				実践テストの復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(代名詞・助動詞)の問題演習 Part 2 Who				文法(代名詞・助動詞)の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(前置詞と接続詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 2 What、Part 5 請求書(基礎問題)				文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在形・現在進行形)の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書(実践問題) 単語テスト				文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在完了・現在完了進行形)の問題演習 Part 2 How long Part 5 表(基礎問題)				文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(過去形・過去形と現在完了のちがい)の問題演習 Part 2 How far Part 5 表(実践問題)				文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法(過去進行形・過去完了形)の問題演習 Part 3-4 実践問題演習				文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
14	TOEIC Bridge演習(2回目) 課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト				間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング(1時間)				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPIに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。				授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4-901429-57-3 (生協で購入してください。) 「TOEICテスト英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版) ISBN:978-4053046499 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 課題:30% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12109	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
<b>授業概要</b>										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけで使うものではなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC」を通してTOEIC Bridge 130点以上を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC Bridge 110点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。										
<b>授業の進め方</b>										
講義形式ではなく受講生のみなさんの参加形式です。英語を声に出し会話を楽しみながら、文法演習やTOEICの演習問題にも多く取り組み、英語の基礎力(特に文法力とリスニング力)の向上を目指します。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。				自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング(1時間)				
2	TOEIC Bridge演習(1回目) 課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。				テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(名詞・動詞)の問題演習 Part 1 基礎問題				文法(名詞・動詞)の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(形容詞・副詞)の問題演習 Part 2 応用問題				文法(形容詞・副詞)の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト Part 2 When 単語テスト				実践テストの復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(代名詞・助動詞)の問題演習 Part 2 Who				文法(代名詞・助動詞)の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(前置詞と接続詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 2 What、Part 5 請求書(基礎問題)				文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在形・現在進行形)の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書(実践問題) 単語テスト				文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在完了・現在完了進行形)の問題演習 Part 2 How long Part 5 表(基礎問題)				文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(過去形・過去形と現在完了のちがい)の問題演習 Part 2 How far Part 5 表(実践問題)				文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法(過去進行形・過去完了形)の問題演習 Part 3-4 実践問題演習				文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
14	TOEIC Bridge演習(2回目) 課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト				間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング(1時間)				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPIに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。				授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。) 「TOEICテスト英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版) ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 課題:30% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Gクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12109	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (入門)					
<b>授業概要</b>										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけで使うものではなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC」を通してTOEIC Bridge 120点以上を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC Bridge 100点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。										
<b>授業の進め方</b>										
講義形式ではなく受講生のみなさんの参加形式です。英語を声に出し会話を楽しみながら、文法演習やTOEICの演習問題にも多く取り組み、英語の基礎力(特に文法力とリスニング力)の向上を目指します。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。				自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング(1時間)				
2	TOEIC Bridge演習(1回目) 課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。				テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(名詞・動詞)の問題演習 Part 1 基礎問題				文法(名詞・動詞)の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(形容詞・副詞)の問題演習 Part 2 応用問題				文法(形容詞・副詞)の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト Part 2 When 単語テスト				実践テストの復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(代名詞・助動詞)の問題演習 Part 2 Who				文法(代名詞・助動詞)の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(前置詞と接続詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 2 What、Part 5 請求書(基礎問題)				文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在形・現在進行形)の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書(実践問題) 単語テスト				文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在完了・現在完了進行形)の問題演習 Part 2 How long Part 5 表(基礎問題)				文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(過去形・過去形と現在完了のちがい)の問題演習 Part 2 How far Part 5 表(実践問題)				文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法(過去進行形・過去完了形)の問題演習 Part 3-4 実践問題演習				文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
14	TOEIC Bridge演習(2回目) 課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト				間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング(1時間)				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPIに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。				授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4-901429-57-3(生協で購入してください。) 「はじめてのTOEIC受験」霜村和久著(センゲージラーニング) ISBN:9784863121812(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 課題:30% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です						

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
<b>授業概要</b>										
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
<b>授業の進め方</b>										
前期「TOEIC 1」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際に使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。				Eラーニング、文法問題(1時間)				
2	リスニング演習	Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
3	リーディング演習 リスニング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
4	リーディング演習 リスニング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
6	リーディング演習 リスニング演習	Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
7	ハーフ模試 通し練習	ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。				Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 リスニング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習 リスニング演習	Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習 リスニング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習 リスニング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 リスニング演習	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
14	リーディング演習 リスニング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。				期末試験に備える(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
<b>授業概要</b>										
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
<b>授業の進め方</b>										
前期「TOEIC 1」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際を使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。				Eラーニング、文法問題(1時間)				
2	リスニング演習	Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
3	リーディング演習 リスニング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
4	リーディング演習 リスニング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
6	リーディング演習 リスニング演習	Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
7	ハーフ模試 通し練習	ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。				Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 リスニング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習 リスニング演習	Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習 リスニング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習 リスニング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 リスニング演習	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
14	リーディング演習 リスニング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。				期末試験に備える(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) 「新TOEIC TEST 初心者特急 読解編」神崎正哉、TEX加藤著(朝日新聞出版) ISBN:978-4023313231(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
<b>授業概要</b>										
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
<b>授業の進め方</b>										
前期「TOEIC 1」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際に使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。				Eラーニング、文法問題(1時間)				
2	リスニング演習	Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
3	リーディング演習 リスニング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
4	リーディング演習 リスニング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
6	リーディング演習 リスニング演習	Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
7	ハーフ模試 通し練習	ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。				Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 リスニング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習 リスニング演習	Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習 リスニング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習 リスニング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 リスニング演習	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
14	リーディング演習 リスニング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。				期末試験に備える(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) 「新TOEIC TEST 初心者特急 読解編」神崎正哉、TEX加藤著(朝日新聞出版) ISBN:978-4023313231(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
<b>授業概要</b>										
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで370点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。										
<b>授業の進め方</b>										
前期「TOEIC I」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際に使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。				Eラーニング、文法問題(1時間)				
2	リスニング演習	Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
3	リーディング演習 リスニング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
4	リーディング演習 リスニング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
6	リーディング演習 リスニング演習	Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
7	ハーフ模試 通し練習	ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。				Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 リスニング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習 リスニング演習	Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習 リスニング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習 リスニング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 リスニング演習	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
14	リーディング演習 リスニング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。				期末試験に備える(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	清澤 理恵		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
<b>授業概要</b>										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC に引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC Bridgeで140点を目標せる英語力を身につけている。 英語での基本的な応答がスムーズにできる。 リーディングに必要な、基本的スキルを身につけている。										
<b>授業の進め方</b>										
前半はリスニング力の習得に力を入れながら、同時に会話練習を行って、楽しみながら基本的なコミュニケーション能力を身につけます。後半では、文法・読解問題演習を増やし、TOEIC Bridgeテストでのスコアアップを目指します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	前期を振り返り、目標を達成するために何が必要かを確認します。				前期の内容を復習して授業に臨む。宿題として自己学習の目標を立てる。(1時間)				
2	学習方法の確認と実践 文法演習 リスニング Part 2	英語学習に必要な学習方法を確認 基本文法(過去完了進行形)の問題演習 Part 2 手段・程度				文法復習、テキストP. 28-29の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(未来を表す表現・未来進行形と未来完了形)の問題演習 Part 2 一般疑問文・平叙文 Part 5 料理法				文法復習、テキストP. 30-31、88-89の復習と音読、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(仮定法過去・仮定法過去完了)の問題演習 Part 2 付加疑問文・否定疑問文 Part 5 広告・記事(基礎問題)				文法復習、テキストP. 32、90-91の復習と音読筆写、単語リスト、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	実践テスト、小テスト Part 2 選択疑問文 Part 5 広告・記事(実践問題)				実践テスト 復習、テキストP. 33、122の復習と音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(分詞・受動態)の問題演習 Part 3 Where Part 5 広告・記事(実践問題)				文法復習、テキストP. 40、123の復習と音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(受動態のいろいろな形)の問題演習 実践テスト Part 3 Who、Part 5 広告・記事(実践問題)				文法復習、テキストP. 41、126の復習と音読練習、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞・不定詞を使った文)の問題演習 Part 3 When Part 5 掲示文(基礎問題)				文法復習、テキストP. 42、92-93の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞のいろいろな形・動名詞)の問題演習 Part 3 How、Part 5 掲示文(実践問題) 単語テスト				文法復習、テキストP. 43-44、121の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞と動名詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 3 What、Part 5 Eメール(基礎問題)				文法復習、テキストP. 45、94-95の復習と音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(関係代名詞・そのほかの関係代名詞)の問題演習 Part 3 Why Part 5 Eメール(実践問題)				文法復習、テキストP. 46、124の音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(注意すべき関係代名詞・関係副詞)の問題演習 Part 4 実践問題演習、Part 3 交通機関 Part 5 手紙(実践問題)				文法復習、テキストP. 47、113-114、125の復習と音読練習、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 1-3 時間配分について	基本文法(関係代名詞と関係副詞のちがい)の問題演習 Part 1-2 通し練習、Part 3 ガイドツアー 時間配分確認、単語テスト				文法復習、テキストP. 48の復習と音読、単語リスト1-6、Eラーニング(1時間)				
14	通し練習振り返り 文法演習 リスニング Part 3	課題の通し練習を振り返り、課題分析 基本文法(比較級・最上級)の問題演習 実践テスト、Part 4 実践問題演習、Part 3 電話メッセージ				文法復習、テキストP. 49、115-116の復習と音読練習、単語リスト7、Eラーニング(1時間)				
15	リスニング Part 2-3	Part 4 実践問題演習 Part 2-3 部分的に通して練習し、テスト対策				テキストP. 113-118、間違った個所の復習と音読練習、単語リスト1-7、Eラーニング(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「TOEIC Bridgeスピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサ-チ出版) ISBN:978-4901429573(生協で購入してください。) 「TOEICテスト 英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版)(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
授業内で指示します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
<b>授業概要</b>										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC に引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC Bridgeで130点を目標せる英語力を身に付けている。 英語での基本的な応答がスムーズにできる。 リーディングに必要な、基本的スキルを身に付けている。										
<b>授業の進め方</b>										
前半はリスニング力の習得に力を入れながら、同時に会話練習を行って、楽しみながら基本的なコミュニケーション能力を身につけます。後半では、文法・読解問題演習を増やし、TOEIC Bridgeテストでのスコアアップを目指します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	前期を振り返り、目標を達成するために何が必要かを確認します。				前期の内容を復習して授業に臨む。宿題として自己学習の目標を立てる。(1時間)				
2	学習方法の確認と実践 文法演習 リスニング Part 2	英語学習に必要な学習方法を確認 基本文法(過去完了進行形)の問題演習 Part 2 手段・程度				文法復習、テキストP. 28-29の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(未来を表す表現・未来進行形と未来完了形)の問題演習 Part 2 一般疑問文・平叙文 Part 5 料理法				文法復習、テキストP. 30-31、88-89の復習と音読、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(仮定法過去・仮定法過去完了)の問題演習 Part 2 付加疑問文・否定疑問文 Part 5 広告・記事(基礎問題)				文法復習、テキストP. 32、90-91の復習と音読筆写、単語リスト、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	実践テスト、小テスト Part 2 選択疑問文 Part 5 広告・記事(実践問題)				実践テスト 復習、テキストP. 33、122の復習と音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(分詞・受動態)の問題演習 Part 3 Where Part 5 広告・記事(実践問題)				文法復習、テキストP. 40、123の復習と音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(受動態のいろいろな形)の問題演習 実践テスト Part 3 Who、Part 5 広告・記事(実践問題)				文法復習、テキストP. 41、126の復習と音読練習、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞・不定詞を使った文)の問題演習 Part 3 When Part 5 掲示文(基礎問題)				文法復習、テキストP. 42、92-93の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞のいろいろな形・動名詞)の問題演習 Part 3 How、Part 5 掲示文(実践問題) 単語テスト				文法復習、テキストP. 43-44、121の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(不定詞と動名詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 3 What、Part 5 Eメール(基礎問題)				文法復習、テキストP. 45、94-95の復習と音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(関係代名詞・そのほかの関係代名詞)の問題演習 Part 3 Why Part 5 Eメール(実践問題)				文法復習、テキストP. 46、124の音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5	基本文法(注意すべき関係代名詞・関係副詞)の問題演習 Part 4 実践問題演習、Part 3 交通機関 Part 5 手紙(実践問題)				文法復習、テキストP. 47、113-114、125の復習と音読練習、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 1-3 時間配分について	基本文法(関係代名詞と関係副詞のちがい)の問題演習 Part 1-2 通し練習、Part 3 ガイドツアー 時間配分確認、単語テスト				文法復習、テキストP. 48の復習と音読、単語リスト1-6、Eラーニング(1時間)				
14	通し練習振り返り 文法演習 リスニング Part 3	課題の通し練習を振り返り、課題分析 基本文法(比較級・最上級)の問題演習 実践テスト、Part 4 実践問題演習、Part 3 電話メッセージ				文法復習、テキストP. 49、115-116の復習と音読練習、単語リスト7、Eラーニング(1時間)				
15	リスニング Part 2-3	Part 4 実践問題演習 Part 2-3 部分的に通して練習し、テスト対策				テキストP. 113-118、間違った個所の復習と音読練習、単語リスト1-7、Eラーニング(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「TOEIC Bridgeスピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサ-チ出版) ISBN:978-4901429573(生協で購入してください。) 「TOEICテスト 英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版) ISBN:978-4053046499(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
授業内で指示します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Gクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12110	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	~2016年度 TOEIC (初級)					
<b>授業概要</b>										
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC に引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC Bridgeで120点を目標せる英語力を身に着けている。 英語での基本的な応答がスムーズにできる。 リーディングに必要な、基本的スキルを身に着けている。										
<b>授業の進め方</b>										
前半は前期に引き続き、リスニング力の習得に力を入れながら、同時に会話練習を行って、楽しみながら基本的なコミュニケーション能力を身につけます。後半では長文問題演習を増やし、TOEIC Bridgeテストでのスコアアップを目指します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。				自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング(1時間)				
2	TOEIC Bridge演習(1回目) 課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。				テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(名詞・動詞)の問題演習 Part 1 基礎問題				文法(名詞・動詞)の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法(形容詞・副詞)の問題演習 Part 2 応用問題				文法(形容詞・副詞)の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト Part 2 When 単語テスト				実践テスト の復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(代名詞・助動詞)の問題演習 Part 2 Who				文法(代名詞・助動詞)の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(接続詞・そのほかの接続詞)の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習				文法(接続詞)の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(前置詞と接続詞のちがい)の問題演習 実践テスト Part 2 What、Part 5 請求書(基礎問題)				文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在形・現在進行形)の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書(実践問題) 単語テスト				文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(現在完了・現在完了進行形)の問題演習 Part 2 How long Part 5 表(基礎問題)				文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法(過去形・過去形と現在完了のちがい)の問題演習 Part 2 How far Part 5 表(実践問題)				文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング(1時間)				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法(過去進行形・過去完了形)の問題演習 Part 3-4 実践問題演習				文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング(1時間)				
14	TOEIC Bridge演習(2回目) 課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト				間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング(1時間)				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPIに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。				授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4-901429-57-3 (生協で購入してください。) 「TOEICテスト英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著(株式会社学研プラス出版) ISBN:978-4053046499 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 課題:30% 定期試験:20% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)					
		○								
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
<b>授業の進め方</b>										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)					
		○								
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
<b>授業の進め方</b>										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)				
		○								
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
<b>授業の進め方</b>										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)		受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
参考書は授業内で紹介します。		今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。								

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)					
		○								
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
<b>授業の進め方</b>										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	宮坂 るみ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)					
		○								
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
<b>授業の進め方</b>										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL22111	研究室	非常勤
担当者	田邊 雅彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (中級)					
		○								
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEIC」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
「TOEIC L・R」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。										
<b>授業の進め方</b>										
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックイン登録。				学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書は授業内で紹介します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEIC」の受講を強く推奨しています。						

科目名	TOEIC Aクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)					
		○								
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。										
学修到達目標										
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。										
授業の進め方										
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。				前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) 「TOEIC L&R TEST 標準模試2」神崎正哉、ダニエル・ワーリナ著(IBC/ブリッシング) ISBN:978-4794604668 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Bクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)					
○										
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。										
<b>授業の進め方</b>										
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)			
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>					
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) 「TOEIC L&R TEST 標準模試2」神崎正哉、ダニエル・ワーリナ著(IBC/ブリッシング) ISBN:978-4794604668 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。					

科目名	TOEIC Cクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤	
担当者	勝山 庸子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
○			A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)					
<b>授業概要</b>											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
<b>学修到達目標</b>											
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に着けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
<b>授業の進め方</b>											
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Dクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤	
担当者	櫻井 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
○			A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)					
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
学修到達目標											
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
授業の進め方											
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEIC Eクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤
担当者	宮坂 るみ		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)					
○										
授業概要										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。										
学修到達目標										
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。										
授業の進め方										
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)			
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。					

科目名	TOEIC Fクラス		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22112	研究室	非常勤
担当者	田邊 雅彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	~2016年度 TOEIC (実践レベル)				
		○								
<b>授業概要</b>										
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。										
<b>学修到達目標</b>										
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。										
<b>授業の進め方</b>										
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。				前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても着しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。				今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	中国語（基礎）（総合経営学部）		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	UL22113	研究室	非常勤
担当者	中島 暉		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
本講義は中国語の発音と簡単な会話を学び、中国語の基礎を身に付けることを目的とします。本講義はテキストを用いて、その内容を「聴く、話す、読む、書く」という練習を繰り返すことによって、標準的な発音および会話能力の定着をはかります。										
<b>学修到達目標</b>										
受信するだけでなく発信にも使えるような基礎的な文法と会話表現を身に付けることが具体的な目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
声を出すことを大切に、ロールプレイ形式で練習します。授業に合わせて中国の食文化、習慣などを紹介していきます。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス、中国語とは	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明をします。中国語の特徴を紹介します。				テキストP6とP7を事前に予習する。（1時間）				
2	発音「単母音」、声調	中国語の発音（ピンイン）と声調（四声）について説明をします。発音練習を行います。				前回授業内容について復習をする。（1時間）				
3	発音「子音」、挨拶	発音「子音」と簡単な挨拶について説明をします。発音練習を行います。				テキストP9を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
4	発音「子音」、自己紹介	発音「子音」と名前の言い方について説明をします。発音と会話練習を行います。				テキストP9とP14を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
5	発音「複合母音」、自己紹介	発音「複合母音」と「出身地、職業」の言い方について説明をします。発音と会話練習を行います。				テキストP14とP15を事前に読み、P16の問題練習をする。（1時間）				
6	発音「複合母音」、物事の尋ね方（指示代名詞、疑問詞）	発音「複合母音」と「これは何ですか？」の使い方について説明をします。発音と会話練習を行います。				テキストP19を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
7	発音「鼻母音」	前回学習した内容を使い、会話練習を行います。				テキストP10とP18を事前に読み、P20の問題練習をする。（1時間）				
8	動詞の文	「動詞の文」について説明をします。会話練習を行います。				テキストP22とP23を事前に読み、P24の問題練習をする。（1時間）				
9	量詞、形容詞の文、買い物	「量詞」、「形容詞の文」と「買い物」をする時に使う表現について説明をします。会話練習を行います。				教科書P26とP27を事前に読み、P28の問題練習をする。（1時間）				
10	数字、日付、時刻	「数字」、「日付」と「時刻」の使い方について説明をします。会話練習を行います。				教科書P30とP31を事前に読み、P32の問題練習をする。（1時間）				
11	完了、助動詞、食事	「完了」、「助動詞」と「食事」の時に使う表現について説明をします。小テストを行います。				テキストP33～P35を事前に読み、P36問題練習する。（1時間）				
12	所在	「所在」を表す表現について説明をします。「～は～にある・いる」と「～したい」を使い、会話練習を行います。				テキストP35を事前に読み、授業内容について復習する。（1時間）				
13	介詞、反復疑問文、家族名称	「介詞」、「反復疑問文」と「家族名称」の呼び方について説明をします。				教科書P39を事前に読み、授業内容について復習する。（1時間）				
14	存在、家族構成	「存在」と「家族構成」の言い方について説明をします。会話練習を行います。				教科書P38を事前に読み、P40の問題を練習する。（1時間）				
15	講義全体まとめ	これまで学習した内容をまとめます。				テキストP8～P40の内容について目を通し、全体の復習をする。（1時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「中国語はじめの一步」竹島金吾 監修 尹景春・竹島毅著（白水社） ISBN:978-4-560-06925-7（生協で購入してください。） 必要に応じて、プリントを配布します。				小テスト：30% 定期試験：40% 受講態度：30% S:各回の授業内容を十分理解するとともに、自ら意欲的に課題を取り組み、授業で学んだことを95%以上ができる。A:各回の授業内容を理解するとともに、積極的に課題を取り組み、授業で学んだことを80%以上ができる。B:授業内容について概ね理解し、課題を取り組み、授業で学んだことを70%以上ができる。C:授業内容について理解し、授業で学んだことを60%以上ができる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
特にありません				授業中恥ずかしがらずに声を出して、練習をしましょう。予習と復習を行ってください。						

科目名	中国語（展開）（総経・人間）		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	UL22114	研究室	非常勤
担当者	中島 暉		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件	中国語 を修得していること				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
本講義では、学習した中国語 をベースに、さらに具体的、実践的な場面での会話能力を習得します。本講義はテキストを用い、その内容を「聴く、話す、読む、書く」という練習を繰り返すことによって、標準的な発音および会話能力の習得を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
受信するだけでなく発信にも使えるような会話能力を身に付けることが具体的な目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
声を出すことを大切に、ロールプレイ形式で練習することを重視します。中国文化についても紹介し、異文化への理解を深めていきます。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス、発音（ピンイン）の確認	授業概要、学習目標、授業の進め方、成績評価の仕方について説明をします。発音（ピンイン）の確認をします。				学習した「中国語」の内容について復習をする。（1時間）				
2	時間量、助動詞、介詞	「時間量」、「助動詞」と「介詞」について説明をします。				テキストP43を事前に読む。授業内容について復習をする。（1時間）				
3	アルバイト	前回学習した内容を使い、「一週間に何回アルバイトがありますか？」などの会話練習を行います。				テキストP41とP42を事前に読む。P44の問題を練習する。（1時間）				
4	過去型、強調	「過去形」と「強調」について説明をします。				テキストP47を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
5	介詞、応用	「介詞」、「～したことがある」と「～が～に」の使い方について説明をします。				テキストP47を事前に読み、P48の問題を練習する。（1時間）				
6	旅行	「あなたは旅行が好きですか?」、「アメリカに行った事がありますか?」などの会話練習を行います。				テキストP46を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
7	動作の様態、助動詞	「動作の様態」と「助動詞」について説明をします。				テキストP51を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
8	動詞の重ね型	「動詞の重ね型」について説明をします。				テキストP51を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
9	できる（能力的・条件的・習得する）	「できる」を使い、会話練習を行います。				テキストP50を事前に読み、P52の問題を練習する。（1時間）				
10	動作の進行、選択疑問	「動作の進行」と「選択疑問」について説明をします。				テキストP55を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
11	趣味	前回学習した内容を使い、会話練習を行います。小テストを行います。				テキストP53～P55を事前に読み、P56の問題を練習する。（1時間）				
12	比較、2つの目的語をもつ文	「比較」と「2つの目的語をもつ文」について説明をします。				テキストP59を事前に読み、授業内容について復習をする。（1時間）				
13	予定	前回学習した内容を使い、会話練習を行います。				テキストP57～P59を事前に読み、P60の問題を練習する。（1時間）				
14	作文（自己紹介）	学生自身が実際に中国語で「自己紹介」の作文を書いてみます。				テキストP61を事前に読んでください。（1時間）				
15	講義全体まとめ	これまで学習した内容をまとめます。				テキストP43～P60の内容について復習をする。（1時間）				
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>					
「中国語ははじめの一步」竹島金吾 監修 尹景春・竹島毅著（白水社） ISBN:978-4-560-06925-7（生協で購入してください。） ・必要に応じて、プリントを配布します。					受講態度：30% 小テスト：30% 定期試験：40% S:各回の授業内容を十分理解するとともに、自ら意欲的に課題を取り組み、授業で学んだことを95%以上ができる。A:各回の授業内容を理解するとともに、積極的に課題を取り組み、授業で学んだことを80%以上ができる。B:授業内容について概ね理解し、課題を取り組み、授業で学んだことを70%以上ができる。C:授業内容について理解し、授業で学んだことを60%以上ができる。					
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>					
特にありません。					授業中恥ずかしがらずに声を出して、練習を行いましょう。予習と復習を行ってください。					

科目名	ハングル（基礎）（総合経営学部）		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパリング	UL22115	研究室	非常勤
担当者	林 英美		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
授業概要										
ハングルとは、元来朝鮮半島で使われている言語（韓国語・朝鮮語）を表記するために用いられている文字のことを示しますが、この授業では科目の名称として使用しています。この科目では韓国語・朝鮮語の文字と発音を習得します。また、韓国語の文章が読めるようになり、簡単な日常会話を身につけることを目的とします。										
学修到達目標										
履修生は、ハングルの文字の発音の基礎について学び、読み書きができるようになることを目的とします。また、韓国語の文章が読めるようになり、簡単な日常会話を話せるようになることを目的とします。										
授業の進め方										
主にテキストの内容に沿って授業を進めます。書き取り・聞き取り・カードゲームなど様々なミニテストを実施し、会話練習にも取り組みます。ハングル歌・映画・ドラマ等を紹介するほか、朝鮮半島の文化風習についても紹介します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス ハングル・韓国語・朝鮮語について	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方についての説明をします。ハングルで用いられている記号の説明をし、韓国語・朝鮮語がどのような言語であるのかを紹介します。				テキスト第1課1と2を読んで、授業内容の復習をする。(1時間)				
2	単母音、ヤ行	単母音、ヤ行について学びます。				テキストP10～18の復習と予習をする。(1時間)				
3	ワ行	ワ行について学びます。				テキストP14～17の復習と予習をする。(1時間)				
4	平音	平音について学ぶ。				テキストP18～25の復習と予習をする。(1時間)				
5	激音・濃音	激音と濃音について学ぶ。				テキストP18～27の復習をする。(1時間)				
6	有声音化	平音の有声音化について学ぶ。				テキストP26～32の復習をする。(1時間)				
7	これまでのまとめ	テキスト第1課と第2課のまとめをする。				テキストP10～32の復習をし、P33～35までの予習をする。(1時間)				
8	パッチム(1)	鼻音と流音について学ぶ。				テキストP33～39の復習と予習をする。(1時間)				
9	パッチム(2)	口音と日本語のハングル表記について学ぶ。				テキストP36～43の復習と予習をする。(1時間)				
10	発音規則(1)	連音化、hの弱音化・無音化について学ぶ。				テキストP40～45の予習と復習をする。(1時間)				
11	発音規則(2)	濃音化について学ぶ。				テキストP44～47の復習と予習をする。(1時間)				
12	発音規則(3)	激音化について学ぶ。				テキストP48～49の復習をする。(1時間)				
13	発音規則(4)	口蓋音化・流音化について学ぶ。				テキストP32～35の復習をする。(1時間)				
14	アウトキャンパススタディ	韓国文化を実体験し、韓国語とそれにまつわる文化的理解を深める。				アウトキャンパススタディに関するレポートを書く。				
15	講義全体まとめ	前期で学んだ事項を復習する。				テキストP10～49の復習をする。				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「おはよう韓国語1」崔柄珠著（朝日出版社） ISBN:978-4-255-55632-1（生協で購入してください。）		小テスト：20% レポート：10% 定期試験：40% 出席レポート：30% S：授業内容を高度に理解しており、成績評価の合計が100%である。 A：授業内容を理解しており、成績評価の合計が80%～99%である。 B：授業内容を概ね理解しており、成績評価の合計が70%～79%である。 C：授業内容の60%程度を理解しており、成績評価の合計が60%～69%である。								
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）								
適宜お知らせいたします。		平日頃から韓国や朝鮮のドラマ・映画、ニュースなどに興味を持ち、ハングルの勉強に親しみましょう。また、留学生との交流を図り、学んだ知識を実践で使ってみるよう心掛けましょう。								

科目名	ハングル（展開）（総経・人間）		学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	UL22116	研究室	非常勤	
担当者	林 英美		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー				
関連資格					履修条件	ハングル を修得していること					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
			A	B	C						
授業概要											
前期に学んだハングルの文字と発音のルールをベースにして、後期では主に簡単な会話表現・文法について学ぶことを目的とします。											
学修到達目標											
ハングルの基本的な読み書きを習得している受講生が、語彙、文法、発音に関する知識を深め、日常会話に役立つ表現を学ぶことを目的とします。また、ハングル能力検定試験5級及び韓国語能力試験1級を受験できるレベルの知識習得を目標とします。											
授業の進め方											
対話練習を重視し、語彙・文法・発音を身につけられるようにします。会話・筆記試験を定期的実施し、習得状況を確認します。映画鑑賞や異文化学習、アウトキャンパススタディによる実践練習を取り入れた楽しい学習方法を伝授します。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス、文字と発音	文字と発音について学びます。					テキストP10-49を復習する。 (1時間)				
2	第5課自己紹介(1)	第5課の発音と語彙、文法と表現について学ぶ。					テキストP58～67を復習する。 (1時間)				
3	第5課自己紹介(2)	第5課のまとめ学習をする。					テキストP58～67を復習する。 (1時間)				
4	第6課～ではありません(1)	第6課の発音と語彙、文法と表現について学ぶ。					テキストP68～77を復習する。 (1時間)				
5	第6課～ではありません(2)	第6課のまとめ学習をする。					テキストP68～77を復習する。 (1時間)				
6	第5～6課のリスニングと会話	第5～6課のリスニングと会話学習をする。					テキストP58～77を復習する。 (1時間)				
7	第7課～が好きです(1)	第7課の発音と語彙、文法について学ぶ。第4課「流音の鼻音化」について学ぶ。					テキストP78～91を復習する。 (1時間)				
8	第7課～が好きです(2)	第7課の重要表現について学ぶ。					テキストP78～91を復習する。 (1時間)				
9	第7課～が好きです(2)	第7課のまとめ学習をする。					テキストP78～91を復習する。 (1時間)				
10	第8課お誕生日(1)	第8課の発音と語彙、文法と表現について学ぶ。					テキストP92-105を復習する。 (1時間)				
11	第8お誕生日(2)	月と曜日、時を表す語を学ぶ。第4課「nの添加（合成語）」について学ぶ。					テキストP92-105を復習する。 (1時間)				
12	第8お誕生日(2)	へヨ体を学び、第8課のまとめ学習をする。					テキストP92-105を復習する。 (1時間)				
13	第9課予定と時間	固有数詞と時刻について学ぶ。					テキストP110-114を復習する。 (1時間)				
14	アウトキャンパススタディ、第10課	5課から10課までの会話表現を用いて、韓国語話者と会話練習をする。異文化体験を通じて、「ハングル」に対する理解を深める。					アウトキャンパススタディ参加レポートを作成する。(1時間)				
15	全体のまとめ	第5課から第10課を復習する。					テキストP58～125を復習する。 (1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「おやよう韓国語1」崔柄珠著（朝日出版社） ISBN:978-4-255-55632-1（生協で購入してください。）					小テスト：30% 定期試験：30% レポート：10% 受講態度：30% S：授業内容を高度に理解しており、成績評価の合計が100%である。 A：授業内容を理解しており、成績評価の合計が81%～99%である。 B：授業内容を概ね理解しており、成績評価の合計が71%～80%である。 C：授業内容の60%程度を理解しており、成績評価の合計が61%～70%である。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
適宜お知らせいたします。					ハングルIIを履修する学生は、ハングルIを受講していることが条件です。後期から受講を希望する場合、文字の読み書きができることが必須条件です。						

科目名	情報処理 (WORD) (総合経営学部)	学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL12201	研究室	非常勤
担当者	内川 小百合	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)	履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C					
<b>授業概要</b>									
情報処理を学ぶことは、ひとつはコンピュータ・リテラシーを学ぶこと、つまりコンピュータを使いこなしていくことです。文字を入力することは、その基礎です。さまざまな文書をコンピュータで作成し、編集し、そして保存し、また再利用することは、現代社会の中で、必須の技能といえるでしょう。本講義では、クラウド上の文書管理やビジネスメールの送り方、ワープロソフトWORDを使った正しく速い入力技術の習得、ビジネス文書・図形・表などを作成していくための機能を学んでいきます。									
<b>学修到達目標</b>									
Office365の機能を習得し、ファイルの送受信などビジネスで使えるスキルを身につけている。正しいキータッチを習得し、ワープロソフトWORDを使ってビジネス文書・表作成・図形挿入・クリップアートや写真の挿入と編集ができる。日本情報処理検定協会ワープロ検定3級～2級を取得できる力を身につけている。									
<b>授業の進め方</b>									
演習形式で進めます。特に正確で素早いキータッチの技術を身につけるために、毎回スピードテストを行っていきます。WORDの機能を知り、その機能を使いこなせるように多くの演習をこなしていきます。									
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	Office365の概要	Office365の機能と操作、WORDの起動と終了。					Office365の予復習(1時間)		
2	文書管理、メール送信	文書管理(ONE DRIVE)、メール機能、送信練習など					メール機能について予復習(1時間)		
3	キータッチについて	正しいキータッチについての解説と演習					キータッチの運指練習(1時間)		
4	日本語入力基礎	日本語入力基礎 日本語変換モード、IMEパッド、ファンクションキー及びキータッチ演習					キータッチの運指練習(1時間)		
5	漢字変換について	漢字変換について(変換、文節区切り、文字の修正) 短文入力・記号の入力演習					キータッチによる単語練習(1時間)		
6	特殊文字の入力	特殊文字の入力 アルファベット、カタカナ、特殊文字を含む文章の入力演習					キータッチによる短文入力練習(1時間)		
7	編集機能	文字の修正、移動、コピーの演習					練習問題の復習(1時間)		
8	編集機能	文字の書式(フォント・サイズ・ボールド体・イタリック体・下線・囲み・網掛け)					練習問題の復習(1時間)		
9	編集機能	文字の書式(拡大縮小・下付き文字・上付き文字・取り消し線・影付きなど)					編集機能の復習と入力練習(1時間)		
10	文書保存	文書保存、文書読み込み、再保存(上書き保存、新しいファイル名を付けて保存)					入力練習および保存(1時間)		
11	ビジネス文書	ビジネス文書のページ設定(右詰め、中央揃え、インデント、段落番号、箇条書き)					ビジネス文書の入力練習(1時間)		
12	表作成	罫線機能、表挿入、線種変更、列幅行高変更、セルの結合と分割、列や行の挿入と削除					表入力練習(1時間)		
13	画像編集	画像の挿入(ワードアート、オートシェイプ、クリップアート)					画像挿入および編集の復習(1時間)		
14	ビジネス文書	表と画像を含むビジネス文書の完成					表と画像を含む文書の入力練習(1時間)		
15	ビジネス文書	会社見学礼状や、内定時の礼状など、学生として出す文書の作成と留意点					さまざまな文書を自分の立場で作成してみる(1時間)		
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>							
「WORDの基礎」内川小百合著(丸の内ハイデ出版)(生協で購入してください。) 「日本語ワープロ検定問題模擬問題集」(日本情報処理検定協会)(生協で購入してください。)		受講態度:40% 定期試験:60% 受講態度は、授業への参加度(授業への取組、発言等)で評価します。 S:9割以上の理解度+授業への参加度+実技点が100点。 A:8割以上の理解度+授業への参加度+実技点が80点以上。 B:8割程度の理解度+授業への参加度+実技点が70点以上。 C:8割程度の理解度+授業への参加度+実技点が60点以上。							
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
「知りたい操作がすぐわかるWord2013全機能Bible」西上原裕明著(技術評論社)		コンピュータの入力技術は本講義でしっかりと身につけてください。講義以外の時間を利用してできるだけキーボードに慣れ、WORDの機能についてよく復習してください。日本語ワープロ検定をぜひ受験しましょう。							

科目名	情報処理 (EXCEL初級) (総合経営学部)		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12202	研究室	W-32
担当者	小林 俊一		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
総○ 観○										
<b>授業概要</b>										
本講義は、表計算2級の検定合格を目標とします。Excelを用いた数値情報の加工・分析は、大学における研究分野のみならず、ビジネスシーンでも幅広く用いられています。身の回りの数値データを的確に処理し、自分に必要な情報として加工する道具としてExcelを使いこなせるようにしていきます。入力や計算式の作り方の基本から、セル参照の種類やよく使う算術・論理関数、グラフ作成、印刷設定などについて学びます。										
<b>学修到達目標</b>										
日本情報処理技能検定協会が実施している「表計算検定2級」の資格取得、またはそれと同等の実力を養い、Excelを用いて素早く数値データの集計・加工ができるようになることを目標としています。										
<b>授業の進め方</b>										
講義はすべてパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。資格取得のためには、作業スピードも重要な要件となるため、時間外にも模擬問題を繰り返し解答することで作業効率の向上を図ってもらいます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方、評価方法についてクラス分けのため、Excelの基本操作(表計算検定4級レベル)を行います。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
2	基本操作と計算式	表計算検定4・3級レベルで必須とされる、文字・数値の入力、列幅変更、計算式、合計、平均関数等について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
3	基本書式と印刷処理	表計算検定4・3級レベルで必須とされる、罫線処理、表示形式、文字揃え、印刷について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
4	判断文と絶対参照・構成品	表計算検定3級レベルで必須とされる、IF関数による条件判断、セルの相対参照・絶対参照、構成品率の計算について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
5	端数処理と順位付け	表計算検定3級レベルで必須とされる、数値の端数処理や順位付け、並べ替えについて解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
6	多重判断文と表検索	表計算検定2級レベルで必須とされる、IF関数のネストを使った多重判断文とVlookup関数を用いた表検索について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
7	グラフ作成とセル証明	表計算検定2級レベルで必須とされる、グラフ作成とセル証明について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
8	論理演算子を使った判定	表計算検定2級レベルで必須とされる、AND関数、OR関数を理解し、IF関数と組み合わせた処理について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
9	日付や時刻の計算	表計算検定2級レベルで必須とされる、日付や時刻の計算について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
10	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
11	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
12	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
13	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
14	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
15	検定試験対策	総合演習課題(過去問題のポイント解説を含む)を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「情報処理技能検定模擬問題集・表計算2級」日本情報処理技能検定協会編(生協で購入してください。)				定期試験：60% 課題：40% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「Excel 最強の教科書[完全版]」(SBクリエイティブ) ISBN: 978-4797388701				必ず資格取得に挑戦してください。定期試験は検定試験と同等の内容を予定しています。収集した数値データや膨大な情報を、Excelを使って効率よく取り扱えるかで、今後の問題解決のスピードが大きく変わります。						

科目名	情報処理（EXCEL上級）（総合経営学部）		学年学期	2年前期		単位数	1		ナバリング	UL22203		研究室	非常勤		
担当者	松澤 みわ子		必修選択	選択		科目種別	講義		オフィスアワー						
関連資格						履修条件									
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）									
○			A	B	C										
<b>授業概要</b>															
本講義は、表計算1級の検定合格を目標とします。楽しくパソコンを操作しながら、Excelの本格的な使い方を身につけます。会社などの仕事で実際に役立つような表計算の実力を身につけることを目的としています。数値データをもとにさまざまな統計処理が行えるようになります。「情報処理」では登場しなかった文字列関数や特殊関数、データベース関数、データの抽出、シート間の連携、複合グラフなどについて学びます。															
<b>学修到達目標</b>															
本講義は日本情報処理検定協会が実施している「表計算検定1級」以上の資格取得、またはそれと同等の実力をけることを目標とします。Excelを用いて複雑な数値データの集計・加工ができるようになることが目標です。															
<b>授業の進め方</b>															
講義はすべてパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。基本解説の後に演習課題を繰り返し行い、さまざまなパターンを経験し、実践力と作業のスピードアップを狙います。															
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。															
回	テーマ		内容									事前事後学修			
1	授業ガイダンス		授業の進め方、評価方法についてExcelの操作復習（表計算2級レベル）を行います。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
2	多重判断文等の復習		表計算検定2級レベルで必須とされている、多重判断文、表検索等について再確認をします。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
3	文字列操作関数		表計算検定1級レベルで必須とされている、文字列を操作するLife・Right、CONCATINATE関数などについて解説します。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
4	特殊関数		表計算検定1級レベルで必須とされている、ABS関数など特殊なについて解説します。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
5	データベース関数		表計算検定1級レベルで必須とされている、DSUM、DAVERAGE、DCOUNT関数などのデータベース関数について解説します。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
6	データベース関数		前回の授業で解説したDSUM、DAVERAGE、DCOUNT関数などのデータベース関数について復習をします。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
7	抽出と抽出後のデータ処理		表計算検定1級レベルで必須とされている、条件を指定したデータ抽出とそのデータに対する処理について解説します。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
8	シート間の処理		表計算検定初段レベルで必須とされている、複数シートを用いた計算式の作り方を紹介します。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
9	複合グラフの作成		表計算検定初段レベルで必須とされている、複合グラフやグラフを複数作成する方法を紹介します。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
10	検定試験対策		総合演習課題（過去問題のポイント解説を含む）を規定時間内にできるようトレーニングします。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
11	検定試験対策		総合演習課題（過去問題のポイント解説を含む）を規定時間内にできるようトレーニングします。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
12	検定試験対策		総合演習課題（過去問題のポイント解説を含む）を規定時間内にできるようトレーニングします。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
13	検定試験対策		総合演習課題（過去問題のポイント解説を含む）を規定時間内にできるようトレーニングします。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
14	検定試験対策		総合演習課題（過去問題のポイント解説を含む）を規定時間内にできるようトレーニングします。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
15	検定試験対策		総合演習課題（過去問題のポイント解説を含む）を規定時間内にできるようトレーニングします。									授業で解いた問題を何回も練習して下さい。（1時間）			
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>												
「情報処理技能検定模擬問題集・表計算1級」日本情報処理技能検定協会編（生協で購入してください。）			定期試験：80％ 課題：20％ 定期試験は表計算検定1級レベルの内容となります。 A:課題の提出と定期試験または表計算検定において80%程度の技能が認められる B:課題の提出と定期試験または表計算検定において70%程度の技能が認められる C:課題の提出と定期試験または表計算検定において60%程度の技能が認められる												
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>												
「カラー図解Excel「超」効率化マニュアル」立山 秀利著（講談社） ISBN：978-4062579995 なし			定期試験は、表計算検定1級と同等の問題を予定しています。「情報処理」を履修する学生は「情報処理」を履修し、2級を取得していることが望ましい。Excelの幅広い分野への応用力を養いましょう。												

科目名	情報処理（パワーポイント）（総合経営学部）		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	UL22204	研究室	非常勤
担当者	松澤 みわ子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
		○								
<b>授業概要</b>										
Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションは、研究発表や教育現場、ビジネスシーンなどで幅広く用いられています。本講義ではプレゼンテーションというコミュニケーション手段の特色をよく理解し、企画立案の段階から訴求力の高い視覚資料の作成方法、内容が伝わる発表技法など、プレゼンテーション全般を扱います。										
<b>学修到達目標</b>										
効果的なプレゼンテーションのために一連の作業（企画立案～視覚資料の作成～発表まで）ができる。また、PowerPointの操作技能としては、デザインに重点を置き、視覚効果を多様化した資料作成能力（プレゼンテーション作成検定2級レベル）を修得している。										
<b>授業の進め方</b>										
講義は主にパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。 授業内にプレゼン・スキルのトレーニングをかねて、一人ひとりプレゼンテーション（個人課題）実施の機会を設けます。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方、評価方法についての説明 PowerPointの基本的な機能を使用して、プレゼンテーション資料の作成方法を確認します（プレゼンテーション作成検定4級）。				シラバスの内容を事前に確認 事後は同様の問題で復習を行う。 （1時間）				
2	プレゼンの企画立案	プレゼンの企画段階において重要なことや、ストーリー構成の組み立て方、情報収集の手法について学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
3	レイアウト・デザイン	視覚資料のデザイン決定において重要なことや、テーマの活用方法を学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
4	視覚に訴えるチャート化	目に見えない概念や考え方、手順などを説明する際にチャートを活用する方法について学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
5	訴求力を上げるカラー化	カラーの基礎知識や配色の基本テクニック、カラー化によってプレゼン資料の訴求力を上げるためのポイントを学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
6	数値のビジュアル化とイメージ伝達	数値を目的に合わせてビジュアル表現するため、表やグラフの活用方法や具体的なイメージを伝える手段について学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
7	効果的なアニメーション	アニメーション効果、画面切り替えなど特殊効果の活用方法と、事前に行っておくべきさまざまな準備作業について学習します。				授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
8	発表スキルと質疑応答	内容を効果的に相手に伝えるための様々なテクニックや、質疑応答の進め方について学習します。				次回のプレゼン本番に備え、視覚資料を完成させ、所定のフォルダに提出する。（2時間）				
9	プレゼン準備とリハーサル	これまで学んだ内容を実際に使って個人毎のプレゼン実施の準備とリハーサルを行います。				次回のプレゼン本番に備え、視覚資料を完成させ、所定のフォルダに提出する。（2時間）				
10	プレゼン発表	大切な個人ごとのプレゼン発表の回です。発表者はこれまでのプレゼンスキルの成果発表を行い、その他の人は質疑応答の場面で質問者となってもらいます。				事前に関りリハーサルを済ませ、必要に応じて発表者用ノートを準備しておく。（2時間）				
11	プレゼン発表、またはプレゼン振り返り	履修者の人数にもよりますが、プレゼン発表の続き、または前回のプレゼン成果発表の振り返りを行います。				事前に関りリハーサルを済ませ、必要に応じて発表者用ノートを準備しておく。（2時間）				
12	プレゼン検定対策（3級）	プレゼンテーション作成検定3級の模擬問題を解きながら、基本的なスライド作成手順やPowerPointの操作方法を復習します。				練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
13	プレゼン検定対策（2級）	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めめます。				練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
14	プレゼン検定対策（2級）	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めめます。				練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
15	プレゼン検定対策（2級）	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めめます。				練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「情報利活用 プレゼンテーション PowerPoint 2013/2010対応」山崎 紅著（日経BP社） ISBN:978-4-82229-702-2（生協で購入してください。） 教科書は全員が購入してください。				課題：50% 定期試験：50% 定期試験はプレゼンテーション作成検定2級レベルの内容となります A:課題の提出・発表と定期試験において80%程度の技能が認められる B:課題の提出・発表と定期試験において70%程度の技能が認められる C:課題の提出・発表と定期試験において60%程度の技能が認められる						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
「プレゼンテーション検定模擬問題集2級」（日本情報処理技能検定協会）検定受験を予定している方は購入をしてください。				プレゼンテーションとPowerPointの精通することで、円滑なコミュニケーション能力の向上も期待できます。他の授業においても、積極的にプレゼン発表の機会を得るように心がけてください。						

科目名	情報処理 (ホームページ) (総合経営学部)	学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL12205	研究室	非常勤
担当者	松澤 みわ子	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格		履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性	A B C	履修対象入学年度 (読替科目)					
	○			~2016年度 ホームページ作成					
<b>授業概要</b>									
ホームページは情報の取得と発信の強力なツールであり、高度情報社会における重要な情報メディアと言えます。本講義では、ホームページ作成における初中級レベルの技術を習得することを目的とします。ホームページの基礎知識 (HTML・スタイルシート) を学び、さらにホームページ内で用いるWebコンテンツ (画像、ロゴ、アニメーション) の作成についても学びます。									
<b>学修到達目標</b>									
ホームページビルダーを使った一連の作業 (サイト作成~Webページやコンテンツ類作成まで) ができる。日本情報処理検定協会が実施している「ホームページ作成検定2級」に合格する。									
<b>授業の進め方</b>									
本講義はコンピュータ教室での実習となります。 使用ソフトは「ホームページ・ビルダー」、「Webアートデザイナー」、「Webアニメーター」です。									
<b>授業計画 (各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容						事前事後学修	
1	授業ガイダンス	授業の進め方、評価方法についてホームページビルダーを使って初歩的なホームページの作り方を学びます。まずはホームページ作成検定4級レベルに挑戦します。						HP検定4級の復習をしておくこと。(1時間)	
2	ホームページビルダー基本操作	ホームページビルダーの基本操作を習得します。この回ではホームページ作成検定3級レベルに挑戦します。						HP検定3級の復習をしておくこと。(1時間)	
3	ページの属性 HP検定対策 (3級)	トップページの作成、およびページ属性について学びます。また、ホームページ作成検定3級の出題範囲について学習します。						教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定3級の復習をしておくこと。(1時間)	
4	書式の設定 HP作成検定対策 (3級)	さまざまな書式設定やWebで扱うカラーや画像の特徴について学びます。また、ホームページ検定3級の出題範囲について学習します。						教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定3級の復習をしておくこと。(1時間)	
5	表の作成 HP作成検定対策 (2級)	表挿入や表編集の方法を学びます。この回からホームページ検定2級に挑戦します。						教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
6	リンクの設定 HP作成検定対策 (2級)	各ページにリンクを設定する方法を学びます。また、ホームページ検定2級の出題範囲について学習します。						教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
7	リンクの応用 HP作成検定対策 (2級)	ラベルリンク、ロールオーバー、イメージマップなど、リンクの応用を学びます。また、ホームページ検定2級の出題範囲について学習します。						教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
8	HP作成検定対策 (2級)	よく出題されるプロパティを含むHP2級の問題の解き方を学習します。						HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
9	HP作成検定対策 (2級)	ボーダーなどのプロパティを含むHP検定2級の問題の解き方を学習します。						HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
10	HP作成検定対策 (2級)	ラベルリンクなどを用いた難易度の高いHP検定2級の問題の解き方を学習します。						HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)	
11	HP作成検定対策 (2級)	検定模擬を実施し、弱点の抽出を行います。						HP検定2級の過去問題を配布するので、課題として提出すること。(2時間)	
12	Webページ課題制作	新たな題材でホームページ制作の過程を最初から復習していきます。課題「京都物語」サイトの構築を行っていきます。						教科書の総合問題を解いておくこと。(2時間)	
13	Webコンテンツの制作	Webアートデザイナーを利用し、写真の加工や合成の方法、タイトルロゴやボタンなど、個人課題で使用する素材を制作していきます。						課題の中で利用するオリジナル素材を準備すること。(1時間)	
14	Webコンテンツの制作	Webアニメーターを利用した文字バナー広告など、個人課題で使用するアニメーション素材を制作します。						課題の中で利用するオリジナル素材を準備すること。(1時間)	
15	Webページ課題仕上げ	課題「京都物語」を指示に従って完成させていきます。HP作成検定2級に関する復習も行う予定です。						課題を期限までに提出すること。(2時間)	
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>					
「よくわかるホームページ・ビルダー19」(FOM出版) ISBN:978-4-86510-207-9 (生協で購入してください。) 教科書に従って演習を進めていきますので、必ず購入してください。				課題:50% 定期試験:50% 定期試験はホームページ作成検定2級レベルの内容となります。 A:課題の提出と定期試験またはHP検定において80%程度の技能が認められる B:課題の提出と定期試験またはHP検定において70%程度の技能が認められる C:課題の提出と定期試験またはHP検定において60%程度の技能が認められる					
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</b>					
「ホームページ作成検定試験模擬問題集2級編」日本情報処理検定協会編 検定試験を受験する方はできる限り購入してください。				パソコン操作に慣れていることが前提ですが、複雑な操作は多くありませんので誰でも受講可能です。今後、「ホームページ実践」の履修、またはHP作成検定1級取得を目指す人はぜひ履修をしてください。					

科目名	日本語入門（異文化理解基礎）		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング		研究室	E-15
担当者	中村 純子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件	【外国人留学生限定科目】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
大学で学ぶためには、講義を理解し、教科書、参考文献を読み、レポートを作成する能力が必要です。本講義は教科書、参考文献を読むための読解力、レポート作成のための基礎を学びます。まず、論理的な文章に触れ、読解力を養います。それとともにレポートの文体、論理的な文章構成、論理的な表現を学びます。最後に学んだことをもとにテーマを決めて、レポートを作成します。										
<b>学修到達目標</b>										
論理的な文章の読解、レポートの作成ができるようになることが到達目標です。そのために語彙、表現の幅を広げ、文章の構成、段落の構成に配慮できるようになることを目指します。また、学生同士でレポートをチェックすることで、互いの意見を理解し、自分の意見を表明できるようになることが目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
読解に必要な技能、表現などを演習形式で学んでいきます。さらに、レポートを書くために必要な文体、構成、表現について講義をし、実際に学んだことを基にレポートを作成してもらいます。作成後、互いの文を評価し合い、フィードバックを受けます。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	読解：語のまとめり 作文：表記の仕方 作文「国の有名人」	読解のストラテジーとして、語を意味のまとめりでもとらえる観点を学びます。作文では、縦書き、横書き、文体と書き言葉について学び、実際に「国の有名人」について作文を書いてもらいます。				文体、書き言葉に注意し、作文を書く(2時間)				
2	読解：語のまとめり復習 作文：段落の構成	読解は前回と別の文を使い、語のまとめりでもとらえるエクササイズをします。また、作文では段落の構成について学びます。中心文、支持文について説明します。				「使役」について復習をし、教科書のP8～15までを読んで、予習をする(2時間)				
3	読解：使役 作文：助詞相当語 作文「国の有名人」	読解は使役、使役受身、授受表現に注意し、「する」側、「される」側の関係をつかむストラテジーについて学びます。作文は助詞相当語について学びます。作文の合評会を行い、フィードバックを受けます。				使役、使役受身、授受表現を含んだ他の文の読解をする(2時間)				
4	読解：使役復習 作文：引用表現	「する」側、「される」側の関係をつかむストラテジーを使って、読解練習をします。作文は「引用表現」について学びます。最後に引用表現文型を使って「各国の国民性」についての作文を書きます。				「各国の国民性」についての作文を完成させる。小テストに備え、復習をする(2時間)				
5	読解：文の構造 小テスト	読解では文の修飾関係を正しく理解するストラテジーについて説明します。さらに今までの読解、作文の書き方について小テストを行い、フィードバックをします。				小テストの結果のフィードバックをもとに理解できていない点を復習する(2時間)				
6	読解：文の構造復習 作文：間接疑問 作文「日本人の不思議」	読解は文の構造の復習をします。作文は間接疑問文について作り方を確認したあと、その文を使って、作文「日本人の不思議」について書いてもらいます。「各国の国民性」のフィードバックをします。				作文「各国の国民性」の清書。作文「日本人の不思議」を完成させる(2時間)				
7	読解：前件と後件 作文：接続表現	読解は前件と後件の関係をつかむことを学びます。作文は接続表現について学びます。小テストに備えて、前回までの復習をします。				小テストに備えて該当箇所を復習する(2時間)				
8	読解：前件と後件の復習 作文：「日本人の不思議」合評会、小テスト	読解は前件と後件の復習を行います。作文は「日本人の不思議」の合評会とフィードバックです。また読解と作文の小テストを行います。				小テスト結果フィードバック、理解できていない点を復習する。作文の清書をする(2時間)				
9	読解：指示詞 作文：レポート作成 レポート文を読む	読解は指示詞のさすものを見つけるストラテジーを身につけます。作文は調査をもとにしたレポート作成の準備をします。まず、参考になるレポート文の読解をし、到達目標をつかみます。				インターネット、図書館を利用して、レポートのテーマを考える(2時間)				
10	読解：指示詞復習 作文：資料の引用	読解は指示詞の復習を行います。作文は資料の引用の仕方について、説明します。また、参考文献の書き方についても学んでもらいます。				インターネット、図書館を利用して、レポートのテーマを考える(2時間)				
11	読解：省略 作文：レポートのテーマ決定・構成	読解は省略されているものはなにかを見つけるストラテジーを学びます。作文はレポートのテーマの決定、構成を練ります。図表の書き方も学びます。				レポートのテーマについて図書館、インターネットを利用し、調査する(2時間)				
12	読解：「省略されているもの」復習 作文：文献調査	読解は省略されているものはなにかを見つけるストラテジーの復習をします。作文は仮アウトラインを作ります。仮説も立てます。				レポートのテーマについて、調査する。レポート下書きをする(2時間)				
13	読解：関連のある言葉 作文：レポート下書チェック	読解は関連のある言葉を見つけるストラテジーを学びます。作文はレポートの下書きをして、チェックを受けます。				レポートを執筆する(2時間)				
14	読解：関連ある言葉復習 作文：レポート校正	読解は関連ある言葉を見つけるストラテジーの復習をします。作文はレポートの校正を行います。				レポートを完成させる(2時間)				
15	レポート合評会	レポートの合評会を行い、学生同士の作文から様々な視点を学びます。フィードバックを受けて、さらに校正を行います。				レポートを清書する(2時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「留学生の日本語 作文編」アカデミック・ジャパニーズ研究会編著（アルク） ISBN:4-7574-0500-6（別途、指示します。） 「留学生のための読解トレーニング」石黒圭他著（凡人社） ISBN:978-4-89358-780-0（別途、指示します。）				受講態度：15% 小テスト：25% 課題：60% 受講態度(合評会などでの発言回数と内容) S:適切な表現で論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、適切かつ正確に伝えられる。A:書き言葉で論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、適切に伝えられる。B:ほぼ適切な表現である程度論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、ほぼ適切に伝えられる。C:ある程度論理的な文章が書ける。自他の文章に批判的な目を持ち、伝えられる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
「留学生のための論理的文章の書き方」二通信子著（スリーエーネットワーク） ISBN：978-4-88319-257-1				作文は時間外にやらなければならないことが多いです。講義計画に沿って準備してきてください。質問はオフィスアワーに対応します。						

科目名	日本語応用(異文化理解応用)		学年学期	1年後期	単位数	1	ナパリング		研究室	E-15
担当者	中村 純子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件	【外国人留学生限定科目】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
本授業は、大学のテキスト、参考文献を理解するための読解力を養うことと、場面に合わせた文章を作成することを扱います。具体的には、手紙文、スピーチ原稿、自身および母国の状況をテーマにした作文を扱い、最後に社会問題に関するレポートを作成をします。また、必要な語彙、表現、文法なども学んでいきます。										
<b>学修到達目標</b>										
場面に合わせた適切な文章を作成することができるようになることが目標です。そのためには、文章の目的に合わせて、適する語彙、表現の選択のほか、文体、構成にも配慮できるようになることを目指します。また、互いの作文をチェックすること、ディスカッションを通して、様々な視点を学ぶこと、自分の意見を表明できるようになることを目標とします。										
<b>授業の進め方</b>										
読解と作文を行います。読解は読解のためのストラテジーを学んでいきます。作文は実際に触れながら、様々な文章の特徴を理解してもらい、その特徴を踏まえ、様々な文章を作成してもらいます。作成後、学生同士、フィードバックも行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 読解：筆者の意見 作文：はがきの書き方	授業の目的、概要、評価の仕方を説明します。読解では文末に注意し、筆者の意見を見抜くストラテジーを学びます。作文では、eメール、はがきの書き方について学び、実際に書く練習をします。				実際にeメールを教員に出す。また、はがきは実際に書き、投函する(2時間)				
2	読解：「筆者の意見」復習 作文：手紙文の書き方	読解は筆者の意見を見抜くストラテジーについて復習をします。作文は手紙文の書き方を学び、実際に書く練習をします				手紙文の下書きをしてくる(2時間)				
3	読解：筆者の立場 作文：スピーチ原稿	読解は筆者の立場を見分けるストラテジーを学びます。作文は過去の留学生の書いたスピーチ原稿を参考にし、ブレインストーミングをします。				スピーチのテーマを考え、下書きをする(2時間)				
4	読解：「筆者の立場」復習 作文：スピーチ原稿の発表の仕方	読解は筆者の立場を見分けるストラテジーの復習をします。作文はスピーチ原稿の下書きをチェックし、フィードバックをします。よいスピーチとは何かを考えます。				スピーチ原稿の清書、スピーチの練習をする(2時間)				
5	読解：大切なことのサイン 作文：スピーチ発表会	読解は大切なことのサインをつかむストラテジーを学びます。スピーチの発表をし、他学生、教員からフィードバックを得ます。				小テストに備え、復習をする(2時間)				
6	読解：「大切なことのサイン」復習 作文：アジア賞原稿構成	読解は「大切なことのサイン」の復習をします。作文はアジア賞に向けて、テーマを考え、構成を練ります。前回のアジア賞応募の原稿を読み、到達目標を把握します。				アジア賞の応募原稿の下書きを書く(2時間)				
7	読解：速読 作文：アジア賞応募原稿作成	読解は速読のストラテジーを学びます。作文は、作文評価の観点の説明を受けたのち、アジア賞応募原稿の下書きを学生同士、チェックします。				アジア賞応募原稿の清書をする(2時間)				
8	読解：「速読」復習 作文：アジア賞応募原稿完成、合評会	読解は速読の復習、作文はアジア賞原稿の合評会を行い、学生同士、互いの考え方を理解します。				アジア賞応募原稿校正をする(2時間)				
9	読解：話題を見抜く 作文：調査をしてレポートを書く	読解は文章の話題を見抜くストラテジーを身につけます。作文は社会問題もとにしたレポートの作成をします。テーマ決定のためのブレインストーミングを行います。				インターネット、図書館などを利用して、レポートのテーマを考える(2時間)				
10	読解：「文章の話題を見抜く」復習 作文：仮アウトライン	読解は「文章の話題を見抜く」ストラテジーの復習をします。作文はレポートのテーマ、構成を決め、仮アウトラインを作成します。				小テストのための復習をする。レポートのテーマについて調べる(2時間)				
11	小テスト 読解：ストーリーを読む	小テストをします。読解はストーリーを読むためのストラテジーを学びます。作文は仮アウトラインにのって、下書きをします。				レポートの下書きを完成させる(2時間)				
12	読解：「ストーリーを読む」復習 作文：賀状の書き方	読解は「ストーリーを読む」の復習をします。作文は賀状の書き方について学びます。				レポートの下書きを完成させる(2時間)				
13	読解：読み間違いを見つける 作文：下書きチェック	読解は読み間違いを見つけるストラテジーを学びます。作文はレポートの下書きを学生同士観点に沿って、チェックし、フィードバックを得ます。				フィードバックをもとにレポートの校正、清書をする(2時間)				
14	読解「読み間違いを見つける」復習 作文：レポート合評会	読解は「読み間違いを見つける」ストラテジーの復習をします。作文はレポート合評会を行い、学生同士、互いの考え方を理解し、ディスカッションを行います。				定期試験に備え、復習をする(2時間)				
15	総復習 作文：合評会	定期試験に備え、総復習をします。作文はレポートの合評会の続きを行い、学生同士、考え方を理解しディスカッションを行います。				定期試験に備え、復習をする(2時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「留学生のための読解トレーニング」 石黒圭著(凡人社) ISBN:978-4-89358-780-0(別途、指示します。) 日本語入門と同じ教科書です。				受講態度：15% 小テスト：20% 課題：45% 定期試験：20% 受講態度(合評会などでの発言回数と内容)S:場面に合わせた文章を適切、かつ正確に作成できる。自分の意見を適切かつ正確に表明できる。A:場面に合わせた文章を適切に作成できる。自分の意見を適切に表明できる。B:場面に合わせた文章をほぼ適切に作成できる。自分の意見をほぼ適切に表明できる。C:場面に合わせた文章を作成できる。自分の意見を表明できる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「日本語Eメールの書き方」築晶子他著(ジャパンタイムズ) ISBN:4-7890-1184-4				留学生の物の見方、考え方を表明する場でもありますので日頃より見聞を広げてほしいと思います。質問はオフィスアワーで対応します。						

科目名	日本事情（異文化理解基礎）		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	E-15
担当者	中村 純子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件	【外国人留学生限定科目】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
この授業は日本人学生と留学生が共に学び合い、異文化コミュニケーションを実践する授業です。地域のグローバル化に伴って、異文化の人との円滑なコミュニケーション力の養成は重要な課題となっています。この授業では、理論として異文化コミュニケーションの特徴、異文化コミュニケーションに対する態度を学び、さらにトレーニング、実際の異文化交流を通して、異文化に対する意識の変革を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
この授業では、異文化コミュニケーションの特徴、異文化コミュニケーションに対する態度を学び、実際に異文化の人との円滑なコミュニケーションをとれるようになることが目的です。さらに留学生と日本人がテーマに沿ってディスカッションをし、互いの意識改革を行い、多文化共生社会の礎を築くことが目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
講義形式で異文化コミュニケーションに関する理論を説明します。その理論をもとに様々な事例を取り上げ、日本人学生と留学生がディスカッションをし、互いの考え方、価値観、文化が理解できるようにします。また、国際交流活動に参加してもらいます。										
<b>授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 異文化を理解する	授業の目的、概要、評価の仕方を説明します。異文化コミュニケーションとは何かを考えます。				身近にあった異文化コミュニケーションの経験をレポートにまとめる(2時間)				
2	異文化体験発表 新しい常識の発見	異文化体験を発表し、異文化が身近であることを理解します。異文化の人と常識が違うことを様々な例を用いて説明します。自分の価値観を絶対正しいと思わない態度を身につけます。				自分の体験で、異文化でなくても、常識の通じなかった経験をレポートにまとめる(2時間)				
3	常識が通じなかった体験発表 ステレオタイプ	常識の通じないというのは異文化だけではないことを理解します。ステレオタイプの定義、要因、そして自らのステレオタイプを考えます。さらに自分、自分の国がどう見られているかを考えます。				世界の様々な国のステレオタイプを調べて、レポートにまとめる(2時間)				
4	ステレオタイプについての発表 文化とコミュニケーション	ステレオタイプについて発表を行い、ステレオタイプの弊害について考えます。文化とコミュニケーションについて考え、誤解を受けるメカニズムを考えます。				誤解を受けた経験を客観的に振り返り、その要因を分析し、レポートにまとめる(2時間)				
5	誤解に関するレポート発表 コミュニケーションスタイル - 誘い方と断り方	人間がコミュニケーションをとるとき、異文化ならずとも誤解がおこることをメカニズム的に理解します。さらに、コミュニケーションスタイルの違う文化では誤解が起こりやすいことを学びます。				誘い方と断り方の自分のコミュニケーションスタイルについて、分析的に考え、まとめる(2時間)				
6	「誘い方と断り方」発表 コミュニケーションスタイル - 謝罪と感謝	自分の誘い方と断り方のコミュニケーションスタイルを客観的に知る。謝罪と感謝のコミュニケーションスタイルの文化による相違について考える。				コミュニケーションスタイルが異なるとどんな摩擦が起きやすいかをレポートにまとめる(2時間)。				
7	松本国際ふるさと祭り 「こいこい松本」への参加準備	「こいこい松本」の目的、概要を説明します。松本の外国籍住民についての理解を深め、自分なりのスタッフ参加の目的を決めます。				スタッフ会議も含め当日スタッフとして参加する。参加後、レポートを書く(16時間)				
8	「こいこい松本」に参加して学んだことを発表	「こいこい松本」に参加しての自分の目的に合わせた成果を発表します。発表の後、ディスカッションをします。				ディスカッションの内容も含め、レポートをまとめ直す(4時間)				
9	非言語コミュニケーション - タッチング・空間距離	非言語コミュニケーションとは何か。非言語の文化的影響を説明します。本授業ではタッチング、空間距離の文化的差異を取り上げます。				他者を観察し、非言語を使ったコミュニケーションの実例をレポートにまとめる(4時間)				
10	非言語コミュニケーション - 表情・アイコンタクト・ジェスチャー	非言語コミュニケーションの表情、アイコンタクト、ジェスチャーを取り上げ、文化的差異について説明します。最後に非言語コミュニケーションが摩擦を生む例について考えていきます。				非言語コミュニケーションを分類し、摩擦の多いタイプは何かをレポートにまとめる(4時間)				
11	多文化共生の意義と課題	多文化共生の意義、課題を考えます。まず、カナダ、日本の実例について紹介します。課題についてディスカッションをします。				多文化共生の意義と課題について調べてレポートにまとめる(4時間)				
12	多文化共生の意義と課題 - 発表	多文化共生の意義、課題について調べてきたことを発表します。お互いの発表を聞いて、ディスカッションをします。				外国人(異文化の出身者)にインタビューする。テーマを考える(4時間)				
13	外国人にインタビュー	学習してきたことをもとに自分でテーマを決めて、外国人にインタビューします。本授業ではテーマについて理解を深め、調査項目を決定します。				仮調査票を完成させる(4時間)				
14	外国人にインタビュー - パイロット調査	調査項目をもとにパイロット調査を行います。学生同士質問をし合い、調査項目を見直します。				調査票を完成させ、調査を行い、PPTでスライドを作る(4時間)				
15	発表原稿チェック 発表シミュレーション	お互いに発表原稿のチェックをします。よい発表の観点を説明し、シミュレーションを行います。				シミュレーションでのフィードバックをもとに発表原稿を完成させ、発表練習をする(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「異文化コミュニケーション・ワークブック」矢代京子他著(三修社) ISBN:978-4-384-01851-6(別途、指示します。)				受講態度:30% レポート:40% 発表30% 受講態度(発言回数と内容)S:異文化コミュニケーションの特徴を深く理解し、異文化の人と円滑なコミュニケーションがとれる。A:異文化コミュニケーションの特徴を理解し、異文化の人と円滑なコミュニケーションがとれる。B:異文化コミュニケーションの特徴をほぼ理解し、異文化の人とのコミュニケーションがとれる。C:異文化コミュニケーションの特徴をある程度理解し、異文化の人とコミュニケーションができる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「異文化理解入門」原沢伊都夫著(研究社) ISBN:978-4-327-37734-2				異文化の人と交流をして互いの価値観を知り、理解できるようにしてください。質問はオフィスアワーで対応します。						

科目名	日本事情（異文化理解応用）		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	E-15
担当者	中村 純子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件	【外国人留学生限定科目】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
地域のグローバル化にともない、日本の事情を客観的に知ること、さらにそれを他に伝えることが必要となっています。この授業はまず日本を大きく3つの地域に分け、その文化、歴史、宗教等を学んでいきます。そして、地域ごとに自分が興味を持ったテーマを見つけ、発表します。発表は3回行います。留学生と日本人学生がともに日本事情について学ぶことにより、互いの文化、歴史、宗教等を比較し、日本事情の特徴に対する理解を深めます。										
学修到達目標										
日本の事情を知り、さらにそれを他に伝えられるようになることを目標とします。また、留学生の母国との比較により、それぞれの文化に対する理解を深めることも目標とします。また、発表のスキルを学ぶことも目標です。										
授業の進め方										
授業の前半は講義形式で、地域ごとの文化、歴史、宗教等を学びます。後半は学生がテーマを選び、発表します。その内容について学生同士質問したり、話し合ったりしてもらいます。最後に発表のコメントを書き、提出します。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 日本の地理 北部（北海道）について	授業の目的、授業概要、授業評価について説明を受けます。日本の地理の概要をつかんだ後に、北海道について学びます。北海道は主にアイヌの歴史について学びます。				復習及び発表準備（2時間）				
2	北部（岩手県）について	柳田國男の「遠野物語」を中心に学びます。日本の民俗学について理解を深めます。方言についても考えます。				復習及び発表準備（4時間）				
3	北部（仙台、奥の細道）について	東北の3大祭りについて学びます。さらに俳句について学び、「奥の細道」について理解を深めます。また句会の準備をします。				俳句を実際に作る。 復習及び発表準備（4時間）				
4	句会 北部（福島・茨城）について	句会を体験します。さらに東日本大震災について学びます。また、白虎隊、日光東照宮についてそれぞれの歴史についても理解を深めます。				発表準備まとめ。北部小テスト準備（6時間）				
5	中部（東京・富士山）について 学生発表 小テスト（北部）	東京、下町文化、富士山とそこから生まれた芸術について、学びます。東北地方に関する小テストを受け、知識を定着させます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。				発表準備（2時間）				
6	中部（信州）について 学生の発表	桜と日本人の美意識について学びます。また、江戸時代の人々の暮らしについて絵島事件を通して学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。				日本人の美意識に対する本を読み、レポートを書く（4時間）				
7	中部（奈良、京都） 学生の発表	奈良時代、平安時代を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。				復習及び発表準備（4時間）				
8	中部（滋賀、大阪） 学生の発表	戦国時代を中心に学びます。また、茶道の概要、精神についても学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。				発表準備 茶道の歴史と茶掛けを調べる。（4時間）				
9	茶道体験	茶道を体験します。その際茶道の精神がどのように実際に活かされているかを探ります。				茶道体験をレポートにまとめる。 発表準備 小テスト準備（6時間）				
10	南部（島根県出雲・松江）について 小テスト（中部）	神話、怪談などを中心に学びます。また、中部地方について知識定着のための小テストを行います。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。				神話、怪談の中から、好きなものを選び、あらすじをまとめる。（4時間）				
11	南部（岡山・広島）について 学生の発表	日本の城、および安芸の宮島を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。				復習及び発表準備（4時間）				
12	南部（四国）について 学生の発表	坂本竜馬、正岡子規を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。				復習及び発表準備（4時間）				
13	南部（福岡・長崎・大分）について 学生の発表	原爆、鎖国、温泉を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。				復習及び発表準備（4時間）				
14	南部（熊本・鹿児島）について 学生の発表	熊本、鹿児島島の自然、歴史を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。				復習及び発表準備（4時間）				
15	沖縄について 学生の発表	戦争、自然、歴史を中心に学びます。発表を行い、その発表のテーマについてディスカッションをします。				小テスト（南部）準備及び発表準備（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
(講義にて配布します。) パワーポイントによる資料を配布				受講態度：10% レポート：20% 小テスト：20% 発表50% S:授業内容の高度な理解の上に立ち、自らテーマを発見、探求し、他に伝えることに優れている。A:授業内容を理解し、自らテーマを発見、探求し、他に伝えることができる。B:授業内容をほぼ理解し、テーマにそって探求し、他に伝えることができる。C:授業内容の60%程度を理解し、テーマについて他に伝えることができる。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「日本人と日本文化」司馬遼太郎 ドナルド・キーン著（中公新書 285） ISBN：4-12-100285-7				日本人学生、留学生が互いの国の事情を積極的し合うことが必要です。質問はオフィスアワーで対応します。						

科目名	こころと体の健康		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL13101	研究室	S-03
担当者	進藤 政臣・廣田 直子・中島 節子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日1限、金曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
			A	B	C	2017年度～				
		○								
<b>授業概要</b>										
大学生生活を送る上で、また卒業後の社会生活を送る上で、学生自身が自分の心や体について十分な知識を持ち、健康で安全な日常生活を営むことが必要です。そのため、健康日本21の標語にもなっている「1に運動、2に食事、しっかり禁煙、5にクスリ」のそれぞれに対応して、専門的な視点からその基礎的知識を学び、自らの生活に結びつけて実践し、健康で安全な学生生活が送れることを目的とします。										
<b>学修到達目標</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な生活を送るために必要な運動、栄養、休養の必要性について理解し、実践できる。</li> <li>・生活習慣病の発症について理解し、予防策を説明することができる。</li> <li>・安全な生活を送るために必要な知識と技術を説明することができる。</li> </ul>										
<b>授業の進め方</b>										
各専門分野の教員がオムニバス形式で進めます。講義、演習を含めて実施します。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション 健康とは	講義の進め方のオリエンテーションを行います。健康の概念について学びます。健康日本21の取り組みや課題を学びます。				健康の概念について予習復習する。（4時間）				
2	飲酒、喫煙について がんの発症と予防	飲酒、喫煙のからだへの影響について学び、がんなどの病気との関連について学びます。				飲酒、喫煙、がんについて予習復習する。（4時間）				
3	生活習慣に関連する病気	生活習慣と関連の深い高血圧、高脂血症について、疾病の症状や要因、予防方法、治療方法について学びます。				生活習慣病について予習復習する。（4時間）				
4	生活習慣に関連する病気	生活習慣と関連の深い疾病について学びます。糖尿病、肥満など異常の早期発見のための健康診断の必要性や項目について学びます。				健康診断や検査について予習復習する。（4時間）				
5	メンタルヘルス	代表的な精神疾患の特徴について学び、それらの対応について学びます。				精神疾患について予習復習する。（4時間）				
6	メンタルヘルス	現代社会の精神的な課題やストレスへの対応などを学び、予防と相談方法について学びます。				メンタルヘルスについて予習復習する。（4時間）				
7	栄養・食生活	栄養についての基礎知識を学び、健康的な食生活について考えます。				栄養・食生活について予習復習する。（4時間）				
8	健康と食生活	食生活と疾病との関連を学び、食事についての現代的な課題について解決策を考えます。				食生活と疾病についてレポートを作成する。（4時間）				
9	健康と食生活 休養	健康的な食生活について考えます。健康づくりのための休養指針について学び、健康づくりのための休養について考えます。				休養について予習、復習する。（4時間）				
10	健康づくりのためのレクリエーション	積極的な休養の方法を学び、レクリエーション活動を行います。				レクリエーションについて予習復習する。（4時間）				
11	健康づくりと運動	運動と健康の関連について学びます。				運動と健康との関連について予習復習する。（4時間）				
12	健康づくりと運動の実際	運動についての課題と対応策を考えます。健康づくりのための運動を行います。				運動と健康についてのレポートを作成する。（4時間）				
13	安全と救急法について	けがの予防と応急手当について学びます。救命救急法について学び、演習を行います。				けがの予防と応急手当、救急法について予習復習をする。（4時間）				
14	生と性について	生と性について考えます。性の多様性LGBT、妊娠、出産について学びます。				生と性について予習復習する。（4時間）				
15	感染症と予防について	感染症と感染予防について学びます。				感染症について予習復習する。（4時間）				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
必要な資料はその都度配布します。		定期試験：100% S：授業内容を高度に理解し、自己の健康課題を解決する方法に応用することができる。 A：授業内容を理解し、自己の健康課題を明確にし、解決する方法を見出すことができる。 B：授業内容のおおよそを理解し、自己の健康課題を明確にすることができる。 C：授業内容の60%は理解でき、健康の重要性を説明できる。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>								
「大学生の健康ナビ キャンパスライフの健康管理 2016」山本真由美著（岐阜新聞社） ISBN：978-4877972240		大学生生活を健康で安全に送る基礎を学び、実践に結びつけられるように努力してください。								

科目名	哲学			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	UL23102	研究室	非常勤
担当者	護山 真也			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
			A	B	C						
<b>授業概要</b>											
私たちの常識的な世界の見方に対して、一歩ひいたところから、その価値を疑い、批判的な考察をくわえることで、その真価を見極めていくことが「哲学」の実践です。そのような哲学は、古今東西、さまざまな場所、さまざまな時代で行われてきました。この授業では、西洋哲学のみならず、東洋哲学にも目を配り、それらに共通するテーマを設定し、それに対する異なるアプローチの仕方を学んでいきます。											
<b>学修到達目標</b>											
哲学・倫理学・宗教学で問われる諸問題を理解し、それらに対して批判的に考えることのできる力を身につけている。											
<b>授業の進め方</b>											
プリントを用いて講義形式で進めます。映像資料を利用する回もあります。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	哲学への招待			授業全体の見取り図を示し、授業のガイダンスを行います。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
2	プラトンの愛			プラトンの『饗宴』を素材として、ギリシア哲学の特質について学びます。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
3	キリスト教の愛			ユダヤ教・キリスト教の基本的な考え方を学びます。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
4	仏教の慈悲			ブッダの思想と大乘仏教の菩薩道を中心に、仏教の慈悲の考え方について学びます。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
5	愛を哲学する			フロムの『愛するということ』を通して、現代における愛の問題について考えます。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
6	自己をめぐる哲学			わたしとは何か、それがなぜ哲学の問題になるのか、ということをも 鷲田清一『じぶん・この不思議な問題』を参照しながら、学習します。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
7	デカルトと近代的自我			デカルトの『省察』を素材として、西洋近代思想の誕生の背景について学びます。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
8	反デカルト主義の哲学			デカルト以降の哲学、特にニーチェが展開した反デカルト主義の議論を学びます。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
9	人格の同一性について			パーフィットの『理由と人格』を参照しながら、人格の同一性の問題について学びます。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
10	日本哲学の可能性			西田幾多郎の思想について学びます。また、この回で、自己をめぐる哲学の問題をまとめます。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
11	心と世界(1)			『マトリックス』的世界について学びます。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
12	心と世界(2)			カントの認識論とその背景について学びます				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
13	心世界(3)			インド仏教の唯識思想について学びます。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
14	心と世界(4)			観念論を批判する議論について学びます。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
15	哲学の再構築			授業のまとめを行います。				授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)			
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>						
授業中にプリントを配布します。					小テスト：50%、レポート：50% 方法については初回に指示。(1)与えられた哲学的問題を正しく理解し、(2)自らの考えを、(3)論理的に、(4)独自の考察を加えて、表現することができる。(1)のみはC、(2)まででB、(3)まででA、すべて満たせばS評価とする。						
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「愛するということ」エーリッヒ・フロム著(紀伊国屋書店) 「じぶん・この不思議な存在」鷲田清一著(講談社) 「観念論の教室」富田泰彦著(筑摩書房)					今学期は休講とそれに伴う補講が3~4回予定されています。初回に日程を伝えます。						

科目名	生命倫理		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	UL23103	研究室	W-03
担当者	福島 智子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
生命をめぐる倫理(道徳・規範)的諸問題をさまざまな視点から考察し、医療領域における今日的かつ具体的問題に対処できる思考力を養います。生命倫理学の歴史的背景と今日の課題について理解し、具体的な倫理的問題を包括的な観点から把握することを目標とします。1960年代以降、医療領域において生じた倫理的諸問題を個別に取り上げ考察します。										
<b>学修到達目標</b>										
生命科学、医療領域における具体的な倫理的問題に、一個人として対峙し、個別の倫理的判断を導き出せるようになること。										
<b>授業の進め方</b>										
授業内容に応じてグループ報告、グループ討論を実施します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	生命倫理学の成立背景	生命倫理学の歴史と現状について概説します。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
2	健康と病気	健康と病気、正常と異常、それぞれの概念について学びます。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
3	治療と人体実験	医療の目的と人体実験の歴史について学びます。				事前配布資料を読んで下調べをする。(4時間)				
4	Quality of LifeとSanctity of Life	Quality of Life(生命の質)とSanctity of Life(生命の神聖性)について学びます。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
5	生殖技術	生殖技術の発展とそれに伴う倫理的問題について学びます。				授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
6	脳死と臓器移植	脳死と臓器移植の関係について、現状と課題について学びます。				授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
7	安楽死と尊厳死	安楽死・尊厳死と治療停止の現状と課題について学びます。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
8	ケアの倫理	医療福祉分野におけるケアの倫理について学びます。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
9	医師 患者関係	医師-患者関係の変容と今日的課題について学びます。				授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
10	インフォームド・コンセントと情報開示	インフォームド・コンセントの歴史と医療領域における情報開示について概説します。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
11	医療資源の配分	医療資源の配分における公正さと正義について考えます。				事前配布資料を読み、下調べをする。(4時間)				
12	パーソン論	パーソン(人格)とは何かについて学びます。				配布資料の要点をまとめる。(4時間)				
13	老人介護と世代間倫理	少子高齢化と介護問題について概説します。				授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
14	生命倫理学の比較考察	諸外国と日本における生命倫理学の比較をします。				配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
15	まとめ	講義全体のまとめ。				総復習。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
学生が選択するグループ討論のテーマによって、使用テキストは異なりますので個別に指定します。				受講態度:20% 出席レポート:20% レポート:30% 受講態度にはグループ討論への参加状況が含まれます。また、上記以外にグループ報告30%で評価します。 S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「生命倫理とは何か」市野川容孝編(平凡社) 「生命倫理学を学ぶ人のために」加藤尚武・加茂直樹編(世界思想社)				ひとつひとつの事例について、学生自身考えることが要求されます。毎回の講義終了前に、次回講義の概要について説明します。予習の指示がある場合は、必ず予習をしてから講義に臨んでください。						

科目名	文学		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリノ	UL33104	研究室	
担当者	中西 満義		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
旅の文学(俳諧紀行文学)をとおして、古人における旅の意義を考察していきます。古典文学の世界に親しみつつ、その豊饒な表現世界を理解することを目標とします。松尾芭蕉『おくのほそ道』を取り上げ、松尾芭蕉の人と文学についての考察の後、序章・旅立から終着地大垣まで、主要な章段を講読していきます。										
学修到達目標										
古文を読解することができること、古典文学の表現世界を理解することができること。松尾芭蕉の思念、思想を汲み取ることができること。										
授業の進め方										
松尾芭蕉、ならびに俳諧にたいする理解を得たところで、『おくのほそ道』のすぐれた文学表現を鑑賞していきます。全章を講読することはできませんので、適宜割愛しつつ、主要な箇所を鑑賞していきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	文学の意義	講義ガイダンス(世界遺産の文学)『おくのほそ道』を知る					様々な文学に触れ、文学的関心の発掘をしておく(2時間)。従前の古典学習を振り返る(2時間)。			
2	旅と文学	紀行文学の系譜 旅の文学について理解する					授業での解説を振り返り、古典の旅を理解する(2時間)。「更科紀行」の知識を得る(2時間)。			
3	文学史の中の俳諧	俳諧についてジャンルを理解する					授業での解説を振り返り、日本の詩歌文学の特質を理解する(4時間)。			
4	松尾芭蕉の作品	松尾芭蕉の旅と文学 芭蕉における旅の意義					授業での解説を振り返り、芭蕉の俳諧紀行文の理解をする(4時間)。			
5	『おくのほそ道』講読	序章、旅立ち 構成を理解する					冒頭文の暗唱と鑑賞を試みる(2時間)。日光についての知識を得る(2時間)。			
6	『おくのほそ道』講読	日光 章段の構成を理解					文章構成と世界遺産に対する理解を深める(4時間)。			
7	『おくのほそ道』講読	那須野、黒羽、雲巖寺 下野の伝承を知る					授業での解説を振り返り、地域伝承に対する理解を深める(4時間)。			
8	『おくのほそ道』講読	殺生石、遊行柳、白川の関 陸奥への玄関口					授業での解説を振り返り、文体の理解を深める(2時間)。東北地方について理解する(2時間)。			
9	『おくのほそ道』講読	須賀川～武隈の松 陸奥の歌枕を理解する					授業での解説を振り返り、陸奥の歌枕を調べる(4時間)。			
10	『おくのほそ道』講読	宮城野、壺の碑 芭蕉の行動を考える					授業での解説を振り返り、「風流」を理解する(2時間)。日本三景について知る(2時間)。			
11	『おくのほそ道』講読	末の松山、塩竈、松島 風景描写を学ぶ					授業での解説を振り返り、旅の目的の再確認をする(2時間)。「歌枕」についての復習(2時間)。			
12	『おくのほそ道』講読	瑞巖寺、石の巻 表現の仕方を学ぶ					「松島」から「平泉」への接続を理解する(2時間)。源義経について知る(2時間)。			
13	『おくのほそ道』講読	平泉 高館(義経の最期)・中尊寺					世界遺産について調べ、理解を深める(課題・4時間)。			
14	『おくのほそ道』講読	象潟 風景描写を理解する					「松島」との比較をしておく(2時間)。風景描写を学ぶ(2時間)。			
15	『おくのほそ道』講読	越後、北陸道～大垣(まとめにかえて)					後半、各章段のテーマを理解する(2時間)。全巻通読を試みる(2時間)。			
テキスト		成績評価の方法・基準								
「新版 おくのほそ道」(角川ソフィア文庫) ISBN:4-04-401004-8(生協で購入してください。)		課題:20% 定期試験:60% 受講態度:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、対象を追究する研究的姿勢で課題に取り組む。 A:授業内容を理解し、積極的に課題に取り組む。 B:授業内容をおおよそ理解し、課題にも誠実に取り組む。 C:授業内容の過半を理解し、課題にも取り組む。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
特に指定しませんが、公共図書館や附属図書館を活用して参考文献を参照してください。		世界(文化)遺産登録地が二箇所も登場する注目の作品で、「観光」の在り方を考えるにも有効な学習内容だと思います。ほそ道本文は、各自、事前に読んでおくようにしてください。								

科目名	健康管理論		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	S-16
担当者	江原 孝史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日2限		
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
生活習慣病や高齢化などを背景に、健康志向の考え方が社会に広まっています。このような時代背景にいったいどんな健康を害する要素が潜んでいるのか?、本科目では講義を行います。「健康ではない状態」を回避するため、または、改善するために何をすべきなのか?についても情報を提供します。										
<b>学修到達目標</b>										
「健康」の概念を理解し、「健康」を害する要因と「健康」を維持するための方法について基礎知識を習得することが目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
指定のテキストを用いて進めますが、テキストには掲載されていない内容も講義内容には含まれます。必要に応じてプリントなどを配布したり、スライドを使って説明します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	社会と健康	健康の定義、概念を理解する。生活習慣と健康との関係や環境が健康に及ぼす影響について理解し、公衆衛生とその歴史について学びます。				テキストの第1章を読んでおく。テキストの練習問題を解く。(4時間)				
2	疫学	疫学の定義と疫学のさまざまな指標、疫学的研究方法について学びます。				テキストの第2章を読んでおく。練習問題を解く。(4時間)				
3	人口統計	統計の基本事項について学び、人口統計、国勢調査、平均寿命、健康寿命について学びます。				テキストの第3,4,5章を読んでおく。健康寿命延伸について調べる。(4時間)				
4	健康づくり	日本の健康づくり施策(第一次健康づくり対策からの歴史的意義、運動指針)、食生活関連施策、運動関連施策について学びます。				テキストの第6章を読んでくる。食生活関連の施策とその変遷について調べる。(4時間)				
5	健康管理	健康管理の原則と考え方、健康教育の定義とその方法、その計画と実施、事例について学びます。				テキストの第7章を読んでくる。健康教育の事例を調べる。(4時間)				
6	生活習慣と健康	生活習慣病、メタボリックシンドロームについて学び、特定健診、保健指導について学びます。				テキストの第8章を読んでくる。生活習慣病についてどれか1つ選び調べる。(4時間)				
7	生活習慣病の疫学、予防、健康管理 1	循環器疾患、糖尿病、脂質異常、がんとその予防について学び、運動による予防効果と運動を始める前のメディカルチェックの重要性と検査項目、基準値について学びます。				テキストの第9章を読んでくる。血液検査の脂質異常の項目について調べる。(4時間)				
8	生活習慣病の疫学、予防、健康管理 2	骨粗鬆症、慢性閉塞性肺疾患、ロコモティブシンドロームについて学び、運動による予防効果と運動を始める前のメディカルチェックの重要性と検査項目、基準について学びます。				テキストの第9章を読んでくる。骨粗鬆症の治療法について調べる。(4時間)				
9	地域の保健予防システム	保健所の歴史とその役割、保健師の役割、災害・危機管理対策、感染症法について学びます。				テキストの第10章を読んでくる。感染症法の疾患について調べる。(4時間)				
10	社会保障制度	社会保障の概念、医療制度、福祉制度について学びます。				テキストの第11章を読んでくる。世界の国の社会保障制度について調べる。(4時間)				
11	高齢者の健康管理	高齢者の医療確保に関する法律、健康増進事業、介護保険法と制度、認知症、サルコペニアについて学びます。				テキストの第12章を読んでくる。サルコペニアの予防について調べる。(4時間)				
12	母子の健康管理	母子保健事業、保健指導、児童虐待、子育て支援制度について学びます。				テキストの第13章を読んでくる。児童虐待、いじめについて調べる。(4時間)				
13	学校の健康管理	健康診断と保健指導、学校給食、児童生徒の問題行動について学びます。				テキストの第14章を読んでくる。発達障害について調べる。(4時間)				
14	職場の健康管理	一般健康診断、職業病と特殊健康診断、メンタルヘルスについて学びます。				テキストの第15章を読んでくる。職業病の歴史について調べる。(4時間)				
15	国際保健	地球規模の健康問題、世界の人口問題について学びます。				テキストの第1章を読んでくる。世界と自分の住む地域の人口問題について調べる。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「基礎から学ぶ健康管理概論」柳川 洋、尾島俊之編(南江堂) ISBN:978-4-524-25475-0(生協で購入してください。) 監修 吉米地孝之助				定期試験:80% レポート:20% S:授業内容を高度に理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が特に優れ、定期試験も90点以上。A:授業内容をよく理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が優れ、定期試験が80点以上。B:授業内容を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、実習課題の評価が良く定期試験が70点以上。C:授業の内容を理解し、与えられた課題に取り組み、実習課題の評価が可定期試験が60点以上。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「生活習慣病と健康管理」斎藤征夫、柏原征子、鈴木康夫、谷口いつか著(診断と治療社)				社会人になると、自分の健康は自分で管理しなければなりません。皆さんを取り巻く環境や自分のライフスタイルを客観的に評価してみよう、という気持ちで講義を聞いてください。						

科目名	生涯スポーツ（集团的スポーツ）Aクラス	学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL13106	研究室	S-22
担当者	中島 弘毅	必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	火曜日2限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ（基礎）				
<b>授業概要</b>									
人間にとってスポーツはどのようなものなのでしょうか。スポーツは人間社会におけるひとつの文化です。人間に空気が必要なように、人間が「人間らしい」生活をする上で、スポーツはなくてはならないものであり、健康は自己実現を果たすための基盤であると考えられます。そこで本講義では、アルティメット種目を取り上げます。生涯にわたって健康で、スポーツを楽しむことができるよう、そのための基礎的能力の獲得を目指します。									
<b>学修到達目標</b>									
当該種目を楽しむための基本技術及びルールを学習し、技術向上を目指します。アルティメットにおいては、3種類の投げ方及び取り方のスキルを習得すると共に、ゲームにおける戦術の習得を目指します。これらの種目を通して自らの身体を感じ、知り、より良い身体の使い方を学びます。また、スポーツに親しみ、楽しむ上での基本的態度および能力の習得を目指します。									
<b>授業の進め方</b>									
実技を中心にを行います。各種目の種目特性を知り、それぞれの種目にあった身体の動かし方を身につけるように、分習法から全習法へ、基礎から実践へと展開して行きます。									
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	なぜ、スポーツを行うのか。	ガイダンス 生涯スポーツの意義				スポーツの意義についてレポートにまとめて提出する。			
2	フライングディスクに慣れよう！	バックハndsロー及びキャッチング練習				投動作及び捕球におけるポイントレポートにまとめて提出する。			
3	フォアハンドスローを習得しよう！	バックハndsローの正確性の向上とフォアハンドスローの練習				フォアハンドスロー動作におけるポイントレポートにまとめて提出する。			
4	ショルダーズローを習得しよう！	前者2つのスローイングの正確性の向上及びショルダーズローの習得				ショルダーズローのポイントについてまとめて提出する。			
5	ロングパスの練習とキャッチング	ロングスローの練習とキャッチングにおける動き方の習得				ロングスローのポイントについてまとめて提出する。			
6	ミニゲームを楽しんでみよう。	ゲームの成立において何が重要であるかを確認しよう。				チームワークについて考える			
7	ミニゲームにおける動きについて考える。	ミニゲームによる連携プレーについて考える。				自分の動きについて考える。			
8	ミニゲームの質を高めよう！	ミニゲームを通して戦術について考えよう。				試合に勝つためには、何が必要かをレポートにまとめて提出しよう。			
9	ゲームのルールを確認しよう	アルティメットルールの説明と進行について				ルールについて調べてこよう。			
10	チームにおける個々の能力について把握しよう。	チーム力を知り、チームの課題を明らかにしよう！				自分の強みと弱みについて整理してみよう！			
11	自分達のチームの強みを意識しよう！	チーム対抗戦：自分達のチームの強みについて考える				自分達のチームの特徴について考える			
12	ゲームの戦術について考えよう。	チーム対抗戦：戦術について考える				戦術についてまとめる。			
13	ゲームの質を上げよう。	チーム対抗戦：得点パターンを磨く				自分達のチームにあった得点パターンを考える。			
14	ゲームを楽しんでみよう。	チーム対抗戦：総合練習				勝っても負けても充実感がある試合とはどのような試合かを考えてみよう。			
15	スポーツの必要性について	まとめ				生涯スポーツの持つ意味について考え、まとめてみよう。			
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>							
必要に応じて資料を配布します。		受講態度：60% レポート：20% 実技：10% 出席レポート：10% 受講態度は、積極性・協力性（リーダーシップ、メンバーシップ）・発言、向上心等を授業参加度とともに評価します。							
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>							
「ニュースポーツ事典」北川勇人・（財）日本レクリエーション協会 共編著（遊戯社） 「フライング・ディスクのすすめ」日本フライング・ディスク協会著（ベース		運動着、運動靴を着用することとします。安全に留意し、他者と積極的にコミュニケーションを図り、協力して授業に取り組みしましょう。ルールの事前確認をするとともにスキルについては専門書等で確認をしておきましょう。							

科目名	生涯スポーツ（集团的スポーツ）Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL13106	研究室	S-18
担当者	新井 喜代加		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日5限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ（基礎）					
<b>授業概要</b>										
本授業では、バレーボールを通じてスポーツに親しむ資質を身につけることを目的とします。スポーツに親しむには、なによりスポーツの楽しさを体験することが重要であると考えられます。本授業では、チームごとに「楽しい」という気持ち、感覚、雰囲気、表情等と向かい合いながら、「楽しいバレーボール」を探究します。										
<b>学修到達目標</b>										
(1)バレーボールの基本的技術を習得し、ゲームに活かすことができる (2)チームメイトと協力し、ゲームを展開することができる (3)楽しくゲームを進行するために工夫することができる										
<b>授業の進め方</b>										
基本的に本授業は、チーム単位で「課題の設定 課題を解決する練習方法の決定と実施 ミニゲームの実施 ミニゲームの振り返り 課題の見直しと再設定」というサイクルで進めていきます。(アクティブラーニングの実施)										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらい、授業内容、評価方法、留意事項等について解説し、チーム分けをします				事前：シラバスを読む/事後：本授業のルールと6人制ルールを確認する(1時間)				
2	攻守の基本的技術の習得1	チームごとにパスの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：パスについて調べる/事後：パスをする際の注意点を復習する(1時間)				
3	攻守の基本的技術の習得2	チームごとにサーブの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：サーブについて調べる/事後：サーブをする際の注意点を復習する(1時間)				
4	攻守の基本的技術の習得3	チームごとにレシーブの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：レシーブについて調べる/事後：サーブをする際の注意点を復習する(1時間)				
5	攻守の基本的技術の習得4	チームごとにスパイクの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：スパイクについて調べる/事後：スパイクをする際の注意点を復習する(1時間)				
6	攻守の基本的技術の習得5	チームごとにブロックの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：ブロックについて調べる/事後：ブロックをする際の注意点を復習する(1時間)				
7	基本的なルールの理解と審判技術の習得	6人制ルールとその審判技術の基本を確認し、それを簡易ゲームで実践します				事前：6人制ルールと審判について調べる/事後：審判をする際の注意点を復習する(1時間)				
8	リーグ戦1-1	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてチーム対抗の試合をします				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)				
9	リーグ戦1-2	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを再考する/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)				
10	リーグ戦1-3	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを再考する/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)				
11	基本的技術およびチームプレーの確認	チームごとにリーグ戦1を振り返り、基本的技術およびチームプレーをミニゲームを通して確認します				事前：チームごとに課題を整理する/事後：チームプレーを再確認する(1時間)				
12	リーグ戦2-1	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)				
13	リーグ戦2-2	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)				
14	リーグ戦2-3	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにリーグを振り返る(1時間)				
15	9人制バレーボールの体験	6人制との違いを体感するために9人制バレーボールの試合を実施します				事前：9人制のルールを確認する/事後：これまでを振り返り6人制と9人制の違いを考える(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
特に指定せず、必要に応じて資料を配布します。				出席レポート：60% 実技：20% レポート：20% 評価基準は次の通りです。S:批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、習得した基本的技術を用いて、チームメイトと楽しくゲームを展開することができる/A:探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、習得した基本的技術を用いて、チームメイトとゲームを展開することができる/B:与えられた課題に誠実に取り組み、習得した基本的技術をゲームに活かすことができる/C:与えられた課題に誠実に取り組み、習得した基本的技術を実践することができる						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
特に指定しません。				履修者数を抽選により調整する場合があります、30~40名程度の予定です。						

科目名	生涯スポーツ（集团的スポーツ）Cクラス	学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL13106	研究室	S-15
担当者	山本 薫	必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ（基礎）				
授業概要									
ソフトボールは「打つ」「捕る」「投げる」「走る」といった運動の基本動作が盛り込まれた競技スポーツであり、その手軽さから老若男女問わず学校や職場、地域で盛んに実施されている生涯スポーツでもあります。本授業ではソフトボールの基本的な技術や戦術を概説し、またゲーム中の個々の役割について練習やゲームを通してそれらを習得します。さらに審判の実施方法なども体験します。その他、生涯スポーツとして実施するための展開方法、安全管理について習得します。									
学修到達目標									
ソフトボールにおける基本的技術や戦術の習得およびそのためのドリルを学習し実践できるようになること。 チームメートとの関わりの中で積極的にプレーしチームプレーを身につけること。 生涯スポーツとして行うにあたり、リスク管理ができるようになること。									
授業の進め方									
全15回をソフトボールの実技を行い、前半と後半の大きく2つに分けて前半を基礎的技術の習得とミニゲーム、後半をリーグ戦という構成で展開していきます。雨天時には室内での学習もしくは体力づくりを予定していますので準備してください。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	オリエンテーション	概要・スケジュール説明。場所、道具準備片付け手順確認、種目紹介、未経験者確認。					ソフトボールの映像を見てレポート提出する。		
2	基礎能力測定	グループ分け、基礎体力・能力測定(送捕球、守備力、打力)					ソフトボールの技術についてテキストや参考書等で予習する。		
3	基本練習1	キャッチボール：送球と捕球					送球と捕球の基本についてテキストや参考書等で予習する。		
4	基本練習2	トスバッティング：近・中距離打撃と捕球					ソフトボールの打撃と補給についてテキストや参考書等で予習する。		
5	基本練習3	ロングティーバッティングと守備：打撃と捕球					ソフトボールの打撃と守備についてテキストや参考書等で予習する。		
6	応用練習1、ミニゲーム	シートバッティング：打撃と走塁、守備					ソフトボールの打撃、守備、走塁についてテキストや参考書等で予習する。		
7	応用練習2、ミニゲーム	シートバッティング：打撃と走塁、守備					ソフトボールの打撃、守備、走塁についてテキストや参考書等で予習する。		
8	応用練習3、ミニゲーム	シートバッティング：バント、内外野の連携練習					ソフトボールのバント、守備の連携についてテキストや参考書等で予習する。		
9	実践を通して学ぶ1	ゲームでの実践(1)リーグ戦形式					ソフトボールの試合組み合わせ形式についてテキストや参考書等で予習する。		
10	実践を通して学ぶ2	ゲームでの実践(2)リーグ戦形式					ソフトボールのリーグ戦形式についてテキストや参考書等で予習する。		
11	実践を通して学ぶ3	ゲームでの実践(3)リーグ戦形式					ソフトボールのリーグ戦試合組み合わせ形式についてテキストや参考書等で予習する。		
12	実践を通して学ぶ4	ゲームでの実践(4)リーグ戦形式					ソフトボールのリーグ戦試合組み合わせ形式についてテキストや参考書等で予習する。		
13	実践を通して学ぶ5	ゲームでの実践(5)リーグ戦形式					ソフトボールのリーグ戦試合組み合わせ形式についてテキストや参考書等で予習する。		
14	実践を通して学ぶ6	ゲームでの実践(6)リーグ戦形式					ソフトボールのリーグ戦試合組み合わせ形式についてテキストや参考書等で予習する。		
15	プレー評価、まとめ	自己プレー評価、他者プレー評価、まとめ					前回までの自分のプレー、他者のプレーについて振り返る。		
テキスト					成績評価の方法・基準				
「いちばんわかりやすいソフトボール入門：ワイド版」宇津木妙子著(大泉書店)(別途、指示します。)					受講態度：90% レポート：10% 取り組む姿勢、積極性を評価します。				
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)				
「わかりやすいソフトボールのルール」吉村正著(成美堂出版)					安全管理上、体調が急変した場合は教員へ速やかに伝えること。活動し易い服装、帽子やタオル、飲料などを持参すること。遅刻者はウォーミングアップ不十分で怪我防止のため授業参加を認めない場合もある				

科目名	生涯スポーツ（個人的スポーツ）Aクラス		学年学期	1年後期		単位数	1		ナバリング	UL13107		研究室	S-22		
担当者	中島 弘毅		必修選択	選択		科目種別	講義		オフィスアワー	火曜日2限					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)					履修条件									
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)										
		A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ（展開）										
<b>授業概要</b>															
人間にとってスポーツはどのようなものなのでしょうか。スポーツは人間社会におけるひとつの文化です。人間に空気が必要なように、人間が「人間らしい」生活をする上で、スポーツはなくてはならないものであり、健康は自己実現を果たすための基盤であると考えられます。そこで本講義では、ターゲットバードゴルフ種目を取り上げ、本種目を通して生涯にわたって健康で、スポーツを楽しむことができるよう、そのための基礎的能力の獲得を目指します。															
<b>学修到達目標</b>															
本講義では、当該スポーツ種目を楽しむための基本技術の習得および技術向上を目指します。当該種目を通じて、スポーツを通して自らの身体を感じ、知り、より良い身体の使い方を学びます。また、スポーツに親しみ、楽しむ上での基本的態度および能力の習得を目指します。															
<b>授業の進め方</b>															
実技を中心に行います。当該種目の種目特性を知り、種目にあった身体の動かし方及び技術を身につけるように、分習法から全習法へ、基礎から実践へと展開して行きます。															
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。															
回	テーマ		内容						事前事後学修						
1	スポーツの意義について考えてみよう！		ガイダンス 生涯スポーツの意義						本授業の意義を考え、自らの達成目標を設定しよう。						
2	ターゲットバードゴルフとは？		ターゲットバードゴルフにおけるグリップの握り方とスイングフォームについて						グリップの握り方について調べてこよう。						
3	スイングのポイントについて考えてみよう。		ターゲットバードゴルフにおける軸と支点について						スイング時における軸及び支点についてまとめてみよう。						
4	スイングとボールとの関係について考えて見よう。		ターゲットバードゴルフにおけるスイングプレーンとインパクトについて						クラブの軌道、フェイスの向きとボールの軌道、回転について考えてみよう。						
5	軸、支点とヘッドスピードとの関係について考えて見よう。		ターゲットバードゴルフにおける身体の軸、支点とヘッドスピード関係について考える。						身体の軸、支点とヘッドスピードについてまとめてみよう。						
6	軸、支点と身体の使い方について考える。		軸、支点を生み出す下半身の使い方と身体への意識について考える。						意識することの重要性について考える。						
7	振り幅と距離について考える。		クラブの振り幅とボールの飛距離について考える。						より少ない打数であがるためにはどうしたらよいか考えてみよう！						
8	ビジネスゾーンについて		腰から腰の振り幅におけるスイングの重要性について。スロースイングとフェイスに対する意識と方向性について						スロースイングと意識について考えてみよう。						
9	ラウンドにおける楽しさを感じてみよう。		ラウンドの仕方を学ぼう。ゲームの説明と進行の仕方について。						ルールについてまとめてみよう。						
10	スコアの記入の仕方を学ぼう。		ラウンドをしながらスコアの記入の仕方を学ぼう。						ゴルフと審判について考えてみよう。						
11	ゴルフの特性を考えながらラウンドしてみよう。		ラウンドをしながら、自然とプレーとの関係について考えてみよう。						ゴルフは自然との戦いであると言う意味について考えてみよう。						
12	ゴルフの特性について考えてみよう。		ラウンドをしながら、自分の心の変化とプレーとの関係について考えてみよう。						ゴルフは自分との戦いであると言う意味について考えてみよう。						
13	マナーと楽しさについて考えてみよう。		ラウンドをしながら、ゴルフのマナーがプレイに及ぼす影響とプレイの楽しさについて考えてみよう。						マナーの重要性について考えてみよう。						
14	作戦を立てながらラウンドを楽しもう。		コースマネージメントについて考える。						次を考えることの重要性についてまとめてみよう。						
15	ゴルフの歴史から見た種目特性について考える。		まとめ						ゴルフにおける紳士のスポーツとしての特性と楽しさとの関係について考えてみよう。						
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>												
必要に応じて資料を配布します。			受講態度：60% レポート：20% 実技：10% 出席レポート：10% 受講態度は、積極性・協力性（リーダーシップ、メンバーシップ）・向上心等を授業参加度とともに評価します。												
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>												
「ニュースポーツ事典」北川勇人・（財）日本レクリエーション協会 共編著（遊戯社）			運動着、運動靴を着用することとします。安全に留意し、他者と積極的にコミュニケーションを図り、協力して授業に取り組みましょう。ルールの事前確認をするとともにスキルについては専門書等で確認をしておきましょう。												

科目名	生涯スポーツ（個人的スポーツ）Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL13107	研究室	S-18
担当者	新井 喜代加		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ（展開）					
<b>授業概要</b>										
本授業では、バドミントンを通じてスポーツに親しむ資質を身につけることを目的とします。スポーツに親しむには、なによりスポーツの楽しさを体験することが重要であると考えられます。本授業では、ペア・チームごとに「楽しい」という気持ち、感覚、雰囲気、表情等と向き合いながら、「楽しいバドミントン」を探索します										
<b>学修到達目標</b>										
(1)バドミントンの基本的技術を習得し、ゲームに活かすことができる (2)ペア・チームで協力して、ゲームを展開することができる (3)楽しくゲームを進行するために工夫することができる										
<b>授業の進め方</b>										
基本的に本授業は、ペア・チーム単位で「課題の設定 課題解決のための練習方法の決定と実施 ミニゲームの実施 ミニゲームの振り返り 課題の見直しと再設定」というサイクルで進めていきます。(アクティブラーニングの実施)										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業内容、評価方法、留意事項等について解説し、チーム分けをします				事前：シラバスを読む/事後：バドミントンのルールを確認する(1時間)				
2	攻守の基本的技術の習得1	グループごとにストロークの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：ストロークについて調べる/事後：ストロークをする際の注意点を復習する(1時間)				
3	攻守の基本的技術の習得2	グループごとにサービスの技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：サービスについて調べる/事後：サービスをする際の注意点を復習する(1時間)				
4	攻守の基本的技術の習得3	グループごとにショット(スマッシュ)の技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：スマッシュについて調べる/事後：スマッシュをする際の注意点を復習する(1時間)				
5	攻守の基本的技術の習得4	グループごとにショット(クリアー)の技術の習得方法を考え、それを実践します				事前：クリアーについて調べる/事後：クリアーをする際の注意点を復習する(1時間)				
6	攻守の基本的技術の習得5	グループごとにショット(ドロップ)の技術の習得方法を考え、それを実践します				ドロップについて調べる/事後：ドロップをする際の注意点を復習する(1時間)				
7	基本てきなルールの理解と審判技術の習得	ルールと審判技術の基本を確認し、簡易ゲームで実践します				事前：ルールと審判について調べる/事後：審判をする際の注意点を復習する(1時間)				
8	リーグ戦1-1	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)				
9	リーグ戦1-2	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)				
10	リーグ戦1-3	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとにアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする(1時間)				
11	基本的な技術と戦術の確認	チームごとにリーグ戦1を振り返り、基本的な技術と戦術をミニゲームを通して再確認します				事前：チームごとに課題を整理する/事後：チーム戦術を再確認する(1時間)				
12	リーグ戦2-1	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする				
13	リーグ戦2-2	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする				
14	リーグ戦2-3	これまでの授業で習得した基本的技術および審判技術とリーグ戦1から得た知見を発揮する場としてシングルスやダブルスを組み合わせたチーム対抗の試合を実施します				事前：チームごとアピールポイントを考える/事後：チームごとにゲーム分析をする				
15	レクリエーション	討議により設定した特別ルールのもと試合を実施します				事前：楽しくゲームができる特別ルールを考える/事後：本授業のレポートを作成する				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
特に指定せず、必要に応じて資料を配布します。				出席レポート：60% 実技：20% レポート：20% 評価基準は次の通りです。S:批判的思考に基づく探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、習得した基本的技術を用いて、チームメイトと楽しくゲームを展開することができる/A:探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、習得した基本的技術を用いて、チームメイトとゲームを展開することができる/B:与えられた課題に誠実に取り組み、習得した基本的技術をゲームに活かすことができる/C:与えられた課題に誠実に取り組み、習得した基本的技術を実践することができる						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
特に指定しません。				履修者数を抽選により調整する場合があります。						

科目名	生涯スポーツ（個人的スポーツ）Cクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	UL13107	研究室	非常勤
担当者	寺平 美樹		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-			
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 生涯スポーツ（展開）					
<b>授業概要</b>										
本講義はバドミントンとボクササイズという全く違うスポーツを体験することで、個の運動習慣を生産的に継続できるようにすることを目的とします。										
<b>学修到達目標</b>										
生涯スポーツに結び付けられるよう、仲間と楽しむ。										
<b>授業の進め方</b>										
前半はバドミントン、後半は音楽に合わせてボクササイズを行います。（講義内容は変更する場合があります）										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション ウォーミングアップの重要性	授業時の注意点、講義への向き合い方、進め方の説明。 正しいストレッチの方法を修得します。レクリエーションも行います。				基礎体力がつく運動にはどのようなものがあるか考えてみる。 (1時間)				
2	体づくりレクリエーション バドミントン基礎	ウォーミングアップを兼ね、レクリエーションを楽しみ体づくり。 バドミントンのラリー、サーブ練習。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
3	ストレッチ バドミントン	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 バドミントンのラリー、スマッシュ練習、シングルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
4	ストレッチ バドミントン	バドミントンのラリー、スマッシュ、ヘアピン練習、シングルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
5	ストレッチ バドミントン	バドミントンのルールを再確認。 シングルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
6	ストレッチ バドミントン	バドミントンの審判などゲーム運営の確認。 シングルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
7	ストレッチ バドミントン	バドミントンのラリー、スマッシュ、ヘアピンの練習。 ダブルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
8	ストレッチ バドミントン	バドミントンのラリー、スマッシュ、ヘアピン練習。 ダブルスゲーム。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
9	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害の予防と、パフォーマンス向上のため全身のストレッチを行います。 ジャブ、ストレート動作を音楽に合わせて動きます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
10	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 ジャブ、ストレート動作にフックを加えて動いてみます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
11	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 ジャブ、ストレート、フック動作にアッパーを加えて動きます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
12	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 上肢の動きに加え、前蹴りの動作を行います。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
13	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 相手を想定した構成で動いてみます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
14	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 単純な動きから複雑な動きにチャレンジしてみます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
15	ストレッチ 格闘技系エクササイズ	障害予防とパフォーマンス向上のため、全身のストレッチを行います。 複雑な動きをよりバワフルに動いてみます。				授業で整理運動が不足するので、家でケアをすること(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「なし」				S：遅刻、早退、欠席がなく、私語を慎み、前向きに授業が受けられる。 A：遅刻、早退がない。欠席は1回程度。前向きに授業が受けられる。 B：遅刻、早退、欠席が2回程度。前向きに授業が受けられる。 C：遅刻、早退、欠席が3回程度。前向きに授業が受けられる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
「なし」				スポーツウェア（上・下）、スポーツシューズは必ず着用してください。 大学の備品はていねいに扱うようにしてください。						

科目名	生活習慣病と予防			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ <sup>®</sup> リング	UL23108	研究室	S-16
担当者	江原 孝史			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日2限		
関連資格				履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
○		A	B	C	2017年度～						
<b>授業概要</b>											
<p>食事をはじめとする生活習慣はさまざまな病気の発症に深くかかわっています。遺伝によっておこる病気においてもこれは同様です。生活習慣を見直すことで病気の発症を防ぎ健康長寿を達成することができます。</p> <p>本講義では、生活習慣が関係して発症するさまざまな疾患について学び、生活習慣病を防ぐための食事や運動などについて知り実習では、自分の体の状態(体重、胸腹囲、血圧、ヘモグロビン、内臓脂肪量、動脈血酸素飽和度)をチェックします。</p>											
<b>学修到達目標</b>											
<p>自分の生活習慣と健康状態を知り、自らの生活習慣病のリスク因子を把握することによって、より健康的な学生生活を送ることができるようになること。かつ、生活習慣病とそれを予防するための知識を教えることができるようになること。</p>											
<b>授業の進め方</b>											
スライドを使いながらレポートと実習で進めます。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	生活習慣病とは? 成人病から生活習慣病と呼ばれるようになった経緯、特に生活習慣病の低年齢化について学びます。					教科書13-36ページを読んでくる。自分の生活習慣を考える。(4時間)				
2	肥満、肥満症	なぜヒトは太るのか(痩せることができないか)、肥満の定義とBMIについて学びます。自分の体重測定、体脂肪のチェックとBMIを計算します。					教科書37-72ページを読んでくる。小児肥満の問題について調べる。(4時間)				
3	糖尿病(1)	糖尿病の定義、分類(I型、II型)、血糖値とHbA1cの意義について学び、血糖値を測定します。グルコーススパイクとその意義について学びます。					教科書73-87ページを読んでくる。糖尿病と遺伝の関係を調べる。(4時間)				
4	糖尿病(2)	糖尿病の合併症、運動療法、食事療法について学びます。					教科書88-102ページを読んでくる。糖尿病の合併症の頻度を調べる。(4時間)				
5	脂質異常	脂質異常の種類と原因、動脈硬化との関係、脂質異常の予防について学びます。					教科書125-130ページを読んでくる。一日に摂取する脂質の種類と特徴について調べる。(4時間)				
6	メタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームの定義とその意義について学びます。					事前に腹囲を測定する。メタボリックシンドロームの影響について調べる。(4時間)				
7	高血圧	高血圧の定義、本態性高血圧と二次性高血圧、家庭高血圧と診察室高血圧について学びます。血圧の正しい測定方法を学び、自分の血圧を測定します。					教科書103-124ページを読んでくる。高血圧の影響について調べる。(4時間)				
8	虚血性心疾患	虚血性心疾患の分類(狭心症、心筋梗塞)、運動療法について学びます。					教科書133-158ページを読んでくる。心臓リハビリについて調べる。(4時間)				
9	脳卒中	脳出血、脳梗塞の分類、脳卒中のサイン、危険因子について学びます。					脳梗塞の治療法、特に薬物治療について調べる。(4時間)				
10	消化器の生活習慣病	逆流性食道炎、胃潰瘍、胆石、脂肪肝、慢性膵炎、大腸憩室などについて学びます。					生活習慣とさまざまな消化器疾患との関係を調べる。(4時間)				
11	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の種類と動脈血酸素飽和度(SpO <sub>2</sub> )測定の意義、COPDに対する運動療法の有用性、運動誘発性ぜんそくについて学びます。パルスオキシメーターでSpO <sub>2</sub> を測定します。					スパイロメーターで自分の肺活量、一秒率、肺年齢を調べる。(4時間)				
12	がん	がんの定義、がんの男女別死亡率、癌の生物学、がん検診と一次予防について学びます。					日本人がかかるがんの特徴とがん検診の問題について調べる。(4時間)				
13	運動器疾患	変形性関節症、変形性脊椎症、骨粗鬆症について、予防と運動について学びます。骨密度の測定方法との特徴を学びます。					教科書233-256ページを読んでおく。自分の骨密度を測定する。(4時間)				
14	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの構成概念、サルコペニアやフレイルの定義、高齢者の運動障害の特徴について学びます。					事前にロコチェックとロコトレを行う。サルコペニアのメカニズムについて調べる(4時間)				
15	認知障害、認知症	認知症の病態、認知症症状と、症状に対する運動療法(コグニサイズ)について学びます。					教科書211-232ページを読んでくる。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>							
「Q&A 生活習慣病の科学 Neo」中尾 一和編(京都大学出版会) ISBN:978-4-8140-0050-0(生協で購入してください。)授業とレポートで必要なので必ず購入してください				定期試験:80% レポート:20% 評価の基準 S:授業内容を高度に理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が特に優れ、定期試験も90点以上。A:授業内容をよく理解し、実習に積極的に取り組みかつ質問し、実習課題の内容が優れ、定期試験が80点以上。B:授業内容を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、実習課題の評価が良く定期試験が70点以上。C:授業の内容を理解し、与えられた課題に組み、実習課題の評価が可で定期試験が60点以上。							
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
「健康運動指導士養成講習会テキスト」(財団法人健康・体力づくり事業団)95頁～253頁 「世界一長寿な都市はどこにある?」家森幸男著(岩波書店) ISBN:978-				毎日の生活習慣(食事を含め)が病気の発症に影響することを知ろう。とくに栄養と運動とが大きな要素であることを学ぼう。							

科目名	日本国憲法（総合経営学部）		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL13201	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
日本国憲法の基本的な枠組、背景、その意義などを理解するために、近代憲法の基本原理（基本的人権の保障と権力分立制）、日本における二つの憲法（明治憲法と日本国憲法）の異同、日本国憲法の基本原理（民主権、基本的人権の尊重、平和主義）などを明かにした上で、具体的な政府の仕組みと人権保障のあり方についての基本論点を検討しながら理解を深めて行くことにします。										
<b>学修到達目標</b>										
本講義は、日本国憲法についての基本的な知識を獲得することを目的としています。日本国憲法を近代立憲主義の歴史の中に位置づけた上で、日本における憲法学説・判例を手がかりにしながら、日本国憲法の人権および統治機構（政府の仕組み）の基本的なあり方を理解する。										
<b>授業の進め方</b>										
講義は、六法（毎時間必携）で条文（憲法、関連諸法令）を参照しながら進めていきます。なお、ほぼ毎時間、講義テーマまたは人権、憲法に関連した新聞・雑誌などの記事を配布し、解説を加えることにします。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	近代憲法の成立と構成	ガイダンス、憲法の諸概念				講義内容の復習（4時間）				
2	統治総論と国民主権	二つの憲法の比較、日本国憲法制定過程、基本原理				テキストを読む（4時間）				
3	国民主権と天皇	日本国憲法の成立過程とその評価				テキストを読む（4時間）				
4	選挙制度と選挙権	選挙制度、選挙権、法の下での平等				テキストを読む（4時間）				
5	国会1	議院と議員				テキストを読む（4時間）				
6	国会2	活動と地位				テキストを読む（4時間）				
7	内閣	内閣、首相、国務大臣				テキストを読む（4時間）				
8	司法権と裁判所	司法権、裁判所の組織				テキストを読む（4時間）				
9	違憲審査制	違憲審査制と重要判例				テキストを読む（4時間）				
10	基本的人権1	人権保障のしくみ、幸福追求権				テキストを読む（4時間）				
11	基本的人権2	法の下での平等				テキストを読む（4時間）				
12	思想・良心の自由と信教の自由	思想・良心の自由、信教の自由、政教関係				テキストを読む（4時間）				
13	表現の自由	表現の自由、知る権利				テキストを読む（4時間）				
14	経済的自由	財産権、職業選択の自由				テキストを読む（4時間）				
15	社会権	生存権、教育を受ける権利				半期講義の復習（4時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「一歩先への憲法入門」片桐直人・井上武史・大林啓吾著（有斐閣） ISBN:978-4641131965（生協で購入してください。） 「ポケット六法 平成29年度版」山下友信、山口厚編（有斐閣） ISBN:978-4641009172（生協で購入してください。）				定期試験：90% 受講態度：10% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
なし				講義の中では、授業の受け方、ノートの取り方、六法の使い方など大学で学ぶために必要な技術についても教えます。学生諸君は、講義内容そのものだけでなく、学ぶための技術についても学ぶよう心がけてください。						

科目名	地域企業特論		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバ`リング	UL13202	研究室	W-32
担当者	小林 俊一		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`	水曜日3限		
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2016年度～					
<b>授業概要</b>										
本講義は国際ロータリー第2600地区(松本地域)と松本大学の教育連携協定に基づく講座であり、長野県を代表する企業から毎回招く講師の講義内容は、実践や実務の中から獲得された「経験知」です。論理的に構築される大学での学びがバーチャルの世界の「知」とあるとするならば、まさしくリアリティのある「知」とも言え、新たな自己発見につながる講義です。										
<b>学修到達目標</b>										
企業の歴史的背景や現状を踏まえた現在の活動ならびに、将来構想などについて企業家自身から講義を受けることで、「自己」、「社会」、「企業」といった視点から、大学での学びや自らの進路、生き方について考えていきます。さらに、社会人として必要な実践的知識や環境対応力といった社会人基礎力と言われる社会的知識を獲得することが最終的な目標となります。										
<b>授業の進め方</b>										
各回のテーマに沿った企業人を講師に招いて講義形式の講演を聴きます。講義の最後には講師の出題するテーマや講演を聴いた感想をレポートにまとめて提出します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・ロータリークラブの役割	地域社会のリーダーという立場から、国際的組織でもあるロータリークラブの目的と社会的役割について解説します。				事前にシラバスを読んでおく。ロータリークラブについて整理しておく。(4時間)				
2	プロフェッショナルとは	社会人として身につけなければならないプロ意識について、企業人の実際の活動から学び取り、働くことの意義を再認識します。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
3	企業イノベーション	これからの企業経営の課題であるイノベーションとは、技術だけでなく幅広い意味での「革新」です。アイデアやひらめきが生み出される背景を探り、発想力豊かな社会人について考えます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
4	企業活動と地域社会	企業活動が経済、文化など、様々な形で地域社会に及ぼしている影響について展望し、社会人なることの意味を考えます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
5	グローバルとローカル	グローバル化が叫ばれる現在において、その対称に位置すると考えられているローカルの思考が重要であるとされる理由を実際の企業活動を通して考察していきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
6	リーガルマインドと企業活動	法的な解釈を基本とした論理的思考とバランス感覚に基づく企業活動の実際を例に、社会人に求められるリーガルマインドとは何かを考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
7	社会問題に挑む企業活動	高齢化や環境など現代社会に存在する様々な社会問題の解決に取り組む企業活動を通して、社会を形成する仕事の在り方について考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
8	企業の専門性	企業における専門性とは何か、企業規模とは全く違う視点から企業の価値について考え、働くということの意味を再考します。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
9	企業がおこなう地域貢献	企業はどのような理念に基づき地域貢献をおこない、それがどのような社会的意義を持つのかを考えることで、企業と地域の関係を見直します。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
10	経済情勢と企業経営	現在の経済情勢を踏まえた企業経営とはどのようなものかを学び、経済動向に応じた柔軟な企業活動と今後の見通しについて考えます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
11	企業のグローバル戦略	経済の激しいグローバル化が進む中で、地方の企業がどのような戦略に基づき経営しているか実例から学び、国際的視野の重要性を考えます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
12	企業のコンプライアンスとモラル	コンプライアンスやモラルを企業価値を高めるものとしてとらえ、積極的に取り組んでいる企業の実例から、信頼され尊敬される企業や従業員とは何かを考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
13	ブラック企業と何か	社会問題化しているブラック企業とはどのような企業のことを指しているのか、その実態を捉えつつ、労働者としての権利と義務について考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
14	起業するための条件	起業するとはどういうことか、ビジネスチャンスのつかみ方やリスクについて学び、起業家として成功するための条件について考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
15	意味のある働き方とは	企業が求める人材とはどのような人材なのかについて経営者の立場から話を聞き、人間にとって働くということがどのような意味を持っているのか、今何をすべきか考えていきます。				事前に関係する内容について考えておく。提出した小論の内容を復習する。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
テキストはありませんが、毎回講義用の参考資料を配付しますので、全ての資料をファイルしておいてください。				レポート：90% 受講態度：10% 毎回、講義の最後に授業内容に関する小論を書きそれを講師が評価します。15回の講義の小論の評価の合計点に、授業中のメモを取るなどの聴講態度を加えた総合評価とします。小論は各回の講義の狙いによって多少の違いはありますが、講義内容のまとめ、自分の考えや主張、文章量などが評価されます。Sは9割以上、Aは8割以上、Bは7割以上、Cは6割以上の得点を必要とします。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
できれば2紙以上の新聞を読むようにして下さい。				自分の就職や生き方など、将来を真剣に考えている人にとっては有益な講義です。外部から毎回招聘する講師が違います。それだけに学生諸君には積極的な傾聴姿勢を求めます。						

科目名	地域課題研究Aクラス			学年学期	1年通年	単位数	2	ナパリング	UL13203	研究室	W-34
担当者	白戸 洋			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格						履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
学生が地域の直面する課題について、その現状を学ぶとともに、実践活動を通じて具体的に課題解決を図ることを目的とします。											
<b>学修到達目標</b>											
地域課題について理解をするとともに、実践活動の成果を分析・評価し、その成果を踏まえて具体的な解決にむけたアクションを自ら計画し実施する技術及び能力を身に付ける 活動を通じコミュニケーション能力や課題解決能力、社会的課題に対する関心、地域に向き合う意識などを身に付ける											
<b>授業の進め方</b>											
子育ての問題や買い物弱者問題、地域の居場所づくり、子どもの育ち、まちづくりなど地域が直面する課題についての講義、課題の実態を把握するための調査、その解決を図るための実践活動によって構成されます。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	講義の内容及び進め方を説明し履修者シートの作成を行う(学修達成目標等)					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
2	地域課題に関する講義	高齢者の抱える問題(買い物弱者問題など)について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
3	地域課題に関する講義	まちづくりをめぐる地域課題について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
4	地域課題に関する講義	子育てをめぐる問題について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
5	地域課題に関する講義	子どもをめぐる問題について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
6	地域課題に関する講義	その他の地域課題について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
7	地域課題解決事業の実施準備	対象地区等での実態の把握(現地踏査)を行う					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
8	地域課題解決事業の実施	対象地区において地域課題の解決を図る事業を実施する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
9	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
10	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
11	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
12	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
13	地域づくりに関する講義	まちづくりについて講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
14	地域づくりに関する講義	居場所づくりについて講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
15	地域づくりに関する講義	人づくりについて講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
16	地域づくりに関する講義	子ども・子育てについて講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
17	地域づくりに関する講義	高齢者について講義する					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				
18	地域づくりに関する講義	対象地区における課題を考える					小レポートを含む事後学習を1時間を行う				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
20	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
21	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
22	地域課題解決事業の実施	対象地区において事業を実施する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
23	調査手法	社会調査について講義する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
24	調査手法	分析・評価手法について講義する	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
25	調査手法	アンケート等調査に必要な資料の作成を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
26	事業の成果分析	対象地区等での成果と課題の把握（アンケート調査）を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
27	事業の成果分析	対象地区等での成果と課題の把握（ヒアリング調査）を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
28	事業の成果分析	対象地域における事業の効果の検証を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
29	今後の事業計画の策定	次年度以降の事業の計画策定を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
30	まとめ	個人別学修達成目標の評価を行う	小レポートを含む事後学習を1時間を行う
テキスト		成績評価の方法・基準	
「買い物難民を救え!移動スーパーとくし丸の挑戦」村上 稔著（緑風出版） ISBN:978-4-8461-1411-4（生協で購入してください。）		レポート：60% S:講義の成果を活かして持続的に課題解決のために具体的な活動を行うことができる。A:実践活動を通じて地域課題を把握し有効な解決策を提言し解決を試みた。B:実践活動を通じて地域課題を把握し有効な解決策を提言。C:実践活動を通じて地域課題を把握し概ね具体的な解決策を提言	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「買い物難民 もうひとつの高齢者問題」杉田 聡著（大月書店）		PBL（問題解決）型の授業として、みなさんの身近な社会問題に対して実践的にアプローチし、解決方法を学びます。積極的に参加してください。	

科目名	地域課題研究Bクラス			学年学期	1年通年	単位数	2	ナパリング	UL13203	研究室	S-02
担当者	廣田 直子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	前期：水曜日3限 後期：水曜日3限		
関連資格				履修条件		(集中講義となります)					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A B C									
<b>授業概要</b>											
この授業では地域全体を学びの場とし、フィールド活動により地域課題を見出し、その解決に向けて皆でディスカッションし、提案という形にまとめます。Bクラスでは人の一生を「健康」の視点で概観し、まずは、乳幼児期、学童・青年期、壮年期、高齢期といったライフステージごとの特徴をとらえます。その上で、地域活動に参画して生活者である地域の人々が直面する健康課題を発見し、グループ討議を経て解決に向けて考え合い、提案をまとめます。											
<b>学修到達目標</b>											
能力：フィールド活動での観察力を修得する。課題について積極的にディスカッションできる。 具体的到達目標：健康を栄養と運動、社会生活の視点からとらえ、近隣社会の現状を踏まえて地域が抱える健康問題・課題への認識を深め、自分たちの提案をまとめる。											
<b>授業の進め方</b>											
前半はオムニバス形式で、講義を中心に進めます。後半は、周辺地域で行なわれている「健康」への取り組みを、実習体験を通じて学び、グループで地域課題に向けた解決法を探り、提案をまとめます。(履修者数を制限することがあります。)											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方と、後半に行う実習参加について実習先や実習内容の説明をします。決定している範囲で参加実習の情報を提示します。					各自で、予定されている実習に参加するための日程を調整し、参加意欲を高める。(1時間)				
2	社会生活と健康	4~5人のグループをつくり、自己紹介に加え、自身の健康観について自由に語ることで互いの考えを知り、その後「社会生活と健康」を考える次回以降の講義の意味について学びます。					健康観について、自身の健康に対する受け止め方や考え方をまとめて記述する。(1時間)				
3	ライフステージと健康 乳幼児期	乳幼児期の発育発達の大枠を捉え、生涯にわたり健康な生活を送るための基盤となる育ちの環境について、栄養・運動の両面から学びます。					身近に暮らす乳幼児に関心を寄せ、乳幼児期に重要な育ちの環境についてまとめる。(2時間)				
4	ライフステージと健康 学童・青年期	長野県内の児童の生活習慣の実態について学びます。生活習慣が子どもの発育発達に及ぼす影響について県内の実態からとらえ、改善に向けた栄養と運動両面からの支援の可能性を探ります。					学童期の生活時間、生活習慣の実態を知り、問題の所在について考えレポートを作成する。(2時間)				
5	ライフステージと健康 壮年期	体力をはじめ諸機能の衰えを感じ始めるのが壮年期です。健康上の様々な問題を感じるようになるこの年代は、健康への関心が高まる時期でもあります。栄養・運動の両面からの指導や支援の表情を学びます。					身近な大人との会話から、働き盛り世代の健康への意識・関心を取り取ってまとめる。(2時間)				
6	ライフステージと健康 高齢期	元気な高齢者、支援が必要な高齢者など、「高齢期」とひとくくりにしてもその幅は広く、人生における喜・哀のイベントが健康に影響を及ぼす年代でもあります。様々な観点から健康維持について学びます。					高齢期に生じる体の生理的衰えを知り、健康であることの価値について考え、まとめる。(2時間)				
7	地域課題 (健康と栄養)	これまでの学習で得た知識を基に、地域に目を向けます。実際に行われている栄養指導の場面やその内容、また対象に関する地域の実情を知り、アウトキャンパスでの学習目標に向けて考えます。					これまでの学習内容を振り返り、生活実態に合った「食」のあり方を考え、まとめる。(2時間)				
8	地域課題 (健康と運動)	これまでの学習で得た知識を基に、地域に目を向けます。実際に行われている運動指導の場面やその内容、また対象に関する地域の実情を知り、アウトキャンパスでの学習目標に向けて考えます。					これまでの学習内容を振り返り、生活実態に合った「運動」の必要性を考え、まとめる。(2時間)				
9	松本市の健康づくりの取り組み	健康寿命延伸都市松本の制度や健康づくりに関する様々な取り組みについて知り、若者(学生)の視点からの行政への要望・提案についてディスカッションし、その中から自分たちで対応可能な課題を発見します。					市の活動内容をまとめ、行政が取り組みにくい課題に関するレポート執筆の準備をする。(3時間)				
10	市民運動としての健康づくりの取り組み	NPOや地域の自主運営による健康の取り組みについての実態を学びます。熟年体育大学(JTRC)の取り組みや、本学地域健康支援ステーションの事業例を参考に、健康に関する地域課題について考えます。					前回に続き、地域の健康課題を、実際の事例から捉えてレポートを完成させる。(3時間)				
11	情報収集の方法	これまでに学習した健康に関する様々な情報を、さらに幅広く収集するための方法とその活用方法について学びます。その際、今後の活動で必要とされるルール、マナーについても学修します。					以後の報告や発表資料に役立てるための健康情報、地域情報などの情報を収集する。(3時間)				
12	プレゼンテーションの方法	本講義後半では、グループで「地域における健康課題(仮)」を発表するので、収集した資料や実習での体験をまとめる際に必要となるプレゼンテーションの方法として、パワーポイントの作成技法を学びます。					パソコンの操作に慣れ、パワーポイントを活用し、プレゼンファイル作成の練習をする。(3時間)				
13	地域課題を探る	3~4人のグループになり、健康観について話し合いを持ちます。初回講義でそれぞれが感じていた健康観を振り返り、あらためて地域の健康課題について考え、メンバーと共有します。					グループで共有した問題について地方紙などから情報を収集し、次回講義時に持ち寄ります。(2時間)				
14	地域課題を提起1	前回授業に続き、KJ法やブレインストーミングなどで情報を出しあい、グループの関心事をまとめて発表します。グループで収集した地域課題について問題の所在を探ります。					グループで決めたテーマを咀嚼し、実習の際のモチベーションの向上を図る。(1時間)				
15	地域課題を提起2	グループで決めた地域課題(テーマ)を再確認します。何が問題で、どうしていくことが求められるか、自分たちにはできることは何かなど具体化させ、グループの意思決定を図ります。					後期に行う実習を意味あるものにするため、積極的に必要な準備を整える。(3時間)				
16	オリエンテーション(後期)	グループで進めます。前半の学習やグループの課題・目標を再確認します。今後実施する実習参加について説明を受け、実習記録ノートを配布します。					実習記録ノートを確認し、実習参加の準備と心構えを確固としたものにする。(1時間)				
17	実習事前指導	実習の事前指導を受けます。実習に臨む姿勢、記録の取り方、事後報告について理解するとともに、実習先や対象者によって参加時の配慮や参加姿勢が異なることを理解します。					実習先について事前に情報収集し(1時間)、実習ごとの目標を定めて臨みます。(1時間)				
18	実習(栄養指導場面1)	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。					実習記録ノートをまとめる。(3時間)				

授業計画（各回のテーマ等）		事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。	
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	実習（栄養指導場面1-2）	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
20	実習（栄養指導場面1-3）	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
21	実習を振り返る（栄養）	グループ毎、体験から得た学びを共有します。互いの実習記録を振り返り、それぞれの場面での気付きを話題提供し、地域社会に求められている健康づくりの課題を探ります。	実習での振り返りや気づきを次回実習に生かすために、自身の課題目標を明確にする。（1時間）
22	実習（運動指導場面1）	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
23	実習（運動指導場面1-2）	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習記録ノートをまとめる。（3時間）
24	実習（運動指導場面1-3）	アウトキャンパスでの見学体験や、地域健康支援ステーションの活動に参加します。対象者について理解し、事業目的と評価について学んで、グループでの討議やまとめに生かします。	実習での振り返りや気づきを報告会に生かすため、自分の考えや意見をまとめる。（2時間）
25	実習を振り返る	前期講義で得た学びや地域活動での実習体験をふまえ、グループで話し合い、報告会での発表を前提にした討議をします。地域社会に求められている健康づくりの課題と解決方法を探ります。	自分の考えや意見を、体験と理論の両面から語れるように準備を進める。（2時間）
26	報告会の準備	グループで互いの実習記録を振り返り、それぞれの場面での気付きについて話題提供し、地域社会に求められる健康づくりの課題とその解決方法に向けた提案をまとめ、報告会での発表資料を作成します。	発表の準備・練習（2時間）、自分の考えや意見を体験と理論の両面から語れるようにする。
27	実習報告会1	互いの報告・発表を聞き、自分の実習体験と重ね、他のグループの発表に対して質問や感想を述べるなど、関心を持って聞き、互いに学び合います。	「健康問題」を、個人の問題としてではなく、地域が抱える課題として再考する。（2時間）
28	実習報告会2	互いの報告・発表を聞き、自分の実習体験と重ね、他のグループの発表に対して質問や感想を述べるなど、関心を持って聞き、互いに学び合います。	「健康問題」を、個人の問題としてではなく、地域が抱える課題として再考する。（2時間）
29	実習報告会のまとめ	報告会での発表を受けて、地域課題解決に向けた方途についてグループディスカッションをします。	ディスカッションを踏まえて地域課題解決のための方途についてまとめる。（3時間）
30	地域課題 まとめ	一人ひとりが本講義の学びをまとめ、それをお互いに聴取し合い多様な考えがあることを知ります。それを通して個々の学生が大学生活及び将来の健康課題について、地域という視点で考え続ける姿勢を培います。	記録ノートや発表から、地域社会における健康課題解決の方途に関するレポートを作成する。（3時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
(別途、指示します。) 配布資料(プリント)で進めます。		出席レポート：50% 課題：50% S:積極的な地域活動参加を通し、多角的な観察による気づきや提案を的確に文章表現できる。集団討議ではリーダーシップを発揮できる。A:積極的な地域活動での観察から、気づきや提案を文章表現できる。集団討議での確かな意見を述べる事ができる。B:地域活動での観察による気づきを文章表現できる。集団討議で自分の意見を述べる事ができる。C:地域活動に参加して学修した内容を文章表現できる。グループワークで自分の意見を述べる事ができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
配布資料で進めます。		学生だから体験できる地域社会との交流を通じ、誰もが大切にしたい「健康」への認識を深め、自身の健康についても考えください。また、学修を通して社会の健康課題と向き合い、その解決方法を考え地域に目を向けましょう。	

科目名	地域課題研究Cクラス			学年学期	1年通年	単位数	2	ナバリング	UL13203	研究室	W-19
担当者	矢崎 久			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日2限、火曜日3限、木曜日2限、木曜日3限		
関連資格						履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
買い物難民、老老介護、孤独死など高齢化社会に共通した課題に加えて、豪雨や地震など近時増加する自然災害への対処など地域が抱える課題は少なくありません。これら諸課題から今年度は「防災」に焦点をあてて、地域における防災の現状と課題について学ぶとともに、具体的な活動を通じた課題解決能力の獲得を図ります。											
<b>学修到達目標</b>											
地域における「防災」をテーマに、課題の発見、解決目標の設定、目標達成にむけた実践計画の立案と実行、評価までを自らが主体となり、かつ創造的におこなえる。											
<b>授業の進め方</b>											
火災、地震、豪雨などの災害や防災初動組織と地域連携のありかたについての座学、グループワーク、減災や防災と社会資源の活用、災害支援ボランティア体験、さらに自治防災組織に関わることで「防災士」としての実践力を涵養します。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	地域課題とはなにか	地域社会における課題の存在を知る					事前：プリント予習(0.5時間) 事後：講義計画理解(0.5時間)				
2	地域と防災	地域防災の現状と課題を知る					事前：プリント予習(0.5時間) 事後：課題作成(0.5時間)				
3	地域と防災	地域防災についての課題を抽出する					事前：課題作成(0.5時間) 事後：ワーク準備(0.5時間)				
4	地域課題としての防災	課題の発見と解決目標の検討					事前：解決目標の絞り込み(0.5時間)事後：解決にむけた計画検討(0.5時間)				
5	地域課題としての防災	課題の決定と解決にむけた実践計画作成					事前：課題シート作成(0.5時間) 事後：実践計画案作成(0.5時間)				
6	防災と社会資源	防災に活かせる社会資源を知る					事前：社会資源マップ準備(0.5時間)事後：マップ作成(0.5時間)				
7	防災と社会資源	災害想定と社会資源活用の実践					事前：社会資源確認(0.5時間) 事後：実践振り返り(0.5時間)				
8	災害と危機管理	危機管理とはなにか。管理すべきポイントを知る					事前：危機管理について調べる(0.5時間)事後：管理ポイントの整理(0.5時間)				
9	災害と危機管理	災害予防、状況把握、対策検討、実施計画策定、実施、評価の実際(図上訓練の準備)					事前：訓練手順を調べる(0.5時間)事後：手順修正・整(0.5時間)				
10	災害と危機管理	災害の想定と図上訓練の実施					事前：訓練手順確認(0.5時間) 事後：訓練実施後の課題まとめ(0.5時間)				
11	地域住民の防災意識	地域住民の防災意識を知る(調査準備)					事前：防災意識調査表案作成(0.5時間)事後：ワーク準備(0.5時間)				
12	地域住民の防災意識	地域住民の防災意識を知る(調査実施)					事前：調査表作成(0.5時間)事後：結果集計(0.5時間)				
13	地域住民の防災意識	地域住民の防災意識調査の結果集計と発表資料作成					事前：発表準備(0.5時間) 事後：発表資料作成(0.5時間)				
14	地域防災組織との交流	地域防災組織(消防団等)の役割、体制、訓練について学ぶ					事前：消防団について(調査)(0.5時間)事後：報告書作成(0.5時間)				
15	地域防災組織との交流	訓練の実際を知る(見学)					事前：作成準備(0.5時間)事後：報告書作成(0.5時間)				
16	地域防災組織との交流	地域防災組織から学ぶ自治防災					事前：報告書作成(0.5時間) 事後：報告書修正(0.5時間)				
17	防災訓練	地域防災組織の指導による防災訓練の企画					事前：計画案作成(0.5時間) 事後：計画作成(グループワーク)(0.5時間)				
18	防災訓練	防災訓練計画立案と関係部門間調整					事前：計画書作成(0.5時間)事後：調整実施(0.5時間)				

授業計画（各回のテーマ等）			事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	防災訓練	地域防災組織と所属機関協働による防災訓練を実施する	事前：事前調整（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
20	災害とボランティア	災害支援ボランティア活動の実際（東日本大震災ボランティア活動）	事前：プリント予習（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
21	災害支援とボランティア	被災地のニーズを知り災害支援ボランティアとして行動する	事前：ニーズ調査（0.5時間） 事後：支援準備（0.5時間）
22	災害支援とボランティア	被災地支援をおこなう	事前：ニーズ絞込み（0.5時間） 事後：実施評価（0.5時間）
23	災害支援とボランティア	支援体験を発表する	事前：支援・行動・評価表作成（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
24	災害と自治防災組織	地域防災における防災士の役割、地域防災組織との協働による自治防災をありかたを調べる	事前：自治防災組織調査（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
25	災害と自治防災組織	組織の設立を準備する	事前：組織案作成（0.5時間） 事後：設立企画書案作成（0.5時間）
26	自治防災組織の設立	設立企画書の作成と開始準備	事前：設立企画案作成（0.5時間） 事後：準備計画作成（0.5時間）
27	自治防災組織の設立	地域防災組織と連携した自治防災組織をつくる	事前：役割の確認（0.5時間） 事後：報告書作成準備（0.5時間）
28	自治防災組織の設立	地域防災組織との協働訓練と情報共有	事前：役割の確認（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
29	実践の検証	地域課題の解決にむけた実践を検証する	事前：実践報告書作成（0.5時間） 事後：発表資料作成（0.5時間）
30	実践の検証	地域課題研究における成果をまとめる	事前：報告書作成準備（0.5時間） 事後：報告書作成（0.5時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
適宜配布します。		出席レポート：30% 実技：30% 定期試験：40% 「防災士」資格の理念である自助・共助・協働の姿勢があるか、演習および訓練に求められる知識と技能を發揮しているかを総合的に判定します。 成績評価基準「S」レポート、演習と実技、定期試験のすべてが95%以上 「A」 " 80%以上 「B」 " 70%以上 「C」 " 60%以上	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
適宜プリントを配布します。		履修は「防災士養成講座」を受講し認証試験に合格している者、あるいは地域防災に関心があり「防災士」の取得を目指している者に限定します。	

科目名	経済入門B（観光）		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-21
担当者	古川 智史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C	～2016年度					
<b>授業概要</b>										
本講義は、私たちの暮らしの中で経済がどのように関わっているのか、具体的な事例を通じて理解を深めます。具体的な内容は、経済に対する基本的な知識、アプローチ方法を身につける、日本経済のみならず、世界経済の実態について理解を深める、グローバルな視点に立って現代経済の課題について考える、となります。										
<b>学修到達目標</b>										
経済に関する基礎知識やアプローチ方法を身につける。 経済現象やその課題に対し、自ら考え、判断できる力を身につける。										
<b>授業の進め方</b>										
レジュメに沿って講義を進めますが、グループワークも取り入れる予定です。受講者には毎回コメントシートの提出を求めます。また簡単な調べ学習や小テストを予定しているので、予習・復習の上、講義に臨んでください。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション	本講義の概要、観光ホスピタリティ学科における学びとの関係について説明します。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
2	経済の仕組み（1）	市場における均衡の概念について取り上げます。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
3	経済の仕組み（2）	国内総生産（GDP）、経済成長などを取り上げます。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
4	1970年代以降の日本経済の歩み	各経済指標の動きをみながら、1970年代以降の日本経済の歩みを解説します。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
5	地域経済の動向：長野県を事例に	長野県を事例に、経済動向、産業構造の特徴とその変化などを解説します。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
6	財政の仕組みと役割	財政の概要を説明した上で、近年の日本の財政状況について解説します。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
7	中間総括	これまでの内容について中間総括をします。その一環として小テストを実施します。				小テストの結果を踏まえ、これまでの内容について復習すること（4時間）				
8	金融の仕組みと役割	金融システムとその役割、また金融を巡る近年の変化などを取り上げます。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
9	暮らしと経済	所得や消費、貯蓄など、私たちの暮らしと経済の関係について理解を深めます。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
10	経済政策の役割	金融政策、財政政策を中心に政策の役割について説明します。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
11	現代の日本の経済政策	日本における近年の経済政策を概観するとともに、いくつかのトピックを取り上げて理解を深めます。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
12	国際経済	為替相場と国際収支の仕組み、円高・円安の日本経済への影響などを説明します。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
13	世界経済の構造変化	経済のグローバル化の中で世界経済がどのように変化してきたのか説明します。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
14	世界経済と日本	世界経済と日本の関係について、いくつかのトピックを取り上げて理解を深めます。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
15	総括	これまでの内容を振り返りながら、講義全体を総括します。				配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
毎回レジュメを配付します。				受講態度：30% レポート：30% 定期試験：40% 「受講態度」では、調べ学習などの事前学習、コメントシートの提出状況およびその内容、小テストの結果を総合的に評価します。 S：積極的な探求心、批判的な思考力を持って課題に取り組み、授業内容を高度に理解している。A：積極的な探究姿勢を持って課題に取り組み、授業内容を十分に理解している。B：与えられた課題に誠実に取り組み、授業内容のおおよそを理解している。C：与えられた課題に取り組み、授業内容の60%程度を理解している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
講義中に紹介します。				新聞記事を読むなどして、日頃から経済に関心を持って、講義に臨むようにしてください。						

科目名	地理学			学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL13205	研究室	W-21
担当者	古川 智史			必修選択	選択	科目種別	講義	オイスカー	火曜日4限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>本講義では、現代社会の様々な事象、課題を地理学の観点から検討することを通して、地理学の諸概念、アプローチ方法を身につけます。まず、地理学とはどのような学問であるのか、その成り立ちを概説した上で、地理学において重要なツールである地図の活用について理解を深めます。次に、地理学の諸分野について、具体的な事例を取り上げながら、地理学の基礎的な視点、概念、アプローチ方法について解説します。そして、身近な地域や世界の国・地域を取り上げながら、地誌的なアプローチについて解説します。</p>											
学修到達目標											
<p>地理学の基礎概念を理解し説明できる。      主題図などの資料を的確に読み取ることができる。      現代社会の様々な事象に対して地理学の視点からアプローチできる。</p>											
授業の進め方											
<p>レジュメをもとに講義を進めますが、グループワーク(数回)、フィールドワーク(松本市内)を実施する予定です。受講者には毎回コメントシートの提出を求めます。また簡単な調べ学習や小テストを予定しているため、予習・復習の上、講義に臨んでください。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	イントロダクション：地理学とはどのような学問か	地理学の概要とともに、本講義の進め方等について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
2	地図と活用と地理情報システム(1)	地図の歴史を取り上げるとともに、地図の活用やその留意点などについて説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
3	地図の活用と地理情報システム(2)	地理情報システムの概要を説明するとともに、その活用方法について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
4	気候の多様性	気候とその規定要因、人々の暮らしとの関係などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
5	地形と自然災害	地形の成り立ち、自然災害とその対策などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
6	環境問題の諸相	環境問題とその対策、アプローチ方法などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
7	農業の空間構造	農業立地の基礎を解説した上で、現代の農業立地について考えます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
8	工業の空間構造	工業立地の基礎を解説した上で、現代の工業立地について考えます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
9	商業立地と流通システム	商業立地の基礎を解説した上で、現代の商業立地を考えます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
10	都市の地理	都市システム、都市の内部構造を取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
11	公共サービスと立地	公共サービスの供給に地域差が生じる要因、公共施設の立地などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
12	身近な地域の地誌	松本を事例に、身近な地域の変化を読み解きます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
13	日本のすがた	具体的な地域を取り上げながら、日本地誌へのアプローチ方法について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
14	世界の諸地域	具体的な国・地域を取り上げながら、世界地誌へのアプローチ方法について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
15	総括	これまでの内容を振り返りながら、講義全体を総括します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
毎回レジュメを配付します。					<p>受講態度：30% 定期試験：70%</p> <p>「受講態度」では、調べ学習などの事前学習、コメントシートの提出状況およびその内容、小テストの結果を総合的に評価します。</p> <p>S：積極的な探求心、批判的な思考力を持って課題に取り組み、授業内容を高度に理解している。A：積極的な探究姿勢を持って課題に取り組み、授業内容を十分に理解している。B：与えられた課題に誠実に取り組み、授業内容のおおよそを理解している。C：与えられた課題に取り組み、授業内容の60%程度を理解している。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
講義中に適宜紹介します。					高校時に使用した地図帳を持参してください。						

科目名	芸術文化		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL13206	研究室	W-26
担当者	山根 宏文		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
日本と海外の伝統文化を育んだ地域とともに学びます。日本人の美意識、芸術文化を京都から、さらに、ヨーロッパ諸国、アメリカ合衆国の特色ある芸術文化に視点を置いて学びます。日本との文化の違いを学び、異文化に対する広い視野と深い洞察力を養い、国際的な視野も身につけてもらうのが講義の到達目標です。										
<b>学修到達目標</b>										
日本の伝統文化、美意識について学び、暮らしの中にある多くの文化芸術について気づき、理解できるようになること。さらに海外での文化芸術、芸術振興を学び異文化に対する広い視野を身につけることができることが目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
市販のテキストは用いず、独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。教室での講義のみになります。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明します。				15回の講義テーマについて関心のあるテーマについて予復習する。(事前事後4時間)				
2	日本人の美意識	日本の芸術文化 日本人の美意識と伝統文化				暮らしに使用されているもので美しいもの、伝統文化を復習する。(事前事後4時間)				
3	日本の食文化	日本の食文化 無形文化遺産 日本食の魅力とは				日本食の魅力、食材について復習する。(事前事後4時間)				
4	地域と芸術振興	地域と芸術文化 フランスの芸術振興策 「パリがなぜ芸術の都と言われるのか10の要因」				パリの芸術振興と日本の芸術振興の比較を学修する。(事前事後4時間)				
5	地域と食文化	地域と芸術文化 イタリアの食文化 「イタリアがグルメの国と言われる10の理由」				イタリアの食文化について学修する。(事前事後4時間)				
6	現代アート都市	地域と芸術文化 「アメリカ合衆国と現代アート 現代アート都市 ラスベガス」				現代アートを活かしたラスベガスの都市政策を学修する。(事前事後4時間)				
7	地域と庭園文化	地域と芸術文化 英国の庭園文化と田園 「なぜ英国のカントリーサイドは美しく活気があるのか」				日本の田園風景について学修する。(事前事後4時間)				
8	ハワイ文化とアロハ	地域と芸術文化 ハワイの伝統文化フラ(ダンス)とアロハスピリット つくられたリゾートとハワイアン悲しい歴史				ハワイ文化の基本アロハの精神について学修する。(事前事後4時間)				
9	民藝と朝鮮時代の美	地域と芸術 民藝と手仕事・李朝(韓国)の美について				民藝について学修する。(事前事後4時間)				
10	世界のデザイン	地域と芸術 スカンジナビアデザインの特色と世界のデザイン				身の回りにあるデザインについて学修する。(事前事後4時間)				
11	大衆芸術	大衆芸術 ポップカルチャーとポップカルチャー 「世界一 日本のアニメ」の魅力とは				個々の好きな大衆芸術を選び、その要因を考える。(事前事後4時間)				
12	芸術文化振興(音楽)	「なぜウィーンは音楽の都と言われるのか。」 ウィーンの音楽振興策を解説します				芸術文化の楽しみ方を復習する。(事前事後4時間)				
13	文化情報と発信	文化と観光 文化情報と発信 ディスカバリージャパンから「そうだ京都行こう」まで。心に残る情報発信とは				様々な文化芸術情報について学修する。(事前事後4時間)				
14	芸術文化とまちづくり	芸術文化によるまちづくりについて40の事例とともに成功要因を解説します。				芸術文化による街づくりの事例を復習する。(事前事後4時間)				
15	まとめ	まとめ 14回の講義内容を要点を解説し、芸術文化の魅力についてまとめをします。				15回の講義ノートを再度読み直してください。				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
講義ごとに概要を説明したレジメを配ります。				出席レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A:授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B:授業内容をおおよそ理解し探究心、提案力がある。 C:授業内容をおおよそ理解し、探究心、提案力が60%程度である。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
なし				芸術文化は講義だけでなく、日々の暮らしを豊かにするために必要です。暮らしの中にある芸術文化を探してみてください。						

科目名	社会学			学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL13207	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	社会福祉士、中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
この講義では、社会学の入門および概論として、基本レベルの知識や概念が習得できるように講義をします。社会学の対象は広範です。講義では、個人のアイデンティティ、家族、地域コミュニティ、国家と社会、国際社会、仕事と労働、宗教、情報、テクノロジーなどを具体的な事例を素材として分析と検討を加えながら、社会学のものの見方、問題の立て方、考え方について理解ができるようにします。											
学修到達目標											
本講義の目標社会学の基本的な諸概念を検討しながら、社会学の基本的なものの見方、問題の立て方、考え方が身につく。											
授業の進め方											
講義は指定したテキストを用いながら、関連した新聞や雑誌の記事などを取り上げつつ、社会学の基本的な知識を習得できるようにして、現実の社会問題や事件と関連を持つことを実感できるように工夫していきます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	イントロダクション	社会学とはどういう学問なのか					事前学習は特にありません。				
2	社会学と近代	近代と近代社会のあり方					テキスト「序」を読む(4時間)				
3	行為論	個人と社会のあり方、行為と行動、行為の四類型など					テキスト第1章を読む(4時間)				
4	行為論	準拠集団、資源の四類型、社会規範など					第1章後半部分を読む(4時間)				
5	行為論	社会化、家族とジェンダー、宗教など					第1章後半部分を読む(4時間)				
6	相互作用論	地位と役割、コミュニケーション、情報とメディア					第2章を読む(4時間)				
7	相互作用論	ダブル・コンティンジェンシー、自我の構造、ジェンダーなど					第2章後半を読む(4時間)				
8	集団論	個人・集団・社会、個人と地域社会、未組織集合体など					第3章を読む(4時間)				
9	集団論	集団の諸類型、官僚制論					第3章後半を読む(4時間)				
10	社会の構造	社会の構造と機能、権力と権威、支配の四類型、社会変動など					第4章を読む(4時間)				
11	全体としての社会	社会変動、全体社会の概念、産業社会論、市民社会と大衆社会					第5章を読む(4時間)				
12	現代社会の諸論点	家族と地域社会の役割: 社会と医療・福祉のあり方					指示した文献を読む(4時間)				
13	現代社会の諸論点	国家論、民族・人種・国家、世界システム論: 国際化とグローバリズム					第5章後半を読む(4時間)				
14	現代社会の諸論点	社会変動、合理化、情報化、グローバル化など					第6章を読む(4時間)				
15	まとめ	それまでの講義内容の振り返りとまとめ					講義を復習する(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「社会学がわかる事典」森下伸也著(日本実業出版社) ISBN:978-4534031730(生協で購入してください。)						定期試験:80% 出席レポート:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。 B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし						社会福祉士受験合格をめざす学生は、必ず履修しなければなりません。					

科目名	新聞に見る社会の動き		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	UL23208	研究室	非常勤
担当者	江成 康明		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2017年度～					
<b>授業概要</b>										
新聞を使って社会の動きを考えていきます。インターネットの普及により活字離れが目立ち、読書や手書きの習慣が薄れてきました。一番身近なはずの新聞も無読層の増加によって、読まれなくなっています。新聞には政治、経済、外交や社会の動向などが凝縮されており、情報の収集だけでなく、どう読みこなすかが必要になってきます。記事の内容を読み、理解したうえで自分の考えをまとめるという習慣をつけるための授業です。乱れ始めた日本語の良さや文章の作り方も授業の中で実施していきます。										
<b>学修到達目標</b>										
4年間の大学生活中に就職活動という社会人への第一歩が始まります。社会の動きを知っていることは企業側へ有利な評価を与えるとともに、面接でも自信を持って臨むことができます。情報収集、読解力、理解力、筆記力を高め、最終的には学生自らがひとつのテーマを選んで「私の考察」をまとめられることができる。										
<b>授業の進め方</b>										
主に新聞のコピーを資料とします。新聞にはニュースの情報発信のほか解説、コラムなども掲載されており、一つの出来事に対して幅広い知識が得られます。グループ討論や特別講師招へい、新聞社見学なども行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	総論 新聞の価値と役割	新聞には多くの情報が詰まっています。1面から最終面までにどのようなものが載っているかなど新聞の全体像を紹介しながら、トップ記事の意味やベタ記事、焦点、解説、コラム記事とは、などを説明します				この1週間の新聞の中から興味があったニュースを取り上げ、感想を書く。(4時間)				
2	新聞を読む必要性	ネット社会の中で、新聞は不要という若者が多くいます。しかし、ネット情報だけだと偏りがちで、幅広い知識は得られません。社会を知る意味では新聞を読み、「なぜ」「どうして」を考えることが必要です。				疑問の沸いたニュースを選び、疑問を持ちながらまとめてみる。(4時間)				
3	各論 硬派記事についての考察	政治、経済、国際外交などは硬派記事と呼ばれます。授業のころに起きている問題を取り上げ、硬派面を騒がしているニュースを検証します。				この日取り扱った記事の感想や意見を書く。(4時間)				
4	各論 軟派記事についての考察	社会の動きやスポーツ、暮らしなどを軟派記事と呼びます。社会ではいったい何が起きているのかを新聞をもとに検証します。				この日の話題に対して、どう思ったかをまとめる。(4時間)				
5	グループ討論	ひとつのテーマについての新聞記事を読み、そのあとのグループ討論でその話題について話し合ってみましょう。自分の気付かなかったことを知るはずです。				グループ討論を経験して、という内容でレポートを提出する。(4時間)				
6	グループ討論	5回目と違ったテーマで、同様に進めます。考えながらしっかり読むことは、書くことが上達に必ずつながります。				読んだ記事に対してどう感じたかをレポートに書き、提出する。(4時間)				
7	新聞社見学	地元紙で伝統のある信濃毎日新聞社(予定)を訪ね、編集局などを見学。政治(県政担当)、社会部記者などの話を聞き、新聞作りに携わる人たちの意識などを学びます。				見学の感想や意見を書く。(4時間)				
8	日本語の美しさ	最近は日本語が乱れている、と言われます。若者が普段使っている言葉が正反対の場合もあります。正しい日本語の意味を考えてみましょう。				テキストにある例と普段の自分の言葉が適切かどうか考える。(4時間)				
9	文章の書き方	新聞は中学生にも理解できるような平易な言葉で書いてあります。文章を書くときには難しい言葉はいりません。相手が読みやすいような文章を書くにはどうしたらいいかを学びます。				気に入ったコラムを探してみる。(4時間)				
10	特別講演	2012年、年間でただ一人に送られる「日本記者クラブ大賞」に輝いた毎日新聞・萩尾信也氏を招き、講演していただく。記者として頂点に立った取材力、執筆力に興味をわくはずです。				事前配布の萩尾氏の記事を読み、質問を考えておく。(4時間)				
11	社会現象の自由研究	過去1年間の政治、経済、国際、社会問題などの動きの中で、自身が最も注目すべき課題をひとつ決めて下さい。どうしてそれを選んだのかをグループ討論で意見発表しましょう。				自分の選んだテーマの記事を集める。(4時間)				
12	社会現象の自由研究	新聞に書いてあることを鵜呑みにするのではなく、疑問や幅広い考え方を持って問題点を探して下さい。いくつもの新聞や新聞コピーを読んでまとめる力をつけましょう。				800字にまとめられるように準備と整理をする。(4時間)				
13	社会現象の自由研究	自分のテーマについて、800字にまとめてみましょう。問題を深く掘り下げて書く習慣を身につけるだけでなく、しっかりとした言葉遣いも重要なポイントです。				自分の書いた文章を思い出し、再考してみる。(4時間)				
14	自由研究の成果と課題	受講生がまとめた内容についての考察をします。同じテーマで臨んだ人々たちによるグループ討論も行い、足りなかった点などさらにテーマを深めることに努めて下さい。				この科目に対する感想を書く。(4時間)				
15	まとめ	新聞の役割や機能と必要性をもう一度再確認します。ネット社会に慣れていても、「新聞を読む習慣」を持ち続けてほしいものです。				15回目のまとめのテキストを熟読する。(4時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
毎回、テキストを配布します。		受講態度：20% 定期試験：50% 課題：30% S:授業内容の理解度、考察力、文章の読解力、書き力が秀でている。A:積極的に授業に臨み、課題に対しても自分の意見をしっかりと書ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に対しても自らの主張ができる。C:授業内容を60%ほど理解でき、与えられた課題にも誠実に取り組んでいる。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
毎回、テキストを配布します。		毎回の授業で感じるものが必ずあるはずですが、受講票には名前だけでなく、感想や意見を書いて下さい。書き慣れることが頭の整理につながります。図書館などで普段から新聞に接するようにしましょう。								

科目名	地方自治論	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ`リング`	UL23209	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典	必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ`	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C					
授業概要									
日本の地方自治制度のしくみを理解するために、国の制度、中央地方関係、地方公共団体のしくみなどについて講義します。									
学修到達目標									
この講義は、日本の政府システムの中での地方自治、都道府県・市町村の仕組みと活動、国と都道府県・市町村の関係、自治体と住民の関係についての理解を得る。									
授業の進め方									
指定のテキストを使用し、適宜プリント等を配布します。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	イントロダクション	ガイダンス				高校社会科の日本国憲法と地方自治について復習すること(4時間)			
2	国と地方のしくみ	日本の地方自治のアウトライン：国、都道府県、市町村				指示した文献を読む(4時間)			
3	国のしくみ	国会、国の立法と地方自治の関係				テキストを読む(4時間)			
4	国のしくみ	内閣、国の行政と地方の行政の関係				テキストを読む(4時間)			
5	国のしくみ	裁判所、地方公共団体の条例制定権、地方自治関連の判例				テキストを読む(4時間)			
6	中央地方関係と地方自治の本旨	国と地方公共団体の関係まとめ				テキストを読む(4時間)			
7	地方公共団体の制度としくみ	地方公共団体の種類、地方公共団体の機関				テキストを読む(4時間)			
8	地方公共団体と住民	国民権と住民自治				テキストを読む(4時間)			
9	地方公共団体の事務	自治事務と法定受託事務				テキストを読む(4時間)			
10	地方公共団体の長と議会	都道府県・市町村の長と議会				テキストを読む(4時間)			
11	住民参加	住民参加の諸制度				テキストを読む(4時間)			
12	地方公共団体の合併	地方公共団体の数の推移、平成の大合併				テキストを読む(4時間)			
13	地方分権	地方分権の意義と動向				テキストを読む(4時間)			
14	道州制	道州制の意義と動向				テキストを読む(4時間)			
15	まとめ	地方自治の価値を考える				テキストを読む(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「目で見える憲法(第4版)」初宿正典・大沢秀介ほか著(有斐閣) ISBN:978-4641131040(生協で購入してください。)		定期試験：80% 出席レポート：20% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
なし		地方自治の基礎知識を学ぶ機会としてこの講義を活用してください。							

科目名	行政法			学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ <sup>®</sup> リング	UL23210	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
この講義では行政法の基本的な知識を得るための概説を行います。入門レベルのテキストを理解して、その後により大部な教科書や判例集を読む際に役に立つように講義を位置づけています。											
学修到達目標											
行政法の基本的知識を習得し、行政や政策を理解する法的枠組みを通して行政の活動や政策について理解できる。											
授業の進め方											
指定テキストを使用し、適宜プリント等を配布します。六法は必ず持参してください。この講義は、教室での講義だけです。アウトキャンパスは行いません。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	イントロダクション	ガイダンス、行政法とは何か					第1章を読む(4時間)				
2	公法と私法	公法と私法の区別					ト第2章を読む(4時間)				
3	行政の基本ルール	法律による行政の原理					第6章を読む(4時間)				
4	行政作用法1	行政行為					第7章を読む(4時間)				
5	行政作用法2	行政裁量					第8章を読む(4時間)				
6	行政作用法3	行政立法、行政計画、行政契約					第9章を読む(4時間)				
7	行政作用法4	行政上の強制執行、義務違反に対する制裁、即時強制					第11章を読む(4時間)				
8	行政作用法5	行政立法					第12章を読む(4時間)				
9	行政救済法1	行政上の不服申立て					第13章を読む(4時間)				
10	行政救済法2	行政事件訴訟法					第14章を読む(4時間)				
11	行政救済法3	国家賠償法					ト第15章を読む(4時間)				
12	行政組織法1	中央省庁等改革					第3章を読む(4時間)				
13	行政組織法2	地方分権改革					第5章を読む(4時間)				
14	司法制度改革	司法制度改革					第4章を読む(4時間)				
15	まとめ	行政法の全体像					講義内容の振り返り(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「社会とつながる行政法入門」大橋洋一著(有斐閣) ISBN:978-4641227330 (生協で購入してください。) 六法は各自持参してください。						定期試験:90% 出席レポート:10% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。 B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「はじめの行政法(第3版)」石川敏行・藤原静雄ほか著(有斐閣) ISBN:978-4-64122089						行政法を理解する前提として、法学、日本国憲法、契約法、地域行政、地方自治の講義は履修しておいてください。それらの知識なしにいきなり行政法の講義を理解するのは大変困難です。					

科目名	日本文化		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL13401	研究室	W-26
担当者	山根 宏文		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○		A	B	C	2017年度～				
<b>授業概要</b>										
本授業では、日本で培われてきた芸能・文化芸術・自然観・食生活・住生活・建築・武道・宗教・習俗等々の文化を全般にわたって学び、日本文化の基礎知識を総合的に養います。ジャポニズムからディスカバージャパン、クール・ジャパンなど日本文化ブームになっています。一過性の日本文化ではなく、総合的に日本文化の豊かさ、真の魅力の理解を深めていきます。										
<b>学修到達目標</b>										
日本の文化、美意識を学び、暮らしの中に息づいている多くの文化に気付き、それを享受でき、説明することができる。さらに、日本人としての誇りを感じ、外国人にも伝えることができる。										
<b>授業の進め方</b>										
市販のテキストは用いず、独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。教室での講義になります。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価について案内します。				日本文化で魅力を感じるものとその要因について考える。(4時間)				
2	日本の美	後世に残したい日本の美について扱います。(自然・建築・伝統文化・工芸など)				後世に残したい日本の美について考える。(4時間)				
3	日本の美	後世に残したい日本の美について扱います。(自然・建築・伝統文化・工芸など)				後世に残したい日本の美について考える。(4時間)				
4	日本の伝統文化 華道	いけばなと日本人の自然観について述べます。				日本の伝統芸能についてどのようなものがあるか考える。(4時間)				
5	日本の伝統文化 茶道	「茶の文化 利休の心・42の教え」とホスピタリティについて述べます。				茶道から学ぶおもてなしの心について考える。(4時間)				
6	日本の伝統工芸と民藝	日本の工芸品と柳宗悦によって提唱された民藝運動について述べます。				身の周りにおける生活雑器を探し、魅力を考える。(4時間)				
7	和食「和食の魅力とは」	古代から現在までの食文化と食生活を解説します。				食生活についての課題について考える。(4時間)				
8	日本の宗教 仏教と神道	仏教と神道についての考え方や日々の暮らしにある宗教行事について解説します。				各家庭の宗教と教えについて考える。(4時間)				
9	江戸文化と武士道	武士道と城下町・国宝の城について講義します。武士道では、今も息づいている日本人の精神性についてあるいは、ビジネスに活かせる宮本武蔵の思考を説明します。				武士道と言われ思いつくもの考える。(4時間)				
10	浮世絵とジャポニズム	なぜ、西洋画家が浮世絵を愛したのか 日本の美と文化について、モネやゴッホやエミール・ガレの作品をみながら解説します。				モネ・ゴッホについて調べる。(4時間)				
11	現代の日本文化 大衆文化	大衆文化として漫画文化について歴史から読み解きます。				漫画の魅力を考える。(4時間)				
12	現代の日本文化 農村文化	現代日本の生活文化 農村文化の魅力 について理解を深めます。				日々の生活文化について考える。農村文化の魅力について考える。(4時間)				
13	現代の日本文化 芸術振興	文化の活かし方、楽しみ方について解説をし、暮らしの中で文化芸術が活きる為の施策について解説します。				自分自身の暮らしの中に活きている文化芸術についてあるもの考える。(4時間)				
14	現代の日本文化 芸術振興	文化の活かし方、楽しみ方について解説をし、暮らしの中で文化芸術が活きる為の施策について解説します。				自分自身の暮らしの中に活きている文化芸術についてあるもの考える。(4時間)				
15	まとめ	日本文化の魅力についてのまとめをします。				全講義の復習をする。(4時間)				
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>							
特になし。			定期試験：70% 課題：30% S：授業内容を高度に理解し、提案力が特に優れている。 A：授業内容を高度に理解し、探究心・提案力が優れている。 B：授業内容をおおよそ理解し、探究心・提案力がある。 C：授業内容をおおよそ理解し、探究心・提案力が60%程度である							
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
特になし。			あたりまえのような暮らしの中に、日本人の美意識が宿っています。この講義でそれらの多くからいくつかを選択して日本人としての美しい心と伝統芸能、伝統工芸について講義します。皆さんも日本の魅力を探してください。							

科目名	異文化理解		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL13402	研究室	A-08
担当者	和田 順一		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、水曜日3限		
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
	○	A	B	C	2017年度～					
<b>授業概要</b>										
本授業では、自分自身の文化と他者の文化を比べ、それらを意識することによって、どのように文化間において差が見られるか、英文等を通して理解していきます。その際に、それらの異文化間での違いについての事象を分類化して理解したり、その事象を具体化して自分自身のケースと比較したりすることで理解していきます。これらにより、自身の文化をさらに意識していくと共に、他の文化に対し自文化の観点からのみ理解していくことを避けていく考え方を身につけます。授業は全て英語で行われます。										
<b>学修到達目標</b>										
異なる文化においてお互いを理解しあうために、英語で様々なことが理解できる。また文化を理解するために、自分自身の文化を考えながら、それとは異なる文化を知り、その価値観等を理解できる。										
<b>授業の進め方</b>										
学習内容に応じ、グループワークや講義形式、英語による発表など様々な形態で行います。また授業は英語で行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス・文化とは	授業の進め方、異文化理解の考え方について。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
2	文化とは 1	英文を読み、文化におけるMaterial CultureとNon-Material Cultureを理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
3	文化とは 2	英文を読み、文化におけるMaterial CultureとNon-Material Cultureを理解し、まとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
4	文化のルールと許容される行動 1	文化におけるnormsの考え方とその変化について例を取り上げ理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
5	文化のルールと許容される行動 2	文化におけるnormsの考え方とその変化について例を取り上げ理解し、まとめます。また調べたものについて発表します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
6	ステレオタイプ 1	ステレオタイプとはどのようなものであるかを例等から理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
7	ステレオタイプ 2	ステレオタイプとはどのようなものであるかを例等から理解し、まとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
8	メディアと文化 1	メディアによる考え方への影響について理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
9	メディアと文化 2	メディアによる考え方への影響について理解し、まとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
10	非言語コミュニケーション 1	非言語によるコミュニケーションの例を取り上げ、その影響等について理解をします。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
11	非言語コミュニケーション 2	非言語によるコミュニケーションの例を取り上げ、その影響等について理解をし、内容をまとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
12	時間の考え方 1	文化において時間に対する考え方が違うということについて例を取り上げ理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
13	時間の考え方 2	文化において時間に対する考え方が違うということについて例を取り上げ理解し、内容をまとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
14	接触と空間 1	文化における空間と取り方や身体的接触について例を考え理解します。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
15	接触と空間 2	文化における空間と取り方や身体的接触について例を考え理解し、まとめます。				授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「This Is Culture」梶浦麻子・Gregory Goodmacher著TA/YK編(南雲堂) ISBN:978-4-5231-7489-9(生協で購入してください。)		受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に理解し、テーマに関し探究し課題に取り組み、教科書より難しい英語とテーマが理解できる。A:授業をよく理解し、テーマに関し探求し課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語とテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題を誠実にやり、教科書レベルの英語やテーマが理解できる。C:授業が理解でき、課題を誠実にやり、教科書の英語とテーマが理解できる。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
特になし。		授業は全て英語で行われます。しっかりと復習とまとめ課題をして下さい。また異文化の例等に対し偏見を持たないようにして下さい。原則、欠席は2回までです。授業では自分の意見を英語で言うなど積極的に取り組んでください。								

科目名	比較文化			学年学期	1年後期	単位数	2	ナパリング	UL13403	研究室	E-18
担当者	松原 健二			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格				履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
	○	A	B	C	2017年度～						
<b>授業概要</b>											
アメリカ文化を代表とする欧米文化と日本文化を比較することによって、欧米的な考え方や欧米文化への理解を深めると共に、我々が親しんでいる日本文化を客観的に見直していくことをめざします。題材として、贈答・挨拶・食事・住居・買物など、日常生活上の身近なものを取り上げて進めていきます。											
<b>学修到達目標</b>											
自分たちが慣れ親しんでいる日本文化が、唯一絶対のものではないことを理解できる。また、言葉と文化の密接なつながりや、言葉の探求によって人々の生活様式や文化を類推できる。											
<b>授業の進め方</b>											
まず、「日米異文化間適応訓練」のクイズに取り組みます。その後、プリント教材を用いて講義を進めていきます。学習内容の理解を助けるために、スライドやビデオなどの視聴覚教材も利用します。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	文化とは/贈答習慣	人々の暮らしの中で、贈答というものが人間関係の潤滑油として機能している実態を学びます。そして日本人に多く見られる旅行土産について、その歴史的な成立過程を踏まえて考えます。					Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
2	おごりと食事習慣	「おごる」行為の背後にある人間関係について考えます。また日常生活の中で非常にありふれた食事習慣の中に、異文化が潜んでいる事実を検証します。食器とプライバシーについても、考察します。					Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
3	挨拶	挨拶というものが、文化により、性別により、また時代により違いが認められるものであることを学びます。日本語と英語の挨拶言葉の違いから、その背後にある、社会における人間関係の違いを考えます。					Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
4	客/人格構造の比較	社会における人間関係や、家族間の人間関係を、「人間関係のベクトル」の観点から考えます。そして三重の同心円のモデルを使って、日本人とアメリカ人の人格構造の違いを比較します。					Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
5	家と住まいの文化論	アメリカ開拓史についてその概要を学び、17世紀初頭に開拓者たちがどのようにして住宅建築をしたのかを学びます。そして、伝統的な日本の住宅とどのような違いがあるのかを、検証して行きます。					Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
6	家と住まいの文化論	建築工法や建築材料によって、窓の造形に違いが生まれることを学びます。石造りの建築においてアーチ様式が生まれた理由や、ドームへの発展、気候風土と建築様式の関連性についても考えます。					Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
7	エチケット/羞恥心	羞恥心の感じ方は、文化の影響を受けていることを学びます。そしてその違いがエチケットという社会規範に影響していることを検証して行きます。中国に生まれた纏足という珍しい文化についても考えます。					Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
8	事故と謝罪(1)	謝罪言葉と責任の所在という問題について、日米を比較しながら考えます。題材として「えひめ丸事故」を取り上げ、米側からの謝罪がなぜ長い期間行われなかったのかという問題を、文化的視点から考えます。					えひめ丸事故について調べる/授業プリントの復習(4時間)				
9	事故と謝罪(2)	謝罪行動の日米での違いを、「ファイアストンタイヤ破裂事故」を題材にして考えます。フォード社とプリヂストン社の対応の違いは、深い文化的な問題に根ざすものであることを学びます。					「ファイアストンタイヤ破裂事故」について調べる/授業プリントの復習(4時間)				
10	結婚と離婚の国際比較	初婚年齢や婚姻率の国際比較から、結婚というものを取り巻く諸文化を学びます。また日本における結婚は伝統的に「家と家」の結びつきである歴史が長かった実態も検証します。また離婚についても考えます。					Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
11	おつりの比較文化論	日本では、おつりは引き算で渡されますが、欧米では足し算で渡されていることを学びます。そしてこの社会習慣の違いの背景には、売り手と買い手の間の信用関係が深く関係していることを検証して行きます。					Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
12	決済方法の比較文化論	決済方法の選択にも、売り手と買い手の間の信用関係が深く関係していることを学びます。そして、この問題が小切手や口座振替の普及率と密接に関連していることを検証して行きます。					Culture Assimilatorの予習/授業プリントの復習(4時間)				
13	広告の比較文化論	同じメーカーの洗顔クリームを題材にして、日米の広告を比較します。広告の仕方やキャッチフレーズの違いの背景には、売り手側の会社と買い手側の消費者との人間関係の捉え方の違いがあることを学びます。					Culture Assimilatorの予習/同一商品の広告を、日米で比較する。(4時間)				
14	仕事と職場の文化論	会社と従業員の関係が、日米の経営スタイルにも影響していることを学びます。題材として、日本の自動車メーカーが米国に進出した際の事例を取り上げ、個人と会社の関係、仕事と職場の文化について考えます。					Culture Assimilatorの予習/映画『Gung Ho』について調べる。(4時間)				
15	個人と集団の関係	童話「アリとキリギリス」を題材に、日本では従来、異文化的改変が施された翻訳が広く読まれていた実態を検証します。そして、社会における個人と集団の関係が、日本と欧米では大きく異なることを学びます。					家にあるイソップ童話を調べる/意図的な改変が施された翻訳事例を調べる。(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
独自のプリント教材を作成し、毎回の授業で配布します。						受講態度：30% 定期試験：70% S：探求心を持って授業に参加し、各回の講義で学んだことを正しく理解し、課題に対して自分なりの解決方法を見つけ出すことができる。A：探求心を持って授業に参加し、各回の講義で学んだことを正しく理解し、課題に対して解決方法を見つけ出すことができる。B：授業に参加し、各回の講義で学んだことを理解し、課題に対して解決方法を考えることができる。C：授業に参加し、講義で学んだことを理解し、課題に対して解決方法を探ることができる。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
なし						この講義では、異文化衝突の場面において、どのような問題があり、いかなる解決方法があるかを考えてもらいます。「課題解決能力」					

科目名	文化人類学	学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ <sup>1</sup> リング	UL33404	研究室	W-03	
担当者	福島 智子	必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア <sup>2</sup>	水曜日3限			
関連資格				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)								
		A	B	C						
	○									
授業概要										
異文化を知ることで自らを確認し、その上で両者を相対化しうる感受性を多少でも身につけること。これが本講義のめざすところです。あたりまえの世界を疑い、文化とは何かを考えます。文化人類学は難しい学問ではありません。抽象度の高い理論についても触れますが、基本的には身近にある(「理由はわからないけど、そうなっている」)事例を捉えなおして試みるのが重要です。内容については講義計画を参考にしてください。										
学修到達目標										
自身が属する集団(地域社会、日本)の文化を理解し、異文化を学ぶことで自文化を相対化できる。										
授業の進め方										
講義形式で行います。講義で学んだ視点から各自の生活を振り返ってもらうため、講義後に小レポートを課す場合があります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	文化人類学とは	文化人類学とは何か概説します。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
2	文化相対主義と自文化中心主義	文化の捉え方である文化相対主義と自文化中心主義について概説します。					事例研究として各自リサーチする。(4時間)			
3	文化相対主義とFGM	事例研究としてFGM(Female Genital Mutilation)を取り上げます。					ドキュメンタリー映像に対する意見をまとめる。(4時間)			
4	神話(1)	神がこの世を作る話である神話(物語)の構造について学びます。					具体的な神話を取り上げ、調べる。(4時間)			
5	神話(2)	神話の具体的な事例を紹介します。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
6	信仰と世界観(1)	世界宗教と民族宗教、一神教と多神教など、宗教の分類について学びます。					配布資料を読み、下調べをする。(4時間)			
7	信仰と世界観(2)	呪術とは何か、その定義、分類、目的を学びます。					配布資料を読み、下調べをする。(4時間)			
8	信仰と世界観(3)	妖術とは何か、その定義、分類、目的を学びます。					配布プリントの要点をまとめる(4時間)			
9	信仰と世界観(4)	日本人の宗教観の特徴について概説します。					配布資料の要点をまとめる。(4時間)			
10	通過儀礼	人が一生のうちに経験する通過儀礼とは何かを学びます。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)			
11	文化と身体(1)	葬送儀礼について学びます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
12	文化と身体(2)	事例研究として特定の地域の葬送儀礼を取り上げます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)			
13	病気と治療の文化人類学：総論	病気と治療をテーマとした文化人類学について概説します。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)			
14	病気と治療の文化人類学：各論	特定の地域の治療実践を、文化人類学の観点から紹介します。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)			
15	まとめ	講義全体のまとめ					総復習(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
さまざまな具体的事例を通して考えるという科目の特性からテキストは指定せず、プリントと資料を配布します。		定期試験：60% 課題：40% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「文化人類学」波平恵美子編(医学書院)		同一テーマで講義が続いている場合は欠席しないように心がけてください。毎回の講義終了前に、次回講義の概要について説明します。予習の指示がある場合は、必ず予習をしてから講義に臨んでください。								

科目名	音楽の歴史と鑑賞			学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	UL33405	研究室	A-19
担当者	安藤 江里			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限、木曜日2限、金曜日4限		
関連資格				履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
○		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
西洋音楽史や日本の伝統音楽の歴史をたどりながら、西洋から影響を受けた日本の音楽の現状についても触れ、邦楽と洋楽の音律の違いや楽器の違いなどを通じて、様々な文化を理解し音楽の多様性を感じ取り、学んでいく授業です。											
<b>学修到達目標</b>											
それぞれの時代や地域を代表する楽曲をCDまたはDVDで鑑賞しながら、時代の流れと共に音楽がどのように発展してきたのか、また人間の生活との関わりについて捉え、レポートすることができること。											
<b>授業の進め方</b>											
西洋音楽史や日本の伝統文化を中心に、それぞれの時代を代表する楽曲をCDまたはDVDで鑑賞します。毎回テーマに沿って聴く観点を説明し特徴を捉えやすくし、ワークにまとめたり実際歌ったり楽器に触れたりもし能動的な活動を取り入れます。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス 音楽の始まり	授業の進め方についての説明とアンケート、音楽の始まりとして古代ギリシャから中世、ルネッサンスの音楽を紹介します。グレゴリア聖歌を歌います。					自分の生活における音楽の意味について考えてくる。(4時間)				
2	バロックの音楽	楽器の発達や作曲技法について学び、ピバルディ、バッハ、ヘンデルの楽曲を鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
3	古典派の音楽(1)	ハイドン、モーツァルトの器楽曲からソナタ形式について学びます。またオペラにも触れます。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
4	古典派の音楽(2)	ベートーベンの交響曲を鑑賞し、第九を歌います。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
5	ロマン派の音楽(1)	シューベルト、シューマン等の歌曲を中心に鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
6	ロマン派の音楽(2)	ブラームス、ショパン等の器楽曲を中心に鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
7	オペラ	イタリアオペラからワーグナーの楽劇までを概観します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
8	バレエ音楽	チャイコフスキーの3大バレエ曲を中心に鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
9	国民楽派その他	様々な国を代表する作曲家と代表作を紹介します。標題音楽にも触れます。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
10	印象派 フランス音楽	ドビュッシーを中心に、フォーレ、ラベルの楽曲を絵画や文学と関連させて鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
11	20世紀の音楽 無調音楽	新ウィーン学派やストラヴィンスキーなどから調性の崩壊と12音技法の音楽を紹介します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
12	アメリカ音楽	ジャズ、ポップ、ロック、ラテン音楽を鑑賞し体験します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
13	日本の伝統文化について(1)	雅楽、宗教や政治との関わり、能等について概観します。様々な楽器も体験します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
14	日本の伝統文化について(2)	琴、尺八などの楽器、歌舞伎について鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
15	現代の音楽	明治以降の西洋音楽の影響を受けた日本の現代曲を鑑賞し、総括します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>							
適宜プリントを配布します。				受講態度：50% レポート：50% S:意欲的に課題に取り組み、学習内容をすべて理解し文章表現できる。A:意欲的に課題に取り組み、学習内容を概ね理解し文章表現できる。B:意欲的に課題に取り組み、学習内容をまとめることができる。C:課題に取り組み学習内容をまとめることができる。							
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
「はじめての音楽史 増補改訂版」久保田慶一 他著(音楽之友社) 「もう一度学みたいクラシック」西村理 監修著(西東社)				CDやDVDを鑑賞しながら、実際歌ったり演奏もします。私語を慎み、意欲的に読んでください。毎回プリントを配布しますので自己管理してください。							

科目名	海外研修		学年学期	1・2・3・4年通年	単位数	2	ナバリング	UL13406	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
		○								
授業概要										
本授業は、事前学修、現地研修、事後学修から構成されています。事前学修では、シャイネスを克服するプログラム、研修先について発表するプログラム、英会話プログラムで構成されています。単位取得には現地研修に参加する必要があります。現地研修先は、オーストラリアのニューカッスル大学での語学学修とホームステイによる異文化体験を予定しています。また、この現地研修は神奈川の湘北短期大学との共催プログラムです。事後学修では、現地研修の成果について発表し、報告書を作成します。										
学修到達目標										
授業は、異文化対応力を向上させることを教育目的としています。本授業では、2～4週間、現地の家庭や大学寮に滞在して学修しますが、この異文化体験を通して生きた外国語力の向上と異文化理解を深めます。したがって、本授業の到達目標は、「言語と非言語により、異文化の相手を尊重しつつ自分の考えを明確に伝えることができる」ことであり、これをアクティブに学びます。										
授業の進め方										
事前学修と事後学修は、座学による授業と双方向型授業を組み合わせで行われます。また、授業日時は不規則で、外部講師による土曜日等にも開講されます。現地研修のプログラムや費用等は開講時に提示しますが、人数制限をする場合があります。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	グローバル社会	グローバル化する現代社会について理解し、そこで求められる能力について考える。				渡航先の政治・経済・社会について調べ、報告の準備をする。（1時間）				
2	渡航先の政治・経済・社会	各自が調べた渡航先の政治・経済・社会について、パワーポイントを用いて発表する。また、相互に評価を行い発表の改善をする。				発表した内容をレポートに整理する。現地研修の課題・目的についての報告を準備する。（1時間）				
3	現地研修に対する抱負	現地研修での各自の課題・目的について、パワーポイントを用いて発表する。また、発表について、相互に評価を行う。				発表した内容をレポートに整理する。（1時間）				
4	シャイネス克服	外部講師によるプログラム。役者になりきり、大きな声、動作で自分を表現し、コミュニケーションを図る。				グループで役割を決め、発表の準備をする（創作漫才、寸劇等）。（1時間）				
5	シャイネス克服	グループで役割を決め、発表の準備をする（創作漫才、寸劇等）。				グループでの発表を英語で発表出来るように準備をする。（1時間）				
6	サバイバルイングリッシュ	英語でのグループ発表（漫才、寸劇等）。相互に評価を行います。旅行等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。				決まった英語フレーズを暗唱し、旅行等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。（1時間）				
7	サバイバルイングリッシュ	英語でのグループ発表（漫才、寸劇等）。相互に評価を行います。買い物等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。				決まった英語フレーズを暗唱し、買い物等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。（1時間）				
8	渡航準備と研修目的の明確化	英語でのグループ発表。危機管理等、海外の状況や現地の状況について理解するとともに、再度各自の課題や目的意識を明確化する。				外務省等の渡航情報等により、危険な場所等を把握する。各自の研修目的を再確認する。（1時間）				
9	現地研修	クラス分け試験等。ホームステイ先ファミリーとの顔合わせ、学生寮での入寮プログラム。（1日～2日目）				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間）				
10	現地研修	午前中は通常の語学授業。午後は各種アクティビティ参加。小旅行にも出かけます。（3日～4日目）				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間）				
11	現地研修	午前中は通常の語学授業。午後は世界遺産、地域社会等見学。（5日～6日目）				授業準備と宿題対応。日誌を作成する（4時間）				
12	現地研修	午前中は通常の語学授業。午後は伝統文化の見学、体験、並びに自然観察等。（7日～8日目）				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。（6時間）				
13	現地研修	午前中は通常の英語授業。午後は買い物等で外国語の実践。（9日～10日目）				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。報告書の準備をする。（6時間）				
14	体験報告	日誌、報告書の提出と、それに基づく各自の課題・研修目的、成果についてのパワーポイントでの発表。相互に評価をおこない、発表力の向上を図ります。				日誌、報告書の提出準備と発表準備。体験報告を英語で準備する。（1時間）				
15	体験報告	前回の体験報告を改善し、研修先の外国語で発表する。また、ビデオ、DVDで保存するとともに、記念誌を作成する。				外国語原稿の準備。振り返りによる自己肯定感を涵養する。（1時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
開講時に指示されます。また、適宜、プリント等の資料が配布されます。				受講態度：30% 定期試験：20% レポート：20% 実技：30% 「受講態度」には発表等、「定期試験」には小テスト、「レポート」には事前・事後学修のレポート、「実技」には現地研修の評価が含まれます。また、評価「S」は、外国語と日本語で円滑なコミュニケーションや発表ができる。評価「A」は、外国語と日本語で伝えたいことを明確に伝えることができる。評価「B」は、外国語と日本語で伝えたいことを伝えることができる。評価「C」は、外国語と日本語で簡単な内容を伝えることができる。以上が目安です。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
現地の教室で配付されるプリント、各種案内パンフレット				本授業では、海外での研修も行われることから多くのリスク（危険）が想定されます。そこで、現地研修の参加の可否については、受講状況に加えて、必要に応じてゼミ担当教員や語学教員等の意見を参考に決定します。						

科目名	海外研修		学年学期	1年通年	単位数	2	ナパ`リッ`	UL13407	研究室	
担当者	各教員		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ`			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		○								
授業概要										
この授業における海外研修は、Self-planningを基軸としています。このSelf-planningとは、すでに決められたプログラム内容を享受するのではなく、参加学生は自ら研修内容を創造することから始めます。具体的には、学期初めに参加者を公募し、その後、参加学生と担当教員により、目的地、研修内容、費用等を議論して、単位付与に見合う一つの研修にまとめ上げ、手配旅行社の担当者との協議の上、海外研修を実施します。										
学修到達目標										
*積極的に議論に参加するスキルを身につける。 *目的を遂行する力、そして、他者との協働性を身につける。 *観光ホスピタリティ学科の学生にとっては、旅の企画力が身につく。また、総合経営学科の学生にとっては、企画立案や実施を通して、マネジメント力が身につく。 *異文化に接することにより、視野を広め、語学習得の良い刺激となる。										
授業の進め方										
参加学生が決まり次第、担当教員の指導の下、研修内容の議論に入る。定期的に集まり、企画をプランニングしていく。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	研修内容に関する議論	目的地に関する議論				研修の目的を自問自答する(4時間)				
2	研修内容に関する議論	目的地に関する議論				研修の目的を確認する(4時間)				
3	研修内容に関する議論	研修の具体的な内容に関する議論				目的に沿った研修内容を考える(4時間)				
4	研修内容に関する議論	研修の具体的な内容に関する議論				目的に沿った研修内容を考える(4時間)				
5	研修内容に関する議論	研修の具体的な内容に関する議論				目的に沿った研修内容を考える(4時間)				
6	費用等に関する議論	手配旅行社を交えての議論				費用対効果などを考える(4時間)				
7	費用等に関する議論	手配旅行社を交えての議論				費用対効果などを考える(4時間)				
8	研修先の事前学習	研修先の文化、社会情勢などの学習				インターネットや書物などにより下調べをしておくこと(4時間)				
9	研修先の事前学習	研修先の文化、社会情勢などの学習				インターネットや書物などにより下調べをしておくこと(4時間)				
10	現地研修	研修内容の実施				日誌の作成(4時間)				
11	現地研修	研修内容の実施				日誌の作成(4時間)				
12	現地研修	研修内容の実施				日誌の作成(4時間)				
13	現地研修	研修内容の実施				日誌の作成(4時間)				
14	現地研修	研修内容の実施				日誌の作成(4時間)				
15	体験報告	日誌、報告書の提出と、それに基づく各自の課題・研修目的、成果についてのパワーポイントでの発表。				日誌、報告書の提出準備と発表準備。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
開講時に指示されます。また、適宜、プリント等の資料が配布されます。				レポート:20% 実技:60% 課題:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題を終了している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
適宜指示します				本授業では、海外での研修も行われることから多くのリスク(危険)が想定されます。そこで、現地研修の参加の可否については、授業担当教員とゼミ担当教員等の所見などを参考に決定します。						

科目名	海外事情		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL13408	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C	2017年度～				
		○								
<b>授業概要</b>										
本授業は、海外の協定校等の教員が、自国の政治・経済・社会・文化などについて講義する授業です。今年度は、中山大學(中華人民共和国)の先生と、東新大學(大韓民国)の先生が講義する予定です。現代社会は、他国との相互依存関係が政治的にも経済的にも、また文化的にも深化してきています。授業内容の詳細は開講時に提示します。										
<b>学修到達目標</b>										
本授業の到達目標は、「国際社会に目を向け、国際社会の一員としての日本の立場について学ぶとともに、特に中国や韓国などのアジア地域における日本の立場について自分の意見を説明できる」ことです。授業では、毎回簡単なレポートを提出しますので、文章力や表現力、「論理的思考」や「コミュニケーション力」の育成も図ります。										
<b>授業の進め方</b>										
授業は日本語による集中講義形式で行われます。また、時期は夏休みの1週間程度を予定しています。授業は、授業計画に従って進められますが、担当者や内容、順番等については変更になる可能性があります。変更等については随時連絡します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業の概要	授業の概要説明と講師紹介、中国の中山大學、協定校の嶺南師範学院と韓国の協定校の東新大學の紹介等を行います。				ICTを活用し、指示されたプリントで講義内容を予習すること。(4時間)				
2	中国の歴史	前半の7回は「中国の事情」を講義します。ここでは、中国の現状を歴史的な視点を含めて解説します。				配布プリント等を参考に中国近代史について把握する。(4時間)				
3	中国の現状	ここでは、中国の現状を説明します。特に、生活、流行、等、文化的な面を取りあげます。				配布プリントやインターネット等により授業内容の理解を深め、発表の準備する。(4時間)				
4	中国の経済(現状)	中国の経済状況について説明します。中国の経済は成長著しい状況にありますが、格差の問題等、様々な経済的な問題を抱えています。これらについて説明します。				配布プリントやインターネット等により授業内容を確認し、日本の状況も整理する。(4時間)				
5	中国の経済(将来)	中国の人口は今後減少に転じ、日本以上の少子高齢化社会になることが懸念されています。ここでは、中国の経済の将来について考えていきます。				現存する日中間の課題について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
6	中国の教育(制度)	中国の教育制度について解説します。また、中国の高等教育改革の現状について説明します。				わが国の高等教育についてその課題を調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
7	日中の教育比較	中国と日本の教育制度や教育内容の比較を通して、高等教育の在り方を考えます。また、受講者にも学生時代に何をしておくべきかを考えてもらいます。				受講者各自が、学生生活に関するレポートを作成する。(4時間)				
8	まとめ	これまでの講義のまとめを行います。また、質疑応答を通して中国の実情の理解を深めます。				中国について理解したこと、考えたことについてレポートにまとめる。(4時間)				
9	戦後の韓国社会(民主化)	戦後の韓国社会の民主化の過程について講義します。また、これを通して韓国社会についての理解を深めます。				配布プリント等で授業内容を確認し、理解を深める。(4時間)				
10	民主化と韓国社会	韓国の民主化に関するビデオを鑑賞し、韓国の民主化について理解を深めるとともに、民主化の意味を考えます。				韓国社会の歴史について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
11	韓国社会の現状と将来	韓国における民主化の現状と将来について考えていきます。また、日本の民主化や国際社会における民主化についても考えていきます。				世界の民主化運動について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
12	戦後の韓国経済	1990年代までの韓国経済の軌跡について解説すると共に、韓国の財閥が韓国の社会や経済に与える影響等について説明します。				世界の民主化問題についての報告の準備する。(4時間)				
13	韓国経済の現況	1997年のアジア通貨危機以降の韓国経済の状況に焦点を絞って説明します。				アジア通貨危機について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
14	韓国の高等教育	韓国の教育制度について説明するとともに、大学等の高等教育の現状について解説します。また、韓国の学生の就職についても言及します。				わが国の高等教育の状況について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
15	日中韓の諸問題	これまでの授業内容を参考にして、中国、韓国、日本の教員と学生諸君がいくつかのテーマを出し合い、議論をします。				議論内容をレポートとして提出する。(4時間)				
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>							
プリント等を配布します。			出席レポート：40% レポート：30% 受講態度：30% 本授業での受講態度は、留学生等との積極的な意見交換や、自分の意見の発表を含みます。評価の目安は次のようになっています。「S」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて論理的に整理した内容で意見交換ができる。「A」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて意見交換ができる。「B」は、授業内容を理解し、自分の意見を述べる事ができる。「C」は、授業内容をある程度理解して、自分の意見を述べる事ができる。							
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
プリント等を配布します。			本授業は海外の大学の教員との連携授業です。従って、本務校の事情や本学の学生の事情により、お願いする講師の変更や開校日の日程が変更になることもあります。日程変更等は掲示等で随時連絡します。							

科目名	海外事情		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL13409	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学生年度（読替科目）					
			A	B	C	2017年度～				
		○								
<b>授業概要</b>										
本授業は、本学の教員と海外の協定校等の教員が、自国の政治・経済・社会・文化などについて講義する授業です。今年度は、本学の教員以外に、アジア諸国の教員や、欧米の教員にお願いする予定です。現代社会は、他国との相互依存関係が政治的にも経済的にも、また文化的にも深化してきています。本授業では、政治・経済・社会の変化を中心に講義しますが、授業内容の詳細は開講時に提示します。										
<b>学修到達目標</b>										
本授業の到達目標は、「国際社会に目を向け、国際社会の一員としての日本の立場について理解することと、日本と国際社会の関係について自分の意見を持ち、これを表現できること」です。また、米国や欧州に対する知識を深め、興味を持つことも目標としています。授業では、毎回簡単なレポートを提出しますので、文章力や表現力、「論理的思考」の育成も図ります。										
<b>授業の進め方</b>										
授業は日本語や英語による集中講義形式で行われます。また、時期は冬休みの1週間程度を予定しています。授業は、授業計画に従って進められますが、担当者や内容、順番等については変更になる可能性があります。変更等については随時連絡します。										
<b>授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業の概要	授業の概要説明と講師紹介。				講師が所属する国や大学等について調べ、整理する。（4時間）				
2	アジア・欧米の政治史	アジアや欧米の政治史について講義します。				事前に欧米の政治史について整理する。（4時間）				
3	アジア・欧米の経済史	アジア・欧米の経済史について講義します。				アジア、欧米の経済史について事前に整理する。（4時間）				
4	アジア、欧米の社会史	アジア、欧米の社会史について講義します。				アジア、欧米の社会史について事前に整理する。（4時間）				
5	アジア、欧米の文化史	アジア、欧米の文化について講義します。				欧米の文化史について事前に整理する。（4時間）				
6	アジア、欧米の学校制度	アジア、欧米の学校教育の歴史や制度について講義します。				ICT等を活用して欧米の学校制度について調べ、整理する。（4時間）				
7	アジア、欧米の高等教育制度	アジア、欧米の高等教育制度と教育改革について講義します。				ICT等を活用して欧米の高等教育制度について調べ、整理する。（4時間）				
8	アジア、欧米の高等教育改革	アジア、欧米の高等教育改革について、教育手法と評価手法の観点から講義します。				ICT等を活用してパフォーマンス評価等について調べ、整理する。（4時間）				
9	欧州の政治情勢（ ）	欧州における難民問題について、現状を講義します。				ICT等を活用して難民問題、シリア問題等を調べ、整理する。（4時間）				
10	欧州の政治情勢（ ）	英国のEU離脱問題とその影響について講義します。				ICT等を活用して、英国のEU離脱問題について調べ、整理する。（4時間）				
11	欧州の経済情勢	EU域内のインバランス問題とEU経済の現状について講義します。				インバランスについて調べ、整理する。（4時間）				
12	北米の政治情勢（ ）	米国のトランプ政権下の政治情勢について講義します。				ICT等を活用してトランプ政権誕生による社会の変化について調べ、整理する。（4時間）				
13	北米の政治情勢（ ）	米国とカナダ、メキシコの関係の変化について講義します。				ICT等を活用して北米での自由貿易圏について調べ、整理する。（4時間）				
14	欧米の政治・経済と日本	欧米の政治、経済的变化が日本経済、社会に与える影響について講義します。				これまで整理したレポートを参考に各自で日本への影響について整理する。（4時間）				
15	まとめ	これからの欧米社会の方向性と日本社会の今後について、受講者全員で議論します。				議論内容についてレポートに整理する。（4時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
プリント等を配布します。				出席レポート：40％ レポート：30％ 受講態度：30％ 本授業での受講態度は、パワーポイント等による発表を含みます。評価の目安は次のようになっています。「S」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて論理的に整理した内容で意見交換ができる。「A」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて意見交換ができる。「B」は、授業内容を理解し、自分の意見を述べるができる。「C」は、授業内容をある程度理解して、自分の意見を述べるができる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
プリント等を配布します。				本授業は、本学の教員とアジアと欧米を中心に外国の教員等が連携して実施する授業です。海外の大学の多くは9月新学期ですので、担当する教員、授業の日程が確定するのは9月以降です。また、英語による授業の場合もあります。						

科目名	自然と産業			学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	UL13501	研究室	W-15
担当者	田開 寛太郎			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)、中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
私たちの暮らしは豊かな自然の上に成り立っています。祖先が自然とともにどのように暮らし、そしてどのように自然を開発してきたか。この先に高齢化や人口減少を迎える中、地域の産業発展には自然環境といった地域資源を活かした地域づくり人づくりが求められています。本講義では、自然の各循環と基本的なしくみ、そして産業との関わりを理解し、国内外の事例をみながら自然環境を取り巻く現代的課題について考えます。											
<b>学修到達目標</b>											
「自然と産業」とは何かを理解するとともに、自然資源の循環と廃棄や資源活用のしくみについて考え、それらの意義について論じることが出来るようになることを目指します。											
<b>授業の進め方</b>											
各回の講義は新聞記事などの事例を用い、課題を図式化したり、映像を投影したりして、想像を膨らませながら進めます。各回、課題をワークシートに記入しディスカッションする等の作業を併いながら、能動的に講義を展開します。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標、授業の進め方、評価の仕方、履修上の注意などを説明します。					シラバスの理解と授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
2	自然のしくみ1 水と大気	水と大気の循環(水資源、浄化作用)と、それに関する身近な地域課題を学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
3	自然のしくみ2 岩石	岩石の循環と地質(道路、開発)と、それに関する身近な地域課題を学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
4	自然のしくみ3 生態系	生物の循環と生態系(生態系サービス)、それに関する身近な地域課題を学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
5	自然と産業の基礎1 里地里山の定義	里地里山は、農林水産業などの人間の営みにより長い年月にわたって維持されてきた二次的自然地域です。里地里山に関する基礎的なことを学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
6	自然と産業の基礎2 里地里山と新炭エネルギー	地域の自然資源の利用の歴史的変遷について学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
7	自然と産業の基礎3 里地里山と水辺	人間の暮らしのまわりの身近なところにある水辺・湿地環境について学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
8	自然と産業の展開1 自然と観光	地域の自然資源を活用した持続可能な観光などの新しい観光のあり方を探ります。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
9	自然と産業の展開2 人と自然の共生	「共生」の概念についての理解を深めるとともに、自然環境保全の視点から学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
10	自然と産業の展開3 グローバリゼーション	グローバリゼーションが生む産業が資源や環境、私たちの生活に与える影響について、環境問題の視点から学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
11	自然を活用する具体的な提案1 地方創生と持続可能性	地域づくりを進めるための自然資源の活力向上について考えるとともに、現状と課題を見つめます。					指定する参考書を読んでおき、授業を振り返りノートにまとめる(4時間)				
12	自然を活用する具体的な提案2 生物多様性保全と農業	具体的な事例(野生生物の野生復帰と環境創造型農業等)をもとに、自然環境を考える農業の取組について学ぶとともに、現状と課題を見つめます。					指定する参考書を読んでおき、授業を振り返りノートにまとめる(4時間)				
13	自然を活用する具体的な提案3 野生動物管理と産業	里地里山の衰退と急増する野生動物を踏まえて地域づくりにおける野生動物(管理)を考えるとともに、現状と課題を見つめます。					指定する参考書を読んでおき、授業を振り返りノートにまとめる(4時間)				
14	自然を活用する具体的な提案4 自然災害と復興	自然災害からの復興の事例をもとに、自然環境保全と市民参加を通じた地域産業の新たな構築を考えるとともに、現状と課題を見つめます。					指定する参考書を読んでおき、授業を振り返りノートにまとめる(4時間)				
15	総括と補論	自然の開発と保護の観点から持続可能な成長を志向した新たな産業のあり方を探ります。					自分の意見を小レポートとしてまとめる(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
教科書は指定しません。						受講態度：20% 課題：20% 定期試験：60% S:授業内容を自主学習から深く探求した上で、実際の社会現象に対して課題と解決の視点を明確かつ現実的に述べるができる。A:授業内容を理解し、社会現象に対する課題抽出および解決の意見を明確に述べるができる。B:授業のおよそを理解し、その課題と解決策を述べるができる。C:授業内容の6割を理解し、課題が何か述べるができる。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
必要に応じて本講義中に参考となる学術論文、書籍を紹介します。						1年生の皆さんにとって大学の講義は時間が長いうえ、内容も正解がひとつでなく複雑で深い学びとなります。身近な事例や時事問題を扱いますので、日頃より地理的理解を深め、普段からニュースを見ましょ。					

科目名	環境問題B（観光）		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	UL13502	研究室	W-15
担当者	田開 寛太郎		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	木曜日3限		
関連資格	中一（社会）、高一（地歴）				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
<b>授業概要</b>										
地球環境問題は全ての人々が被害者であり加害者である、とても複雑に絡み合った問題です。特に近年の地球温暖化、人口爆発、生物種の減少は、地球の歴史上類を見ないスピードで進んでおり、環境の急激な変化が人の生活へ与える影響がとても大きいとされます。本講義では、はじめに本来の自然の生態系のしくみを理解し、次にグローバルな視点からデータを基に環境の現状を捉えつつ、最後に組織や個人が何をすべきかという課題を取り上げます。										
<b>学修到達目標</b>										
さまざまな環境問題に対して私たちは今一体何をしたらよいかについて、自身の生活や経験と関連付けながら考えることが出来るようになることを目指します。										
<b>授業の進め方</b>										
テキストを横断的に使用し、補足としてレジュメ程度の配布資料（参考資料）、プレゼンテーションや映像動画などの各種教材を使いながら講義を進めます。環境問題は分野が横断的で情報量が多いため、試験学習はテキストを利用してください。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	今なぜ環境の時代か	環境問題が世界的なテーマとして議論され久しいですが、全ての人に関わる問題としてどのような視点から学ぶか説明します。				テキスト第1章を読む。配布資料を復習する（4時間）				
2	データから見る地球環境問題	21世紀になり地球環境問題に関するデータを多くの人が見ることが出来る時代となりました。その傾向と課題について学びます。				テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
3	地球温暖化問題	急激な気候変動という不安定さをもたらす地球温暖化問題について、原因や対策を考えます。				テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
4	日本の公害の歴史	1970年代に日本が公害先進国として名をさせた事例に基づき、展開と結果を参考に、解決の方法について考えます。				テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
5	森林破壊、水大気の循環	世界規模の森林破壊の問題と、国内の森林の質の低下の問題を合わせて考えます。また、水大気の循環システムを学びます。				テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
6	生物多様性の減少	生物の循環システムを学ぶとともに、著しく生物多様性が減少している現代の問題についてデータをもとに考えます。				テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
7	廃棄物問題	日本の廃棄物処理の現状について、データをもとにその問題と解決方法について学びます。				テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
8	エネルギー問題	日本のエネルギー自給率は世界的にみると低く、エネルギーがもつ性質や問題点、対策について学びます。				テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
9	自然エネルギーと地域づくり	東日本大震災以降、新エネルギーや地域単位での取り組みについて注目が集まっています。その現状と課題を学びます。				テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
10	農と食糧、地球資源の枯渇	グローバルな時代において、安心安全の食への課題や、魚や植物などの資源の枯渇が課題となっていることを学びます。				テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
11	解決に向けて1 国際的な環境への取組み	1970年以降、世界会議が10年に1度行われるなど、国を超えた環境への取り組みがあることを学び、我が国の姿勢を考えます。				テキスト第2・3章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
12	解決に向けて2 企業・社会の環境への取組み	産官学民が進める環境への対応について例を挙げ、知識を得るとともに、今後の課題について考えます。				第3章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
13	解決に向けて3 ライフスタイルの変換	個人でできる、家族で取り組む身近な環境対策のあり方について紹介し、取り組み方法を考えます。				第4章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
14	解決に向けて4 環境教育と持続可能な開発のための教育	環境問題を解決するための方法の一つとして教育がありますが、持続可能な開発のための教育とは何かを、環境教育と合わせて学びます。				第4章の該当部分を読む。配布資料を復習する（4時間）				
15	まとめ 地域固有の環境問題	日本および長野県における環境問題を再度整理し、地球環境問題との関連や今後の課題について学びます。				小レポートを作成する（4時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「ECO検定公式テキスト」東京商工会議所編著 ISBN:978-4-8207-4487-0 各自で購入してください。				定期試験：60% 出席レポート：30% 課題：10% 課題は小レポートとします。S：内容を高度に理解し、実社会での出来事と地球規模の課題を関連付け、批判的な視点をもちながら、正確に文章で表現することができる。A：探求姿勢を持って課題に取り組み、内容を正確に理解し、各要素を関連付けた視点で、正確に文章で表現することができる。B：内容をおおむね理解し、要素を関連付けた視点で、文章化できる。C：授業の内容を6割以上理解し、自分の意見を文章化できる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
受講する人は普段から新聞を読んだり、ニュースを見たりするよう心がけてください。				受講する人は普段から新聞を読んだり、ニュースを見たりするよう心がけてください。						

科目名	自然地理			学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	UL33503	研究室	
担当者	柳町 晴美			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
自然地理に関する知識を深めることを目的とします。気候に関連した内容を中心に、気候の地域差をもたらす要因、グローバルスケールの気候、日本の気候、長野県の気候、身近な松本平の気候へと気候の特徴を考察します。地域によって気候は多様であるとともに、共通性もあること、気候は人間生活にどのように影響するのか、逆に、人間活動が環境を改変し、ヒートアイランド現象や地球温暖化をもたらしたことが、気候と地形の関係について学びます。											
学修到達目標											
気候の地域差をもたらす要因、地球温暖化などの気候に関連した現在直面する環境問題、気候と地形との関係について説明できるようになること。											
授業の進め方											
自然地理に関する講義を展開します。自然と人間との関わりについてのレポートを作成し発表してもらいます。ほぼ毎回、授業内容に関する小テストを実施します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス、地図に関する基礎知識	自然地理に関する講義概要、学修到達目標、講義の進め方、授業計画、成績評価の方法などについて説明します。地理の学習上の基本ツールである地図について、様々な例を紹介しします。					関連の資料、Webサイトを紹介しします。内容を確認して予習して下さい。4時間				
2	気象、気候、風土	基本的な用語、気象、気候、風土などについて解説します。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
3	気候の地域差をもたらす要因	気候の地域差はどのようにして生じるのかを考えます。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
4	世界の気候1 大気大循環	世界の気候の特徴を大気大循環(風系)から見ていきます。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
5	世界の気候2 気候区分	同じ特徴を持つ地域に世界を区分する世界の気候区分について紹介しします。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
6	日本の気候1 日本の気候の特徴	日本の気候はどのような特徴を持っているのか解説します。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
7	日本の気候2 季節区分	日本の季節毎の特徴的な気圧配置と季節区分について解説します。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
8	日本の気候3 気候区分	同じ特徴を持つ地域に日本を区分する日本の気候区分について紹介しします。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
9	長野県の気候	長野県の気候はどのような特徴を持っているのか解説します。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
10	気候と地形1 古気候と地形	古気候、地形に古気候が反映されているのか解説します。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
11	気候と地形2 現在の気候と地形	現在の気候が地形に影響するのか解説します。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
12	地球温暖化とは	地球温暖化について気候データを用いて解説します。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
13	地球温暖化の影響	地球温暖化はどのような影響をもたらすのか解説します。					配布資料、紹介したWebサイト情報で予習して下さい。小テストの答で復習して下さい。4時間				
14	ヒートアイランド現象	ヒートアイランド現象とは何かに関して解説します。					小テストの答で復習して下さい。レポート発表の準備をしてください。4時間				
15	レポート発表、補足、まとめ	作成したレポートを発表してもらいます。講義全体を再考します。					発表内容により各地の自然地理を復習してください。全体を振り返って要点を確認してください。4時間				
テキスト					成績評価の方法・基準						
プリントを配布します。8回目までの内容は、参考書「やさしい気候学」、10・11回目は、参考書「自然地理学」には含まれています。他の回は、気象庁、環境省、IPCCなどのサイトで公表されている資料を参考にしてください。					レポート：20% 定期試験：40% 小テスト：30% 発表10%。S：授業内容を高度に理解し、探究姿勢を持って課題に取り組み、授業内容について他分野でも十分活用できる。卓越した発表を行い授業に貢献している。A：授業内容を十分理解し、熱心に課題に取り組み、授業内容を援用した思考ができる。発表を行い授業に積極的に参加している。B：授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組んでいる。発表を行い理解を深める努力をしている。C：授業内容を60%程度理解し、課題に取り組んでいる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「やさしい気候学 第3版」仁科 淳司著(古今書院) 「自然地理学(第3版)」松原彰子著(慶應義塾大学出版会)					高校で地理を学ばなかった学生も理解できる内容としますが、高校レベルの地理は社会人として必要な常識的な内容を含んでいます。是非この機会に地理を勉強しましょう。						

科目名	基礎統計学 (総合経営学部)		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	UL23504	研究室	W-18
担当者	林 昌孝		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
本講義は、データの客観的な分析手法について学ぶことを目的とします。はじめに、量的なデータおよび質的なデータを整理して検討する方法について講義します。次に、データを集約して全体像を把握する方法について学びます。また、集約された数値の見方と意味について考えます。さらに、サンプルデータを調べる事により全体像となる母集団を把握する手法について基本的な考え方と手法を学びます。										
<b>学修到達目標</b>										
対象となるデータの統計的な特性値を算出することができる。また、特性値をもとにデータの母集団の変化を検証する方法を修得する。										
<b>授業の進め方</b>										
データの整理検討をする分野では、データの分析手法の講義と演習を中心とした内容になります。電卓又はパソコンを利用しながら進めます。データから全体像を把握する手法については講義を中心に進め、実践的な問題を解きながら理解を深めます。										
<b>授業計画 (各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	尺度とデータについての基礎知識を説明します。				シラバスとテキストのはじめページを読んでください(4時間)。				
2	量的データの整理	数値で表すことのできるデータの整理と表現方法を学びます。				テキスト(量的データの整理)を読んでください(4時間)。				
3	質的データの整理	数値で示すことのできないデータの整理と表現方法を学びます。				テキスト(質的データの整理)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
4	データを代表する値	データを集約して代表値として表す方法を学びます。				テキスト(統計学のキーワード・分布の特性値)を読んでください(4時間)。				
5	平均と標準偏差	平均と標準偏差の持つ意味と計算方法を学びます。				テキスト(統計量の計算)を読んでください(4時間)。				
6	統計量の計算練習	いろいろな統計量の計算方法の確認と練習をします。				テキスト(分布の特性値と計算練習・問題)を読んでください(4時間)。				
7	正規分布	データの持つ規則性を知ることによりデータの形式が変化することを説明します。				テキスト(確率と確率分布)を読んでください(4時間)。				
8	数値表の使い方	確率分布に従うデータの性質を数値表を用いながら学びます。				テキスト(一様分布と正規分布)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
9	信頼係数と有意水準	統計的有意性について説明して、信頼係数と有意水準の表し方を学びます。				テキスト(信頼係数と有意水準)を読んでください(4時間)。				
10	母集団と標本の定理	母集団と標本間の性質について定理をまじえて説明します。				テキスト(母集団と標本)を読んでください(4時間)。				
11	母平均の推定	標本平均から母平均を知る(推定する)方法について説明します。				テキスト(母平均の推定)を読んでください(4時間)。				
12	t分布を用いた推定	データに制約がある場合の推定方法について説明します。				テキスト(t分布と推定)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
13	仮説検定	統計的な仮説検定の原理と基本手順について説明します。				テキスト(仮説検定)を読んでください(4時間)。				
14	t分布を用いた仮説検定	データに制約がある場合の検定方法について説明します。				テキスト(検定の例題)を読んでください(4時間)。				
15	まとめ	よく使われる統計的仮説検定の方法について説明します。また、今後の発展分野についてまとめます。				テキスト(いろいろな統計的検定)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「基礎統計学テキスト」林昌孝編著(松本大学)(生協で購入してください。)				定期試験:80% 出席レポート:20% S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。C:授業内容の6割程度を理解している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「はじめの統計学」鳥居康彦著(日本経済新聞社)ほか適時紹介します。				数学が苦手な人でも統計的な考え方は必要です。統計学のファンになりましょう。						

科目名	地域環境と生態		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング	UL33505	研究室	S-12
担当者	木藤 伸夫・丸山 文男		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限、水曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
この講義の前半では、環境を構成する要素など環境問題を考えるうえで必要な基礎知識や、環境問題を取り扱う際の方法論などを解説します。後半では、地球上のあらゆる環境で生活している微生物に焦点を当て、微生物の種類や性質などの基礎的なことから、地球環境と微生物の関わり、微生物を利用した環境改善など応用的な面まで分かりやすく概説します。										
<b>学修到達目標</b>										
前半では、天気や気候の変化における大気と海洋の役割を理解し、人間の活動と地球環境の変化の関係を理解することが目的です。後半では、地球全体の物質循環とそれに関わる微生物によって地球環境が維持されていることを理解することが目的です。										
<b>授業の進め方</b>										
配布資料に基づいて講義形式で授業を行います。講義内容を理解するには物理学、化学、生物学、地学などの理系基礎科目の知識が必要です。毎回小テストを行い、授業の理解度を確認します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	太陽系の中の地球	地球大気の起源と進化について学びます。				配布資料を復習します。課題を課し提出を求める場合があります。(第1回~7回まで)(4時間)				
2	大気の鉛直構造	対流圏、成層圏とオゾン層、中間圏、熱圏について学びます。				配布資料を復習します。(4時間)				
3	地球のエネルギー収支	地球のエネルギー収支を理解し温室効果について学びます。				配布資料を復習します。(4時間)				
4	地球をめぐる大気の流れ	風の吹き方を理解し大気の大循環を学びます。				配布資料を復習します。(4時間)				
5	海水の循環	海水の流れを理解し海洋と気候について学びます。				配布資料を復習します。(4時間)				
6	気候変動	エルニーニョ、異常気象について学びます。				配布資料を復習します。(4時間)				
7	地球環境	都市気候、酸性雨、地球温暖化について学びます。				配布資料を復習します。(4時間)				
8	確認テスト	第1回~7回までの内容の理解度を筆記試験で確認します。				これまでに配布された資料などに基づき、講義内容を振り返っておきます(6時間)				
9	環境微生物の進化と環境形成	46億年前に誕生した地球の環境がどのように変化して現在の環境になったかを解説します。「地球と生命の共進化」ともよばれる、地球環境の変化と生物進化の密接な関係を理解することが目的です。				配布資料を復習します。(4時間)				
10	環境微生物が行う各種物質変換の実際	地球レベルでの物質循環を知るために、炭素循環と窒素循環を取り上げて解説します。物質循環には生物が関与しない無機的な循環と、生物が関与するものがあります。違いを明確に理解する事が目的です。				配布資料を復習します。(4時間)				
11	極限環境微生物	微生物は地球上の様々な環境に生息していますが、特に変わった環境(高温、強酸・強アルカリなど)で生きている微生物がいること、私達の日常生活でこれらの微生物がどのように利用されているかを学びます。				配布資料を復習します。(4時間)				
12	地球環境の激変と環境微生物のかかわり	近年問題になっている地球環境の変化、すなわち地球温暖化や、水質、大気、土壌などの環境汚染の原因物質は何か、汚染はどのようにして起こるのかを学びます。				配布資料を復習します。(4時間)				
13	微生物による有害物質除去・分解の原理	微生物を使った環境浄化の方法、特に排水処理法、悪臭処理法、重金属汚染や有機塩素化合物などの除去、分解法などを理解することが目的です。				配布資料を復習します。(4時間)				
14	バイオレメディエーション	微生物による環境浄化(バイオレメディエーション)について学習します。原油や界面活性剤の汚染除去への応用、土壌や地下水の汚染除が実際どのように行われているかを学びます。				配布資料を復習します。(4時間)				
15	食糧生産への微生物利用とバイオエネルギー	人工的な肥料の代わりに微生物を使った農法の有用性を学びます。また、化石資源の代替エネルギーとして注目されているバイオエネルギーについて、メリット、デメリットを学習します。				配布資料を復習します。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
なし				定期試験：100% 地球環境を決める複数の要因をあげることができればC、それらが地球環境にどのような影響を与えるか説明できればB、地球における物質循環やエネルギー収支について説明できればA、現代起こっている様々な環境問題や環境保全、環境改善などについて、自分の考えを述べることであればS。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「地球環境46億年の大変動史」田近英一著(化学同人) ISBN: 978-4-7598-1324-1 「一般気象学」小倉義光著(東京大学出版会) ISBN: 978-4-13-062725-2				物理、化学、生物学、地学のどれか1科目でも良いので、高校で学んだ理系科目を復習しておいて下さい。						

科目名	ごみ処理と循環型社会		学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング	UL33506	研究室	非常勤
担当者	水橋 文雄		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
<b>授業概要</b>										
一番身近な環境問題がごみ問題です。快適なライフスタイルが、大量生産・大量消費・大量廃棄の悪循環の中で、ごみを増やし、地球を汚して来ました。地球のあらゆる資源は有限です。人々はその資源を惜しみなく使い、ごみとして捨てることで経済成長して来ました。今、まさに「成長の限界」(1972.ローマクラブ)が示すとおり社会になっています。そこで、松本市のごみ行政の取り組み状況を参考にして、将来に向かってこのごみ問題とどう向き合うべきかを考えます。										
<b>学修到達目標</b>										
各地で、廃棄物の中間・最終処分場が不足し、廃棄物の安全・安定な処理に支障をきたし、しかも、放射性廃棄物の処理も新たな大きな社会問題となっている中で、廃棄物問題に対する取組みと、その対策を考え、実践し、その成果を検証する能力(PCDAサイクル)を身につける。										
<b>授業の進め方</b>										
パワーポイントやDVD(BR)を利用して講義を進めます。資料はパワーポイントの主な内容をプリントして配ります。また、アウトキャンパスとして、「ごみ焼却場、最終処分場」の見学を予定します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ごみとは	廃棄物の処理及び清掃に関する法律で規定する「ごみ」について説明します。				法律で規定される「ごみ」について調査する。(4時間)				
2	ごみの分別について	ごみの分別(松本市を例に)の必要性と方法について説明します。				各自の出身自治体のごみの分別方法を調査する。(レポート1の提出)。(4時間)				
3	ごみの出し方について	ごみの出し方(ごみ袋・ごみステーション等松本市を例に)について説明します。				各自の出身自治体のごみの出し方を調査する。(4時間)				
4	ごみ処理施設について	一般廃棄物のごみ処理施設の種類と機能と問題点について説明します。				各自の出身自治体のごみ処理施設の種類と規模等について調査する。(4時間)				
5	施設見学(1)	松本市の一般廃棄物の最終処分場(エコトピア山田)を見学します。				見学後に最終処分施設の設置の目的と現状を整理する。(4時間)				
6	施設見学(2)	松本市の一般廃棄物の中間処理施設(松本クリーンセンター)を見学します。				見学後に中間処理施設の設置の目的と現状を整理する。(4時間)				
7	ごみ処理施設整備の課題について	ごみ処理施設整備の問題と課題(松本市を例に)について説明します。				ごみ処理施設整備に対する住民感情について調査する。(レポート2の提出)(4時間)				
8	循環型社会の構築について(1)	持続可能な社会の主要な要素である、循環型社会を構築するために必要な制度について説明します。				持続可能な社会を構築するために何が必要とされるのかを調査する。(4時間)				
9	循環型社会の構築について(2)	ごみ減量(リデュース)施策(松本市を例に)について説明します。				各自の出身自治体のごみ減量施策を調査する。(4時間)				
10	循環型社会の構築について(3)	ごみにしないように物を繰り返し使用(リユース)する施策(松本市を例に)について説明します。				日頃から「もったいない」と感じていることを整理する。(レポート3の提出)(4時間)				
11	循環型社会の構築について(4)	ゴミを減らす為、資源として再生利用(リサイクル)する制度(松本市を例に)について説明します。				日本のリサイクル法について内容と問題点を調査する。(4時間)				
12	廃プラスチック問題について	廃プラスチックが、世界の環境(マイクロプラスチックによる海洋汚染問題等)に与える影響について説明します。				廃プラスチックの回収の必要性と方法について調査する。(4時間)				
13	放射性廃棄物について	放射性廃棄物の処理と保管・埋立の問題点について説明します。				放射性廃棄物の現状と今後の処分方法について調査する。(4時間)				
14	不法投棄問題等について	ごみの不法投棄と有害廃棄物の放置等の状況と対策(松本市を例に)について説明します。				各自の出身自治体における、不法投棄の状況及びその対策について調査する。(4時間)				
15	ごみ処理と循環型社会について(整理)	ごみ処理の問題点(最終処分場等の施設の整備等)と循環型社会の構築(主にリサイクル法の問題点)について整理します。				循環型社会を構築するためには、何をすべきかを整理する。(4時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
必要に応じて、パワーポイントを抜粋した資料を配布します。		受講態度:30% レポート:30% 定期試験:40% 受講態度は、講義毎に提出する受講票による講義への意見の内容を評価に加味します。レポートは3回以上の提出を予定します。提出期限を厳守して下さい。S評価は、成績評価の合計が100となり、レポート提出状況及び受講態度が優秀な場合です。A評価は、成績評価の合計が80以上の場合で、レポート提出状況及び受講態度が良好な場合です。B評価は、成績評価の合計が70以上80未満の場合で、C評価は、成績評価の合計が60以上70未満の場合です。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
特にありません。		国は、循環型社会を構築するために、様々なリサイクル法を制定していますが、その多くを地方公共団体の事務としています。そこで、各地方公共団体の取り組みに関心を持つことがリサイクルを実施する上で大切です。								

科目名	環境社会学		学年学期	3年後期	単位数	2	ナバ`リツ`	UL33507	研究室	非常勤
担当者	江成 康明		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
人々が生きて行くうえで欠かせないのは周囲の環境です。一番身近な家族や仲間、そして自治体や日本、世界、宇宙と環境は広がっていきます。それらと関連しながら生活するには、世の中の動向を意識しなければなりません。今の社会に何が起きているのか、どう対応しなければならないのかを考え、自分を高めていくことが求められています。殺伐とした事件の増加やネット社会にまつわる犯罪などを例に社会学を学び、多層的に研究、発表するのが目的です。										
<b>学修到達目標</b>										
社会を営む時代背景やその国の環境などに自分がどう対応したらいいのかを学び、その中で自らの立ち位置を心がける。みんなが心地よく生活し、生きていくためには一人一人の思いやりや気配りが必要なことを知ることで、社会構成員の一人であることを自覚する。										
<b>授業の進め方</b>										
講義は毎回配布するプリントを基に教室でのディスカッションを中心に進めます。グループ討論やクロスロード(分岐点)のほか、レポートの提出をしてもらいます。更にはフィールドワークや学外専門家を招いての講演会、討論会なども行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	環境社会学とは何か?	環境といっても、「地域」だけを考えるのではなく、それを支える「人間」や「自然」にまで興味を持って対応する必要があります。授業全体の基本となる環境社会学を幅広い視点で学びます。				あなたが思い浮かべる環境社会学のイメージを事前に考えて下さい。(4時間)				
2	地域環境と民度の関係性	第一回授業で提出したレポートから様々な意見や提案をピックアップし、学生自身が社会の一員として環境社会学をどう捉えているかを探ります。そのうえで、人間としての役割を考えていきます。				新聞のコピーを読んで、事後に感想を書いてもらいます。(4時間)				
3	ネット社会で変化する社会	日本人は思いやりや気配りのある人種と言われていました。しかし、ネット社会の到来で変化してきました。社会の動きに真剣に向き合わなければなりません。ネットで陥りやすい犯罪や危険性を学びます。				ネット関連の事件事故について、一番気になったものを考えてもらいます。(4時間)				
4	ネット社会の危険性についての研究	現状では、生活や仕事をするうえでネットは欠かせません。しかし、ネットを使った犯罪が増え、反面、人との直接対話が少なくなっています。過激派組織ISやネット犯罪の愚かさを研究します。				安易にネットを使ってないかを見直してもらいます。(4時間)				
5	それぞれ違う民度のあり方	グループに分かれ、クロスロード(分岐点)をそれぞれの班で討論します。それをもとに、全体でディスカッションします。				クロスロードでの自分の意見、考え方と人の意見の相違を改めて振り返ってください。(4時間)				
6	続クロスロード	社会は人それぞれの民度によって安全、安心な暮らしが保たれています。しかし、クロスロードで体験するように、考え方はまちまちです。幅広い民度の意識を持つために、前回に続き話し合いを継続します。				自分の考え方による民度が正しいのかどうかを推量してください。(4時間)				
7	学外専門家の特別講演	簡単で便利なネットには様々な落とし穴があります。著作権について詳しい学外専門家を招き、特別講演及び討論会を実施します。				事後に講演会の感想レポートを提出してもらいます。(4時間)				
8	(野外実習)場所は未定	地域全体が民度の高い場所を訪ね、地域環境を守るためにどのような戦略が図られているかを体験します。				事後にレポートを書く。9回目に提出。(4時間)				
9	新聞に見る社会の動き	社会で起きている出来事を新聞コピーを読んで考えます。その中から、環境社会学のあり方を自分なりに理解し、さらにグループ討論して仲間の意見も聞いていきます。				授業でのコピー以外のテーマに沿って、レポート提出。(4時間)				
10	ネット社会を生き抜くための10か条づくり	ネットが欠かせない現実の中で、自ら犯罪に巻き込まれたり、他人に迷惑をかけるためにはどうしたらいいのかをグループで話し合い、10か条を作成します。				授業終了と同時に、当日の担当はグループ10か条を書いて提出。(4時間)				
11	各グループの10か条発表	前回作ったグループ10か条を班の代表が発表。それをもとに、受講生全体の10か条を作り上げますので、各グループによるプレゼンが大事になってきます。				全員で作った10か条を自分なりに実践する意識を高めてください。(4時間)				
12	10か条の絞り込み	各グループから出てきた10か条は相当数に上ります。その中から、受講生による10か条を選択していきます。創作する難しさや楽しさを実感できるはずで。				10か条は常に心掛けておく必要があります。人にも言えるほど反復して覚えて下さい。(4時間)				
13	学外専門家の特別講義	受講生が作ったネット社会と民度10か条について、専門家の意見を聴きます。				感想をレポートにまとめて提出。(4時間)				
14	続々 クロスロード	地域環境と民度を学んできて、自分の考え方は変わったか、人とかわりながら生きていく中で何をなすべきかななどをグループ討論します。				これまで学んできた民度をもう一度復習しておき、自分の意見としてまとめてください。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返って総括します。				社会の中で生きていくために必要なテーマを自分なりに見つけてください。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
毎回プリントまたは資料を配布する。				受講態度：20% 定期試験：50% 課題：30% S:授業内容の理解度、考察力、文章の読解力、書力が秀でている。A:積極的に授業に臨み、課題に対しても自分の意見をしっかりと書ける。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に対しても自らの主張ができる。C:授業内容を60%ほど理解でき、与えられた課題にも誠実に取り組んでいる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
毎回プリントまたは資料を配布する。				講義ではグループ別に分けた学生の皆さんとのディスカッションを中心に進めますので積極的な参加を期待します。受講票には、名前だけでなくその日の感想や意見を必ず書いて下さい。						

科目名	地域社会		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	KL15001 TL15001	研究室	W-34
担当者	白戸 洋		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
この講義は、総合経営学部の必修科目として、今後、経営、観光や福祉・地域などを学んでいくうえで、重要となる「地域」に対する、基本的な考え方や姿勢を育てていくことを目的とします。										
<b>学修到達目標</b>										
地域とは何かという基本的な概念や地域に対する理解を図る 地域と自らの関係について考え地域社会の主体者としての自分を自覚する 現在の地域の現状を理解するとともにそれを取り巻く国内、あるいは国際的な社会経済システムを明らかにする 今後の地域のあり方を考える										
<b>授業の進め方</b>										
本講義は、地域に関する基本的な内容に関する講義と事例研究などを組み合わせ配布したプリントに沿って進めます。またフィールドワークを行い、その成果のまとめ、地域の将来構想づくりをテーマにしたグループワークも行ないます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	なぜ学ぶ「地域」、なにを学ぶ「地域」、どう学ぶ「地域」				講義に対する学習目標を検討しレポート作成 2時間				
2	地域とは何か ~ 自分からはじめる「地域」	地域の概念を学ぶ				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
3	むらづくり、まちづくりの背景と求められること	むらづくり、まちづくりの背景と課題				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
4	新村と松本大学 ~ なぜ地域が元気になったのか	新村地区の地域づくりと松本大学とのかかわりを学ぶ				関連資料を収集 2時間 関連する事例を研究 2時間				
5	うるさいおじさん、おばさんはいるか? ~ 子ども・若者と地域	子どもや若者が抱える課題と地域における役割を考える				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
6	事例研究 ~ 松本のまちづくりを考える	松本駅アルプス口のまちづくり				関連資料を収集 2時間 関連する事例を研究 2時間				
7	事例研究 ~ 松本のまちづくりを考える	上土地域のまちづくりの事例研究				関連資料を収集 2時間 関連する事例を研究 2時間				
8	フィールドワーク・地域の宝物を探そう	対象地域を選定し地域の資源や課題を掘り起し				対象地域に関して事前に情報を収集・フィールドワークの結果を報告書にまとめる 4時間				
9	「豊かさ」の実態 ~ グルメは世界を食い潰す	食糧問題や食糧自給等の現状から豊かさを見直す				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
10	君たちは幸せだろうか ~ 子どもから考える豊かさとの貧困の構造	子どもをめぐる世界の問題を通じて豊かさとの貧困を考える				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
11	ソロモン諸島から学ぶ地域と豊かさ	ソロモン諸島の経済変容を通じて豊かさの意味を考える				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
12	グループワーク 1 ~ 地域の課題を把握する	フィールドワークの結果を踏まえ地域の資源や課題を整理する				フィールドワークの結果を検証 4時間 次回に向けての論点整理 2時間				
13	グループワーク 2 ~ 地域づくりを提案する	フィールドワークの結果を踏まえ地域づくりについて提言する				フィールドワークの結果を検証 2時間 フィールドワークの振り返り 2時間				
14	新しい経済のあり方を考えよう	地域の新しい経済循環やコミュニティビジネスの可能性				関連資料を収集 2時間 講義テーマに関するレポート作成 2時間				
15	よそ者、ばか者、若者 ~ 地域は若者に期待する!!	若者が地域で果たす役割とは				試験に向けて今後自らが同地域にかかわるか検討 4時間				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
毎回プリントを配布します				出席レポート：50% レポート：40% 定期試験：10% S:講義内容を活かして地域社会に対して自らのビジョンにもとづき働きかけができる A:講義内容を十分に理解し地域社会に対する自分なりのビジョンを持つ B:講義内容を十分に理解し地域社会に関心を持つ C:講義内容をおおむね理解する						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「松本大生がかかわったまちづくり」白戸ゼミナール編(松本大学出版会) 「共生の大地~新しい経済がはじまる」内橋克人著(岩波新書) 「民が立つ」信濃毎日新聞社編集局編(信濃毎日新聞社)				地域社会の住民のひとりである自分自身の問題として主体的な意識と姿勢を持って講義に参加してほしい。常日頃地域の課題に関心を持って新聞などを読むことを心掛けてほしい。						

科目名	社会活動		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバ'リング	KL25002 TL25002	研究室	W-20
担当者	向井 健		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	月曜日4限		
関連資格	社会福祉士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
本講義は、3年次からの専門研究への移行を見据え、社会活動に取り組む地域活動に関わる導入的な講義です。学生の関心に沿って「環境」「地域」「福祉」の3つのグループわけをしてすすめていきます。地域社会の中で実践的な活動を行い、地域や社会の在り方について学び考えることを目的とします。										
<b>学修到達目標</b>										
1、地域の中の課題に対して、当事者性をもって考え、その課題の解決に向けた実践を組織できるようになる。 2、地域課題の実践的探求を通して、これから求められる地域のありようを見通すことができるようになる。										
<b>授業の進め方</b>										
本講義では、ワークショップや企画、運営などを中心として行います。「他者と協働しながら社会活動に取り組んでみること」(実践)と、「集団的に実践を振り返りみること」(省察)を往還しながら進めていきたいと思えます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	本講義の進め方について説明をします。また社会活動に取り組んでいく上で求められる事柄について説明をします。				当日配布するプリントを復習しておくこと(4時間)				
2	グループづくり	社会活動に取り組んでいくグループをつくります。この時にアイスブレーキングを取り入れながら、互いに打ち解けあうことのできる関係をつくっていきます。				配布したプリントを復習しておくこと(4時間)				
3	日常生活の中の「違和感」や「困りごと」に耳を傾けあう	「違和感」や「困りごと」は、人びとのニーズに根差した活動を生み出す「源泉」であり、「宝物」です。じっくりと、他者の声に耳を傾けあいたいと思います。				講義後、リアクションペーパーを提出すること(4時間)				
4	地域の課題発見とその整理	聴き取ったことをもとにしながら、地域の課題を出し合って、それを整理しあいます。				講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)				
5	地域の課題が生じるメカニズムを読み解く	抽出された地域課題が、どのような構造をもって私たちの前に現象をしているのか。課題が生じているメカニズムを読み解きあいます。				講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)				
6	地域の課題解決のためのアイデアを出し合う	課題解決のためのアイデアを出し合います。				講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)				
7	課題解決に向けたプロジェクトのテーマ設定	課題解決のためのプロジェクトのテーマ設定を行います。				講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)				
8	課題解決に向けたプロジェクトの立案	専門家があるべき将来像(ブループリント)を描くような「計画」ではなく、多様なアクターが相互に学びあい課題解決の方向性を創造的に導き出していくプロセス重視の計画は如何にしたら可能かを考えます。				講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)				
9	実施計画の立案	具体的に取り組んでみる実践の実施計画を立ててみます。				講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)				
10	実践をしてみる	実際に実践をしてみます。実践は講義時間外の週末等に行うこともあります。担当の教員の指示に従ってください。				講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)				
11	実践に内在する「矛盾」の意識化とその省察	必ずしも取り組んだ実践のすべてがうまくいくとは限りません。壁に突き当たった時、実践に内在する「矛盾」を意識化してみて、自分たちが暗黙化してきた認識枠組みを、いま一度、問い直してみましよう。				実践を通じた感想を振り返り、実践の発展において求められることを考えておくこと(4時間)				
12	新たな実践モデルの再創造	そうした中で、これまで取り組んできた実践とは異なる質をもった新しい実践モデルが創造されることがあります。				実践を通じた感想の振り返りシート記入すること(4時間)				
13	新たな質の実践の展開	そのようにして新しく産み落された実践モデルの具現化は、新たな質をもった実践の展開をもたらしていきます。				振り返りを通してわかったことを意識し、再度、実践に取り組む準備をすること(4時間)				
14	自分たちが取り組んできた実践の展開過程を整理する	活動実践報告会に向けて、自分たちの取り組んできた実践がどのように展開してきたのか、その軌跡を活動ポートフォリオとしてまとめます。				講義中に終わらなかった作業は期日までに完了させておくこと(4時間)				
15	活動実践報告会：新しく創出された実践の意味を分かち合う	自分たちの取り組んできた実践をまとめて報告をします。そして実践の意味を色々な人と分かち合います。				講義中に終わらなかった作業を完了させて活動実践報告会に臨むこと(4時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
プリント・資料の配付をもってテキストに代えます。		レポート：50% 課題：50% S：地域活動の中心者として周囲を組織化し、探求姿勢をもって課題に取り組むことができている。A：地域活動の意義を理解して企画作りに参加しており、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。B：地域活動に積極的に参加し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：地域活動に参加し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
適時、必要な資料を紹介します。		後期の設置科目ですが、活動は前期から始まる場合があります。前期中にガイダンスを行いますので、履修希望者は必ず出席してください。ガイダンスに欠席した場合、原則、履修することができません。								

科目名	経営学総論 B (観光)		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバ'リング	TL15003	研究室	W-29
担当者	畑井 治文		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
本講義では、経営学の基礎について学んでいきます。経営学の主な対象は企業です。企業が公正かつ効果的なマネジメントを行う上で、どのように戦略を立て、組織を作り、人を動かすのかという経営学の基礎的な概念と理論を解説していきます。										
<b>学修到達目標</b>										
経営学が扱う様々な論点を理解し、これから経営学を学んでいく上での関心を広げられるようになること、経営学の基礎的な概念と理論を理解し、それらを用いて具体的な経営現象について議論できるようになること、経営学の各分野について知り、2年次以降に専門科目として学修する内容を自ら選べるようになることが目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
基本的には講義用プリントを配布して授業を進めます。各回とも教室での講義となりますが、可能な限り、インタラクティブな授業を展開できるように心がけていきます。授業内で実施した小テスト・課題などについては、随時、返却・解説をする予定です。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標などについて説明します。また経営とは、経営学とは何かについて解説します。				今回の内容を復習すると同時に、会社の社会的責任について調べてきて下さい。(4時間)				
2	会社の目的と社会的責任とは	会社の目的に関する諸説、会社に求められる社会的責任の考え方について解説します。また会社の社会貢献活動の実例なども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、株式会社の特徴について調べてきて下さい。(4時間)				
3	会社はどのように社会に役立っているのか	資本の証券化、有限責任、会社機関の設立などに表される「株式会社の仕組み」について解説した上で、会社がどのように社会に役立っているのかを示します。				今回の内容を復習すると同時に、競争戦略について調べてきて下さい。(4時間)				
4	会社はどのように方針を立てるのか	戦略を構築するまでのプロセスを整理した上で、競争戦略(他社とどのように戦うべきか)について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、PPMについて調べてきて下さい。(4時間)				
5	会社はどのように方針を立てるのか	事業ポートフォリオの考え方を整理した上で、PPMや製品・市場マトリクス(どのような事業を選択すべきか)について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、組織を動かすためのポイントを考えてきて下さい。(4時間)				
6	会社はどのような組織で動いているのか	組織に必要な要素、組織構造の規定要因、組織の基本形態について解説します。皆さんの身の回りにある組織と関連づけながら、組織を円滑に動かすためのポイントなども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、社員の意欲を上げるための工夫を考えてきて下さい。(4時間)				
7	会社はどのように社員を働かせるのか	内容理論やプロセス理論などのモチベーション理論について解説します。また社員のモチベーションを上げるために重要な役割を果たす、リーダーシップのあり方なども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
8	中間のまとめ	映像資料を用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。				小テストを復習すると同時に、企業が社員に与える報酬について調べてきて下さい。(4時間)				
9	会社はどのように社員に報いるのか	総額賃金管理、個別賃金管理について解説します。また日本企業の賃金制度の実例や賃金の社会的相場なども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、SCMについて調べてきて下さい。(4時間)				
10	会社はどのようにモノを作るのか	効率的な生産を実現するために、企業が行っている取り組みについて解説します。				今回の内容を復習すると同時に、市場細分化の基準について調べてきて下さい。(4時間)				
11	会社はどのようにモノを売るのか	マーケティングの定義を踏まえながら、市場細分化の基準、標的市場の選定ポイントについて解説します。				今回の内容を復習すると同時に、印象に残るプロモーションを列挙してきて下さい。(4時間)				
12	会社はどのようにモノを売るのか	標的市場に働きかけるための戦略(製品戦略、価格戦略、プロモーション戦略、流通経路・立地戦略)について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、財務諸表について調べてきて下さい。(4時間)				
13	会社の経営状況をどのように見るべきか	貸借対照表、損益計算書の読み方について解説します。2つの書類をもとに会社の経営状況を知るためのポイントなどを紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、財務分析について調べてきて下さい。(4時間)				
14	会社の力をどのように診断するべきか	収益性分析、効率性分析、安全性分析など、財務分析の各手法について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	定期試験対策プリントを用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。				小テストを復習すると同時に、定期試験に備えて下さい。(4時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
講義用プリントを配布します。		出席レポート:20% 小テスト:30% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解して発展問題・課題が解ける。A:授業内容を理解して応用問題・課題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解して応用問題・課題がほぼ解ける。C:授業内容の6割程度を理解している。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
「やさしい経営学」海野博・所伸之編著(創成社)		自分が働いている場所が「どのような仕組み」で動いているのか、これを知らずして安心して働くことはできませんよね。働く人の立場から「経営学」を見ることが、講義への興味が膨らむと思います。								

科目名	観光概論		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	KA15004 TL15004	研究室	W-26
担当者	山根 宏文		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
			総 観							
<b>授業概要</b>										
本講座では、観光を中心に学びを選択するうえで必要になる観光に関連する基礎的な知識や資源を学習します。旅行動機や観光・余暇の歴史、観光資源、観光に関係したさまざまな産業の実態や将来性、自然や環境の保全にふさわしい観光のあり方、地域づくりのための観光の利用などの学習の基礎となる項目を理解し、知識を拡大することがねらいです。観光に関連する多様な産業にいたるまで現代人のライフスタイルの多様化に伴う観光のあり方なども含みます。										
<b>学修到達目標</b>										
旅行動機などの理論やマーケティングなどの実践、自然と共生をめざした新しい観光の見方、経済効果など観光が社会に及ぼすさまざまな影響や効果、地域おこしに使われている観光的な考え方を理解してもらうことを目標としています。										
<b>授業の進め方</b>										
配布テキストやDVD、パワーポイントを多用した講義が中心になりますが、学生諸氏の意見や考え方などを多様な方法で提示してもらうことにより、積極的に授業参加してもらいます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、講義内容、観光の役割面を考えます				配布レジメを熟考すること(事前事後4時間)				
2	観光の歴史	観光の歴史的背景:さまざまな旅行動機から現代人の望む旅のかたちを考えます				配布レジメを熟考すること。自分の好きな旅のスタイルを考える。(事前事後4時間)				
3	観光資源	観光の要素:観光資源とその活かしかたを考えます				地域の観光資源について好きなものとその要因について考える。(事前事後4時間)				
4	観光資源	観光の要素:観光での食とその活かしかたを考えます				旅に出たときに、食べたくなるものの要因を考える。(事前事後4時間)				
5	観光地	観光地の評価と観光地の盛衰:温泉観光地から見た観光地のあるべき姿を考えます				好きな温泉地について考え、その要因を考える。(事前事後4時間)				
6	観光の企画	観光資源を活かしテーマのある旅、感動する旅の創り方を考えます				配布レジメを熟考すること。過去感動した旅があれば、その理由を感える。(事前事後4時間)				
7	観光と地域ブランド	観光による地域ブランド創造について考えます				配布レジメを熟考すること。ブランドとして思い浮かぶものの要因を考える。(事前事後4時間)				
8	観光と文化芸術	観光と文化芸術の関係を考えます				美術館、博物館を活かした観光振興について考える。(事前事後4時間)				
9	観光まちづくり	観光によるまちづくりについて事例を紹介し解説します				配布レジメを熟考すること。住んでみたくなるまちの要因を考える。(事前事後4時間)				
10	観光と産業	多様な宿泊産業を考えます				配布レジメを熟考すること。宿泊したい宿とその理由を考える。(事前事後4時間)				
11	観光と産業	旅行業入門(現状と課題について)				ネットで申し込まずに、旅行会社に依頼する場合はどんな場合が考える。(事前事後4時間)				
12	観光と産業	イベント、コンベンションなど新しい旅行産業のかたちです				行きたくなるイベントについてその要因を考える。(事前事後4時間)				
13	観光と産業	テーマパークなどエンタテインメントと観光の関係を探ります				配布レジメを熟考すること。ディズニーランドが好きな要因を考える。(事前事後4時間)				
14	観光と環境	エコツーリズムやグリーンツーリズムの本質や本来あるべき姿を考えます				配布レジメを熟考すること。自然が私たちに与えてくれるものを考える。(事前事後4時間)				
15	まとめ	まとめとして各テーマのポイントを再度解説します				配布すべてのレジメを熟考すること(事前事後4時間)				
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>							
講義中にプリントを配布します。			出席レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A:授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B:授業内容をおおよそ理解し探究心、提案力がある。 C:授業内容をおおよそ理解し、探究心、提案力が60%程度である							
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
特にありません。			本講座は、まず「観光とはなにか」という基本を理解することが目的です。観光をどのように地域に活かしていくのか、観光を利用して地域の幸福感を創出するためにはわれわれは何をなすべきなのか、という視点で考えます。							

科目名	社会福祉学入門		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバ'リング	KB15005 TC15005	研究室	
担当者	田中 雄一郎		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
			総 観							
授業概要										
我々の日常生活に密着した社会福祉について基本的な知識を身近な課題として学習します。その上で、生活の視点で社会福祉の意義やその概念を理解することを目的とします。この科目は、教職課程の総合(福祉)の選択科目であり、社会福祉学の入門編として、原理原則を正確に理解し、さらに学びを深めていくきっかけとして位置付けます。本講義の概要は生活することは何か、生活する上で社会福祉はどのように関与しているか、基本的な考え方や原理、そこに包摂されている原則を明らかにします。										
学修到達目標										
社会福祉(福祉)について学び、私たちの生活に福祉がどのように関わっているかを説明できるようになる。										
授業の進め方										
講義では、テキストを中心としつつ、制度面など最新情報については、随時資料を配布しながらすすめます。また、視聴覚教材なども活用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	社会福祉分野の動向				テキストを読んでおくこと(4時間)				
2	現代社会福祉の背景	近年の社会福祉の動向等				ニュース等で最近の動向をチェックしておくこと(4時間)				
3	社会福祉とは(1)	社会福祉の定義と概念				テキストP11~P18を読んでおくこと(4時間)				
4	社会福祉とは(2)	社会福祉の対象と主体				テキストP19~P26を読んでおくこと(4時間)				
5	社会保障と社会福祉の法財政(1)	社会保険の種類と内容				テキストP27~P38を読んでおくこと(4時間)				
6	社会保障と社会福祉の法財政(2)	社会福祉の法体系				テキストP38~P46を読んでおくこと(4時間)				
7	社会保障と社会福祉の法財政(3)	社会福祉の財政				テキストP46~P50を読んでおくこと(4時間)				
8	社会福祉の歴史(1)	わが国の社会福祉の歴史				テキストP51~P60を読んでおくこと(4時間)				
9	社会福祉の歴史(2)	欧米における社会福祉の歴史				テキストP60~P70を読んでおくこと(4時間)				
10	社会福祉の援助技術(1)	社会福祉援助技術の定義・体系				テキストP71~P82を読んでおくこと(4時間)				
11	社会福祉の援助技術(2)	専門職としての倫理・価値				テキストP82~P88を読んでおくこと(4時間)				
12	社会福祉の分野(1)	公的扶助				テキストP89~P112を読んでおくこと(4時間)				
13	社会福祉の分野(2)	子ども家庭福祉				テキストP113~P148を読んでおくこと(4時間)				
14	社会福祉の分野(3)	障害者福祉				テキストP149~P177を読んでおくこと(4時間)				
15	社会福祉の分野(4)	高齢者福祉・地域福祉				テキストP178~P230を読んでおくこと(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「増補版 現代社会福祉のすすめ(シリーズ福祉のすすめ)」馬場茂樹 和田光一 編著(学文社) ISBN:978-4-7620-2255-5(生協で購入してください。)		定期試験:60% 小テスト:40%				S:授業内容を高度に理解し、現代の福祉及びその課題について、自身の考えを述べる事ができる。A:授業内容を理解し、現代の福祉について説明できる。B:授業内容をほぼ理解し、授業で示した内容を正確に説明できる。C:授業内容の60%程度を理解し、授業で示した内容をほぼ説明できる。				
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「社会福祉の動向」(新日本法規) 「厚生労働白書」		必ず予習して受講して下さい。新聞など最近のニュースをチェックしてください。								

科目名	簿記（基礎）Aクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	KL15006 TL15006	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記処理能力の向上を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通し、基本的な経理能力と高い計算能力を身に着けます。簿記や経営経済系の資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
<b>授業の進め方</b>										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	簿記を学ぶにあたって	簿記の意義 種類 役割 会計期間				簿記とは何かを調査しておく 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
2	貸借対照表と損益計算書	資産 負債 費用 収益 財務諸表の形式 損益計算				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
3	取引と勘定	取引 勘定記入 取引要素の結合関係				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
4	仕訳と転記	仕訳 仕訳帳 総勘定元帳 記入方法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
5	試算表と決算	試算表の役割 種類 検証機能と限界 決算の意味 締切方法 精算表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
6	現金	現金 出納帳 現金過不足				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
7	当座預金	当座預金 出納帳 当座借越				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
8	小口現金	出納帳 仕訳				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
9	商品売買	分記法 三分法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
10	仕入売上1	仕入帳 売上帳 商品有高帳(先入先出法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
11	仕入売上2	商品有高帳(平均法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
12	売掛金 買掛金	売掛金元帳 買掛金元帳 売掛金明細表 買掛金明細表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
13	仕訳と計算	期中仕訳 間違えやすい勘定科目 計算ミスについて				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
14	期中取引と試算表	合計残高試算表の作成				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
15	総まとめ	簿記一巡 財務諸表の意義 主要科目の復習 試算表作成など				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 2時間				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
各クラスごとに指示します。				出席レポート：30% 小テスト：70% s授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。a：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。b：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。c：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)				毎回、計算事例を使用します。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってください。講義終了後、課題として配布された問題プリントを各自解いて提出してください。また講義前に前週の復習を十分行ってください。						

科目名	簿記（基礎）Bクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	KL15006 TL15006	研究室	非常勤
担当者	吉澤 稔		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることを目的とします。簿記会計の入門知識がないことを前提に、簿記会計の全体像を初級レベルで講義します。										
<b>学修到達目標</b>										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通します。資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。この講義と2年前期の簿記 展開を履修することにより日商簿記3級を目指します。										
<b>授業の進め方</b>										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるよう配慮します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	簿記を学ぶにあたって	簿記の意義 種類 役割 会計期間				テキスト第1章を読む。 練習プリントを解答し提出する。(1時間)				
2	貸借対照表と損益計算書	資産 負債 費用 収益 財務諸表の形式 損益計算				テキスト第2章を読み練習プリントを解答する。(1時間)				
3	取引と勘定	取引 勘定記入 取引要素の結合関係				テキスト第3章を読み練習プリントを解答する。(1時間)				
4	仕訳と転記	仕訳 仕訳帳 総勘定元帳 記入方法				テキスト第4章を読み練習プリントを解答する。(1時間)				
5	試算表と決算	試算表の役割 種類 検証機能と限界 決算の意味 締切方法 精算表				テキスト第5,6章を読み、練習プリントを解答する。(1時間)				
6	現金	現金 出納帳 現金過不足				テキスト第7章§1を読み練習プリントを解答する。(1時間)				
7	当座預金	当座預金 出納帳 当座借越				テキスト第7章§2を読み練習プリントを解答する。(1時間)				
8	小口現金	出納帳 仕訳				テキスト第7章§3を読み練習プリントを解答する。(1時間)				
9	商品売買	分記法 三分法				テキスト第8章§1を読み練習プリントを解答する。(1時間)				
10	仕入売上1	仕入帳 売上帳 商品有高帳(先入先出法)				テキスト第8章§2を読み練習プリントを解答する(1時間)				
11	仕入売上2	商品有高帳(移動平均法)				テキスト第8章§2を読み練習プリントを解答する。(1時間)				
12	売掛金 買掛金	売掛金元帳 買掛金元帳 売掛金明細表 買掛金明細表				テキスト第8章§3を読み練習プリントを解答する。(1時間)				
13	仕訳と計算	期中仕訳 間違えやすい勘定科目 計算ミスについて				これまでの仕訳を復習し練習プリントを解答する。(2時間)				
14	期中取引と試算表	合計残高試算表の作成と合致しない場合・ミスについて				試算表を作成し練習プリントを解答する。(1時間)				
15	帳簿記入	各種帳簿の記入と締切 頻発するミスについて				帳簿に記入し締切り練習プリントを解答する。(2時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「新版日商簿記3級テキスト」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32584-3(生協で購入してください。) 「新版日商簿記3級問題集」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32585-0(生協で購入してください。)				定期試験:70% 受講態度:15% 課題:15% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社) ISBN:978-4-502-29380-1				毎回、計算事例を使用します。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってください。計算能力を養うために、講義終了後、課題として配布された練習プリントを各自解いて提出してください。						

科目名	簿記（基礎）Cクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	KL15006 TL15006	研究室	非常勤
担当者	太田 聡		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることをねらう。簿記会計の全体像を入門レベルで講義する。基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入の原理を解説する。続いて、現金預金から全ての勘定項目について一つ一つ講義してゆく。ここでは実際に計算事例を解きながら講義を行なう。さらに日商および全経簿記3級レベルの問題を利用することで、資格取得に寄与し、実社会でも通用する簿記技法が修得できるよう導く。										
<b>学修到達目標</b>										
日商簿記3級取得を目指す。										
<b>授業の進め方</b>										
基礎用語や基礎概念、基本的な計算方法を解説し、あわせて計算事例を使用しながら進める。特に毎回の講義後半では、学生諸君が自ら計算を行なうことで、計算能力の向上につながるように配慮する。また、下記テキスト(代金概算額3,240円)購入する。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	講義計画、簿記学習上の心構え	講義計画や簿記の資格について				簿記概要の復習 課題問題(1時間)				
2	複式簿記の目的と基礎概念	簿記の目的や決算書の役割の学習				問題集対応範囲: 1-1~2 課題問題(1時間)				
3	資産・負債・資本とその分類	資産・負債・資本の性質の学習				問題集対応範囲: 2-1~6 課題問題(1時間)				
4	貸借対照表と損益計算書	費用と収益の性質。貸借対照表と損益計算書の関係の学習				問題集対応範囲: 2-7~9 課題問題(1時間)				
5	取引の意義と種類	取引の内容と仕訳の学習				問題集対応範囲: 3-1~4 課題問題(1時間)				
6	仕訳帳と総勘定元帳への記入	総勘定元帳の記入方法の学習				問題集対応範囲: 4-1~5 課題問題(1時間)				
7	帳簿の締切と決算手続	帳簿の締め切り方法と決算の意味・決算に必要な処理を学習				問題集対応範囲: 6-1~5 課題問題(1時間)				
8	試算表と6桁精算表の作成	試算表と精算表の作成方法を学習				問題集対応範囲: 5-1~3、6-8 課題問題(1時間)				
9	現金勘定、現金過不足勘定、当座預金勘定	現金・現金過不足・当座預金の内容と処理方法を学習				問題集対応範囲: 7-1~7 課題問題(1時間)				
10	小口現金勘定、有価証券勘定	小口現金の意味と小口現金出納帳、有価証券の学習				問題集対応範囲: 7-8~9 課題問題(1時間)				
11	商品売買取引(1)分記法と三分法	分記法と三分法の違い、及び三分法による仕訳の切り方を学習				問題集対応範囲: 8-1~2 課題問題(1時間)				
12	商品売買取引(2)仕入帳、売上帳、商品有高帳	補助簿である仕入帳・売上帳・商品有高帳の学習				問題集対応範囲: 8-3~5 課題問題(1時間)				
13	商品売買取引(3)売掛金明細表と買掛金明細表	補助簿である売掛金明細表と買掛金明細表の学習				問題集対応範囲: 8-6~7 課題問題(1時間)				
14	決算手続・試算表・精算表の作成	決算手続と試算表・精算表の作成方法を学習				問題集対応範囲: 6-6~7 課題問題(1時間)				
15	講義全体のまとめ	簿記一連の流れの復習				第1回~15回の内容を総復習 課題問題(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「新版日商簿記3級テキスト」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32584-3(生協で購入してください。) 「新版日商簿記3級問題集」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32585-0(生協で購入してください。)				定期試験:70% 小テスト:15% 課題:15% 定期試験(100点満点)を70点換算、毎回の授業で行う小テストの成績を15点換算、毎回の授業の課題提出状況を15点換算し評価する S:100点 A:80点~99点 B:70点~79点 C:60点~69点 D:60点未満						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考文献は後日指示する。				毎回、計算事例を使用する。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってみること。計算能力を養うために、講義終了後、課題として配布された問題プリントを各自解いて提出すること。						

科目名	簿記（基礎）Dクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	KL15006 TL15006	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記処理能力の向上を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通し、基本的な経理能力と高い計算能力を身に着けます。簿記や経営経済系の資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
<b>授業の進め方</b>										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	簿記を学ぶにあたって	簿記の意義 種類 役割 会計期間				簿記とは何かを調査しておく 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
2	貸借対照表と損益計算書	資産 負債 費用 収益 財務諸表の形式 損益計算				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
3	取引と勘定	取引 勘定記入 取引要素の結合関係				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
4	仕訳と転記	仕訳 仕訳帳 総勘定元帳 記入方法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
5	試算表と決算	試算表の役割 種類 検証機能と限界 決算の意味 締切方法 精算表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
6	現金	現金 出納帳 現金過不足				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
7	当座預金	当座預金 出納帳 当座借越				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
8	小口現金	出納帳 仕訳				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
9	商品売買	分記法 三分法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
10	仕入売上1	仕入帳 売上帳 商品有高帳(先入先出法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
11	仕入売上2	商品有高帳(平均法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
12	売掛金 買掛金	売掛金元帳 買掛金元帳 売掛金明細表 買掛金明細表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
13	仕訳と計算	期中仕訳 間違えやすい勘定科目 計算ミスについて				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
14	期中取引と試算表	合計残高試算表の作成				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
15	総まとめ	簿記一巡 財務諸表の意義 主要科目の復習 試算表作成など				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 2時間				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
各クラスごとに指示します。				出席レポート：30% 小テスト：70% s授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。a：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。b：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。c：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)				毎回、計算事例を使用します。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってください。講義終了後、課題として配布された問題プリントを各自解いて提出してください。また講義前に前週の復習を十分行ってください。						

科目名	簿記（基礎）Eクラス		学年学期	1年後期	単位数	1	ナバリング	KL15006 TL15006	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記処理能力の向上を目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通し、基本的な経理能力と高い計算能力を身に着けます。簿記や経営経済系の資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
<b>授業の進め方</b>										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	簿記を学ぶにあたって	簿記の意義 種類 役割 会計期間				簿記とは何かを調査しておく 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
2	貸借対照表と損益計算書	資産 負債 費用 収益 財務諸表の形式 損益計算				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
3	取引と勘定	取引 勘定記入 取引要素の結合関係				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
4	仕訳と転記	仕訳 仕訳帳 総勘定元帳 記入方法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
5	試算表と決算	試算表の役割 種類 検証機能と限界 決算の意味 締切方法 精算表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
6	現金	現金 出納帳 現金過不足				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
7	当座預金	当座預金 出納帳 当座借越				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
8	小口現金	出納帳 仕訳				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
9	商品売買	分記法 三分法				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
10	仕入売上1	仕入帳 売上帳 商品有高帳(先入先出法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
11	仕入売上2	商品有高帳(平均法)				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
12	売掛金 買掛金	売掛金元帳 買掛金元帳 売掛金明細表 買掛金明細表				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
13	仕訳と計算	期中仕訳 間違えやすい勘定科目 計算ミスについて				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
14	期中取引と試算表	合計残高試算表の作成				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 1時間				
15	総まとめ	簿記一巡 財務諸表の意義 主要科目の復習 試算表作成など				課題プリントを解いておく。 練習プリントを解答し提出する。 2時間				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
各クラスごとに指示します。				出席レポート：30% 小テスト：70% s授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。a：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。b：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。c：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)				毎回、計算事例を使用します。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってください。講義終了後、課題として配布された問題プリントを各自解いて提出してください。また講義前に前週の復習を十分行ってください。						

科目名	マーケティング基礎B (観光)		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ'リング	TL25007	研究室	W-17
担当者	益山 代利子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
マーケティングとは、顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその商品を効果的に得られるようにする活動の全てを表す概念です。一般的な企業活動のうち、商品やサービスの企画・開発やブランディングから、市場調査・分析、価格設定、広告・宣伝・広報、販売促進、流通、営業などを含みます。この講義では、様々な企業の実践例を通し、売れる商品の製作や売り方、そのための調査手法などマーケティングの基礎を学びます。										
<b>学修到達目標</b>										
マーケティングの基礎として学ばべき用語が理解でき、基本的な理論を現実の問題と照らし合わせた説明ができる。										
<b>授業の進め方</b>										
指定テキストに加えて、参考資料の配布、事例紹介を交えながら説明します。講義中に複数回の短い復習テストを行います。										
<b>授業計画 (各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス、マーケティング的発想の経営	講義概要の説明と注意事項の確認をします。マーケティング発想の経営について概観します。				テキスト第1章を読む(4時間)				
2	マーケティングとは何か	マーケティング業務を俯瞰し、マーケティングの目的、業務の基本的な手順を学びます。				テキスト第2章を読む(4時間)				
3	戦略的マーケティング	経営理念、目標、市場環境分析、基本戦略立案について学びます。				テキスト第2章の復習、振り返りワークシートの作成(4時間)				
4	新商品開発の仕事	製品・サービスの構成要素、商品アイデアの創出から商品設計、市場導入に至る開発プロセスについて学びます。				テキスト第2章の復習、振り返りワークシートの作成(4時間)				
5	新商品開発の仕事	STP戦略について学びます。セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの概念を説明します。				次週の小テスト(第1回~第5回)に備えて復習をする。(4時間)				
6	新商品開発の仕事	小テスト第1回(出題範囲第1回~第5回)ブランドシンボル開発について学びます。				テキスト第3章ブランドシンボル開発とマーケティングミックスを読む。ワークシート作成(4時間)				
7	マーケティングミックス	マーケティングミックスと4Pとの関係を整理します。				テキスト第3章マーケティング・ミックスを読む。ワークシートの作成(4時間)				
8	プロダクト(製品)	製品スペックと製品ラインナップ、パッケージングについて学びます。				テキスト第3章マーケティングミックスの製品を復習する。ワークシートの作成(4時間)				
9	プライス(価格設定)	需給バランスと価格政策の関係について学びます。				テキスト第3章マーケティングミックスの価格を復習する。ワークシートの作成(4時間)				
10	プレイス(流通チャネル)	流通チャネルの役割について学びます。				小テストに向けて復習します。(第6回~第10回)(4時間)				
11	プロモーション	小テスト第2回(出題範囲第6回~第10回)プロモーションの役割について学びます。				テキスト第3章マーケティングミックスのプロモーションを復習する。(4時間)				
12	プロモーション表現	PRの表現について学びます。プレス・リリース、広告、WEBサイトの表現などについて説明します。				テキスト第3章マーケティングミックスのプロモーション表現を復習する。(4時間)				
13	既存商品の育成と市場調査	既存商品のパフォーマンス・レビューとデータ収集方法について学びます。				テキスト第4章を読む。ワークシートの作成。(4時間)				
14	サービス財マーケティングの特徴	サービス・マーケティングの7Pについて概略を説明します。				テキスト第5章サービス財のマーケティングを読む。ワークシートの作成。(4時間)				
15	まとめ	小テスト第3回(出題範囲第11回~14回)これまでのマーケティング基礎のまとめをします。				小テスト(第11回~第15回)に向けて復習します。(4時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「マーケティングの基本」安原智樹著(日本実業出版社) ISBN:978-4-543-04518-8 (生協で購入してください。)		定期試験:70% 小テスト:30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解け、他の学生の前で発表できる。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって内容に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
「コトラーのマーケティング・コンセプト」フィリップ・コトラー著(東洋経済)		身近な話題からマーケティングを考えて行きましょう。講義内容に応じて、資料等を事前に提示しますので、講義前に読んでおいて下さい。								

科目名	ミクロ経済学B(観光)		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパリング	TL25008	研究室	W-21
担当者	古川 智史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
ミクロ経済学とは、企業や家計といった経済主体の行動を分析する学問です。本講義では、ミクロ経済学に関する基礎的な概念、方法について理解を深めます。それを踏まえながら、現実の経済現象、問題に対するアプローチ方法を身につけます。										
学修到達目標										
ミクロ経済学に関する基礎的な概念、アプローチ方法を理解し説明できるとともに、現実の経済現象、問題に応用できる。										
授業の進め方										
テキストに沿って授業を進めますが、必要に応じて資料を配付します。受講者には、毎回コメントシートの提出を求めます。また簡単な調べ学習や小テストを予定しているので、予習・復習の上、講義に臨んでください。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション：ミクロ経済学とは	ミクロ経済学の概要および本講義の進め方を説明します。				配付資料をもとに復習してください(4時間)				
2	経済学の基本的な概念	経済学における基本的な概念(トレードオフ、機会費用、限界原理、市場の失敗、インフレーションなど)を取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
3	需要と供給(1)：市場の均衡	市場と競争の概念、需要と供給の作用、市場の均衡などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
4	需要と供給(2)：弾力性	需要と供給の弾力性、弾力性の応用などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
5	市場と厚生	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
6	外部性、公共財	外部性と公共政策、公共財などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
7	生産費用	生産関数、費用の尺度、短期と長期の費用などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
8	競争市場	競争市場の概念、競争市場における供給曲線などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
9	独占	独占が生じる理由、独占企業による生産量と価格の決定、独占に対する公共政策などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
10	独占的競争と寡占	独占的競争と寡占の概念、囚人のジレンマ、広告を巡る議論などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
11	生産要素市場	生産要素(労働、土地、資本)市場の均衡と生産要素間の関係などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
12	所得と格差	賃金の決定要因、賃金格差と差別などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
13	所得不平等と政策	不平等の尺度、所得再分配、貧困をめぐる公共政策などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
14	情報の非対称性、政治経済学、行動経済学	情報の非対称性、政治経済学、行動経済学に関するトピックを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください(4時間)				
15	総括	これまでを振り返りながら、講義全体のまとめをします。				各章の内容と各自のノートをもとに復習してください(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「マンキュー経済学 ミクロ編(第3版)」N・グレゴリー・マンキュー著(東洋経済新報社) ISBN:978-4-492-31437-1(生協で購入してください。)				受講態度：30% 定期試験：70% 「受講態度」では、調べ学習などの事前学習、コメントシートの提出状況およびその内容、小テストの結果を総合的に評価します。 S：積極的な探求心、批判的な思考力を持って課題に取り組み、授業内容を高度に理解している。A：積極的な探究姿勢を持って課題に取り組み、授業内容を十分に理解している。B：与えられた課題に誠実に取り組み、授業内容のおおよそを理解している。C：与えられた課題に取り組み、授業内容の60%程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
講義中に適宜紹介します。				新聞記事を読むなどして、日頃から経済に関心を持って、講義に臨むようにしてください。						

科目名	マクロ経済学（観光）		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	TL25009	研究室	W-21
担当者	古川 智史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
本講義では、経済全体を分析するマクロ経済学について講義します。具体的には、マクロ経済学に関する基礎的な概念、方法について理解を深めながら、現実の経済現象、問題に対するアプローチ方法を身につけます。										
<b>学修到達目標</b>										
マクロ経済学に関する基礎的な概念、アプローチ方法を理解し説明できるとともに、現実の経済現象、問題に応用できる。										
<b>授業の進め方</b>										
テキストに沿って授業を進めますが、必要に応じて資料を配付します。受講者には、毎回コメントシートの提出を求めます。また簡単な調べ学習や小テストを予定しているため、予習・復習の上、講義に臨んでください。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション	マクロ経済学の概要および本講義の進め方等について説明します。				配付資料をもとに復習してください（4時間）				
2	経済学の基本的な概念	経済学における基本的な概念（トレードオフ、機会費用、限界原理、市場の失敗、インフレーションなど）を取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
3	国民所得	国内総生産（GDP）の測定、構成要素、実質GDPと名目GDPなどを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
4	生計費	消費者物価指数、インフレーションの影響に対する補正などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
5	生産と成長	世界各国の経済成長、生産性の決定要因、経済成長に対する政策の影響などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
6	金融システム	金融システムを構成する様々な機関・市場、金融システムと貯蓄・投資との関係、貸付資金市場などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
7	ファイナンス	現在価値の概念、リスク管理、資産評価などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
8	失業	失業の概念とその発生理由を取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
9	貨幣	貨幣の機能、種類とともに、中央銀行による貨幣供給調節手段などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
10	インフレーション	インフレーションの要因、インフレーションがもたらす影響などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
11	貿易収支と為替	貿易収支、為替相場、為替市場、購買力平価などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
12	総需要と総供給	短期と長期の経済変動、総需要と総供給などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
13	財政政策と金融政策	財政政策と金融政策が経済に与える影響などを取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
14	マクロ経済政策	マクロ経済政策をめぐる主な論争を取り上げます。				テキストの該当部分について予習・復習してください（4時間）				
15	総括	これまでの内容を振り返り、本講義を総括します。				各章の内容と各自のノートをもとに復習してください（4時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「マンキュー経済学 マクロ編（第3版）」N・グレゴリー・マンキュー著（東洋経済新報社） ISBN:978-4-492-31445-6（生協で購入してください。）				受講態度：30% 定期試験：70% 「受講態度」では、調べ学習などの事前学習、コメントシートの提出状況およびその内容、小テストの結果を総合的に評価します。 S：積極的な探求心、批判的な思考力を持って課題に取り組み、授業内容を高度に理解している。A：積極的な探究姿勢を持って課題に取り組み、授業内容を十分に理解している。B：与えられた課題に誠実に取り組み、授業内容のおおよそを理解している。C：与えられた課題に取り組み、授業内容の60%程度を理解している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
講義中に適宜紹介します。				新聞記事を読むなどして、日頃から経済に関心を持って、講義に臨むようにしてください。						

科目名	情報社会論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KL25010 TL25010	研究室	W-31
担当者	室谷 心		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(情報)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
スマホ、タブレット、インターネット、私たちの周りには便利な情報機器がたくさんあります。検索すれば必要な時に必要な情報が自由に得られる素晴らしい時代のように思えます。しかし、実際には、不確かで不必要な情報も一緒になって、あふれんばかりの大量の情報が私たちに襲いかかってきます。多種多様な情報システムが大量の情報を供給する現代社会を、よりよく生きていくために、“情報のあふれる現代社会”というものをしっかりと認識し、情報との正しい付き合い方を身につけましょう。										
<b>学修到達目標</b>										
現代社会の様々な局面を“情報”をキーワードにcriticalに考え、より深く理解しようとみずから行動できるようになる。										
<b>授業の進め方</b>										
講義型式で進めます。また授業理解度の確認のために、毎時間簡単な課題を提出してもらいます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	情報化された現代社会の概説と本授業全体のガイダンス。毎時間のレポート提出方法の説明。				自分を取り巻く情報環境を再確認してみる。(4時間)				
2	ユビキタスネットワーク社会	見守と監視---ユビキタスネットワーク社会。				見守と監視の視点からユビキタス社会の功罪を考える(4時間)				
3	インターネット古代史	インフラストラクチャーの整備---インターネット古代史。				自分の家のネット化の歴史を調べる。(4時間)				
4	暗号	プライバシーか治安維持か---ネットワーク社会における暗号の役割。				公開鍵暗号方式が解決した、暗号の2つの役割を考える(4時間)				
5	認証の技術	ご本人ですか?---なりすましとオレオレ詐欺。				詐欺サイトの例を調べる。(4時間)				
6	メメックス	メメックスは実現したのか---図書館 vs Wikipedia。				バネバー・ブッシュの理想と現在のネット社会を比較する。(4時間)				
7	情報の保管	記録の保管---思い出はいつまでとっておけるか。				自分の家の一番古い記録は何か調べてみる。(4時間)				
8	著作権	著作権と文化---青空文庫とgoogleブック。				TPPと著作権の問題を調べる。(4時間)				
9	情報検索	検索がすべてを決める---ネット検索を信用するか。				自分の情報が、ネット上にどう記載されているか調べる。(4時間)				
10	UD	バリアフリーとユニバーサルデザイン。				万人にやさしいデザインを考える。(4時間)				
11	アクセシビリティ	ユビキタスに格差はないか。				情報の平等化の度合いを考える。(4時間)				
12	ネット動画	Youtube、ニコニコ動画、ポーカロイド				ネット動画とテレビを比較する。(4時間)				
13	クラウド環境	クラウドコンピューティング				気付かずに使っているクラウド環境を明示的に意識し、安全性と危険性をまとめる。(4時間)				
14	BigData	ビッグデータの時代---あなたの好みは読まれています。				行動ターゲティング広告の例を調べる。(4時間)				
15	信じる	この話、あなたは信じますか? 沢山の情報の中で、何を根拠にその話を信じるのだろうか?				死後の世界やオカルトについて、自分自身が信じているかどうか考える。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
学内サーバ上に講義資料を置くので予復習の参考にしてください。				出席レポート:20% 定期試験:80% S:情報社会に関する発展的な問題を考察できる。 A:情報社会に関する応用的な問題を考察できる。 B:情報社会に関する標準的な問題を考察できる。 C:情報社会に関する基礎的な問題を考察できる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
新聞、雑誌、インターネット等全て				情報は探す時代から選ぶ時代になりました。ネットを使えば大量の情報が簡単に手に入ります。でも、それが役に立つ正しい情報だとは限りません。価値のある情報だけを取り出し利用していくのはユーザーの責任です。						

科目名	中小企業論	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ'リング	KA25011 TB25011	研究室	W-10
担当者	兼村 智也	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日1限		
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
		総 観							
授業概要									
日本の企業のほとんどを占める中小企業について、その多様性、経済的・社会的役割についてみていくとともに、「小規模」であるであるがゆえに抱える経営上の問題や限界性、また可能性について解説します。									
学修到達目標									
主として大企業との比較から中小企業のもつ特性(強みや弱み)を通じて、卒業後、多くの学生が就職するであろう中小企業についての理解や認識を深める。									
授業の進め方									
下記テキストを参照しながら講義形式で行ないます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	日本経済を支える中小企業	日本経済に占める中小企業の大きさや役割・意義を紹介する。				指定したテキストの第1章を読んでおくこと(4時間)			
2	中小企業とは その概念と経営課題	中小企業の定義や経営課題について学習する。				指定したテキストの第2章を読んでおくこと(4時間)			
3	中小企業政策の変遷	これまでの中小企業政策の変遷をみることを通じて、各時代における中小企業の役割・意義、そして現在の中小企業に求められる方向性について解説する。				指定したテキストの第3章を読んでおくこと(4時間)			
4	戦後経済の高度化と中小企業の発展プロセス	戦後の経済発展のなかで中小企業がどのように成長・発展してきたかについて解説する。				指定したテキストの第4章を読んでおくこと(4時間)			
5	下請構造の変容と中小工業	大企業と中小企業の間の下請取引に焦点をあて、その機能と意味、近年の変容について学習する。				指定したテキストの第5章を読んでおくこと(4時間)			
6	中小商業の構造変化 ICTを活用した小売・卸売業の事業発展	近年、中小商業を取り巻く経営環境の変化とその対応について解説する。				指定したテキストの第6章を読んでおくこと(4時間)			
7	中小企業におけるコスト意識 原価管理の視点から	中小企業が取り組むべき課題の一つであるコスト低減に着目し、原価管理のあり方について解説する。				指定したテキストの第7章を読んでおくこと(4時間)			
8	中小企業の財務構造と経営分析	中小企業が抱える問題の一つである財務に着目し、その仕組みと分析方法について学習する。				指定したテキストの第8章を読んでおくこと(4時間)			
9	中小企業の経営と資金調達	中小企業にとって最も重要な課題である資金調達について、その現状と問題について解説する。				指定したテキストの第9章を読んでおくこと(4時間)			
10	中小企業における人材育成・能力開発と雇用の外部化	中小企業が直面する人材育成についてその現状と取り組みについて解説する。				指定したテキストの第10章を読んでおくこと(4時間)			
11	精密機械産業の集積と中小企業 長野・諏訪のケース	身近にある諏訪地域における中小企業を通じて地域の発展と産業集積のもつ機能・役割について学習する。				指定したテキストの第12章を読んでおくこと(4時間)			
12	地場産業の発展と中小企業 新潟・燕三条のケース	地場産業として発展する燕三条を取り上げ、その意味と今後について学習する。				指定したテキストの第13章を読んでおくこと(4時間)			
13	経済のグローバル化と中小企業	近年高まるグローバル化について解説し、中小企業の対応や課題について学習する。				指定したテキストの第14章を読んでおくこと(4時間)			
14	社会企業家と新たなベンチャー・ビジネス	経済活性化をもたらすベンチャー企業・ビジネスの役割や意義、問題点などについて解説する。				指定したテキストの第15章を読んでおくこと(4時間)			
15	イノベーションの孵化と中小企業の将来	中小企業であることの意味や可能性について学習する。				指定したテキストの第16章を読んでおくこと(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「現代中小企業経営要論」佐久間信夫・井上善博著(創成社) ISBN:978-4-7944-2459-4(生協で購入してください。) 第1回から使いますので各自事前購入しておくこと。		出席レポート:30% 定期試験:70% S:前記の合計が95点以上の受講者で、そのうち上位3名まで。A:前記の合計が85点以上。B:前記の合計が70点以上。C:前記の合計が60点以上。なお期間中レポート課題も予定しており、60点に数点満たない学生への加点措置として活用を予定。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「21世紀中小企業論」渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫著(有斐閣アルマ) ISBN:4-641-12304-7		講義計画に該当するテキストの章・内容を事前に読んでおいてください。							

科目名	簿記（展開）Aクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	KL25012 TL25012	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
簿記に引き続き、簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることを目的とします。										
<b>学修到達目標</b>										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通します。資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
<b>授業の進め方</b>										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ		内容				事前事後学修			
1	手形1		種類	記帳方法			手形とは何かを調査しておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
2	手形2		裏書	割引 記入帳			先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
3	その他の資産		有価証券	固定資産			先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。			
4	その他の資産と負債1		貸付金	借入金 未収金 未払金			先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
5	その他の資産と負債2		立替金	預り金 仮払借受の処理 商品券			先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
6	その他の取引		資本金	引出金 税金			先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
7	決算1		売上原価	貸し倒れ			先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
8	決算2		減価償却				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。			
9	決算3		見越	繰延			先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
10	決算4		現金過不足、引出金、消耗品、有価証券の期末処理				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
11	決算5		精算表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
12	決算6		財務諸表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
13	伝票		伝票制度	3伝票 5伝票			先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
14	簿記一巡再論		開始仕訳、期中取引から試算表の作成、決算整理、精算表、財務諸表まで				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
15	帳簿記入再論	まとめ	総勘定元帳および各種帳簿の締め切り再論	全体像の確認			先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間			
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>							
別途指示します。			出席レポート：30% 小テスト：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)			簿記の履修終了者しか受講できません。電卓を持参してください。各自必ず自宅にて計算練習を行ってください。							

科目名	簿記（展開）Bクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	KL25012 TL25012	研究室	非常勤
担当者	吉澤 稔		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスア-			
関連資格	高一(商業)			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性	A		B		C		
履修対象入学年度（読替科目）										
<b>授業概要</b>										
簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることを目的とします。入学時に、簿記会計の3級程度の知識があることを前提に、簿記会計の全体像を中級レベルで講義します。										
<b>学修到達目標</b>										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に一層精通します。資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
<b>授業の進め方</b>										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	簿記一巡の手続きと財務諸表	簿記一巡の手続きと財務諸表のフォーマットの作成				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
2	現金預金と売掛金1	当座預金の銀行勘定調整表の作成				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
3	現金預金と売掛金2	クレジット売掛金の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
4	有価証券1	売買目的有価証券と満期保有目的債券の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
5	有価証券2	子会社株式・関連会社株式とその他有価証券の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
6	商品売買	3分法と売上原価対立法				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
7	有形固定資産	割賦購入・修繕と改良・減価償却など				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
8	引当金	貸倒引当金・商品保証引当金・退職給付引当金・売上割戻引当金など				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
9	収益と費用	サービス業における役務収益と役務費用				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
10	株式会社の純資産1	株式会社の設立と開業				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
11	株式会社の純資産2	剰余金の配当および処分・株主資本等変動計算書の作成				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
12	税金	法人税における課税所得の計算方法・消費税の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
13	リース会計	ファイナンスリース取引とオペレーティング取引				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
14	外貨建取引	外貨建ての営業取引、決済取引および決算日の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、次回提出する。（1時間）				
15	連結会計	資本連結における支配獲得時と支配獲得後の会計処理				事後学修として宿題プリントを解き、期末審査時に提出する。（1時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「検定簿記講義」渡部裕旦・片山寛・北村敬子著渡部裕旦・片山寛・北村敬子編（(株)中央経済社） ISBN:978-4-502-89543-2（生協で購入してください。） 講義開始時にプリントを配布します。				出席レポート：15% 課題：15% 定期試験：70% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
「財務会計」広瀬義州著（中央経済社） ISBN:4-502-25980-2 「検定簿記講義」渡部裕旦・片山寛・北村敬子著渡部裕旦・片山寛・北村敬子編（(株)中央経済社） ISBN:978-4-502-22491-1				高校在学中に商業簿記3級合格者またはそれと同等の実力者のしか受講できません。電卓を持参してください。 各自必ず自宅にて計算練習を行ってください。						

科目名	簿記（展開）Cクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパリング	KL25012 TL25012	研究室	非常勤
担当者	太田 聡		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスワ-			
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
簿記論の全体像の知識を前提に、株式会社における会計処理を理解することをめざす。さらに実際の計算問題を解くことで、簿記経理処理の能力を向上させることをめざす。ある程度の規模をほこる株式会社を前提にし、そこでの会計のあり方、実際の会計処理について、計算プロセスを含めて講義する。さらに、必要に応じて日商および全経簿記検定の3級レベルの問題演習を行なうことで、資格取得に寄与し、実社会でも通用する簿記技法が修得できるよう導く。										
<b>学修到達目標</b>										
日商簿記3級取得を目指す。										
<b>授業の進め方</b>										
基礎用語や基礎概念、基本的な計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進める。特に、学生諸君が自ら計算を行なうことで、計算能力の向上につながるよう配慮する。また、下記テキスト(代金概算額3,240円)を購入する。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	講義計画	講義計画や簿記の資格について				簿記 範囲の見直し 課題問題(1時間)				
2	手形勘定(1)受取手形勘定と支払手形勘定	手形取引の内容と処理方法を学習				問題集対応範囲:9-1~2 課題問題(1時間)				
3	手形勘定(2)手形の割引と裏書譲渡	割引手形・裏書手形の内容と処理方法、手形記入帳を学習				問題集対応範囲:9-3~6 課題問題(1時間)				
4	その他の貸借取引	立替金・預り金などの処理方法を学習				問題集対応範囲:11-1~7 課題問題(1時間)				
5	固定資産取引	有形固定資産の購入時・売却時の処理方法を学習				問題集対応範囲:10-1~5 課題問題(1時間)				
6	資本取引	資本金・引出金の内容と処理方法を学習				問題集対応範囲:12-1~4 課題問題(1時間)				
7	決算(1)決算準備手続き	消耗品・現金過不足の決算処理を学習				問題集対応範囲:15-19、32 課題問題(1時間)				
8	決算(2)決算修正事項(棚卸資産)	売上原価の計算方法を学習				問題集対応範囲:15-1~5 課題問題(1時間)				
9	決算(3)決算修正事項(減価償却)	減価償却の計算と処理方法を学習				問題集対応範囲:15-12~15 課題問題(1時間)				
10	決算(4)決算修正事項(貸倒引当金)	貸倒引当金の計算と処理方法を学習				問題集対応範囲:15-6~11 課題問題(1時間)				
11	決算(5)決算修正事項(費用・収益の見越・繰延)	前払・前受・未払・未収の処理方法を学習				問題集対応範囲:15-20~31 課題問題(1時間)				
12	決算(6)8桁精算表の作成	8桁精算表への決算修正仕訳記入方法を学習				問題集対応範囲:16-1~2 課題問題(1時間)				
13	帳簿と伝票	伝票の記入方法を学習				問題集対応範囲:13-1~2 課題問題(1時間)				
14	これまでの知識の確認と練習問題	決算総合問題				問題集対応範囲:16-3~6 課題問題(1時間)				
15	講義全体のまとめ	簿記一連の流れの復習				総合問題の復習 課題問題(1時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「新版日商簿記3級テキスト」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32584-3(生協で購入してください。) 「新版日商簿記3級問題集」蛭川幹夫・増子敦仁著(実教出版) ISBN:978-4-407-32585-0(生協で購入してください。)				定期試験:70% 小テスト:15% 課題:15% 定期試験(100点満点)を70点換算、毎回の授業で行う小テストの成績を15点換算、毎回の授業の課題提出状況を15点換算し、評価する。 S:100点 A:80点~99点 B:70点~79点 C:60点~69点 D:60点未満						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
参考文献は後日指示する。				簿記の受講履修が終了した者しか受講できない。計算事例を使用する機会が多い。電卓を持参し、必ず自ら計算を行なってみること。						

科目名	簿記（展開）Dクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	KL25012 TL25012	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
簿記 に引き続き、簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることを目的とします。										
<b>学修到達目標</b>										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通します。資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
<b>授業の進め方</b>										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるよう配慮します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	手形1	種類 記帳方法				手形とは何かを調査しておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
2	手形2	裏書 割引 記入帳				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
3	その他の資産	有価証券 固定資産				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。				
4	その他の資産と負債1	貸付金 借入金 未収金 未払金				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
5	その他の資産と負債2	立替金 預り金 仮払借受の処理 商品券				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
6	その他の取引	資本金 引出金 税金				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
7	決算1	売上原価 貸し倒れ				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
8	決算2	減価償却				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。				
9	決算3	見越 繰延				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
10	決算4	現金過不足、引出金、消耗品、有価証券の期末処理				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
11	決算5	精算表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
12	決算6	財務諸表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
13	伝票	伝票制度 3伝票 5伝票				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
14	簿記一巡再論	開始仕訳、期中取引から試算表の作成、決算整理、精算表、財務諸表まで				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
15	帳簿記入再論 まとめ	総勘定元帳および各種帳簿の締め切り再論 全体像の確認				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
別途指示します。				出席レポート：30% 小テスト：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)				簿記 の履修終了者しか受講できません。電卓を持参してください。各自必ず自宅にて計算練習を行ってください。						

科目名	簿記（展開）Eクラス		学年学期	2年前期	単位数	1	ナバリング	KL25012 TL25012	研究室	W-16
担当者	田中 浩		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
簿記 に引き続き、簿記論の全体像を把握すると同時に、実際の帳簿記入を通じて、現実の経営活動において求められる簿記経理処理の能力を向上させることを目的とします。										
<b>学修到達目標</b>										
基本用語、基礎概念、財務諸表の作成、仕訳、勘定記入など簿記の基本事項に精通します。資格取得に寄与し、さらに実社会でも運用する簿記技法を修得します。										
<b>授業の進め方</b>										
用語や概念、計算方法を解説しつつ、あわせて計算事例を使用しながら進めます。特に学生諸君が自ら計算を行なう機会を設けることで、計算能力の向上につながるように配慮します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	手形1	種類 記帳方法				手形とは何かを調査しておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
2	手形2	裏書 割引 記入帳				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
3	その他の資産	有価証券 固定資産				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。				
4	その他の資産と負債1	貸付金 借入金 未収金 未払金				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
5	その他の資産と負債2	立替金 預り金 仮払借受の処理 商品券				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
6	その他の取引	資本金 引出金 税金				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
7	決算1	売上原価 貸し倒れ				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
8	決算2	減価償却				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間。				
9	決算3	見越 繰延				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
10	決算4	現金過不足、引出金、消耗品、有価証券の期末処理				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
11	決算5	精算表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
12	決算6	財務諸表の作成				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
13	伝票	伝票制度 3伝票 5伝票				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
14	簿記一巡再論	開始仕訳、期中取引から試算表の作成、決算整理、精算表、財務諸表まで				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
15	帳簿記入再論 まとめ	総勘定元帳および各種帳簿の締め切り再論 全体像の確認				先週のプリントを解いておく。練習プリントを解答し提出する。1時間				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
別途指示します。				課題：30% 小テスト：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「財務会計」広瀬義州著(中央経済社)				簿記 の履修終了者しか受講できません。電卓を持参してください。各自必ず自宅にて計算練習を行ってください。						

科目名	観光戦略			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	TA26001	研究室	W-18
担当者	林 昌孝			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
		○									
授業概要											
<p>全国で今、観光振興の動きが活性化しています。その戦略が重要であることは、一般企業のみならず観光関連企業においても同様です。本講義では企業戦略についての基礎知識を習得して、長野県の観光戦略について学びます。その応用編としてテーマを設定して、観光戦略を議論・立案・評価しながら実践的に学ぶことを目的とします。</p>											
学修到達目標											
地域観光の課題をテーマとした、観光戦略が立案、評価することができる。											
授業の進め方											
講義とグループワークを中心に進めます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	講義概要と進め方	講義の概要、成績評価の方法、注意事項などの説明をします。					シラバスを読んで質問等をまとめておいてください。資料を配布します(4時間)。				
2	経営戦略の基礎	企業経営における企業戦略の基礎について説明します。					テキスト(経営戦略の基礎)を読んでください(4時間)。				
3	SWOT分析	経営戦略事例とSWOT分析について学びます。					テキスト(企業戦略の手法)を読んでください(4時間)。				
4	経営戦略作成演習	身近な例を用いた経営戦略の作成演習を行います。					テキストの企業戦略事例を読んでください。確認問題があります(4時間)。				
5	長野県の観光産業	長野県の産業構造と観光産業の位置づけについて学びます。					テキスト(長野県の観光産業)を読んでください(4時間)。				
6	観光産業の内部環境	長野県観光産業の特徴・内部環境について説明します。					テキスト(指定箇所)を読んでください(4時間)。				
7	観光産業の外部環境	長野県観光産業の外部環境について説明します。					テキスト(指定箇所)を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
8	長野県の観光振興計画	長野県が行う観光振興計画について説明します。					配布資料(長野県観光振興計画)を読んでください(4時間)。				
9	観光戦略とマーケティング	観光戦略とマーケティング戦略の特徴について説明します。					テキスト(観光戦略とマーケティング)を読んでください(4時間)。				
10	観光の市場分析	観光産業における市場の特徴について説明します。					テキスト(指定箇所)を読んでください(4時間)。				
11	サービス企業戦略事例	マーケティング戦略の事例説明をします。					テキスト(指定箇所)を読んでください(4時間)。				
12	観光事業戦略事例	観光事業のマーケティング戦略の事例説明をします。					テキスト(指定箇所)を読んでください(4時間)。				
13	長野県の観光戦略事例	長野県の観光戦略の事例説明をします。					テキスト(指定箇所)を読んでください(4時間)。				
14	観光戦略テーマ設定	各自が注目する観光課題の絞り込みとまとめ方について説明します。					テキスト(指定箇所)を読んでください(4時間)。				
15	まとめ	課題とする観光戦略の整理検討・まとめ					課題の提出があります(4時間)。				
テキスト					成績評価の方法・基準						
テキスト資料・適時プリントを配布します。					課題：70% 出席レポート：30% S：授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。A：授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。B：授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。C：授業内容の6割程度を理解している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
講義内で紹介します。					地域の観光課題を意識して講義に臨んでください。						

科目名	国際観光			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	TA26002	研究室	W-17
担当者	益山 代利子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
観光は「平和のパスポート」と呼ばれています。訪日外国人旅行者が100万人を超える時代を迎えて、今後益々人的交流の機会が増え、個人的な民間外交の重要性が叫ばれてきました。本講義では、国際観光に関連する統計や事例を基に、国際観光ビジネス、インバウンド政策の諸問題、国際観光と交流文化の視点から、日本と世界の国際観光について考えます。											
<b>学修到達目標</b>											
1. 日本人の海外旅行の推移や訪日外国人旅行者の特徴を理解する。 2. 観光関連産業界の国際問題について把握する。 3. 国際文化交流と観光の役割について説明できる。											
<b>授業の進め方</b>											
統計資料や文献などを利用して説明します。長野県で活躍するゲストを招待して国際観光の現状の話題提供もしてもらいます。グループワークを通して、最終講義には訪日旅行企画に関するグループプレゼンテーションも行います。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	国際観光の実情	統計数値から読み解く旅行市場の規模、日本人の海外旅行の概況と訪日外国人旅行者の動向、世界の国際観光組織などを紹介します。					配布資料を読む。(4時間)				
2	日本人の海外旅行の歴史と実情	日本人の海外旅行者の市場動向、歴史的背景、観光目的による旅行者の類型、観光行動について説明します。					配布資料を読む。(4時間)				
3	観光振興政策	観光政策を国レベル、地域レベルに分けて紹介します。					配布資料を読む。(4時間)				
4	国際観光の効果	観光による経済効果、観光消費の波及効果、観光の利点と弊害、観光地のライフサイクルなどについて説明します。					配布資料を読む。(4時間)				
5	世界遺産	世界遺産の種類、実情、遺産維持の政策や課題について学びます。					世界遺産調査(ワークシート)(4時間)				
6	訪日外国人旅行の現状	日本における外国人旅行者の消費行動や実情について説明します。					配布資料を読む。(4時間)				
7	訪日外国人旅行と観光振興	日本における外国人旅行者向けの観光資源の種類や振興策について説明します。					外国人旅行者が求める観光資源に関する新聞調査(4時間)				
8	宿泊施設における外国人旅行者の受け入れ	ゲストスピーカーを招待し、宿泊施設経営者が外国人旅行者向けに特に留意している事を学びます。					宿泊施設のHPやSNSを事前に閲覧しておく。(4時間)				
9	訪日外国人旅行者の誘致活動	マーケティング戦略から見たわが国の外国人の誘致活動の可能性について説明します。					配布資料を読む。(4時間)				
10	国際観光と観光ビジネス	旅行業、運輸業、宿泊業、飲食業などに関わる国際観光の視点について説明します。					配布資料を読む。(4時間)				
11	地域の国際観光振興	外国人旅行者を誘致する為の都市観光の取り組みについて事例を紹介し、観光地の販売促進活動の手法について学びます。					配布資料を読む(4時間)				
12	地域の国際観光振興	外国人旅行者を誘致するための地方の取り組みについて事例を紹介し、観光振興の特徴や課題を整理します。					観光振興策のグループプレゼンテーションの準備をします。(4時間)				
13	観光振興策のグループ・プレゼンテーション	5名程度のグループに分かれて、訪日外国人旅行者向けの観光地の楽しみ方を提案します。					観光振興策のグループ・プレゼンテーションの準備(4時間)				
14	オリンピックレガシー	メガスポーツイベントと観光遺産について過去の事例から、今後どのような観光振興が望ましいかを考えます。					配布資料を読む。(4時間)				
15	まとめ	これまでの総括と試験対策の説明をします。					講義全体の復習(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
「訪日観光の教科書」高井典子・赤堀浩一郎編(創成社) ISBN:978-4-7944-2427-3(生協で購入してください。)						課題:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解け、他の学生の前で発表できる。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって内容に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおよるを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
						グループプレゼンテーションは、参加者全員が評価に参加するピア・レビューとしますので、各自協力して発表に臨んで下さい。					

科目名	観光産業論			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	TL26003	研究室	W-15
担当者	田開 寛太郎			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
			A	B	C						
<b>授業概要</b>											
観光関連企業が経営していく上での現状や課題について観光関連企業や観光地から具体的に把握し、各観光業界と観光地の経営戦略を考えます。前半に観光関連産業の経営を学び、後半は観光地に焦点を当て地域での観光産業について学びます。様々な観光産業、観光地の経営戦略を理解することが到達目標です。											
<b>学修到達目標</b>											
観光産業、観光地における顧客満足度を高めてリピーターを増やすための取組や経営戦略を理解するとともに、経営戦略を考えることが出来るようになることを目指します。											
<b>授業の進め方</b>											
独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。教室での講義のみになります。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要、学修到達目標、授業の進め方、評価の仕方、履修上の注意などを説明します。					自分自身で体験した観光施設について感動した要因を整理する(4時間)				
2	観光経営の状況と動向	「観光をめぐる経営状況と現在の動向について」および「観光関連産業の経営状況と戦略」について解説します。					観光経営の状況と動向について学修する(4時間)				
3	旅行会社 競争激化する業界での経営戦略について	競争激化する業界での経営戦略について、人気のある旅行会社の事例を説明し、今後の業界の経営戦略について解説します。					人気のある旅行会社についてその要因を調べる(4時間)				
4	宿泊関連施設1 旅館と民宿	人気のある旅館とは、今後の旅館経営戦略について効果ある施策を解説します					人気のある旅館についてその要因を調べる(4時間)				
5	宿泊関連施設2 ホテル	リッツカールトンのホスピタリティ経営とは。人気NO.1のホテルの顧客満足度を高めるための施策を解説します。					人気のあるホテルの要因を調べる(4時間)				
6	テーマパーク	ディズニーランドの顧客満足戦略について50の実践例紹介し、説明します。					ディズニーランド訪問時に体験した顧客満足についてまとめておく(4時間)				
7	動物園	旭山動物園がなぜ上野動物園より人気があるのか。顧客満足度を高めるための施策を学びます。					旭山動物園の行動展示について学修する(4時間)				
8	美術館・博物館	美術館・博物館が地域を活性化するための10のポイントと経営戦略を解説します。					美術館・博物館が地域を活性させるための施策について学修する(4時間)				
9	空港・航空会社	地方空港の経営戦略について。格安航空会社の経営戦略について解説します。					地方空港の経営戦略とLCCについて学修する(4時間)				
10	スポーツマネジメント	日本プロ野球とメジャーリーグの経営について双方を比較しながら解説します。					メジャーリーグの確保のための施策を学修する(4時間)				
11	温泉観光地	観光地における産業の経営状況と戦略について。温泉地・温泉街の活性化に向けての地域経営戦略について解説します。					温泉観光地における地域観光振興策と経営戦略を学修する(4時間)				
12	スキー場	スキー場の振興策について歴史・現状を紹介し、今後の施策を解説します。					スキー場の振興策について学修する(4時間)				
13	中心市街地の活性化	中心市街地活性化のための10の戦略を事例を参考にしながら紹介します。					市街地活性化のための施策を学修する(4時間)				
14	観光まちづくり	観光(産業)とまちづくりについて5つのポイントと事例を紹介し、解説します。					観光まちづくりについての5つのポイントを学修する(4時間)				
15	まとめ	講義全体のまとめをします。					観光産業における顧客満足度を高めるための施策を学修する(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
講義ごとに概要を説明したレジメを配ります。						出席レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A:授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B:授業内容をおおよ理解し探究心、提案力がある。 C:授業内容をおおよ理解し、探究心、提案力が60%程度である					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
なし						授業中に発表してもらった場合もあるので常に問題意識を持って授業に出席して欲しい。講義計画に該当する内容を、新聞、ニュース、書物などから探し読んでおいて下さい。					

科目名	人的資源管理		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリノ	TL26004	研究室	W-29	
担当者	畑井 治文		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限			
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
人的資源管理は、企業や組織において「ヒト」をどのように活かしていくべきかについて学ぶ学問です。また、ここで扱われる内容は、皆さん自身にも直結する重要なテーマです。「どのような仕組み」のもとで働き、「どのような報酬」を得るのか、こうした点を知らずに安心して働くことができるでしょうか。本講義では、採用、配置の問題をはじめとして、人事評価、報酬、教育訓練の問題に至るまで、人的資源管理を学ぶ上で必要不可欠な内容を網羅的に扱っていきます。											
学修到達目標											
人的資源管理の仕組みを学ぶことで、「ヒト」の活かし方についての知識や関心を広げるようになるのはもちろん、職業人として損をしない行動ができるようになることが目標です。											
授業の進め方											
基本的には講義用プリントを配布して授業を進めます。各回とも教室での講義となりますが、可能な限り、インタラクティブな授業を展開できるように心がけていきます。授業内で実施した小テスト・課題などについては、随時、返却・解説をする予定です。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標などについて説明します。また人的資源管理の目的、人的資源管理の構成について解説します。					今回の内容を復習すると同時に、バイト先の従業員の方々の呼称を調べてきて下さい。(4時間)				
2	社員区分制度と社員格付け制度	効率的な人的資源管理を行うために必要不可欠な「従業員区分」の方法について解説します。また日本企業で広く用いられている社員区分制度と社員格付け制度の実例なども紹介します。					今回の内容を復習すると同時に、労働契約という用語について調べてきて下さい。(4時間)				
3	採用管理	採用管理のステップ、採用管理と労働法制(採用対象者にかかわる法的規制、雇用契約・労働契約にかかわる法的規制など)について解説します。					今回の内容を復習すると同時に、企業が配置転換を行う理由について調べてきて下さい。(4時間)				
4	配置と異動の管理	異動(配置転換)の目的、決定権限、範囲について解説した上で、日本企業の異動政策の功罪を整理します。また近年導入が進んでいる個人ニーズ重視型の異動政策なども紹介します。					今回の内容を復習すると同時に、内部昇進の特徴について調べてきて下さい。(4時間)				
5	人事評価と昇進管理	人事評価の原則、基準、方法について解説します。また人事評価の結果を活用して行われる昇進管理に関して、日本企業に見られる特徴を整理します。					今回の内容を復習すると同時に、企業が支払っている報酬について調べてきて下さい。(4時間)				
6	報酬管理(労働費用管理)	適切な労働費用の決め方、労働費用の構成について解説した上で、年齢別、学歴別、企業規模別などの各視点から、近年の労働費用の動向を整理します。					今回の内容を復習すると同時に、賞与の支給月数について調べてきて下さい。(4時間)				
7	報酬管理(賃金管理)	賃金管理の2つのテーマである総額賃金管理、個別賃金管理について解説します。また日本企業で広く用いられている賃金制度の実例なども紹介します。					今回の内容を復習すると同時に、企業における退職金制度について調べてきて下さい。(4時間)				
8	報酬管理(福利厚生と退職金)	法定福利厚生費、法定外福利厚生費について解説した上で、福利厚生の意義を整理します。また日本企業における退職金制度の仕組み、退職金制度の再編の動きなども紹介します。					今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
9	中間のまとめ(ケーススタディ)	映像資料を用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。					小テストを復習すると同時に、バイト先の教育訓練制度について調べてきて下さい。(4時間)				
10	能力開発と教育訓練	教育訓練の体系について解説した上で、具体的な教育訓練方法(OJT、Off-JT、自己啓発など)のメリット、デメリットを整理します。					今回の内容を復習すると同時に、労働時間に関する法律について調べてきて下さい。(4時間)				
11	労働時間と勤務形態	労働時間管理の日本の特質、労働時間と労働法制(法定労働時間、法定休日、休憩時間、年次有給休暇など)について解説します。また近年進んでいる「労働時間制度の弾力化」なども紹介します。					今回の内容を復習すると同時に、雇用調整という用語について調べてきて下さい。(4時間)				
12	雇用調整と退職・解雇の管理	雇用調整政策のタイプ、雇用調整の実際、解雇にかかわる法的規制について解説します。また定年後の働き方として注目される勤務延長制度や再雇用制度なども紹介します。					今回の内容を復習すると同時に、派遣労働の仕組みについて調べてきて下さい。(4時間)				
13	非正社員と派遣労働者	非正社員の活用が進展する社会的背景、就業調整の問題、正社員と非正社員の均衡処遇の問題について解説します。また非正社員の一形態である派遣労働の仕組み、メリット、デメリットを整理します。					今回の内容を復習すると同時に、労働組合について調べてきて下さい。(4時間)				
14	労働組合と労使関係管理	日本の労働組合の組織、交渉・協議の仕組みと労働争議について解説した上で、労働組合が企業経営に及ぼす影響について整理します。					今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	定期試験対策プリントを用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。					小テストを復習すると同時に、定期試験に備えて下さい。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
講義用プリントを配布します。				出席レポート:20% 小テスト:30% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解して発展問題・課題が解ける。A:授業内容を理解して応用問題・課題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解して応用問題・課題がほぼ解ける。C:授業内容の6割程度を理解している。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「人事管理入門<第2版/>日経文庫」今野浩一郎著(日本経済新聞出版社)				皆さんが就職活動で最初に会うのは人事部の方々、すなわち企業や組織で人的資源管理を担当している方々です。そう考えると、人的資源管理も身近なことに思えてきませんが。							

科目名	宿泊経営		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナパリング	TA36005	研究室	W-26
担当者	山根 宏文		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		○								
授業概要										
宿泊施設の中でも旅館や民宿、ペンションなど日本型の宿泊施設や、西洋型のホテルから多様な宿泊施設形態の経営方法を学び理解することを旨とします。この講義では、旅館、ホテルの経営者を招き実践経営を学びます。										
学修到達目標										
観光産業の中で、宿泊産業について旅館やホテルについて理解し、経営・営業・企画に活かせるノウハウを学ぶのが目標です。										
授業の進め方										
独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。3日間の集中講義になります。2日間は講義、1日はアウトキャンパスになります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	長野県の宿泊産業の経営状況	長野県の宿泊産業の経営状況について解説します。				長野県の宿泊産業の経営状況について学修する。(事前事後4時間)				
2	旅館業の動向	旅館業の動向について解説します。				旅館業の動向について学修する(事前事後4時間)				
3	旅館の経営 融資判断の基準	旅館の経営 融資判断の基準について解説します。				旅館の経営 融資判断の基準について学修する。(事前事後4時間)				
4	旅館の経営 決算書・旅館の資金需要	旅館の経営 決算書・旅館の資金需要について解説します。				旅館の経営 決算書・旅館の資金需要について学修する。(事前事後4時間)				
5	旅館の経営 事業計画	旅館の経営 事業計画について解説します。				館の経営 事業計画について学修する。(事前事後4時間)				
6	旅館の現状	旅館の現状について解説します。				旅館の現状について学修する。(事前事後4時間)				
7	旅館の特質	旅館の特質について解説します。				旅館の特質について学修する。(事前事後4時間)				
8	旅館の経営 客室・宴会	旅館の経営 客室・宴会について解説します。				旅館の経営 客室・宴会について学修する。(事前事後4時間)				
9	旅館の経営 食事	旅館の経営 食事について解説します。				旅館の経営 食事について学修する。(事前事後4時間)				
10	旅館の経営 インバウンドについて	旅館の経営 インバウンドについて解説します。				旅館の経営 インバウンドについて学修する。(事前事後4時間)				
11	ホテルの歴史	日本・欧州のホテルの歴史について解説します。				ホテルの歴史について学修する。(事前事後4時間)				
12	ホテルの特性	ホテルの特性について解説します。				ホテルの特性について学修する。(事前事後4時間)				
13	ホテルの経営 宿泊部門・飲料部門	ホテルの経営 宿泊部門・飲料部門について解説します。				ホテルの経営 宿泊部門・飲料について復習する。				
14	ホテルの経営 宴会部門・予約部門・営業推進	ホテルの経営 宴会部門・予約部門・営業推進について解説します。				ホテルの経営 宴会部門・予約部門・営業推進について学修する。(事前事後4時間)				
15	ホテルと地域との連携	ホテルと地域との連携について実例を案内し解説します。				ホテルと地域との連携について学修する。(事前事後4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
講義ごとに概要を説明したレジメを配ります。		出席レポート：30% レポート：70% S：授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A：授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B：授業内容をおおよそ理解し探究心、提案力がある。 C：授業内容をおおよそ理解し、探究心、提案力が60%程度である								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「ホテル経営教本」(柴田書店)		多様な施設でそれぞれに通じた専門家に講義や指導をお願いすることになります。講義計画に該当する内容を参考図書、その他の書物から探し、読んでおいて下さい。								

科目名	ホームページ実践		学年学期	2年後期	単位数	1	ナバリング	KL26036 TL26006	研究室	W-18
担当者	林 昌孝・松澤 みわ子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	高一(情報)				履修条件	ホームページ作成受講者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
ホームページは情報の取得と発信の強力なツールであり、高度情報社会における重要な情報メディアといえます。本講義ではホームページ作成における上級レベルの技術を習得することを目的とします。ホームページの基礎知識の確認をおこない、スタイルシート、フォーム、イメージマップ等の活用について習得し、ホームページ作成のスキルアップを目指します。										
<b>学修到達目標</b>										
情報処理検定協会ホームページ作成検定試験の1級に合格できる。										
<b>授業の進め方</b>										
コンピュータ教室での実習を中心にすすめます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	講義概要とクラス分け	講義全体の概要、目標の確認、成績評価の方法、注意事項について説明します。また、クラス分けを行います。				シラバスを読んで質問等をまとめてきてください。資料を配布します(1時間)。				
2	ホームページビルダーの基本操作3級レベル	ホームページビルダーの基本操作のうち3級レベルの確認を行います。				配布資料の初期設定、事前準備を読んできてください(1時間)。				
3	ホームページビルダーの基本操作2級レベル	ホームページビルダーの基本操作2級レベル				配布資料(HTMLの基礎等)を読んできてください(1時間)。				
4	スタイルシート	スタイルシートについて説明してリンク等を確認します。				スタイルシートとリンクについて読んできてください(1時間)。				
5	ID・クラス	ID・クラスの設定について説明します。				ID・クラスの設定について読んできてください(1時間)。				
6	ページタイトル	ページタイトルの設定方法について説明します。				ページタイトルの設定方法について読んできてください。復習問題があります(1時間)。				
7	イメージマップ	イメージマップの設定と編集方法について説明します。				イメージマップの設定方法について読んできてください。復習問題があります(1時間)。				
8	フォーム	フォーム・入力部品の挿入について説明します。				いろいろな入力部品について読んできてください(1時間)。				
9	外部ファイルの挿入	外部ファイルの挿入(JavaScriptほか)について説明します。				JavaScriptについて読んできてください。復習問題があります(1時間)。				
10	スタイルシート設定問題	検定試験1級模擬問題からスタイルシートの設定とリンクについて演習します。				検定試験1級模擬問題(スタイルシート)を読んできてください(1時間)。				
11	スタイルシートのプロパティ編集	検定試験1級模擬問題からスタイルシートのプロパティ編集問題の演習を行います。				検定試験1級模擬問題(スタイルシートのプロパティ)を読んできてください(1時間)。				
12	検定試験1級模擬問題演習(イメージマップほか)	検定試験1級模擬問題演習(イメージマップほか)を行います。				指定した検定試験1級模擬問題を読んできてください(1時間)。				
13	検定試験1級模擬問題演習(フォーム・JavaScriptの挿入ほか)	検定試験1級模擬問題演習(フォーム・JavaScriptの挿入ほか)を行います。				指定した検定試験1級模擬問題を読んできてください(1時間)。				
14	検定試験1級過去問題ポイント解説	検定試験1級模擬問題演習(過去問題のポイント解説)				指定した検定試験1級模擬問題を読んできてください(1時間)。				
15	まとめと検定試験1級模擬問題演習	まとめと検定試験1級模擬問題演習を行います。				指定した検定試験1級模擬問題を読んできてください(1時間)。				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「ホームページ作成検定試験模擬問題集1級」(日本情報処理検定協会)(生協で購入してください。) ISBN指定なし 適時、プリント資料を配布します。				定期試験:80% 出席レポート:20% S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。C:授業内容の6割程度を理解している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
適時紹介します。				ホームページ作成検定試験合格が目標です。						

科目名	サービスマーケティング		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA36022 TA36007	研究室	W-17
担当者	益山 代利子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観○								
<b>授業概要</b>										
今、世界経済成長の牽引力がサービス部門にシフトし、GNPや労働人口に占めるサービス分野の割合は拡大しているにもかかわらず、日本のサービスビジネスは、製造業との比較において生産性の低さやグローバル化の遅れが目立っているとされています。本講義では、サービス企業の成功例を吟味しながら、サービス産業に求められるマーケティング理論を体系的に学び、身近なサービスの現場に照らし合わせて考える能力を養います。										
<b>学修到達目標</b>										
サービスの特徴を理解した上で、サービスの経営を体系立てて考えるための一般的な理論と方法を習得すること。										
<b>授業の進め方</b>										
テキストと参考資料を基にすすめます。講義の形式は主にスライドを使用しますが、内容に応じてビデオも併用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	サービス・マーケティングの概要	サービスの経営や販売に関して、サービス・マーケティングの学問領域ではどのような課題を扱うかを説明します。				テキスト第1章、第2章を読む。(4時間)				
2	サービスとは何か	商品としてのサービス、サービス商品の特徴をモノ製品と比較して考えます。				テキスト第3章、第4章を読む。(4時間)				
3	サービスの分類と構成要素	サービス商品の構成要素と分類の仕方について学びます。				テキスト第5章、第8章を読む。(4時間)				
4	サービス・エンカウンター設計	サービス商品の特徴を理解した上で、サービス・エンカウンター(接遇)の設計方法について整理します。				テキスト第6章、第7章を読む。(4時間)				
5	サービスの品質	サービスの品質の重要性、特徴、基準、顧客満足と顧客価値の関係について学びます。				テキスト第9章を読む。(4時間)				
6	サービス・マーケティング・ミックス	サービス・マーケティング・ミックスの特徴、内容、顧客価値の実現とサービス組織についての考え方を整理します。				テキスト第10章、第11章を読む。(4時間)				
7	サービス・マーケティング・ミックス: サービス商品開発	サービス商品開発について学びます。グループワークを用いて、実在企業のサービス商品について考えます。				企業のサービス商品について事前に調査する。(4時間)				
8	サービス・マーケティング・ミックス: 流通	サービス商品の流通、立地条件について学びます。				企業のサービス商品の流通について調査する。(4時間)				
9	サービス・マーケティング・ミックス: 販売促進	サービス商品のプロモーション手法について学びます。				企業のサービス商品の販売促進方法について調査する。(4時間)				
10	サービス・マーケティング・ミックス: 価格	サービス商品の価格設定の手法について説明します。				企業のサービス商品の価格について調査する。(4時間)				
11	サービス・マーケティング・ミックス: 人材	人材育成やモチベーション理論などを踏まえたインターナル・マーケティングについて説明します。				企業の従業員研修や労働意欲維持に関する取組について調査する。(4時間)				
12	サービス・マーケティング・ミックス: 物的環境・サービス・デリバリー・シス	サービスの空間デザインとサービスを提供する過程について説明します。				テキスト第12章を読む。(4時間)				
13	サービス・プロフィット・チェーン	サービスの利益構造、顧客満足度、顧客ロイヤルティの関係について説明します。				テキスト第13章を読む。(4時間)				
14	苦情対応と顧客ロイヤルティ	苦情対策と顧客ロイヤルティ、リレーションシップ・マーケティングについて学びます。				テキスト第14章を読む。(4時間)				
15	サービス・マーケティングと顧客価値創造	まとめ				資料確認、試験対策 (4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「サービスマーケティング第2版」近藤隆雄著(生産性出版) ISBN:978-4-8201-1949-4(生協で購入してください。)				課題:30% 定期試験:70% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解け、他の学生の前で発表できる。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって内容に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおよるを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「コトラーのプロフェッショナル・サービス・マーケティング」フィリップ・コトラー他著(ピアソン・エデュケーション)				「マーケティング基礎」の単位を修得していることが望ましい。						

科目名	日本経済史		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバ'リツ	KA36005 TA36008	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
			A	B	C					
			総 観	○						
授業概要										
日本の歴史を振り返ってみて、経済はどのように発展して現在に至っているのか、言葉を換えると、現代の日本経済はどういう積み重ねの結果としてあるのか。この問いに答えようとするのが、日本経済史です。現代の日本は、世界トップレベルの規模を持つ経済大国になっていますが、そこには「日本的」としか表現のしようがない経済構造があります。細かな現象にとらわれず、長い間の日本経済の歴史を大きな流れで把握しようとしたときに、理解できるはずですよ。										
学修到達目標										
今年度は、戦後日本の経済を中心に話を進めるので、日本が戦後の混乱を経て高度経済成長を経験し、いわゆる経済大国になった過程、およびその後の低成長期からバブル経済・不況期へと転換する流れを大づかみに理解することが目標となります。										
授業の進め方										
基本的には教員からの説明を主体とした講義形式で進めます。アウトキャンパス等は計画していません。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	講義全体の概要説明	ガイダンスと講義に向けての基礎知識の説明				事前にテキスト1頁を熟読すること(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)				
2	財閥解体	戦後GHQが主導した経済改革の柱である財閥解体を詳述する				テキスト2~3頁を熟読する(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)				
3	集中排除と逆コース	集中排除が、米本国の政策転換で挫折する過程を詳述する				テキスト3~6頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
4	未曾有のインフレーション	戦争直後に日本が経験した驚異的なインフレとその原因を詳述する				テキスト6~8頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
5	金融資本集団の形成	経済復興が金融機関を核に進み、企業集団が形成される過程を詳述する				テキスト8~11頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
6	傾斜生産方式	経済復興の核と位置づけられた傾斜生産方式の内実を詳述する				テキスト11~13頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
7	ドッジライン	インフレを沈静化させるための荒療治、ドッジラインを詳述する				テキスト13~14頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
8	神武景気と高度経済成長	朝鮮戦争から高度経済成長へ、経済に弾みがつく過程を詳述する				テキスト15~19頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
9	好不況の波と岩戸景気	世界的に類例のない高度経済成長の中味を詳述する				テキスト19~22頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
10	いざなぎ景気と景気後退	最後の大型景気はいざなぎ景気とその後の経済原則について詳述する				テキスト22~25頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
11	ニクソンショックとオイルショック	高度経済成長の終焉を決定づけた二つの経済激変について詳述する				テキスト25~28頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
12	金融資本集団の形成	高度経済成長の過程で、どのように企業集団が形成されたかを詳述する				テキスト28~36頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
13	バブル経済と金融界	バブル経済の全貌と、金融界の対応について詳述する				テキスト42~50頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
14	日米経済摩擦	政治問題化した日米経済摩擦の経緯と大店法問題について詳述する				テキスト50~55頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘したキーワードを調べる(2時間)。				
15	総括	戦後日本の経済動向を総括する				テキスト全体を通読しておくこと(2時間)。事後、授業での総括を復習(2時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「日本経済史」木村晴壽著松本大学総合経営学部編(生協で購入してください。)				レポート:20% 定期試験:80% S:授業内容を十分に理解し、日本の経済発展について解説できる。A:授業内容を理解している。B:授業内容をおおよそ理解している。C:授業内容を6割程度理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「日本経済史」石井寛治著(東京大学出版会) 「経済史入門」塩澤君夫・近藤哲生著(有斐閣新書)等				期末の試験は、かなり難易度を高く設定しているため、普段の講義で集中して理解しようとする姿勢が必要です。						

科目名	社会調査論		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KL36025 TL36009	研究室	W-18
担当者	林 昌孝		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
本講義は、社会現象をデータの収集と分析により明らかにする、社会調査について学びます。調査研究しようとする対象の設定や調査方法、得られたデータの整理と検討についての基礎理論を説明し、分析・検討の方法について学びます。基礎統計学の続編に位置します。										
<b>学修到達目標</b>										
アンケートの調査により得られたデータを適切な方法で表現したり、仮説検定ができる。										
<b>授業の進め方</b>										
講義用テキストを配布して授業を進めます。教室での講義とパソコン(エクセル)での実習・演習をおこないながらすすめます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	受講条件の確認をおこない、進め方について説明をします。				シラバスを読んで質問等をまとめてきてください。資料を配布します(4時間)。				
2	社会調査の目的と種類	社会調査の目的と種類について説明します。				テキスト(社会調査の目的と種類)を読んできてください(4時間)。				
3	数値データ表現	量的調査とデータ表現について説明します。				テキスト(数値データ表現)を読んできてください(4時間)。				
4	カテゴリデータ表現	質的調査とデータ表現について説明します。				テキスト(カテゴリデータ表現)を読んできてください(4時間)。				
5	社会調査の進め方	社会調査の進め方と整理の方法について説明します。				テキスト(社会調査の進め方と整理)を読んできてください(4時間)。				
6	データ表現演習	いろいろなデータの表現方法について演習形式で学びます。				テキスト(データ表現演習)を読んできてください。確認問題があります(4時間)。				
7	標本調査に関する理論	母集団と標本調査に関する理論について説明します。				テキスト(母集団と標本調査に関する理論)を読んできてください(4時間)。				
8	推定と検定の基礎理論	推定と検定の基礎理論について説明します。				テキスト(推定と検定の基礎理論)を読んできてください。確認問題があります(4時間)。				
9	確率分布と検定理論	いろいろな確率分布と検定の対応について説明します。				テキスト(確率分布と検定理論)を読んできてください(4時間)。				
10	t分布による検定	t分布による検定方法について説明します。				テキスト(t分布による検定)を読んできてください(4時間)。				
11	カイ二乗分布による検定	カイ二乗分布による検定について説明します。				テキスト(カイ二乗分布による検定)を読んできてください(4時間)。				
12	標本数が異なる異なる場合の検定	標本数が異なる異なる場合の検定について説明します。				テキスト(標本数が異なる異なる場合の検定)を読んできてください(4時間)。				
13	分散分析とF分布の理論	分散分析とF分布の理論について説明します。				テキスト(分散分析とF分布の理論)を読んできてください。確認問題があります(4時間)。				
14	発展分野	社会調査の発展分野について説明します。				資料配布しますので読んできてください(4時間)。				
15	課題とまとめ	各自が社会調査を実際に行って結果の検討をおこないます。				課題と確認問題があります(4時間)。				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
講義用テキスト及びプリントを配布します。		定期試験：70% 出席レポート：30% S：授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。A：授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。B：授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。C：授業内容の6割程度を理解している。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
2年配当科目「基礎統計学テキスト」林昌孝編著(松本大学)適時紹介します。		本科目は「基礎統計学」「情報処理」の知識を基礎にしています。また、パソコン教室を利用するため履修者制限する場合があります。								

科目名	コンベンションビジネス			学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバ'リング	TA36010	研究室	
担当者	谷 博子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
<p>「コンベンションビジネス」は観光の一分野として、各種団体や企業などが主催する大小の会議、大会事、展示会、企業主催の褒賞旅行、イベント等を扱うものです。多くの人々が一堂に集うことで開催地への社会的・経済的波及効果も少なくありません。本講義では特に国際コンベンションの国内及び海外の具体的事例を数多く見ながらコンベンションに必要な専門的知識やノウハウを学びます。</p>											
<b>学修到達目標</b>											
<p>コンベンションは馴染みの少ない言葉ですが、今後ますます重要な役割を果たすものです。将来、観光業、展示・イベント業、あるいは都市計画や街おこしなどに従事する場合に必要なコンベンションの基礎的かつ実践的知識の習得を目指します。</p>											
<b>授業の進め方</b>											
<p>講義の大変はLCDプロジェクターを使ったプレゼン方式で行います。また講義が一方通行にならないようQ&amp;Aの時間を毎回設けると共に、随時ディスカッションの時間も取る予定です。また授業の集大成としてグループ発表を行います。</p>											
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	コンベンションの定義と意義・効果	コンベンションビジネスとは何か。歴史的経緯、定義、意義・効果などコンベンションの全体について学びます。					資料を配布しますので復習しておくこと。				
2	世界と日本のコンベンション動向	世界と日本のコンベンションビジネスの動向について学び、コンベンションの日本開催について考えます。					資料を配布しますので復習しておくこと。				
3	コンベンションの経済波及効果	コンベンションビジネスの市場規模はどの程度か、市場性は何か。また、一般観光と比べはるかに大きいコンベンションビジネスの経済波及効果の実態について学びます。					資料を配布するので復習しておくこと。				
4	コンベンションのマーケティング戦略	コンベンションは開催地に大きな経済的・社会的恩恵をもたらすことから、各国がその誘致に力を入れています。これを誘致するには地元として何をすべきか。コンベンションのマーケティング戦略について学びます。					資料を配布しますので復習しておくこと。				
5	国際会議の実際	世界の一流の研究者が集まる国際会議はコンベンションビジネスの花形です。国際会議誘致・開催のメカニズム、問題点等について学ぶと共に、効果的な誘致とスムーズな運営の方法について考えます。					資料を配布しますので復習しておくこと。				
6	国際博覧会・見本市/展示会・イベント・ビジネスの実態	見本市・展示会は来訪者のみならず、世界最先端の情報が開催地にもたらされるため多くの国が見本市・展示会の誘致・開催に力を入れています。その実態について学びます。					資料を配布するので復習しておくこと。				
7	インセンティブ旅行の基本	「インセンティブ旅行」は聞きなれない言葉ですが、企業が優秀な営業スタッフ等に提供する豪華な「報奨旅行」のことです。ユニークな手配を必要とする「インセンティブ旅行」について学びます。					資料を配布するので復習しておくこと。				
8	コンベンション施設と付帯施設	コンベンションを開催するためには施設が不可欠です。世界及び日本のコンベンション施設の実態について学び、利用者に優しい施設の在り方、また効果的な運営方法について学びます。					資料を配布しますので復習しておくこと。				
9	コンベンション関連産業について	コンベンションは一般観光に比べ関連産業が多く、地元への波及効果が大きいのが特徴です。どのような業種がコンベンションに参加しどんな役割を果たすのか、コンベンション関連産業の実態について学びます。					資料を配布しますので復習しておくこと。				
10	コンベンションビューローの役割	コンベンションを地元へ誘致する公的機関であるコンベンションビューローは現在、松本市も含め全国に60か所ほどあります。コンベンションビューローの歴史、役割と活動の実態について学びます。					資料を配布しますので復習しておくこと。				
11	東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の考察	コンベンションの頂点とも言える東京オリンピックの開催が2年後に迫りました。オリンピックが開催国と地域に及ぼす経済的、社会的効果、オリンピックを契機とした将来の成長戦略について考えます。					資料を配布しますので復習しておくこと。				
12	日本政府のコンベンション戦略	各国が鎬を削るコンベンションの誘致について、日本政府がコンベンション振興のために実施している政策について学びます。					資料を配布しますので復習しておくこと。				
13	コンベンション誘致のための効果的なプレゼンテーション	コンベンション、特に国際会議を誘致するためには上手な誘致プレゼンテーションが必須です。効果的なプレゼンテーション資料の作り方、実施の方法等について学びます。					グループ毎にコンベンションを誘致するためのプレゼンテーションを準備する。				
14	グループ発表	前回のプレゼンテーションに関する講義を踏まえ、グループに分かれ、コンベンションを誘致するためのプレゼンテーションを行います。					グループ毎にプレゼンテーションを準備し、プレゼンの練習をしておくこと。				
15	全体のまとめ	これまで学んできたコンベンション全体について復習します。またコンベンションビジネスに必要な専門用語を覚えます。					これまでの講義内容を復習・整理しておくこと。				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
講義毎に講義内容のアウトラインを配布。						定期試験：40% グループ発表：20% 授業への参加度40%					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
<p>「Meetings, Expositions, Events, and Conventions - An Introduction to the Indust」George G. Fenich著 (Pearson Prentice Hall) 「Conference and Conventions: A Global Industry」Tony Rogers著</p>						<p>細かい専門的知識を一つ一つ憶える必要はありません。講義中に紹介するウェブサイトに出る限りアクセスし、得た情報を確認しそれらをどのように活用するかを考えるよう心がけてください。</p>					

科目名	地域振興と観光			学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	TA36011	研究室	
担当者	勝亦 達夫			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
		○									
<b>授業概要</b>											
日本の各地域では、行政・民間・大学が協働し地域課題解決や活性化に取り組んできました。また、日本の観光の視点もこの10年で変わりつつあり、地域性や実体験を重視した旅の在り方が求められています。一方で海外からの来訪者に対応する視点も求められるようになってきました。こうしたグローバルかつローカルな状況に対応するためには、地域それぞれの要素の特徴を見極め新たな仕組みを構築する必要があります。本講義では、地域振興と観光について実践的なケーススタディを通じて学びます。											
<b>学修到達目標</b>											
1. 今までなかった視点やニーズを調査・分析し、問題提起ができるようになる。 2. 各地域の特性を活かしたまちづくり、地域づくりについて情報を周囲と共有し、新たな地域振興策、観光モデルが提案できるようになる。											
<b>授業の進め方</b>											
本講義では、グループワークやディスカッションを通じて地域課題の解決策を考えながら、提案を伝える力を養います。また、実際の地域の方々との討論やフィールドワークを実施し、成果を発表してもらいます。											
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	講義ガイダンス	講義の概要、授業の進め方、評価の仕方などについての説明をします。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること（4時間）				
2	地域課題の把握	調査・分析手法と視点について学びます。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること（4時間）				
3	地域振興と観光の事例 ～若者のまちづくり	地域で活躍している若者視点のまちづくりについて事例を紹介します。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること（4時間）				
4	地域振興と観光の事例 ～交通から考えるまちづ	「交通」から考えるまちづくりについて説明します。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること（4時間）				
5	地域振興と観光の事例 ～行政から考える観光施	行政が取り組む観光施策について事例を交えて説明します。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること（4時間）				
6	地域振興と観光の課題	「地域振興と観光」の課題について専門に取り組まれている方をゲストスピーカーに迎え、現場での経験や課題を聞きます。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること（4時間）				
7	フィールドワーク～現地を知る	実際の地域に出る上での心構えやリサーチ・リテラシーについて学びます。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること（4時間）				
8	グループワーク～地域活性化 手法の応用	「インタビュー」から強みと課題を探る練習をします。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること（4時間）				
9	グループワーク～地域活性化 手法の応用	課題を定量的に探る調査手法と分析、それらを立証する資料の集め方について学びます。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること（4時間）				
10	グループワーク～地域活性化 手法の応用	自分の考えや提案を表現する方法（プレゼンテーション）を学び、実践します。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること（4時間）				
11	グループワーク～地域活性化 手法の応用	ブレインストーミングによって課題設定やアイデアを引き出す方法を学びます。最終報告に向けた目標設定をします。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること（4時間）				
12	地域振興に向けた提案	報告会に向けグループ作業、発表準備をします。					報告会までに作業を終わらせておくこと（4時間）				
13	地域振興に向けた提案	報告会において、グループ発表（前半）を実施します。					報告会までに作業を終わらせておくこと（4時間）				
14	地域振興に向けた提案	報告会において、グループ発表（後半）を実施します。					報告会までに作業を終わらせておくこと（4時間）				
15	総括	実践課題の報告とふりかえりをします。					期日までにリアクションペーパーを提出すること（4時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>							
毎回、講師からプリントまたは資料を配布します。				出席レポート：50% 課題：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組むことができている。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。B：授業のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。							
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>							
「小布施まちづくりの奇跡」川向正人著（新潮社） ISBN：4106103540				グループワークを中心とした演習形式で実施します。主体的に発言するのが苦手な人ほど積極的に参加してみましょう。通常と異なる時間枠（土日等）で地域に入ることを予定しています。予め想定しておいてください。							

科目名	日本史		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	TL16012	研究室	非常勤
担当者	小松 芳郎		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
<b>授業概要</b>										
地域に伝わる身近な出来事に触れながら、それぞれの時代の日本の歴史を見ていきます。いつ、どこで、何が起きたかといった網羅的な日本史ではなく、日本の歴史事象をいくつか選び、当時の人物、記録、時代をとらえていきます。										
<b>学修到達目標</b>										
歴史をみる眼、歴史観を新たに構築できる。										
<b>授業の進め方</b>										
今ものこる歴史資料などを紹介しながら、毎回10頁のレジメをもとに講義を進めます。講義は教室で行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	歴史像と歴史理論	日本史の時代区分、歴史を学ぶにあたって(小さな歴史から大きな歴史へ)				シラバスを熟読したうえで講義にのぞむこと(4時間)				
2	旧石器・原始時代	旧石器時代・縄文時代・弥生時代の暮らし				身近にある遺跡等を調べておくこと(4時間)				
3	古墳時代	東日本最古の弘法山古墳の文化				身近にある古墳を事前に調べておくこと(4時間)				
4	中世の人びとの暮らし	「物くさ太郎」を読み解きながら、都の暮らしと地方の暮らしを考える				大学の近くにある「物くさ太郎」関連の史跡をみておくこと(4時間)				
5	戦国時代	川中島の戦い、真田氏三代と小笠原氏三代				これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること(4時間)				
6	江戸時代の暮らし(武家)	信濃の諸藩から、武家の暮らしをみていく。藩主の変遷とその動向をさぐる。				これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること(4時間)				
7	江戸時代の暮らし(村びと)	江戸時代の村びとの暮らし、立ち上がる村びと(加助騒動)				これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること(4時間)				
8	幕末から明治へ	黒船来航から維新时期への激動、藩から県へ(「信濃の国」)				これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること(4時間)				
9	地域の近代化	自由民権運動と秩父事件、普通選挙運動発祥の地松本				これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること(4時間)				
10	明治・大正期の日本	人物をとおして、日清・日露戦争期の日本をみる。松本平から大逆事件を考える。				「大逆事件」について調べてくること(4時間)				
11	養蚕・製糸業の発展	日本一の蚕糸王国長野県の製糸業と工女の生活				なぜ製糸業が長野県で栄えたのかを事前に調べてくること(4時間)				
12	戦時下の日本	15年戦時期の日本を、歩兵第五十聯隊・満州移民・工場と児童の疎開からみる				戦争の時代の話聞いてくること(4時間)				
13	変わる生活	高度経済成長期の前と後の変容を、日記から読み解く				身近な生活の変化を整理しておくこと(4時間)				
14	戦後72年の日本	昭和20年以降の日本と米国の指導者の動きから、戦後73年を考える				記憶に残る日本の首相を整理しておくこと(4時間)				
15	歴史的文化財の保護	文化財の保護・保存、歴史文書の保存・利用、および講義全体のまとめ				地元にどのような文化財があるか、事前に調べてくること(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
担当者が作成したレジメを、講義ごとに出席者に配布します。				出席レポート:30% 定期試験:50% 講義後のコメント:20% S:出席レポートを全回提出し、講義後のコメントの密度が非常に高く、講義の内容のほぼすべてを修得している。A:出席レポートを全回提出し、講義後のコメント内容が充実しており、講義内容を深化させて修得している。B:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容を理解し、自分なりの史観を表現できる。C:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容をある程度理解している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
なし				講義ごとに感想を受講票に記入して提出してください。質問があればあわせて記入してください。次回の講義で答えます。						

科目名	外国史		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ`リ`ン`グ	TL26013	研究室	
担当者	柴野 均		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア`-`			
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
「歴史の風景」と題して、ヨーロッパ、アメリカおよびアジア諸国の歴史を明確なイメージでとらえられるように視聴覚教材を大幅に取り入れて論じます。古代ローマの歴史から現在の世界まで幅広い分野を取り扱っていきます。										
学修到達目標										
世界の古代から現代までの主要な問題をできるだけ幅広くかつ具体的に理解することが目標です。その際、たんなる知識の記憶ではなく歴史のイメージをとらえられるようにし、世界の人々との交流に役立てることができる。										
授業の進め方										
基本的には講義形式ですが、必要に応じてさまざまな資料を利用します。板書の代わりにパワーポイントを使って授業をします。使用したパワーポイント教材はダウンロードできるようにします。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	歴史の風景とは何か? 歴史における言葉とイメージの相互補完的作用				参考文献を指示するので、それを授業後に読んでおくこと。				
2	ホロコーストの風景	ナチスドイツのユダヤ人虐殺に関する問題を扱う。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
3	古代ローマの風景	古代ローマについては多くの研究があり、資料も豊富に存在する。そのうちの興味深い事例をとり上げる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
4	中世キリスト教の風景 その1	キリスト教信仰の異端と正統の問題を取りあげる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
5	中世キリスト教の風景 その2	修道会運動の本質を考える。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
6	ルネサンス芸術家の風景	イタリア・ルネサンスを中心に芸術家と権力者の問題を取りあげる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
7	市民革命の風景	イギリスの市民革命を取りあげる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
8	コンキスタドーレスの見た風景	アメリカ大陸の征服と略奪を進める側の問題を取りあげる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
9	ナポレオン戦争の風景	近代の軍隊の問題をナポレオン時代から取りあげる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
10	ロシア革命の風景	ロシア革命が持っていた新しさと欠陥を取りあげる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
11	イタリア・ファシズムの風景	イタリア・ファシズムの魅力がどのようなものなのかを取りあげる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
12	冷戦の風景	東西冷戦がはらんでいた危険性を取りあげる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
13	キューバ革命の原風景	革命がどこから始まるのか、その問題を取りあげる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
14	戦後植民地独立の風景	第二次大戦後の独立運動の問題を取りあげる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
15	ナチズムの風景	ドイツ・ナチズムが持っていた吸引力を取りあげる。				参考文献を指示するので、それを授業前後に読んでおくこと。				
テキスト		成績評価の方法・基準								
なし		定期試験:70% 出席レポート:30% 全体で90%以上の成績があればSを与える " 80% " A " " 70% " B " " 60% " C "  60%未満はDとする。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
参考文献があまりにも多いため、ここには書き切れません。授業のたびに指示します。		おもしろく聞けるように工夫しますので、欠席・遅刻をしないようにしてください。								

科目名	ブライダル総論		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバ`リング	TA36014	研究室	E-04
担当者	小澤 岳志		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`	水曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
ブライダルは本来「冠婚葬祭」の中の一つであり、個人、家族、親戚、或いは地域のお祝い事でありました。従って様々な伝統や風習も多く残り、言ってみればある意味で「文化」でもあったのですが、最近では一つの産業或いは業界として成立しております。また「結婚」という意味においては、社会を構成する最小単位である家族の始まりに繋がり、社会的にも大きな意味を持ってきます。この講義においてはそんな点も含めて、ブライダルというものを総合的に学んでいきます。										
<b>学修到達目標</b>										
次の三つの視点でブライダルが理解できるようになることを目指します。一つ目は結婚するということの意味、或いは実際に結婚すると社会の中でどのように扱われるようになるのかなど、法律も含めて学びます。二つ目は伝統や風習としての、いわゆる文化としての結婚式を、その歴史も含めて学びます。三つ目は経済活動としての結婚式、一つの産業としても学びます。										
<b>授業の進め方</b>										
実際に結婚式に参加した経験のある学生は少ないと思われるため、最近の結婚式を映像を使って視聴することから始め、アウトキャンパスを取り入れたりしながら、テキストと現場の実情の話を変えて進めていきます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の概要、学修到達目標、進め方を説明します。その上で、この授業のテーマについて、学修到達目標にある三つの視点を詳しくみていきます。				事前にシラバスを読み授業概要を把握しておく。授業後は学修到達目標を整理しておく。(4時間)				
2	現在の結婚式の概要(1)	現在の挙式を映像で見ることで、現在一般的に行われている四つの挙式スタイルを理解すると共に、その意味を考える。				テキストの該当ページを読む等事前学習しておく。授業後は内容をまとめておく。(4時間)				
3	現在の結婚式の概要(2)	現在の披露宴を映像で見ることで、現在の披露宴には様々な進行や演出があることを理解すると共に、その意味を考える。				テキストの該当ページを読む等事前学習しておく。授業後は内容をまとめておく。(4時間)				
4	結婚とは何か(1)	結婚の目的や意味を考えると共に、結婚の効果を考察、討議します。				テキストの該当ページを読み事前学習しておく。授業後は内容を理解し整理しておく。(4時間)				
5	結婚とは何か(2)	現在結婚ということには、人により様々な考え方や価値観が存在することを紹介し、その問題点について考察、討議します。				テキストの該当ページを読み予習する。授業後はテーマについて自分なりに考察する。(4時間)				
6	国や宗教による結婚観の違い	特に挙式は宗教儀式として執り行われる場合が多いため、国や宗教の違いにより、考え方や価値観も変わってくることを理解し、その内容を把握する。				テキストの該当ページを読む等事前学習をする。授業後は内容を理解し整理しておく。(4時間)				
7	日本における結婚の歴史と風習	日本における結婚の歴史や風習を紐解きながら、その変遷をみていきます。加えて結婚に至る過程を、出会い・交際・婚約に分けてみていきます。				テキストの該当ページを読む等事前学習する。授業後は内容を理解し整理しておく。(4時間)				
8	結納	日本に古くから伝わる婚約のための儀式、結納について考察します。実際に一般的な「結納品」を手にして見る体験をします。そしてその意味を理解すると共に、地域による違い等も学びます。				テキストの該当ページを読む等事前学習する。授業後は内容を理解し整理しておく。(4時間)				
9	神前結婚式	一番日本らしい挙式スタイルである神前結婚式について、その歴史や変遷、意味や内容、そして実情を、映像を使いながら学びます。				テキストの該当ページを読む等事前学習しておく。授業後は内容を理解し整理しておく。(4時間)				
10	アウトキャンパス	前回学んだ神前結婚式を、実際に現場に見に行きます。実際に五感で体験することにより、より一層の理解を深めます。				テキストの該当ページを読む等事前学習する。授業後は体験をレポートにまとめておく。(4時間)				
11	キリスト教会式	現在の日本では最も一般的となった挙式スタイルであるキリスト教会式の、その歴史や変遷、意味や内容、そして実情を、映像を使いながら学びます。				テキストの該当ページを読む等事前学習しておく。授業後は内容を理解し整理しておく。(4時間)				
12	ブライダル業界(1)	ブライダル業界の中心的存在である、ホテル・専門式場、新しい形態であるゲストハウスなど、会場系業種について調べながら学んでいきます。				テキストの該当ページを読む等事前学習しておく。授業後は内容を理解し整理しておく。(4時間)				
13	ブライダル業界(2)	ブライダル業界を取り巻く業種の中には、ドレスショップ、写真館、ギフトショップ、旅行会社等々、様々な職種が含まれます。それらを調べながら学んでいきます。				テキストの該当ページを読む等事前学習しておく。授業後は内容を理解し整理しておく。(4時間)				
14	ブライダル業界(3)	結婚式は本来「冠婚葬祭」の中の一つであり、個人、家族、親戚、或いは地域のお祝い事の一つでした。それが一産業として成り立つまでの変遷を考察していきます。				テキストの該当ページを読む等事前学習しておく。授業後は内容を理解し整理しておく。(4時間)				
15	結婚式の準備と招かれた時のマナー	結婚するための法的手続きや各種届けで、または結婚式の準備について考察しながら学んでいきます。加えて結婚式に招かれた際のマナーや作法、或いはしきたりについても考察、討議していきます。				テキストの該当ページを読む等事前学習しておく。授業後は内容を理解し整理しておく。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「アシスタント・ブライダル・コーディネーター(ABC検定テキスト)」(BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興) (別途、指示します。)				受講態度：30% 定期試験：70% 授業態度は、授業内での質問や意見などの発言で評価します。S:授業中の発言が際立って多く、定期試験の結果が学修到達目標に100%達していると共に、応用して飛躍的な思考ができる。A:授業中の発言と定期試験の結果を合わせ学修到達目標に80%以上達している。B:授業中の発言と定期試験の結果を合わせ学修到達目標に70%以上達している。C:授業中の発言と定期試験の結果を合わせ学修到達目標に60%以上達している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
必要に応じて、テーマに即した参考文献やプリントを配布します。				結婚とは何か、結婚式とはどういうものかを学びます。講義計画に沿ってテキストの該当箇所を読んだり、新聞・雑誌等にも目を向け、自ら問題意識を持って授業に望んで下さい。論理的思考力と課題解決能力の向上が計れます。						

科目名	文化遺産論		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	TA36015	研究室	W-12
担当者	八木 雅子		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2016年度～					
○		○								
授業概要										
世界諸地域の文化、生活と課題を主に世界遺産を通して考察し、地理的認識、歴史、文化の多様性を理解し尊重する事の重要性について考えていきます。										
学修到達目標										
世界遺産の現状を地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、世界の地理、歴史認識を深める。										
授業の進め方										
講義形式に視聴覚教材を加えて進めます。また、グループ討議を行い考察の交流を図り認識を深め、学びの確認をします。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	世界遺産とは	この授業の主軸となる世界遺産の概要について学びます。				配布資料で復習すること。(4時間)				
2	ヨーロッパの歴史と文化1ドイツ	世界遺産ブレーメンのマルクト広場の市庁舎とローラント像から学ぶ				ドイツの世界遺産について事前学習してください。(4時間)				
3	ヨーロッパの歴史と文化2ポーランド	世界遺産クラクフ歴史地区、アウシュビッツ=ビルケナウ強制絶滅収容所から学ぶ				配布資料で復習する。(4時間)				
4	ドイツとポーランドのまとめ	ドイツとポーランドにおいて人々の生活に影響を与えた過去の戦争と将来についてグループディスカッションを行います。				自論と討論会で出た意見を基に2国についてレポートにまとめる。(4時間)				
5	ヨーロッパの歴史と文化3ハンガリー	ブタペストのドナウ河岸とブタ地区およびアンドラシ通り、ホッローケの古い集落、トカイワイン産地の歴史的、文化的景観から学ぶ。				事前に世界地図を讀図しハンガリーを再確認する。(4時間)				
6	ヨーロッパの歴史と文化4イタリア	アルペロベッコのトゥルツリ、ドロミーティ、アマルフィ海岸から学ぶ。				5回、6回の内容を振り返り自論をまとめる。(4時間)				
7	ハンガリーとイタリアのまとめ	ハンガリーとイタリアの生活文化、自然についてディスカッションをする。				自論と討論会で出た意見を基に2国についてレポートにまとめる。(4時間)				
8	南北アメリカの歴史と文化	アメリカ合衆国の歴史と民族、国際社会について学びます。				配布資料を復習する。(4時間)				
9	北アメリカの自然環境	北アメリカの自然環境と生活について学びます。				事前に世界地図を讀図して北アメリカの範囲を確認する。(4時間)				
10	アメリカのまとめ	アメリカの歴史、文化と環境についてディスカッションする。				事前に8、9回の振り返りをしまとめ、授業後にレポートにまとめる。(4時間)				
11	オセアニアの歴史と文化	オセアニアの自然環境、歴史、民俗について学びます。				世界地図でオセアニア地域の讀図をしておくこと。(4時間)				
12	アジアの生活と文化	東南アジア、南アジアの歴史と民族について学びます。				世界地図で東南アジア、南アジアの地域を讀図しておくこと。(4時間)				
13	南アフリカの生活と文化	南アフリカの歴史、自然環境、民俗について学びます。ピクトリアフォールスから自然と歴史を学びます。				事前に南アフリカ諸国を地図上で確認する。(4時間)				
14	オセアニア、アジアと南アフリカのまとめ	オセアニア、アジア、南アフリカの歴史と文化、自然環境についてディスカッションします。				11、12、13のまとめをし、意見をまとめておくこと。(4時間)				
15	多様な地球の歴史と文化および環境の課題とまとめ	地球上の文化、歴史、環境の違いと変化を受け入れて今後の活用について考えます。(4時間)				前回のレポートの提出				
テキスト				成績評価の方法・基準						
なし				レポート:100% S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。 A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。 B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題が解ける。 C:授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				世界遺産のとらえ方を確認しつつ、地球の遺産とは何かを興味を持って学んでください。また、現在を作った歴史、作っている文化の地域性について理解を深めてください。						

科目名	エコツーリズム		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	TL16016	研究室	W-13
担当者	中澤 朋代		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	金曜日2限、金曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 エコツーリズム (理論)					
<b>授業概要</b>										
自然・人・歴史・文化など地域資源を保全しつつ観光で活かす考え方「エコツーリズム」は、持続可能な社会づくりの一つの方策として世界各地で研究され、実践がなされています。この授業では知識を得ながらも、実際に体験することを通じて理解を深めます。前半は交流の効果、エコツアーを体験し気づきを得たうえで、後半ではツーリズムの諸課題をエコツーリズムの切り口から深めます。										
<b>学修到達目標</b>										
「エコツーリズムとは何か」について自分の言葉を使って説明でき、エコツーリズムの考え方に基づいた取り組みを具体的にあげて文章化として表現できる。										
<b>授業の進め方</b>										
資料・映像等各種教材を使いながら講義を進め、グループワークなどの室内実習も行います。アウトキャンパスでは自然フィールドに2度出かけます。これらは体育の授業程度の体力を想定していますが、不安のある学生は事前に申し出てください。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	講義の進め方を紹介したのち、観光とツーリズムの違いについて紹介し、エコツーリズムとは何かについて学びます。				エコツーリズムという概念について事前に調べ、講義の内容をノートにまとめる(4時間)				
2	エコツーリズムの事例	国内、世界各地で取り組まれているエコツーリズムとエコツアーについてさまざまな事例を紹介しします。				エコツーリズムという概念についてさらに調べ、講義の内容をノートにまとめる(4時間)				
3	エコツーリズムの歴史と滞在型観光	エコツーリズムが生まれた背景や考え方の発展、持続可能な開発との関係について学びます。また、交流を生みやすい滞在型観光について説明します。				観光にて地域づくりが行われる事例を調べ、講義ののち関連付けてノートをまとめる(4時間)				
4	自然保全としてのエコツーリズム	自然保全という視点から、エコツーリズムの生まれた背景や、環境保全の政策や地域の取り組みと課題を学びます。				国立公園、自然保護について調べておく。講義と関連してノートをまとめる(4時間)				
5	フィールドワーク1(アウトキャンパススタディ)	富士山麓にバスで移動し、グループに分かれて実際にエコツアーを体験し、富士山の自然環境を学びます。				授業で紹介された実習準備を行い、感想をレポートとしてまとめる(4時間)				
6	フィールドワーク2(アウトキャンパススタディ)	富士山麓にバスで移動し、グループに分かれて実際にエコツアーを体験し、富士山の自然環境を学びます。				授業で紹介された実習準備を行い、感想をレポートとしてまとめる(4時間)				
7	エコツアー実習のふりかえり	大学にてエコツアー実習の気づきをシートにまとめ、小グループでのワークショップにてふりかえります。				体験の感想をまとめる(4時間)				
8	エコツアーの裏舞台	エコツアー事業者の視点から、エコツアーに必要な準備と人材、事柄について、実際に必要な知識や技術が何であるか学びます。				講義の内容をふりかえり、ノートにまとめる(4時間)				
9	環境問題とエコツーリズム	地球環境問題を解決するための環境教育という位置づけから、エコツーリズムがどのような役割を果たすか学びます。				環境問題について調べ、講義の内容をまとめる(4時間)				
10	文化的資源とエコツーリズム	地域固有の文化的資源をどのように保存し、活かすかについて、エコツーリズムの視点から考えます。				地域の歴史文化資源について調べ、講義の内容と絡めてまとめる(4時間)				
11	地域経営としてのエコツーリズム	観光による地域づくりにはどのような視点が必要であり、各地でどのように施策が進められているか学びます。				身近にある体験ツアーなどの事例を探しておき、講義に絡めてノートにまとめる(4時間)				
12	サステナブルツーリズムとインバウンド観光	観光産業における持続可能性の問題と、世界で広がるサステナブル・ツーリズムの考え方や基準について学びます。				事前に配布された文章をよく読み、講義の内容をノートにまとめる(4時間)				
13	観光まちづくりとエコツーリズム	ゲストを招き、観光地域づくりが弱体化しつつある地域をどのように変えたかの事例を紹介し、その思いと将来の展望を見つめます。				事例地域の事前情報収集を行い、講義に関連してノートをまとめる(4時間)				
14	さまざまなツーリズム	地球観光としてのジオツーリズム、健康志向のヘルスツーリズム、農業に関連するグリーンツーリズム、地域づくりのコミュニティツーリズムなど、それぞれの理念と事例を学びます。				国内および世界各地の興味ある体験ツアーを探し、各種ツアーとの関連性をまとめる(4時間)				
15	まとめ	持続可能な社会に向けたエコツーリズムという切り口から、これまでの講義の内容をおさらいし、補足事項を確認します。				これまでの配布資料を確認し、ノートにまとめる(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
随時資料を配布します				レポート：60% 出席レポート：30% 受講態度：10% アウトキャンパスなど実習を伴う講義は、出席とともに参加意欲も含めて普段より重視して評価します。A:授業内容を広く深く理解し、実社会との関わりを踏まえた自身の建設的意見を明確に表現できる。B:授業内容をおおむね理解し、提示された課題に対して自身の意見を文章で明確に表現できる。C:授業内容を6割程度理解し、提示された課題に対して自身の意見を文章で表現できる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「地域からのエコツーリズム」敷田麻美著(学芸出版社) ISBN: 978-4-7615-2428-9				授業の資料は印刷したものを配布します。ゲスト講師による授業もあります。アウトキャンパスの前には時間や場所、持ち物についての連絡がありますので、前後に必ず確認してください。						

科目名	観光約款		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	TA26017	研究室	W-15
担当者	田開 寛太郎		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
この講義は「国内旅行業務取扱管理者」試験合格を目指すことを目的に開講された講座です。旅行業には旅行の営業、旅行コースの企画、添乗などの仕事がありますがこれらの仕事をスムーズにこなすには、旅行業務に熟知した専門家が必要です。この講義で学ぶのは、「旅行業約款、運送約款及び宿泊約款に関する知識」であり、内容は、国内観光関係約款、運送関係約款、宿泊約款などです。										
<b>学修到達目標</b>										
「旅行業約款、運送約款及び宿泊約款に関する知識」であり、内容は、国内観光関係約款、運送関係約款、宿泊約款などです。受験を念頭において講義をするので重要な項目、試験によく出る所は時間をかけて理解度を深めて合格を目指します。										
<b>授業の進め方</b>										
資格試験の合格を目指すものであるから講義と模擬試験練習で理解度を深めるようにします。教室での講義のみになります。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	募集型企画旅行契約の部 総則	ガイドンスおよび募集型企画旅行契約の部 総則について解説します。				募集型企画旅行契約の部 総則について学修する。(事前事後4時間)				
2	契約の締結・変更・解除	募集型企画旅行契約の部 契約の締結・変更・解除について解説します。				募集型企画旅行契約の部 契約の締結・変更・解除について学修する。				
3	団体・グループ契約・旅程管理・責任	募集型企画旅行契約の部 団体・グループ契約・旅程管理・責任について解説します。				団体・グループ契約・旅程管理・責任について学修する。(事前事後4時間)				
4	契約の締結・変更・解除	受注型企画旅行契約の部 契約の締結・変更・解除について解説します。				契約の締結・変更・解除について学修する。(事前事後4時間)				
5	団体・グループ契約・旅程管理・責任	受注型企画旅行契約の部 団体・グループ契約・旅程管理・責任について解説します。				団体・グループ契約・旅程管理・責任について学修する。(事前事後4時間)				
6	特別保障規定	特別保障規定について解説します。				特別保障規定について学修する。(事前事後4時間)				
7	手配旅行契約の部	手配旅行契約の部について解説します。				手配旅行契約の部について学修する。(事前事後4時間)				
8	手配旅行契約の部	手配旅行契約の部について解説します。				手配旅行契約の部について学修する。(事前事後4時間)				
9	国内航空旅客運送約款	国内航空旅客運送約款について解説します。				国内航空旅客運送約款について学修する。(事前事後4時間)				
10	国内航空旅客運送約款	国内航空旅客運送約款について解説します。				国内航空旅客運送約款について学修する。(事前事後4時間)				
11	一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款	一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款について解説します。				一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款について学修する。(事前事後4時間)				
12	フェリー標準運送約款	フェリー標準運送約款について解説します。				フェリー標準運送約款について学修する。(事前事後4時間)				
13	モデル宿泊約款	モデル宿泊約款について解説します。				モデル宿泊約款について学修する。(事前事後4時間)				
14	まとめ・試験対策	国家試験対策として模擬試験練習をします。				誤ったところに関する事項を学修する。(事前事後4時間)				
15	まとめ・試験対策	国家試験対策として模擬試験練習をします。				誤ったところに関する事項を学修する。(事前事後4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「旅行業法・旅行業約款」(JTB総合研究所)(別途、指示します。)旅行業法と旅行業約款の授業で使用します。申込み方法は別途指示します。				出席レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A:授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B:授業内容をおおよそ理解し探究心、提案力がある。 C:授業内容をおおよそ理解し、探究心、提案力が60%程度である						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
なし				国家試験に合格するために日々の予習・復習に留意してください。						

科目名	旅行業法		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	TA26018	研究室	W-13
担当者	中澤 朋代		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限、木曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
観光に関する法令において、旅行に関する基本的なことを定めた「旅行業法」を学習します。法文の理解を深めるとともに、旅行業の実際と合わせながら、法文を解釈できることを目指します。旅行業務取扱管理者試験に必要な学習であるため、さらに問題練習をしながら理解度の充実を図ります。										
学修到達目標										
旅行に関する法文である旅行業法を学習し、旅行に関する様々な法文の理解を深めることを目的とします。										
授業の進め方										
徹底的な法文の理解と問題演習です。また、観光について理解しておくことも大切です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	旅行業法の目的と構成	講義の進め方を解説したのち、旅行業法の目的と構成について解説します。				旅行業法の目的と構成についてテキストを読んで学修する。(事前事後4時間)				
2	旅行業の定義	旅行業の定義について、テキストをもとに解説します。				旅行業の定義について学修する。(事前事後4時間)				
3	旅行業の登録(あらし)	旅行業の登録(あらし)について解説します。				旅行業の登録(あらし)について学修する。(事前事後4時間)				
4	旅行業の登録(手続き)	旅行業の登録(手続き)について解説します。				旅行業の登録(手続き)について学修する。(事前事後4時間)				
5	営業保証金制度(1)	営業保証金制度(1)について解説します。				営業保証金制度(1)について学修する。(事前事後4時間)				
6	営業保証金制度(2)	営業保証金制度(2)について解説します。				営業保証金制度(2)について学修する。(事前事後4時間)				
7	旅行業務管理者制度	旅行業務管理者制度について解説します。				旅行業務管理者制度について学修する。(事前事後4時間)				
8	旅行業約款	旅行業約款について解説します。				旅行業約款について学修する。(事前事後4時間)				
9	旅行取引に関する諸規制	旅行取引に関する諸規制について解説します。				旅行取引に関する諸規制について学修する。(事前事後4時間)				
10	旅程管理業務	旅程管理業務について解説します。				旅程管理業務について学修する。(事前事後4時間)				
11	旅行業協会	旅行業協会について解説します。				旅行業協会について学修する。(事前事後4時間)				
12	その他関連する法規	景表法、消費者契約法、個人情報保護法など関連する法規の概要について解説します。				テキストに基づいて学修する。(事前事後4時間)				
13	問題練習(基礎)	問題練習(基礎)をしながら理解度を深めます。				誤った箇所などをテキストを参考にして学修する。(事前事後4時間)				
14	問題練習(中級)	問題練習(中級)をしながら理解度を深めます。				誤った箇所などをテキストを参考にして学修する。(事前事後4時間)				
15	問題練習(上級)	問題練習(上級)をしながら理解度を深めます。				誤った箇所などをテキストを参考にして学修する。(事前事後4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「2018旅行業法及びこれに基づく命令」(JTB総合研究所)(別途、指示します。) 申込み方法は別途指示します。		定期試験：70% 小テスト：30% S：授業内容を高度に理解し、正しく解釈し、課題を指摘できる。 A：授業内容を高度に理解し、法文について正しい理解ができている。 B：授業内容をおおよそ理解し、法文について正しい理解が80%できている。 C：授業内容をおおよそ理解し、法文について正しい理解が60%程度である。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
なし		本講座は、レベルの高い知識と理解力を養成する講座であることを十分に理解して受講してください。さらに持続的な学習につとめて下さい。								

科目名	観光地理 (日本)		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	TA26019	研究室	W-20
担当者	向井 健		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
<b>授業概要</b>										
本講義では、全国各地の特色ある観光資源について学びながら、日本国内における観光資源の位置と特色について学んでいきたいと考えています。										
<b>学修到達目標</b>										
1,日本における観光資源の分布について学び、説明できるようになる。 2,日本の観光資源の特色について説明することができる。										
<b>授業の進め方</b>										
本講義では、国内の観光資源に関する資料を配布しつつ、問題を解いてもらいながら講義を進めていきます。地図帳(中学もしくは高校で使用したもので可)を、毎回、必ず持参してください。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	本講義の概要、進め方、評価の仕方などについて説明します。				授業の内容の概略について、プリントを見て復習しておくこと(4時間)				
2	日本の自然景観の特徴	日本列島における自然景観の特徴についてみていきます。				配布したプリントを見て復習しておくこと(4時間)				
3	山岳・湖沼・峡谷・滝	山岳・湖沼・峡谷・滝などといった自然景勝地の分布についてみていきます				配布したプリントを見て復習しておくこと(4時間)				
4	日本の世界遺産・国立公園	世界遺産や国立公園とは何か。また日本にはどのような世界遺産・国立公園があるのかをみていきます。				配布したプリントを見て復習しておくこと(4時間)				
5	日本の温泉地と地域づくり	日本の温泉地とその変化についてみた上で、現在、温泉地で取り組まれている地域づくりの取組みについてみていきます。				配布したプリントを見て、復習しておくこと(4時間)				
6	地域の人々の暮らしと祭り・伝統行事	日本各地にあるお祭りや伝統行事が、どのようにその地域の人々の暮らしに結びついているのかについて学びます。				配布したプリントを見て、復習しておくこと(4時間)				
7	地域の人々の暮らしと文化(郷土料理・名産品など)	地域の人々の暮らしに根ざした特色ある文化(郷土料理や名産品)についてみていきます。何故、その地域でそのような特色ある文化が生まれたのかについても考えます。				これまでの配布したプリントを見て復習しておくこと(4時間)				
8	中間テスト	これまでの学習内容の定着度をはかる確認のための中間テストを実施します。				これまでに配布したプリントを見て復習をしてテストに望むこと(4時間)				
9	都道府県別に見た観光資源：北海道地方	北海道地方を中心とした観光都市とその観光資源について学びます。				配布したプリントを見て、復習しておくこと(4時間)				
10	都道府県別に見た観光資源：東北地方	東北地方を中心とした観光都市とその観光資源について学びます。				配布したプリントを見て、復習しておくこと(4時間)				
11	都道府県別に見た観光資源：関東・中部地方	関東・中部地方を中心とした観光都市とその観光資源について学びます。				配布したプリントを見て、復習しておくこと(4時間)				
12	都道府県別に見た観光資源：近畿地方	近畿地方を中心とした観光都市とその観光資源について学びます。				配布したプリントを見て、復習しておくこと(4時間)				
13	都道府県別に見た観光資源：中国・四国地方	中国・四国地方を中心とした観光都市とその観光資源について学びます。				配布したプリントを見て、復習しておくこと(4時間)				
14	都道府県別に見た観光資源：九州・沖縄地方	九州・沖縄地方を中心とした観光都市と、その観光資源について学びます。				配布したプリントを見て、復習しておくこと(4時間)				
15	まとめ	この講義を通して学んだことを振り返った上で講義を総括します。受講生からわからないところがあれば補足の説明をします。				本講義を通してわからないところがないか確認しておくこと(4時間)				
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>							
「旅行業務実務シリーズ4 2018国内観光資源」(JTB総合研究所)(別途、指示します。)テキストの購入を別途指示しますので、それに従って購入してください。			小テスト：30% 定期試験：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。B：授業のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。							
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
「旅行業務取扱管理者試験トレーニング問題集 観光地理」資格の大原旅行業務取扱管理者課編(大原出版) ISBN：978-4864862462			国内旅行業務取扱管理者試験に向けての講義です。資格取得を目指す意志のある学生の受講を求めます。かならず講義で学んだ内容の復習を忘れずに取り組んでください。							

科目名	景観と観光			学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	TA26020	研究室	W-17
担当者	益山 代利子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
景観を観光にいかすにはどのような取り組みが求められるのでしょうか。景観条例をはじめとする各地域の試みを概観しながら、地域住民、行政、観光産業などの役割を学びます。地域の共有財産であり、観光資源としての街づくりを自分の目を通して考える力を養うことをねらいとします。											
学修到達目標											
景観条例の特徴、持続可能な街づくりに求められる景観計画について理解を深め、観光地のみならず一般住宅地を含む都市景観のあり方についての課題を整理した上で、未来の街づくりに対して提案ができる。											
授業の進め方											
主にスライドとプリント教材を用いて進めますが、ビデオなどの視覚教材も併用します。塩尻市奈良井宿へのアウトキャンパスやグループワークで伝統的建築物群保存地区の取組を学び、授業の中で発表します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	持続可能な観光まちづくりと景観	日本のまちづくりの現状を景観という視点から把握します。					配布資料を読む。(4時間)				
2	景観まちづくりの歴史	景観が注目されてきた歴史的、社会的背景について説明します。景観の地域性や内の目と外の目の視点について考えます。					テキスト第1章「景観と地域環境」を読む。(4時間)				
3	景観法と景観条例	景観法のコンセプト、景観計画と課題について、松本市の事例を紹介しながら説明します。					テキスト第6章「地域環境の価値」を発信するを読む。(4時間)				
4	都市景観1	都市の空間的まとまりと道空間の見かたについて説明します。					テキスト第2章第1節「まち」、第2節「道」を読む。(4時間)				
5	都市景観2	中心市街地の景観について、空地と場所のまとまりの視点から街の在り方を考えます。					テキスト第2章第3節「空地」、第4節「場所」、第5節「シーン」を読む。(4時間)				
6	関係性のデザイン	地域構造と景観、スカイライン、セットバック、ファサードライン、ボリュームの役割について、都市デザインの特徴を説明します。					テキスト第3章「関係性をデザインする」を読む。(4時間)				
7	変化をつなぐ	変化する都市における景観の持続可能性と、住まいの作法について学びます。					テキスト第4章「変化をつなぐ」を読む。(4時間)				
8	自然景観と環境問題	自然景観を維持するための環境政策について説明します。					配布資料を読む。(4時間)				
9	農村景観と観光	水資源を含む農村景観と観光振興について、長野県の事例を紹介しながら現状を把握し、課題を整理します。					配布資料を読む。(4時間)				
10	バリアフリーと景観	景観形成とバリアフリーに配慮した機能性の両立と課題について考えます。					配布資料を読む。(4時間)				
11	歴史的建造物を活かした景観まちづくり	歴史的建造物を活かした景観まちづくりについて、日本国内の事例を紹介しながら理解を深めます。					次週のアウトキャンパスに備えて、小布施町の事前調査を行う。(4時間)				
12	アウトキャンパス	小布施町でのフィールド調査をグループで行います。					グループプレゼンテーションの準備(4時間)				
13	フィールド調査の発表	小布施町フィールド調査のグループ発表と講評を各チームごとに行います。参加者全員によるプレゼンテーションの評価を行います。					グループプレゼンテーションの準備(4時間)				
14	景観まちづくりと市民参加	景観まちづくりに求められる組織や運営手法について説明します。					テキスト第5章「地域らしさのしくみ」を読む。(4時間)				
15	まとめ	これまでの講義の総括と試験対策の説明をします。					講義全体の復習(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「まとまりの景観デザイン」小浦久子著(学芸出版社) ISBN:978-4-7615-2440-1(生協で購入してください。)						課題:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける、他の学生の前で発表できる。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって内容に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおよるを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「松本市景観計画」松本市建設部計画課編						普段見慣れている風景が観光とどのように関わっているかを考えて下さい。					

科目名	観光地理 (世界)	学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	TA36021	研究室	W-20
担当者	向井 健	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)			履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C					
<b>授業概要</b>									
本講義では、国際観光の歴史を学びその課題を考察するとともに、世界各国における観光資源の立地形成について学んでいきます。									
<b>学修到達目標</b>									
1, 世界各国の観光資源の立地とその形成について説明することができる。 2, 国際観光をめぐる課題について学び、考えることができる。									
<b>授業の進め方</b>									
「地図帳」は、必ず持参してください。世界各国の観光資源の特徴を学ぶとともに、観光圏マップを作成するなどして、世界の観光地について調べてもらいます。									
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業概念、学習目標、評価の仕方について説明をします。				講義で配布したプリントを復習をしておいてください(4時間)			
2	国際観光の歴史	国際観光をめぐる歴史を説明します。				講義で配布したプリントを復習をしておいてください(4時間)			
3	現在の国際観光の動向	現在の国際観光をめぐる動向について説明します。				講義で配布したプリントを復習をしておいてください(4時間)			
4	アジア・太平洋地域の観光資源	アジア・太平洋地域の観光資源とその立地形成について説明をします。				講義で配布したプリントを復習をしておいてください(4時間)			
5	北アメリカの観光資源	北アメリカ地域の観光資源とその立地形成について説明をします。				講義で配布したプリントを復習をしておいてください(4時間)			
6	南アメリカの観光資源	南アメリカ地域の観光資源とその立地形成について説明をします。				講義で配布したプリントを復習をしておいてください(4時間)			
7	ヨーロッパの観光資源	ヨーロッパ地域の観光資源とその立地形成について説明をします。				講義で配布したプリントを復習をしておいてください(4時間)			
8	中東・アフリカの観光資源	中東・アフリカ地域の観光資源とその立地形成について説明をします。				講義で配布したプリントを復習をしておいてください(4時間)			
9	観光圏マップの作成	国際観光の空間パターンを考えるために観光圏マップを作成します。				次回講義までに作業を完了させておいてください(4時間)			
10	観光圏マップから考える	作成した観光圏マップをもとに見えてきたことについて話し合います。				リアクションペーパーを期日までに提出してください(4時間)			
11	国・地域別の観光客の流れ	国・地域別の観光客の流れについて説明をします。				配布した資料を復習しておいてください(4時間)			
12	創出されるイメージと「観光文化」	創出された「観光文化」の受容と相克について説明をします。				配布した資料を復習しておいてください(4時間)			
13	国際観光の課題	国際観光の課題について討論しあいます。				リアクションペーパーを期日までに提出してください(4時間)			
14	観光の20世紀を振り返って	「観光の20世紀」を振り返りみて、これからの時代において求められる国際観光のあり方とは何かを考えます。				リアクションペーパーを期日までに提出してください(4時間)			
15	まとめ	講義を振り返り、総括をします。また講義を通してわからないところがあれば補足説明をします。				講義を振り返ってみてわからないところがあれば質問としてまとめておくこと(4時間)			
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>							
資料はこちらで用意します。		定期試験：50% 小テスト：20% レポート：30% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。B：授業のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。							
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
「旅行業務取扱管理者試験トレーニング問題集 観光地理」資格の大原旅行業務取扱管理者課編(大原出版) ISBN: 978-4864862462		この講義では、総合旅行業務取扱管理者試験で出題される観光資源についても井学びながら、なるべく海外の観光資源について関心を持ってもらおうと思います。							

科目名	グリーンツーリズム		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	TA36022	研究室	W-13
担当者	中澤 朋代		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限、木曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
		○								
<b>授業概要</b>										
グリーンツーリズムには「都市と農山漁村の共生・対流」をテーマに、さまざまな社会問題、農山漁村を舞台とした第一次産業が停滞し、都市が拡大する社会状況の中で、健康・環境・心・経済格差などにどう対応するか、についての解決が期待されています。講義では実際に市民農園ならぬ学生農園を行い、同時に農山村で展開される体験滞在型の観光「グリーンツーリズム」の基本的な考え方と事例を学び、その課題を見つめます。										
<b>学修到達目標</b>										
自身の体験した農作については、良く生態を観察して取り組み、記録を残す。グリーンツーリズムの概念を整理し、自身の体験と絡めて、地域課題へどのようにアプローチできるか文章にまとめることができる。										
<b>授業の進め方</b>										
講義では各個人に区画を割り当て、毎週、畑での演習作業をおこないつつ、グリーンツーリズムを事例を含めて学びます。講義は情報提供のほか、グループワークやディスカッションを入れて進めることもあります。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス「講義計画と栽培計画」	講義の内容、スケジュールに関するガイダンスと、農作の個人計画について				シラバスをよく読み、夏野菜について調べる（4時間）				
2	概論1「グリーンツーリズムとは」	グリーンツーリズムの定義とその発祥について				資料をよく読んで復習し、ノートにまとめる（4時間）				
3	概論2「地域を元気にするグリーンツーリズム」	地域の抱える問題に対して行われてきたツーリズムの事例				資料をよく読んで復習し、ノートにまとめる（4時間）				
4	概論3「地域を元気にするグリーンツーリズム」	人口減少が進む今後の地域の予測シナリオとグリーンツーリズムの関係性				資料をよく読んで復習し、ノートにまとめ、身近な事例を調べる（4時間）				
5	教育農場1「市民農園の実際」	農法を学び、栽培計画を立て、個人区画に植える夏野菜を決める				手引きをよく読み、栽培計画、日誌を作成する（4時間）				
6	教育農場2「市民農園の実際」屋外実習	自然の生態系に合わせた農法で、夏野菜の植え付けを行う				圃場管理、日誌作成を行い、農法について調べノートにまとめる（4時間）				
7	教育農場3「安心、安全の農作物を作る工夫」一部屋外実習	定植後の手入れと観察、グリーンツーリズムの推進方策について事例から学ぶ				圃場管理、日誌作成を行い、授業の内容をノートにまとめる（4時間）				
8	ツーリズムの課題1「グリーンツーリズムの政策と展開」一部屋外実習	課題グリーンツーリズムの特徴と歩み、我が国の課題、農村生活の向上の視点から、栽培実習				圃場管理、日誌作成を行い、授業の内容をノートにまとめる（4時間）				
9	ツーリズムの課題2「グリーンツーリズムの推進方策」一部屋外実習	各地における学校、団体向けの取り組みの経緯、栽培実習				圃場管理、日誌作成を行い、授業の内容をノートにまとめる（4時間）				
10	ツーリズムの課題3「背景と推進のキーワード」一部屋外実習	グリーンツーリズムの地域コーディネートについて、栽培実習				圃場管理、日誌作成を行い、授業の内容をノートにまとめる（4時間）				
11	ツーリズムの課題4「地域に根差したツーリズム」一部屋外実習	地域に根差した交流産業、旅行業と事業化について				圃場管理、日誌作成を行い、授業の内容をノートにまとめる（4時間）				
12	プログラムデザイン1「グリーンツーリズムにおけるプランの企画」一部屋外実習	プラン作りのための小講義、企画実習、栽培実習				仲間と企画作成を行い、個人では圃場管理と日誌を作成する（4時間）				
13	プログラムデザイン2「企画作成と畑の手入れ」一部屋外実習	企画の基本と企画立案実習、栽培実習				仲間と企画作成を行い、個人では圃場管理と日誌を作成する（4時間）				
14	プログラムデザイン3「企画プレゼンテーション」	全チームによる企画プレゼンテーションとその評価				仲間とプレゼンテーション準備を分担して行い、圃場管理と日誌を作成する（4時間）				
15	教育農場の収穫と授業のまとめ	グリーンツーリズムの目指すもの、教育農場の収穫と活動評価				最終レポートを作成し、圃場管理と日誌作成、活動評価を行う（4時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「松本大学教育農場の手引き兼実習日誌」中澤朋代著（別途、指示します。）オリジナルテキスト代は苗代とセットで実習日として徴収します 随時参考資料を講義にて配布				出席レポート：40% 課題：30% レポート：30% 講義内容の理解についてはレポート（A:授業内容を深く理解し、解決のアイデアを複数関連付けて述べる事ができる。B:授業内容を概ね理解し、解決のアイデアを複数述べる事ができる。C:授業内容を6割程度理解し、解決のアイデアを述べる事ができる。）とともに、教育農場の取り組みについては、別紙ループブックによる自身の目標設定を行い、自己評価他者評価の観点から総合評価します。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
「これならできる！自然菜園」竹内孝功著（農文協） ISBN：978-4-540-10197-7 栽培に関する資料として 「グリーンライフ入門」佐藤誠・篠原徹・山崎光博編著（農文協）				グリーンツーリズムの本質に迫るために、講義のほかに個人で野菜を栽培・試食します。実習には若干の実習費を徴収します。作付開始後は、講義時間の内外で畑の手入れを行います。作物や自然を良く観察しましょう。						

科目名	健康と観光			学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	TA36023	研究室	W-15
担当者	田開 寛太郎			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
健康を目的とした観光は、地域活性化とともに少子高齢化の解消や社会保障制度の維持など、将来の日本のさまざまな課題に貢献しうる有益な手段として期待が高まっています。本講義では、映像等を使用しながら「健康と観光」の概念と基本的な理論を解りやすく習得し、その活用法について考えます。また、自然フィールドに出かけ、健康を切り口としたツーリズムを体験し気づきを得たうえで「健康と観光」の諸課題を深めます。											
<b>学修到達目標</b>											
「健康と観光」の関係を基礎から理解するとともに、その実現方法を過去の事例と課題実習を通して考え具体的な提案を示し、それらの意義について論じることが出来るようになることを目指します。											
<b>授業の進め方</b>											
各回の講義は新聞記事などの事例を用い、課題を図式化したり、映像を投影したりして、想像を膨らませながら進めます。アウトキャンパスでは自然フィールドに出かけ、健康に関するツーリズムを理論と実践とで理解していきます。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要、学修到達目標、授業の進め方、評価の仕方、履修上の注意などを説明します。					シラバスの理解と授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
2	健康という考え方が生まれた背景1	健康の概念と基本的な理論を学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
3	健康という考え方が生まれた背景2	健康の概念と基本的な理論を学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
4	わが国の健康政策	具体的な事例をもとに健康政策について考えます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
5	「健康と観光」事情1	国内外における健康に関するツーリズムを例に、その現状と課題を探ります。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
6	「健康と観光」事情2	国内外における健康に関するツーリズムを例に、その現状と課題を探ります。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
7	体験実習1(アウトキャンパススタディ)	清里高原にバスで移動し、グループに分かれて実際に健康に関するツーリズムを体験します。					事前に実習先について調べるとともに、授業で紹介された準備を行う(4時間)				
8	体験実習2(アウトキャンパススタディ)	清里高原にバスで移動し、グループに分かれて実際に健康に関するツーリズムを体験します。					体験の感想をまとめる(4時間)				
9	体験実習3(室内実習)	大学にて体験実習の気づきをシートにまとめ、小グループでワークショップ形式にて振り返ります。					体験実習の振り返りによる感想をまとめたワークシートを作成する(4時間)				
10	健康づくりのためのツーリズム	心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持するための新しい観光形態のあり方について学びます。					該当するテーマについて事前に調べ、授業の内容を振り返り、ノートにまとめる(4時間)				
11	健康と観光の展開1 ウェルネスツーリズム	ウェルネスツーリズム/ヘルスツーリズムに関する国内外の具体的な事例をもとに現状と課題を見つめます。					国内外の興味ある体験ツアーを探し、各種ツアーとの関連性をまとめる(4時間)				
12	健康と観光の展開2 地方創生	観光の視点から地方創生に関する国内外の具体的な事例をもとに現状と課題を見つめます。					国内外の興味ある体験ツアーを探し、各種ツアーとの関連性をまとめる(4時間)				
13	健康と観光の展開3 温泉街とまちづくり	温泉街に関する国内外の具体的な事例をもとに現状と課題を見つめます。					国内外の興味ある体験ツアーを探し、各種ツアーとの関連性をまとめる(4時間)				
14	健康と観光の展開4 ロングトレイルと歩く学びの旅	ロングトレイルに関する国内外の具体的な事例をもとに現状と課題を見つめます。					国内外の興味ある体験ツアーを探し、各種ツアーとの関連性をまとめる(4時間)				
15	総括と補論	健康の観点から持続可能な成長を志向した新たなツーリズムのあり方を探ります。					自分の意見を小レポートとしてまとめる(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
随時資料を配布します。						レポート：60% 出席レポート：30% 受講態度：10% アウトキャンパスなど実習を伴う講義は、出席とともに参加意欲も含めて普段より重視して評価します。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
必要に応じて本講義中に参考となる学術論文、書籍を紹介しします。						アウトキャンパスの前には時間や場所、持ち物についての連絡がありますので、前後に必ず確認してください。					

科目名	自然体験活動論（理論）		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	TA36024	研究室	W-13
担当者	中澤 朋代		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限、木曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
この講座は自然を活かした地域振興・環境教育・ニューツーリズム・地域づくり・福祉・学校教育などのさまざまな現場で使う、具体的な指導法と知識、考え方を学びます。自然体験活動はアウトドアやレジャーを超えた教育や地域の課題に対応しており、ガイドや教師、体験リーダーなど様々な分野でこの指導法が活用されています。カリキュラムは全国資格に沿っており、試験での評価・登録を経て、全国自然体験活動指導者認定委員会による「自然体験活動指導者」の資格が付与されます（終身資格）。										
<b>学修到達目標</b>										
資格にも定義される「自然体験活動指導者（リーダー）」を目指します。このリーダーとは、プログラムのアシスタントとして子どもから大人までの対象者に指導する立場を想定しており、指導者に必要な知識と技術を得ます。指導法のステップアップには演習が必要であり、別途開講される自然体験活動論はこの演習であることから、その基礎となります。										
<b>授業の進め方</b>										
屋内外で実習やワークを多く含みます。また、多様な視野と指導者像、地域の活動とのネットワークを得るために外部講師を招きます。目安としては学内実習を5回、2限に渡る学外実習を2回程度実施します（3回以上の欠席は資格認定不可です）。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	自然体験活動指導者の認定制度とは【座学】				配布資料やホームページから制度について調べる（4時間）				
2	自然体験活動の技術1	アイスブレイクと動機づけ【座学と学内実習】				テーマについて調べるとともに、実習の気づきをまとめる（4時間）				
3	自然体験活動の技術2	チームビルディングと体験学習法【学内実習と座学】				テーマについて調べるとともに、実習の気づきをまとめる（4時間）				
4	青少年教育における体験活動	自然体験活動の意義と事例を青少年の育成という視点から考える				青少年における教育の課題を事前に調べ、事後はノートを読み返してまとめる（4時間）				
5	自然環境の特質1	自然の見方・とらえ方【座学と一部実習】、長野県の自然				長野県の自然の特徴について調べる。（4時間）				
6	自然環境の特質2	フィールドワーク【学外実習】 2限にわたります				フィールド実習の気づきをまとめ、自ら設定した項目について調べる。（4時間）				
7	自然体験活動の安全管理1	野外活動における安全管理、救急法と搬送法【座学と室内実習】				配布資料を再度確認し、正しい理解に努める（4時間）				
8	自然体験活動の安全管理2	野外活動における事故事例を学ぶ。安全管理体制とは。【座学と室内実習】				配布資料を再度確認し、正しい理解に努める（4時間）				
9	対象者を理解する	参加対象者をどう理解し、どう声掛けするか。外部講師を予定。【座学と室内実習】				活動している外部講師の団体を調べておく。授業後ノートをまとめる（4時間）				
10	自然体験活動の指導法	指導者としての基本的な心構え、体験プログラムの目的とは。外部講師を予定【座学】				活動している外部講師の団体を調べておく。授業後ノートをまとめる（4時間）				
11	自然体験活動の技術3	下見の仕方、野外での持ち物、用具について。【座学と室内実習】				配布資料を再度確認し、正しい理解に努める（4時間）				
12	自然体験活動の安全管理3	指導者の責任範囲とは。レスキューシステムと保険の加入。【座学】				配布資料を再度確認し、正しい理解に努める（4時間）				
13	自然体験活動の技術4	竹を使ったナイフワークの実際と子どもへの指導法【座学と室内実習】				配布資料を再度確認し、技術や指導法についてノートをまとめる（4時間）				
14	自然体験活動の指導法1	松本市ネイチャリングフェスタ等における指導実習		実習は休日に分散します		活動計画の作成と実習のふりかえりをノートにまとめる（4時間）				
15	自然体験活動の指導法2	松本市ネイチャリングフェスタ等における指導実習		実習は休日に分散します。		活動計画の作成と実習のふりかえりをノートにまとめる（4時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
オリジナルテキストを使います。				出席レポート：50% 定期試験：30% レポート：20% 相互の学びやワークショップによるアクティブラーニングを多く取り入れるため、まずは到達目標の理解と出席が重要となります。A：授業の全体を十分理解し、その背景となる事項について自ら調べ、自身の気づきからまとめて文章化することができる。B：授業の各テーマについて概ね理解し、自身の体験と照らし合わせながら、文章化ができる。C：授業で学んだことを、自身の体験と照らし合わせながら表現ができる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
「インタープリテーション入門」（小学館） 日本環境教育フォーラム監訳 「野外教育入門」星野敏雄、川嶋直、平野吉直、佐藤初雄編著（小学館）				資格認定の関係上、3回以上の欠席ができない講義です。フィールド実習日を補講日などに設けます。試験に合格した後、登録は終身制で3000円（学生料金/一般は5000円）の登録料です。						

科目名	自然体験活動論（実践）		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパリング	TA36025	研究室	W-13
担当者	中澤 朋代		必修選択	選択	科目種別	実験 実習	オイスカー	金曜日2限、金曜日3限		
関連資格					履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
自然体験活動論 に続き、自然体験活動上級指導者取得に向けての演習を中心に行います。自然体験リーダーとして、さまざまな現場で活用できる知識と技術を身につけるため、アウトキャンパス・スタディによる野外キャンプ実習を行い、具体的な野外スキル・指導法を現場にて学びます。										
学修到達目標										
火を焚くこと、キャンプ用具を使うこと、適切な装備をすること、またアウトドア活動の計画をたてるとともに、指導者としての役割を理解し、行動できるようにします。										
授業の進め方										
夏季休暇において実施します。講義は前期中に事前学習を1回と、集中講義形式3日間の実習で構成します。インストラクターとともに実習を行います。終了後はレポート提出を経て演習認定を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンスと目標設定 実習のスケジュールと内容				実習に向けての概要を理解し、受講理由と履修計画を作成する(4時間)				
2	自然体験活動の準備	キャンプ実習の企画内容を理解し、用具等の準備を進める				実習内容と予定を理解し、装備や用具の準備を行う。(4時間)				
3	実習 対象者理解1	自然体験活動の対象者を理解し、スタッフの役割分担を考える				対象者の理解のしかた、配慮の仕方についてまとめる(4時間)				
4	実習 対象者理解2	自然体験活動の対象者を理解し、スタッフの役割分担を考える				日誌および記録をつける(4時間)				
5	実習 自然体験活動の指導1	参加者にこれから何をするのか、ガイダンスの方法について学ぶ				日誌および記録をつける(4時間)				
6	実習 自然体験活動の指導2	参加者に対して指導者がどのようにかわるのか、その心構えと声のかけ方、方法を実践から学びます。				日誌および記録をつける(4時間)				
7	実習 自然体験活動の技術1	キャンプの方法について、用具の設置、使い方、メンテナンス等について学びます。				日誌および記録をつける(4時間)				
8	実習 自然体験活動の技術2	野外で火を焚く方法について、それぞれが経験できるよう実習します。				日誌および記録をつける(4時間)				
9	実習 自然体験活動の技術3	食糧計画、食糧管理(衛生的な保管)、野外調理、環境に負荷の少ない片付け方について学びます。				日誌および記録をつける(4時間)				
10	実習 自然体験活動の技術4	当日行うアウトドア活動について必要となる技術を学びます。(例:地図の読み方、山の歩き方、天候の見方など)				日誌および記録をつける(4時間)				
11	実習 自然体験活動の安全管理1	安全意識を喚起するためのセーフティトークの方法と、下見について学びます				日誌および記録をつける(4時間)				
12	実習 自然体験活動の安全管理2	もしも怪我や事故などあった場合の対応について、野外救急法や搬送法の実際を学びます。				日誌および記録をつける(4時間)				
13	実習 自然体験活動の特質1	実習時期に特徴的な地形や天候について学びます。				日誌および記録をつける(4時間)				
14	実習 自然体験活動の特質2	実習時期や地域に特徴的な自然(生物、生態系、生活文化など)について学びます。				日誌および記録をつける(4時間)				
15	実習 相互評価	参加型評価法を用いて、活動の成果について個人評価と他者評価を行います				ディスカッションを受けて感想をまとめたレポートを作成する(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「野外教育入門」星野敏雄、川嶋直、平野吉直、佐藤初雄編(小学館) ISBN:4-09-387339-9(別途、指示します。)				課題:70% レポート:30% 自然体験活動論 が履修認定されると、自然体験活動上級指導者の受験資格が取得できます。A:全学習項目について十分な知識を得たうえで、全項目で取扱う実技ができる。B:全学習項目について知識を得たうえで、おおそ全ての実技ができる。C:8割の学習項目について知識を得たうえで8割程度の実技ができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「自然体験活動指導者 安全管理ハンドブック」特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会編 ISBN:978-4-9905321-0-9				1、2回目のガイダンスと準備は学内で実施します。キャンプ実習の日程は主に春休みに設定する予定で、掲示板で連絡します。体力に心配があっても配慮しますので、興味があれば挑戦してみてください。						

科目名	人文地理		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパ'リング	TA36026	研究室	
担当者	山田 晴通		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		○								
授業概要										
人文地理学という学問領域の広がりについて理解し、身近な人文現象を考察する観点として、地理学的なものの見方を学びます。講義では、近代的な人文地理学の発達史を概説した上で、「空間」や「地域」といった基本概念を再検討し、その過程で人文現象を地理学的に捉える多様な見方を紹介します。また、宿題や授業時間内のドリルを通して、日本国内や世界各地における様々な地誌的事象について学んでいきます。										
学修到達目標										
人文地理学という学問の歴史と領域の広がりについて基本的な理解を獲得し、地誌的事象について広く情報探索の方法、調べ方を身につけるとともに、地理学的なものの見方を修得する。										
授業の進め方										
頻繁に課題を出して、予習復習を通じて講義で論じる内容への理解が深まるようにします。授業の中では、受講者との対話を重視していきますので、授業には積極的に参加してください。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	「人文地理学」という捉え方について					宿題1(4時間)			
2	人文地理学の歴史(1)	フンボルト以前					宿題2(4時間)			
3	人文地理学の歴史(2)	ラッツェル前後					宿題3(4時間)			
4	人文地理学の歴史(3)	モデル指向					宿題4(4時間)			
5	人文地理学の歴史(4)	計量革命前後					宿題5(4時間)			
6	人文地理学の歴史(5)	認知をめぐる諸問題					宿題6(4時間)			
7	基礎概念の再検討(1)	「地域」と「空間」をめぐる議論					宿題7(4時間)			
8	基礎概念の再検討(2)	都市の同心円モデル：前半					宿題8(4時間)			
9	基礎概念の再検討(3)	都市の同心円モデル：後半					宿題9(4時間)			
10	基礎概念の再検討(4)	境界線をめぐる議論：前半					宿題10(4時間)			
11	基礎概念の再検討(5)	境界線をめぐる議論：後半					宿題11(4時間)			
12	基礎概念の再検討(6)	「地域」の多様な捉え方					宿題12(4時間)			
13	事例研究の講読(1)	平成の大合併と地域情報(1)：テキスト(山田, 2012:2013)への導入					テキストの予習・復習課題(4時間)			
14	事例研究の講読(2)	平成の大合併と地域情報(2)：テキスト(山田, 2002:2013)前半					テキストの予習・復習課題(4時間)			
15	事例研究の講読(3)	平成の大合併と地域情報(3)：テキスト(山田, 2002:2013)後半					テキストの予習・復習課題(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
授業の最後の部分でとりあげるテキストは、印刷教材として配付します。					課題：50% 定期試験：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特定の文献指定はしませんが、全体を通じて英和辞典、国語辞典、学習用地図帳を随時参照できるように手元に用意するか、ノートパソコン、携帯電話等で随時検索できるようにしてください。					研究室のサイトに授業に関する指示やお願いが出ています。事前に読んで理解しておいてください。メールでの質問も歓迎します。 <a href="http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/">http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/</a> <a href="mailto:yamada@tku.ac.jp">yamada@tku.ac.jp</a>					

科目名	ツアープランニング			学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパリング	TA36027	研究室	W-26
担当者	山根 宏文			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
この講義では、感性と創造力を豊かにさせ、観光資源の活かし方と企画力を磨くのが目的です。同じ観光資源でも、活かし方によって優れたものになったり値打ちのないものになったりします。どのように付加価値をつけたら感動してもらえるのか考えていきたいと思います。講義の概要は次の通りです。 旅の歴史について学ぶ 旅行会社と旅行企画について 観光資源・伝統文化・体験の活かし方を学ぶ テーマごとの旅の企画 情報発信について											
学修到達目標											
感動する旅をプロデュースするために必要な創造力や感性を活かし、観光資源を活かし、実際にプロデュースすることができることが到達目標です。											
授業の進め方											
独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。教室での講義のみになります。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	旅の楽しみ方と旅を構成するものを解説します。					旅を構成するものについて学修する。(事前事後4時間)				
2	旅の歴史	日本、および欧州の旅の歴史について解説します。					旅の歴史について学修する。(事前事後4時間)				
3	旅行会社の現状と課題	旅行会社の現状と課題について解説します。					旅行会社の現状と課題について学修する。(事前事後4時間)				
4	宿泊施設の活かし方	旅を構成するもの活かし方として宿泊施設(顧客満足度の高い・旅館・ホテル・民宿など)について解説します。					宿泊施設の活かし方を学修する。(事前事後4時間)				
5	観光資源の活かし方	観光資源(伝統文化施設の感動を生む活かし方)の活かし方について事例を説明し、解説します。					観光資源の活かし方を学修する。(事前事後4時間)				
6	食と旅	食(郷土料理・高級料理・B級グルメ)の活かし方、食を活かした旅について解説します。					食の活かし方について学修する。(事前事後4時間)				
7	ガイド・お土産・おもてなし	ガイド(小さな心がけて感動を生む60の手法)・おもみやげ(人気のおみやげ10の要因、買いたくなるおみやげとは)・おもてなし(地域での5つのおもてなし)について解説します。					ガイド・お土産・おもてなしについて学修する。(事前事後4時間)				
8	テーマのある旅(カルチャー)	旅の企画としてテーマのある旅の企画を解説します。テーマはカルチャー(美術・音楽・写真)です。					テーマのある旅(カルチャー)について学修する。(事前事後4時間)				
9	テーマのある旅(健康)	旅の企画としてテーマのある旅の企画を解説します。テーマは健康(スポーツ、ウォーキング)です。					テーマのある旅(健康)について学修する。(事前事後4時間)				
10	テーマのある旅(自然)	旅の企画としてテーマのある旅の企画について解説します。テーマは自然(エコツアー)です。					テーマのある旅(自然)について学修する。(事前事後4時間)				
11	テーマのある旅(体験・アグリツーリズム)	旅の企画としてテーマのある旅の企画について解説します。テーマは体験・アグリツーリズムです。					テーマのある旅(体験・アグリツーリズム)について学修する。(事前事後4時間)				
12	テーマのある旅(バリアフリー)	旅の企画としてテーマのある旅の企画について解説します。テーマはバリアフリーです。					テーマのある旅(バリアフリー)について学修する。(事前事後4時間)				
13	イベント・文化交流	旅の企画としてイベント・文化交流について解説します。					イベント・文化交流について学修する。(事前事後4時間)				
14	観光情報発信	ヒットする旅の企画の情報発信について事例にもとづき解説します。					観光情報発信について学修する。(事前事後4時間)				
15	全講義のまとめ	まとめとして感動する旅の創り方について解説します。					講義の全レジメをもとに学修する。(事前事後4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
講義ごとに概要を説明したレジメを配ります。						出席レポート:30% 定期試験:70% S:授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A:授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B:授業内容をおおそ理解し探究心、提案力がある。 C:授業内容をおおそ理解し、探究心、提案力が60%程度である。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし						この講義では、感動する旅を創造するための感性を磨くと同時に、それぞれのテーマのある旅を創造するのに必要なことを学びます。メディアなどで紹介される旅番組などを考えながら見て下さい。					

科目名	民族と文化		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	TA36028	研究室	
担当者	山田 晴通		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
授業概要										
この講義では、「民族」や「文化」といった概念を検討し、その過程で「民族」や「文化」についての多様な見方を紹介します。また、日本国内における「文化」の多様性、「民族」の多元性を検討し、さらに世界の「民族」や「文化」の多元性について広く基礎知識を学んでいきます。										
学修到達目標										
この講義を受講する者の到達目標のひとつは、批判的な検討を通して「民族」や「文化」といった概念の本質的な含意について理解することです。もうひとつは、日本国内や世界に存在する多様な「民族」や「文化」の姿について、広く常識を身につけることです。										
授業の進め方										
頻繁に課題を出して、予習復習を通じて講義で論じる内容への理解が深まるようにします。授業の中では、受講者との対話を重視していきますので、授業には積極的に参加してください。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	「民族と文化」という捉え方について					宿題1(4時間)			
2	「文化」とは何か(1)	身近な「文化」を見直す					宿題2(4時間)			
3	「文化」とは何か(2)	日本語の語彙としての「文化」					宿題3(4時間)			
4	「文化」とは何か(3)	「文化」概念の根源と広がり					宿題4(4時間)			
5	「文化」とは何か(4)	文化記号論の基礎					宿題5(4時間)			
6	「文化」とは何か(5)	異文化の認識とコミュニケーション					宿題6(4時間)			
7	「民族」とは何か(1)	身近な「民族」を見直す					宿題7(4時間)			
8	「民族」とは何か(2)	テキスト(山田, 1993)への導入					テキストの予習・復習課題(4時間)			
9	「民族」とは何か(3)	テキスト(山田, 1993)エスニシティの「相対性」					テキストの予習・復習課題:宿題8(4時間)			
10	「民族」とは何か(4)	テキスト(山田, 1993)日本の民族問題					テキストの予習・復習課題:宿題9(4時間)			
11	「民族」とは何か(5)	テキスト(山田, 1993)近代「日本人」のエスニシティ					テキストの予習・復習課題(4時間)			
12	「民族」とは何か(6)	テキスト(山田, 1993)エスニシティへの感性与批判意識					テキストの予習・復習課題:宿題10(4時間)			
13	多文化主義社会における「民族と文化」(1)	テキスト(山田, 2003)への導入					テキストの予習・復習課題(4時間)			
14	多文化主義社会における「民族と文化」(2)	テキスト(山田, 2003)前半					テキストの予習・復習課題:宿題11(4時間)			
15	多文化主義社会における「民族と文化」(3)	テキスト(山田, 2003)後半					テキストの予習・復習課題(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
山田晴通(1993)地理学におけるエスニシティ研究によせて、あるいは、板前は包丁を研ぐ 他、指示します。		課題:50% 定期試験:50% 課題は、ほぼ毎回、何らかの形での予習や復習の宿題として課していく予定です。S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
特定の文献を指定はしませんが、全体を通じて英和辞典、国語辞典、学習用地図帳を随時参照できるように手元に用意するか、ノートパソコン、携帯電話等で随時検索できるように必要な準備をしてください。		講義担当者の研究室のサイトに授業に関する指示やお願いが出ています。事前に読んで理解しておいてください。メールでの質問も歓迎します。 <a href="http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/">http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/</a> <a href="mailto:yamada@tku.ac.jp">yamada@tku.ac.jp</a>								

科目名	異文化交流演習		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナパ'リング	TA36029	研究室	W-17
担当者	益山 代利子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	中(英語)、高(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
異文化交流の為に、まずは自国の文化や社会事情に精通する必要があります。異文化交流の実践を通して日本文化や社会事情について英語で簡単に説明できるようになることを目指します。										
学修到達目標										
日本文化や日本の現代社会事情について理解を深め、それを簡単な英語を用いて説明できるようになる。										
授業の進め方										
この演習を通して、各自が調査した内容を英語で発表します。松本城での英語による観光案内や茶道体験、松本市内のゲストハウスに宿泊する外国人との交流会なども行い、言葉の不安を乗り越え、実践できる英語力を身につけます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	はじめに	講義の概略説明。英語による自己紹介。					シラバスを読み概略をつかむ(4時間)			
2	日本の地理	日本の地理、自然、気象について各自が調査したことを英語で説明します。地理の説明に必要な表現方法を学びます。					ある観光地の地理について事前調査、英文作成。(4時間)			
3	日本の世界遺産	日本の世界遺産について学び、英語で表現します。					日本の世界遺産について事前調査、英文作成。(4時間)			
4	発表	日本の地理や世界遺産について英語でプレゼンします。					プレゼン準備(4時間)			
5	日本の産業	日本の代表的な産業について学び、英語で表現します。					農業、旅館業、製造業について事前調査、英文作成。(4時間)			
6	日本の商慣習	日本のビジネスマナーについて英語で説明します。					日本特有のビジネスマナーやグローバルなプロトコールについて事前調査。(4時間)			
7	外部講師による講演	日本企業の特徴について海外進出をしている企業の話聞きます。					講演会参加レポートの提出(4時間)			
8	日本の食文化	和食について学び、英語で説明します。					和食に使われる英語の復習。(4時間)			
9	茶道	茶道の歴史、種類、手法について英語で説明します。					茶道のお点前の流れを予習しておきます。(4時間)			
10	茶道体験	外部講師による茶道体験をします。					茶道のお点前の流れを確認しておきます。(4時間)			
11	発表	日本の食文化や茶道についての英語発表					プレゼンの準備(4時間)			
12	日本の城	松本城について英語で学びます。					松本城の事前調査(4時間)			
13	松本城案内体験	松本城のボランティアガイドについて案内のコツを学びます。					松本城の英語資料を読む(4時間)			
14	ゲストハウスでの国際交流	ゲストハウス松本の宿にて、外国人旅行者との交流会に参加します。					松本周辺の観光地情報を事前調査(4時間)			
15	まとめ	これまでの異文化体験を振り返り、よく使われる英語表現を確認します。					英語で説明する日本文化を復習(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
購入するテキストはありませんが、プリントを各種用意して学習します。					レポート:30% 実技:30% 課題:40% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける、他の学生の前で発表できる。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって内容に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおよるを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「英語で説明する日本の文化必須表現グループ100」上田一三、上田敏子、山中敏彦著(株式会社語研) ISBN:978-4-87615-219-3					簡単な英語で外国人との交流ができるようになることを目指します。話すことが目的ですので、楽しく学びましょう。					

科目名	コミュニケーションスキル		学年学期	1年後期	単位数	2	ナパリング	TL16030	研究室	W-12
担当者	八木 雅子		必修選択	必修	科目種別	講義	オイスア-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
○			A	B	C					
授業概要										
初対面の人とすぐに打ち解けられたら、その後の人間関係がスムーズに進みます。しかしこれを誰もができるかという、なかなか難しいのが現状です。この講義では人間関係を構築するのに求められるコミュニケーション能力について学びます。円滑な人間関係構築の第一歩は基本的なマナーの体得と表現です。知っているではなく自然に表現できることを目指します。										
学修到達目標										
円滑な人間関係構築の第一歩となる基本的なマナーの体得と表現を身に着ける。思いやりのある常識人としての振る舞いが自然にでき、地域、職場、家庭で円満なリーダーとなる。										
授業の進め方										
講義はテキストのみならずロールプレーでマナーの定着度をはかる。テーブルマナーはホテルで実際に食事をして学びます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	マナーの歴史を学びます。				テキストを準備し読んでください。(4時間)				
2	西欧と日本のマナー	西欧と日本のマナーの成り立ちについて学びます。				テキストを読んでください。(4時間)				
3	挨拶	挨拶の重要性、お辞儀について学びます。				テキストを読んで来ること。挨拶言葉のページ内の演習に取り組んでおいてください。(4時間)				
4	身だしなみ	身だしなみのT・P・Oについて学びます。				テキストを読んでくること。該当ページ内のチェックポイントに取り組むこと。(4時間)				
5	表情	人間の表情と感情、表情のコントロールについて学びます。				該当ページ内のチェックポイントに取り組むこと。小テストの準備をしてください。(4時間)				
6	言葉使い表情	話し言葉、正しい話し方について学びます。				テキストを読んでください。(4時間)				
7	言葉使い	正しい敬語の使い方を学びます。				テキスト内の演習に取り組んでください。小テストの見直しをしてください。(4時間)				
8	立ち居振る舞い	公共の場での立ち居振る舞いについて検証し自己点検します。。				テキストを読んでください。(4時間)				
9	食事のマナー	「和食」のテーブルマナーを学びます。				テキストを読んでください。(4時間)				
10	食事のマナー	「洋食」のテーブルマナーを学びます。				テキストを読んでください。テーブルマナーの小テストの準備をしてください。(4時間)				
11	職場のマナー	人間関係について学びます。				テキストを読んでください。(4時間)				
12	職場のマナー	電話対応・名刺交換				前回の小テストの振り返りをしてください。テキストを読んでください。(4時間)				
13	冠婚葬祭 「	婚」のしきたりを学びます。				テキストを読んでください。(4時間)				
14	冠婚葬祭	「葬」のしきたりを学びます。				テキストを読んでください。(4時間)				
15	まとめ	全体のまとめ				全体の振り返りと質問をまとめておいてください。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「コミュニケーションスキル」八木雅子著松本大学編(松本大学) ISBN: ISBNコードなし(生協で購入してください。)適宜プリントを配布します。				小テスト: 20% 定期試験: 80% S: 授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。 A: 授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。 B: 授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がおおよそ解ける。 C: 授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				自分が不快に感じることは人にはしない、言わない配慮をすることによってスムーズな人間関係がスタートします。人とコミュニケーションをとることは苦手、と思っている人は当たり前のマナーを学ぶことでぜひ解消してください。						

科目名	ホスピタリティ入門		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	TA26031	研究室	W-17
担当者	益山 代利子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
○		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
ホスピタリティの基盤は、人的サービスの提供者がお客様と共に感動を創り上げる、もてなしの倫理や表現行為です。心の豊かさを創り上げるホスピタリティをキーワードとして、行政、医療、福祉、企業経営、地域活性化など、幅広い分野での取り組みが行なわれています。人的サービスを提供する上で欠かせないホスピタリティの概念を様々な分野での事例を通して学習します。										
<b>学修到達目標</b>										
自身の言葉でホスピタリティの概念を説明でき、ホスピタリティを構成する要素を用いて企業や組織のもてなしの特徴や表現方法について分析できる。										
<b>授業の進め方</b>										
パワーポイントと参考資料を基にすすめます。講義の中では、グループでのワークショップを取り入れたり、グループ発表なども実施します。小グループでのワークショップを行なうことにより、お客様の立場になって考え行動する技術と理論を習得します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ホスピタリティの意義	なぜ今ホスピタリティが注目されているのか、その意義について紹介します。				テキスト第1章ホスピタリティのコンセプトを読む。(4時間)				
2	ホスピタリティの歴史と文化	ホスピタリティの語源、歴史的背景、もてなしやサービスとの言葉の違い、日本の文化的背景について説明します。				テキスト第2章文化の伝播とホスピタリティ精神を読む。(4時間)				
3	ホスピタリティの定義	サービスとホスピタリティを対比させ、ホスピタリティの特性を探ります。				第1章、第2章を再度読み復習する。(4時間)				
4	ホスピタリティの構成要素：物的要素(モノ)	ホスピタリティを表現する物的要素や空間設計について説明します。				おもてなしをモノで表現している事例を調査する。(4時間)				
5	ホスピタリティの構成要素：人的要素1(ヒト)	ホスピタリティを表現する人的要素について説明します。				自己認識力を高めるワークシートの作成。(4時間)				
6	ホスピタリティの構成要素：人的要素2(ヒト)	モチベーション理論、X・Y理論について解説します。				企業の人材開発事例について調査する。(4時間)				
7	ホスピタリティの構成要素：仕組み(コト)	ホスピタリティを表現するための仕組みづくりについて説明します。もてなしの標準化・個別化、サービス提供の流れの設計図を用いて解説します。				企業のおもてなしの標準化について調査する。(4時間)				
8	ホスピタリティの構成要素：創造的な取り組み	企業独自のおもてなしの創出方法を様々な業界の事例を元に解説します。				配布資料を読む。(4時間)				
9	ホスピタリティの三間価値	ホスピタリティを表現するモノ、ヒト、コトの三間価値をホスピタリティ事業での事例と照らし合わせて説明します。				テキスト第3章ホスピタリティ事業とホスピタリティ・コーチングを読む。(4時間)				
10	ホスピタリティの深化	ホスピタリティの品質を高める為の「守・破・離」の輪について説明します。				テキスト第3章ホスピタリティ事業とホスピタリティ・コーチングを読む。(4時間)				
11	リーダーシップとコーチング	ホスピタリティを実践するための組織づくり、リーダーシップ、成果を伴うコーチングの手法について説明します。				テキスト第3章ホスピタリティ事業とホスピタリティ・コーチングを読む。(4時間)				
12	ホスピタリティ事業：宿泊業	宿泊業の制度的文化とホスピタリティについて、宿泊業の成り立ちや文化背景などを交えて説明します。				テキスト第4章宿泊事業の精度的文化とホスピタリティを読む。(4時間)				
13	ホスピタリティ事業：医療	医療事業とホスピタリティ精神の深化について、三間価値の考え方を基に説明します。				テキスト第5章医療事業とホスピタリティ精神の深化を読む(4時間)				
14	観光事業とホスピタリティ精神の深化	旅行業におけるおもてなしや観光まちづくりに必要なホスピタリティ精神について、三間価値の考え方を基に説明します。				テキスト第7章観光事業とホスピタリティ精神の深化を読む(4時間)				
15	まとめ	ホスピタリティの概念の成り立ち、意義、理論などを復習します。				第1回～第14回までの復習。語彙説明のワークシートの見直し。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「ホスピタリティ精神の深化」山上徹著(法律文化社) ISBN:978-4-589-03072-6(生協で購入してください。)				課題：30% 定期試験：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける、他の学生の前で発表できる。A：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって内容に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおよるを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「思いやりとホスピタリティの心理学」平井誠也著(北大路書房) 「ホスピタリティ学のすすめ」服部勝人著(丸善株式会社)				講義中のホスピタリティも大切です。1年のコミュニケーション・スキルの単位を修得していることが望ましい。						

科目名	UD入門		学年学期	2年前期	単位数	2	ナパリング	TL26032	研究室	
担当者	鈴木 芳彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
できるだけ多くの人を使いやすいものを作るという設計手法から生まれたユニバーサルデザイン(UD)は、社会のさまざまな分野に広がっています。製品や設備、建築、環境、情報、サービスなど、支援するという考え方ではなく、当然そうあるべきものが多数考え出されていますが、特に大切なのが人々の心です。このホスピタリティに通じるユニバーサルデザインの考え方をいろいろな事例から学びます。そして、さまざまな仕事に応用できる思考力を養います。										
学修到達目標										
ユニバーサルデザインの基本を学び、説明できるようになること。また、授業を通じてユニバーサルデザインについて見識を深めること。										
授業の進め方										
講義とグループ活動で進めます。講義では、UDの考え方を学び、事例を通して理解を深めます。またグループでキャンパス内及び周辺地域で観察を行い、身近な環境での経験で理解を深めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	ガイダンス 概説ユニバーサルデザインってなに?					関連図書を読んでください。(4時間)			
2	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリーとユニバーサルデザインの違い					関連図書を読んでください。(4時間)			
3	ユニバーサルデザインの原則	ユニバーサルデザインの7原則について					関連図書を読んでください。(4時間)			
4	疑似体験	視覚障がい、肢体不自由の疑似体験をします。					体験結果について考察して下さい。(4時間)			
5	疑似体験	視覚障がい、肢体不自由の疑似体験をします。					体験結果について考察して下さい。(4時間)			
6	疑似体験まとめ	疑似体験で感じたことをグループごとにまとめ発表する					体験結果について考察して下さい。(4時間)			
7	人の多様な特性	色々な障がいについて					色々な障がいについて考えてみる。(4時間)			
8	人の多様な特性	色々な障がいについて					色々な障がいについて考えてみる。(4時間)			
9	事例を見る	身近なユニバーサルデザイン					身の回りのユニバーサルデザインを探し考察する。(4時間)			
10	事例を見る	身近なユニバーサルデザイン					身の回りのユニバーサルデザインを探し考察する。(4時間)			
11	キャンパス内調査	キャンパス内のユニバーサルデザイン調査					調査、記録、考察。(4時間)			
12	キャンパス内調査	キャンパス内のユニバーサルデザイン調査・検討					調査に対する考察と提案事項を検討する。(4時間)			
13	調査・検討結果のまとめ	グループごとに調査結果をまとめます					調査に対する考察と提案事項を検討する。(4時間)			
14	発表	調査結果、提案の発表					調査に対する考察と提案事項を検討する。(4時間)			
15	発表	調査結果、提案の発表、まとめ					調査に対する考察と提案事項を検討する。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
講義で必要に応じプリントを配布します。					レポート:30% 定期試験:40% 受講態度:30% S:授業内容を高度に理解して発展的な課題に対応できる。A:授業内容を理解して応用的な課題に対応できる。B:授業内容をおおよそ理解して応用的な課題にほぼ対応できる。C:授業内容の6割程度を理解している。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
講義で配布するプリントを参考にしてください。					ユニバーサルデザインの考え方を身につけ、社会のあらゆる物事をその視点で捉えられるようになってほしいです。いくつかのグループに分かれての活動が主体となります。					

科目名	心理学	学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	TL26033	研究室	A-16	
担当者	守 一雄	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限			
関連資格	高一(公民)	履修条件								
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)								
	A	B	C							
授業概要										
心理学の概論的、包括的内容を論じると共に、心理学は科学であることを中心テーマに、心理学の基礎について実習を通して学びます。関連する心理学についての課題図書を読み、ディベートをすることで内容の深い理解を目指します。一般に考えられている心理学に対する誤解を解くことが授業の目的です。										
学修到達目標										
心理学が科学的な学問であることを知り、その基本的な研究手法を理解する。決められた期間内に新書レベルの本を3冊読み、その内容の要約と、関連する意見文を書けるようになる。										
授業の進め方										
実習とディベートを中心とする授業とします。知識の習得は、各自が教科書と課題図書を読むことで、行なうこととして、その理解を深めるために授業では実習を行ないます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	オリエンテーション	授業のやり方について説明します。					シラバスをよく読んでください。(4時間)			
2	心って不思議	客観的に存在を証明できない「人間の心」について、科学的に研究しようとする心理学という学問について学びます。次回提出する「読後レポート」の書き方について実習を通して学びます					教科書の第0章第1章を読んで内容をまとめる。(4時間)			
3	ディベートの実習	批判的思考力を育てるためにディベートについて実習で学びます。					課題図書『ザ・ディベート』を読み、要約と意見文を書いた読後レポートを提出する。(4時間)			
4	実験で試す	目の錯覚について実験を通して学びます。					教科書の第2章を読んで内容をまとめる。(4時間)			
5	課題図書 ディベート	課題図書 からテーマを選びディベートします。					課題図書『ザ・ディベート』読後レポートの最終締め切り。(4時間)			
6	行動を調べる	「こめかみ鏡映書字」について実験を通して学びます。					教科書の第3章を読んで内容をまとめる。(4時間)			
7	課題図書 ディベート	課題図書 からテーマを選びディベートします。					課題図書『チビクロこころ』を読み、要約と意見文を書いた読後レポートを提出する。(4時間)			
8	中間試験と解説	講義前半について理解度を調べ、理解の足りないところを補います。					教科書第3章までと課題図書について復習する。(4時間)			
9	計算して確かめる	統計的検定法を使って超能力があるかどうかを確認します。					教科書第4章を読み、内容をまとめる。(4時間)			
10	課題図書 ディベート	課題図書 からテーマを選びディベートします。					課題図書『チビクロこころ』読後レポートの最終締め切り。(4時間)			
11	対人関係を学ぶ	囚人のジレンマゲームによって対人関係について学びます。					教科書第5章を読み、内容をまとめる。(4時間)			
12	課題図書 ディベート	課題図書 からテーマを選びディベートします。					課題図書『おどろきの心理学』を読み、要約と意見文を書いた読後レポートを提出する。(4時間)			
13	公共心を学ぶ	寄付ゲームによって公共心について学びます。					教科書「付録」を読み、まとめる。(4時間)			
14	課題図書 ディベート	課題図書 からテーマを選びディベートします。					課題図書『おどろきの心理学』読後レポートの最終締め切り。(4時間)			
15	まとめ	まとめと後半の理解度テストを行ない、理解不足について補講します。					教科書後半と課題図書 について復習する。(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準								
「チビクロこころ：中学生高校生のための心理学入門」森まりも著(北大路書房) ISBN:978-4762821400(生協で購入してください。)レポート課題対象となる図書は別途指示する。		定期試験：100% レポート：30% S：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C：課題すべてを基準レベルで達成した。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「ザ・ディベート」茂木秀昭著(ちくま新書) ISBN:978-4480058928 読後レポート課題図書とします。必ず購入してください。		本を読んだレポートとディベートがあります。レポート提出者のみディベート参加を認めます。								

科目名	接遇演習		学年学期	2年前期	単位数	1	ナパリング	TA26034	研究室	W-12	
担当者	八木 雅子		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	火曜日3限			
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
○											
授業概要											
接遇とは何でしょうか。この講義では、接客スタッフに求められる資質、専門知識、一般知識、対人技能、実務技能を学びます。単なる接客ではなく初対面の人、見知らぬ人との円滑なコミュニケーションがスムーズにとれる能力を身に付けます。形だけを学ぶのではなく、心(気配り)が備わった接遇を研究し、相手が満足するサービスを社会に出た時に、即戦力として活躍できる人材育成を目指します。											
学修到達目標											
正しい知識と技量を身に付け社会で選ばれる人材となる。また、接遇の醍醐味、やりがいを見出す。											
授業の進め方											
講義形式に加えて、接遇現場で想定される接客ケースのロールプレーを取り入れて進める。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	接遇とは何かを学びます。					接遇のやりがい、関心度について考えてみましょう。(2時間)				
2	サービススタッフの資質	必要とされる要件を学びます。					テキストの該当ページを読んでください。(2時間)				
3	サービススタッフの資質	従業要件を学びます。					テキストの該当ページを読んでください。(2時間)				
4	専門知識	サービス知識を学びます。ケーススタディに取り組みます。					テキストの事例研究に取り組みしてください。(2時間)				
5	専門知識	従業知識を学びます。					テキスト内の商業用語の章を読んでください。(2時間)				
6	一般知識	社会常識を学びます。					テキストを読んでください。次回の小テストの準備をしてください。(2時間)				
7	対人技能	良好な人間関係の構築について学びます。ケーススタディ、ロールプレーに取り組みます。					小テストの振り返り、テキストの事例研を取組んでください。(2時間)				
8	対人技能	高品質な接遇を提供するために求められる知識とは何か学びます。ケーススタディ、ロールプレーに取り組みます。					テキストの該当ページとコラムを読んでください。(2時間)				
9	対人技能	好感をもたれる話し方、わかりやすい話し方について学びます。ロールプレーに取り組みます。					テキストの該当ページの事例研究に取り組みしてください。(2時間)				
10	対人技能	接遇する者にとって適切な服装について学びます。					接遇者として適切な服装で受講してください。(2時間)				
11	実務技能	トラブル発生時の対処について学びます。ケーススタディ、ロールプレーに取り組みます。					テキスト該当ページ内の2つのコラムについて意見をまとめてください。(2時間)				
12	実務技能	接遇現場の環境整備について学びます。					テキスト該当ページの事例研究に取り組みしてください。(2時間)				
13	実務技能	金品管理について学びます。					テキスト該当ページ内の事例研究に取り組みしてください。(2時間)				
14	実務技能	電話対応の基本を学びます。					ロールプレーをします。事前配布資料を読んでください。(2時間)				
15	まとめ	全体のまとめをします。					疑問点のまとめをしてください。(2時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「サービス接遇検定実問題集 1-2級」実務技能検定協会編(早稲田教育出版)					小テスト:40% 定期試験:60% 成績評価の受講態度は、ロールプレーの取り組みから、講義内容の理解度、定着度を測ります。 S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。 A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。 B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がおおよそ解ける。 C:授業内容の6割程度を理解している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「サービス接遇検定受験ガイド 2級」実務技能検定協会編(早稲田教育出版)					講義ではサービス接遇検定2級・1級合格者を出しています。サービス技量、サービスマインドを向上したい人は挑戦してください。						

科目名	観光コミュニケーション		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	TA26035	研究室	N-01
担当者	大石 文朗		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、月曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
○		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
観光地で実際に役立つ英会話内容を通して、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指します。教材は海外旅行を想定したビデオを使用するので、会話の状況設定が分かり易く、現地の様子なども参考にしながら学んでいきます。さらに、観光英検の内容にもふれたいと思います。										
<b>学修到達目標</b>										
海外旅行で使用する最も頻度の高い英会話表現を学び、実践的な英語によるコミュニケーション力を身につけます。										
<b>授業の進め方</b>										
1. 観光英検に関する小テストを行います。2. 前回授業の簡単な復習を行います。3. 新出単語を音読し、意味、発音などの学習を行います。4. テーマごとの内容把握や練習問題を行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 現状の英語能力の確認	授業の進め方、英語能力の確認テスト				テキストP1～3を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
2	On a Flight : Taking a Seat	Boarding passに関する英語表現について				テキストP4～7を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
3	On a Flight: Meal Service	Preferable foodに関する英語表現について				テキストP8～10を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
4	Immigration	Immigration cardに関する英語表現について				テキストP11～14を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
5	Customs	Customs declarationに関する英語表現について				テキストP15～17を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
6	Checking in at a Hotel	Hotel receptionに関する英語表現について				テキストP18～21を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
7	Seeing the Room	bellhopに関する英語表現について				テキストP1～21の授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
8	英語力の確認	中間のまとめと試験				テキストP22～24を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
9	Guest Services	Room serviceに関する英語表現について				テキストP25～28を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
10	Checking Out	Traveler's checksに関する英語表現について				テキストP29～31を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
11	Tourist Information	A city mapに関する英語表現について				テキストP32～35を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
12	Taking a City Bus	Bus fareに関する英語表現について				テキストP36～38を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
13	Taking a Taxi	Taxi fare & tipに関する英語表現について				テキストP39～42を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
14	Renting a Car	Coveragelに関する英語表現について				テキストP22～42の授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
15	英語力の確認	講義全体のまとめと試験				英語力を確認して、今後の学習意欲につなげる。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「First Time Abroad」佐藤公雄著(成美堂) ISBN:4-7919-4538-7 C1082 (生協で購入してください。)				受講態度:30% 小テスト:20% 定期試験:50% (受講態度とは、授業中の発言回数を点数化して評価するものです) S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
英和辞典、和英辞典				辞書を必ず毎回持参してください。授業中に次回の予習部分を周知するので、分からない単語などは、事前に調べて授業に臨んでください。また、授業への出席は言うまでもなく、課題への積極的な取り組みが重要です。						

科目名	観光コミュニケーション			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	TA26036	研究室	N-01
担当者	大石 文朗			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限、火曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
○		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
使用するテキストでは、ロンドンを観光することが状況設定として設けられています。観光地で遭遇するであろうさまざまな英語表現を習得し、英語によるコミュニケーション・スキルの向上を図ります。											
<b>学修到達目標</b>											
観光地での英語によるコミュニケーション能力を習得し、様々な場面に対応できる力を身につけます。											
<b>授業の進め方</b>											
1. 観光英検に関する小テストを行います。2. 前回授業の簡単な復習を行います。3. 新出単語を音読し、意味、発音などの学習を行います。4. テーマごとの内容把握や練習問題を行います。											
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス 現状の英語能力の確認	授業の進め方、英語能力の確認テスト					テキストP2～7を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
2	Arrival at the Hotel	Checking in, Going for breakfastに関する英語表現について					テキストP8～12を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
3	A Taxi Ride	Taking a taxiに関する英語表現について					テキストP13～18を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
4	Shakespeare's Globe Theatre	Customer service centre, Getting informationに関する英語表現について					テキストP19～23を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
5	A Cruise on the River Thames	Planning the cruise, On boardに関する英語表現について					テキストP24～29を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
6	Hungerford Bridge	On the bridge, All about the bridgeに関する英語表現について					テキストP30～34を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
7	The Imperial War Museum	Entering the museum, A temporary exhibitionに関する英語表現について					テキストP2～34の授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
8	英語力の確認	中間のまとめと試験					テキストP35～39を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
9	The London Tube	Finding your way, Paying your fareに関する英語表現について					テキストP40～45を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
10	At the Shops	Browsing, Choosing clothesに関する英語表現について					テキストP46～50を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
11	At Sally's Flat	Visiting, Eating fish and chipsに関する英語表現について					テキストP51～55を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
12	Car Hire	Finding out basic information, UK and US differencesに関する英語表現について					テキストP56～61を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
13	At a London Pub	Drinking togetherに関する英語表現について					テキストP62～66を事前に読む。授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
14	Finding the way	Getting lost, Asking for directionsに関する英語表現について					テキストP35～66の授業内容や英会話表現などについて復習する。(4時間)				
15	英語力の確認	講義全体のまとめと試験					英語力を確認して、今後の学習意欲につなげる。(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
「London Alive」Paul Snowden, Emily Kyoko Snowden著(朝日出版社) ISBN:978-4-255-15508-1 C1082(生協で購入してください。)						受講態度:30% 小テスト:20% 定期試験:50% (受講態度とは、授業中の発言回数を点数化して評価するものです) S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
「英和辞典、和英辞典」						辞書を必ず毎回持参してください。授業中に次回の予習部分を周知するので、わからない単語などは、事前に調べて授業に臨んでください。また、授業への出席は言うまでもなく、課題への積極的な取り組みが重要です。					

科目名	生活文化論		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパ'リング	KB36059 TA36037	研究室	W-12	
担当者	八木 雅子		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ-	火曜日3限			
関連資格					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C						
総観○			総観○	総観							
授業概要											
<p>私たちは「社会」という生活集団を多くの人と築いて生きています。その中で快適な人生を送るためには相手を尊重し、大切に思う気持ちが大切です。日本では自然や神仏を尊び、様々な伝統行事を執り行ってきました。これらは先人たちが生活の中から形に残した冠婚葬祭のしきたりや贈答、手紙のマナーとなり近親者、近隣の人、上司、友人への尊重の気持ち表現する文化として残されています。この講義では、このような日本の伝統文化を学び、それらを通して人との関わり合いの尊さを学びます。</p>											
学修到達目標											
<p>古来からの伝統文化を通し、その意味を理解し、身近なものとする。節目節目の行事により家族、地域の人との絆を深める尊さを理解する。</p>											
授業の進め方											
テキストと映像を使用し講義形式で進めます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンス 「生活とマナー」概要と進め方を説明します。					テキストを用意してください。(4時間)				
2	「冠」とは何か	「冠」のしきたりとマナーについて学びます。					テキストの当該ページを読んでください。(4時間)				
3	地域にみる「冠」の変遷	「冠」のしきたりとマナーについてその地位色と変遷を学びます。					テキストを読んでください。次回実施の小テストの準備をしてください。(4時間)				
4	「婚」とは何か	「婚」のしきたりと変遷を学びます。					小テストを行います。テキストを読んでください。(4時間)				
5	「葬」とは何か	「葬」の歴史、しきたりについて学びます。					小テストの振り返りを行ってください。テキストを読んでください。(4時間)				
6	「祭」訪問のマナー	「祭」の歴史、しきたりについて学びます。					小テストを行います。テキストを読んでください。(4時間)				
7	訪問、手紙のマナー	訪問、手紙、メールについて心得おきたいマナーを学びます。					小テストの振り返りを行ってください。テキストを読んで課題の手紙を書いてください。(4時間)				
8	社会常識	ことわざとその意味、慣用句を学びます。					テキストを読んでください。(4時間)				
9	社会のマナー	地域生活について学びます。					小テストの準備をしてください。テキストを読んでください。(4時間)				
10	社会のマナー	円滑な人間関係について学びます。					テキストを読んでください。(4時間)				
11	社会のマナー	社会人の心得について学びます。					テキストを読んでください。(4時間)				
12	職場生活の基礎知識	円滑な人間関係を構築するために必要なことは何かを学びます。					テキストを読んでください。(4時間)				
13	職場生活の基礎知識	職場のルールについて学びます。					テキストを読んでください。(4時間)				
14	職場生活の基礎知識	職場外でのマナー、円滑な社会人、企業人として活躍するために求められることを学びます。					。テキストを読んでください。(4時間)				
15	まとめ	全体のまとめ					全授業の振り返りをしてください。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「生活文化論」八木雅子著松本大学編(松本大学) ISBN:ISBNコードなし(生協で購入してください。)					<p>小テスト:80% レポート:20%</p> <p>S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。</p> <p>A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。</p> <p>B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。</p> <p>C:授業内容の6割程度を理解している。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし					<p>お互いが尊重しあい人との関わり合いを豊かにして生活するためだけではなく、社会人として職場でもビジネスをスムーズに進めるために求められる日本の生活文化を習得してください。</p>						

科目名	バリアフリー観光		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	TA36038	研究室	W-26
担当者	山根 宏文		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
観光はすべての人が享受できる基本的人権の一部です。この視点から、健常者以外の人々にも観光ができる環境づくりや心づくりを理解することがねらいです。そして、人や自然にやさしい街づくりそして観光のあり方を考えることが目的です。特に高齢化の進む世界の中でバリアフリー観光の持つ意義はますます重要になってきました。										
学修到達目標										
わが国における障がい者向け施設改善の現状と政策や海外における現状を理解することを目標にします。すべての人が享受できる観光環境とするためどのように考えるべきかを最終目標とします。										
授業の進め方										
講義の中から、現状や課題を探り、基本的な状況を理解します。その後、身の回りの環境の中から現状を見直し、バリアフリー観光がスムーズに実施できる環境づくりに活かせるアイデアを討議します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	ガイダンス				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前3時間 事後1時間)				
2	バリアフリー背景	旅行にともなう不便とは				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前3時間 事後1時間)				
3	バリアフリー政策	バリアフリー新法について				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前3時間 事後1時間)				
4	感動を生み出す旅とは	感動する旅のつくりかた				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前3時間 事後1時間)				
5	旅行会社とバリアフリー旅	旅行会社が手がけるバリアフリーの旅 事例検証				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前3時間 事後1時間)				
6	バリアフリーの旅をつくる	宿泊施設 人に優しい宿とは				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前2時間 事後2時間)				
7	バリアフリーの旅をつくる	交通機関 交通機関を手配するために考えること				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前2時間 事後2時間)				
8	バリアフリーの旅をつくる	観光施設 観光施設の楽しみ方と課題				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前2時間 事後2時間)				
9	バリアフリーの旅をつくる	まち歩き 体の不自由な人が歩きたくするまちとは				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前2時間 事後2時間)				
10	バリアフリーの旅をつくる	食 事 アレルギー、障がいのある人のための食事を考える				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前2時間 事後2時間)				
11	シニアの旅	旅行会社が手がけるシニアの旅の事例検証				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前1時間 事後3時間)				
12	シニアの旅	シニア向けの旅をつくるために大切なこと				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前1時間 事後3時間)				
13	バリアフリーの旅をつくる	バリアフリー・シニア向けの旅をつくる 実習				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前1時間 事後3時間)				
14	バリアフリーの旅をつくる	バリアフリー・シニア向けの旅をつくる 実習				事前に資料を提示通読、事後に授業内容の整理を行う。(事前1時間 事後3時間)				
15	発表・まとめ	バリアフリー・シニア向けの旅の発表				発表内容のチェック、事後に全体的な総括を行う。(事前3時間 事後3時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
テキストはプリントを中心に利用します。参考文献については講義の中で紹介していきます。		出席レポート：30% 課題：30% 定期試験：40% S：出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが95%以上 A：出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが80%以上 B：出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが70%以上 C：出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが60%以上								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
なし		バリアフリーを観光事業の面から考えますので、1学年や2学年で学んだ観光概論や観光に関する講義を復習しておいてください。現代社会において誰でもが旅行のできる環境を考えることは重要です。								

科目名	法学B(観光)		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	TL16039	研究室	W-33
担当者	増尾 均		必修選択	必修	科目種別	講義	オイスカー	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	~2016年度 法律の基礎					
授業概要										
現代社会は多くの法律によって規律されていますが、個々の法領域ではさまざまな問題が生じています。本講義では、特に身近な法律を取り上げ、その法律の果たす役割と機能だけでなく、それぞれの法領域が抱えている諸問題を学んでもらいます。										
学修到達目標										
社会のさまざまな問題の現状と法律を学び、問題を法的に解決できる能力を身につけ社会の発展に寄与できるようになることを目的としています。										
授業の進め方										
本講義は、テキストを中心に講義室で行いますが、必要に応じてプリントを配布したり、その時々で話題となっている事件を講義材料として扱うこともあります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方、法律を学ぶ意義、各種法律の位置づけ				事前に法律の種類を調べ、事後には位置づけを理解する。(4時間)				
2	法律とは	法律と似ている自然法則・宗教・道徳との違いを学ぶ。				事前にルールとは何かを考えてまとめる。事後学修として、違いを整理して理解する。(4時間)				
3	法源	成文法と不文法の種類と特徴				事前に法源の種類を調べる。事後学修として、それぞれの特徴を体系的に学ぶ。(4時間)				
4	法の適用	法律をどのように適用するか、どのように解釈するか				事前に適用する上での問題点を考えてまとめる。事後学修として、法的対応を理解する。(4時間)				
5	契約の自由	契約自由の原則と契約の種類				事前に契約をリスト化する。事後学修として、各契約の違いを整理する。(4時間)				
6	損害賠償	損害賠償の範囲・手続きなどを具体的に学ぶ				事前にどのような場面で利用できるか考えておく。講義後、法制度を整理してまとめる。(4時間)				
7	カードの仕組み	我が国のカードの種類と仕組み・法律上の問題点				事前学修として、カードの種類を調べる。事後学修として、現行法制度を理解する。(4時間)				
8	復習テスト	7回の授業の習熟度を理解してもらうため30分の小テストを行い、終了後詳細な解説をする。				事前に今までの復習を再度行う。事後学修として、理解が不十分であった所を学ぶ。(4時間)				
9	自己破産制度	自己破産の意義と手続き				事前に人はどうして自己破産するか調べる。事後学修として、制度についてまとめる。(4時間)				
10	夫婦と法	結婚と離婚を中心に夫婦に関する法律を学ぶ				事前に夫婦間で起きるトラブルをまとめておく。講義後、さまざまな法制度を理解する。(4時間)				
11	親子と法	親子に関する法律を学ぶ				事前に親子間で起きるトラブルをまとめておく。事後学修として、法的規制を整理する。(4時間)				
12	交通事故	交通事故における刑事上の責任・民事上の責任・行政上の責任について				事前にどのような責任がかかるか考えておく。事後学修として、責任について整理する。(4時間)				
13	我が国の裁判制度	刑事裁判と民事裁判の特徴と手続き				事前に両者について調べる。事後学修として、特徴や違いなどを整理してまとめる。(4時間)				
14	裁判員制度	国民が参加する裁判員制度の内容と国民の行うこと				事前に裁判員制度を調べる。事後学修として、裁判員の仕事を理解する。(4時間)				
15	国際法の基礎	国際慣習法と条約の役割について実例をもとに学ぶ				事前学修として、国際法とは何かを調べる。事後学修として、具体例を調べて理解する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「フンステップ法学」目崎哲久ほか著目崎哲久・國友順市編(嵯峨野書院) ISBN:978-4-7823-0551-5(生協で購入してください。) 「ポケット六法」井上正仁・能見善久ほか編(有斐閣) ISBN:9784641009158(生協で購入してください。)				出席レポート:10% 定期試験:90% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展の問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「法律学への誘い」伊藤眞著(有斐閣) ISBN:4-641-02784-6				身近で利用頻度の高い法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨み、今後の大学生活および社会生活に役立ててください。講義計画に該当する内容をテキストから探し、事前に読んでおいてください。						

科目名	地域産業史		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ'リ'ング	KC26066 TB26040	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ-	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
この地域産業史という講義は、日本の地域産業、特に長野県に展開した産業を歴史的にたどり、それらが現在の地域でみられる産業とどのような関係にあるのかを把握し、同時にそれら地域産業が日本全体の経済とどのような関係にあるのかを理解することを目的としています。特に長野県で展開した産業を詳しく知れば、実は日本経済の発展過程をほぼそっくり理解することができるのです。まず自国のことを知らなければ、国際化をはかることなどできないし、地域での産業発展を具体的に考えることもできません。										
学修到達目標										
ここでは、明治以降の日本がたどった歴史を、地域産業を通じて理解し、最終的には地域産業の持つ強さ・弱さ、そしてその将来像を把握しようとしています。まずは、地域に展開した産業(特に長野県では製糸業)がどのような発展の仕方をしてきたか、そしてそれがいま地域で展開する産業とどのような関係にあるかを理解することができます。										
授業の進め方										
基本的には教員からの説明を主体とした講義形式で進めます。アウトキャンパス等は計画していません。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンスと講義に向けての基礎知識の説明				事前、テキスト1~5頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
2	繊維産業と日本経済	繊維産業、特に製糸業が日本経済にどのように位置づけられるかを詳述				事前、テキスト6~13頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
3	地主制と製糸業	器械製糸の中心地は長野県				テキスト13~18頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
4	器械製糸業	長野県が器械製糸の中心になったわけについて詳述する				テキスト20~23頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
5	田中組	長野県にも大きな政商が(小野組と田中組)関わっていたことを詳述				テキスト23~26頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
6	洋銀取引	「金の国」日本(小判とドル銀貨)と銀貨の関係				テキスト26~29頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
7	外国為替相場の出現	日本初の相場師が長野県出身の商人である事実を詳述する				テキスト29~32頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
8	片倉製糸	日本最大の生糸メーカー、片倉製糸の成長過程について詳述する				テキスト34~35頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
9	片倉製糸の経営戦略	片倉工業の株価が高水準を保っている事情(特異な経営戦略)を詳述				テキスト35~39頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
10	戦時下の製糸業	戦時下で切り捨てられる製糸業の姿を詳述する				テキスト40~42頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
11	戦時下の地域産業	戦時下で銀行も電気も戦時体制へ移行する過程を詳述する				テキスト48~53頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
12	戦後の農地改革	戦争直後の混乱を経て日本の農業はどう変わったかを詳述する				テキスト55~58頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
13	戦後の軽工業と重工業	戦後、地域産業として何が製糸業に取って代わったかを詳述する				テキスト58~60頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
14	地域産業の転換	地域に定着した製糸業からの系譜について詳述する				テキスト60~61頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
15	総括	信州の地域産業が軽工業から精密工業へと転換するまでの流れを詳述				テキスト全体を通読のこと(2時間)。事後、授業での総括を復習すること(2時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「地域産業史」木村晴壽著松本大学総合経営学部編(生協で購入してください。)				レポート:20% 定期試験:80% S:授業内容を十分に理解し、地域産業について解説ができる。A:授業内容を理解している。B:授業内容をおおよそ理解している。C:授業内容を6割程度理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「長野県史(各巻)」長野県編 「松本市史(各巻)」松本市編 等				期末の試験は、難易度がかなり高く設定されているので、普通の講義で集中して理解しようとする姿勢が必要です。						

科目名	経済学（含国際経済学）		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	TL26041	研究室	W-09
担当者	成 耆政		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日3限		
関連資格	中一（社会）、高一（公民）			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
<b>授業概要</b>										
本講義では、まず経済理論の講義により経済の基礎知識(原理と手法)について熟知してもらいます。その上、我々を取り巻く現実の経済現象についての分析と応用力を養います。現代経済における経済主体、すなわち家計、企業、そして政府の意思決定(経済活動)と役割に関する理論と手法、そして海外部門の役割について講義を進めていきます。また、国際経済学の理論と実態についても講義を行います。										
<b>学修到達目標</b>										
1.経済学の基礎理論（原理と分析手法）を理解すること。 2.経済学の理論と現実の経済との関係を理解すること。 3.これを通じて現実の経済問題（地域、国内、世界）を分析、応用・考察する能力を身につけること。										
<b>授業の進め方</b>										
基本的にはテキストの内容を中心に、教員が作成した資料をプロジェクターで写しながら講義を進めていきます。また、必要に応じて新聞記事などのプリントも配布して使用します。そして、トヨタ自動車へのアウトキャンパス・スタディも1回行う予定です										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション(高度資本主義社会と経済問題)	資本主義経済と民間部門、公共部門、経済主体と経済活動、経済学の方法、資源の希少性などの経済問題などについて講義します。				事前：資本主義経済の特徴について調べる。事後：配布資料を熟知すること。(4時間)				
2	経済学の基本原理	経済主体のトレードオフ、機会費用の概念、限界原理、インセンティブ、取引と市場の役割、政府の機能、生産性、インフレーション、失業などについて講義します。				事前：テキスト1章のキーワードの意味を調べる。事後：1章のテストバンクを解くこと。(4時間)				
3	需要と供給理論（ ）：市場の機能	市場と競争、需要の作用（需要表、需要曲線など）、供給の作用（供給曲線、市場の供給など）、市場の均衡などについて講義します。				事前：テキスト4章のキーワードの意味を調べる。事後：4章のテストバンクを解くこと。(4時間)				
4	需要と供給理論（ ）：市場と厚生	市場における需要と供給の弾力性（価格弾力性、所得弾力性、交差弾力性）、そして弾力性の応用などについて講義します。				事前：テキスト5章のキーワードの意味を調べる。事後：5章の応用問題を解く。(4時間)				
5	消費の経済理論	消費者余剰、市場の効率性と市場の失敗、そして課税の費用などについて講義します。				事前：テキスト6章のキーワードの意味を調べる。事後：6章テストバンクを解く。(4時間)				
6	生産の経済理論	生産と費用、生産関数、短期と長期の費用などについて講義します。				事前：テキスト6章のキーワードの意味を調べる。事後：6章のテストバンクを解く。(4時間)				
7	税と効率・経済の公平	死荷重、税と効率、税と公平、効率と公平のトレードオフなどについて講義します。				事前：6章付論のキーワードの意味を調べる。事後：6章付論のテストバンクを解く。(4時間)				
8	経済の外部性と厚生経済学	外部性の概念、厚生経済学、外部性と市場の非効率性、外部性に対する公共政策、コースの定理などについて講義します。				事前：テキスト7章のキーワードの意味を調べる。事後：7章のテストバンクを解く。(4時間)				
9	国民所得の測定	経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDPの構成要素、名目GDPと実質GDPなどについて講義します。				事前：テキスト8章のキーワードの意味を調べる。事後：8章のテストバンクを解く。(4時間)				
10	生計費の測定	消費者物価指数、インフレーションの影響に対する経済変数の補正などについて講義します。				事前：テキスト9章のキーワードの意味を調べる。事後：9章のテストバンクを解くこと。(4時間)				
11	貯蓄、投資と金融システム	米国と日本経済における金融機関、国民所得勘定における貯蓄と投資、貸付資金市場などについて講義します。				事前：テキスト11章のキーワードの意味を調べる。事後：11章の応用問題を解く。(4時間)				
12	総需要と総供給	短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義します。				事前：テキスト12章のキーワードの意味を調べる。事後：12章の応用問題を解く。(4時間)				
13	生産と成長	主要国の経済成長、生産性の役割と決定要因、生産関数、経済成長と公共政策、長期的成長の重要性などについて講義します。				事前：10章のキーワードの意味を調べる。事後：10章のテストバンクを解くこと。(4時間)				
14	国際貿易論	生産可能性の原理、比較優位と絶対優位の理論、比較優位と取引、比較優位の応用例、国際貿易理論などについて講義します。				事前：テキスト第3章キーワードの意味を調べる。事後：第3章復習問題を解く。(4時間)				
15	総まとめと定期試験対策	経済学の総まとめ、期末試験の対策、経済理論で解決できない経済問題などについて講義します。				事前：各章の要約を読んでくること。事後：総まとめの資料を熟知すること。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「マンキュー入門経済学（第2版）」グレゴリー・マンキュー著（東洋経済新報社(2014年3月)） ISBN: 978-4-492-31443-2（生協で購入してください。） テキストを中心に講義を進めるので、必ずテキストが必要です。				レポート：30% 定期試験：70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
「世界経済入門」大和総研編（日経BP社） 2015年12月				授業の前に、必ず日本経済新聞を読んでくること。そして、日経平均株価と米ドルに対する日本円の為替レートを調べてくること。						

科目名	契約法		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	TA26042	研究室	W-33
担当者	増尾 均		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		○								
<b>授業概要</b>										
本講義では債権法総論を中心に授業をし、各論の不法行為も合わせて行います。民法は大別すると財産法と家族法に分けることができます。財産法には、民法総則・物権法・債権法総論・債権法各論があります。この中で債権法総論には契約・保証・損害賠償など社会生活の中で多用されている制度があることから、これを重点的に行います。										
<b>学修到達目標</b>										
本講義を受けることにより、トラブルに遭わないための予防策、ならびにトラブルに遭ってしまった場合の速やかな解決方法を学び、地域人として社会の発展に寄与することができるようになることを目的とします。										
<b>授業の進め方</b>										
基本的には教科書と六法を用いて講義室で授業を行います。しかし、教科書と六法のみではなく、必要に応じて判例・新聞記事などのプリントも配布して使用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方・契約法を学ぶ意義				事前に民法の中の契約法の位置づけを調べる。事後学修として、体系的にまとめる。(4時間)				
2	特定物債権と不特定物債権	特定物債権と不特定物債権の特徴				事前に両債権の外郭を理解しておくこと。事後学修として、詳細に比較検討すること。(4時間)				
3	危険負担	特定物債権と不特定物債権の危険負担の違い				事前に危険負担の意味を調べて理解すること。事後学修として両者の違いを把握すること(4時間)				
4	金銭債権と利息債権	金銭債権と利息債権の問題点と法的諸規制				事前学修として、変遷を調べておく。事後学修として、法的規制をまとめる。(4時間)				
5	強制履行	直接強制・代替執行・間接強制の要件と効果				事前に履行を強制するかまとめる。事後学修として各強制的利用限界をまとめる。(4時間)				
6	債務不履行の種類	債務不履行の意義と要件				事前に債務不履行が生じる場面を調べる。事後学修として、体系的に整理して理解する。(4時間)				
7	債務不履行の効果	債務不履行の手続きと損害賠償				事前に損害賠償の内容を調べておくこと。事後学修として、整理してまとめること。(4時間)				
8	復習テスト	7回の授業の習熟度を理解してもらうため30分の小テストを行い、終了後詳細な解説をする。				事前に今までの復習を再度行う。事後学修として、理解が不十分であった所を学ぶ。(4時間)				
9	債権者代位権と債権者取消権	責任財産の保全という視点から債権者代位権と債権者取消権を学ぶ				事前に2制度の概要を理解しておくこと。講義後学、制度の要件と効果をまとめる。(4時間)				
10	分割・不可分債権関係・連帯債務	多数当事者の債権関係として、分割・不可分債権関係・連帯債務の制度を学ぶ				事前に各制度の概要を理解する。事後学修として、担保的機能を中心に理解を深める。(4時間)				
11	保証債務・連帯保証	担保的機能の強い保証債務と連帯保証の特徴と留意点				事前に担保的機能を調べる。事後学修として、制度の違いを整理する。(4時間)				
12	弁済・代物弁済・供託	債権の消滅原因としての弁済・代物弁済・供託の機能				事前に各制度の特徴を調べる。事後学修として、各制度の違いを比較しまとめる。(4時間)				
13	相殺・更改・免除・混同	債権の消滅原因としての相殺・更改・免除・混同の機能				事前に各制度の特徴を調べる。事後学修として、各制度の違いを比較しまとめる。(4時間)				
14	一般の不法行為	民法709条の要件と効果				事前に損害賠償について調べる。事後学修として、債務不履行の効果と比較すること。(4時間)				
15	特殊な不法行為	特殊な不法行為として位置づけられている諸制度の要件と効果				事前に条文に従い種類を整理しておくこと。事後学修として、効果をまとめる。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「プリメール民法3債権総論」大島和夫・高橋眞・玉樹智文・山田希著 著(法律文化社) ISBN:978-4-589-03625-4 (生協で購入してください。) 「ポケット六法」井上正仁・能見善久ほか編(有斐閣) ISBN:9784641009158 (生協で購入してください。)				出席レポート:10% 定期試験:90% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展的問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「債権総論」水辺芳郎著(法律文化社)				身近で利用頻度の高い法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨み、今後の大学生活および社会生活に役立ててください。講義計画に該当する内容をテキストから探し、読んでおいてください。						

科目名	コミュニティビジネス		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KC26065 TB26043	研究室	W-34
担当者	白戸 洋		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性	A B C		履修対象入学年度(読替科目)				
<b>授業概要</b>										
コミュニティ・ビジネスとは、住民の行なう事業にビジネスの手法を取り入れることで、事業の継続性を図り、地域の課題を解決するものです。講義では、コミュニティ・ビジネスを理解し、実際のコミュニティ・ビジネスの事業について、事例研究を行います。特に近年課題とされている高齢者の買い物支援問題についてもとりあげます。講義の後半ではグループ別に実際のコミュニティ・ビジネスの構想を行うために、ディスカッションやフィールドワークなどを行います										
<b>学修到達目標</b>										
コミュニティ・ビジネスの意義や理論的な枠組みなど基本的な概念について理解するとともに、地域の課題を踏まえたコミュニティ・ビジネスの事業の提案を行うことができる										
<b>授業の進め方</b>										
講義は毎回配布したプリントに沿って進め、毎回課題について自分の意見を提起する小レポートを作成してもらいます。様々なテーマについて課題レポートを作成し、修了レポートとしてコミュニティ・ビジネスを提案してもらいます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション	講義の概要と進め方・コミュニティ・ビジネスを学ぶとは				講義において何を学びたいかについて検討 2時間				
2	コミュニティ・ビジネスの基礎を学ぶ	コミュニティ・ビジネスの背景				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
3	コミュニティ・ビジネスの基礎を学ぶ	コミュニティ・ビジネスの定義				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
4	コミュニティ・ビジネスの基礎を学ぶ	コミュニティ・ビジネスの意義				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
5	コミュニティビジネスとは何か	コミュニティビジネスとは何かについてワークショップで考える				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
6	コミュニティ・ビジネスの現状	コミュニティ・ビジネスの現状について				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
7	コミュニティ・ビジネスの課題	コミュニティビジネスをめぐる課題を学ぶ				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
8	コミュニティ・ビジネスの種を見つける	コミュニティビジネスのプロセスを学ぶ				講義のテーマに関してポイントを整理する 2時間 事例研究を通じて内容を復習する 2時間				
9	コミュニティ・ビジネスの事例研究	コミュニティ・ビジネスの具体的な事例の紹介				講義のテーマに沿った事例を探しコミュニティ・ビジネスの意義を整理する 4時間				
10	コミュニティ・ビジネスを構想する コミュニティ・ビジネスのアイデア	コミュニティビジネスのアイデアをグループ・ディスカッションで検討				ディスカッション結果を整理し次のディスカッションに向けての提案等を検討する 4時間				
11	コミュニティ・ビジネスを構想する フィールドワーク	コミュニティビジネスの構想に向け地域に出て地域課題や資源を調査する				対象となる地域について資料収集を行いフィールドワークの結果を整理する 6時間				
12	コミュニティ・ビジネスを構想する 課題を考える	コミュニティビジネスの構想に向け地域の課題を明らかにする				講義内容を踏まえて提案シートの作成 4時間				
13	コミュニティ・ビジネスを構想する 事業の提案	事業企画書を作成する				講義内容を踏まえて提案シートを見直し修正して作成 4時間				
14	コミュニティ・ビジネスを構想する 事業の提案	事業を提案する				関連する地域社会の課題について調べ結果を整理する 4時間				
15	未来を創造するコミュニティ・ビジネス	今後の地域社会でコミュニティビジネスが果たすべき役割を考える				講義全体を振り返り定期試験や修了レポート作成に向け自分の考え方を整理する 4時間				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
プリントを配付します。		レポート：40% 出席レポート：50% 定期試験：10% S:講義内容を活かして具体的なコミュニティ・ビジネスを実行できる A:講義内容を十分に理解し実現性のあるコミュニティ・ビジネスを提案できる B:講義内容を十分に理解しコミュニティ・ビジネスを提案できる C:講義内容を概ね理解し要件を満たしたコミュニティ・ビジネスを提案								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
「実践コミュニティ・ビジネス」細野助博編(中央大学出版) 細野助博監修 「松本大生がかかわったまちづくり」白戸ゼミナール編(松本大学出版会)		受け身で講義に参加することは不可能で、自分が考えること、そして日常の中でできるだけ社会に目を向けること、そして実践につなげることが講義では問われます。								

科目名	地域行政			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ`リング	TB26044	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
国と地方の行政について、国(中央政府)の行政、地方の行政、地方の行政と中央政府の関係、国と地方の公務員のあり方・役割、そして行政学の基礎についての講義をします。											
学修到達目標											
私たちの日常生活に密接な関わりを持つ地方自治体を中心とした地域行政と行政学の基本理論について理解を持つ。地方自治を形だけのものに終わらせるのではなく、実のあるものにするために、そこで日々暮らしている私たち自身が、国と地方公共団体のしくみと活動、政策形成と実施のあり方、自治体職員など公務員のあり方について理解することができる。											
授業の進め方											
この講義では講義が中心です。しかし、受け身になるだけでなく、自分から問題意識を持って受講する態度を持つようにしてください。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	イントロダクション	はじめに：この講義の内容、進行などについてのガイダンス					高校レベルの復習(4時間)				
2	政治と行政	政治と行政の関係					指示した文献を読む(4時間)				
3	首長	都道府県知事と市長村長					指示した文献を読む(4時間)				
4	議会	都道府県議会と市町村長					指示した文献を読む(4時間)				
5	地方公務員	都道府県、市町村の職員					指示した文献を読む(4時間)				
6	住民による統制	選挙と住民投票					指示した文献を読む(4時間)				
7	条例制定	国の法律と地方の条例					指示した文献を読む(4時間)				
8	地方自治体の組織1	地方自治法と地方自治体の組織					指示した文献を読む(4時間)				
9	地方自治体の組織2	地方自治体の権能と大都市制度					指示した文献を読む(4時間)				
10	地方自治体と財政	地方自治体の行財政と予算					指示した文献を読む(4時間)				
11	中央地方関係1	国の政府と地方の政府					指示した文献を読む(4時間)				
12	中央地方関係2	国の政府と地方の政府の相互関係					指示した文献を読む(4時間)				
13	学校教育	学校教育行政					指示した文献を読む(4時間)				
14	子育て行政	地方自治体の子育て行政					指示した文献を読む(4時間)				
15	まとめ	現代における自治体と自治体職員に求められる役割について					指示した文献を読む(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「地方自治論-二つの自立性のはざままで」北村亘、青木栄一、平野淳一著(有斐閣) ISBN:978-4641150485 (生協で購入してください。)						定期試験：80% 出席レポート：20% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし						国内外の地方自治、地域行政についてのニュースを適宜取り上げます。普段から新聞やテレビのニュースに関心を持つよう心がけてください。また、身の周りの出来事が講義の内容と関係していることも意識しましょう。					

科目名	リーダーシップ論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	KA26002 TL26045	研究室	W-29
担当者	畑井 治文		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
<b>授業概要</b>										
リーダーシップとは、個人が他の人や集団に社会的影響を与えるプロセスのひとつです。本講義では、リーダーシップを行動特性や環境要因をもとにいくつかのタイプに分類し、それぞれのリーダーシップの特徴について解説していきます。またリーダーに従うメンバーの視点、リーダーがメンバーに対して行うコーチングの視点など、日常生活や学生生活においても活用可能な情報を提供していきます。										
<b>学修到達目標</b>										
代表的なリーダーシップ理論を理解するとともに、各種のケースを学ぶことによって、リーダーシップについての知識や関心を広げられるようになるのはもちろん、自分自身が優れたリーダーになる手がかりを得ることが目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
基本的には講義用プリントを配布して授業を進めます。各回とも教室での講義となりますが、可能な限り、インタラクティブな授業を展開できるように心がけていきます。授業内で実施した小テスト・課題などについては、随時、返却・解説をする予定です。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標などについて説明します。またリーダーシップを学ぶ意義、リーダーシップを発揮する要素について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、リーダーシップを発揮した経験を整理してきて下さい。(4時間)				
2	リーダーシップ理論の展開	資質アプローチ、行動アプローチという2つの視点から、リーダーシップ研究の流れについて解説します。				今回の内容を復習すると同時に、PM理論について調べてきて下さい。(4時間)				
3	リーダーシップの類型	PM理論などの理論的背景を解説した上で、リーダーシップを行動特性や環境要因をもとにいくつかのタイプに整理します。				今回の内容を復習すると同時に、フィードバックの与え方について考えてきて下さい。(4時間)				
4	日常におけるリーダーシップ	指示を重視するリーダーの行動特性について解説した上で、メンバーに対するフィードバックの与え方、報酬の与え方などの具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、心理的満足度を高めるための手法を考えてきて下さい。(4時間)				
5	日常におけるリーダーシップ	コミュニケーションを重視するリーダーの行動特性について解説した上で、メンバーに対する心理面でのサポート、育成面でのサポートなどの具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、ビジョン型リーダーと思う人物を挙げてきて下さい。(4時間)				
6	変革期におけるリーダーシップ	変革ビジョンを示すリーダーの行動特性について解説した上で、シンボリック行動、変革に伴うメンバーの負担を軽減する方法などの具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、信頼関係を構築するための手法を考えてきて下さい。(4時間)				
7	変革期におけるリーダーシップ	メンバーの自発性を引き出すリーダーの行動特性について解説した上で、メンバーとの信頼関係の構築、組織文化の変革などの具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、自分がどのようなメンバーかを分析してきて下さい。(4時間)				
8	リーダーに従うメンバー(フォロワー)	リーダーとメンバーの関係性を解説した上で、批判的思考、積極的関与という2つの視点をもとに、メンバー(フォロワー)をいくつかのタイプに整理します。				今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
9	ケーススタディ(リーダーシップの実践)	映像資料を用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。				小テストを復習すると同時に、相手の話を促す上で必要なポイントを考えてきて下さい。(4時間)				
10	コーチングマネジメント	コーチングのスキルのうち「聞き方の技法」について解説します。メンバーの話をうまく引き出すために、リーダーが取るべき具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、マズローの欲求5段階説について調べてきて下さい。(4時間)				
11	コーチングマネジメント	コーチングのスキルのうち「認め方の技法」について解説します。人々の欲求構造を整理した上で、メンバーの欲求を満たすために、リーダーが取るべき具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、質問と詰問の違いについて考えてきて下さい。(4時間)				
12	コーチングマネジメント	コーチングのスキルのうち「問い方の技法」について解説します。質問のタイプを整理した上で、メンバー自らが答えを見つけられるようになるために、リーダーが取るべき具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、指示・命令と提案の違いについて考えてきて下さい。(4時間)				
13	コーチングマネジメント	コーチングのスキルのうち「提案の技法」について解説します。メンバーが新しい視点を持てるようになるために、リーダーが取るべき具体的手法を紹介しします。				今回の内容を復習すると同時に、コーチングのスキルを実践してみつけて下さい。(4時間)				
14	ケーススタディ(コーチングの実践)	映像資料を用いながら、これまでの内容を振り返ります。また数名単位でコーチングのコミュニケーションを体感するためのグループワークを行います。				今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	定期試験対策プリントを用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。				小テストを復習すると同時に、定期試験に備えて下さい。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
講義用プリントを配布します。				出席レポート:20% 小テスト:30% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解して発展問題・課題が解ける。A:授業内容を理解して応用問題・課題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解して応用問題・課題がほぼ解ける。C:授業内容の6割程度を理解している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「[新版]グロービスMBAリーダーシップ」グロービス経営大学院編(ダイヤモンド社) 「リーダーシップ」小野善生著(ファーストプレス)				我々の身の回りでもリーダーシップを感じる場面は沢山あるはずですが、本講義で学んだ内容と普段の生活を関連付けるように努めて下さい。そうすることで講義への理解が深まります。						

科目名	生活環境論		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KB26054 TB26046	研究室	非常勤
担当者	水橋 文雄		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワー			
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
		総 観								
<b>授業概要</b>										
「生活環境論」では、良好な生活環境を維持する為、持続可能な社会を構築する基本三原則とされる低炭素社会、循環型社会及び自然共生社会の中に潜む様々な問題点を整理し、問題解決の為に具体的な実践方法について共に考えてみる授業です。										
<b>学修到達目標</b>										
良好な生活環境の持続可能な社会を構築するために、様々な生活環境問題に対し、その対策は何かを考え、実践し、その成果を検証する能力(PDCAサイクル)を身につける。										
<b>授業の進め方</b>										
パワーポイントやDVD(BR)を利用して講義を進めます。資料はパワーポイントの主な内容をプリントして配ります。また、アウトキャンパスとして、「最終処分場」の見学を予定します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	生活環境論とは	良好な生活環境を維持する為に、低炭素社会、循環型社会及び自然共生社会の中に潜む様々な問題点の概要を説明する事で、生活環境論とは何かを説明します。				受講生の過去(小学生時代)と現在の生活環境の違いについて調査し、整理する。(4時間)				
2	生活環境の現状について	持続可能な社会の構築を阻害している様々な生活環境の異変について説明します。				身の回りで起きている生活環境の異変について調査する。(4時間)				
3	循環型社会の構築について。(1)	循環型社会を構築する為の基礎となる日本の廃棄物処理に関する法制度について説明します。				日本の廃棄物処理に関する法制度について調査し、廃棄物の定義等を理解する。(4時間)				
4	循環型社会の構築について。(2)	循環型社会を構築する為の、日本の各種リサイクル法制度について説明します。				日本のリサイクルに関する法制度について調査し、リサイクルの方法について理解する。(4時間)				
5	循環型社会の構築について。(3)	循環型社会を構築するための廃棄物処理施設について説明します。				受講生の出身自治体の一般廃棄物処理施設の状況について調査する。(4時間)				
6	施設見学	松本市の一般廃棄物の最終処理施設(エコトピア山田)を見学します。				受講生の出身自治体の一般廃棄物の最終処理施設の現状について調査する。(4時間)				
7	低炭素社会の構築について。(1)	日本における、地球温暖化によるとされる異常気象の現状と、それに伴う生活環境への影響について説明します。				日本における異常気象の発生状況について調査する。(4時間)				
8	低炭素社会の構築について。(2)	パリ協定に基づく地球温暖化に対する日本の取り組み内容について説明します。				京都議定書及びパリ協定の内容を比較して、国際的取り組み状況について調査する。(4時間)				
9	低炭素社会の構築について。(3)	日本のエネルギー政策の問題点(原子力発電所再稼働問題等)について説明します。				日本のエネルギー政策と、電力自由化に伴う石炭火力発電所の建設状況について調査する。(4時間)				
10	低炭素社会の構築について。(4)	松本平の再生可能エネルギーの開発の可能性と問題点について説明します。				再生可能エネルギーの種類と特性について調査する。(4時間)				
11	自然共生社会の構築について。(1)	現在の日本雷鳥に代表されるような、様々な野生生物種の減少問題について説明します。				身近に発生している野生生物(動物・植物・昆虫等)の減少について調査する。(4時間)				
12	自然共生社会の構築について。(2)	現在のニホンジカに代表されるような、様々な野生生物の生息数の増加及び被害状況(鳥獣被害)について説明します。				身近に発生している野生生物の増加による被害(カラス・ムクドリ等)の状況を調査する。(4時間)				
13	自然共生社会の構築について。(3)	里山の荒廃(松がれ等)、外来種による在来種の駆逐、人為的種交配の状況等の問題点について説明します。				桜の名所、ホテルの里等の街づくり事業や、白鳥や野良猫への餌やり等の問題を調査する。(4時間)				
14	自然共生社会の構築について。(4)	農業(の空中散布)等の化学物質の飛散が、動物や昆虫等の生息環境に与えている影響等について説明します。				松がれ対策の農業散布に伴う化学物質過敏症や環境ホルモン禍との関係等について調査する。(4時間)				
15	持続可能な社会の構築について(整理)	持続可能な社会とする、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を構築する為の問題点を再整理します。				持続可能な社会を構築する為に、今何をすべきかを考察し、実践する方法を整理する。(4時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
必要に応じてパワーポイントを要約した資料を配布します。		受講態度:30% レポート:30% 定期試験:40% 受講態度は、講義毎に提出する受講票による講義への意見の内容を評価に加味します。レポートは3回以上の提出を予定します。提出期限を厳守して下さい。S評価は、成績評価の合計が100となり、しかもレポート提出状況及び受講態度が優秀な場合です。A評価は、成績評価の合計が80以上の場合で、レポート提出状況及び受講態度が良好な場合です。B評価は、成績評価の合計が70以上80未満の場合で、C評価は、成績評価の合計が60以上70未満の場合です。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
特にありません		持続可能な社会を構築する為に、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会だけではなく、生活の中にある様々な環境問題に関心をもち、実践する必要があります。そこで今ある環境問題をどう対処すべきかを常に考える事が大切です。								

科目名	家族法		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバ'リング	KB26053 TB26047	研究室	W-33
担当者	増尾 均		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日2限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
			A	B	C					
			総 観							
<b>授業概要</b>										
我が国には非常に多くの法律がありますが、その中でも民法は社会生活をする上で最も身近な暮らしに関することを規律した法律です。本講義では民法の中の家族法を学んでいただきます。具体的には夫婦や親子の関係を規定する親族法と相続や遺言を規定する相続法です。いずれも社会生活のみならず家庭生活の中でも多用されています。										
<b>学修到達目標</b>										
家族法の諸制度を学び、家庭内でのトラブルを回避するための法的予防策ならびにトラブルに遭遇してしまった場合の法的早期解決方法を習得し、地域人として家庭の平穏と地域の発展に寄与することを目的とします。										
<b>授業の進め方</b>										
基本的には教科書と六法を用いて授業を進めます。しかし、教科書と六法のみではなく、必要に応じて判例・新聞記事などのプリントも配布して使用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方、家族法の意義と民法の中の位置づけ				事前に民法とはどのような法律か調べる。講義後、家族法の位置づけをまとめる。(4時間)				
2	親族法総説	親族法の沿革、親族法の特徴				事前学修として、身分法について調べる。事後学修として、現親族法との比較検討をする。(4時間)				
3	婚姻の成立と効果	婚姻成立のための実質的要件と形式的要件、地位と財産上の効果について				事前学修として、婚姻の条件を調べる。事後学修として、各規定を整理する。(4時間)				
4	離婚の成立	離婚制度の沿革、離婚の種類と要件、有責主義と破綻主義について学ぶ				事前に離婚の条件を調べる。事後学修として、有責主義と破綻主義についてまとめる。(4時間)				
5	離婚の効果	離婚による財産上の効果と子に関する効果				事前に離婚によって夫婦はどうか調べる。講義後、財産と法的効果を整理する。(4時間)				
6	親子	実親子と養親子、それぞれの問題点と法規制				事前に親子間の問題を調べる。事後学修としてそれぞれの問題と規制を整理する。(4時間)				
7	親権	親権および身上監護と財産管理の意義と内容				事前に親権について調べる。事後学修として、親権と監護権との関係についてまとめる。(4時間)				
8	復習テスト	7回の授業の習熟度を理解してもらうため30分の小テストを行い、終了後詳細な解説をする。				事前に今までの復習を再度行う。講義後、理解が不十分であった所を改めて学ぶ。(4時間)				
9	後見制度	未成年後見、成年後見・補佐・補助の意義と制度の概要				事前学修として、後見とは何かを調べる。事後学修として、各制度の違いをまとめる。(4時間)				
10	相続法総説	相続法の沿革旧法との比較				事前に昔の相続はどうであったか調べる。事後学修として、現行法との比較検討をする。(4時間)				
11	相続人	相続人の範囲と順位、相続権の剥奪、代襲相続				事前に誰が相続できるか調べる。事後学修として、各制度を整理してまとめる。(4時間)				
12	相続の効力	相続分と遺産分割				事前に遺産をどう分けるか考える。講義後、相続分について整理する。(4時間)				
13	相続の承認と放棄	単純承認・限定承認・相続の放棄について手続きと規定を学ぶ				事前学修として、相続の種類を調べる。事後学修として、それぞれの特徴をまとめる。(4時間)				
14	遺言	遺言の各種方式と遺贈の意義と要件				事前学修として、遺言の種類を調べる。事後学修として、各制度の特徴を整理する。(4時間)				
15	遺留分	遺留分の概要と算定				事前に遺留分の意義を調べる。事後学修として、計算ができるように練習する。(4時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
「プリメール民法5家族法」千藤洋三・床谷文雄・田中通裕・辻朗著(法律文化社) ISBN:978-4-589-03595-0(生協で購入してください。) 「ポケット六法」井上正仁・能見善久ほか編(有斐閣) ISBN:9784641009158(生協で購入してください。)		出席レポート:10% 定期試験:90% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展の問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
「ハイブリッド民法5 家族法」半田吉信・鹿野菜穂子・佐藤啓子・青竹美佳著(法律文化社) ISBN:9784641009158		身近で利用頻度の高い法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨み、今後の大学生活および社会生活に役立ててください。講義計画に該当する内容を読んでください。								

科目名	倫理学			学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	TB36048	研究室	
担当者	三谷 尚澄			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
さまざまな倫理思想を学んで、倫理的に生きることの大切さを学習します。現代社会は、組織社会とされています。人々は、大小を問わず多くの複数の組織との関連のなかで生きています。そこでは、組織は、例えば企業や政府、行政および学校など、とりわけ企業に注目しなければならないですが、強力なパワーを持っています。それは、組織がその構成員や関係者に遵守を期待する、倫理的な考え方が必要になります。この講義では、組織の中での論理学的考え方を考えます。											
学修到達目標											
組織社会をめぐる倫理的問題状況を自から解釈し、説明できることを目標とします。また、組織に関わっている人々が自己の良心に従って責任的な行動をとれるような「組織の責任」とは何かについて説明できることを目標とします。											
授業の進め方											
倫理的な問題状況にある組織事例を取り上げ、どのような問題がなぜ起きたのかと、問題の解決の方向性を考える形で授業を進めます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	倫理とは何であるか(1)	倫理にかかわる言葉と意味について					テキストの1頁～3頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
2	倫理とは何であるか(2)	倫理の変容性、応用倫理、日本の倫理					テキストの4頁～9頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
3	古代の倫理(1)	ソクラテス、ソフィストのあり方、無知の知					テキストの11頁～13頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
4	古代の倫理(2)	プラトン、イデア論、魂と国家のあり方、四元徳					テキストの13頁～14頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
5	古代の倫理(3)	アリストテレス、知性的徳と倫理的徳、中庸(メソテース)、テオリア					テキストの14頁～17頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
6	古代の倫理(4)	ストア、エピクロスその他、アパティア、アタラクシア					テキストの17頁～20頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
7	近代の倫理(1)	カント 道徳法則、人格の尊厳					テキストの29頁～31頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
8	近代の倫理(2)	功利主義、その他 ベンサムとミルの功利主義、ミルの自由論					テキストの31頁～33頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
9	現代の倫理	現代倫理学の課題 応用倫理学、レオポルドの土地倫理、ポッターのバイオエシックス、ロールズの正義論					テキストの43頁～47頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
10	生命倫理(1)	遺伝子治療、再生医療、遺伝子診断					テキストの56頁～62頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
11	生命倫理(2)	移植医療、脳死、人格					テキストの67頁～73頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
12	生命倫理(3)	生殖医療、人工授精、体外受精、出生前診断、人工妊娠中絶、受精卵診断					テキストの75頁～86頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
13	生命倫理(4)	未来に向けて、インフォームド・コンセント、パートナーリズム					テキストの88頁～92頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
14	生命倫理(5)	安楽死と尊厳死、代替医療					テキストの93頁～98頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
15	授業のまとめ	授業のまとめを行う。					テキストの99頁～102頁を読んで予習復習を行う(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「21世紀の倫理」笠松幸一・和田和行著(八千代出版)					定期試験:70% レポート:30%						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業内で、適宜指示します。					さまざまな倫理思想を学んで、倫理的に生きることの大切さを真剣に考えるようにして下さい。						

科目名	NPO			学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KC36068 TB36049	研究室	W-34
担当者	白戸 洋			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
		総 観○		総 観							
授業概要											
本講義ではNPOについて、基礎理論、歴史や社会経済的背景、現状と課題を学習し、NPOを通じて社会や地域に対して参画する意義や問題意識を育てることを目的とします。またNPOの経済や雇用への影響、地域通貨、コミュニティの創造、住民参画、行政とのパートナーシップ、マネジメント、国際比較など今日的課題を取り上げる。具体的な事例を取り上げ、理論と実践の両面から学習します。またNPOの設立申請書の一部を作成することによってより理解を深めることをめざします。											
学修到達目標											
基礎理論、歴史や社会経済的な背景、現状と課題を理解する				NPOを通じて社会や地域に対して参画する意義や問題意識を持つ				地域や社会に対する関心を育て主体的に関わっていく意識を持つ			
授業の進め方											
講義は教科書とプリントに沿って進め、毎回課題について小レポートを作成してもらいます。自分でNPOについて資料を収集し調査を行う体験プログラムやNPOの設立申請書の作成シミュレーションを行い、課題レポートして提出してもらいます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	非営利組織とは、NPOとは何?					講義において自分の学習目標を検討する 2時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
2	NPOの基礎理論	非営利組織の制度					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
3	NPOの基礎理論	NPOらしさとはなにか					関教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
4	NPOの基礎理論	非営利組織の歴史と現状					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
5	NPOの基礎理論	NPOの存在価値は					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
6	NPOの現状と課題	世界の非営利セクター					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
7	NNPOの現状と課題	NPOと行政のパートナーシップ					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
8	NPOの現状と課題	企業とNPO・コミュニティ・ビジネス					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
9	NPOの経営	非営利組織のマネジメント					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
10	NPOの経営	経営資源の開発					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
11	NPOの設立シミュレーション	NPOを設立しよう その1 種を探そう グループづくり					講義で検討した事項に関するレポート作成し次回に向けて検討課題を整理 4時間				
12	NPOの経営	NPOの組織運営・定款					定款の事例研究を行う 4時間				
13	NPOの設立シミュレーション	NPOを設立しよう その2 NPOの組織作り ワークショップ					講義で検討した事項に関するレポート作成し次回に向けて検討課題を整理 4時間				
14	NPOの設立シミュレーション	フィールドワーク(NPO設立のための種探し)					講義で検討した事項に関するレポート作成 4時間				
15	今後のNPOの課題	NPOの発展戦略 ~ NPO支援・アカウンタビリティと評価・寄付税制					教科書を熟読し講義内容の復習を行う 3時間 次回の講義に向けて教科書を予習する 2時間				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「テキストブック NPO - 非営利組織の制度・活動・マネジメント」雨森孝悦著(東洋経済新報社) ISBN:978-4492100196(生協で購入してください。)						出席レポート:50% レポート:40% 定期試験:10% S:講義内容を踏まえてNPOにかかわる具体的な活動を行う A:講義内容を十分理解し自らの問題意識に基づいたNPOを提言できる B:講義内容を十分理解し要件を満たしたNPOを提言できる C:講義内容を概ね理解できている					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし						住民のひとりである自分自身の問題として主体的な意識と姿勢を持って講義に参加してほしい。NPOを受講する学生はコミュニティ・ビジネスについても履修することが望ましい。					

科目名	地域ブランド			学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナパリング	TB36050	研究室	
担当者	勝亦 達夫			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
			○								
授業概要											
今や地域ブランドは、地域の評価として「住みたい、暮らしたい」というイメージにもつながるようになりました。地域のブランドを維持、構想していくためには、自然、歴史、文化、習慣など地域にあるさまざまな「要素」の把握が重要であると同時に、それを繋げる「仕組み」である人々の活動が必要となります。本講義ではこの2つの視点から地域を読み解き、次なる地域価値の創造に必要な思想や手法を学びます。											
学修到達目標											
1. 地域活性に必要な情報を適正に収集し、分析して自分の考えを説明できるようになる。 2. 地域の特性を活かしたまちづくりや地域づくりについて情報を周囲と共有し、新たな提案ができるようになる。											
授業の進め方											
本講義では、地域事例を学びながら、グループワークやディスカッションを通じて自分の言葉で物事を説明する力を養います。その成果を確認する場として、実際の地域の方々との討論やフィールドワークを実施する予定です。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	地域ブランドとは何か	本講義における概要、学習目標、講義の進め方、評価の仕方についての説明をします。また地域ブランドとは何かについての解説も行います。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
2	地域課題の把握と町の活性化	調査によって課題を把握し地域ブランドを高める活動について解説します。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
3	地域ブランドの要素と仕組み ~町並と建築(景観)	景観形成の活動から町並が整備され、地域ブランドを高めた事例について学びます。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
4	地域ブランドの要素と仕組み ~食(特産物)	食を活かしたまちづくりによって、地域ブランドを高めた事例について学びます。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
5	地域ブランドの要素と仕組み ~暮らし(生活と祭)	暮らしの中で行われる祭りによって地域ブランドを高めた事例について学びます。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
6	地域活性事例の調査(資料分析)~歴史を知る、町を知る	自分が住んでいる町も、歴史という視点があると見え方が変わります。資料の収集・分析について学びます。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
7	地域活性事例の調査発表 ~質問・応答の練習	地域ブランドの確立には、現地の人との対話は欠かせません。質問と応答の練習を通して、ヒアリングの方法を学びます。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
8	地域のブランディングとは(ゲスト講師)	地域で活躍する専門家を招き、取り組みについての話を聞きます。インタビューの練習と実践課題の説明をします。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
9	グループワーク 地域活性の基礎的手法:体験ワークショップの方法	体験ワークショップの方法を学び、グループに分かれ実践します。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
10	グループワーク 地域活性の基礎的手法:アイデアを形にする方法	アイデアを整理して形にする方法を、グループに分かれ実践します。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
11	グループワーク 地域活性の基礎的手法:プレゼンテーション	自分のアイデアを相手に伝えるためのプレゼンテーションの基礎について学びます。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
12	グループワーク 地域活性の基礎的手法:ブレインストーミング	チームで協力してアイデアを出す方法について学びます。実際にブレインストーミングをして、課題を設定します。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
13	地域ブランドの構築に向けた提案 グループ作業、発表準備	発表に向けてグループで準備作業をします。					講義で配布したプリントを復習し課題を実施すること(4時間)				
14	地域ブランドの構築に向けた提案 発表	地域ブランド具体案に関するグループ発表グループ発表 前半					講義の前までに、発表用の資料を完成させておくこと(4時間)				
15	地域ブランドの構築に向けた提案 発表	地域ブランド具体案に関するグループ発表グループ発表 後半 授業のまとめをします。					期日までに課題レポートを提出してもらいます(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
毎回、講師からプリントまたは資料を配布します。						課題:50% 出席レポート:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。B:授業のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「小布施まちづくりの奇跡」川向正人著(新潮社) ISBN:4106103540						授業時間とは別に地域を知るためのフィールドワークや提案を発表する場(住民や企業へのプレゼンなど)を設定する予定です。そのための時間は授業とは別に設定されるので、予め想定しておいてください。					

科目名	文化産業論（観光）		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナパ'リング	TB36051	研究室	W-21
担当者	古川 智史		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
本講義では、まず、文化産業が注目されるようになった背景を概観した上で、文化産業の経済的な特徴などを整理します。次に、個別の産業を取り上げ、その成り立ちや構造、近年の動向をみていきます。そして、文化やコンテンツを活用した地域活性化の試みを紹介し、その可能性について考えます。										
学修到達目標										
文化産業の経済的な特徴について説明できる。 文化産業に含まれる個別の産業の構造、動向について理解する。										
授業の進め方										
レジュメをもとに講義を進めますが、数回グループワークを実施する予定です。受講者には、毎回コメントシートの提出を求めます。また簡単な調べ学習や小テストを予定しているので、予習・復習の上、講義に臨んでください。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	イントロダクション	本講義の概要等について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
2	文化産業の特徴（1）	文化産業の概念について整理するとともに、それを巡る議論を概観します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
3	文化産業の特徴（2）	文化産業の経済的な特性について理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
4	文化産業の特徴（3）	文化産業にかかる制度について理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
5	アニメーション産業（1）	日本のアニメーション産業の成り立ち、構造について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
6	アニメーション産業（2）	近年のアニメーション産業の動向について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
7	映画産業（1）	日本の映画産業の成り立ち、構造について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
8	映画産業（2）	近年の映画産業の動向について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
9	テレビ放送業（1）	日本のテレビ放送業の成り立ち、構造について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
10	テレビ放送業（2）	近年のテレビ放送業の動向について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
11	広告産業（1）	日本の広告産業の成り立ち、構造について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
12	広告産業（2）	近年の広告産業の動向について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
13	文化・コンテンツと地域活性化（1）	「文化」を活用した地域振興の展開について、事例をもとに理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
14	文化・コンテンツと地域活性化（2）	「コンテンツ」を活用した地域活性化の試みを紹介し、その可能性について考えます。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
15	総括	これまでの内容を振り返り、講義全体の総括をします。					配付資料および各自のノートをもとに、授業内容を復習すること（4時間）			
テキスト		成績評価の方法・基準								
毎回レジュメを配付します。		受講態度：30％ 定期試験：70％ 「受講態度」では、調べ学習などの事前学習、コメントシートの提出状況およびその内容、小テストの結果を総合的に評価します。 S：積極的な探求心、批判的な思考力を持って課題に取り組み、授業内容を高度に理解している。A：積極的な探究姿勢を持って課題に取り組み、授業内容を十分に理解している。B：与えられた課題に誠実に取り組み、授業内容のおおよそを理解している。C：与えられた課題に取り組み、授業内容の60％程度を理解している。								
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）								
講義中に紹介します。		質問には、講義終了後やオフィスアワーで対応します。								

科目名	環境政策		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	TB36052	研究室	非常勤
担当者	水橋 文雄		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-			
関連資格	中一(社会)、高一(地歴)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
				○						
<b>授業概要</b>										
地球温暖化対策の新しい国際ルール「パリ協定」が発効する中で、日本の二次エネルギー（電力）は依然として化石燃料による発電が中心で、特に最近、電力自由化の流れの中で石炭火力発電が増加しています。環境政策では、このような状況の中で、原子力発電所の再稼働、放射性廃棄物の処理、資源の枯渇、森林の破壊、食糧・人口問題等の様々な環境問題に対し、今後日本がなすべき事、我々がなすべき事を共に考える授業です。										
<b>学修到達目標</b>										
様々な環境問題がある中で、環境問題相互の関連性を考察し、その抜本的な対策を考え、実践し、その成果を検証する能力（PDCAサイクル）を身につける。										
<b>授業の進め方</b>										
パワーポイント及びDVD（BR）を利用して講義を進めます。資料は、パワーポイントの主な内容を整理して配ります。その時々講義に必要な資料（新聞切り抜き等）は、その都度配布します。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	地球の環境とは	地球誕生から現在までの、地球環境の形成経過を説明します。				現在の地球の環境を理解するために、過去から現在までの地球環境の変化を調査する。(4時間)				
2	地球の大気環境の問題について(1)	地球温暖化の状況とパリ協定による世界各国の対策について説明します。				日本の地球温暖化対策について調査する。(4時間)				
3	地球の大気環境の問題について(2)	酸性雨・オゾンホール等様々な大気環境の状況と対策について説明します。				地球温暖化問題以外の大気環境問題について日本への影響を調査する。(4時間)				
4	地球の水環境の問題について	水質汚濁・海洋汚濁・地下水汚濁等様々な水環境の状況と対策について説明します。				日本近海の海洋汚濁の実態から、原因と対策について調査する。(4時間)				
5	地球の物質環境の問題について	化石燃料・鉱物資源等の開発と、有害廃棄物の投棄等による物質環境の状況と対策について説明します。				様々な資源の開発が進む中で、資源から形を変えた有害廃棄物が投棄される現状を調査する。(4時間)				
6	日本のエネルギー問題について(1)	日本のエネルギー政策と、原子力発電所の再稼働問題について説明します。				地球温暖化問題の中で原子力発電所の再稼働の是非について考える。(レポート1の提出)(4時間)				
7	日本のエネルギー問題について(2)	日本の再生可能エネルギーの開発と問題点について説明します。				松本平の再生可能エネルギーの利用の可能性について調査する。(4時間)				
8	日本の放射性廃棄物の処理計画について	原子力発電所の解体と使用済み核燃料等の放射性廃棄物の処理の問題について説明します。				放射性廃棄物の処理施設（最終処分場等）の設置について考える。(レポート2の提出)(4時間)				
9	日本の原子力政策について	日本政府は、高速増殖炉もんじゅの廃炉を決定したが、同時に高速炉の開発の方針変更しました。この方針変更の目的と問題点について説明します。				高速増殖炉と高速炉の違いを調査する。(4時間)				
10	日本の生態系（動物）について	種の保存の為に鳥獣保護と、急増する野生動物による鳥獣被害等の実態について説明します。				鳥獣保護と鳥獣被害等のバランスについて考える。(レポート3の提出)(4時間)				
11	日本の生態系（植物）について	日本の里山の荒廃（森林破壊）と、外来動植物の繁殖・繁茂等の実態と対策について説明します。				松ガレやアレチウリ等の被害が急拡大する中で、その問題と対策について考える。(4時間)				
12	化学物質が生態系に与える問題について	身の廻りを取り巻く多くの化学物質（農薬等）が、環境ホルモン等の影響を生態系に引き起こしている実態について説明します。				環境ホルモン等が、生態系におよぼす影響について調査する。(4時間)				
13	世界の人口・食糧問題について	世界（日本を含む。）の人口問題と、食糧の生産能力と食糧の配分の問題について説明します。				世界人口の急増が、食糧生産事情に与える影響について考える。(4時間)				
14	地球環境と人について	もし今、人類が滅亡したら、滅亡後の地球環境はどのように変化するかを予測する中で、地球環境と人との関係について説明します。				もし人類が滅亡したら、地球の環境はどう変化していくのかを予測してみる。(4時間)				
15	持続可能な社会の形成について（整理）	地球にとって望ましい環境を持続するには、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を構築することが大切であり、その為に今何をすべきかを再整理します。				地球にとって望ましい環境を持続する為に、今何をすべきか、何が出来るのかを考える。(4時間)				
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>							
必要に応じてパワーポイントで作成した資料から抜粋した資料を配布します。			受講態度：30% レポート：30% 定期試験：40% 受講態度は、講義毎に提出する受講票による講義への意見の内容を評価に加味します。レポートは3回以上の提出を予定します。提出期限を厳守して下さい。S評価は、成績評価の合計が100となり、レポート提出状況及び受講態度が優秀な場合です。A評価は、成績評価の合計が80以上の場合で、レポート提出状況及び受講態度が良好な場合です。B評価は、成績評価の合計が70以上80未満の場合で、C評価は、成績評価の合計が60以上70未満の場合です。							
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>							
特にありません。			世界では、深刻な環境破壊が同時に平行して進行しています。これら環境問題への対応は急務であり、次の世代に快適な社会を引き継ぎ、しかも持続可能な社会とする為に、今しなければならぬ事を考え行動することが大切です。							

科目名	企業取引法		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KA36007 TB36053	研究室	W-33
担当者	増尾 均		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観	○							
<b>授業概要</b>										
仕事に関する法律として商法があり、特にその中でも商法総則と商行為法に重点を置いて学んでもらいます。これらは、広い商法領域の中で商売に関係した規定が多く、最も基本の部分でもあり、特にビジネス・観光・福祉・地域など、あらゆる職種に密接に関わってくるものです。将来社会人になる上で必ず修得して欲しい法律です。										
<b>学修到達目標</b>										
商法総則と商行為法には企業人のみならず福祉や地域・観光にも関わってくる規定がたくさんあります。仕事に関する法律は、社会人として社会活動をする上で必要不可欠なことです。これらの知識を修得することによって、社会に貢献できるようになることを目的としています。										
<b>授業の進め方</b>										
基本的には教科書と六法を用いて講義室で授業を進めます。しかし、本講義の内容は学生生活を送る上では身近なものとは言い難く、そのため必要に応じて新聞記事などを配り、どのような場面で利用される法律なのか理解してもらいながら進めていきます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方、商法の意義と商法総則と商行為法の位置づけを学ぶ				事前に商法の特徴を調べる。事後学修として、商法の領域を体系的にまとめる。(4時間)				
2	商人	商法の適用範囲・商人の概念・商行為概念・商人適格について学ぶ				事前学修として、商人について調べる。事後学修として、その法的規定についてまとめる。(4時間)				
3	営業の意義と態様	企業活動の中核とも言える営業に関する法律の規定				事前に、営利活動について調べる。事後学修として、授業内容を整理してまとめる。(4時間)				
4	商号	商号の意義・選定、商号の登記・譲渡、名板貸				事前学修として、商号の意義を学んでおく。事後学修として、商号の活用をまとめる。(4時間)				
5	商業使用人	商業使用人の種類と代理権との関係				事前に商業使用人について調べる。事後学修として、権限について理解する。(4時間)				
6	商業帳簿	商業帳簿の種類と意義および法的規制について				事前に商業帳簿の種類を調べる。授業後どのように規制されているかまとめる。(4時間)				
7	代理商	代理商の種類と役割				事前学修として、代理商とは何かを調べる。授業後、代理商の活用を理解する。(4時間)				
8	復習テスト	7回の授業の習熟度を理解してもらうため30分の小テストを行い、終了後詳細な解説をする。				事前に今までの復習を行う。事後学修として、理解が不十分であった所を改めて学ぶ。(4時間)				
9	商行為通則	商行為通則の全体像と位置づけ				事前学修として、商行為の内容を調べる。事後学修として、授業内容をまとめる。(4時間)				
10	商人間売買	商法の売買に関する規定の意義と民法の規定との関係				事前に商法の売買規定を調べる。事後学修として、商法と民法を比較してまとめる。(4時間)				
11	消費者保護	消費者保護法を構成する法律、およびクーリング・オフなどの重要規定				事前に消費者問題について調べる。事後学修として、特徴を法律ごとにまとめる。(4時間)				
12	仲立人	他人間の商行為の媒介することの意義と利用形態				事前に仲立人について調べる。事後学修として、利用形態をまとめる。(4時間)				
13	問屋	問屋と準問屋の意義と規定				事前学修として、利用例を調る。事後学修として、問屋の義務と権利を整理する。(4時間)				
14	その他の営業	物品運送契約・旅客運送契約・運送取扱営業・倉庫取引・場屋取引の特徴と意義				事前学修として、特徴を調べておく。事後学修として特徴と規定を関連づける。(4時間)				
15	保険	保険の意義と損害保険・生命保険の仕組み				事前に保険の種類を調べる。事後学修としてさまざまな規制を保険ごとにまとめる。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「新商法入門」國友順市・西尾幸夫ほか著國友順市・西尾幸夫編編(嵯峨野書院) ISBN:4782304455(生協で購入してください。) 「ポケット六法」井上正仁・能見善久ほか編(有斐閣) ISBN:9784641009158(生協で購入してください。)				定期試験:90% 出席レポート:10% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展の問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「商法総則・商行為法」田村諄之輔・平出慶道著(青林書院)				社会人として必要となる法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨み、今後に役立ててください。講義計画に該当する内容をテキストから探し、読んでおいてください。						

科目名	会社法		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	KA36008 TB36054	研究室	W-33
担当者	増尾 均		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-	火曜日2限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観	○							
授業概要										
会社というものは、商売をする上で取引主体となるものです。それ故に法律は様々な条文を用いて厳格に規定しています。本講義では、株式会社を中心に会社法の骨組を学んでいただきます。最初は会社の種類などの基本的な事を学んでもらい、次いで株式会社の株式や機関について、そして会社が設立されてから解散・清算に至るまでを講義します。										
学修到達目標										
本講義を受けることによって、将来自分が就職したい会社がどのように規定されているのかを理解し、地域社会の貢献および企業への貢献に寄与できるようになることを目的としている。										
授業の進め方										
本講義では教科書と六法を中心に講義室で行いますが、必要に応じて判例・新聞記事などの補助教材を随時使用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方、会社法の意義と商法上の位置づけ				事前に会社法とはどのような法律が調べる。講義後、位置づけを体系的にまとめる。(4時間)				
2	会社制度1	会社の法律上の意義として法人性・社団性・営利性				事前学修として、会社の意義について調べる。事後学修として、会社の特徴をまとめる。(4時間)				
3	会社制度2	株式会社・合名会社・合資会社・合同会社の特徴				事前学修として、会社の種類を調べる。事後学修として、違いについて比較検討する。(4時間)				
4	会社法総論	会社法の沿革と会社法総則として商号・商業使用人・営業・登記の規定				事前学修として、会社法の変遷を調べる。事後学修として、総則内の規定をまとめる。(4時間)				
5	株式会社の設立	株式会社の設立の仕方、定款の作成、設立の態様、設立についての責任				事前にどうしたら株式会社が作れるか調べる。講義後、手続きと諸規定をまとめる。(4時間)				
6	株主	株主の地位と権利、株主平等の原則				事前に株主とは何かを調べる。事後学修として、株主の諸権利についてまとめる。(4時間)				
7	株式	株式の意義、株式の種類、株式の消却・併合・分割・無償割当て				事前に株式の意義を調べる。事後学修として、個々の違いについて整理してまとめる。(4時間)				
8	復習テスト	7回の授業の習熟度を理解してもらうため30分の小テストを行い、終了後詳細な解説をする。				事前に今までの復習を再度行う。講義後、理解が不十分であった所を改めて学ぶ。(4時間)				
9	株式会社の機関1	株主総会の意義と役割				事前に株主総会の事例を調べる。講義後、株主総会の権限についてまとめる。(4時間)				
10	株式会社の機関2	取締役会・監査役・会計監査人などの機関の意義				事前に株式会社にある機関を調べる。事後学修としてそれぞれの機関の役割をまとめる。(4時間)				
11	新株の発行	新株の発行のプロセスと目的、そして法的規制				事前に、会社の資金調達方法を調べる。講義後、多様化するプロセスをまとめる。(4時間)				
12	株式会社の計算	株式会社の計算として、計算規定の目的、計算書類の内容と手続きの詳細				事前に計算書類の内容を調べる。事後学修として、プロセスと規定をまとめる。(4時間)				
13	組織の再編・変更1	組織の再編・変更である事業譲渡と合併の意義・種類・制限・手続きの概要				事前学修として、組織の再編・変更の種類を調べる。事後学修として、規定を整理する。(4時間)				
14	組織の再編・変更2	組織の再編・変更である会社分割・株式交換・組織変更の意義・種類・制限・手続きの概要				事前学修として各制度の基礎をまとめる。事後学修として、比較検討してまとめる。(4時間)				
15	解散・清算	倒産後の処理についてどのような種類があるか学ぶ				事前学修として、倒産とは何かを調べる。事後学修として、各種制度の違いをまとめる。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「会社法概論(近刊)」國友順市ほか著國友順市編編(嵯峨野書院)(生協で購入してください。) 「ポケット六法」井上正仁・能見善久ほか編(有斐閣) ISBN:9784641009158(生協で購入してください。)				定期試験:90% 出席レポート:10% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展的問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				身近で利用頻度の高い法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨んでください。講義計画に該当する内容をテキストから探し、読んでおいてください。						

科目名	労働安全衛生法（総合経営学部）		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパ`リン`	KA36009 TL36055	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格	産業カウンセラー				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
<p>本講義では、まず日本の法体系の中での労働法体系の位置づけや性格について講義し、次に労働法体系の中での労働安全衛生法の位置づけや性格、労働安全衛生法と労働基準法など関連する法律との関係について解説します。また、労働災害の事前予防としての労働安全衛生法に対して、事後救済としての労働災害補償保険法についても講義します。</p>										
学修到達目標										
<p>労働者にとって安全で健康的な職場は当然に確保するために必要な労働者の安全衛生の確保を目的としている労働安全衛生法およびその関係法令の意義・役割・機能などの知識が身につく。</p>										
授業の進め方										
<p>講義は指定したテキストを用います。法律科目なので法律用語や専門用語が頻繁に出てきますが、講義の中ではそれらの意味や定義はテキストに示されたものを用います。</p>										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション	はじめに、法学入門				教養レベルの法学復習（4時間）				
2	労働法と労働安全衛生法	労働法の構成と労働安全衛生法の位置づけ				「労働と法」で使用したテキストを読み直す（4時間）				
3	労働安全衛生法の基礎概念	事業場、業種、事業者、労働者など				テキスト第1章を読むこと（4時間）				
4	安全衛生管理体制1	総括安全衛生管理者、安全管理者、衛生管理者など				テキスト第2章を読む（4時間）				
5	安全衛生管理体制2	下請混在事業場での安全管理体制				テキスト第2章を読む（4時間）				
6	危険と健康障害の防止	労働者の危険又は健康障害を防止するための措置				テキスト第3章を読む（4時間）				
7	危険な作業を必要とする機会と有害物質の規制	機械等及び有害物に関する規制				テキスト第4章を読む（4時間）				
8	派遣労働者の安全衛生	派遣契約、派遣労働、安全衛生				テキスト第6章を読む（4時間）				
9	就業環境の整備	安全衛生教育、就業制限など				テキスト第6章を読む（4時間）				
10	健康の保持増進のための施策	健康診断の意義としくみ				テキスト第7章を読む（4時間）				
11	監督、その他	安全衛生改善計画の作成、厚生労働大臣などへの届け出				テキスト第7章を読む（4時間）				
12	労働者災害補償保険法1	労働安全衛生法との関係、制度のしくみ				指示した文献を読む（4時間）				
13	労働者災害補償保険法2	業務災害				指示した文献を読む（4時間）				
14	労働者災害補償保険法3	過労死、過労自殺				指示した文献を読む（4時間）				
15	労働者災害補償保険法4	通勤災害				指示した文献を読む（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「ここからはじまる早わかり労働安全衛生法（新版）」近藤恵子・小林浩志・中山寛之著（東洋経済新報社） ISBN:978-449227058（生協で購入してください。）</p>				<p>定期試験：80％ 小テスト：20％ S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60％程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
なし				<p>まだ働いたことのない学生にとっては縁遠い世界のお話のように思えるかもしれませんが、実はアルバイトの場合も同じです。アルバイトでも就職してから身近で大事な問題を考えるために的に受講してください。</p>						

科目名	労働と法（総合経営学部）		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパリング	KA36010 TL36056	研究室	W-24
担当者	上野 隆幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	木曜日3限		
関連資格	中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
2年次前期の人的資源管理、3・4年次前期の人的資源管理の内容を、法律との関係から学びます。講義の中では必要に応じて判例や事例にも触れていきます。										
学修到達目標										
皆さんが社会に出て働く時はもちろん、現在のアルバイト先でも活用することができる、働く上で「自分を守る」ための知識を身につけてもらい、労働者の権利を深く理解してもらうことが目標です。										
授業の進め方										
毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。また毎回の講義において前回講義の理解度を測るために小テストを実施します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	はじめに - 憲法と労働の関係 -	憲法の労働基本権や労働法のタイプを紹介します。				労働法に分類法律にはどのようなもの調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
2	雇用契約・就業規則と法	採用、労働条件、退職(解雇)など雇用契約に関する法律や就業規則について説明します。				人的資源管理 の第8章1~3を読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
3	労働時間と法	労働時間、休憩時間、残業など労働時間に関わる法律について説明します。				人的資源管理 のプリントの4章1~4、7を読んで下さい。プリントの復習して下さい。(4時間)				
4	休日・休暇と法	有給休暇など、休日・休暇に関わる法律について説明します。				人的資源管理 のプリントの4章5を読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
5	報酬と法	基本給や手当、賞与、退職金などの労働者に対する報酬に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の5章、の6章7章を読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
6	配置・異動と法	仕事の割り振りや転勤、出向、転籍など、配置と異動に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の2章を読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
7	安全衛生と法	労働者の安全や健康の維持に関わる法律について説明します。				労働者の健康が損なわれた事例について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
8	ワークライフバランスと法	育児・介護休暇など、仕事と生活の調和に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の6章を読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
9	非正規従業員と法	均等均衡待遇などの非正規従業員の雇用に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の第章を読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
10	女性の労働と法	女性に対する差別廃止や女性優遇、さらには男女の均等待遇など、女性の労働に関する法律を紹介します。				女性活躍推進法について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
11	高齢者・障害者の労働と法	継続雇用やアフターマティブアクションなど、高齢者と障害者の労働に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の8章4・5を読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
12	労使関係と法	労働組合や不当労働行為など、労使関係に関わる法律について説明します。				人的資源管理 の9章を読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
13	手当・給付金と法	労働者が手にすることができる手当・給付金と法律の関係について説明します。				労働者に対する手当・給付金を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
14	働き方改革と法	現在進められている働き方改革とこれに伴う法律の改正について説明します。				働き方改革の議論について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	これまでの講義全体を総括します。				これまでの講義での疑問点がないか確認して下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
プリントを配布します。				出席レポート：45% 小テスト：55% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「労働法入門」水町勇一郎著(岩波新書) ISBN: 9784004313298				2年次前期の人的資源管理、3年次前期の人的資源管理(観光ホスピタリティ学科の学生は人的資源管理)の発展編のため、この二つの講義を履修していないと、本講義の理解は極めて難しいものになります。						

科目名	食文化			学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	TB36057	研究室	W-12
担当者	八木 雅子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
			○								
<b>授業概要</b>											
ライフスタイルの変化によりワインを伴う食文化が広がってきました。特に長野県産ワインは最近高い評価を国内にとどまらず海外においても得ています。ワインは広大で奥深い飲み物です。嗜好品として楽しむだけでなく、ワインの歴史、製法、産地、味わい方、提供の仕方を学びます。											
<b>学修到達目標</b>											
ワインを通して幅広い食文化を身につける。ホテル、レストラン、流通業界でワインのサービ、販売で活躍できる人材となる。											
<b>授業の進め方</b>											
講義形式で行う。プリントのみならずスライド・ビデオなどの視聴覚教材を使用します。実際にワインを用いて色、香りの検証をします。											
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	ワインの歴史を学びます。					配布資料を読んでください。（4時間）				
2	ワインの特性	ワインの特性とワインの種類、酒類の分類について学びます。					配布資料を読んでください。（4時間）				
3	ワインの原料	ぶどうの栽培 ワイン用ぶどう品種 醸造方法をまなびます。					配布資料を読んでください。（4時間）				
4	ワインの醸造と長野県産ワイン	赤、白ワインの醸造、長野県及びその他国産産ワインについて学びます。					配布資料を読んでください。（4時間）				
5	長野県産ワイン	白ワインを用いて、ワインの特徴を学び、長野県産白ワインの色調と香りを検証します。					グラスを用意してください。自分の知っているワインをリストアップしましょう。（4時間）				
6	フランスのワイン	産地・格付けについて学びます。					地図でフランスをチェックしてください。次回実施の小テストの準備をする。（4時間）				
7	ラベルの読み方	フランス・ドイツ・イタリアワインのラベルの読み方を学びます。					ワインラベルに書いてあることを読んでみる。小テストの振り返りをしてください。（4時間）				
8	フランス産ワイン	フランス産白ワインを用いて、白ワインの色、香り特徴を検証します。					グラスを用意してください。ワインの特徴をメモするワインノートを用意してください。（4時間）				
9	ワインのサービス	保管方法・提供温度・グラスについて学びます。					配布資料を読んでください。（4時間）				
10	ワインのサービス技法	抜栓方法・注ぎ方を学びます。					小テストの準備をしてください。（4時間）				
11	長野県産ワイン	長野県産赤ワインの色、香り特徴を検証します。					グラスとワインノートを用意してください。（4時間）				
12	ワインと料理の組み合わせ	西洋料理（前菜、肉料理、魚料理、チーズ）とワインの相性を学びます。					食事のメニューをリストアップしてください。（4時間）				
13	ワインと料理の組み合わせ・日本種、ビール	日本料理（地元の料理）とワインの相性を学びます。					身近な料理をリストアップしてください。小テストの準備をしてください。（4時間）				
14	フランス産ワイン	フランス産赤ワインの色、香り特徴を検証します。					グラスとワインノートを用意してください。（4時間）				
15	まとめ	全体のまとめと小テストを実施します。					全体を振り返り質問事項をまとめてください。（4時間）				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
その他必要に応じプリントを配布。						小テスト：20% 定期試験：80% S: 授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。 A: 授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。 B: 授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がおおよそ解ける。 C: 授業内容の6割程度を理解している。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>					
「日本ソムリエ協会教本」（社団法人ソムリエ協会）						ワインは人や料理との出会いを素晴らしいものにしてくれます。このように素晴らしいワインに一つ近づいてほしいと考えています。ワイングラスを各自用意してください。					

科目名	食材と農業		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	TB36058	研究室	W-13
担当者	中澤 朋代		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	金曜日2限、金曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
			○							
<b>授業概要</b>										
<p>多種の農作物が得られる信州では、農業や食材はとても魅力的な地域観光資源であると同時に、私たちの体と社会にとっての健康の土台です。現在、食と農に関わる社会問題は山積みです。この講義では食と農を通じた現代社会の課題と望ましい展開について共に考えます。数々の実習をふまえて現在の農業の現状や課題、新しい取組み、食への関心と展望について思考を深めます。</p>										
<b>学修到達目標</b>										
<p>授業は4つのテーマからなっており、それぞれに自らの気づきと意見を述べた小レポートを出題します。また、食と農に関する課題を受けて、地域でどのように取り組んだらよいかアイデアを文章化できる。</p>										
<b>授業の進め方</b>										
<p>個人の体験から学ぶ体験型の講義が特色です。知識だけでなく、課題を理解し考えるために実習やディスカッションを多く取り入れます。アウトキャンパスは2コマ分を使って実施することもあり、2時限にわたることが1～2回あります。</p>										
<b>授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス「授業の目的と目標」	授業の進め方、本授業での食と農への課題提起				配布資料をもとに、食と農の課題について調べ、ノートにまとめる。（4時間）				
2	循環型農業 1「稲作の体験」アウトキャンパススタディ	稲刈り・脱穀作業の体験、および稲作文化について				アウトキャンパススタディでの気づきと感想を小レポートとしてまとめる。（4時間）				
3	循環型農業 2「昔の暮らしから気づくもの」	昭和時代の稲作を中心とした生活とは、現代に残したい事柄				稲作について歴を調べ、授業の後に考えをノートにまとめる（4時間）				
4	循環型農業 3「流通と加工と添加物」	流通により途絶えた資源循環の課題と解決策について				事前に出されるテーマについて調べ、授業の後にそれに絡めてノートにまとめる（4時間）				
5	命を食べる 1「畜産という農業」	畜産生産の現場と消費者の意識から、畜産について				資料の復習、身近な生産現場の確認（4時間）				
6	命を食べる 2「合鴨の解体」アウトキャンパススタディ	農家に向き、生育した野菜と肉の調理の全過程を実習することから、命を食べることについて実感する				体験を通じての感想をレポートにまとめる（4時間）				
7	命を食べる 3「食によってつながる命」	実習に対する気づきについて、参加者同士のディスカッションで深める				ディスカッションとそれによる気づきの内容をノートにまとめる（4時間）				
8	生産のある暮らし 1「有畜複合農業と自然栽培」	里山の資源循環と、現代における課題と取り組みについて				授業の内容を自分の考えと照らし合わせてノートにまとめる（4時間）				
9	生産のある暮らし2「土づくり」一部アウトキャンパススタディ	農業の基礎である土づくりについて、観察や作業を踏まえて五感とともに学ぶ				授業の内容を自分の考えと照らし合わせてノートにまとめる（4時間）				
10	生産のある暮らし3「食育、新たなライフスタイル」	生産を身近に置いた新しいライフスタイル、食育運動とその課題について				授業の内容を自分の考えと照らし合わせてノートにまとめる（4時間）				
11	暮らしと食文化1「伝統食」アウトキャンパススタディ	収穫した米を使った餅つき等、実習を通じて、伝統的な食や用具の使い方、意味、現代における価値について考える				授業の内容を自分の考えと照らし合わせてノートにまとめる（4時間）				
12	暮らしと食文化2「伝統食、行事食」	年末年始を例とした地域に残る伝統的な行事食や文化について				1年の行事食について調べ、授業後に関連する内容とともにのーとにまとめる（4時間）				
13	暮らしと食文化3「保存食」学内実習	生産地としての保存食の意義、種類と可能性				保存食とは何か事前に調べ、授業後に関連してノートにまとめる（4時間）				
14	暮らしと食文化3「信州の家庭料理」アウトキャンパススタディ	地元講師を招き、地元でとれた食材を使った家庭料理を学ぶ				終了後の感想をレポートにまとめる（4時間）				
15	まとめ「食と農の課題と展望」	食と農に対する消費者の関心と関わり、従事者の食育・6次産業・ツーリズムへの期待				出題されたテーマで最終レポートをまとめる（4時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
講義にて各回のテキストを配布します。				<p>受講態度：30% 出席レポート：30% 課題：40%</p> <p>受講態度とは授業への出席と体験やディスカッション等への取り組み姿勢、出席レポートとは各テーマにおける中間レポート、課題とは終了時の最終レポートを指します。A:授業の内容を自己学習を含め深く理解し、課題と複数の対応策をあげ、テーマを関連づけながら明確に述べる事ができる。B:授業の内容を理解し、課題と対応策についていくつか述べる事ができる。C:授業の7割の内容を理解し、課題と対応策について述べる事ができる。</p>						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
「食品の裏側」安部司著（東洋経済新報社）				<p>天候や農作物の生育状態、講師都合によりスケジュールが延期、または変更となることがあります。掲示板等でお知らせしますので、必ず事前に確認してください。</p>						

科目名	地域経済論（観光）			学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	TB36059	研究室	W-21
担当者	古川 智史			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
グローバル化や人口減少、少子高齢化など、地域経済を取り巻く環境は大きく変化しています。本講義では、まず地域経済を巡る現状を概観した上で、具体的な事例に基づいて地域経済の実態にアプローチします。そして、地域経済を巡る政策の展開を概観します。以上のステップを通じて、地域経済に対する理解を深めます。											
<b>学修到達目標</b>											
地域経済へのアプローチの仕方、そのための基礎的な概念を説明できる。 地域経済で起きている現象、課題を的確に捉えるとともに、より広域的な視点から位置づけることができる。											
<b>授業の進め方</b>											
レジュメをもとに講義を進めますが、数回グループワークを実施する予定です。受講者には、毎回コメントシートの提出を求めます。また簡単な調べ学習や小テストを予定しているため、予習・復習の上、講義に臨んでください。											
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	イントロダクション	地域経済の捉え方を概説するとともに、本講義の概要について説明します。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
2	地域経済へのアプローチ	松本を事例に地域経済へのアプローチ方法について考えます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
3	地域経済を巡る現状	マクロ的な視点に立って地域経済の動向を把握します。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
4	大都市経済	東京の産業構造の変化、東京一極集中などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
5	地方都市のいま	具体的な事例を取り上げながら、地方都市の産業構造の変化などについて理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
6	モノづくりと地域経済（1）	製造業の立地調整と地域経済の関係などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
7	モノづくりと地域経済（2）	グローバル化の中で産業集積地域がどのように変化してきたのか、具体的な事例をもとに理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
8	モノづくりと地域経済（3）	地場産業地域の実態について、事例を取り上げながら理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
9	商業と地域経済（1）	地域経済における商業の動向、大型小売店舗の店舗展開などを取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
10	商業と地域経済（2）	商店街の衰退問題と活性化に向けた取り組みなどについて理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
11	農業と地域経済（1）	農業のグローバル化と農産物産地の変容を取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
12	農業の地域経済（2）	農村地域がどのように変化してきたのか、また近年の新たな動きについて取り上げます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
13	観光と地域経済	観光地域を取り上げ、その形成過程と現状について理解を深めます。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
14	地域経済と政策展開	日本における地域政策の展開などを概観します。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
15	総括	これまでの内容を振り返りながら、本講義を総括します。					配付資料および各自のノートをもとに復習すること（4時間）				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
毎回、資料を配付します。						受講態度：30％ 定期試験：70％ 「受講態度」では、調べ学習などの事前学習、コメントシートの提出状況およびその内容、小テストの結果を総合的に評価します。 S：積極的な探求心、批判的な思考力を持って課題に取り組み、授業内容を高度に理解している。A：積極的な探究姿勢を持って課題に取り組み、授業内容を十分に理解している。B：与えられた課題に誠実に取り組み、授業内容のおおよそを理解している。C：与えられた課題に取り組み、授業内容の60％程度を理解している。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>					
講義中に適宜紹介します。						質問には、講義終了後やオフィスアワーで対応します。					

科目名	博物館資料論			学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ'リング	TB36060	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	学芸員					履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
○			○								
授業概要											
この講義は、博物館学芸員の資格を目指す学生諸君のみを対象として開講されています。したがって、学芸員として相応しい、具体的な知識・技術の習得こそがねらいとなります。そのため、博物館学芸員資格を得るのに必要な他の科目10単位とともにセットで履修することが求められます。この講義だけを受講することは認められません。											
学修到達目標											
教室では歴史資料の扱い方と解読方法を習得する講義を進めますが、博物館をめぐる近年の新たな動きを念頭に置いた実際の訓練も実施します。具体的には、街に点在する民俗資料や遺跡資料に関する知識を身につけることが目標です。											
授業の進め方											
より実践的な知識・技術の習得が目的ですから、基本的には毎回、課題・宿題があります。それを発表してもらう場合も、レポートとして提出してもらう場合もあります。アウトキャンパス等は、特に計画していません。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	博物館資料の種類と意義	博物館資料のうち、美術系博物館・歴史系博物館および自然史系博物館で扱われている資料について概略的に説明し、それぞれの意義を把握するようにする。					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
2	博物館資料の収集方法	博物館資料のうち、美術系博物館・歴史系博物館および自然史系博物館で扱われている資料に焦点をあて、それぞれの収集方法とその実態について解説する。					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
3	博物館資料の整理方法	博物館資料のうち、美術系博物館・歴史系博物館および自然史系博物館で扱われている資料に焦点をあて、それぞれの整理方法の可能性と特徴について解説する。					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
4	博物館資料の活用方法	博物館資料のうち、美術系博物館・歴史系博物館および自然史系博物館で扱われている資料に焦点をあて、それぞれの活用方法の可能性と特徴について解説する。					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
5	幕府・藩史料と地方史料	近世期の幕府・藩等の公文書と、各地に残る地方資料の違いとそれぞれの特性について詳述する					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
6	数字の解読	土地の面積、金銭の額等、数字に関する解読技術を習得する					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
7	物量の表記	数字の解読のうち、秤量に関わる解読技量を身につける					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
8	石高計算(田地編)	農地面積の解読と併せて、面積をもとに算出される農地毎の石高について、特に田地に絞って理解を深める					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
9	石高計算(畑地編)	農地面積の解読と併せて、面積をもとに算出される農地毎の石高について、特に畑地に絞って理解を深める					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
10	人名の解読(男性編)	男性の氏名を解読する際に必要となる知識・技術について、その基本を習得する					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
11	人名の解読(女性編)	女性の氏名を解読する際に必要となる知識・技術について、基本を習得する					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
12	地名・村名の解読	信州を対象に、各地の地名、村名等の解読について学習する					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
13	歴史遺産の活用	歴史遺産のうち、城下町松本に残る武家屋敷を取り上げ、その活用方法を検討する。					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
14	歴史遺産の特徴	歴史遺産のうち、国宝となっている松本城を題材にその特徴を把握し、保存・活用方法について学習する					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
15	総括	博物館資料全体に関し、概略的に総括する					事前、テキストの該当部分を熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「博物館資料論」木村晴壽著松本大学総合経営学部編(生協で購入してください。)						出席レポート：50% レポート：50% ただ真面目に授業に出席していれば単位が認定されるわけではありません。後に実習が控えているので、そこは厳しく判断します。S:博物館資料についての理解度が非常に高い。A:博物館資料についてかなり理解している。B:博物館資料について問題ない程度に理解している。C:博物館資料に関する授業内容を6割程度理解している。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「記録史料の保存と修復」アグネ技術センター編 特になし						学芸員として必要になる、博物館資料にかかわる最低限の技術と知識を習得するには、週1回の授業に出席するだけではなく、自分なりの努力・訓練が求められます。					

科目名	博物館情報・メディア論		学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング	TB36061	研究室	W-18
担当者	林 昌孝		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	学芸員				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
○			○							
<b>授業概要</b>										
博物館情報・メディア論は、博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報提供と活用等に関する基礎的な能力について学びます。さらに、博物館における情報化がどのように進んでいるのか、どのような方向に進もうとしているのかを学び考えます。										
<b>学修到達目標</b>										
博物館の情報化を理解して、博物館や地域の情報提供や活用ができる。										
<b>授業の進め方</b>										
講義とコンピュータ教室での実習を中心に進めます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	オリエンテーションと情報・メディアの意義について講義します。				シラバスを読んで質問等をまとめてきてください。配布します(4時間)。				
2	視聴覚メディアの理論と歴史	視聴覚メディアの理論と歴史について講義します。				テキスト(情報の意義)を読んできてください(4時間)。				
3	ICT技術	ICT技術(コンピュータの構成機器を含む)の発展について講義します。				テキスト(ICT技術の発展)を読んできてください(4時間)。				
4	ICT社会	ICT社会と博物館(コンピュータのしくみを含む)について説明します。				テキスト(ICT社会と博物館)を読んできてください(4時間)。				
5	情報教育	情報教育の意義と重要性について説明します。				テキスト(情報教育の意義と重要性)を読んできてください(4時間)。				
6	博物館の情報化	博物館の情報化と博物館活動の情報化について説明します。				テキスト(情報化の意義)を読んできてください(4時間)。				
7	デジタル化とデータベース化	資料のデジタル化とデータベース化について説明します。				テキスト(デジタル化とデータベース化)を読んできてください(4時間)。				
8	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの現状と課題について説明します。				テキスト(デジタルアーカイブの現状と課題)を読んできてください(4時間)。				
9	映像理論	映像理論と博物館メディアの役割について				テキスト(映像理論)を読んできてください(4時間)。				
10	情報管理と情報公開	情報管理と情報公開について説明します。				テキスト(情報管理と情報公開)を読んできてください(4時間)。				
11	インターネットのしくみ	情報機器・インターネットの活用(ホームページのしくみ)について説明します。				配布資料(HP作成ソフト)について調べてきてください(4時間)。				
12	インターネットの活用	情報機器・インターネットの活用(ホームページの活用)について説明します。				ホームページ作成の課題があります(4時間)。				
13	博物館と情報発信	博物館と情報発信の現状と課題について説明します。				テキスト(博物館と情報発信)を読んできてください(4時間)。				
14	情報化と知的財産	知的財産・個人情報等の権利について説明します。				テキスト(知的財産・個人情報)を読んできてください(4時間)。				
15	まとめと課題	まとめと博物館の情報提供(ホームページ活用)課題の説明				ホームページ作成の課題があります(4時間)。				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
テキスト資料・適時プリント資料を配布します。				課題:70% 出席レポート:30% S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。C:授業内容の6割程度を理解している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「新時代の博物館学」全国大学博物館学講座協議会西日本部会編編(芙蓉書房出版)ほか講義内で適時紹介します。				学芸員資格取得のための必修科目です。						

科目名	博物館経営論		学年学期	4年前期	単位数	2	ナバリング	TB46062	研究室	W-26
担当者	山根 宏文・田中 浩		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格	学芸員				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
○			○							
<b>授業概要</b>										
わが国の博物館・美術館の数は6000館を超えていると言われています。しかしながら多くの館が入館者減少に悩んでいます。それは、博物館が単なる展示と研究施設として活用されており、如何にしたら博物館を楽しく活用してもらえるかの努力を怠ってきたのが減少の要因の一つであるといっても過言ではありません。そこで、この講義では博物館の運営と経営のあり方について具体的な戦略を明確にしていきたいと思います。										
<b>学修到達目標</b>										
この講義では、今日の芸術・文化の問題点も踏まえながら博物館の歴史、地域社会と美術館のかかわり方、21世紀型博物館の展望と戦略について考察しながら、ミュージアムマネジメントの基礎能力を身につけてもらうことが目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。教室での講義のみになります。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	博物館経営の意義	ミュージアムマネジメントが求められる理由 (入館者数と経営の現状)				博物館経営について調べる 配布するプリントを熟読する (事前事後4時間)				
2	博物館経営の中身	ミュージアムマネジメントが求められる理由 (管理・運営の現状)				運営組織について具体例を調べる 配布するプリントを熟読する (事前事後4時間)				
3	博物館の行財政	博物館の資金調達と管理				行財政の基本手続きを調べる 配布する決算書を熟読する (事前事後4時間)				
4	施設・設備 組織 人材	資金をどう活かすのか				実際の施設を見ておく 配布するプリントを熟読する (事前事後4時間)				
5	広報 営業	利用者あつての博物館、ただの倉庫にならないために				ミュージアムショップを見ておく 配布するプリントを熟読する (事前事後4時間)				
6	使命と評価	博物館の使命とは、目的とは				ステークホルダー概念を調べる 課題プリントを熟読する (事前事後4時間)				
7	倫理と行動規範	欠かせない博物館としての倫理				配布プリントを読んでおく 課題プリントを熟読する (事前事後4時間)				
8	博物館・美術館事例研究	この博物館に学べ (先進的危機管理事例)				事例説明した美術館・博物館のホームページで取り組みを熟考する (事前事後4時間)				
9	博物館・美術館事例研究	この博物館に学べ (特徴ある広報の事例)				事例説明した美術館・博物館のホームページで取り組みを熟考する (事前事後4時間)				
10	博物館・美術館事例研究	この博物館に学べ (利用者への魅力あるアピール事例)				事例説明した美術館・博物館のホームページで取り組みを熟考する (事前事後4時間)				
11	地域と博物館・美術館	地域住民参加型の博物館運営とは				地域に生きる博物館・美術館のあるべき姿について考えておく (事前事後4時間)				
12	地域と博物館・美術館	「まつもと丸ごと博物館構想」とは(複数博物館の連携は成功したか)				複数博物館連携についてメリットを 考えておく (事前事後4時間)				
13	教育機関と博物館・美術館	教育機関との連携				教育機関での美術教育について自身の経験をまとめておく (事前事後4時間)				
14	地域と博物館・美術館	地域社会に貢献する博物館とは(観光資源としての博物館)				配布プリントを読んでおく (事前事後4時間)				
15	博物館経営のまとめ	まとめ				配布プリントのすべてを熟考する (事前事後4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
講義ごとに概要を説明したレジメを配ります。				出席レポート:30% 定期試験:40% レポート:30% S:授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A:授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B:授業内容をおおよそ理解し探究心、提案力がある。 C:授業内容をおおよそ理解し、探究心、提案力が60%程度である。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「超・美術館革命」 藪豊著(角川書店)				授業中に発表してもらう場合もあるので常に問題意識を持って授業に出席して欲しいです。 美術館、博物館などを見学し、様々な側面から考察してください。						

科目名	防災総論		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	TB16063	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスカー	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	防災士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2017年度～					
			○							
授業概要										
近年、全国的にいずれの地域社会でも大きな関心を集め、地域行政上の重要な政策課題となっている防災問題について、特に基礎的知識を習得することを目標としている。日本防災士機構が実施する防災士認定資格試験の受験資格を得るための必須科目である。										
学修到達目標										
防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、授業においては、毎回、かなり幅広い内容を簡潔に解説せざるを得ないので、教本の内容を各自が確実に理解することが目標となる。										
授業の進め方										
動画・画像等を用いて、判りやすく授業を進め、図上シミュレーション等の演習も取り入れる。防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、基本的に欠席は認められていないので、注意すること。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	耐震診断と補強	主に建造物に関する、耐震問題と実際の補強について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
2	災害とライフライン	災害発生時に必ず問題となるライフラインの確保について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
3	災害と交通インフラ	災害救助とも密接な関連を持つ、交通インフラ問題について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
4	都市防災	極めて複雑な構造を持つようになった都市での防災について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
5	災害医療	災害時の特殊な環境で行われる医療行為について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
6	避難所運営と仮設住宅の暮らし	災害後の復興とも関係する、避難所・仮設住宅の問題について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
7	災害とボランティア活動	近年の激甚災害における必須の要素となったボランティア活動について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
8	公的機関による予報・警報	大規模災害時に必ず取り上げられる、公的機関の動きについて詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
9	災害と流言・風評	災害時に多かれ少なかれ流れる風評等について、災害心理も含めて詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
10	災害情報の発信と入手	災害時に的確に行動する基礎となる情報について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
11	災害と応急対策	災害発生時に重要視されている、当面の応急対策のあり方について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
12	災害と損害保険	災害後の生活再検討と密接に関連する保険について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
13	災害と危機管理	災害を含めた危機管理についての考え方を詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
14	災害と企業活動	近年、災害時に企業活動が停止することによる社会的損失が大きくクローズアップされており、災害と企業との関係について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
15	企業防災と事業継続計画	近年、災害時に企業活動が停止することによる社会的損失が大きくクローズアップされており、災害と企業との関係について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された箇所の復習(2時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「防災士教本」日本防災士機構編(日本防災士機構)(別途、指示します。)				定期試験：50% レポート：50% S:授業内容を十分に理解し、防災士資格の認定試験に高成績で合格する水準にある。A:授業内容を理解し、防災士資格の認定試験の合格には問題ないと判断される水準にある。B:授業内容を概ね理解し、防災士資格の認定試験に合格可能な水準にある。C:授業内容を6割程度理解し、防災士資格の認定試験の合格に近い水準にある。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「防災ハンドブック」防災教育を考える会著防災教育を考える会編(日本標準)				この授業は日本防災士機構が実施する防災士資格認定試験の受験資格と連動しているため、やむを得ない理由で欠席した場合は、必ずレポートが課される。しかも、欠席は2回を限度とし、それ以上の欠席は単位不認定となる。						

科目名	防災各論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	TB26064	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	防災士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2017年度～					
			○							
授業概要										
近年、全国的にいずれの地域社会でも大きな関心を集め、地域行政上の重要な政策課題となっている防災問題について、各分野の視点から捉えた各論について修得することを目標としている。日本防災士機構が実施する防災士認定資格試験の受験資格を得るための必須科目である。										
学修到達目標										
防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、授業においては、毎回、かなり幅広い内容を簡潔に解説せざるを得ないので、教本の内容を各自が確実に理解することが目標となる。										
授業の進め方										
動画・画像等を用いて、判りやすく授業を進め、図上シミュレーション等の演習も取り入れる。防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、基本的に欠席は認められていないので、注意すること。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	緊急救助技術を身につける	救助技術の基礎知識を学ぶ。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
2	防災訓練	防災訓練について、テキストに沿って基礎知識を学ぶ。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
3	近年の自然災害に学ぶ	過去の自然災害のうち、特に戦後に発生した災害について基礎的に詳述する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
4	近年の自然災害に学ぶ	過去の自然災害のうち、特に戦後に発生した災害について基礎的に詳述する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
5	地震に関する知見・情報	地震全般について総論的に解説する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
6	地震のしくみ	地震が発生するメカニズムについて、近年の研究成果をもとに詳述する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
7	地震の被害	地震によって引き起こされる被害は多方面に及ぶ。その実態と対処方法について詳述する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
8	津波のしくみ	海に囲まれたわが国にとって津波は常に念頭に置かれるべき災害であり、そのメカニズムを詳述する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
9	津波の被害	ひとたび発生すれば計り知れない被害をもたらす津波の被害について、近年の研究成果を踏まえて詳述する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
10	火山噴火のしくみ	日本において頻発する可能性がある火山噴火について、一般的な知識が身につくように解説する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
11	火山噴火の被害	近年、頻発する火山噴火によって詳細が明らかになってきた噴火被害について詳述する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
12	風水害と対策	毎年、必ず被害をもたらす風水害について、その対策を中心に解説する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
13	土砂災害と対策	風水害とともに必ず被害をもたらす土砂災害は、わが国にとって極めて身近にある災害である。そのことを念頭に、対策を詳述する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
14	火災と防火対策	災害に限らず、我々の身近で常に起こっている火災について、あらゆる角度から対策を検討する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
15	火災と防火対策	災害に限らず、我々の身近で常に起こっている火災について、あらゆる角度から対策を検討する。				事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された事項を復習(2時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「防災士教本」日本防災士機構編(日本防災士機構)」「日本防災士機構編(日本防災士機構)(別途、指示します。)				定期試験：50% レポート：50% S:授業内容を十分に理解し、防災士資格の認定試験に高成績で合格する水準にある。A:授業内容を理解し、防災士資格の認定試験の合格には問題ないと判断される水準にある。B:授業内容を概ね理解し、防災士資格の認定試験に合格可能な水準にある。C:授業内容を6割程度理解し、防災士資格の認定試験の合格に近い水準にある。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「防災ハンドブック」防災教育を考える会編(日本標準)				この授業は日本防災士機構が実施する防災士資格認定試験の受験資格と連動しているため、やむを得ない理由で欠席した場合は、必ずレポートが課される。しかも、欠席は2回を限度とし、それ以上の欠席は単位不認定となる。						

科目名	地域の防災		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	TB26065	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	防災士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C	2017年度～					
			○							
授業概要										
近年、全国的にいずれの地域社会でも大きな関心を集め、地域行政上の重要な政策課題となっている防災問題について、各分野の視点から捉えた各論について修得することを目標としている。日本防災士機構が実施する防災士認定資格試験の受験資格を得るための必須科目である。										
学修到達目標										
防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、授業においては、毎回、かなり幅広い内容を簡潔に解説せざるを得ないので、教本の内容を各自が確実に理解することが目標となる。										
授業の進め方										
動画・画像等を用いて、判りやすく授業を進め、図上シミュレーション等の演習も取り入れる。防災士認定資格試験の受験資格要件との関係で、基本的に欠席は認められていないので、注意すること。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	防災士の役割	近年、注目され始めた防災士について、その基本的な活動・役割を詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
2	身近でできる防災対策	防災対策は、各自が常日頃から身近で最大限の備えをすることが基本となる。その実際について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
3	地域の自主防災活動	個々人での備えを基礎とし、防災は地域単位で考えておくことが肝要である。地域で可能な自主防災活動について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
4	避難と避難行動	個々人あるいは地域の防災を、災害発生後段階で考える場合、効率のよい避難方法に習熟している必要があり、その具体的知識が身につくよう詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
5	行政の災害対応	過度な期待はできないものの、災害発生時の行政対応は、その後の復旧・復興との関連で重要な意味を持っている。その点について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
6	地域の復旧と復興	災害後の復旧と復興をめぐる諸問題について詳述する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
7	被害想定とハザードマップ	被害想定にもとづいたハザードマップは、地域ごとに詳細に作成されることが望ましい。実際のハザードマップづくりを含め、演習形式で学ぶ。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、授業で指摘された項目を調べる(2時間)。				
8	防災訓練	実際の防災訓練に参加するための、計画確認作業。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、指摘された事項を調べる(2時間)。				
9	防災訓練	防災訓練のシミュレーション作業。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。指摘された項目を調べる(2時間)。				
10	防災訓練	防災訓練に実際に参加し、消火訓練の実習。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、訓練内容のレポート(2時間)。				
11	防災訓練	防災訓練に実際に参加し、避難誘導の実習。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、訓練内容のレポート(2時間)。				
12	緊急救助技術を身につける	救急救命講習に参加する前のガイダンスと準備作業。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。指摘された項目を調べる(2時間)。				
13	緊急救助技術を身につける	救急救命講習に参加し、即席担架の作り方実習。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、訓練内容のレポート(2時間)。				
14	救急救命技術を身につける	救急救命講習に参加し、心肺蘇生の実習。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。事後、訓練内容のレポート(2時間)。				
15	地域防災の総括	地域社会の特性や実態を踏まえた防災体制について総括する。				事前、教本の該当箇所を熟読(2時間)。指摘された項目を調べる(2時間)。				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「防災士教本」日本防災士機構編(日本防災士機構)(別途、指示します。)		定期試験：50% レポート：50% S:授業内容を十分に理解し、防災士資格の認定試験に高成績で合格する水準にある。A:授業内容を理解し、防災士資格の認定試験の合格には問題ないと判断される水準にある。B:授業内容を概ね理解し、防災士資格の認定試験に合格可能な水準にある。C:授業内容を6割程度理解し、防災士資格の認定試験の合格に近い水準にある。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「防災ハンドブック」防災教育を考える会著防災教育を考える会編(日本標準)		この授業は日本防災士機構が実施する防災士資格認定試験の受験資格と連動しているため、やむを得ない理由で欠席した場合は、必ずレポートが課される。しかも、欠席は2回を限度とし、それ以上の欠席は単位不認定となる。								

科目名	医学概論 (医学入門)		学年学期	1年前期	単位数	2	ナバ'リング	TC16066	研究室	
担当者	金子 稔		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	社会福祉士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
高齢者や障害者の支援を適切に行うためには、医学についての知識を持ち、疾病や障害について正しく理解している必要があります。本講義ではこれらの知識習得、理解を目指し、人体部位や各器官の名称・構造や機能、心身の成長・発達や老化、健康・疾病・障害の概要、精神保健、国際障害分類(ICIDH)から国際生活分類(ICF)への変遷、リハビリテーション医療の概要について学んでいきます。										
<b>学修到達目標</b>										
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害、リハビリテーションの概要や、ICFの基本的考え方と概要について学び、理解し、説明できるようになることが目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
テキストや配付資料を基に座学での講義形式で進めます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 健康の概念と医療の現状 人体各部の名称	授業概要、学習到達目標、授業の進め方、成績評価の方法、定期試験の出題形式について説明します。健康の概念と医療の現状、人体各部の名称について解説します。				テキストP2～15を事前に読む。健康の概念、医療の現状、専門用語について復習する。4時間				
2	外皮系、骨格系、筋系、神経系の機能、構造	外皮系、骨格系、筋系、神経系の名称・機能について解説します。				テキストP16～21を事前に読む。外皮系等各器官の名称、専門用語について復習する。4時間				
3	内分泌系、循環器系、免疫、呼吸器系の機能、構造	内分泌系、循環器系、免疫、呼吸器系の名称・機能について解説します。				テキストP21～33を事前に読む。内分泌系等各器官の名称、専門用語について復習する。4時間				
4	消化器系、泌尿器系、生殖器系、感覚器系の機能、構造	消化器系、泌尿器系、生殖器系、感覚器系の名称・機能について解説します。				テキストP33～43を事前に読む。消化器系等各器官の名称、専門用語について復習する。4時間				
5	正常な成長・発達と老化、および廃用症候群	成長・発達と老化や、高齢者で問題となる廃用症候群について解説します。				テキストP43～54、P112～116を事前に読む。成長・老化現象、専門用語を復習する。4時間				
6	先天性疾患、メタボリック症候群、生活習慣病	先天性疾患、メタボリック症候群、生活習慣病(高血圧、糖尿病、高脂血症、痛風)について解説します。				テキストP56～74の該当箇所を事前に読む。取り扱った疾患、専門用語について復習する。4時間				
7	生活習慣病、悪性腫瘍(がん)	生活習慣病の続き(虚血性心疾患、脳血管疾患)と、悪性腫瘍(がん)の現状、予防について解説します。				テキストP60～77の該当箇所を事前に読む。取り扱った疾患、専門用語について復習する。4時間				
8	感染症、神経疾患	感染症の種類、予防対策、神経疾患について解説します。				テキストP77～90を事前に読む。感染症、神経疾患、専門用語について復習する。4時間				
9	難病、障害に関連の深い症候群	難病、障害に関連の深い症候群について解説します。				テキストP97～110を事前に読む。難病、障害関連症候群、専門用語について復習する。4時間				
10	精神障害・精神疾患およびその種類・分類、内因性精神障害	精神障害・精神疾患の定義、診断・種類・分類、内因性精神障害について解説します。				テキストP90～97、P170～175を事前に読む。精神障害、専門用語について復習する。4時間				
11	外因性および心因性精神障害、ライフステージや職場における精神保健	外因性および心因性精神障害、ライフステージや職場における精神保健について解説します。				テキストP175～191を事前に読む。精神障害、専門用語について復習する。4時間				
12	高齢者の介護・支援における、心身のサインの注意点	加齢に伴う身体変化、高齢者に多くみられる疾患について解説します。				テキストP116～127を事前に読む。高齢者の身体変化・疾患、専門用語について復習する。4時間				
13	リハビリテーション医療の理念・対象、国際生活機能分類(ICF)	リハビリテーション医療の概要(理念、対象)および国際生活機能分類(ICF)について解説します。				テキストP130～149を事前に読む。リハビリテーション医療、専門用語について復習する。4時間				
14	チーム医療の意味と重要性	リハビリテーション医療関連職種について解説します。				テキストP149～168を事前に読む。各職種について復習する。4時間				
15	医学知識分野における学習ポイント	講義全体を通してのまとめをします。				14回までの授業で扱った問題を事前に見直す。まとめとして扱った問題を復習する。4時間				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「社会福祉士シリーズ1 人体の構造と機能及び疾病 第4版 : 医学知識 朝元美利編(弘文堂) ISBN:978-4-335-61184-1 (生協で購入してください。)				出席レポート:15% 定期試験:85% 上記割合で点数を合計し、100点はS、99～80点はA、79～70点はB、69～60点はCとします。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
辞書・事典など。図書館にあるものとしては、「最新医学大辞典」、「解剖学辞典」、「人のからだ」、「精神医学ハンドブック」、「現代精神医学事典」、「精神医学 精神疾患とその治療」など。				人体の構造や機能、病気や治療について知る機会となります。専門用語が数多く、授業を理解するためには事前事後学修が必須となります。福祉や医療に興味を持って取り組んで下さい。質問は毎回受講票で受け付けます。						

科目名	医学概論 (公衆衛生学)		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバ'リング	TC16067	研究室	
担当者	金子 稔		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	社会福祉士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
社会福祉士の相談援助活動において、医療保険制度や保健医療サービスに関する知識が必要になります。また、保健医療サービスにおける他の専門職の役割や多職種間の協働についても知っておくことが大切です。本講義ではこれらの知識習得と理解を目指し、医療保険制度・診療報酬制度・医療施設・保健医療対策の概要、医療費に関する政策動向、さまざまな専門職の役割、各専門職や地域の社会資源との連携について学んでいきます。										
<b>学修到達目標</b>										
社会福祉士として活動する上で必要となる医療保険制度や保健医療サービス、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について学び、説明できるようになることが目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
テキストや配付資料を基に座学での講義形式で進めます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 保健医療と法制度の変遷	授業概要、学修到達目標、授業の進め方、成績評価の方法、定期試験の出題形式について説明します。保健医療と法制度の歴史について解説します。				テキストP4～20を事前に読む。授業内容の保健医療・福祉制度の変遷、専門用語を復習する。4時間				
2	医療保険の意義、機能 日本の医療保険の特徴や課題	医療保険制度や高額療養費制度の概要、医療費に関する政策動向、障害者や高齢者の医療保障の課題について解説します。				テキストP22～37を事前に読む。医療保険制度と医療保障の概要、専門用語について復習する。4時間				
3	日本の診療報酬制度の成り立ちと課題	日本の診療報酬制度の概要、診療報酬単価と決定の仕組み、保険診療・自由診療と保険外併用療養費について解説します。				テキストP40～51を事前に読む。授業内容の診療報酬制度の概要、専門用語について復習する。4時間				
4	「健康日本21」	保健医療福祉政策の動向と、現在の「健康日本21」について解説します。				テキストP54～62を事前に読む。国民の健康づくり対策の概要、専門用語について復習する。4時間				
5	高齢者の保健医療対策の現状、生活習慣病や介護予防対策	高齢者の保健医療対策の現状と政策、生活習慣病の予防、介護予防対策について解説します。				テキストP63～78を事前に読む。高齢者の保健医療・介護予防対策の概要について復習する。4時間				
6	保健医療の専門・機能分化と連携	保健医療の専門分化、機能分化、地域における連携について解説します。				テキストP78～86を事前に読む。医療の専門分化、連携の概要、専門用語について復習する。4時間				
7	保健医療福祉におけるコーディネート機能	保健医療福祉におけるコーディネート機能の意味、必要性、実際、構成要素、展開過程について解説します。				テキストP90～102を事前に読む。コーディネート機能の要素、働きについて復習する。4時間				
8	医師、薬剤師等各専門職の役割と機能分担	医師、薬剤師、看護職、リハビリテーション医療関連職種との役割と業務、養成の過程、現状と課題、連携について解説します。				テキストP106～127を事前に読む。医師、薬剤師等の資格、役割と専門用語の復習をする。4時間				
9	医療ソーシャルワーカー等各専門職の役割と機能分担	臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、その他の専門職の役割と業務、現状と課題について解説します。				テキストP127～142を事前に読む。ソーシャルワーカー等の役割、専門用語を復習する。4時間				
10	チーム医療の各専門職の連携、地域の保健医療福祉連携の状況	チーム医療における各専門職の連携の実際や、地域における保健医療福祉の連携について解説します。				テキストP144～156を事前に読む。チーム医療の連携と地域展開、専門用語を復習する。4時間				
11	インフォームド・コンセントの概念、非専門職との連携	インフォームド・コンセントの概念、医師-患者関係の変化、患者・家族やボランティア等非専門職との連携について解説します。				テキストP158～174を事前に読む。患者の権利と非専門職の支援、専門用語を復習する。4時間				
12	がん医療・がん対策の動向と支援	がん医療・がん対策の動向と相談支援の必要性、緩和ケアについて解説します。				テキストP178～188を事前に読む。がん医療・がん対策と専門用語について復習する。4時間				
13	慢性疾患・難病の概要、患者と家族の状況、支援方法	慢性疾患・難病の概要、患者と家族の状況、支援方法と保健医療福祉について解説します。				テキストP190～200を事前に読む。慢性疾患、難病への対応と専門用語について復習する。4時間				
14	高齢者の主な疾患や改善・予防・支援方法	高齢者の主な疾患と保健医療福祉について解説します。				テキストP202～212を事前に読む。高齢者の疾患、老年症候群の予防について復習する。4時間				
15	保健医療サービス分野における学習ポイント	講義全体を通してのまとめをします。				14回までの授業で扱った問題を事前に見直す。まとめとして扱った問題を復習する。4時間				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「社会福祉士シリーズ17 保健医療サービス 第3版 : 保健医療制度・医療福祉」佐久間淳・幡山久美子編(弘文堂) ISBN:978-4-335-61175-9 (生協で購入してください。)				出席レポート:15% 定期試験:85% 上記割合で点数を合計し、100点はS、99～80点はA、79～70点はB、69～60点はCとします。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
辞書・事典など。図書館にあるものとしては、「社会福祉六法」、「社会保障・社会福祉大事典」、「実用介護事典」、「医療六法」、「社会福祉士・介護福祉士のための用語辞典」など。				皆さんが利用している医療の仕組みや法制度、その変遷と、社会福祉士のコーディネーターとしての役割を知る機会となります。医療や福祉の仕事に興味を持って取り組んで下さい。質問は毎回受講票で受け付けます。						

科目名	社会福祉概論			学年学期	1年前期	単位数	2	ナバリング	TC16068	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	木曜日1限		
関連資格	社会福祉士				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
社会福祉について基本的な知識を体系的に学習するとともに、社会福祉に対する視点を養うことを目的とします。本講義の到達目標は、現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。											
学修到達目標											
1. 現代社会における福祉制度と福祉政策 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学 3. 福祉制度の発達過程 4. 福祉政策におけるニーズと資源 以上の内容を理解することを目指します。											
授業の進め方											
講義では、基本的な概念や理論を踏まえることを重点に取り上げるため、教科書を用いて授業を進めます。必要に応じて具体的な実践事例を取り上げ、その意義と一緒に考える機会を作ります。また講義形態は、教室での講義を主として実施します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容				事前事後学修					
1	授業ガイダンス	ガイダンス 福祉政策の概念				事前にテキスト通読、事後に次回箇所提示します。(事前3時間事後1時間)					
2	福祉理念	福祉政策の理念				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前3時間事後1時間)					
3	福祉制度論	福祉制度と福祉政策の関係				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前3時間事後1時間)					
4	福祉政策	福祉政策と政治の関係				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前3時間事後1時間)					
5	福祉主体論	福祉政策の主体				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前3時間事後1時間)					
6	福祉対象論	福祉政策の対象				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前2時間事後2時間)					
7	福祉理論	福祉の原理をめぐる理論				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前2時間事後2時間)					
8	福祉倫理	福祉の原理をめぐる哲学と倫理				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前2時間事後2時間)					
9	福祉展開1	福祉制度の発達過程1 前近代社会と福祉				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前2時間事後2時間)					
10	福祉展開2	福祉制度の発達過程2 近代社会と福祉				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前2時間事後2時間)					
11	福祉展開3	福祉制度の発達過程3 現代社会と福祉				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前2時間事後3時間)					
12	事例分析	福祉現場の実践例の紹介				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前2時間事後3時間)					
13	福祉ニーズ	需要とニーズの概念				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前2時間事後3時間)					
14	福祉資源	資源の概念				事前にテキスト通読、事後に要点整理を求めます。(事前2時間事後3時間)					
15	まとめ	全体まとめ				事前の授業振り返り、事後に全体の要点整理を求めます。(事前2時間事後3時間)					
テキスト					成績評価の方法・基準						
「(第3版)第4巻:現在社会と福祉 社会福祉原論」社会福祉士養成講座編集委員会編(中央法規出版) ISBN:978-4-8058-3560-9(生協で購入してください。)					出席レポート:40% 定期試験:40% 課題:20% S:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが95%以上 A:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが80%以上 B:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが70%以上 C:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが60%以上 出席レポートは事前の講義に即した内容をその都度示します。また、課題は毎回小テストを実施します。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「社会福祉六法 平成30年度版」 新日本法規					社会福祉士受験資格を目指す学生は、後期に開講する社会福祉概論 とあわせて履修してください。学ぶ以上は、一コマ一コマの授業を大切に臨んでください。						

科目名	社会福祉概論			学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	TC16069	研究室	W-30
担当者	今村 篤史			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格	社会福祉士					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
社会福祉について基本的な知識を体系的に学習するとともに、社会福祉に対する視点を養うことを目的とします。本講義を通して、福祉政策の課題についての理解、福祉政策の構成要素についての理解、社会福祉制度の体系についての理解、福祉政策と関連政策(住宅政策、労働政策など)の関係についての理解、相談援助活動と福祉政策との関係について理解を深めていきます。											
学修到達目標											
1.福祉政策の課題 2.福祉政策の構成要素 3.社会福祉制度の体系 4.福祉政策と関連政策 5.相談援助活動と福祉政策の関係について学び、社会福祉の基礎的な知識について理解し、自分の言葉で適切に説明できるようになることを目指します。											
授業の進め方											
講義では、基本的な概念や理論を取り上げるため、おもに教科書を用いて授業を進めます。必要に応じて、具体的な実践事例を取り上げて、その意義を一緒に考える機会を作ります。また講義形態は、教室での講義を主として実施します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	講義ガイダンス	ガイダンス 社会福祉概論 の振り返り					事前に社会福祉概論 で学んだことを復習しておくこと(4時間~)				
2	福祉課題	福祉政策の現代的課題と社会問題					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
3	福祉政策論(1)	福祉政策におけるニーズと資源					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
4	福祉政策論(2)	社会政策と福祉政策					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
5	福祉政策論(3)	福祉政策の思想と理念					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
6	福祉政策論(4)	福祉政策の手法					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
7	福祉政策論(5)	福祉政策とソーシャルワーク					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
8	社会福祉制度(1)	社会福祉制度の構造					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
9	社会福祉制度(2)	福祉サービスの提供と供給					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
10	社会福祉制度(3)	社会福祉制度・サービスの実際					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
11	福祉関連政策	福祉政策と労働政策					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
12	福祉関連政策	福祉政策と住宅政策					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
13	福祉関連政策	福祉政策と所得保障					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
14	福祉政策の国際比較	欧米と東アジアの福祉政策					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する。(事前2時間事後2時間)				
15	まとめ	全体まとめ					事前にこれまでの授業内容を復習し、事後に論点を整理する。(事前3時間事後1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「現在社会と福祉(新・社会福祉士養成講座4)第4版」社会福祉士養成講座編集委員会編(中央法規出版) ISBN:978-4-8058-3931-7(生協で購入してください。)						出席レポート:40% 定期試験:50% 課題:10% S:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが95%以上 A:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが80%以上 B:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが70%以上 C:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが60%以上 出席レポート・課題は講義の進捗に即してその都度を指示します。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「社会福祉の動向2018」社会福祉の動向編集委員会編(中央法規出版) ISBN:978-4-8058-5616-1						社会福祉士受験資格を目指す学生は必修科目になります。社会福祉概論は福祉に関する科目の基礎科目となります。3年次以降、社会福祉士指定科目を履修する場合は事前にこの科目を修めてください。					

科目名	福祉心理支援			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバ'リング	TC26070	研究室	W-19
担当者	矢崎 久			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日4限、火曜日5限、木曜日2限、木曜日5限		
関連資格	社会福祉士					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
社会福祉士として身につけて欲しい心理学および臨床心理学の知識と支援の実際について体系的に学ぶことを目標とします。											
学修到達目標											
人の心理学的理解、成長と発達、日常生活と心の健康、心理的支援の方法と実際など、厚生労働省が示している社会福祉士としての心理学の基礎知識を有している。											
授業の進め方											
映像教材を適宜併用します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	障害の理解と心理	ガイダンス、人間の心理学的理解、心理学的研究の概要					事前：テキスト1章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
2	精神医学と臨床心理学	精神障害とは、脳と精神障害、精神障害と臨床心理学					事前：テキスト2章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
3	人格の心理学	人格とは何か、諸理論、形成と変化					事前：テキスト3章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
4	発達心理学	発達とは何か、概要、生涯発達、発達障害					事前：テキスト4章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
5	社会心理学	社会心理学、臨床社会心理学、コミュニティ心理学					事前：テキスト5章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
6	言語と思考の心理学	言語と思考の異常、言語のメカニズム・思考のメカニズム					事前：テキスト6章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
7	認知心理学	知覚と意識、記憶のメカニズム					事前：テキスト7章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
8	学習・行動心理学	古典的条件づけ、オペラント条件づけ、さまざまな学習様式					事前：テキスト8章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
9	情動と動機づけの心理学	情動と動機づけの障害、情動、動機づけ					事前：テキスト9章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
10	知能と心理検査の心理学	知能、心理検査、心理査定					事前：テキスト10章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
11	心理療法と福祉臨床	心理療法、福祉現場で用いられる種々の技法					事前：テキスト11章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
12	健康心理学	健康をおびやかす問題、困難状況への介入					事前：テキスト12章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
13	生活の場と心理援助	ソーシャルワーカーと心理学、専門職の連携、家族支援、福祉臨床					事前：テキスト13章講読(2時間) 事後：テキスト再読、ノートまとめ(2時間)				
14	福祉の心理学 理論と技法	テキスト1章～7章まとめ					事前：テキスト前半部分再読(4時間)事後：前半部分ノートまとめ(4時間)				
15	福祉の心理学 理論と技法	テキスト8章～13章まとめ					事前：テキスト後半部分再読(4時間)事後：後半部分ノートまとめ(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「心理学理論と心理的支援」岡田斉編(弘文堂) ISBN:978-4-335-61072-1 (生協で購入してください。)					小テスト：30% 定期試験：70% 小テスト(中間試験)と期末試験を総合して成績を判定します。 成績評価基準 「S」：中間試験、期末試験のすべてが95%以上 「A」： " 80%以上 「B」： " 70%以上 「C」： " 60%以上						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし					積極的な質疑を歓迎します。						

科目名	児童福祉			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバ'リング	TC26071	研究室	W-30
担当者	今村 篤史			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日4限		
関連資格	社会福祉士					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C							
授業概要											
子ども家庭福祉についての基礎となる知識を体系的に学び、子どもや家庭への支援について理解を深めます。本講義を通して、子ども家庭福祉における理念や子どもの権利について、子ども家庭福祉の歴史と現状、子ども家庭福祉における法や制度の体系、子ども家庭福祉における具体的な支援、について理解を深めていきます。											
学修到達目標											
子どもや家庭を取り巻く社会・経済的環境とそこから生じる課題を把握した上で、子ども家庭福祉における考え方や視点、支援の意義と目的、法や制度の仕組みについて理解できることを目指します。											
授業の進め方											
テキストを中心とした講義形式で進めますが、必要に応じて、具体的な事例を取り上げ、それについて考える機会も作ります。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	子ども家庭福祉の理念と歩み(1)	子ども家庭福祉の理念と概念					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
2	子ども家庭福祉の理念と歩み(2)	子どもの権利					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
3	子ども家庭福祉の理念と歩み(3)	子ども家庭福祉の発展過程					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
4	子ども家庭福祉の現在	子ども・家庭を取り巻く社会情勢とニーズ					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
5	子ども家庭福祉の仕組み(1)	子ども家庭福祉の法体系と制度					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
6	子ども家庭福祉の仕組み(2)	子ども家庭福祉の法体系と制度					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
7	子ども家庭福祉の仕組み(3)	子ども家庭福祉における組織・団体とその役割					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
8	子ども家庭福祉の現状と課題(1)	社会的養護の体系と課題					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
9	子ども家庭福祉の現状と課題(2)	子ども虐待、DVの実態と支援					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
10	子ども家庭福祉の現状と課題(3)	里親、養子縁組					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
11	子ども家庭福祉の現状と課題(4)	非行、障がいへの支援					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
12	子ども家庭福祉の現状と課題(5)	子どもの貧困、ひとり親家庭への支援					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
13	子ども家庭福祉の現状と課題(6)	母子保健と子育て支援					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
14	子ども家庭福祉の援助の実際(1)	児童相談所、児童養護施設等による支援					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
15	子ども家庭福祉の援助の実際(2)	地域における支援					事前にテキストの該当箇所を通読し、事後に論点を整理する(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
『児童家庭福祉論 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』『社会福祉学習双書』編集委員会編(社会福祉法人全国社会福祉協議会) ISBN:978-4-7935-1222-3(生協で購入してください。)						課題:30% 受講態度:10% 定期試験:60% S:授業内容を高度に理解し、課題・試験とも80%以上の得点、A:授業内容を理解し、課題・試験とも70%以上の得点、B:授業内容をほぼ理解し、課題・試験とも65%以上の得点、C:授業内容を60%程度は理解し、課題・試験とも60%以上の得点 課題については講義の進捗に応じて指示します。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
『福祉施設・学校現場が拓く児童家庭ソーシャルワーク』櫻井慶一・宮崎正宇著(北大路書房)						この科目は、社会福祉士国家試験受験資格を目指す学生は必修科目になります。					

科目名	障がい福祉		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	TC26072	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	社会福祉士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
この科目は、社会福祉士受験資格を目的とする科目の一つです。障がいのある人々の社会的背景、障がい福祉の概念、実態、理念、サービス体系などの現状を踏まえ、この科目では主に地域において展開されている障がい福祉実践をとおして、今日の日本の障がい福祉の認識と課題を学びます。最終的には、世界の動向(特にアジア圏域)を踏まえ、この分野の展望を議論する段階まで進めます。										
学修到達目標										
障がい者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要を鑑みながら、障がい福祉の原点にある思想などの影響も受けながら明確化していきますので、このような基本的な理解を到達点として目指します。										
授業の進め方										
講義では、基本的な概念や理論を踏まえた上で、具体的な実践事例を取り上げて、その意義を考えていきます。また、ワークショップなどを取り入れ主体的に考える機会を持ちます。発展的には少人数に分かれての現場の体験を行なう予定です。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	イントロダクション(分野動向、講義概要と進め方・評価方法等説明)				事前にテキスト通読し、事後に内容の整理を求めます。(事前3時間事後1時間)				
2	障がいの理解	障がいとは何かとその概念、福祉の理念				事前にテキスト通読し、事後に内容の整理を求めます。(事前3時間事後1時間)				
3	障がいの背景	それぞれの障がいとそれを取り巻く環境				事前にテキスト通読し、事後に内容の整理を求めます。(事前3時間事後1時間)				
4	障がい福祉サービス内容	それぞれの障がいの支援と課題				事前にテキスト通読し、事後に内容の整理を求めます。(事前3時間事後1時間)				
5	障がい福祉の実際	障がい当事者の話(ゲスト)				事前に主旨文配布、事後に話しのまとめを課します。(事前3時間事後2時間)				
6	障がい福祉制度	障がい者の施策(障害者ケアマネジメントの概要)				事前にテキスト通読し、事後にまとめを行う。(事前2時間事後2時間)				
7	障がい福祉制度	障がい者の施策(相談支援)				事前にテキスト通読し、事後にまとめを行う。(事前2時間事後2時間)				
8	障がい福祉制度	障がい者の施策(生活支援)				事前にテキスト通読し、事後にまとめを行う。(事前2時間事後2時間)				
9	障がいと教育医療	障がい福祉の関連分野(教育・医療)				事前にテキスト通読し、事後にまとめを行う。(事前2時間事後2時間)				
10	障がいと雇用	障がい福祉の関連分野(所得保障・雇用)				事前にテキスト通読し、事後にまとめを行う。(事前2時間事後2時間)				
11	グループワーク	グループワーク「就労支援の取り組み」ネットワークの構築				事前に主旨通知、事後に内容を整理する。(事前1時間事後3時間)				
12	事例研究	障がい福祉の相談援助の事例研究				事前に事例提示、事後に分析内容のまとめを行う。(事前1時間事後3時間)				
13	障がい福祉分野の動向	国際動向(アジア太平洋を中心として)				事前に関係資料配付通読し、事後にまとめを行う。(事前1時間事後3時間)				
14	障がい福祉分野の動向	国際動向(関連政策)				事前に関係資料配付通読し、事後にまとめを行う。(事前2時間事後3時間)				
15	まとめ	まとめ(レポート、試験確認等)				事前に聞き取り、事後に最終確認を行う。(事前3時間事後3時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「(第5版)障害者福祉の世界」佐藤久夫・小澤温著(有斐閣アルマ) ISBN:978-4-641-22069-0(生協で購入してください。)				出席レポート:20% 定期試験:50% 課題:30% S:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが95%以上 A:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが80%以上 B:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが70%以上 C:出席レポートおよび課題の提出と内容、試験のすべてが60%以上 課題は毎回小テストを実施します。出席レポートは講義内容に即したものでその都度示します。2回の講義に1回実施します。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
障害者白書 平成30年度版				社会福祉士受験資格を目指す学生は必修科目です。この科目を人権モデルとして捉え真剣に学び、ただ知識を得るだけではなく障害者思想や歴史の背景など深く考える機会にしてください。						

科目名	高齢者福祉論			学年学期	2年前期	単位数	2	ナパ'リング	TC26073	研究室	
担当者	八田 桂子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	社会福祉士					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C							
授業概要											
本講義は、高齢者福祉に関する基本的な知識と理解を得ることを目的とします。講義の前半では、日本の社会福祉の歴史的背景を理解した上で、高齢社会および高齢者福祉の変遷について学びます。後半は、現在の介護保険制度をはじめとする高齢者福祉施策と他の福祉施策、制度外のサービスなどについても学びます。さらに、高齢者やその家族に対する総合的な福祉サービス提供のあり方などを学ぶとともに、昨今重視されている認知症ケアの基本を学習します。											
学修到達目標											
高齢者福祉制度の歴史的な変遷が理解できる。 介護保険制度の概要と利用方法サービス内容が理解でき、他者に説明できる。 認知症ケアの基本的概念が理解でき、他者に説明できる。											
授業の進め方											
テキストと資料を用いて講義を行います。必要に応じビデオ教材なども使用します。毎回講義に基くアンケートを実施し、意見や質問をその都度求めます。講義期間中には、数回小レポートの提出を求めます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	高齢者福祉の歴史	明治維新以前の高齢者福祉制度および維新以降の老人福祉					テキスト第1章、1,2関連する書籍等を読んでおくこと。4時間				
2	老人福祉法制定から現代	老人福祉法制定の背景、ゴールドプラン以降の在宅福祉・地域福祉への流れを学ぶ。					テキスト第1章、3,4を読んでおくこと。4時間				
3	高齢者の心身の特性と支援	高齢者の心身の特性					テキスト第2章、1関連する書籍等を読んでおくこと。4時間				
4	高齢者の心身の特性と支援	特定疾患					テキスト第2章、2特定疾患についてを読んでおくこと。4時間				
5	少子高齢社会の現状と動向・課題	少子高齢社会の世界的動向、わが国の少子高齢社会の現状					テキスト第3章、1,2を読んでおくこと。4時間				
6	少子高齢社会の現状と動向・課題	わが国の少子高齢社会の課題、少子高齢社会の理念と課題					テキスト第3章、3を読んでおくこと。4時間				
7	高齢者の生活実態と福祉・介護ニーズ	高齢者の生活実態、要介護高齢者の現状と課題					テキスト第4章、1,2を読んでおくこと。4時間				
8	高齢者の生活実態と福祉・介護ニーズ	要介護高齢者の課題、認知症高齢者の実態とニーズ					テキスト第4章、3及び関連法規を読んでおくこと。4時間				
9	介護の概念と介護予防	介護の概念と範囲・対象 介護の理念と倫理					テキスト第5章1,2を読んでおくこと。4時間				
10	介護の概念と介護予防	介護過程の概要、技法					テキスト第5章、3,4を読んでおくこと。4時間				
11	介護の概念と介護予防	介護の技術、介護予防の必要性とリハビリテーション					テキスト第5章、5,6を読んでおくこと。4時間				
12	認知症ケアの概念	認知症とは何か 適切な認知症ケアのための基本的理解と認知症ケアの歴史					テキスト第6章、1,2を読んでおくこと。4時間				
13	認知症ケアの概念	認知症の医学的理解、心理的理解(認知症サポーター養成講) 若年性認知症のケアおよび制度					配布資料に基づき、テキスト第6章を再読しておくこと。4時間				
14	死と終末期ケア	終末期ケアの基本的考え方 終末期ケアにおける人間関係と理念					テキスト第7章、1,2を読んでおくこと。死について家族と話し合ってみる。4時間				
15	死と終末期ケア	終末期ケアをめぐる諸問題 終末期ケアの実際					テキスト第7章、3,4を読んでおくこと。4時間				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「社会福祉士シリーズ13 高齢者に対する支援と介護保険制度」矢部広明・宮島直文編(弘文堂)(生協で購入してください。)					定期試験:40% 出席レポート:30% 出席点30% 秀は欠席がなく、毎回の講義振り返りレポートが提出され、受講態度に主体性が感じられる場合。優は原則として欠席がなく、かつ振り返りレポートにも、おおむね意見等が書かれている場合。可は、欠席が1~2回程度であるとともに振り返りシートの記述がまばらな場合。不可は、それ以下の場合。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房編集部編(ミネルヴァ書房)					前期は、テキストを中心に高齢者福祉に関する基本的な内容を学びます。後期の高齢者福祉論では、前期の学びをもとに近年の高齢者福祉の現状について講義を行うので、併せての受講が望ましいです。						

科目名	高齢者福祉論			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバ`リソグ	TC26074	研究室	
担当者	八田 桂子			必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-			
関連資格	社会福祉士				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>後期は、高齢者福祉の現状を理解することを目的とします。前期の講義を踏まえ、社会福祉基礎構造改革以降の高齢者福祉の理念や、高齢者福祉サービス提供の視点の変化などについて学びます。それをもとに、介護保険を中心とするサービスの仕組みや内容について、直近の制度改正なども解説しつつ、具体的な事例を取り上げて講義します。さらに、その現状を映像等で実際に目で確かめることにより、今の高齢者福祉の実情に対する理解が、より重層的に深まるようにします。</p>											
学修到達目標											
<p>今の高齢者福祉のあり方について書かれている政府の報告書等の内容が理解できる。  今の高齢者福祉の現場で生じている問題と、それに対する課題が理解できる。  今の介護保険制度の実施状況、および認知症ケアの取組状況が理解できる。</p>											
授業の進め方											
<p>最近の政府の報告書等、主に資料を用いながら講義を行います。ビデオ教材なども使用します。毎回講義に基くアンケートを実施し、学生の皆さんの理解度の把握と質問への回答なども行います。講義期間中には、数回小レポートの提出を求めます。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	介護保険制度の仕組み	前期講義の復習を兼ね、介護保険制度創設の背景と経過、基盤システム、サービスの利用と手続き					テキスト第8章、1,2,3,4を読んでおくこと。4時間				
2	介護保険制度の仕組み	介護サービスの種類、権利擁護のしくみ、地域支援事業					テキスト第8章5,6,7を読んでおくこと。4時間				
3	介護保険制度の運営	介護保険法における組織および団体の役割と実際 国、市長村、都道府県、国民健康保険団体連合会の役割、介護保険施設、指定サービス事業者の役割					テキスト第8章、1,2,3を読んでおくこと。4時間				
4	介護保険制度の運営	介護保険法における専門職の役割と実際 介護支援専門員の役割、医療との関連、要介護認定時の専門職の連携の実際、訪問介護員、介護職員、福祉用具専門相談員、介護相談員、認知症サポーターの役割					テキスト第8章、4,5,6,7を読んでおくこと。4時間				
5	地域包括支援センターと地域	地域包括支援センターの制度と役割 地域包括支援センターの機能と組織体制					テキスト第10章、1,2,を読んでおくこと。4時間				
6	地域包括支援センターと地域	地域包括支援センターの現状 地域トータルケア					テキスト第10章、3,4を読んでおくこと。4時間				
7	老人福祉法と関連法	老人福祉法の制定 老人福祉法の概要					テキスト第11章、1,2読んでおくこと。4時間				
8	老人福祉法と関連法	老人福祉法に基づく措置制度 老人保健法と介護保険法との関係					テキスト第11章、3,4読んでおくこと。4時間				
9	高齢者虐待と虐待予防の取組み	高齢者虐待防止法制度の経過とその概要 高齢者虐待の定義と実態					テキスト第12章、1,2を読んでおくこと。4時間				
10	高齢者虐待と虐待予防の取組み	虐待予防の取組み 虐待発見時の対応					テキスト第12章、3,4を読んでおくこと。4時間				
11	高齢者に対する医療制度	高齢者医療の制度の変遷 高齢者医療の現状と課題					テキスト第13章、1,2を読んでおくこと。4時間				
12	高齢者に対する医療制度	後期高齢者医療制度とその課題					テキスト第13章、3を読んでおくこと。4時間				
13	高齢者をとりまく地域と環境	高齢者の生活実態とこれからを取り巻く社会情勢 高齢者と移動の安全(バリアフリー新法)					テキスト第14章、1,2を読んでおくこと。4時間				
14	高齢者をとりまく地域と環境	高齢者の住宅保障制度(介護のための住環境) 高齢者の就労ニーズと実態・制度					テキスト第14章、3,4を読んでおくこと。4時間				
15	評価テスト、国家試験対策	全体の復習					評価対象試験への復習。4時間				
テキスト					成績評価の方法・基準						
<p>「2015年の高齢者介護」 高齢者介護研究会報告書 2003年  「地域包括ケア研究会報告書 2010年」 地域包括ケア研究会(三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング)  「地域包括ケア研究会報告書 2016年」  どの資料もWebから入手し、印刷して初回講義に持参すること。</p>					<p>定期試験：40% 出席レポート：30%  授業への参加度30% 秀評価は、定期試験が満点で、欠席がなく出席レポートに毎回自らの意見を書くなど主体性が感じられた場合。優評価は、定期試験が35点以上で、ほぼ欠席がなく、出席レポートにもほぼ毎回自らの意見を書いていた場合。良評価は、定期試験が30点以上で、出席レポートにほぼ毎回自らの意見を書いていた場合。可はそれ以下。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
<p>「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房編(ミネルヴァ書房)  「社会的援護を要する社会福祉の在り方に関する検討会報告書」 旧厚生省  「高齢社会白書」 内閣府</p>					<p>前期の講義内容を踏まえて講義を行いますので、前期と併せての受講が望ましいです。後期は高齢者福祉の現状についてタイムリーに伝えますので、将来の進路選択にも役立ててください。</p>						

科目名	地域福祉		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	TC26075	研究室	W-20
担当者	向井 健		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	月曜日4限		
関連資格	社会福祉士、中一(社会)、高一(公民)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
				○						
授業概要										
地域福祉は、社会福祉の一分野であり、ノーマライゼーションの理念を基盤として、地域の生活支援システムの構築をめざすものです。本講義の目的は、その理論と実際を体系的に学ぶことにあり、地域福祉に関する基本的な考え方(理論)と現場における活動(実際)とが有機的に体得できるような構成とします。また現代的な課題についても受講者の関心を踏まえてとりあげていきます。また具体的な実践活動も取り上げていきます。										
学修到達目標										
1.地域福祉の理論とその実際について説明をすることができるようになること。 2.地域の中の福祉的ニーズに目を向け、これからの地域福祉のあり方について意見を述べるようになること。										
授業の進め方										
講義はテキストと毎回配布したプリントに沿って進めますが、毎回、提示した課題について自分の意見を述べるリアクションペーパーを作成してもらいます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス：なぜ学ぶ地域福祉、何を学ぶ地域福祉	本講義の概要について説明します。地域福祉とは何か。また地域福祉を学ぶことの今日的な意義とは何か、ということを考えます。				配布したプリントを復習しておくこと(4時間)				
2	社会福祉政策はどのように変化してきたのか?	社会福祉政策がどのように変化してきたのか、その歴史的な展開過程について説明をします。				配布したプリントを復習しておくこと(4時間)				
3	コミュニティの機能と福祉コミュニティ	コミュニティの機能と福祉コミュニティについて説明をします。				配布したプリントを復習しておくこと(4時間)				
4	松本市における地区福祉ひろばと公民館の連携	福祉のまちづくりの事例について、松本市の地区福祉ひろばと公民館の連携に基づく町会福祉の事例を基にしながら検討します。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
5	高齢者の買い物支援とまちづくり	高齢者の買い物支援とまちづくりに取り組む松本大学の学生による「野菜行商プロジェクト」の実践について話を伺います。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
6	若者の自立支援とコミュニティ・エンパワーメント	現在の若者が抱える「生きづらさ」はどこからくるのかをディスカッションをもとに考えます。またコミュニティを基盤とした若者自立支援の取り組みについても紹介します。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
7	「社会的引きこもり」状況にある若者の自立支援	「社会的ひきこもり」状況にある若者の自立支援のあり方について、事例をもとに考えます。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
8	生きること・学ぶこと～夜間中学校の取り組みから	様々な理由で義務教育を受けられなかった人たちが年齢や国籍の壁を越えて、互いに助け合い学んでいる夜間中学校である東京都墨田区の文化中学校の取り組みを基に生きること・学ぶこととは何かを考えます。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
9	「人間の復興」に向けて～東日本大震災を事例に	被災地の地域社会の暮らしの基盤を破壊した東日本大震災。「人間の復興」に向けて地域福祉は何ができるのかを考えます。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
10	協働の子育てと学童保育	子育て親の孤立化が問題になっている中で、地域協働による子育てが模索されてきています。そのような協働の子育ての意義について、学童保育を事例に考えます。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
11	精神障がいのある人たちの地域生活を支える	精神障がいのある人たちのおかれてきた歴史を概観するとともに、やどかりの里の事例を基にしながら、精神障がいのある人たちの地域での生活を支える地域生活支援実践のあり方について考えます。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
12	「困った子」は「困っている子」～発達障がいのある子とその支援	発達障がいのある子たちの特性を知り、その支援のあり方を考えます。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
13	多様な生と性が認められるまちづくり	セクシャルマイノリティについて学び、多様な性が尊重されるまちづくりに関して考えます。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
14	共生型サロンの取り組み空考えるまちづくり	障害の有無や年齢・性別に関わらず集うことができる多機能共生型サロンの取り組みを紹介し、支える/支えられるという関係が循環する循環型地域福祉の可能性について「富山型デイサービスを事例に考えます。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
15	地域福祉を学ぶということ	これまでの地域福祉での学びを振り返り、これからの福祉のまちづくりで求められることは何かを考えます。				リアクションペーパーを期日までに提出すること(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
講師からの必要な資料は配布をする。		課題：50% レポート：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。B：授業のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「福祉社会の開発：場の形成と支援ワーク」穂坂光彦/平野隆之/朴侖美/吉村輝彦編著者(ミネルヴァ書房) ISBN: 978-4623064380 「闘つ社会的企業」藤井敦史/原田晃樹/大高研道編著者(勁草書房)		学生の皆さんの主体的な参加を期待します。「学ぶことの楽しさ」を味わいながら一緒に学んでいけたらと思っています。								

科目名	地域福祉			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバ'リング	TC26076	研究室	W-20
担当者	向井 健			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限		
関連資格	社会福祉士					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
				○							
<b>授業概要</b>											
私たちが生活している地域では、様々な生活問題を抱えた人がいます。個々の生活(福祉)問題を住民が地域の問題として捉え、住民自らが解決していくプロセスを支援していくために必要な理論および方法について理解することを目的とします。											
<b>学修到達目標</b>											
1. 「地域福祉」について学生自身が生活者としてリアリティをもって考えられるようになる。 2. 学生自身が地域の福祉課題を考え、様々な制度や人的資源のアイデアを活かしながら解決策を提案できるようになる。											
<b>授業の進め方</b>											
毎回配布するプリントとテキストに沿って進めます。授業の内容確認の小テストも行います。地域福祉の現場に触れるフィールドワークもしくは地域福祉の現場で活躍する方たちをお招きしての特別講義も予定しています。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	何故、地域福祉を学ぶのか?	自らの地域について振り返り、その福祉的課題について振り返ります。					講義の内容を復習しておくこと(4時間)				
2	社会福祉の変容と地域福祉	「地域福祉」とは何か?どのような社会背景から地域福祉は生み出されてきたのかを学びます。					講義の内容を復習しておくこと(4時間)				
3	コミュニティと地域福祉	地域において生起するさまざまな生活問題の解決において、コミュニティ形成の重要性について学びます。「福祉コミュニティ」の目的と機能について確認をします。					「コミュニティ」の定義および「福祉コミュニティ」の意味を復習しておくこと(4時間)				
4	地域福祉の理論と発展過程	地域福祉の歴史的経緯を概観します。あわせて日本における地域福祉に関する理論に関する内容および人名を学びます。					地域福祉の各理論に関する内容および人名について復習しておくこと(4時間)				
5	地域福祉の主体と対象	地域福祉を推進する主体およびその主体形成について学びます。地域福祉の対象と活動内容を理解し、住民参加の重要性について学びます。					テキストを復習しておくこと(4時間)				
6	地域福祉の推進体制(1)社会福祉協議会の理念と課題	社会福祉協議会が如何にして生まれたのか、また市町村社協の位置づけについて学びます。					配布した資料について復習をしておくこと(4時間)				
7	地域福祉の推進体制(2)民生委員・児童委員制度の歴史と現状	民生委員制度の歴史とその現状について学びます。					配布した資料について復習をしておくこと(4時間)				
8	地域福祉における専門職の役割	地域福祉の専門職についてその役割と専門性を考えます。地域福祉の専門職の果たすべき役割について考えたいと思います。					リアクションペーパーを提出すること(4時間)				
9	ボランティア活動が生み出す新たな価値	ボランティア活動とはどのような発展を遂げてきたのか。また現在のボランティアが生み出している新たな価値とは何か。筋ジムの青年の介助に関わるボランティア活動の事例を基にしながら考えます。					事後にレポートを作成すること(4時間)				
10	ネットワークング	地域福祉を推進していくために、他職種連携が求められています。そのためのネットワークの必要性と方法について考えたいと思います。					これまでの理論や概念を復習しながら、テキストや配布資料を復習すること(4時間)				
11	地域における福祉的ニーズの把握と当事者参加	地域における福祉的ニーズの把握の方法について検討をします。また福祉的ニーズを有する当事者参加についても考えます。					配布資料を復習すること(4時間)				
12	地域福祉計画のあり方と策定方法	地域福祉計画とは何か、また地域福祉計画づくりに求められる視点について考えます。					配布資料やテキストを復習すること(4時間)				
13	地域福祉の事例検討(1)	講義受講者の関心に基づきながら、地域福祉の実践事例について調べ、事例検討を行ってまいります。					地域福祉の事例について調べていくこと(4時間)				
14	地域福祉の事例検討(2)	講義受講者の関心に基づきながら、地域福祉の実践事例について調べ、発表をします。					地域福祉の事例について調べていくこと(4時間)				
15	フィールドワーク&講義のまとめ	松本市近郊の地域福祉の実践を訪れ、地域福祉の現場に触れます。そして、これまでの講義の内容を振り返ることとします。					フィールドワークでの学びを、これまでの学びと関連付けて理解すること(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
『『地域福祉の理論と方法(第3版)』』山本美香編著 著(弘文堂) ISBN:978-4335611636(生協で購入してください。) 講義で指示します。						小テスト:15% 定期試験:70% 出席レポート:15% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。B:授業のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
『社会的排除・参加の欠如・不確かな帰属』岩田正美著(有斐閣)						地域福祉を履修した上で履修してください。地域福祉の専門的な内容についても踏み込んで学習を進めていきますので、講義への積極的な参加を求めます。また、講義で学んだことについて、その都度、復習をしてください。					

科目名	司法福祉			学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	TC36077	研究室	W-33
担当者	増尾 均			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	社会福祉士					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
現代社会では、人権上さまざまな援助を必要としている人々がたくさんいます。そのため、本講義では、人権擁護の代表格である成年後見制度を中心に人権を守る諸法律の役割と機能を修得してもらいます。また現代社会が抱えている人権問題の現状、ならびに解決方法を身近な事例をもとに講義を進めていきます。なお、本講義は、社会福祉士の受験資格取得希望者以外でも履修できます。											
学修到達目標											
本講義で扱う法律は、民法を中心に憲法・行政法など広範囲に及びます。これらの法領域で生じる問題は、学生生活あるいは社会生活を送る上で起こり易く、これらの法律の基礎知識を学び、福祉あるいは地域の分野でそれを支える人材となることを目的としています。											
授業の進め方											
テキストを中心に講義室で行いますが、必要に応じてプリントを配布したり、その時々で話題となっている事件を講義材料として扱うこともあります。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方、本講義で学ぶ法律の概要					事前に社会福祉士に関わる法律を調べる。講義後、各種法律とを整理してまとめる。(4時間)				
2	日本国憲法の概要	憲法の意義と基本的人権の概要					事前学修として、憲法の構成を調べる。事後学修として、基本的人権の種類を調べる。(4時間)				
3	行政法の概要	行政法の内容と行政行為・行政事件訴訟・行政不服申立制度・国家賠償法の概要					事前学修として、行政法の構成を調べる。事後学修として、各制度の特徴をまとめる。(4時間)				
4	民法の概要	民法の内容と総則・物権法・債権法・家族法の概要					事前学修として、民法の構成を調べる。事後学修として、各法の概要をまとめる。(4時間)				
5	成年後見制度	成年後見・保佐・補助の概要と手続きについて学ぶ					事前に、後見制度について調べる。事後学修として、各制度の関係と規定を整理する。(4時間)				
6	任意後見制度	任意後見制度の意義と手続き					事前に任意後見制度を調べる。事後学修として、法定後見の問題点と関係づけてまとめる。(4時間)				
7	日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携					事前に日常生活自立支援事業を調べる。講義後、両制度の相違点と特徴をまとめる。(4時間)				
8	復習テスト	7回の授業の習熟度を理解してもらうため30分の小テストを行い、終了後詳細な解説をする。					事前に復習を再度行う。事後学修として、理解が不十分であった所を改めて学ぶ。(4時間)				
9	権利擁護にかかわる組織・団体1	家庭裁判所の沿革・権限・組織について概要を学ぶ					事前に家庭裁判所の仕事を調べる。講義後、他の裁判所との違いに留意してまとめる。(4時間)				
10	権利擁護にかかわる組織・団体2	法務局の位置づけ・業務内容、市町村の役割					事前に法務局と市町村の役割を調べる。講義後、権利擁護の視点から再度まとめる。(4時間)				
11	権利擁護にかかわる組織・団体3	社会福祉協議会・児童相談所などの役割					事前に社会福祉協議会と児童相談所を調べる。講義後、権利擁護の視点からまとめる。(4時間)				
12	権利擁護にかかわる専門職の役割1	弁護士・司法書士の役割					事前に弁護士と司法書士について調べる。講義後、権利擁護の視点から再度まとめる。(4時間)				
13	権利擁護にかかわる専門職の役割2	公証人・医師・社会福祉士の役割					事前に公証人・医師・社会福祉士を調べる。事後学修として、これらをまとめる。(4時間)				
14	成年後見活動の実際	認知症・障がい者・消費者被害者への対応の実際					事前に対応して欲しいことをリスト化する。講義後には問題点を考察する。(4時間)				
15	権利擁護活動の実際	被虐待児・高齢者虐待など他の対応の実際					事前にどのような人に対応すべきか考える。講義後、対応の実際から問題点をまとめる。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「社会福祉士シリーズ19・権利擁護と成年後見制度」福田幸夫ほか編(弘文堂) ISBN:9784335610899(生協で購入してください。) 「ポケット六法」井上正仁・能見善久ほか編(有斐閣) ISBN:9784641009158(生協で購入してください。)					出席レポート:10% 定期試験:90% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展的問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「法律学への誘い」伊藤眞著(有斐閣)					身近で利用頻度の高い法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨み、今後の大学生活および社会生活に役立ててください。講義計画に該当する内容をテキストから探し、読んでおいてください。						

科目名	司法福祉		学年学期	3・4年後期	単位数	1	ナパ'リング	TC36078	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ	火曜日3限		
関連資格	社会福祉士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
更生保護は、犯罪者や非行少年の社会復帰を促し、社会のメンバーとして健全で安定した生活を送ることができるようサポートするためのものです。それは指導と援護を通じて、その改善更正を図り、本人やその家族にとっても、また社会のメンバー全員にとっても意義を持つ法政策であると同時に、福祉活動でもあります。この講義はそのような更生保護の制度について概説します。										
学修到達目標										
この講義では、更生保護制度の概要についての理解を習得し、それを活用するための知識も獲得することを目的とします。										
授業の進め方										
基本的には教科書を用いて授業を進めます。しかし、教科書と六法のみではなく、必要に応じて判例・新聞記事などのプリントも配布して使用します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	イントロダクション	ガイダンス、刑事法入門					配布レジュメを使用します			
2	更生保護と社会福祉	更生保護の歴史と現況					指示した文献を読む(4時間)			
3	更生保護制度の概要	更生保護制度の目的・生成・方法、仮釈放等および生活環境の調整など					指示した文献を読む(4時間)			
4	更生保護制度の概要	保護観察、更生緊急保護、恩赦					指示した文献を読む(4時間)			
5	更生保護制度の担い手	地方更生保護委員会、保護観察所、民間協力者など					指示した文献を読む(4時間)			
6	関係機関・団体との連携	裁判所、検察庁、矯正施設など					指示した文献を読む(4時間)			
7	矯正施設と処遇	矯正施設と更生保護制度の関係など					指示した文献を読む(4時間)			
8	医療観察制度	医療観察法、医療観察制度のしくみ					指示した文献を読む(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「更生保護制度」森長秀編(弘文堂) ISBN:978-4335610905(生協で購入してください。)					レポート:80% 出席レポート:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「刑事法入門第7版補訂版」大谷實著(有斐閣) ISBN:978-4641139039					福祉関連の法制度を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨んでください。少年犯罪や広く犯罪問題一般について関心を持つようにしてください。					

科目名	社会保障論			学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバ'リ'ング	TC36079	研究室	
担当者	荒川 豊			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	社会福祉士					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
現代の日本社会では高齢化、少子化、などの大きな社会問題が起きています。そうした社会状況の中で社会保障のもつ意義は増大し、国の一般歳出の多くを社会保障費が占めるようになりました。本講義では、社会保障制度の考え方や歴史等を踏まえ、各種社会保障制度の概要と現状について理解ができるように講義をします。											
学修到達目標											
この講義では、社会保障についての基本的な知識の習得を目的とするとともに、社会福祉士などの国家試験に対応した知識の習得を目的とします。よって、本講義は国家資格である社会福祉士に合格できる水準以上の知識の習得を目標とします。											
授業の進め方											
指定したテキストを用いながら、適宜、新聞や雑誌の社会保障に関連する記事も取り上げ、時にグループワークも取り入れながら、テキストの中の知識と具体的な事例を結びつけて理解できるようにします。小テストを3回実施し、学びの振り返りの作業を行います。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス。社会保障とは何を学ぶのか。そして臨床にどう活かすのか。	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方、について説明します。生活する上でのリスクを学生に列挙していただき、社会保障というシステムが存在する根拠を解説します。					テキストの「はじめに」～序章を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
2	社会保障の概念、理念、形成と展開を理解する。	社会保障の概念や対象及びその理念等について、発達過程も含めて説明します。欧米における社会保障の形成と展開と、日本における社会保障の形成と展開を比較し解説します。					テキストの第1章の該当箇所を読み、不明な点は自ら調べ予習して授業に臨む(4時間)。				
3	社会保障の方法と財源構成を理解する。	社会保険方式と社会扶助方式の仕組み、及び両者の関係を解説し、社会保障制度の体系と財源を説明します。「保険」の概念を解説します。					テキストの第2章を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
4	医療保険制度を理解する	医療保険制度の沿革と体系及び国民皆保険制度を解説するとともに、国民健康保険、健康保険の概要について説明します。					テキストの第4章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
5	医療保険制度を理解する	共済保険組合、後期高齢者医療制度の概要について説明します。グループワークを用いて、理解を深めます。					テキスト第4章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
6	保険医療制度と医療給付体制を理解する。	医療組織、診療報酬制度、医療提供施設等について説明します。第1回～5回までの授業内容について小テストを行い、答え合わせを通じて学びの振り返りをします。					テキスト第4章の該当箇所を事前に読む。第1回～5回までの復習をしてから小テストに臨む(4時間)。				
7	公的年金制度の体系と概要を理解する	年金保険の仕組み、国民皆年金などの現在の公的年金制度の体系、及び国民年金、厚生年金、旧共済年金の解説をします。					テキスト第3章を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
8	公的年金制度の体系と概要を理解する	国民年金、厚生年金、旧共済年金それぞれの老齢年金、障害年金、遺族年金について解説します。					テキスト第3章を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
9	公的年金制度をめぐる諸問題と企業年金を理解する。	確定拠出年金をはじめとする企業年金を説明します。また、消えた年金問題、主婦年金問題、空洞化など、年金制度が抱える諸問題を解説します。小テストを行い、答え合わせを通じて学びの振り返りをします。					テキスト第8章の該当箇所を事前に読む。第6回～8回までの復習をしてから小テストに臨む(4時間)。				
10	労働保険制度の概要を理解する。	雇用保険制度と労働者災害補償保険制度、それぞれの沿革、概要、諸問題を解説し、各給付内容について説明します。新聞記事から実際の事例や動向を紹介しします。					テキスト第6章を事前に読み、わからない点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
11	介護保険制度の沿革と概要を理解する。	我が国が介護保険制度の創設に至った背景、経緯を解説し、その概要(保険者・被保険者・要介護認定・サービス内容)を説明します。					テキスト第5章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
12	介護保険制度を支援者の実践を通じて、相談現場での即戦力を目指す。	我が国の介護保険制度の概要(利用者負担・保険料・財源構成等)を説明した後、介護保険制度を利用する場面のロールプレイを行います。					テキスト第5章を事前に読み、前回授業も復習し、ロールプレイが円滑にできるようにする(4時間)。				
13	社会扶助の概要を理解する。	我が国の社会扶助の種類と内容を説明し、現状と課題を整理します。また、社会保険方式と社会扶助方式の財源構成について再度整理します。					テキスト第7章を事前に読む。学生自身が生活で受給した社会扶助をご家族と話し合う(4時間)。				
14	公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。	公的保険制度では対応しきれない部分を、民間保険(生命保険・自動車保険・火災地震保険等)がどのようにカバーし、その役割を果たしているのか、活用例を基に紹介しします。小テストを行います。					テキスト第8章を事前に読む。第10回～13回の内容の復習をしてから小テストに臨む(4時間)。				
15	社会保障の総合的な活用法を理解する。全体のまとめ。	自然災害を例に、グループワークを通じて、事例ごとにどのような社会保障が活用できるのか、これまで学んだ各社会保障制度を総合的に学びます。また、ベーシック・インカム理論について説明します。					第1回～14回までのテキストや資料に目を通し、グループワークができるようにしておく(4時間)。				
テキスト		成績評価の方法・基準									
「社会保障<第5版>」阿部裕二著(弘文堂) ISBN:978-4-335-61178-0(生協で購入してください。)		受講態度:30% 小テスト:20% 定期試験:50% S:小テスト及び定期試験において高得点且つ授業内容を深く理解した上での質問等積極的な授業態度がみられる。A:小テスト及び定期試験において高得点且つ積極的な授業態度がみられる。B:小テスト及び定期試験においておおむね7割以上の正答があり、授業内容を理解し、与えられた課題に取り組みることができる。C:小テスト及び定期試験においておおむね6割以上の正答があり、授業内容をおおそ理解し、与えられた課題に取り組み姿勢がみられる。									
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)									
なし		社会福祉士、福祉教員を目指す学生の履修が望ましい科目ですが、社会保障を積極的に学びたい方の履修も可能です。社会福祉士の受験資格の取得を目指す学生は、必ず通年で社会保障論Iとを合わせて履修してください。									

科目名	社会保障論		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバ`リ`ン`グ	TC36080	研究室	
担当者	荒川 豊		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`ワ`ー			
関連資格					履修条件	次の科目を修得していること。 社会保障論				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
この科目は社会福祉士の受験資格取得を目的とする科目です。社会保障論Iの履修を前提に、社会保険を中心とした社会保障制度(医療保険制度、年金保険制度、労働保険制度、介護保険制度)と、社会手当や生活保護制度を取り上げ、社会保障制度が他の公的社会福祉サービスにどのように関連し活かされるのか整理します。また、ソーシャルワークにおける社会保障の活用方法など、具体的内容について理解を深めることを目的とします。										
<b>学修到達目標</b>										
この講義では、社会保険についての基本的な知識の習得を目的とするとともに、社会福祉士などの国家試験に対応した知識の習得を目的とします。よって、本講義は国家資格である社会福祉士に合格できる水準以上の学修を到達目標とします。										
<b>授業の進め方</b>										
社会保障の基本的な概念や理論を踏まえた上で、ソーシャルワーカーの具体的な実践例を取り上げ、時にグループワークも取り入れながら理解を深めます。また、小テストを3回実施し振り返りの作業を行います。アウトキャンパスを1回予定します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス。社会保障の振り返り。	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方、について説明します。また、事例をもとに、社会保障論 で学んだ各社会保障制度を、グループワークを用いて振り返ります。				テキスト及び社会保障論 の授業内容を事前に確認する(4時間)。				
2	社会保障の給付と負担の現状を理解する。	社会保障給付費の動向を、ここ数年の新聞記事も用いながら解説します。同時に、我が国の予算と其中で社会保障が占める割合や社会保障関係費について説明します。				テキストの第10章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
3	医療保険制度とその具体的内容	医療保険制度の基礎知識のおさらいをするとともに、任意継続と傷病手当金について詳しく解説します。				テキスト第4章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
4	医療保険制度とその具体的内容	医療保険制度の基礎知識のおさらいをするとともに、高額療養費制度と限度額適用認定証について詳しく解説します。提示した事例をグループワークを通して解き明かすことで実践力を高めます。				テキスト第4章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
5	医療保険制度とその具体的内容	医療保険制度の基礎知識のおさらいをするとともに、福祉医療給付費制度について詳しく解説します。社会保障制度の総合的な利用を、グループワークを通して答えを導き、実践力を高めます。				社会保障論 も含めて習得した社会保障制度を、総合的に利用できるよう復習しておく(4時間)。				
6	労働保険制度とその具体的内容	雇用保険制度の具体的な給付内容を解説します。新聞記事から実際の事例や動向を紹介します。第1回~5回までの授業内容について小テストを行い、答え合わせを通じて学びの振り返りをします。				テキスト第6章の該当箇所を事前に読む。第1回~5回までの復習をしてから小テストに臨む(4時間)				
7	労働保険制度とその具体的内容	労働者災害補償保険制度の具体的な給付内容を解説します。昨今急増している精神障害の請求についても、新聞記事から実際の事例や動向を紹介し、課題を整理します。				テキスト第6章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
8	介護保険制度とその具体的内容	社会保障論 で習得した知識を基に、介護保険制度を利用する場面(保険料の相談や財源について)のロールプレイを行い、理解を深めます。				テキスト第5章を事前に読み、ロールプレイに備える(4時間)。				
9	介護保険制度とその具体的内容	高額介護サービス費、特定入所者介護サービス費、高額医療・高額介護合算療養費の解説をした上で、介護保険制度を利用する場面のロールプレイを行い、理解を深めます。				テキスト第5章を事前に読み、ロールプレイに備える(4時間)。				
10	社会保障制度の国際動向の理解。	諸外国における社会保障制度の概要について解説します。小テスト を行い、答え合わせを通じて学びの振り返りをします。				テキスト第11章を事前に読む。第6回~9回までの復習をしてから小テストに臨む(4時間)。				
11	年金保険制度とその具体的内容	年金制度全般の復習と、老齢年金と遺族年金の具体的な請求方法をグループワークを用いながら整理します。				テキスト第3章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
12	年金保険制度とその具体的内容	障害年金の請求事例を紹介し、障害別の具体的な請求方法をグループごとに検討していきます。障害基礎年金、障害厚生年金、旧障害共済年金の差異に関しても整理します。				テキスト第3章の該当箇所を事前に読み、グループワークに備える(4時間)。				
13	社会保障の総合利用と権利擁護について理解する。	年金の審査請求と再審査請求の事例を紹介しながら、社会保障が果たす権利擁護と社会保障制度の組み合わせについて解説します。また、アウトキャンパスの事前準備を行います。				テキスト第9章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
14	アウトキャンパスで、机上では学べない年金制度について理解する。	アウトキャンパスとして年金事務所へ訪問します。自身の年金の納付記録の照会作業や年金手帳の再発行、学生納付特例の申請などの実際の手続きを通して(希望者のみ)、年金制度を理解します。				アウトキャンパスの準備。持ち物は講義内で説明。事後として小レポートを作成する(4時間)。				
15	アウトキャンパスの振り返りと全体的なまとめ。	小レポートを通してアウトキャンパスの振り返りをします。また、経済状況と社会保障の関係について説明します。小テスト を行います。				第10回~14回の内容に関する小テストを行うため、同期間の復習をしてからテストに臨む(4時間)。				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「社会保障<第5版>」阿部祐二編(弘文堂) ISBN:978-4-335-61178-0(生協で購入してください。)				受講態度:30% 小テスト:20% 定期試験:50% S:小テスト及び定期試験において高得点且つ授業内容を深く理解した上での質問等積極的な授業態度がみられる。A:小テスト及び定期試験において高得点且つ積極的な授業態度がみられる。B:小テスト及び定期試験においておおむね7割以上の正答があり、授業内容を理解し、与えられた課題に取り組むことができる。C:小テスト及び定期試験においておおむね6割以上の正答があり、授業内容をおおそ理解し、与えられた課題に取り組む姿勢がみられる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
なし				社会福祉士受験資格の取得を目指す学生のみ、履修することができます。また、社会福祉士の受験資格の取得を目指す学生は、必ず通年で1と をあわせて履修してください。						

科目名	ソーシャルワーク		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	TC26081	研究室	
担当者	田中 雄一郎		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	社会福祉士				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
授業概要										
本講義は、2年後期に開講する「ソーシャルワーク」と併せて、社会福祉士国家試験受験資格取得に係る指定科目「相談援助の基盤と専門職」の知識の取得が目標です。内容は、社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義の理解、相談援助の概念と範囲の理解、相談援助の理念の理解、を中心に、専門職としての基本理念の確立を目指します。										
学修到達目標										
ソーシャルワークとは何かを学び、対人援助である相談援助とはどういったものかを説明できるようになる。										
授業の進め方										
テキストを中心とした講義形式で進めます。資格・免許取得に係る指定科目であり、国家試験を視野に入れた知識レベルの獲得が求められるため、テキスト内容の理解が中心となりますが、知識を活かすためのグループワークも行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	ソーシャルワークの基本的理解					テキストを読んでおくこと(4時間)			
2	社会福祉士の役割と意義(1)	社会福祉士の役割と意義・社会福祉士及び介護福祉士法について学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
3	社会福祉士の役割と意義(2)	精神保健福祉士の役割と意義・社会福祉士との関係について学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
4	相談援助の定義と構成要素(1)	ソーシャルワークの定義について学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
5	相談援助の定義と構成要素(2)	ソーシャルワークと知識・技術について学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
6	相談援助の形成過程(1)	ソーシャルワークの歴史(欧米)について学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
7	相談援助の形成過程(2)	ソーシャルワークの歴史(日本)について学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
8	小テスト	ここまでを振り返るための小テストを行います					ここまでの範囲を復習しておくこと(4時間)			
9	相談援助の理念(1)	ソーシャルワークの価値・理念について学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
10	相談援助の理念(2)	ソーシャルワークにおける利用者本位について学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
11	相談援助の理念(3)	ソーシャルにおける自立支援について学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
12	相談援助の理念(4)	ソーシャルと社会的包摂・ノーマライゼーションについて学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
13	相談援助における権利擁護の意義(1)	権利擁護について学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
14	相談援助における権利擁護の意義(2)	権利擁護に関連する制度等について学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
15	振り返り	ここまでの学習をまとめ、ソーシャルワークとは何かを学びます					テキストを読んでおくこと(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「相談援助の基盤と専門職」成清美治・加納光子 編著(学文社) ISBN:978-4-7620-1934-0(生協で購入してください。)					定期試験:60% 小テスト:20% 課題:20% S:授業内容を高度に理解し、自身の考え・意見を交えながら、積極的に課題に取り組むことができる。A:授業内容を理解し、積極的に課題に取り組むことができる。B:授業内容をほぼ理解し、課題に対し誠実に取り組むことができる。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に取り組むことができる。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「社会福祉用語辞典」(ミネルヴァ書房)					社会福祉士国家試験受験資格取得に係る指定科目取得のためには2年後期科目「ソーシャルワーク」とあわせて履修する必要があります。グループワークを取り入れますので、積極的な参加を求めます。					

科目名	ソーシャルワーク			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	TC26082	研究室	W-30
担当者	今村 篤史			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格	社会福祉士					履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
本講義は、2年前期に開講する「ソーシャルワーク」と併せて、社会福祉士国家試験受験資格取得に係る指定科目「相談援助の基盤と専門職」の知識の取得が目標です。内容は、相談援助に係る専門職の概念と範囲、及び専門職倫理についての理解、ソーシャルワーカーの倫理、総合的包括的援助についての理解等、専門職としての価値及びジェネラリスト・ソーシャルワークの視点を学びます。											
<b>学修到達目標</b>											
ソーシャルワークと併せて学習することで、相談援助とは何かを説明し、自身の福祉観や援助観を育む。											
<b>授業の進め方</b>											
テキストを中心とした講義形式で進めます。社会福祉士国家試験受験資格取得に係る指定科目であり、国家試験を視野に入れた知識レベルの獲得が求められるため、テキスト内容の理解が中心となりますが、グループワークも取り入れます。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	相談援助に係わる専門職の概念と範囲(1)	専門職の概念と専門職としてのソーシャルワーカーについて					テキストを読んでおくこと(4時間)				
2	相談援助に係わる専門職の概念と範囲(2)	福祉行政における専門職について					テキストを読んでおくこと(4時間)				
3	相談援助に係わる専門職の概念と範囲(3)	民間の施設・組織における専門職について					テキストを読んでおくこと(4時間)				
4	専門職倫理と倫理的ジレンマ(1)	専門職倫理の概念について					テキストを読んでおくこと(4時間)				
5	専門職倫理と倫理的ジレンマ(2)	ソーシャルワーカーの倫理綱領について					テキストを読んでおくこと(4時間)				
6	専門職倫理と倫理的ジレンマ(3)	ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマについて～事例を通して～					テキスト講読と課題への取り組み(4時間)				
7	小テスト	ここまでを振り返るための小テスト					テキスト講読と課題への取り組み(4時間)				
8	総合的かつ包括的援助の概要(1)	総合的かつ包括的援助の意義について					テキストを読んでおくこと(4時間)				
9	総合的かつ包括的援助の概要(2)	地域を基盤としたソーシャルワークについて					テキストを読んでおくこと(4時間)				
10	総合的かつ包括的援助理論(1)	ジェネラリスト・ソーシャルワークについて					テキストを読んでおくこと(4時間)				
11	総合的かつ包括的援助理論(2)	総合的・包括的援助の展開について～事例を通して～					事前課題への取り組み(4時間)				
12	総合的かつ包括的援助における専門的機能(1)	教育や医療におけるソーシャルワークについて					テキストを読んでおくこと(4時間)				
13	総合的かつ包括的援助における専門的機能(2)	精神保健医療福祉・司法等の分野におけるソーシャルワークについて					テキストを読んでおくこと(4時間)				
14	総合的かつ包括的援助における専門的機能(3)	児童・家庭分野におけるソーシャルワークについて					テキストを読んでおくこと(4時間)				
15	全体のまとめ	全体の振り返り					ここまでの振り返りを行っておくこと(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
「相談援助の基盤と専門職」成清美治・加納光子 編著(学文社) ISBN:978-4-7620-1934-0(生協で購入してください。)						定期試験:60% 実技:20% 出席レポート:20% S:授業内容を高度に理解し、また、自身の考えを交えながら積極的にグループワークに取り組むことができる。A:授業内容を理解し、また、グループワークに取り組み自身の考えを育むことができる。B:授業内容をほぼ理解し、また、グループワークに対し誠実に取り組むことができる。C:授業内容の60%程度を理解し、また、グループワークに取り組むことができる。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
「改訂 社会福祉士の倫理 倫理綱領実践ガイドブック」社団法人日本社会福祉士会編(中央法規出版)						社会福祉士国家試験受験資格取得に係る指定科目取得のためには2年前期科目「ソーシャルワーク」とあわせて履修する必要があります。グループワークを取り入れますので、積極的な参加を求めます。					

科目名	社会福祉援助技術			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバ <sup>®</sup> リング	TC26083	研究室	
担当者	村岡 裕			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	社会福祉士					履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
社会福祉援助技術は、相談援助における【人と環境との相互作用】に関する理論について理解するとともに、社会福祉の方法について基本的な知識を体系的に学習することを目的とします。さらに、相談援助の実践モデルについても理解を深めます。											
<b>学修到達目標</b>											
1. 「人と環境との相互作用」の意味を学生が説明できる。 2. 社会福祉士国家試験位関連する知識を習得する。											
<b>授業の進め方</b>											
社会福祉士国家試験受験資格取得に係る指定科目であり、基本的にはテキストにより講義を進めます。加えて、この知識を実践現場や実習で活用できるようにするため、具体的な事例の紹介やDVD視聴もおこないます。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	社会福祉援助技術 を始めるにあたって					本講義の目的や概要を復習しておくこと。(4時間)				
2	相談援助とは	「相談援助」に関する全体像を理解する。					本講義で学んだ内容の要点を復習しておくこと。(4時間)				
3	相談援助とは	「相談援助」に関連する「共感的理解」について理解する。					本講義で学んだ内容の要点を復習しておくこと。(4時間)				
4	人間と環境の交互作用	人と環境との交互作用の場としての「生活」を理解する。関連する概念(交互作用、生活空間、生活時間、関係性など)の用語とその意味を理解する。					「人と環境との交互作用」の全体像を復習しておくこと。(4時間)				
5	人間と環境の交互作用	人と環境の「不適合」によってもたらされる「生活ストレス」について説明し、相談援助活動における人間生態学的視点の有効性を理解する。					「人と環境との交互作用」における「生活ストレス」について復習しておくこと。(4時間)				
6	相談援助の原則	相談援助の前提となる基本的視点を明確にする。人間尊重、人間の社会性、変化の可能性といった相談援助活動の価値前提を理解する。					「バイステックの7原則」の用語とその意味を復習しておくこと。(4時間)				
7	相談援助の対象	相談援助の対象となる人間とは、どのような人々なのかについて理解する。					事前に、相談援助の対象者がおかれている、社会的環境とは何かを考えておくこと。(4時間)				
8	相談援助の実践モデル	生活モデルの特徴を理解し、ソーシャルワークにおける意義を理解する。					確認テストの内容を復習しておくこと。(4時間)				
9	相談援助の実践モデル	ストレングスモデルの特徴を理解し、治療・医療モデル、生活モデルとの違いを理解する。					確認テストの内容を復習しておくこと。(4時間)				
10	相談援助の方法を知る	DVDを視聴することで、相談援助職の視点や方法(技術)を理解する。					事後にレポートを作成する。(4時間)				
11	相談援助のアプローチ	相談援助のアプローチとは何か、またその歴史の変遷を含めた全体像を理解する。					確認テストの内容を復習しておくこと。(4時間)				
12	相談援助のアプローチ	相談援助におけるアプローチの種類と概要や人名を理解する。					確認テストの内容を復習しておくこと。(4時間)				
13	相談援助のアプローチ	アプローチごとの援助方法の特徴や課題を理解する。					確認テストの内容を復習しておくこと。(4時間)				
14	相談援助の方法を知る	具体的事例を用いることによって、ソーシャルワーカーがどのような視点や実践モデル(アプローチ)を基盤に、相談援助を展開しているのかを理解する。					「人と環境との交互作用」、モデルやアプローチと関連づけて復習しておくこと。(4時間)				
15	講義のまとめ	これまで「社会福祉援助技術」で学んできた知識および視点について理解するとともに、個別事例を基に「人と環境との交互作用」の観点から、学生自身が解決(支援)策を考えられるようにする。					これまでの学びを復習しておくこと。(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
「相談援助の理論と方法」柳沢孝主・板野憲司著福祉臨床シリーズ編集委員会編(弘文堂) ISBN:978-4-335-61077-6 C33(生協で購入してください。)						レポート:30% 定期試験:40% 受講態度:30% 授業への参加度30% 秀評価は、定期試験が満点で、欠席がなく出席レポートに毎回自らの意見を書くなど主体性が感じられた場合。優評価は、定期試験が35点以上で、ほぼ欠席がなく、出席レポートにもほぼ毎回自らの意見を書いていた場合。良評価は、定期試験が30点以上で、出席レポートにほぼ毎回自らの意見を書いていた場合。可はそれ以下。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
「ソーシャル・ケースワーク論」大塚達雄ほか編著(ミネルヴァ書房)						社会福祉士国家資格の受験を目指す人は、3年に開講する社会福祉援助技術とを併せて履修してください。					

科目名	社会福祉援助技術		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバ`リツ`	TC26084	研究室	
担当者	丸山 文		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`			
関連資格	社会福祉士				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
社会福祉援助技術は、相談援助における人と環境と相互作用に関する論理について理解するとともに、社会福祉の方法について基礎的な知識を体系的に学習することを目的とします。さらに、相談援助の実際についても理解を深めます。										
<b>学修到達目標</b>										
社会福祉の現場で役立つ技術の基礎知識を習得すること。 ディスカッション等を通し、相談援助に役立つコミュニケーション能力や対人関係構築能力を磨くこと。										
<b>授業の進め方</b>										
テキスト、参考資料や配布資料を基に講義を進めます。グループディスカッションや現場での具体的な事例を通じて、学習内容の理解を深めます。グループワークによるプレゼンテーションもあります。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	講座の流れを説明します。				事前・シラバスの内容等わからないところがないか確認すること。 事後・自己紹介文(4時間)				
2	I. 相談援助のための面接技術	援助の実践を支えるコミュニケーション理論、ソーシャルワークにおける面接とは何か学習します。				テキスト第8章・配布資料を事前に読む。(4時間)				
3	I. 相談援助のための面接技術	面接の目的や特徴・構造・場所などに関して詳しく学習していきます。				テキスト第8章・参考書12章-1を事前に読む。自己目標の設定を課題として出します。(4時間)				
4	I. 相談援助のための面接技術	面接の位置、面接技法を紹介し、実際に体験してもらいます。				テキスト第6章-5, テキスト第8章・参考書第12章-3を事前に読む。(4時間)				
5	II. 相談援助の過程と技術	事例を通して相談援助の過程の概要を紹介します。				面接に関するプリントを課題として出します。(4時間)				
6	II. 相談援助の過程と技術	ケース発見・インテーク・アセスメントに用いる技術を事例を通して学習します。				テキスト第6章-1, 2, 3を事前に読む。エコマップの作成を課題として出します。(4時間)				
7	II. 相談援助の過程と技術	アセスメント・プランニング(目標設定)に用いる技術を事例を通して学習します。				テキスト第6章-4・参考書9章-2を事前に読む。(4時間)				
8	II. 相談援助の過程と技術	プランニング(目標設定・留意点)・契約に用いる技術を事例を通して学習します。				参考書第8章-2から6を事前に読む。(4時間)				
9	II. 相談援助の過程と技術	インターベンション・モニタリングに用いる技術を事例を通して学習します。				テキスト第6章-5, 6を事前に読む。(4時間)				
10	II. 相談援助の過程と技術	モニタリング・エヴァリュエーション終結に用いる技術を事例を通して学習します。				参考書第11章3を事前に読む。(4時間)				
11	II. 相談援助の過程と技術	ターミネーション・アフターケア・アウトリーチに関する技術を事例を通して学習します。				テキスト第6章7, 8・参考書第7章-1を事前に読む。(4時間)				
12	III. 福祉の現場	ゲストスピーカーから、実際の活動のお話を聞きます。				授業後に感想を1ページ書くこと。(4時間)				
13	III. 援助関係	援助関係に関して事例を通して学習します。 グループレポートを提出してください。				テキスト第7章・最終章を事前に読む。(4時間)				
14	III. 相談援助の実際	実際の現場で、学習してきた技術がどのように活かされているか学習します。 グループレポートの発表をします。				自己目標の振り返りを課題として出します。(4時間)				
15	全体まとめ	テストに向けて、復習をします。 グループレポートの発表をします。				講座全体の復習をし、わからないところがないか確認すること。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「社会福祉士シリーズ7 相談援助の理論と方法I」(弘文堂) ISBN: 978-4-335-61077-6 (生協で購入してください。)				レポート: 40% 定期試験: 40% 受講態度: 15% 課題: 5% 授業態度に関しては授業中のディスカッション等への貢献度合いなどで判断します。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法I」(中央法規) ISBN: 978-4-8058-3254-7				グループワークとしてレポートを提出してもらいます。10月後半に課題の詳細な内容を決めず。提出期限は、第13回目の授業とします。レポート内容の簡単な発表をしてもらいます。						

科目名	社会福祉援助技術		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	TC36085	研究室	
担当者	田中 雄一郎		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ-			
関連資格	社会福祉士				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
社会福祉援助技術 . を踏まえ、ここでは相談援助における技術や方法について具体的に学びます。権利擁護活動を含め相談援助の実際を広く事例を通して理解します。										
学修到達目標										
相談援助に携わるために必要な知識・技術を学び、自身の「援助観」を持つことができる。										
授業の進め方										
講義では、教科書を用いて授業を進めますが、より具体的な実践事例を取り上げて、その意義と一緒に考える機会を多く作ります。1回程度のアウトキャンパスを実施します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	相談援助の援助関係とは				テキストを見直すこと(4時間)				
2	面接技術	面接に関する技術について学びます				自分の話し方のくせ等を確認しておくこと(4時間)				
3	相談援助におけるマネジメント	ケアマネジメント等について学びます				事前課題を行うこと(4時間)				
4	ケース(ケア)マネジメントの事例	事例を通してマネジメントを学びます				事前課題を行うこと(4時間)				
5	アウトリーチ	アウトリーチの意義				テキストを読んでおくこと(4時間)				
6	社会資源の活用	社会資源とは何か、を学びます				事前課題を行うこと(4時間)				
7	社会資源の開発	新たな資源を開発するには、何を行うかを学びます				事前課題を行うこと(4時間)				
8	ネットワーキング(1)	ネットワーキングの意味を学びます				事前課題を行うこと(4時間)				
9	ネットワーキング(2)	ネットワーキングの実際を事例を通して学びます				事前課題を行うこと(4時間)				
10	グループワーク(1)	グループワークの原則を学びます				テキストを読んでおくこと(4時間)				
11	グループワーク(2)	グループワークの方法(実際)を学びます				テキストを読んでおくこと(4時間)				
12	スーパービジョン	スーパービジョンの意義を学びます				テキストを読んでおくこと(4時間)				
13	記録(1)	記録の意義を学びます				テキストを読んでおくこと(4時間)				
14	記録(2)	記録の実際(技術)を学びます				事前課題を行うこと(4時間)				
15	まとめ	全体まとめを行います				全体の振り返りを行っておくこと(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「社会福祉士シリーズ8 相談援助の理論と方法」(弘文堂) ISBN:978-4-335-61078-3(生協で購入してください。)				定期試験:40% 課題:30% 実技:30% S:授業内容を高度に理解し、自身の考え・意見を交えながら、積極的に課題に取り組むことができる。A:授業内容を理解し、積極的に課題に取り組むことができる。B:授業内容をほぼ理解し、課題に対し誠実に取り組むことができる。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に取り組むことができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「社会福祉六法 平成27年度版」(新日本法規)				社会福祉士受験資格を目指す学生は、2年の社会福祉援助技術 . の取得後に履修すること。重要な社会福祉の専門科目であるので、必ず予習して受講してください。						

科目名	社会福祉援助技術		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパ'リ'ング	TC36086	研究室
担当者	田中 雄一郎		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ-		
関連資格	社会福祉士				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】			
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
			A	B	C				
<b>授業概要</b>									
社会福祉援助技術 . を踏まえ、ここでは相談援助における事例分析の意義や方法について具体的に学びます。権利擁護活動を含め相談援助の実際を広く事例を通して理解します。									
<b>学修到達目標</b>									
実際の事例を通して、相談援助に必要なアセスメントや自己覚知を行う力やポイントを学び、「相談援助とは」を説明できるようになる。									
<b>授業の進め方</b>									
講義では、教科書を用いつつ、グループワークを中心にを行います。具体的な実践事例を取り上げて、その意義を考える機会を多く作ります。また、福祉現場で働く方の話を聴く等、実践現場を意識した内容で進めます。									
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	相談援助とは何かを学びます				テキストを読んでおくこと(4時間)			
2	相談援助における個人情報の保護	相談援助における個人情報の保護について学びます				テキストを読んでおくこと(4時間)			
3	ケースマネジメントとケアマネジメント	ケースマネジメントとケアマネジメントとは何か、について学びます				テキストを読んでおくこと(4時間)			
4	社会資源の活用	援助現場を学ぶための事前学習を行います				事前課題を行うこと(4時間)			
5	フィールドワーク	援助現場の見学をします				事前課題を行うこと(4時間)			
6	フィールドワークまとめ	フィールドワークをまとめます				フィールドワークで課される課題を完成しておくこと(4時間)			
7	アウトリーチサービス	アウトリーチサービスについて学びます				テキストを読んでおくこと(4時間)			
8	社会資源の活用	社会資源について学びます				事前課題を行うこと(4時間)			
9	事例検討の必要性	事例検討とはどういうものか、を学びます				テキストを読んでおくこと(4時間)			
10	事例検討1	権利擁護に関する事例検討を行います				事前課題を行うこと(4時間)			
11	事例検討2	事例検討を行います				事前課題を行うこと(4時間)			
12	事例検討3	事例検討を行います				事前課題を行うこと(4時間)			
13	事例検討まとめ1	これまで行ってきた事例検討をまとめます				事前課題を行うこと(4時間)			
14	事例検討まとめ2	まとめた事例を発表し、全体で共有化します				事前課題を行うこと(4時間)			
15	全体まとめ	これまでを振り返り、相談援助に必要な視点や知識を確認します				これまでの振り返りを行っておくこと(4時間)			
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>				
「社会福祉士シリーズ8 相談援助の理論と方法」(弘文堂) ISBN:978-4-335-61078-3 (生協で購入してください。)					定期試験:40% 課題:30% 実技:30% S:授業内容を高度に理解し、自身の考え・意見を交えながら、積極的に課題に取り組むことができる。A:授業内容を理解し、積極的に課題に取り組むことができる。B:授業内容をほぼ理解し、課題に対し誠実に取り組むことができる。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に取り組むことができる。				
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>				
「社会福祉六法 平成28年度版」(新日本法規)					社会福祉士受験資格を目指す学生は、2年の社会福祉援助技術 . の取得後に履修すること。重要な社会福祉の専門科目であるので、必ず予習して受講してください。事例分析などは積極的に取組んでください。				

科目名	社会福祉調査			学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	TC36087	研究室	W-29
担当者	畑井 治文			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格	社会福祉士					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
本講義の目的は、福祉施策や福祉サービスを実践するための理論的な裏づけとなるデータ(例えば潜在的な問題やニーズ、施策やサービスがもたらす効果など)の収集・分析方法を学ぶことです。講義の中では、社会福祉調査の仕組み、統計調査などの量的調査、事例調査などの質的調査の実施方法について解説していきます。											
<b>学修到達目標</b>											
社会福祉調査(量的調査及び質的調査)の設計、企画、調査票作成、実査、分析といった一連の過程について学び、それらを説明できるようになること、社会福祉士国家試験に必要な知識を習得することが目標です。											
<b>授業の進め方</b>											
教室での講義を主としますが、授業内容に応じて一部演習の要素も取り入れていきます。実際の調査に用いられた資料、社会福祉士国家試験問題(過去問)なども活用して進めていきます。授業内で実施した小テストなどについては、随時、返却・解説する予定です。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	社会福祉調査が求められる背景や意義などについて解説します。					今回の内容を復習すると同時に、テキスト第1章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
2	社会福祉調査の概要	社会福祉調査における対象と方法について解説します。					今回の内容を復習すると同時に、テキスト第1章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
3	社会福祉調査の倫理	社会福祉調査における倫理の必要性、個人情報保護に関する経緯とその必要性について解説します。					今回の内容を復習すると同時に、テキスト第2章、第4章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
4	社会福祉調査における量的調査	量的調査の概要について解説するとともに、量的調査の長所(得意な部分)及び短所(不得意な部分)を紹介しします。					今回の内容を復習すると同時に、テキスト第2章、第4章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
5	社会福祉調査における量的調査	量的調査における全数調査と標本調査の概要とその相違点について解説しします。					今回の内容を復習すると同時に、テキスト第2章、第4章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
6	社会福祉調査における量的調査	横断調査と縦断調査の概要とその相違点について解説しします。					今回の内容を復習すると同時に、テキスト第2章、第4章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
7	社会福祉調査における量的調査	量的調査を行うための質問項目の信頼性と妥当性、尺度水準の設定方法について解説しします。					今回の内容を復習すると同時に、テキスト第2章、第4章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
8	社会福祉調査における量的調査	調査票(質問紙)の作成における留意点について解説しします。また集計と分析手法については、記述統計・基本統計量の求め方から多変量解析まで幅広く紹介していきます。					今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
9	中間のまとめ	実際の社会福祉調査で用いられた資料を用いながら、量的調査への理解を深めていきます。また授業への理解度を高めるために小テストを実施しします。					小テストを復習すると同時に、テキスト第3章、第5章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
10	社会福祉調査における質的調査	質的調査の概要について解説するとともに、質的調査の長所(得意な部分)及び短所(不得意な部分)を紹介しします。					今回の内容を復習すると同時に、テキスト第3章、第5章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
11	社会福祉調査における質的調査	質的調査における面接・観察・インタビュー技法の概要とその方法について解説しします。					今回の内容を復習すると同時に、テキスト第3章、第5章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
12	社会福祉調査における質的調査	質的調査における分析技法であるグラウンデッド・セオリー・アプローチ法(GTA法)およびKJ法の概要とその分析手法について解説しします。					今回の内容を復習すると同時に、テキスト第3章、第5章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
13	社会福祉調査における質的調査	実際の社会福祉調査で用いられた資料を用いながら、質的調査への理解を深めていきます。					今回の内容を復習すると同時に、テキスト第6章の内容を確認してきて下さい。(4時間)				
14	社会福祉調査とICT	社会福祉調査へのICT活用の方法と留意点について解説しします。					今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	定期試験対策プリントを用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解度を高めるために小テストを実施しします。					小テストを復習すると同時に、定期試験に備えて下さい。(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
「社会調査の基礎 第3版(社会福祉士シリーズ5)」(弘文堂) ISBN:978-4335611735(生協で購入してください。)						出席レポート:20% 小テスト:30% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解して発展問題・課題が解ける。A:授業内容を理解して応用問題・課題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解して応用問題・課題がほぼ解ける。C:授業内容の6割程度を理解している。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
実際の社会福祉調査において使用された資料、社会福祉士国家試験問題(過去問)なども活用しします。						この科目は、社会福祉士受験資格取得を目指す学生は必ず履修してください。					

科目名	社会福祉行政		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	TC36088	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスカー	木曜日1限		
関連資格	社会福祉士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
				○						
授業概要										
本講義の目的は、福祉行政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。)及び福祉計画の意義や目的、主体、方法について学ぶことです。										
学修到達目標										
我が国の福祉行政の仕組みが理解できるようになることです。また、新聞の関連報道について理解できるようになることです。										
授業の進め方										
福祉行政と福祉計画の基礎的な理論や方法を学びます。市町村の福祉行政や福祉計画の過程(住民参加、計画立案など)に触れながら進めてゆきたいと考えています。講義外の課題として市町村福祉計画などについて調査、レポートを課す場合があります。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	福祉行政と福祉計画の概要、福祉行政と国の役割				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
2	福祉行政と地方公共団体の役割	講義を中心に地方公共団体の役割を明確にする				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
3	国と地方公共団体の関係	中央集権と地方分権の変遷と現状把握				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
4	福祉の財源	福祉財源の実際と介護保険制度の財源の実際				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
5	福祉行政の組織及び団体の役割	行政組織の実態				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
6	福祉行政における専門職の役割	専門職の役割の実際				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
7	福祉行政の動向	動向調査				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
8	福祉計画の意義と目的	福祉計画の変遷				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
9	福祉行政と福祉計画の関係	財政と行政と計画の関連性				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
10	福祉計画の主体	福祉計画の意義と実態				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
11	福祉計画の種類	各主体の取り組み実態と課題				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
12	福祉計画の策定方法	福祉計画の実際				事前にテキストを通読し、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
13	福祉計画の評価方法	福祉計画の実際と調査				事前に地元の調査を調べる。事後に比較作業を求めます。(事前2時間 事後2時間)				
14	地方自治体における福祉計画の実際	各人よりの報告				事前に調査準備をし、また事後に調査比較を求めます。(事前2時間 事後2時間)				
15	まとめ	講義全体の振り返り。定期試験の出題ポイント解説。				事前に課題を提示し、事後に全体総括まとめを行います。(事前2時間 事後3時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「社会福祉士シリーズ(10) 福祉行政と福祉計画 第3版」(弘文堂) ISBN:978-4-335-61174-2(生協で購入してください。)		受講態度:30% 定期試験:70% 授業態度においては意見の発表等を評価します。リアクションペーパー:20%。受講態度が良好なうえ、課されたリアクションペーパーをすべて提出し、定期試験において以下の得点をするのが成績評価の目安です。80%以上S、70%以上A、60%以上B、50%以上C。試験の出題は、重要用語の理解が70%、400字程度の論述30%を目安とします。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「社会福祉六法」		この科目は、社会福祉士受験資格取得を目指す学生は必ず履修しなければなりません。その場合、社会福祉を併せて履修してください。講義計画に該当する内容をテキストから探し、読んでおいてください。								

科目名	社会福祉経営			学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパリング	TC36089	研究室
担当者	村岡 裕			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー		
関連資格	社会福祉士				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>昨今の福祉サービス提供の場は、大規模で単機能の福祉施設から、小規模で多機能な地域セクターへとその比重を移そうとしています。これまで社会福祉士の職場は、福祉施設や行政等が多かったため、援助技術などの専門性を磨くことが重視されてきました。地域福祉の時代においては、それらの知識に加え、卒業後早い段階で、地域の小規模な事業所の経営管理を行う立場になることも想定し、地域福祉の時代における、福祉サービス提供組織の在り方と、その経営モデルについて学びます。</p>										
学修到達目標										
<p>普遍的な経営の枠組みが理解できる。          非営利組織の経営の視点が理解できる。          社会福祉士として、地域福祉の時代にふさわしい福祉サービス提供組織の経営の視点と方法が理解できる。</p>										
授業の進め方										
<p>テキストと資料を使用して講義を行います。必要に応じ、ビデオ教材等も使用します。講義ごとにアンケートを実施し、学生の皆さんの理解度の把握と、アンケートに記載された質問への回答を行います。講義期間中には、小レポートの提出を数回求めます。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	組織と経営	人はなぜ組織を作るのか。経営とはどのような概念なのかを学ぶ。				テキストの第1章を読んでおくこと。(4時間)				
2	経営計画	非営利組織の目的。経営戦略の立て方を学ぶ。				テキストの第2章、第3章を読んでおくこと。(4時間)				
3	福祉サービスと組織	福祉サービスを提供する組織のマネジメントの概要とその位置づけを学ぶ。				テキストの第4章以降の章のねらいを読んでおくこと。(4時間)				
4	人事管理：チーム作り	組織の機能分化と階層分化、リーダーとリーダーシップの在り方を学ぶ。				テキストの第3章を再読すること。(4時間)				
5	人事管理：組織のルール	組織独自に定める業務分担や、人事考課・目標管理制度、中でも近年福祉組織で重視されつつあるキャリアパスについて学ぶ。				企業の人事制度について、ホームページ等で調べてみる。(4時間)				
6	事例研究	実際の福祉組織では、どのような経営管理を行っているのかを事例と共に学ぶ。				身近にある福祉NPO等の組織のありようをホームページ等で調べてみる。(4時間)				
7	労務管理	就業規則の構成と内容、組織管理に必要な労働法制の概要を学ぶ。				テキストの第5章を読んでおくこと。(4時間)				
8	福祉サービスとサービス管理	モノとサービスの違い、福祉現場で進むサービスの可視化の現状を学ぶ。				テキストの第4章第1節を読んでおくこと。(4時間)				
9	福祉サービスと業務標準	福祉サービスで用いる業務手順書の種類や、その構造を学ぶ。				配布資料を基に復習を行うこと。(4時間)				
10	福祉サービスと記録	福祉サービスに必要な記録の要件、記録作成・管理方法を学ぶ。				配布資料を基に復習を行うこと。(4時間)				
11	事故・苦情対応	福祉サービスにつきものの、事故・苦情対応の視点と方法を学ぶ。				テキストの第4章第3節を読んでおくこと。(4時間)				
12	福祉サービスと人材育成	福祉組織の職務要件、キャリアパスについて学ぶ。				配布資料を基に復習を行うこと。(4時間)				
13	財務・会計管理	福祉組織の資金調達の視点や、税とサービスの循環を学ぶ。				テキストの第6章をよんでおくこと。(4時間)				
14	情報管理	取得する情報、保存する情報、発信する情報、情報の3つの側面を学ぶ。				テキストの第7章を読んでおくこと。(4時間)				
15	現代社会と福祉経営	福祉経営の在り方が、時代とともにどのように変化したのかを学ぶ。				配布資料を基に復習を行うこと。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「福祉サービスの組織と経営(第5版)」社会福祉士養成講座編集委員会編(中央法規出版2014年) ISBN:978-4-8058-5431-0(生協で購入してください。)</p>				<p>定期試験：40% 出席レポート：30% 受講態度：30%          授業への参加度30% 秀評価は、定期試験が満点で、欠席がなく出席レポートに毎回自らの意見を書くなど主体性が感じられた場合。優評価は、定期試験が35点以上で、ほぼ欠席がなく、出席レポートにもほぼ毎回自らの意見を書いていた場合。良評価は、定期試験が30点以上で、出席レポートにほぼ毎回自らの意見を書いていた場合。可はそれ以下。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
<p>「非営利組織の経営」P・F・ドラッカー著(ダイヤモンド社) ISBN:4-478-37062-1</p>				<p>本講座で非営利組織の経営の枠組みを学ぶことにより、今後の皆さんの人生や進路を考える上で必要な、目標設定の方法などが学べます。</p>						

科目名	福祉就労支援			学年学期	3・4年後期	単位数	1	ナパ'リング	TC36090	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	木曜日1限		
関連資格	社会福祉士					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
本講義は、社会福祉について基本的な知識を体系的に学習するとともに、相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解することを目的とします。具体的には、就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する 就労支援分野との連携について学びます。											
学修到達目標											
習得すべき事項として、1.雇用・就労の動向と労働施策の概要 2.就労支援制度の概要 3.就労支援に係る組織、団体の役割と実際 4.就労支援に係る専門職の役割と実際 5.就労支援分野との連携と実際 以上の内容理解を目指します。											
授業の進め方											
講義では、基本的な概念や理論を踏まえることを重点に取り上げるため、教科書を用いて授業を進めます。必要に応じて、具体的な実践事例を取り上げて、その意義を一緒に考える機会を作ります。講義形態は、教室での講義を主として実施します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	ガイダンス 雇用・就労の動向					事前にテキストの通読を、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
2	福祉就労支援制度	就労支援制度 : 生活保護					事前にテキストの通読を、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
3	福祉就労支援制度	就労支援制度 : 障害者福祉					事前にテキストの通読を、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
4	福祉就労支援制度	就労支援制度 : 障害者雇用施策					事前にテキストの通読を、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
5	福祉就労支援の組織	就労支援に係る組織の役割					事前にテキストの通読を、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
6	事例分析	就労支援に係る活動の実際					事前に事例を提示します。事後にまとめを行う。(事前1時間 事後1時間)				
7	福祉就労支援と専門職	専門職の役割と連携					事前にテキストの通読を、また事後に復習を求めます。(事前1時間 事後1時間)				
8	まとめ	全体まとめ					事前に課題を提示し、事後に全体総括まとめを行う。(事前2時間 事後2時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「社会福祉士シリーズ18 就労支援サービス第3版」(弘文堂) ISBN:978-4-335-61182-7 (生協で購入してください。)						定期試験:80% 課題:20% S:定期試験および課題の提出と内容のすべてが95%以上 A:定期試験および課題の提出と内容のすべてが80%以上 B:定期試験および課題の提出と内容のすべてが70%以上 C:定期試験および課題の提出と内容のすべてが60%以上 課題は小テストを指します。毎回実施します。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「社会福祉六法 平成30年版」(新日本法規) 「障害者白書 平成30年度版」						社会福祉士受験資格を目指す学生は、他の福祉系科目との関係性を理解しながら講義に参加してください。この講義は、司法福祉(前半)とオムニバス形式となります。					

科目名	公的扶助論		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバ'リ'ング	TC36091	研究室	
担当者	荒川 豊		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
非正規雇用、疾病や障害、高齢化、家族関係の希薄化などの社会の背景があり、生活保護受給者数が、生活保護法の施行以来、過去最多を推移する大変な時世を迎えています。このような現代社会において、公的扶助がどのような役割を果たし、機能しているのか説明します。具体的には、公的扶助の理念、歴史、制度の意義について解説すると同時に、ソーシャルワークにおける公的扶助の活用方法など、具体的支援内容についても理解を深めることを目的とします。										
学修到達目標										
この講義では、公的扶助についての基本的な知識の習得を目的とするとともに、社会福祉士などの国家試験に対応した知識の習得を目的とします。よって、本講義は国家資格である社会福祉士に合格できる水準以上の学修を到達目標とします。										
授業の進め方										
教室での講義形式で進め、時にグループワークも取り入れます。同時に、新聞の記事やソーシャルワーカーの実践例等を適宜取り上げつつ、公的扶助についての基本的な知識を習得できるようにします。小テストを3回実施し、振り返りの作業を行います。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス。公的扶助とは何を学び、臨臨にどう活かすのか。	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方、について説明します。また、低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要から、この国に生活保護法が存在する根拠を解説します。				テキストの「はじめに」～第1章の1を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
2	近年の保護と保護率の動向を理解する。	生活保護の動向や保護率の動向を、年齢別、地域別、世帯別、年次別等に細分化しながら解説します。また、我が国の捕捉率についても説明します。				テキスト第1章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
3	公的扶助の歴史的展開を理解する。	イギリスと我が国における公的扶助の歴史的展開を比較しながら、現行生活保護法の成立までの過程を解説します。				テキスト第2章を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
4	生活保護制度の基本原則を理解する。	生活保護法第1条から第4条までの所謂原理を解説します。また、旧生活保護法との相違点を整理します。小テスト を行い、答え合わせを通じて学びの振り返りをします。				テキスト第3章の該当箇所を事前に読む。第1回～3回までの復習をしてから小テストに臨む(4時間)				
5	保護の補足性の原理を理解する。	第4回の講義において、原理の説明をしますが、保護の補足性の原理については1限を設けて具体的に説明します。公的扶助の特徴といわれる資力調査(ミーンズ・テスト)についても解説します。				テキスト第3章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
6	生活保護の原則を理解する。	生活保護法第7条から第10条までの所謂原則を解説します。必要即応の原則をはじめ、柔軟に運用される各原則について事例を交えて説明します。				テキスト第3章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
7	生活保護の種類と範囲を理解する。	生活扶助、教育扶助、住宅扶助、医療扶助、介護扶助、出産扶助、生業扶助、葬祭扶助の8種類の扶助の内容を説明します。				テキスト第3章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
8	保護施設の種類と最低生活費の算定方式を理解する。	5種類の保護施設とそれぞれの利用目的、設置主体、対象者を整理します。また、時代とともに変遷している最低生活費の算定方式について説明します。				テキスト第3章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
9	生活保護基準(各種扶助基準)の内容と給付額を理解する。	事例を用いて、グループワークにて、学生が実際に一世帯の具体的な保護費を算出し、最低生活費及び生活保護基準の理解を深めます。				テキスト第3章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
10	被保護者の権利及び義務を理解する。	被保護者の権利の種類と各義務に関し、具体例を紹介しながら解説します。またDVDを用いて理解を深めます。小テスト を行い、答え合わせを通じて学びの振り返りをします。				テキスト第5章の該当箇所を事前に読む。第4回～9回までの復習をしてから小テストに臨む(4時間)				
11	生活保護制度の運営実施体制及び福祉事務所の職員とその業務を理解する。	国、都道府県、市町村の役割と、福祉事務所と福祉事務所の職員(査察指導員、現業員等)の業務内容について説明します。				テキスト第4章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
12	生活保護の争訟と権利擁護の理解を深める。	不服申し立てと行政事件訴訟について、その仕組みと流れを整理し、近年の動向について説明します。新聞記事を用いて、身近な争訟についても紹介します。				テキスト第5章の該当箇所を事前に読む。朝日訴訟と秋田・加藤訴訟について事前に調べる(4時間)				
13	生活福祉資金貸付制度と母子父子寡婦福祉資金制度を理解する。	特に都道府県社会福祉協議会が運営する生活福祉資金貸付制度の概要や、各貸付内容について説明し、その制度の重要性について解説します。新たに施行された生活困窮者自立支援法にも触れます。				テキスト第7章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
14	生活保護における相談援助活動を理解する。	特に自立支援プログラムが導入されるに至った経過とその概要、及び実際の活用方法について説明します。				テキスト第6章の該当箇所を事前に読み、不明な点は自ら調べ予習しておく(4時間)。				
15	なぜ社会福祉士は公的扶助論を学ぶのか。全体のまとめ。	事例を通じて、公的扶助を用いてどのような支援が可能なのか、グループワークを行い総合的な支援方法を導き出します。小テスト を行い、答え合わせを通じて学びの振り返りをします。				教科書及びこれまでの資料に目を通す。第10回～14回までの復習をし、小テストに臨む(4時間)。				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「低所得者に対する支援と生活保護制度<第4版>」伊藤秀一編(弘文堂) ISBN:978-4-335-61181-0(生協で購入してください。)		受講態度:30% 小テスト:20% 定期試験:50% S:小テスト及び定期試験において高得点且つ授業内容を深く理解した上での質問等積極的な授業態度がみられる。A:小テスト及び定期試験において高得点且つ積極的な授業態度がみられる。B:小テスト及び定期試験においておおむね7割以上の正答があり、授業内容を理解し、与えられた課題に取り組むことができる。C:小テスト及び定期試験においておおむね6割以上の正答があり、授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に取り組む姿勢がみられる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
なし		社会福祉士の受験資格の取得を目指す学生のみ履修してください。								

科目名	社会福祉演習		学年学期	3年前期	単位数	4	ナバリング	TC36092	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸・今村 篤史		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	社会福祉士				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
本演習は、社会福祉実習前の段階において相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とします。										
<b>学修到達目標</b>										
1. 講義・演習・実習の関連性を理解する。 2. 生活課題に対する理解を学生自身が理解する。 3. ソーシャルワークに必要な価値・倫理・技術を理解・習得する。										
<b>授業の進め方</b>										
演習内容は、より実践的な相談援助事例を中心に授業を進めます。必要に応じて、施設等との活動・連携を通じて現職の専門家の指導を仰ぎます。実習前指導の要素を兼ねていますので、実習指導の教育内容と進捗状況を踏まえながら進めます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	社会福祉演習 の目的を理解する。				配布資料を用いて各自で内容を整理する。(事前3時間事後1時間)				
2	社会福祉演習 の目的理解	講義・演習・実習との関連性について理解する。				これまでの講義での学びと演習とを関連を考える。(事前3時間事後1時間)				
3	講義・演習・実習の関連性の理解	講義(児童福祉)との関連性				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
4	講義・演習・実習の関連性の理解	講義(児童福祉)との関連性				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
5	講義・演習・実習の関連性の理解	講義(障がい福祉)との関連性				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
6	講義・演習・実習の関連性の理解	講義(障がい福祉)との関連性				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
7	講義・演習・実習の関連性の理解	実習との関連性				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
8	講義・演習・実習の関連性の理解	実習との関連性				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
9	生活課題を理解する	利用者の生活課題に関心を向ける				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
10	生活課題を理解する	生活課題に対する理解を深める (生活の全体像を理解する)				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
11	生活課題を理解する	生活課題に対する理解を深める (生活課題を生み出している要因を理解する)				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
12	生活課題を理解する	生活課題に対する理解を深める (「人と環境」という要因を踏まえ、対応策を考える)				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
13	ソーシャルワークの基盤を理解する	当事者主体のソーシャルワーク実践				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
14	ソーシャルワークの基盤を理解する	当事者主体のソーシャルワーク実践				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
15	ソーシャルワークの基盤を理解する	価値(尊厳)を基盤としたソーシャルワーク実践				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
16	ソーシャルワークの基盤を理解する	価値(尊厳)を基盤としたソーシャルワーク実践				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
17	ソーシャルワークの基盤を理解する	価値(正義)を基盤としたソーシャルワーク実践				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				
18	ソーシャルワークの基盤を理解する	価値(正義)を基盤としたソーシャルワーク実践				配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。(事前2時間事後2時間)				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	自己覚知	ソーシャルワークと自己覚知との関連を理解する。	配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。（事前2時間事後2時間）
20	自己覚知	相談援助専門職として「自己覚知」を行うことの必要性を理解する。	配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。（事前2時間事後2時間）
21	コミュニケーションスキル	ソーシャルワークとコミュニケーションスキルとの関連を理解する。	配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。（事前2時間事後2時間）
22	コミュニケーションスキル	相談援助専門職として「コミュニケーションスキル」を高めることの必要性を理解する。	配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。（事前2時間事後2時間）
23	基本的な面接技術	ソーシャルワークと面接技術との関連を理解する。	配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。（事前2時間事後2時間）
24	基本的な面接技術	相談援助専門職として「面接技術」を高めることの必要性を理解する。	配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。（事前2時間事後2時間）
25	事例検討	ソーシャルワークの援助プロセスについて学ぶ（インテーク・アセスメント・プランニング）。	配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。（事前2時間事後2時間）
26	事例検討	ソーシャルワークの援助プロセスについて学ぶ（支援の実施・モニタリング・効果測定・終結）。	配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。（事前2時間事後2時間）
27	事例検討	ソーシャルワークに必要とされる考え方を学ぶ（アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用、調整、開発）。	配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。（事前2時間事後2時間）
28	事例検討	地域を基盤にしたソーシャルワークを学ぶ（地域住民に対するアウトリーチ・ニーズ把握・ネットワーキング・社会資源の活用、調整、開発）。	配布資料を用いてグループ討議の内容を各自で整理する。（事前2時間事後2時間）
29	本演習のまとめ	これまでの演習での学びを受講者間で共有する。	事前に、これまでの演習での学びをふり返しておく。（事前3時間事後3時間）
30	本演習のまとめ	ソーシャルワーカーを目指すために必要なことをまとめる。	事前に、これまでの演習での学びをふり返しておく。（事前3時間事後3時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「相談援助演習 ソーシャルワーク演習」秋山博介・谷川和昭・柳沢孝主編（弘文堂） ISBN:978-4-335-61091-2（生協で購入してください。）		出席レポート：70% 課題：30% S：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが95%以上 A：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが80%以上 B：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが70%以上 C：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが60%以上 課題は講義に即してその都度示します。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
参考図書・資料等については適宜指示します。		この講義は、社会福祉士受験資格を目指す学生のみを対象としており、4年前期（集中）に開講する社会福祉演習 とあわせて履修することが義務付けられています。	

科目名	社会福祉演習		学年学期	4年前期	単位数	4	ナバリング	TC46093	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸・今村 篤史		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	社会福祉士			履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】（集中講義となります）					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性	A		B		C		
履修対象入学年度（読習科目）										
<b>授業概要</b>										
本演習は、社会福祉実習後において相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識、価値、技術について、専門的援助技術として概念化、理論化、体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とします。										
<b>学修到達目標</b>										
1.社会福祉演習 および社会福祉実習での学びを関連づけることにより、これまでの学びを深める。 2.社会福祉士にとって必要な知識・価値・技術を学生自身がより明確にすることで、専門職を目指すためのモチベーションを高める。										
<b>授業の進め方</b>										
演習内容は教科書を用いることよりは、より実践的な相談援助事例を中心に授業を進めます。実習で得た事例や内容を中心にフィードバックし事例検討としてまとめます。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	社会福祉演習 の目的を理解する。				事前に実習記録を熟読しておく。（事前3時間事後1時間）				
2	個別ワーク	実習記録を整理することで、実習での学びを深める。				事前に実習記録を熟読しておく。（事前3時間事後1時間）				
3	個別ワーク	ソーシャルワーク援助プロセスを意識しながら実習記録を含めて実習での学びをふり返る。				事前に実習記録を熟読しておく。（事前3時間事後1時間）				
4	個別ワーク	演習および実習での学びを踏まえて、社会福祉士として必要なまたは求められる役割、知識、価値、技術について整理する。				事前に実習記録を熟読しておく。（事前3時間事後1時間）				
5	個別ワーク	実習先での社会福祉士として必要なまたは求められる役割、知識、価値、技術について整理する。				事前に実習先に関する情報を整理しておく。（事前3時間事後1時間）				
6	グループワーク	個別ワークでのまとめをグループで共有する。				グループワークで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）				
7	グループワーク	個別ワークでのまとめをグループで整理する。				グループワークで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）				
8	グループワーク	グループワークで整理した内容をメンバーで分析する。				グループワークで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）				
9	グループワーク	グループワークで整理した内容をメンバーで分析する。				グループワークで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）				
10	グループワーク	分析結果に関してグループ発表				グループワークで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）				
11	グループワーク	分析結果に関してグループ発表				グループワークで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）				
12	スーパービジョン	各グループの分析結果の内容について教員からスーパービジョンを提供する。				スーパービジョンで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）				
13	スーパービジョン	教員からのスーパービジョンを通じて、再度グループ間でディスカッションを行う。				スーパービジョンで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）				
14	個別ワーク	社会福祉士とはどのような専門職なのか？				これまでの学びを事前にふり返る。（事前2時間事後2時間）				
15	個別ワーク	社会福祉士とはどのような専門職なのか？				これまでの学びを事前にふり返る。（事前2時間事後2時間）				
16	グループワーク	個別ワークでのまとめをグループで整理する。				グループワークで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）				
17	グループワーク	グループワークで整理した内容をメンバーで分析する。				グループワークで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）				
18	グループワーク	グループワークで整理した内容をメンバーで分析する。				グループワークで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	グループワーク	分析結果に関してグループ発表	グループワークで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）
20	グループワーク	分析結果に関してグループ発表	グループワークで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）
21	スーパービジョン	各グループの分析結果の内容について教員からスーパービジョンを提供する。	スーパービジョンで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）
22	スーパービジョン	教員からのスーパービジョンを通じて、再度グループ間でディスカッションを行う。	スーパービジョンで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）
23	ロールプレイ	実習での場面で社会福祉士の援助として印象に残った場面をロールプレイする（必要に応じて利用者、他の職種、ご家族等の役割を他の受講者で担う）。	ロールプレイで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）
24	ロールプレイ	実習での場面で社会福祉士の援助として印象に残った場面をロールプレイする（必要に応じて利用者、他の職種、ご家族等の役割を他の受講者で担う）。	ロールプレイで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）
25	スーパービジョン	ロールプレイでのやり取りを踏まえて、教員からスーパービジョンを提供する。	スーパービジョンで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）
26	スーパービジョン	教員からのスーパービジョンを通じて、再度グループ間でディスカッションを行う。	スーパービジョンで気づいたこと等を事後に個人へフィードバックすること。（事前2時間事後2時間）
27	個別ワーク	あなたが目指す社会福祉士像とは？	これまでの社会福祉演習での学びを事前に復習しておくこと。（事前2時間事後2時間）
28	個別ワーク	あなたが目指す社会福祉士像に関して発表。	これまでの社会福祉演習での学びを事前に復習しておくこと。（事前2時間事後2時間）
29	ふりかえり	演習での学びをふり返し、私たちが目指す社会福祉士像や習得すべき知識・価値・技術を明確にする。	個々で掲げた内容や課題を事後に復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）
30	社会福祉演習のまとめ	演習・講義・実習での学びをふり返し、私たちが目指す社会福祉士像や習得すべき知識・価値・技術に関して、必要な取り組みが今後も行えるように目標を定める。	個々で掲げた内容や課題を事後に復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「相談援助演習 ソーシャルワーク演習」秋山博介・谷川和昭・柳澤孝主著（弘文堂） ISBN:978-4-335-61091-2（生協で購入してください。） 参考書・資料等については適宜指示します。		出席レポート：70% 課題：30% S：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが95%以上 A：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが80%以上 B：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが70%以上 C：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが60%以上 出席レポートは実習記録を指します。記載内容の程度をはかります。課題は実習記録内容に基づいてその都度指示します。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
実習記録ノート 一式		この講義は、社会福祉士受験資格を目指す学生のみを対象としており、3年前期に履修した社会福祉演習とセットで履修することが義務付けられています。	

科目名	専門研究	学年学期	3年通年	単位数	4	ナパリング	TL36094	研究室	W-33	
担当者	増尾 均	必修選択	選択	科目種別	演習	オイスア-	前期：火曜日3限 後期：火曜日2限			
関連資格				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度（読替科目）								
	A B C									
授業概要										
本講義は、民法・刑法・商法・訴訟法などの国内法だけでなく、国際法を含む広範囲に及びます。これらの法領域で生じる問題は、学生生活あるいは社会生活を送る上で起こり易く、これらの法律の基礎知識を学ぶことは、現在および将来に役立つことと思います。したがって、公務員希望者・行政書士などの法律資格を目指す者のみならず、観光・地域・福祉を法律の視点から学びたい学生も対象としています。										
学修到達目標										
さまざまな法律知識を修得するだけでなく、地域活動という実行力をも身につけ、企業人あるいは社会人として地域社会の発展に寄与できる能力の育成を目的としている。										
授業の進め方										
前期は、講義室にて講義形式で行いますが、必要に応じてプリントを配布したり、その時々で話題となっている事件を講義材料として扱うこともあります。後期は、ゼミ活動として地域活動が加わりますので、アウトキャンパスを行います。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	授業の進め方、法律の体系的整理					事前に今まで履修した法律を復習しておく。事後学修として、法律の体系的整理を行う。(4時間)			
2	法律問題の調べ方	各種法律書をとって初刊で調べる。					事前学修として、図書館の使い方を学ぶ。事後学修として、各自で再度調べる。(4時間)			
3	判例の調べ方	図書館で判例の調べ方を学ぶ					事前学修として、判例の種類を調べる。事後学修として、各自で再度調べる。(4時間)			
4	判例を読む	判例の読み方を学ぶ					事前学修として、予め読んでおく。事後学修として、判例をまとめる。(4時間)			
5	判例を用いたグループ・ワーク	前回用いた判例について、争点を上げてディスカッションをする。					事前に判例の争点を整理しておく。事後学修として、議論の結果をまとめる。(4時間)			
6	事件を調べる	法律書と判例を用いて自分で選んだ事件を調べる。					事前学修として、興味のある事件を探しておく。事後学修として、整理してまとめる。(4時間)			
7	過去のゼミ活動を学ぶ 聖地巡礼	聖地巡礼の取り組み並びに経済効果についてディスカッションする。					事前に問題点を調べておく。事後学修として、問題点を整理して自分なりの解答を作る。(4時間)			
8	過去のゼミ活動を学ぶ バリアフリー観光	バリアフリー観光の意義と現状について学ぶ。					事前に問題点を調べておく。事後学修として、問題点を整理して自分なりの解答を作る。(4時間)			
9	過去のゼミ活動を学ぶ 模擬裁判	模擬裁判について講義をした後ディスカッションする。					事前に問題点を調べておく。事後学修として、問題点を整理して自分なりの解答を作る。(4時間)			
10	法律問題を学ぶ 交通事故	交通事故について講義をした後ディスカッションする。					事前に問題点を調べておく。事後学修として、問題点を整理して自分なりの解答を作る。(4時間)			
11	法律問題を学ぶ 医療事故	医療事故について講義をした後ディスカッションする。					事前に問題点を調べておく。事後学修として、問題点を整理して自分なりの解答を作る。(4時間)			
12	法律問題を学ぶ 自己決定権の問題	近時問題となっている生命・身体の処分に関する自己決定権やライフスタイルに関する自己決定権について講義をしてディスカッションする。					事前に問題点を調べておく。事後学修として、問題点を整理して自分なりの解答を作る。(4時間)			
13	法律問題を学ぶ 悪徳商法	班ごとに悪徳商法を調べて発表してディスカッションする。					事前に問題点を調べておく。事後学修として、意見をまとめて自分の答えをみつける。(4時間)			
14	法律問題を学ぶ 少年犯罪	班ごとに少年犯罪を調べて発表してディスカッションする。					事前に問題点を調べておく。事後学修として、意見をまとめて自分の答えをみつける。(4時間)			
15	法律問題を学ぶ 雇用に関する問題	班ごとに雇用に関する問題を調べて発表してディスカッションする。					事前に問題点を調べておく。事後学修として、意見をまとめて自分の答えをみつける。(4時間)			
16	法律問題を学ぶ 住まいに関する問題	班ごとに住まいに関する問題を調べて発表してディスカッションする。					事前に問題点を調べておく。事後学修として、意見をまとめて自分の答えをみつける。(4時間)			
17	地域活動内容の検討	どのようなゼミ活動をしたいのか提案を出して検討する。					事前学修として、やりたい地域活動を考える。事後学修として、提案を検討する。(4時間)			
18	地域活動内容の決定	出された提案の中から全員で議論して選ぶ。					事前学修として、自分の考えを整理する。事後学修として活動の全体像を理解する。(4時間)			

授業計画（各回のテーマ等）			事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	調査内容・項目の検討	調査に行く準備として調査内容・項目を検討する	事前学修として、調査内容・項目を考える。事後学修として、不足がないか検討する。(4時間)
20	現地調査(試し)	現地に行って実際に調査する。	事前学修として、準備を整える。事後学修として、調べたことをまとめる。(4時間)
21	調査内容・項目の再検討	調査結果を踏まえて反省点を出して調査内容・項目の再検討をする。	事前学修として、問題点を整理しておく。事後学修として、不足がないか再検討する。(4時間)
22	現地調査	現地に行って実際に調査する。	事前学修として、準備を整える。事後学修として、データをまとめる。(4時間)
23	調査結果のまとめ	班ごとにデータを持ち寄って整理をする。	事前に各自でデータ整理をしておく。事後学修として、次回の調査対象を明確にする。(4時間)
24	現地調査	現地に行って実際に調査する。	事前学修として、準備を整える。事後学修として、データをまとめる。(4時間)
25	調査結果のまとめ	班ごとにデータを持ち寄って整理をする。	事前に各自でデータ整理をしておく。事後学修として、次回の調査対象を明確にする(4時間)。
26	中間報告会	班ごとに中間報告を行い、修正箇所があった場合には直す	事前学修として、発表の準備をする。事後学修として、反省点をまとめる。(4時間)
27	現地調査	現地に行って実際に調査する。	事前学修として、準備を整える。事後学修として、データをまとめる。(4時間)
28	調査結果のまとめ	班ごとにデータを持ち寄って整理をする。	事前に各自でデータ整理をしておく。事後学修として、発表のために整理しておく。(4時間)
29	発表準備	班ごとに報告会の準備をする。	事前に班ごとにデータ整理をしておく。事後学修として、発表の練習をする。(4時間)
30	報告会	班ごとに最終的な発表会をする。	事前学修として、発表の準備をする。事後学修として、反省点をまとめる。(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
別途指示します。		課題：100% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展的問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「ワンステップ法学」目崎哲久・國友順市ほか著目崎哲久・國友順市編編（嵯峨野書院）		身近で利用頻度の高い法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨み、今後の大学生活および社会生活に役立ててください。	

科目名	専門研究	学年学期	3年通年	単位数	4	ナパ'リング	TL36094	研究室	W-26
担当者	山根 宏文	必修選択	選択	科目種別	演習	オイスア-	前期：水曜日1限 後期：水曜日1限		
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度（読替科目）							
	A B C								
授業概要									
地域ブランドづくり（創造）を観光振興・文化イベント企画実施・特産品プロデュース・旅行企画の4つのテーマにて研究・実践し、地域ブランドづくりにおいての大切なことを総合的に学びます。男性長寿日本一松川村の観光振興・池田町「てるてる坊主アート展」の企画実施などメディアの注目されている地域振興策なども実践します。									
学修到達目標									
地域の観光資源を活かしたブランドプロデュース力を養うことを目標とします。									
授業の進め方									
一つのテーマについて、それぞれ予備研究（3）、視察（1）、研修後の意見交換・現状把握・振興策（3）についての討論の割合になります。さらに、毎年ゼミで企画している池田町開催の「てるてる坊主アート展」「フライイベント」の企画運営に携ります。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容						事前事後学修	
1	ガイダンス	30回のゼミ活動の授業概要・到達目標・授業の進め方などのガイダンス						健康をテーマにした地域づくりについて学修する。 （事前事後4時間）	
2	地域ブランド創造 （観光振興）	地域ブランドづくりのための予備研究 （男性長寿日本一を活かした村づくり）						健康をテーマにした地域づくりについて学修する。 （事前事後4時間）	
3	地域ブランド創造 （観光振興）	地域ブランドづくりのための予備研究 （男性長寿日本一を活かした村づくり）						健康をテーマにした地域づくりについて学修する。 （事前事後4時間）	
4	地域ブランド創造 （観光振興）	地域ブランドづくりのための予備研究 （男性長寿日本一を活かした村づくり）						健康をテーマにした地域づくりについて学修する。 （事前事後4時間）	
5	地域ブランド創造 （観光振興）	松川村視察（男性長寿日本一を活かした村づくり）						松川村の魅力についてまとめる （事前事後4時間）	
6	地域ブランド創造 （観光振興）	（男性長寿日本一を活かした村づくり） 研修後の意見交換・現状把握・ブランド振興策の作成						松川村ブランド振興策の作成 （事前事後4時間）	
7	地域ブランド創造 （観光振興）	（男性長寿日本一を活かした村づくり） 研修後の意見交換・現状把握・ブランド振興策の作成						松川村ブランド振興策の作成 （事前事後4時間）	
8	地域ブランド創造 （観光振興）	（男性長寿日本一を活かした村づくり） 研修後の意見交換・現状把握・ブランド振興策の作成						松川村ブランド振興策のまとめ （事前事後4時間）	
9	地域ブランドづくり （地域イベント企画）	イベント企画についての研究						イベント企画について学修。 （事前事後4時間）	
10	地域ブランドづくり （地域イベント企画）	イベント企画（てるてる坊主アート展）募集策の検討						イベント企画（てるてる坊主アート展）募集策の検討 （事前事後4時間）	
11	地域ブランドづくり （地域イベント企画）	イベント企画（てるてる坊主アート展） 募集策の実施						イベント企画（てるてる坊主アート展）募集策の実施後の課題 （事前事後4時間）	
12	地域ブランドづくり （地域イベント企画）	イベント企画（てるてる坊主アート展）企画についての検討						イベント企画（てるてる坊主アート展）企画の復習 （事前事後4時間）	
13	地域ブランドづくり （地域イベント企画）	イベント企画（てるてる坊主アート展）運営についての検討						イベント企画（てるてる坊主アート展）運営についての学修 （事前事後4時間）	
14	地域ブランドづくり （地域イベント企画）	イベント企画（てるてる坊主アート展）運営についての検討						イベント企画（てるてる坊主アート展）運営についての学修 （事前事後4時間）	
15	地域ブランドづくり （地域イベント企画）	イベント企画（てるてる坊主アート展）運営についての検討						イベント企画（てるてる坊主アート展）運営についての学修 （事前事後4時間）	
16	地域ブランドづくり （地域イベント企画）	イベント（てるてる坊主アート展）終了後の反省 課題など						イベント（てるてる坊主アート展）課題について学修 （事前事後4時間）	
17	地域ブランドづくり （特産品プロデュース）	地域特産品についての研究 事例研究						地域特産品についての研究 事例研究の学修 （事前事後4時間）	
18	地域ブランドづくり （特産品プロデュース）	地域特産品についての研究 事例研究						地域特産品についての研究 事例研究の学修 （事前事後4時間）	

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	地域ブランドづくり （特産品プロデュース）	地域特産品についての研究 事例研究	地域特産品についての研究 事例研究の学修 （事前事後4時間）
20	地域ブランドづくり （特産品プロデュース）	地域特産品についての検討	地域特産品についての学修 （事前事後4時間）
21	地域ブランドづくり （特産品プロデュース）	地域特産品についての企画	地域特産品についての企画についての学修 （事前事後4時間）
22	地域ブランドづくり （特産品プロデュース）	地域特産品についての企画	地域特産品についての企画についての学修 （事前事後4時間）
23	地域ブランドづくり （特産品プロデュース）	地域特産品についての企画	地域特産品についての企画についての学修 （事前事後4時間）
24	地域ブランドづくり （特産品プロデュース）	地域特産品についてのプレゼン	地域特産品についての学修 （事前事後4時間）
25	地域ブランドづくり （観光プラン作成）	旅行企画についての研究	旅行企画についての学修 （事前事後4時間）
26	地域ブランドづくり （観光プラン作成）	旅行企画についての研究	旅行企画についての学修 （事前事後4時間）
27	地域ブランドづくり （観光企画作成）	旅行企画作成	旅行企画についての学修 （事前事後4時間）
28	地域ブランドづくり （観光企画作成）	旅行企画作成	旅行企画についての学修 （事前事後4時間）
29	地域ブランドづくり （観光企画作成）	旅行企画のプレゼン	旅行企画についての学修 （事前事後4時間）
30	地域ブランドづくり （観光企画作成）	旅行企画のプレゼンとまとめ	まとめ （事前事後4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
テキストは特にありません。		レポート：70% 出席レポート：30% S：授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A：授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B：授業内容をおおよそ理解し探究心、提案力がある。 C：授業内容をおおよそ理解し、探究心、提案力が60%程度である。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
テキストは特にありません。		常に問題意識を持って授業に臨んでください。 講義計画に該当する内容を書物から探し読んでおいてください。	

科目名	専門研究	学年学期	3年通年	単位数	4	ナパリング	TL36094	研究室	W-17
担当者	益山 代利子	必修選択	選択	科目種別	演習	オイスアワ	前期：月曜日2限 後期：月曜日2限		
関連資格				履修条件					
	ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度（読替科目）						
		A B C							
授業概要									
「国際観光」と「ホスピタリティ」が本演習のテーマです。特に「ヒト」に着目し、長野県在住のユニークな外国人経営者や日本文化の情報発信を行っている人々へのインタビューやフィールドワークを通して、異文化交流を実践し理解を深めます。									
学修到達目標									
ウチとソトの視点から情報収集や分析を行い、訪日外国人旅行者の特性や課題について理解を深めることができる。また、日本文化を簡単な英語で説明できるようになること。									
授業の進め方									
長野県で活躍する外国人のインタビュー、フィールド調査、イベント参加などを通して、具体的なインバウンド対策について議論します。外国人観光客受け入れの実態を調査するアウトキャンパス体験を含みます。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	オリエンテーション	活動のねらいと活動計画について話し合います。					シラバスを読む。(4時間)		
2	聞き取り調査手法	インタビューの方法について学ぶ					資料を読む。(4時間)		
3	聞き取り調査手法	インタビューの方法について学ぶ					資料を読む。(4時間)		
4	聞き取り調査準備	高山市でのインバウンド調査に備え、高山観光について学び、英語で質問事項を準備する					高山観光について調査する(4時間)		
5	高山市でのフィールド調査準備	高山市でのフィールドワークを通して、外国人旅行者にとって優しい街づくりの実情を把握します。					高山市のインバウンド政策について事前に調査しておく。(4時間)		
6	高山市でのフィールド調査	フィールド調査を行います。特に、外国人旅行者の消費行動に注目し、外国人旅行者にとっての高山市の魅力、人的交流の特徴を観察します。					調査内容をまとめる。(4時間)		
7	高山市でのフィールド調査結果の報告	高山市でのフィールドワークの結果を討議、発表します。					プレゼン資料準備。発表内容をゼミHPに掲載する。(4時間)		
8	国際観光地の課題整理	高山市のインバウンド政策と現状整理を基に、軽井沢町との比較を行います。					軽井沢町のインバウンド戦略を事前調査(4時間)		
9	国際観光地の課題整理	軽井沢町の現状把握と課題整理を行います。海外の高原リゾートの特徴と比較します。					海外の高原リゾートの特徴を事前調査します。(4時間)		
10	国際観光地の課題整理	北陸新幹線全線開通による軽井沢への影響、金沢、高山への周遊観光の可能性について考察します。					文献調査、既存の英文観光マップや印刷物の収集をします。(4時間)		
11	軽井沢町でのフィールド調査準備	フィールド調査の準備					調査結果をまとめる。(4時間)		
12	軽井沢町でのフィールド調査	フィールド調査を実施					調査結果をまとめる。(4時間)		
13	フィールド調査報告	フィールド調査の報告・議論					調査報告書の作成(4時間)		
14	フィールド調査報告	フィールド調査報告書の発表					内容を整理する。(4時間)		
15	フィールド調査報告	フィールド調査報告書の発表					最終報告書の提出(4時間)		
16	国際交流の準備	外国人観光者に対する国際交流会の準備					日本文化調査(4時間)		
17	国際交流の準備	外国人観光者に対する国際交流会の準備					日本文化に関するレジュメ作成(4時間)		
18	国際交流の準備	日本文化についての英語発表・議論					英語レジュメ作成(4時間)		

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	国際交流の準備	日本文化の英語発表・議論	英語レジュメ作成(4時間)
20	アウトキャンパス準備	永平寺合宿へのアウトキャンパスの事前調査	永平寺についての事前調査(4時間)
21	アウトキャンパス	永平寺合宿	報告書作成(4時間)
22	アウトキャンパス発表	永平寺の日本文化体験を発表する	報告書作成(4時間)
23	日本文化体験発表	永平寺の文化体験を英語で発表する。	英語のパワーポイント作成(4時間)
24	日本文化体験発表	永平寺の文化体験を英語で発表する	英語のパワーポイント作成(4時間)
25	国際人インタビュー事前調査	長野県で活躍する国際人への聞き取り調査の事前準備	インタビュー内容の整理をする。(4時間)
26	国際人インタビュー	長野県で活躍する国際人にインタビューします。	質問項目の精査(4時間)
27	国際人インタビュー	国際人インタビューの結果報告	聞き取り調査の報告準備(4時間)
28	国際人インタビュー	国際人インタビューの結果報告を英語で発表	調査報告書を英語で作成(4時間)
29	国際文化交流会	国際文化交流会の実践	文化交流の準備(4時間)
30	異文化交流会の発表	異文化交流会の発表	異文化交流会の成果報告書(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
「新版論文の教室」戸田山和久著NHKブックス編（NHK出版） ISBN:978-4-14-091194-5（生協で購入してください。）		出席レポート：50% 課題：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解け、他の学生の前で発表できる。A：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって内容に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「レポート・論文の書き方入門」河野哲也著（慶応大学出版会） ISBN：4-7664-0969-8		国際観光に関心のある方はどなたでも参加できます。	

科目名	専門研究			学年学期	3年通年	単位数	4	ナパリング	TL36094	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
<p>本演習では公法（憲法、行政法）と地域の政治行政や政策（都道府県、市町村や警察、消防など）のあり方を対象に考察します。そのために、基本的入門書を読むことと地域の行政活動を研究することを内容とします。前者は憲法行政法の基本的教科書の購読です。公法学についての確実な知識を身につけます。後者は地域の行政活動に参加して体験しながら、交通、景観、防犯、まちづくり等地域政策や自治体のあり方、そしてそれらで働く公務員のあり方について学びます。</p>											
学修到達目標											
<p>公法（憲法、行政法）と地域の政治行政や政策について学ぶことを通じて、国、都道府県、市町村などのあり方、活動および政策について理解し、討論する能力と実際に活用する能力を身につけること</p>											
授業の進め方											
<p>本演習は、テキストの購読、集団討論などのゼミ内での意見交換、そして松本市などでの交通安全教育参加やアンケート調査などのアウトキャンパスを実施します。</p>											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと進め方について考えていきます。					シラバスを読む（4時間）				
2	テキスト購読1	法学の勉強方法：憲法と社会、憲法と倫理道徳、外国憲法との比較					テキスト第1講を読む（4時間）				
3	テキスト購読2	法学の勉強方法：憲法と裁判、条文の解釈など					テキスト第1講を読む（4時間）				
4	判例研究	尊属殺事件の概要：旧刑法の条文、尊属殺、尊属傷害致死					テキスト第2講を読む（4時間）				
5	判例研究	尊属殺事件の検討：地裁判決から最高裁判決まで					テキスト第2講を読む（4時間）				
6	アウトキャンパス	松本市街地での実地調査					調査方法打ち合わせ（4時間）				
7	アウトキャンパス	松本市街地での実地調査					共同作業（4時間）				
8	アウトキャンパスの振り返り	調査方法、実感の検討					調査方法再検討（4時間）				
9	違憲判決と憲法判例	違憲判決の検討：最高裁判決の多数意見と少数意見、判決の影響					テキスト第3講を読む（4時間）				
10	違憲審査制度	最高裁判所の構成と違憲審査制度のしくみ					テキスト第3講を読む（4時間）				
11	憲法問題の解決方法1	憲法解釈と政策形成					テキスト第4講を読む（4時間）				
12	憲法問題の解決方法2	憲法訴訟の道					テキスト第4講を読む（4時間）				
13	憲法問題の解決方法3	政治過程における解決					テキスト第5講を読む（4時間）				
14	憲法問題の解決方法4	国民と憲法の関係					テキスト第5講を読む（4時間）				
15	憲法の基本事項の確認	基本的人権と権力分立の理解を再確認する					配布プリントを読む（4時間）				
16	基本的人権1	個人の尊重と新しい人権					配布プリントを読む（4時間）				
17	基本的人権2	法の下での平等と判例					配布プリントを読む（4時間）				
18	基本的人権3	法の下での平等と判例（つづき）					配布プリントを読む（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	基本的人権4	表現の自由と判例1	配布プリントを読む（4時間）
20	基本的人権5	表現の自由と判例2	配布プリントを読む（4時間）
21	基本的人権6	信教の自由と判例	配布プリントを読む（4時間）
22	アウトキャンパス	地域づくりとしての交通政策	配布プリントを読む（4時間）
23	アウトキャンパス	自治体や警察の行政活動に参加する（アウトキャンパス）	配布プリントを読む（4時間）
24	アウトキャンパス	アウトキャンパスの反省と考察、集団討論	配布プリントを読む（4時間）
25	憲法と地方自治	地方自治の保障、住民参加の諸制度と運用	配布プリントを読む（4時間）
26	裁判のしくみ	最高裁判所の構成と違憲審査権	配布プリントを読む（4時間）
27	裁判と政策形成1	最高裁判決と立法の関係	配布プリントを読む（4時間）
28	裁判と政策形成2	最高裁判決と立法の関係つづき	テキスト第3章を読む（4時間）
29	国民と憲法の関係	憲法改正について考える	配布プリントを読む（4時間）
30	まとめ	日本の憲法と政治行政について考えたことをまとめて、各自の考察を発表する	レポートを作成する（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「憲法主義」内山奈月・南野森著（PHP文庫） ISBN:978-4569764801（生協で購入してください。） 前期に使用します 六法は各自持参してください。判例等の資料については適宜指定します。		レポート：50% 課題：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。 B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「グラフィック憲法入門」毛利透著（新世社） ISBN：978-4883842094		本演習は、公務員になりたい人、および法律や政策の勉強をしたい人には適しています。また、地域政策の観点からのアウトキャンパスや地域活動への参加も行います。	

科目名	専門研究		学年学期	3年通年	単位数	4	ナパリング	TL36094	研究室	W-20
担当者	向井 健		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	前期：月曜日4限 後期：月曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
まちづくりをテーマとして実践的な活動を地域において実施し、その成果を踏まえて理論的な学習をおこないます。まちづくりには、地域活性化、商業振興、コミュニティの活性化、人材の育成、歴史文化の継承、商品開発、環境の保全、コミュニティビジネス、福祉など様々な領域があり、それぞれの関心をもとにグループとして活動を行うとともに、地域の方々と連携します。										
学修到達目標										
まちづくりの基礎的な知識を身につけるとともに、まちづくりにかかわっていく際に求められる洞察力や創造力、コミュニケーション能力、リーダーシップなどの能力を育て、まちづくりに向き合う意識を高めます。										
授業の進め方										
松本の上土商店街およびアルプス口周辺をフィールドとしてまちづくりの実践活動に携わるとともに、グループワークを通じて自ら考え自ら行動する主体的な取り組みを行います。またまちづくりに向けて商品開発にも取り組みます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	自己紹介とそれぞれの興味関心の共有				レポートの作成（4時間）				
2	地域の現状と課題	対象となる地域の現状と課題について説明				レポート作成（4時間）				
3	地域の現状と課題	活動対象地域にてフィールドワーク				レポート作成（4時間）				
4	地域の現状と課題	活動対象地域にてフィールドワーク				レポート作成（4時間）				
5	活動計画の策定	フィールドワークを踏まえてグループワークによって活動計画を検討				レポートの作成（4時間）				
6	活動計画の策定	グループワークによって活動計画を策定する				レポートの作成（4時間）				
7	活動計画の策定	地区別グループとテーマ別グループに分かれ具体的な進め方を検討				レポートの作成（4時間）				
8	実践活動	地区において実践的な活動を行う				報告書作成・関連情報の収集（4時間）				
9	実践活動	地域において具体的な活動を行う				報告書作成・関連情報の収集（4時間）				
10	実践活動	地域において具体的な活動を行う				報告書作成・関連情報の収集（4時間）				
11	実践活動	地域において具体的な活動を行う				報告書作成・関連情報の収集（4時間）				
12	実践活動	地域において具体的な活動を行う				報告書作成・関連情報の収集（4時間）				
13	前期の振り返り	前期の活動を検証し課題を検討する				レポート作成（4時間）				
14	前期の振り返り	前期の活動を検証し課題を検討する				レポート作成（4時間）				
15	後期に向けての計画策定	後期の活動や学習内容について検討を行う				計画書の作成（4時間）				
16	活動報告	地域を対象として活動の報告を行う				事前に資料等の作成（4時間）				
17	実践活動	地域において具体的な活動を行う				報告書作成・関連情報の収集（4時間）				
18	実践活動	地域において具体的な活動を行う				報告書作成・関連情報の収集（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	実践活動	地域において具体的な活動を行う	報告書作成・関連情報の収集（4時間）
20	実践活動	地域において具体的な活動を行う	報告書作成・関連情報の収集（4時間）
21	実践活動	地域において具体的な活動を行う	報告書作成・関連情報の収集（4時間）
22	実践活動	地域において具体的な活動を行う	報告書作成・関連情報の収集（4時間）
23	実践活動	地域において具体的な活動を行う	レポート作成（4時間）
24	実践活動	地域において具体的な活動を行う	レポート作成（4時間）
25	実践活動	地域において具体的な活動を行う	レポート作成（4時間）
26	実践活動	地域において具体的な活動を行う	レポート作成（4時間）
27	後期の振り返り	後期の活動を検証し課題を検討する	レポート作成（4時間）
28	後期の振り返り	後期の活動を検証し課題を検討する	レポート作成（4時間）
29	次年度に向けて	次年度の活動計画の作成	報告書の作成（4時間）
30	次年度に向けて	地域に対する活動報告会と今後の活動についての検討会	報告書の作成（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
テキストはプリントを用意する		課題：50% 受講態度：50% 受講態度は、取り組むプロジェクトへの参加度合いをもとに評価をします。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「松本大生がかかわったまちづくり」白戸ゼミナール編著（松本大学出版会）		コミュニティ・ビジネス、NPO、地域ブランド、地域振興と観光については必ず履修すること。地域での活動は講義時間内にとどまらないため、本気で関わりたい学生の履修をすすめたい。	

科目名	専門研究		学年学期	3年通年	単位数	4	ナバリング	TL36094	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	前期：木曜日1限 後期：木曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
福祉領域の専門研究を行う内容とします。今年度は、生活困窮者自立支援法が4月1日に施行されたのを受け、生活困窮者を対象とした事業の適切なあり方、松本地域の取り組みの特徴など調査しまとめることとします。第二のセーフティネットとして位置付けられる新規事業を創設期から取り組むこととします。										
<b>学修到達目標</b>										
生活困窮者自立支援法の法的根拠となっている対象の定義、支援内容を概念的に理解することを目標とします。次に、実際の取り組みとして存在する松本地域の実態を把握して、この制度が抱える課題と今後の将来設計をまとめます。										
<b>授業の進め方</b>										
制度の概念整理を行う前半は学校内、講義中心で進めます。後半は、実態調査など実際の支援現場を訪問し調査、必要に応じて聞き取りなどの現状把握を学外で展開する計画です。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	概要説明				事前に生活困窮者自立支援法を通読、事後に確認作業を行う。（事前3時間事後1時間）				
2	報告	2014年松本市における調査報告				事前に報告書の通読、事後に課題の整理を行う。（事前3時間事後1時間）				
3	概要把握	支援活動者の報告を聞く（生存を支える会）				事前に活動下調べ、事後にまとめを行う。（事前3時間事後1時間）				
4	課題分析	グループディスカッションによる課題分析、課題抽出等				事前に課題予測、事後に課題をまとめる。（事前3時間事後1時間）				
5	法理解	生活困窮者自立支援法理解				事前に法通読し、事後に理解した点のまとめを行う。（事前3時間事後1時間）				
6	実態調査	緊急的生活支援の実態調査の実施				事前に緊急的生活支援の下調べ、事後にまとめ。（事前2時間事後2時間）				
7	実態調査	学習支援の実態調査の実施				事前に学習支援の下調べ、事後にまとめ。（事前2時間事後2時間）				
8	実態調査	就労準備支援の実態調査の実施				事前に就労準備支援の下調べ、事後にまとめ。（事前2時間事後2時間）				
9	実態調査	家計相談支援の実態調査の実施				事前に家計相談支援の下調べ、事後にまとめ。（事前2時間事後2時間）				
10	必須事業調査	相談支援事業の位置付け				事前に必須事業の下調べ、事後に必須事業のまとめを行う。（事前2時間事後2時間）				
11	必須事業調査	相談支援事業の実際				事前に必須事業の実際共有化、事後に必須事業のまとめを行う。（事前2時間事後2時間）				
12	実証実験	安曇野市における学習支援の実証実験				事前に位置付けを学ぶ、事後に実験に向けた準備を行う。（事前2時間事後2時間）				
13	実証実験	安曇野市における学習支援の実証実験				事前に実験の準備、事後に次回の取り組み準備を行う。（事前2時間事後2時間）				
14	実証実験	安曇野市における学習支援の実証実験				事前にこれまでのかかわり整理し、事後に活動のまとめを行う。（事前2時間事後2時間）				
15	学習支援まとめ	安曇野市における学習支援の活動まとめ				事前にまとめの論点整理し、事後に記録としてまとめる作業を行う（事前2時間事後3時間）				
16	任意事業の実証実験	就労準備支援、家計相談支援、緊急生活支援の概要説明				事前に任意事業下調べ、事後にまとめを行う。（事前2時間事後3時間）				
17	任意事業の実証実験	就労準備支援（労協ながの）				事前に支援の下調査、事後に整理してまとめる。（事前2時間事後3時間）				
18	任意事業の実証実験	就労準備支援（労協ながの）				事前に支援の下調査、事後に整理してまとめる。（事前2時間事後3時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	任意事業の実証実験	家計相談支援（友の会）	事前に支援の下調査、事後に整理してまとめる。（事前2時間事後3時間）
20	任意事業の実証実験	家計相談支援（友の会）	事前に支援の下調査、事後に整理してまとめる。（事前2時間事後3時間）
21	任意事業の実証実験	緊急生活支援（生存を支える会）	事前に支援の下調査、事後に整理してまとめる。（事前2時間事後3時間）
22	任意事業の実証実験	緊急生活支援（生存を支える会）	事前に支援の下調査、事後に整理してまとめる。（事前2時間事後3時間）
23	任意事業の展開	福祉バンクの可能性を探る	事前の調査を行い、事後の発見を整理する。（事前3時間事後3時間）
24	任意事業の展開	その他事業の可能性を探る	事前の調査を行い、事後の発見を整理する。（事前3時間事後3時間）
25	必須事業の実証実験	相談支援事業の実際（まいさば）	事前に下調査を行い、事後の発見課題を整理する。（事前3時間事後3時間）
26	必須事業の実証実験	相談支援事業の実際（まいさば）	事前に下調査を行い、事後の発見課題を整理する。（事前3時間事後3時間）
27	必須事業の実証実験	相談支援事業の実際（まいさば）	事前に下調査を行い、事後の発見課題を整理する。（事前3時間事後3時間）
28	まとめ	安曇野市の学習支援1年間の経緯まとめ	事前に取り組みの整理、事後に報告書を作成する。（事前3時間事後3時間）
29	まとめ	松本市の生活困窮者支援への取り組みまとめ	事前に取り組みの整理、事後に報告書を作成する。（事前3時間事後3時間）
30	提言	安曇野市、松本市へ提言をまとめる	事前に論点整理し、事後に提言実行の準備を行う。（事前3時間事後3時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「改正生活保護法・生活困窮者自立支援法のポイント」中央法規出版編集部編（中央法規） ISBN:978-4-805803976-8（別途、指示します。） その他、必要に応じて指示します。		出席レポート：70% 課題：30% S：レポートおよび課題の提出と内容のすべてが95%以上 A：レポートおよび課題の提出と内容のすべてが80%以上 B：レポートおよび課題の提出と内容のすべてが70%以上 C：レポートおよび課題の提出と内容のすべてが60%以上 レポートと課題は各講義の内容に即してその都度指示します。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
福祉関連白書など紹介、指示を必要に応じて行います。		従来のゼミナールのあり方と異なりますのでご注意ください。	

科目名	卒業研究		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパ'リング	TL46095	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスア-	前期：月曜日4限、金曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
3年次の専門研究を通じて身につけた知識・技術をもとに、卒業論文の作成に向けた授業となる。										
学修到達目標										
基本的な構成を踏襲し、多少なりとも学術的な意味を持つ卒業論文を完成させること。										
授業の進め方										
全体の3分の1は、卒業論文を完成させるために、全員共通に必要な内容で授業を行う。卒業論文のテーマは履修者ごとに異なるので、随時、各自の卒論の進捗状況についての報告を行う。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文に向けて	論文の一般的な構成についての学習				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
2	卒業論文に向けて	研究史の把握				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
3	卒業論文に向けて	先行研究についての検討				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
4	履修者による発表	履修者からの進捗状況報告				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
5	履修者による発表	履修者からの進捗状況報告				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
6	履修者による発表	履修者からの進捗状況報告				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
7	資料調査の方法	卒論テーマに沿った資料調査の方法についての解説				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
8	資料調査の方法	卒論テーマに沿った資料調査の方法についての解説				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
9	資料調査の方法	卒論テーマに沿った資料調査の方法についての解説				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
10	資料調査の実践	資料調査の実践				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
11	資料調査の実践	資料調査の実践				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
12	資料調査の実践	資料調査の実践				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
13	資料の検討	収集した資料を卒論テーマに沿って検討				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
14	資料の検討	収集した資料を卒論テーマに沿って検討				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
15	資料の検討	収集した資料を卒論テーマに沿って検討				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
16	資料の解説	検討した資料の必要部分を解説				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
17	資料の解説	検討した資料の必要部分を解説				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				
18	資料の解説	検討した資料の必要部分を解説				事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	資料の解説	検討した資料の必要部分を解説	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
20	資料の解説	検討した資料の必要部分を解説	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
21	資料の解説	検討した資料の必要部分を解説	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
22	卒論の文章を学ぶ	卒論の執筆に入り、文章を子細に学び、検討する	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
23	卒論の文章を学ぶ	卒論の執筆に入り、文章を子細に学び、検討する	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
24	卒論の文章を学ぶ	卒論の執筆に入り、文章を子細に学び、検討する	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
25	卒論の文章を学ぶ	卒論の執筆に入り、文章を子細に学び、検討する	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
26	卒論についての発表	ほぼ完成した卒論を各自が発表する	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
27	卒論についての発表	ほぼ完成した卒論を各自が発表する	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
28	卒論についての発表	ほぼ完成した卒論を各自が発表する	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
29	卒論についての発表	ほぼ完成した卒論を各自が発表する	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
30	卒論についての発表	ほぼ完成した卒論を各自が発表する	事前、指定したテキストを熟読(2時間)。事後、授業での指摘事項を調べる(2時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
「くずし辞典（机上版）」児玉 幸多編（東京堂出版）（別途、指示します。） 特になし。		定期試験：50% レポート：50% S:授業の内容を十分理解し、卒業論文の水準が極めて高い。A:授業の内容を理解し卒業論文の水準が高い。B:授業の内容をほぼ理解し、学士に相応しい卒業論文である。C:授業の内容を6割程度理解し、満足できる卒業論文を提出している。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「くずし辞典（普及版）」児玉 幸多編（東京堂出版）		事前・事後学習を徹底すること。	

科目名	卒業研究		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	TL46095	研究室	W-34
担当者	白戸 洋		必修選択	選択必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
まちづくりについて実践的な活動を通じて現状と課題を肌で感じ、地域の人々と一緒に街づくりに取り組む。その成果を検証し卒業論文としてまとめる。										
学修到達目標										
まちづくりに必要な理論・実践両面の能力を身に付け、主体的に関わる姿勢を涵養する。										
授業の進め方										
松本市の上士商店街およびアルプス口周辺のまちづくりの活動に継続的に参画し、その成果を卒業論文としてとりまとめる。大学での講義とフィールドワークにより研究に取り組む。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	研究テーマの検討				研究テーマの選択に必要な情報を収集 4時間				
2	研究テーマの設定	個別の研究テーマを設定しテーマごとにグループ分けを行う				検討内容に関するレポートの作成 4時間				
3	研究テーマの設定	テーマ別のグループでの研究テーマの検討				検討内容に関するレポートの作成 4時間				
4	卒業研究の実施計画の策定	個別の研究テーマに沿って各テーマ別の実施計画を策定				テーマ別実施計画書の策定 4時間				
5	卒業研究の実施計画の策定	各地区別の実施計画に沿って全体計画の策定				実施計画書の策定 4時間				
6	フィールドワーク	実施計画に沿ってフィールドワークを実施				フィールドワークの結果に関する報告メモの作成 4時間				
7	フィールドワーク	実施計画に沿ってフィールドワークを実施				フィールドワークの結果に関する報告メモの作成 4時間				
8	フィールドワーク	実施計画に沿ってフィールドワークを実施				フィールドワークの結果に関する報告メモの作成 4時間				
9	フィールドワークの総括	フィールドワークの結果のとりまとめ				フィールドワークの結果に関する報告メモの作成 4時間				
10	フィールドワークの総括	フィールドワークの結果のとりまとめ				フィールドワークの結果に関する報告メモの作成 4時間				
11	研究方法の検討	研究手法についての検討				作業報告書の作成 4時間				
12	研究方法の検討	研究手法についての検討				作業報告書の作成 4時間				
13	先行研究の検討	関連する先行研究を調査し内容を検討				作業報告書の作成 4時間				
14	先行研究の検討	関連する先行研究を調査し内容を検討				作業報告書の作成 4時間				
15	卒業研究のテーマの決定	卒業研究のテーマを決定し夏期休暇中の作業の計画を策定				今後の作業計画の策定 4時間				
16	研究の中間報告	研究の進捗について報告しディスカッションを行う				報告用レポートの作成 4時間				
17	研究の中間報告	研究の進捗についてディスカッションを行い研究計画を見直す				研究計画の修正 4時間				
18	卒業論文の概要の検討	卒業論文のテーマ、構成、概要等を検討し決定する				卒業論文の目次の作成 4時間				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	卒業研究の作成	データー収集・フィールドワーク、調査などの作業	作業報告書の作成 4時間
20	卒業研究の作成	データー収集・フィールドワーク、調査などの作業	作業報告書の作成 4時間
21	卒業論文の執筆	グループごと、各自での卒業論文の執筆	進捗報告書の作成 4時間
22	卒業論文の執筆	グループごと、各自での卒業論文の執筆	進捗報告書の作成 4時間
23	卒業論文の執筆	グループごと、各自での卒業論文の執筆	進捗報告書の作成 4時間
24	卒業論文のとりまとめ	卒業論文の原案の検討	検討事項に関する検討 8時間
25	卒業論文のとりまとめ	卒業論文の原案の検討	卒業論文の原案の修正 8時間
26	卒業論文のとりまとめ	卒業論文の最終構成の検討	追加資料の収集 8時間
27	卒業論文のとりまとめ	卒業研究の内容の検討	卒業研究の修正 8時間
28	卒業論文の発表準備	卒業論文の発表に向けての資料作成	発表用パワーポイントの作成 8時間
29	卒業論文の発表準備	卒業論文の発表に向けての資料作成	発表用資料の作成 8時間
30	総括	卒業研究全体の総括と自己評価の実施	自己評価報告書の作成 8時間
テキスト		成績評価の方法・基準	
プリントを配布します。		レポート：80% 課題：20% レポートとは卒業論文で、課題は各種報告書である。S:卒業論文について新しい知見を提起できる A:卒業論文について独創的な視点で論理展開が明確 B:卒業論文について論理展開が明確 C:卒業論文が提出されている（実践活動に参画が前提）	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「松本大生がかかわったまちづくり」白戸ゼミナール編（松本大学出版会）		自らの興味関心を持って主体的に取り組むことを期待する。	

科目名	卒業研究			学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	TL46095	研究室	W-33
担当者	増尾 均			必修選択	選択必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
本講義は、民法・刑法・商法・訴訟法などの国内法だけでなく、国際法を含む広範囲に及びます。これらの法領域で生じる問題は、学生生活あるいは社会生活を送る上で起こり易く、これらの法律の基礎知識を学ぶことは、現在および将来に役立つことと思います。したがって、公務員希望者・行政書士などの法律資格を目指す者のみならず、観光・地域・福祉を法律の視点から学びたい学生も対象としています。											
学修到達目標											
さまざまな法律知識を修得するだけでなく、卒業論文を作成し、地域活動という実行力をも身につけ、企業人あるいは社会人として地域社会の発展に寄与できる能力の育成を目的としている。											
授業の進め方											
卒論指導のため、学生ごとの個別指導となります。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	研究テーマの検討	研究テーマを見つけるための指導					研究テーマの確認(4時間)				
2	研究テーマの検討	研究テーマを見つけるための指導					研究テーマの確認(4時間)				
3	研究テーマの検討	研究テーマを見つけるための指導					研究テーマの確認(4時間)				
4	研究テーマの決定	研究テーマを決める					研究テーマの確認(4時間)				
5	研究テーマの決定	研究テーマを決める					研究テーマの確認(4時間)				
6	資料収集準備	どのような書籍などを利用するか検討する					必要となる本などのチェック(4時間)				
7	データ収集準備	どのようなデータが必要か検討する					必要となるデータをリスト化する(4時間)				
8	資料収集	資料を集めて検討する					資料を読む(4時間)				
9	資料収集	資料を集めて検討する					資料を読む(4時間)				
10	データ収集	データを集めて検討する					資料を整理する(4時間)				
11	データ収集	データを集めて検討する					資料を整理する(4時間)				
12	データと資料のチェック	集め忘れたデータ及び資料はないかチェックする					データ・資料のチェック(4時間)				
13	論文構成の検討	論文をどう構成するか検討する					論文の整理(4時間)				
14	論文構成の検討	論文をどう構成するか検討する					論文の整理(4時間)				
15	論文構成の検討	論文をどう構成するか検討する					論文の整理(4時間)				
16	論文内容の検討	内容のチェックをする					論文骨子の検討(4時間)				
17	論文内容の検討	内容のチェックをする					論文骨子の検討(4時間)				
18	論文内容の検討	内容のチェックをする					論文内容の検討(4時間)				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	論文内容の検討	内容のチェックをする	論文内容の検討(4時間)
20	論文指導	論文の進捗状況のチェックと指導	論文作成(4時間)
21	論文指導	論文の進捗状況のチェックと指導	論文作成(4時間)
22	論文指導	論文の進捗状況のチェックと指導	論文作成(4時間)
23	学生相互の論文チェック	論文内容についてのディスカッション	他人の論文を読む(4時間)
24	学生相互の論文チェック	論文内容についてのディスカッション	他人の論文を読む(4時間)
25	論文指導	論文の進捗状況のチェックと指導	論文作成(4時間)
26	論文指導	論文の進捗状況のチェックと指導	論文作成(4時間)
27	論文指導	論文の進捗状況のチェックと指導	論文作成(4時間)
28	論文提出	論文提出と最終チェック	論文の最終修正(4時間)
29	卒論発表会の準備	卒論発表会のプレゼン内容を指導して準備する。	プレゼンの準備(4時間)
30	卒論発表会の準備	卒論発表会のプレゼンの練習	プレゼンの準備(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
別途指示します。		課題：100% Sは授業内容を高度に理解して課題や発展的問題が解ける。Aは授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。Bは授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。Cは授業内容の6割程度を理解している。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
なし		身近で利用頻度の高い法律を学ぶ以上、常に問題意識を持って授業に臨み、今後の大学生活および社会生活に役立ててください。	

科目名	卒業研究			学年学期	4年通年	単位数	4	ナパ'リング	TL46095	研究室	W-26
担当者	山根 宏文			必修選択	選択必修	科目種別	演習	オフィスア-	前期：水曜日1限 後期：水曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
前期は、地域ブランドづくり（創造）を観光振興・文化イベント企画実施・旅行企画の3つのテーマにて研究・実践し、地域ブランドづくりにおいての大切なことを総合的に学びます。後期は各自にて卒論研究テーマを決め、骨子を決め、作成し、プレゼン指導を行います。											
学修到達目標											
最終的には、卒業論文を作成し、プレゼンができることを目標とします。											
授業の進め方											
個々に応じた指導をします。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容				事前事後学修					
1	地域ブランドづくり	男性長寿日本一を活かした（松川）村づくり	観光と健康・食			松川村の魅力についてまとめる（事前事後4時間）					
2	地域ブランドづくり	男性長寿日本一を活かした（松川）村づくり	観光と健康・食			健康と食をテーマにした地域づくりについて学修する（事前事後4時間）					
3	地域ブランドづくり	男性長寿日本一を活かした（松川）村づくり	観光と健康・食			健康と食をテーマにした地域づくりについて学修する（事前事後4時間）					
4	地域ブランドづくり	男性長寿日本一を活かした（松川）村づくり	観光と健康・食			健康と食をテーマにした地域づくりについて学修する。（事前事後4時間）					
5	地域ブランドづくり	男性長寿日本一を活かした（松川）村づくり	観光と健康・食			健康と食をテーマにした地域づくりについて学修する。（事前事後4時間）					
6	地域イベントプロデュース	地域イベント企画（てるてる坊主アート展）	募集策について			募集策の検討（事前事後4時間）					
7	地域イベントプロデュース	地域イベント企画（てるてる坊主アート展）	募集策について			募集策の検討（事前事後4時間）					
8	地域イベントプロデュース	地域イベント企画（てるてる坊主アート展）	運営について			イベント企画・運営について学修する。（事前事後4時間）					
9	地域イベントプロデュース	イベント企画（てるてる坊主アート展）	運営について			イベント企画・運営について学修する。（事前事後4時間）					
10	観光地 旅プロデュース	安曇野観光振興策・旅行企画				観光企画作成（事前事後4時間）					
11	観光地 旅プロデュース	安曇野観光振興策・旅行企画				観光企画作成（事前事後4時間）					
12	観光地 旅プロデュース	安曇野観光振興策・旅行企画				観光企画作成（事前事後4時間）					
13	観光地 旅プロデュース	安曇野観光振興策・旅行企画				観光企画作成（事前事後4時間）					
14	観光地 旅プロデュース	安曇野観光振興策・旅行企画				観光企画作成（事前事後4時間）					
15	まとめ	ゼミ活動の振り返り				ゼミ活動の振り返り（事前事後4時間）					
16	研究テーマ検討	ゼミ活動を振り返り研究テーマを見出すためのディスカッション・指導				2年間の研究テーマの確認（事前事後4時間）					
17	研究テーマ検討	ゼミ活動を振り返り研究テーマを見出すためのディスカッション・指導				2年間の研究テーマの確認（事前事後4時間）					
18	研究テーマ検討	ゼミ活動を振り返り研究テーマを見出すためのディスカッション・指導				研究テーマの確認（事前事後4時間）					

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	研究テーマ検討	研究テーマを決定させる	論文骨子の検討 (事前事後4時間)
20	論文内容の検討	論文骨子の検討	論文骨子の検討 (事前事後4時間)
21	論文内容の検討	論文内容の検討	論文骨子の検討 (事前事後4時間)
22	論文作成のチェック	論文作成の進捗状況チェック・指導・アドバイス	論文作成 (事前事後4時間)
23	論文作成のチェック	論文作成の進捗状況チェック・指導・アドバイス	論文作成 (事前事後4時間)
24	論文作成のチェック	論文作成の進捗状況チェック・指導・アドバイス	論文作成 (事前事後4時間)
25	論文作成のチェック	論文作成の進捗状況チェック・指導・アドバイス	論文作成 (事前事後4時間)
26	論文作成のチェック	論文作成の進捗状況チェック・指導・アドバイス	論文作成 (事前事後4時間)
27	論文作成のチェック	論文作成の進捗状況チェック・指導・アドバイス	論文作成 (事前事後4時間)
28	論文作成のチェック	論文作成の進捗状況チェック・指導・アドバイス	論文作成 (事前事後4時間)
29	論文提出	論文提出および最終チェック	論文修正 (事前事後4時間)
30	卒論発表会プレゼン準備	卒論発表プレゼンの準備と指導	プレゼンの準備と指導 (事前事後4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自で卒論内容に適した書物を選択する。		出席レポート：30% 定期試験：70% S：授業内容を高度に理解し提案力が特に優れている。 A：授業内容を高度に理解し探究心、提案力が優れている。 B：授業内容をおおよそ理解し探究心、提案力がある。 C：授業内容をおおよそ理解し、探究心、提案力が60%程度である。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自で卒論内容に適した書物を選択する。		積極的に研究したい学生の受講を希望します。	

科目名	卒業研究			学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング	TL46095	研究室	W-17
担当者	益山 代利子			必修選択	選択必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日2限 後期：月曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
企業のサービス経営事例調査、ホスピタリティの実践例の調査・分析、国際観光の実態調査、ブライダル業界の調査、観光まちづくりなどの分野から調査内容を決定し、論文制作と研究発表の指導を行います。											
学修到達目標											
文献論旨の整理・分析ができ、社会調査法を用いた論文制作、論文発表ができる。											
授業の進め方											
前期は社会調査法の見直しを行い、特徴的なホスピタリティを実践している企業を訪問し、聞き取り調査と施設内でのフィールドワークを行います。後期は、長野県内のサービス企業を取り上げ、その企業のホスピタリティに関する論文制作を行います。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	既存論文を読む	観光・ホスピタリティに関する論文を読み、論旨のまとめ方を学ぶ					既存論文の論旨をまとめる(4時間)				
2	既存論文を読む	観光・ホスピタリティに関する論文の論旨を整理・発表する					既存論文の論旨をまとめる(4時間)				
3	文献検索	情報センターにて研究対象の文献検索を行う					文献を整理する(4時間)				
4	文献調査	先行研究の論旨の整理・発表					先行研究論文のまとめ(4時間)				
5	文献調査	先行研究の論旨の整理・発表					先行研究論文のまとめ(4時間)				
6	文献調査	先行研究の論旨の整理・発表					先行研究論文のまとめ(4時間)				
7	文献調査	先行研究の文献引用、テキスト批判					関連文献をまとめる(4時間)				
8	観察調査・聞き取り調査法	社会調査法の中の観察調査・聞き取り調査法の要点整理					社会調査法のテキストを読む(4時間)				
9	企業訪問事前学習	訪問企業の概要、ホスピタリティの特徴についての事前調査					レジュメ作成(4時間)				
10	企業訪問事前学習	訪問企業のフィールドワーク調査の内容を整理					レジュメ作成(4時間)				
11	企業訪問事前学習	訪問企業関係者を招き、特別講座を実施					報告書作成(4時間)				
12	訪問企業事前学習	訪問企業の質問票の整理					質問票の作成(4時間)				
13	フィールドワーク	企業訪問実践(アウトキャンパス)					報告書作成(4時間)				
14	企業訪問調査発表	フィールドワークの結果報告					報告書作成(4時間)				
15	企業訪問調査発表	フィールドワークの結果報告					報告書作成(4時間)				
16	研究対象企業の探索	長野県内でホスピタリティを実践する企業を探索します					資料収集とレジュメ作成(4時間)				
17	企業調査	長野県内でホスピタリティを実践する企業についての報告					企業調査報告書の作成(4時間)				
18	企業調査	長野県内でホスピタリティを実践する企業への質問票の作成					対象企業の質問項目の選定(4時間)				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	企業訪問	企業訪問実践	報告書作成(4時間)
20	研究テーマの決定	前期訪問した企業と後期の企業とを比較し、研究テーマを絞る	論文骨子の洗い出し(4時間)
21	論文骨子の検討	論文骨子についてのディスカッション	論文骨子の作成(4時間)
22	論文骨子の検討	論文骨子についてのディスカッション・仮説の検討	論文骨子の作成(4時間)
23	論文作成	論文の構成検討、序論の検討(背景、目的、仮説、調査方法)	序論の執筆(4時間)
24	論文作成	序論の発表(背景、目的、仮説、調査方法)	序論の執筆(4時間)
25	論文作成	本論の構成検討	本論の執筆(4時間)
26	論文作成	本論の発表、意見交換	本論の執筆(4時間)
27	論文作成	本論の発表、議論	本論の執筆(4時間)
28	論文確認	暫定論文の発表、議論	暫定論文の提出(4時間)
29	論文確認	論文の修正、議論	暫定論文の提出(4時間)
30	論文提出	完成版論文の最終見直し	完成版論文提出(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
「レポート・論文の書き方入門第3版」河野哲也著(慶應義塾大学出版会) ISBN:4-7664-0969-8(生協で購入してください。)		課題:100% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解け、他の学生の前で発表できる。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって内容に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)	
「アンケート調査と統計解析がわかる本」酒井隆著(日本能率協会マネジメントセンター) ISBN:4-8207-4181-0		「社会調査論」の講義を受講していることが望ましい。	

科目名	卒業研究		学年学期	4年通年	単位数	4	ナバ'リング	TL46095	研究室	W-29
担当者	畑井 治文		必修選択	選択必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
<p>本科目（卒業研究）では、3年次に学んだ専門研究の内容（地域デザイン）をさらに発展させて、それを卒業論文としてまとめていくことを目的としています。「地域デザイン」という分野の中から学生が自らの力で研究テーマを見つけ出すこと、これが本科目（卒業研究）の出発点となります。なお、「卒業研究発表会」において卒業論文の要旨を口頭発表することが履修者全員に求められます。</p>										
<b>学修到達目標</b>										
<p>大学生生活の集大成として「卒業論文を仕上げること」が最大の目標です。なお、その過程を通じて、研究を進めていく上で必要な情報収集力、論理的思考力、文章表現力、プレゼンテーション力などを身につけることも学修到達目標のひとつです。</p>										
<b>授業の進め方</b>										
<p>文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク、ディスカッションなど、さまざまな形態を取り入れながら授業を進めます。基本的には学生個人に対する個別指導が中心となってきます。</p>										
<b>授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	卒業研究の進め方について説明します。				卒業論文の作成スケジュールの確認、研究テーマの明確化を進めておいて下さい。（4時間）				
2	研究テーマの検討	研究テーマの妥当性（何をどこまで明らかにするのか、既存研究との相違点など）について検討します。				検討結果を踏まえて、研究テーマの再考、既存研究のリサーチを進めてきて下さい。（4時間）				
3	研究テーマの検討	研究テーマの妥当性（何をどこまで明らかにするのか、既存研究との相違点など）について検討します。				検討結果を踏まえて、研究テーマの再考、既存研究のリサーチを進めてきて下さい。（4時間）				
4	研究テーマの検討	研究テーマの妥当性（何をどこまで明らかにするのか、既存研究との相違点など）について検討します。				研究計画書をとりまとめるのと同時に、卒業論文の構成を考えてきて下さい。（4時間）				
5	卒業論文の構成（章立て）の検討	卒業論文の構成（章立て）を検討するのと同時に、研究テーマに関連する資料・データの収集について指導します。				卒業論文の構成を考えてきて下さい。また資料・データの収集を進めてきて下さい。（4時間）				
6	卒業論文の構成（章立て）の検討	卒業論文の構成（章立て）を検討するのと同時に、研究テーマに関連する資料・データの収集について指導します。				卒業論文の構成を考えてきて下さい。また資料・データの収集を進めてきて下さい。（4時間）				
7	資料・データの収集や整理	研究テーマに関連する資料・データの収集状況について報告してもらうのと同時に、資料・データのまとめ方を指導します。				資料・データの整理を進めてきて下さい。（4時間）				
8	資料・データの収集や整理	研究テーマに関連する資料・データの収集状況について報告してもらうのと同時に、資料・データのまとめ方を指導します。				資料・データの整理を進めてきて下さい。（4時間）				
9	資料・データの収集や整理	研究テーマに関連する資料・データの収集状況について報告してもらうのと同時に、資料・データのまとめ方を指導します。				資料・データの整理を進めてきて下さい。（4時間）				
10	調査活動の推進	研究テーマに応じて、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワークなどの調査活動を進めます。				調査活動（結果）の整理を進めてきて下さい。（4時間）				
11	調査活動の推進	研究テーマに応じて、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワークなどの調査活動を進めます。				調査活動（結果）の整理を進めてきて下さい。（4時間）				
12	調査活動の推進	研究テーマに応じて、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワークなどの調査活動を進めます。				調査活動（結果）の整理を進めてきて下さい。（4時間）				
13	調査活動の推進	研究テーマに応じて、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワークなどの調査活動を進めます。				調査活動（結果）の整理を進めてきて下さい。（4時間）				
14	調査活動の推進	研究テーマに応じて、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワークなどの調査活動を進めます。				調査活動（結果）の整理を進めてきて下さい。また中間発表の準備をしてきて下さい。（4時間）				
15	調査活動の進捗状況の報告会（中間発表）	調査活動の進捗状況について確認するとともに、必要に応じて、研究計画書や作成スケジュールの見直しを行います。				指摘事項を踏まえて、研究計画書や作成スケジュールの修正作業に取り組んで下さい。（4時間）				
16	論文の書き方	論文の書き方（論文の構成、本文の組み立て方など）について解説します。				「論文の書き方」の資料を熟読してきて下さい。卒業論文の執筆に着手して下さい。（4時間）				
17	論文の書き方	論文の書き方（注、引用、文献表のつけ方など）について解説します。				「論文の書き方」の資料を熟読してきて下さい。卒業論文の執筆に着手して下さい。（4時間）				
18	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理作業、調査活動の分析作業を進めるのと同時に、完成した章（部分）から論文の作成指導を行います。				指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）			事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理事業、調査活動の分析作業を進めるのと同時に、完成した章（部分）から論文の作成指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。（4時間）
20	卒業論文の作成指導	研究テーマに関連する資料・データの整理事業、調査活動の分析作業を進めるのと同時に、完成した章（部分）から論文の作成指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。（4時間）
21	卒業論文の作成指導（初稿の確認）	卒業論文の初稿を相互に読み合い検討します。また検討結果を踏まえて、個別指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。（4時間）
22	卒業論文の作成指導（初稿の確認）	卒業論文の初稿を相互に読み合い検討します。また検討結果を踏まえて、個別指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。（4時間）
23	卒業論文の作成指導（第2稿の確認）	卒業論文の第2稿を相互に読み合い検討します。また検討結果を踏まえて、個別指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。（4時間）
24	卒業論文の作成指導（第2稿の確認）	卒業論文の第2稿を相互に読み合い検討します。また検討結果を踏まえて、個別指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。（4時間）
25	卒業論文の作成指導（最終稿の確認）	卒業論文の最終稿を相互に読み合い検討します。また検討結果を踏まえて、個別指導を行います。	指導をもとに、卒業論文の作成を進めてきて下さい。（4時間）
26	卒業論文の作成指導（最終稿の確認）	卒業論文の最終稿を相互に読み合い検討します。また検討結果を踏まえて、個別指導を行います。	卒業論文を仕上げるのと同時に、卒業研究発表会に向けた準備に着手して下さい。（4時間）
27	卒業研究発表会のプレゼンテーション資料の作成	卒業研究発表会に向けて、卒業論文の要旨をまとめたプレゼンテーション資料の作成を進めます。	指導をもとに、プレゼンテーション資料の作成を進めてきて下さい。（4時間）
28	卒業研究発表会のプレゼンテーション資料の作成	卒業研究発表会に向けて、卒業論文の要旨をまとめたプレゼンテーション資料の作成を進めます。	指導をもとに、プレゼンテーション資料の作成を進めてきて下さい。（4時間）
29	卒業研究発表会の予行演習	卒業研究発表会に向けて、発表の予行演習を行います。発表の流れ、発表内容のポイント、発表時間の管理などを確認します。	卒業研究発表会に向けて、発表の練習を重ねてきて下さい。（4時間）
30	卒業研究発表会	卒業研究発表会にて、卒業論文の要旨を発表します。	卒業論文集に向けた印刷原稿を準備してきて下さい。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
研究テーマに合わせて、適時、必要な資料を配布します。		授業内及び卒業研究発表会での発表：30%、卒業論文：70% S：授業内容を高度に理解して発展的な課題に対応できる。A：授業内容を理解して応用的な課題に対応できる。B：授業内容をおおよそ理解して応用的な課題にはほぼ対応できる。C：授業内容の6割程度を理解している。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
研究テーマに合わせて、適時、必要な資料を紹介します。		研究室を事前に訪問し、十分に相談の上、履修の許可を得てから履修登録をして下さい。また指導の関係上、上記の授業計画を大幅に超える授業回数となることが予想されます。補講などに対しては、臨機応変に対応して下さい。	

科目名	卒業研究			学年学期	4年通年	単位数	4	ナパ'リング	TL46095	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
3年次の学習と研究を踏まえて、卒業論文作成に向けて学習と研究を進めます。そのために、憲法と行政法の判例・学説研究、卒業論文作成の技法について学びます。判例・学説研究では、法の下での平等（尊属殺事件、非嫡出子の相続分差別など）、幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権など）、表現の自由、信教の自由などの人権問題から議院内閣制、衆議院の解散、違憲審査制のあり方、安保法制などの憲法問題、およびマイナンバー制度、景観問題、国と地方公共団体の関係など行政法の問題を扱います。											
学修到達目標											
学士レベルにふさわしい卒業論文作成をすること。ゼミでの討論・共同作業ができるようになる。											
授業の進め方											
憲法と行政法の判例・学説研究を柱として、卒業論文の書き方、アウトキャンパスを適宜織り交ぜて行います。また、サブゼミでは公務員試験のために必要な問題演習や小論文作成の指導も行います。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	卒業研究の進行予定・進め方について					講義振り返り（4時間）				
2	法律用語・裁判用語の確認	基本的な法律用語と裁判用語の確認をしながら、法と裁判のしくみを確認します					テキストを読む（4時間）				
3	判例研究	憲法行政法の判例からゼミ生と協議の上で選択した判例を検討します					テキストを読む（4時間）				
4	判例研究	憲法行政法の判例からゼミ生と協議の上で選択した判例を検討します					テキストを読む（4時間）				
5	判例研究	憲法行政法の判例からゼミ生と協議の上で選択した判例を検討します					テキストを読む（4時間）				
6	アウトキャンパス	市街地調査向けの準備を行います					配布資料を読む（4時間）				
7	アウトキャンパス	市街地調査の実施					配布資料を読む（4時間）				
8	アウトキャンパス	アウトキャンパスの振り返りと法律的視点からの分析					実地調査のまとめ（4時間）				
9	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導					卒論の計画作成（4時間）				
10	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導					卒論の計画作成（4時間）				
11	判例研究	憲法行政法の判例からゼミ生と協議の上で選択した判例を検討します					テキストを読む（4時間）				
12	判例研究	憲法行政法の判例からゼミ生と協議の上で選択した判例を検討します					テキストを読む（4時間）				
13	判例研究	憲法行政法の判例からゼミ生と協議の上で選択した判例を検討します					テキストを読む（4時間）				
14	判例研究	憲法行政法の判例からゼミ生と協議の上で選択した判例を検討します					テキストを読む（4時間）				
15	卒論指導	夏休み期間中の卒論準備について					研究予定をまとめる（4時間）				
16	後期ガイダンス	卒論の進捗状況の報告と今後の計画					卒論作成（4時間）				
17	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導					卒論作成（4時間）				
18	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導					卒論作成（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導	卒論作成（4時間）
20	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導	卒論作成（4時間）
21	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導	卒論作成（4時間）
22	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導	卒論作成（4時間）
23	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導	卒論作成（4時間）
24	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導	卒論作成（4時間）
25	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導	卒論作成（4時間）
26	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導	卒論作成（4時間）
27	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導	卒論作成（4時間）
28	卒論指導	各自の卒論の中間報告と指導	卒論作成（4時間）
29	卒論指導	各自の卒論についての中間報告と指導	卒論作成（4時間）
30	卒論指導	各自の卒論についての最終報告と指導	卒論作成（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「ブレップ憲法訴訟」戸松秀典著（弘文堂） ISBN:978-4335313172（生協で購入してください。） 六法は各自持参すること		課題：70％ 受講態度：30％ S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。 B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60％程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「憲法学再入門」木村草太・西村裕一著（有斐閣） ISBN：978-4641131620		卒業論文を仕上げることは大学4年間だけでなく、小学校以来の教育課程の総仕上げでもあります。そこで、大学生らしい卒論を仕上げることで、そして仕上げるまでのプロセスを経験することが大変重要です。	

科目名	卒業研究		学年学期	4年通年	単位数	4	ナパ'リング	TL46095	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸		必修選択	選択必修	科目種別	演習	オフィスア-	前期：木曜日1限 後期：木曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
			A	B	C					
授業概要										
福祉に関連する研究課題を自ら発見し、その課題解決に向けたプロセスを歩みます。モニタリングから計画、そして実行の一連の取り組みを最終的には論文として仕上げます。研究課題は、3年までの学びの中で整理し予め焦点を絞ってから取り組むことを進めます。										
学修到達目標										
モニタリング、ニーズ把握、計画、実行までの一連の援助過程に沿ったものを分析し論文として最終的には仕上げることを目標とします。また、基礎的な小論文の書き方については自己対策し、内容にあわせた書き方を身に付けることを目指します。										
授業の進め方										
まず課題の整理をします。関連した福祉課題を分析し、不足な内容は新たな情報や資料を追加するなどの作業を前半には行ってもらいます。後半は、論文執筆を中心に進めます。途中でも評価を行い、逐次見直しを繰り返していきます。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス	福祉課題の整理、論点整理				事前に課題のまとめをし、事後に決定事項についてまとめる。（事前3時間事後1時間）				
2	課題整理	福祉課題の整理				事前の取り組みの整理、事後に決定事項のまとめ。（事前3時間事後1時間）				
3	基礎的取り組み	課題の分析				事前の取り組みの整理、事後に決定事項のまとめ。（事前3時間事後1時間）				
4	基礎的取り組み	課題の分析				事前の取り組みの整理、事後に決定事項のまとめ。（事前3時間事後1時間）				
5	基礎的取り組み	実証実験				事前の取り組みの整理、事後に決定事項のまとめ。（事前3時間事後1時間）				
6	基礎的取り組み	資料収集、データ収集				事前の取り組みの整理、事後に決定事項のまとめ。（事前2時間事後2時間）				
7	基礎的取り組み	資料収集、データ収集				事前の取り組みの整理、事後に内容のまとめ。（事前2時間事後2時間）				
8	執筆	前半部の執筆				事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前2時間事後2時間）				
9	執筆	前半部の執筆				事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前2時間事後2時間）				
10	執筆	前半部の執筆				事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前2時間事後2時間）				
11	執筆	後半部の執筆				事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前2時間事後2時間）				
12	執筆	後半部の執筆				事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前2時間事後2時間）				
13	執筆	後半部の執筆				事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前2時間事後2時間）				
14	論文まとめ	完成文のチェック、再確認等				事前に進捗取りまとめ、事後に最終確認する。（事前2時間事後2時間）				
15	論文まとめ	完成文のチェック、再確認等				事前に進捗取りまとめ、事後に最終確認する。（事前2時間事後2時間）				
16	中間評価	完成文のチェック、再確認等				事前に進捗取りまとめ、事後に最終確認する。（事前1時間事後3時間）				
17	中間評価	完成文のチェック、再確認等				事前に進捗取りまとめ、事後に最終確認する。（事前1時間事後3時間）				
18	執筆	後半部の執筆				事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前1時間事後3時間）				

授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	執筆	後半部の執筆	事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前1時間事後3時間）
20	執筆	後半部の執筆	事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前1時間事後3時間）
21	執筆	後半部の執筆	事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前1時間事後3時間）
22	執筆	後半部の執筆	事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前1時間事後3時間）
23	完成まとめ	全体整理最終校正	事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前1時間事後3時間）
24	完成まとめ	全体整理最終校正	事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前2時間事後3時間）
25	完成まとめ	全体整理最終校正	事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前2時間事後3時間）
26	プレゼン準備	卒業発表会の準備	事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前2時間事後3時間）
27	プレゼン準備	卒業発表会の準備	事前の取り組みの整理、事後に執筆内容のまとめ。（事前2時間事後3時間）
28	最終全体評価	自己整理	事前の取り組みの整理、事後に全体内容のまとめ。（事前2時間事後3時間）
29	最終全体評価	指導教官伴う整理	事前の取り組みの整理、事後に全体内容のまとめ。（事前2時間事後3時間）
30	最終全体評価	指導教官伴う整理	事前の取り組みの整理、事後に全体内容のまとめ。（事前2時間事後3時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
別途指示します。		レポート：50% 課題：50% S：レポートおよび課題の提出と内容のすべてが95%以上 A：レポートおよび課題の提出と内容のすべてが80%以上 B：レポートおよび課題の提出と内容のすべてが70%以上 C：レポートおよび課題の提出と内容のすべてが60%以上 レポートと課題については、各講義にて講義内容に即して示します。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
福祉関連白書等必要に応じて指示します。		予め福祉課題を整理して履修してください。	

科目名	公務員試験対策		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバ'リング	KC36078 TL36096	研究室	非常勤
担当者	櫻井 義彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
<b>授業概要</b>										
公務員上級職試験対策として、独学が難しいとされる憲法、民法、行政法の専門科目および一般教養科目を、基礎からしっかり理解し、実戦力まで習得できるよう解説します。とくに法律専門科目をはじめて学が初学者に対しても分かりやすく解答の出し方を詳解し、確実に得点を挙げる解答力を養成します。										
<b>学修到達目標</b>										
公務員試験の出題の特徴を多角的に理解することが基本的な目標です。さらに、各法律科目の頻出する制度的意義を十分に理解することによって、出題者の意図をすばやく見極め、知識だけに頼らない正確な判断能力を養うことが最終目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
講義は教室において、テキストと事前配布資料の問題を中心に基本事項を概説し、その後、事前に指定しておいた問題の答え合わせを行い、問題の傾向について解説をします。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス。 公務員上級職の職種と試験 制度について。	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明します。公務員採用試験の概要および展望、試験準備の要領と注意点などを紹介し ます。				事前に受験ガイドを読む。事後志 望職種を定める。(4時間)				
2	憲法 基本原理と包括的 基本権	日本国憲法の理念および原理を詳解し、憲法の制度的特色を理解します。とくに包括的基本権は新しい人権の根拠となっており、事例を 交えて解説します。				事前にテキストP58を読む。事後 間違えた問題を復習する。類似過 去問にあたる。(4時間)				
3	憲法 自由権と社会権	憲法が規定する人権の種類と特徴を解説し、人権の識別がすばやくでき る判断力を習得します。とくに消極的権利と積極的権利の区別は重要で す。				テキストのP56を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
4	憲法 違憲立法審査制度	法令審査基準と理論を判例を通じて解説します。判例の趣旨を正確に見 極める判断力を養い、択一問題を確実に解答する理解力を習得します。				テキストP78を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
5	憲法 議院内閣制	憲法の統治規定の中でも議院内閣制の問題は出題率が高いので、国会と 内閣の関係や国会の地位について過去の出題と判例を踏まえて解説しま す。				テキストP70,74111を事前に読む 。授業中間間違えた問題を復習する。				
6	憲法 司法制度	司法権の独立、三審制、訴訟の種類など裁判制度の基本を理解し、三権 分立の中での裁判所の意義と司法権の限界について学習します。				テキストP76を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
7	民法 代理権の諸問題	代理における無権代理、表見代理などの問題を中心に解説します。とくに 相続と絡ませた出題が多いので、過去問を中心にいくつかのパリエー ションを習得します。				テキストP111を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
8	民法 契約時のトラブル 意思の不存在と瑕疵のあ る意思	契約の重要な要素である意思表示の問題を、民法規定に沿って整理し、 法律関係がどのように変化するかを解説します。とくに94条の類推適 用の事例を習得します。				テキストP110を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
9	民法 不動産物権変動と 対抗要件	不動産売買を中心に所有権の移転の問題や対抗要件の成否について詳解 します。また、相続や時効に関連して所有権がどのように移るかを判例 に沿って整理します。				テキストP113を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
10	民法 地上権、借地権、 抵当権	いわゆる担保物件の諸権利の特徴を解説します。なかでも抵当権が重要 ですので、その他の担保物件との違いを比較しながら、抵当権による担 保制度を理解していきます。				テキストP115を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
11	民法 売買に関する問題 危険負担と売主担保責任	動産と不動産の売買について、所有権や危険負担の移転の問題や売買の 瑕疵の問題における債務不履行と瑕疵担保の違いを判例と通説を比較して 解説します。				テキストP120を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
12	民法 債務不履行と契約 解除	契約解除の原因について、債務不履行を中心に法律関係を解説します。 ここは不法行為と損害賠償請求権にもかかってくるので立体的に法的効 果を理解していきます。				テキストP121を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
13	行政法 行政行為の概念 と効力	行政行為(処分)の性質を解説しながら、その他の行政庁の行為との識 別ができるようにします。さらに、効力の要件や瑕疵のある行政行為に ついて学び、行政法とは何かを理解します。				テキストP84を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
14	行政法 抗告訴訟と訴え の利益	行政事件訴訟の種類と要件、とくに訴えの利益について解説します。この テーマは、憲法の違憲判決の問題と直結しているため、典型的な判例 に沿って理解します。				テキストP100を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
15	行政法 国家賠償法	公務員の不法行為について、どのような場合に国家が賠償責任を負うか また民間人の行為でも国家賠償の可能性はあるか、など過去の出題に 沿って判例をもとに詳解します。				テキストP97を事前に読む。 授業中間間違えた問題を復習する。 類似過去問にあたる。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「2019年度 地方上級・国家一般職 大卒程度 公務員試験総合問題集」 L&L総合研究所編(新星出版社) ISBN:978-4-405-01792-4(生協で購入して ください。)				定期試験:50% 受講態度:50% 成績評価基準 S:授業内容を高度に理解するとともに、探求姿勢をもって積極的に課題に取り 組み、授業で示した例題の発展問題が解ける。 A:授業内容を十分理解し、授業で示した問題は完全に解ける。 B:授業内容をほぼ理解し、授業で示した問題の80%程度が解ける。 C:授業内容をある程度理解し、授業で示した問題の60%程度が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「口語民法」(自由国民社) 「スーパー過去問ゼミ 憲法」(実務教育出版) ほか				公務員および各種資格試験に対応します。いずれも過去問をどれくらい解いた かが合格の鍵です。分からないところは質問に応じますので、各自積極的に過 去問を繰り返し解いていくことを期待します。						

科目名	公務員試験対策		学年学期	3年後期	単位数	2	ナバ`リツ	KC36079 TL36097	研究室	非常勤
担当者	櫻井 義彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスア-			
関連資格					履修条件	3年生のみ履修可				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
<b>授業概要</b>										
公務員上級職試験対策として、憲法、民法、行政法の法律科目と一般教養科目について、前期の基礎知識をもとに問題演習と解説を行います。また、後期からは経済原論も加えて過去の頻出問題の徹底研究と択一問題の識別の仕方や選択肢の見極め方など、速く正確に解くテクニックを習得します。										
<b>学修到達目標</b>										
公務員試験の出題パターンを整理し、理解することが基本的な目標です。さらに、過去の頻出問題の傾向を徹底的に研究することで、出題者の意図を瞬時に見極め、確実に得点を挙げる実戦力を養うことが最終目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
講義は教室において、教科書を中心に基本事項を解説しながら進め、適宜に過去問題をプリントして問題演習を行います。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス。 公務員試験の最近の傾向。 経済原論とはなにか。	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の仕方について説明します。公務員試験の最近の傾向や択一問題に対する心構えについて、さらに、経済原論についての出題傾向について解説します。				テキストの試験ガイドを事前に読む。授業の経済用語を復習して類似過去問にあたる。(4時間)				
2	ミクロ経済 消費行動理論	限界効用と予算線から最適消費量を求める問題や代替効果と価格効果の違いから消費者行動を予測分析する問題を学習します。				テキストのP162を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
3	マクロ経済 フローとストック	マクロ経済モデルについての理解の前提として、国民所得(GDP)とは何か、需要および供給とはどのような関係にあるのかを解説します。				テキストのP172を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
4	マクロ経済 デフレギャップとインフレギャップ(45度分析)	45度分析図から完全雇用国民所得における需要と供給のギャップを求める問題の解法を解説します。これは公務員試験では必須問題の1つですので、用語や考え方をしっかりと理解します。				テキストのP172を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
5	マクロ経済 乗数理論(45度分析)	前回と同じく、公務員試験頻出問題です。マクロ経済モデルを使って、民間投資や政府支出および増減税が国民所得に具体的にいくら増減をもたらすかを計算する問題を解説します。				テキストのP173を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
6	マクロ経済 財政・金融政策(IS-LM分析)	マクロ経済三本柱の最後は、IS-LM分析の問題解法を解説します。財市場と貨幣市場の動向が、利子率と所得によってどのように変化し、財政・金融政策がどのように機能するか、を理解します。				テキストのP174を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
7	憲法 政教分離の原則(20条)	憲法20条の信教の自由の中でも、第3項の政教分離の原則についてそのリーディングケースとなった判例と条文の解釈について解説します。				テキストのP62を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
8	憲法 表現の自由(21条)とプライバシー権	人権の中で最も重要とされる表現の自由と個人のプライバシーの衝突矛盾について、最高裁はどのような調整を行ったかについて解説し、人権相互の調整はどのような考え方によるのかを学習します。				テキストのP64を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
9	憲法 職業選択の自由(22条)	経済的自由権の中でも、とくに営業の自由を中心に、他人の人権との整合性を判例に沿って理解します。ここはとくに判例の知識が問われますので、重要判例を整理しながら詳解していきます。				テキストのP67を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
10	憲法 生存権(25条)	このテーマは、社会福祉政策の中心的人権であり、いわば公務員という職業の基盤をなすものなので、過去出題率はかなり高いです。自由権との違いを比較しながら、判例に基づいて解説します。				テキストのP69を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
11	憲法 国会、内閣、裁判所(統治論)	三権分立および日本の統治システムの問題を解説します。ここは公民程度の知識で十分ですので、いろいろな出題パターンになれるよう過去問を中心に進めていきます。				テキストのP70~76を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
12	民法 債権者代位権と詐害行為取消権	債権者代位権および詐害行為取消権の要件、客体、範囲、効果についてそれぞれの法律行為の要点を整理します。さらに、両者の相違点についてはよく出題されるのでその点もふまえて解説します。				テキストのP117を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
13	民法 抵当権と物上代位権	抵当権の性格を他の担保物権と比較しながら解説します。また、抵当権と物上代位権の行使の様態や法定地上権の成否など過去問を使って出題形式を習得します。				テキストのP116を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
14	民法 夫婦関係と親子関係	婚姻、離婚、内縁関係ならびに嫡出子と非嫡出子、認知、特別養子制度の各項目について要件と効果を整理して、それぞれの性格を解説します。				テキストのP125~127を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
15	民法 相続	法定相続人と相続の承認や放棄、遺言と法定遺留分の関係について、我が国の相続制度の要点を整理し、さらに、共同相続における登記と第三者の法的関係など他の民法条項にも関連する問題を詳解します。				テキストのP128を事前に読む。授業中間達えた問題を復習し類似過去問にあたる。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
「2019年度 地方上級・国家一般職 大卒程度 公務員試験総合問題集」L&L総合研究所編(新星出版社) ISBN:978-4-405-01792-4(生協で購入してください。)		定期試験:50% 受講態度:50% 成績評価基準 S:授業内容を高度に理解するとともに、探求姿勢をもって積極的に課題に取り組み、授業で示した例題の発展問題が解ける。 A:授業内容を十分理解し、授業で示した問題は完全に解ける。 B:授業内容をほぼ理解し、授業で示した問題の80%程度が解ける。 C:授業内容をある程度理解し、授業で示した問題の60%程度が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「口語民法」(自由国民社) 「スーパー過去問ゼミ(各科目)」(実務教育出版) 「20日間で学ぶ 政治・経済の基礎」(実務教育出版)		公務員および各種資格試験に対応します。いずれも過去問をどれくらい解いたかが合格の鍵です。分らないところは質問に応じますので、各自積極的に過去問を繰り返し解いていくことを期待します。								

科目名	公務員試験特講		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	KC36080 TL36098	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
この講義は、政府部門の職員である国家公務員・地方公務員(都道府県、市町村、警察官、消防官などの職員)・独立行政法人等職員などを志望する学生のために、公務員試験に必要な志望理由・志望動機を明確化させる授業です。真剣に公務員になることを考えている学生を対象としているので、学生の主体的参加・積極的参加を求めます。										
学修到達目標										
政府部門の組織とその職員の仕事の内容について、制度のしくみ、具体的な事例を見ながら、各自が「なぜ公務員になりたいのか」を具体化する作業を行います。各自が自分なりに各種公務員の仕事の魅力について理解し、その上で志望動機を確立する。										
授業の進め方										
毎回プリントを配布し、基本的な制度のしくみ、具体的な仕事の事例などを検討します。また、講義内容の理解度を見るためにも、15回中3回程度は講義時間中に小論文を書いてもらいます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	イントロダクション	ガイダンス				講義内容の復習(4時間)				
2	公務員試験のしくみ	各種公務員試験のしくみについて解説します				プリントを読む(4時間)				
3	公務員の役割と仕事	政府部門の職員としての公務員の仕事について説明します				プリントを読む(4時間)				
4	小論文作成	第3回までの講義を踏まえて小論文作成を行います				講義の復習をする(4時間)				
5	小論文答案返却と解説	前回で作成した小論文を添削して返却し、解説します				答案を見直す(4時間)				
6	国家公務員:国家公務員とその仕事	国家公務員の仕事と試験について説明します				プリントを読む(4時間)				
7	地方公務員	都道府県庁の職員の仕事と採用試験について説明します				プリントを読む(4時間)				
8	地方公務員	市町村役場の職員の仕事と採用試験について説明します				プリントを読む(4時間)				
9	警察官	警察官の仕事と採用試験について説明します				プリントを読む(4時間)				
10	小論文作成	第9回までの講義を踏まえて小論文を作成します				復習と問題意識明確化(4時間)				
11	小論文答案返却と解説	前回の答案を添削して返却し、解説をします				自己の答案の見直し(4時間)				
12	集団討論	志望理由、志望動機について、各自の意見や感想についてディスカッションを行います				集団討論の振り返り(4時間)				
13	公務員の仕事の意義	公務員の仕事の意義について考えながら、志望動機の明確化を図ります				講義内容の振り返り(4時間)				
14	小論文作成	それまでの内容を踏まえた課題で小論文を作成します				講義の振り返り(4時間)				
15	小論文答案の返却と解説	添削された答案について解説を加え、全体のまとめを行います				志望理由の明確化(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
特に指定しません。		レポート:70% 定期試験:30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
なし		週1コマの講義は公務員試験合格のためのほんの一部に過ぎません。時間外に自分で勉強する時間を多く取るようにしてください。								

科目名	公務員試験特講		学年学期	4年前期	単位数	2	ナパ`リング	KC46081 TL46099	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ-	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観								
授業概要										
この講義に参加するためには、時間外での小論文作文作成が必要です。時間外学習(課題作成)ができない学生には向きません。また、担当教員が毎週の添削コメントを付けるため、この講義の定員は10名程度とします。履修希望人数がこれを超えた場合は、面接および小論文作文試験などによって選抜を行います。なお、その際には所属する学科によって有利または不利に扱うことはありません。あくまでも本人の志望の強さと資質によって選抜します。										
学修到達目標										
この演習は、公務員(都道府県、市町村、警察官、消防官などの職員)を志望する学生のために公務員試験に必要な小論文作文の知識と技術を習得する。										
授業の進め方										
学生による小論文作文の作成～担当教員による添削・コメント～学生による書き直し～担当教員による添削コメントといった流れを中心に進めます。さらに小論文作文のテーマに関連した知識についての講義を含みます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	イントロダクション	ガイダンス&課題その1					小論文答案の作成(4時間)			
2	課題その1の返却と解説	前回の小論文に添削を加えて返却し、解説をします					答案の作成(4時間)			
3	課題その1書き直し答案の返却と解説	課題その1の書き直し答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、課題その2を提示します					答案作成(4時間)			
4	課題その2の返却と解説	課題その2の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案作成(4時間)			
5	課題その2の書き直し答案の返却と解説	課題その2の書き直し答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、課題その3を提示します。					答案作成(4時間)			
6	課題その3の答案の返却と解説	課題その3の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案作成(4時間)			
7	課題その3の書き直し答案の返却と解説	課題その3の書き直し答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、課題その4を提示します。					答案作成(4時間)			
8	課題その4の答案の返却と解説	課題その4の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案作成(4時間)			
9	課題その4の書き直し答案の返却と解説	課題その4の答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、課題その5を提示します。					答案作成(4時間)			
10	課題その5の答案返却と解説	課題その5の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案作成(4時間)			
11	課題その5の書き直し答案返却と解説	課題その5の答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、かだいその6を提示します。					答案作成(4時間)			
12	課題その6の答案返却と解説	課題その6の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案の作成(4時間)			
13	課題その6の書き直し答案の作成と提出	課題その6の書き直し答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、課題その7を提示します。					答案の作成(4時間)			
14	課題その7の答案返却と解説	課題その7の答案に添削を加えて返却し、解説をします。					答案作成(4時間)			
15	課題その7の書き直し答案返却と解説およびまとめ	課題その7の書き直し答案に添削を加えて返却し、解説をします。また、最後に全体を振り返ってまとめの講義を行います。					自己点検(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
指定テキスト等はありません。適宜、プリントを配布します。					レポート:80% 出席レポート:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし					週1コマの講義は公務員試験合格のためのほんの一部に過ぎません。時間外に自分で勉強する時間を多く取るようにしてください。					

科目名	国内旅行業務実務			学年学期	1・2・3・4前期	単位数	2	ナバリング	TA260100	研究室	
担当者	各教員			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスワ-			
関連資格						履修条件	1年生は指定された科目と併せて履修すること、(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
旅行業には旅行の営業、旅行コースの企画、添乗などの仕事がありますが、これらの仕事をスムーズにこなす為には、旅行業務に熟知した専門家がが必要です。国内旅行のみ扱う営業所においてその専門家がいわゆる国内総合旅行業務取扱管理者です。この講義は、観光庁長官が行う「国内旅行業務取扱管理者」試験合格を目指すことを目的に開講された講座です。											
<b>学修到達目標</b>											
1、「国内旅行業務取扱管理者」試験受験に向けて、各教科の内容を十分に理解することができている。											
<b>授業の進め方</b>											
過去の試験問題の答案練習を繰り返しながらポイントを学びます。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	旅行業法	旅行業法 過去出題問題による解答練習とポイント解説					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
2	旅行業法	旅行業法 過去出題問題による解答練習とポイント解説					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
3	旅行業法	旅行業法 過去出題問題による解答練習とポイント解説					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
4	旅行業法	旅行業法 過去出題問題による解答練習とポイント解説					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
5	旅行業法	旅行業法 過去出題問題による解答練習とポイント解説					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
6	観光約款	観光約款 過去出題問題による解答練習とポイント解説					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
7	観光約款	観光約款 過去出題問題による解答練習とポイント解説					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
8	観光約款	観光約款 過去出題問題による解答練習とポイント解説					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
9	観光約款	観光約款 過去出題問題による解答練習とポイント解説					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
10	国内旅行業務実務	国内旅行実務 JR 運賃・料金					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
11	国内旅行業務実務	国内旅行実務 JR 運賃・料金					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
12	国内旅行業務実務	国内旅行実務 宿泊料金、貸切バス料金、フェリー運賃・料金					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
13	国内旅行業務実務	国内旅行実務 国内観光地理					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
14	国内旅行業務実務	国内旅行実務 過去出題問題による解答練習とポイント解説					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
15	国内旅行業務実務	国内旅行実務 過去出題問題による解答練習とポイント解説					誤った事項について復習して繰り返し誤らないようにする(4時間)				
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>						
「国内観光資源」JTB総合研究所著(JTB総合研究所)(別途、指示します。)					定期試験:100% S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組んだ結果、試験に合格をした。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組んだ結果、試験に合格をした。B:授業のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んだ結果、試験に合格をした。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んだ結果、試験に合格をした。						
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「国内運賃・料金」JTB総合研究所著(JTB総合研究所)					学内で開講されている旅行業法、観光約款、観光地理の講義で集中して受講してください。必ず復習を欠かさない事が重要です。観光地理は範囲が広いので4月から自習することが好ましいです。積極的に取り組んでください。						

科目名	総合旅行業務実務			学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナバリング	TA360101	研究室	
担当者	各教員			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件	(集中講義となります)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
この講義では国内と海外の両方の旅行業務を取り扱える総合旅行業務取扱管理者試験の合格を目指すため、それに出題される科目について解説、答案練習します。											
学修到達目標											
旅行業法では営業所毎に最低1人以上後述の旅行業務取扱管理者試験に合格した者をその営業所の旅行業務取扱管理者として選任することが義務付けられています。この講義では国内と海外の両方の旅行業務を取り扱える総合旅行業務取扱管理者試験の合格を目指します。											
授業の進め方											
過去の試験問題の答案練習を繰り返しながらポイントを学びます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	旅行業約款	旅行業約款の基礎について解説します。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
2	旅行業約款	旅行業約款の必須事項解説します。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
3	旅行業約款	旅行業約款の拘束力について解説します。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
4	国際航空運賃	国際航空運賃の基礎について解説します。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
5	国際航空運賃	国際航空運賃の仕組みについて解説します。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
6	出入国法令と実務	出入国法令について基礎的に解説します。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
7	海外旅行実務・観光地理	海外旅行実務の基礎について解説します。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
8	海外旅行実務・観光地理	観光地理全般について解説します。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
9	答案練習	過去出題問題についての解説					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
10	答案練習	過去出題問題による解答練習の方法を解説します。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
11	答案練習	解答練習の結果をもとに検討します。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
12	答案練習	模擬問題に取り組みます。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
13	答案練習	模擬問題の結果をもとに詳細な検証を行います。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
14	答案練習	検証結果について検討します。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
15	総括	旅行業務実務全体をまとめます。					事前、テキストの該当箇所を熟読(2時間)。事後、旅行業約款についての復習(2時間)。				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「海外観光資源」(JTB総合研究所)(別途、指示します。)さらに必要なテキストがあれば講義開始後に指示をします。					定期試験:100% S:総合旅行業務についての理解が十分できている。A:総合旅行業務についての理解ができている。B:操業旅行業卵についての理解がほぼできている。C:総合旅行業務について6割程度理解している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「出入国法令と実務」(JTB総合研究所)					国内旅行業務取扱管理者の合格者のみ受講を認めます。国内旅行業務取扱管理者の資格を持っている学生はさらにステップアップして積極的に総合旅行業務取扱管理者の資格を目指してください。						

科目名	社会福祉士資格対策演習		学年学期	4年後期	単位数	2	ナバリング	TC460102	研究室	W-30
担当者	今村 篤史		必修選択	選択	科目種別	演習	オイスア-	火曜日4限		
関連資格	社会福祉士				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
「社会福祉士」国家試験に合格することを目標として、試験合格に必要な知識の獲得と定着を図っていきます。そのため、本科目は国家試験受験予定者のみで構成されます。国家試験は2月上旬に実施されるため、その日に向けて計画的に問題演習に取り組んでいきます。										
<b>学修到達目標</b>										
社会福祉士国家試験合格を目指します。 1. 社会福祉士国家試験合格に向けた強い意志と積極的姿勢を身につけることができるようになる。 2. 国家試験合格に必要な知識を習得することができるようになる。										
<b>授業の進め方</b>										
国家試験の過去問題とその解説を活用しながら、問題の傾向と対策を立てて取り組んでいきます。個々の理解度、進捗状況を見ながら進めていきます。なお、国家試験合格のためには演習時間だけでなく、日々の自己学習に取り組むことが必要です。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ		内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション		国家試験の概要、問題の傾向、学習の進め方				「社会福祉士」を目指す意志を再確認し、試験の概要を整理し、学習スケジュールを立てること。			
2	過去問題対策 共通科目		試験科目「社会理論と社会システム」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
3	過去問題対策 共通科目		試験科目「現代社会と福祉」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
4	過去問題対策 共通科目		試験科目「現代社会と福祉」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
5	過去問題対策 共通科目		試験科目「地域福祉の理論と方法」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
6	過去問題対策 共通科目		試験科目「地域福祉の理論と方法」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
7	過去問題対策 共通科目		試験科目「福祉行財政と福祉計画」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
8	過去問題対策 共通科目		試験科目「社会保障」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
9	過去問題対策 専門科目		試験科目「社会調査の基礎」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
10	過去問題対策 専門科目		試験科目「福祉サービスの組織と経営」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
11	過去問題対策 専門科目		試験科目「高齢者に対する支援と介護保険制度」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
12	過去問題対策 専門科目		試験科目「高齢者に対する支援と介護保険制度」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
13	過去問題対策 専門科目		試験科目「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
14	過去問題対策 専門科目		試験科目「就労支援サービス」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
15	過去問題対策 専門科目		試験科目「更生保護制度」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>							
「社会福祉士国家試験過去問題解説集」社団法人日本社会福祉士養成校協会編(中央法規出版)各自で購入してください。			出席レポート:40% 受講態度:30% 課題:30% S:国試合格に向けた積極的姿勢を持ち、授業内容についての知識を獲得するとともに、その内容についての問題を正確に解答できる。A:国試合格に向けた積極的姿勢を持ち、授業内容についての知識を獲得するとともに、その内容についての問題を概ね正確に解答できる。B:国試合格に向けた積極的姿勢を持ち、授業内容についての知識を獲得するとともに、基本的な問題を解答できる。C:国試合格に向けた積極的姿勢を持ち、授業内容についての基本的な知識を獲得している。							
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
「社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック[共通科目編・専門科目編]」社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会編(中央法規出版)			社会福祉士国家試験受験資格に必要な科目を履修していることが必要です。社会福祉士資格対策演習と合わせて履修してください。							

科目名	社会福祉士資格対策演習		学年学期	4年後期	単位数	2	ナバリング	TC460103	研究室	W-30
担当者	今村 篤史		必修選択	選択	科目種別	演習	オイスア-	火曜日4限		
関連資格	社会福祉士				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
「社会福祉士」国家試験に合格することを目標として、試験合格に必要な知識の獲得と定着を図っていきます。そのため、本科目は国家試験受験予定者のみで構成されます。国家試験は2月上旬に実施されるため、その日に向けて計画的に問題演習に取り組んでいきます。										
<b>学修到達目標</b>										
社会福祉士国家試験合格を目指します。 1. 社会福祉士国家試験合格に向けた強い意志と積極的姿勢を身につけることができるようになる。 2. 国家試験合格に必要な知識を習得することができるようになる。										
<b>授業の進め方</b>										
国家試験の過去問題とその解説を活用しながら、問題の傾向と対策を立てて取り組んでいきます。個々の理解度、進捗状況を見ながら進めていきます。なお、国家試験合格のためには演習時間だけでなく、日々の自己学習に取り組むことが必要です。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ		内容				事前事後学修			
1	過去問題対策	共通科目	試験科目「人体の構造と機能及び疾病」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
2	過去問題対策	共通科目	試験科目「保健医療サービス」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
3	過去問題対策	共通科目	試験科目「心理学理論と心理的支援」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
4	過去問題対策	共通科目	試験科目「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
5	過去問題対策	共通科目	試験科目「低所得者に対する支援と生活保護制度」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
6	過去問題対策	共通科目	試験科目「権利擁護と成年後見制度」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
7	過去問題対策	専門科目	試験科目「相談援助の基盤と専門職」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
8	過去問題対策	専門科目	試験科目「相談援助の理論と方法」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
9	過去問題対策	専門科目	試験科目「相談援助の理論と方法」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
10	過去問題対策	専門科目	試験科目「相談援助の理論と方法」に関する出題傾向を確認するとともに、合格に必要な基礎的知識を習得します。				事前に当該科目授業を復習、事後に学んだ内容の振り返りと確認テストの整理(4時間～)。			
11	共通科目	振り返り	共通科目の振り返りを行い、知識の定着と応用できる力を身につけます。				これまでの学習内容を振り返り、確認テストの復習をすること(4時間～)。			
12	共通科目	振り返り	共通科目の振り返りを行い、知識の定着と応用できる力を身につけます。				これまでの学習内容を振り返り、確認テストの復習をすること(4時間～)。			
13	専門科目	振り返り	専門科目の振り返りを行い、知識の定着と応用できる力を身につけます。				これまでの学習内容を振り返り、確認テストの復習をすること(4時間～)。			
14	専門科目	振り返り	専門科目の振り返りを行い、知識の定着と応用できる力を身につけます。				これまでの学習内容を振り返り、確認テストの復習をすること(4時間～)。			
15	まとめ		模擬試験を通して、これまで習得してきた知識の最終確認を行います。				これまでの学習内容を振り返り、模擬試験の復習をすること(4時間～)。			
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>							
「社会福祉士国家試験過去問解説集」社団法人日本社会福祉士養成校協会編(中央法規出版)各自で購入してください。			出席レポート:40% 受講態度:30% 課題:30% S: 国試合格に向けた積極的姿勢を持ち、授業内容についての知識を獲得するとともに、その内容についての問題を正確に解答できる。A: 国試合格に向けた積極的姿勢を持ち、授業内容についての知識を獲得するとともに、その内容についての問題を概ね正確に解答できる。B: 国試合格に向けた積極的姿勢を持ち、授業内容についての知識を獲得するとともに、基本的な問題を解ける。C: 国試合格に向けた積極的姿勢を持ち、授業内容についての基本的な知識を獲得している。							
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
「社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック[共通科目編・専門科目編]」社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会編(中央法規出版)			社会福祉士資格対策演習 と合わせて履修してください。演習時間だけでなく、日々の学習時間を確保してください。							

科目名	社会教養 B (基礎) (観光)		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	TL360104	研究室	
担当者	栗山 究		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
<p>いま、私たちはどのような社会に生きているのでしょうか。本授業では、自分たちで問いをたて、グループワークを通し、時事問題を掘り下げるグループ別発表会を実施し、受講生自らが、企業や公務員の採用試験に対応し得るオリジナル問題を作成していきます。</p> <p>また、演習型授業を通し、近代日本の歴史をふりかえりながら、現代を考えるうえで欠かすことのできない社会 (政治・経済・国際関係など) の基本的な仕組みを学習していきます。</p>										
<b>学修到達目標</b>										
(1) 現代日本をかたちづくる社会の基本的な仕組みを理解できるようになります。(2) 新聞やニュース等で取り上げられる政治的・経済的・国際的な主要課題について、自分なりの見解を組み立て、他者へ分かりやすく伝えていく力量が身につきます。(3) 上述の課題が発生する原因と背景および問題の基本を把握し、当該課題解決のための一定の見識や見解を得ることができるようになります。										
<b>授業の進め方</b>										
前半と後半の2段階で進めます。グループ別発表会とオリジナル問題作成のために、受講者相互の学びあいが促されるようなグループワークを実施します。プリント教材から、問題の提示 学生の解答 解法の解説というサイクルからなる演習を展開します。										
<b>授業計画 (各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション：いま世界や日本で何が起きているの？	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の方法などを説明します。現在、ニュースや新聞報道で議論されている世界や日本の諸問題を選び出します。				新聞やニュースに接し、関心ある時事問題の記事を探し、持参してください。(4時間)				
2	課題の設定 明治の日本の始まり	今季に設定する複数のテーマを概観します。テーマ毎に知見を語りあい、議論になっていると思われる点を共有します。近代日本がどのようにつくられてきたか、学習します。				自分の興味・関心あるテーマを考える。指定テキストを読む。(4時間)				
3	グループ決め(1) 戦後日本の道のり	新聞記事や資料等を寄せ集め、自分の関心のあるテーマに関する基本的特徴をまとめ、議論となっている諸課題を整理します。戦後日本がどのようにつくられてきたか、学習します。				自分の興味・関心あるテーマをまとめる。指定テキストを読む。(4時間)				
4	グループ決め(2) 日本国憲法	自分の関心あるテーマを報告し、発表会に向けたグループを確定します。日本国憲法の理念と原理を復習し、演習問題を解きます。				グループ課題に取り組む。指定テキスト読む。演習問題を復習する。(4時間)				
5	グループワーク(1) 人権の歴史	発表会に向けて、新聞記事や資料等を寄せ集め、テーマに関する基本的特徴を話しあい、共有します。人権の獲得の歴史と意義を確認し、基本的人権の性質と種類を復習し、演習問題を解きます。				グループ課題に取り組む。指定テキスト読む。演習問題を復習する。(4時間)				
6	グループワーク(2) 資本主義、福祉国家、新自由主義	発表会に向けて、議論を組み立てます。近代国家成立の歴史や各国の政治思想を復習し、演習問題を解きます。				グループ課題に取り組む。指定テキスト読む。演習問題を復習する。(4時間)				
7	グループワーク(3) 各国の政治の仕組み	発表会に向けて、議論を組み立てます。議院内閣制(国会と内閣の関連と仕組み)について大統領制と比較しながら復習し、演習問題を解きます。				グループ課題に取り組む。指定テキスト読む。演習問題を復習する。(4時間)				
8	グループ別発表会(1) 国会・内閣	グループで掘り下げ、組立てた時事問題(テーマ)に関する発表会を実施します。日本の国会と内閣の仕組みを復習し、演習問題を解きます。				グループ課題に取り組む。指定テキスト読む。演習問題を復習する。(4時間)				
9	グループ別発表会(2) 司法制度	グループで掘り下げ、組立てた時事問題(テーマ)に関する発表会を実施します。日本の司法制度の仕組みと論点を復習し、演習問題を解きます。				グループ課題に取り組む。指定テキスト読む。演習問題を復習する。(4時間)				
10	グループ別発表会(3) 地方自治の本旨	グループで掘り下げ、組立てた時事問題(テーマ)に関する発表会を実施します。地方自治の仕組みと諸問題について復習し、演習問題を解きます。				グループ課題に取り組む。指定テキスト読む。演習問題を復習する。(4時間)				
11	オリジナル問題作成(1) 国際連合と国際社会	発表内容をふりかえり、発表したテーマに関するオリジナル問題作成に向けて議論を組み立てます。国際連合の理念と原理を復習し、演習問題を解きます。				グループ課題に取り組む。指定テキスト読む。演習問題を復習する。(4時間)				
12	オリジナル問題作成(2) グローバル化・グローバリゼーション	新聞記事や資料等を集め、問題作成に向けて設問を組み立てます。国際社会をとりまく現状から、私たちのくらしのあり方を考えていきます。				グループ課題に取り組む。指定テキスト読む。演習問題を復習する。(4時間)				
13	オリジナル問題提出(1) 生活・労働	作成した問題を提出し、プレゼンします。私たちの身近な暮らしの諸問題から、私たちのくらしのあり方を考えていきます。				指定テキストを事前に読む。演習問題を復習する。グループ課題に取り組む(4時間)				
14	オリジナル問題提出(2) ミクロ経済学とは	前回のプレゼンで得られた修正事項を踏まえ、グループで作成した問題を再提出します。ミクロ経済学の視点と原理を復習し、演習問題を解きます。				指定テキストを事前に読む。演習問題を復習する。グループ課題に取り組む(4時間)				
15	全体のまとめ：オリジナル問題にチャレンジ!	これまでの授業をふりかえり、受講生が作成したオリジナル問題を解いていきます。受講生各自の未提出・未着手の演習問題に取り組めます。				ニュース検定や実際の企業や公務員の採用試験等に向けて各自で準備をしてください(4時間)				
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>					
<p>「新初級スーパー過去問ゼミ 社会科学」資格試験研究会編編(実務教育出版) ISBN:978-4-7889-6690-1 (生協で購入してください。)</p> <p>「2018年度版ニュース検定 公式テキスト「時事力」発展編(2・準2級対応)」日本ニュース時事能力検定協会編(毎日新聞出版)(生協で購入してください。)</p> <p>2018年3月 初版発行予定</p> <p>以上の指定テキストを基本に、各回テーマに応じ、担当教員が作成・編集した資料を配布します。</p>					<p>出席レポート：25% 課題：50% 小テスト：25%</p> <p>(1) 出席レポートは、毎回のコメントペーパーの提出、グループワークでの積極的貢献により判定します。(2) 課題は、グループ別発表会での発表、オリジナル問題の作成から判定します。(3) 小テストは、演習問題の回答の提出状況(得点の可否は問いません)から判定します。それぞれの評価の視点は授業内で説明します。</p> <p>課題とオリジナル問題の回答は、単位認定の必要条件とし、上記3点の総和が60点以上を合格とし、S・A・B・C判定で評価します。</p>					
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</b>					
<p>「日本という国」小能英二著(理論社)</p> <p>「キーワードで読む現代日本社会」中西新太郎・箕輪明子編(旬報社)</p> <p>「池上彰の世界はどこに向かうのか」池上彰著(日本経済新聞出版社)</p>					<p>「聞くだけ」の授業ではありません。受講生は積極的に授業運営に「参画していく」展開になります。受講生の興味関心と問題意識の深化の程度に応じて、授業計画は多少変更する可能性があります。</p>					

科目名	社会教養（発展）		学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング	KL36095 TL360105	研究室	
担当者	各教員		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスアワ-			
関連資格					履修条件	3年生のみ履修可				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
本講義は、3年生後半から始まる就職活動で問われる社会教養力をつけるための科目です。就職活動では、SPIなどの適性検査がおこなわれます。本講義では、非言語・言語系のSPI試験、社会科教養試験、一般常識試験の模擬問題の演習と解説をおこないながら、筆記試験の得点力アップをめざします。就職活動を直前にひかえての、筆記試験対策の科目です。										
<b>学修到達目標</b>										
就職活動で問われる社会教養力を判定するSPI試験において、6割以上の得点を取得することが最終的な目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
配布プリントに沿って問題演習を行い、その都度ポイント解説を交えながら進めます。少人数のクラス編成でキメ細かい筆記試験対策を行います。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス。現状能力の確認。	ガイダンスとクラス分け				テキスト第1講の予習（4時間）。				
2	計算のルール（加えて毎回、言語系の演習問題）	SPI過去問題				テキスト第2講の予習（2時間）、第1講の復習（2時間）				
3	割合の計算	SPI過去問題				テキスト第3講の予習（2時間）、第2講の復習（2時間）				
4	損益の計算	SPI過去問題				テキスト第4講の予習（2時間）、第3講の復習（2時間）				
5	仕事算の計算	SPI過去問題				テキスト第5講の予習（2時間）、第4講の復習（2時間）				
6	速さの計算	SPI過去問題				テキスト第6講の予習（2時間）、第5講の復習（2時間）				
7	集合と確率	SPI過去問題				テキスト第7講の予習（2時間）、第6講の復習（2時間）				
8	推論	SPI過去問題				テキスト第8講の予習（2時間）、第7講の復習（2時間）				
9	総合問題（基礎）	SPI過去問題				テキスト第9講の予習（2時間）、第8講の復習（2時間）				
10	総合問題（発展）	SPI過去問題				テキスト第10講の予習（2時間）、第9講の復習（2時間）				
11	社会科問題（地理・歴史）	社会科教養試験過去問題				テキスト第11講の予習（2時間）、第10講の復習（2時間）				
12	社会科問題（政治経済・国際）	社会科教養試験過去問題				テキスト第12講の予習（2時間）、第11講の復習（2時間）				
13	一般常識問題（基礎）	一般常識試験過去問題				テキスト第13講の予習（2時間）、第12講の復習（2時間）				
14	一般常識問題（発展）	一般常識試験過去問題				テキスト第14講の予習（2時間）、第13講の復習（2時間）				
15	まとめ	SPI過去問題、社会科教養試験過去問題、一般常識試験過去問題				テキスト第14講の復習。（4時間）				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
プリントを配布します。また、就職委員会指定のテキストを扱います。				小テスト：50% 定期試験：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
適宜指示します。				就職活動では、筆記試験は避けて通れません。個々の苦手分野では適時、分かり易い解説をしていきたいと思ひます。積極的な参加を期待します。						

科目名	キャリア形成 (基礎)	学年学期	2年後期	単位数	1	ナパリング	KL26096 TL260106	研究室	W-29	
担当者	畑井 治文	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限			
関連資格				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度(読替科目)								
		A	B	C						
	総 観	○								
授業概要										
本講義では、大学卒業後、社会の一員としてそれぞれのキャリアを積み上げていく際に土台となる基本的な考え方を学びます。ここで言うキャリアとは、単なる「仕事」や「経歴」ではなく、「自分らしい社会との関わり方」ということを意味しています。また自己理解や社会に目を向ける機会を通じて、3年次以降の学びがより充実したものになることが期待できます。										
学修到達目標										
3年次以降、具体的な進路(就職先や進学先など)を考えていく際に、自分なりの判断基準を持てるようになることが最大の目標です。また社会の一員として必要不可欠な素養(コミュニケーション力など)を身につけることも学修到達目標のひとつです。										
授業の進め方										
教室での講義を主とします。「セルフワーク」や「解説」などを組み合わせながら講義を進めていきます。また講義に付随するものとして、進路に関する個別面談(キャリア面談)を実施します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標などについて説明します。またキャリアデザインの重要性を解説した上で、「大学生生活の振り返り」のワークを通じて、自分の成長(方向性)について再考します。					今回の内容を復習すると同時に、過去の経験を整理してきて下さい。(4時間)			
2	自己理解	「自己分析」の手法を解説した上で、「自己分析」のワークに取り組んでもらいます。過去の経験を振り返りながら、「自分らしさ」について検討します。					今回の内容を復習すると同時に、友人に尋ねることで自分の特徴を整理してきて下さい。(4時間)			
3	自己理解	「他己分析」の手法を解説した上で、「他己分析」のワークに取り組んでもらいます。前回と今回のワークを通じて、自分の強み、興味、関心などを整理します。					今回の内容を復習すると同時に、最近、気になるニュースについて調べてきて下さい。(4時間)			
4	社会に目を向ける	世の中や企業の動向を知るために、新聞やニュースの読み方について解説します。「自分らしい社会との関わり方」を考える上でも、さまざまな情報を有効活用することが求められます。					今回の内容を復習すると同時に、地方の人口減少問題について調べてきて下さい。(4時間)			
5	社会に目を向ける	これからの日本社会、特に地方の人口減少問題に焦点をあてて解説します。自分達が暮らしていく社会のあり様を見つめ直すことで、「自分らしい社会との関わり方」を考えていきます。					今回の内容を復習すると同時に、社会人基礎力について調べてきて下さい。(4時間)			
6	社会に目を向ける	学生と社会人の違い、社会で必要とされる力(社会人基礎力など)について解説します。また採用時に企業が重視するポイントなども紹介します。					今回の内容を復習すると同時に、残りの大学生生活の過ごし方について再考してきて下さい。(4時間)			
7	大学生生活の充実と進路選択	他者とのディスカッションを通じて、大学生生活の充実を図るヒント、進路選択を円滑に進める上でのポイントなどを考えていきます。					今回の内容を復習すると同時に、次年度に向けて具体的な行動計画を立てて下さい。(4時間)			
8	講義全体のまとめ	講義全体を振り返ります。また次年度の「キャリア形成(応用)」のクラス選択について説明します。					これまでの内容を復習するようにして下さい。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
講義用資料・プリントを配布します。					出席レポート:60% 課題:40% S:授業内容を高度に理解して発展的な課題に対応できる。A:授業内容を理解して応用的な課題に対応できる。B:授業内容をおおよそ理解して応用的な課題にほぼ対応できる。C:授業内容の6割程度を理解している。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし					最初は、このようなテーマについて考えることが難しく感じるかもしれませんが、現段階では、まず「自分で考えてやってみる」ということが重要ですので、自分なりのペースで各ワークに取り組んでみて下さい。					

科目名	キャリア形成 (応用)		学年学期	3年通年	単位数	4	ナバ'リング	KL36097 TL360107	研究室	
担当者	各教員		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスワ-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観○								
<b>授業概要</b>										
本講義では、大学卒業後のキャリアを主体的に考え、それを実現していくための手法を応用的に学んでいくことを目的としています。納得のできる進路を選択するためには、自己理解を深めること、社会や職業に対する知識と自分なりの考えを持つこと、またそれらをわかりやすく他者に伝えるスキルを身に付けることなどが重要となります。本講義では、これらの知識やスキルを身に付けるために、これまでの大学生活での経験を振り返り、自己のキャリア形成のための具体的な計画を立てていきます。										
<b>学修到達目標</b>										
自己のキャリア形成について向き合い、卒業後の希望を実現するための具体的な計画を立て、それを実行に移すためのスキルを身に付けることが最大の目標です。また自己表現力、進路選択(就職活動)のための情報収集力を向上させることを学修到達目標のひとつです。										
<b>授業の進め方</b>										
教室での講義を主とします。「セルフワーク」や「解説」、さらに「社会人による講演」や「ロールプレイ」などを組み合わせながら講義を進めていきます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ライフプランと就職活動	本講義の流れ、自己のキャリア形成への向き合い方について説明します。また就職活動のスケジュールについて紹介します。				キャリア形成 の配布資料を見直してきてください(4時間)。				
2	適性検査(受検)	適性検査を受験します。				本講義には、第2回の講義を復習してから臨んでください(4時間)。				
3	採用試験とは	一般的な採用試験(筆記・面接・書類)の種類、そのために必要な準備などについて、事例(企業・教職・行政ほか)を交えて紹介します。				事前に、配布テキスト「就職活動ナビゲーション」第1章を読んで臨んでください(4時間)。				
4	就職活動サイト利用法(採用に関わる社会情勢)	当該年度の採用事情や社会情勢の解説、就職活動サイト利用法と登録の説明を行います。				受講後、配布された資料を見直し復習してください(4時間)。				
5	自己分析 初級編(適性検査の結果に見る自分)	適性検査の結果を見て、自己の振り返りを行います。進路選択のための自己分析法を解説し、実際にワークを行います。				事前に、配布テキスト「就職活動ナビゲーション」第2章を読んで臨んでください(4時間)。				
6	自己分析 初級編(自分の強み・弱み)	自己分析に基づき、自分の強みを言葉で表現し文章にしてみます。				前回のワークを復習し、引き続き自己ワークに取り組んでから臨んでください(4時間)。				
7	求める人材の理解(企業講演会)	企業の人事担当者から新卒社会人に求める能力や、大学時代に身に付けてもらいたいことなどをご講演頂きます。				<課題>講演の感想を自分の言葉で400字でまとめてください。(4時間)。				
8	SPI試験対策(受検)	ペーパー形式のSPI試験を模擬体験します。				配布テキスト「SPI3能力テスト対策必出問題完全攻略」により個々に対策し臨んでください(4時間)。				
9	企業研究会(業界・職種の理解)	業界・職種の種類や企業研究の仕方を解説。新聞を利用した企業研究法や読み方のコツをお伝えします。インターンシップに関する説明も行う予定です。				就職サイトを閲覧し、企業情報やインターンシップ情報を見て業界理解を深めてください(4時間)。				
10	企業研究会(企業研究の仕方)	企業を調べる上で、確認する項目や比較する情報について、企業研究の仕方と注目するポイントについて解説します。				<課題>次週来学予定のOB・OGの企業について、企業研究を行ってください(4時間)。				
11	企業研究会(卒業生講演会)	本学の卒業生から、企業について、仕事について、その職を得るために工夫したことなどについて、経験談を語って頂きます。				<課題>第14回講義に向けて1社企業を選択し、企業研究をしてください(4時間)。				
12	SPI試験対策(解説)	模擬試験の結果返却と問題の解説および演習を行います。				模試の受験時に配布された解答冊子を読み不明点を明らかにして臨んでください(4時間)。				
13	履歴書作成法	就職活動に臨む際の履歴書の作成法について解説します。これまでの講義で培った自己分析の結果を盛り込む内容を考えます。				<課題>作成法に基づき、履歴書を作成してください。用紙は講義中に配布します(4時間)。				
14	企業研究会(グループワーク)	個々に興味のある企業について調べた情報(課題)をグループ内で発表します。他者の発表から価値観を広げ、自分の興味の軸を増やします。				受講後、他者の調べた企業の中から選び、さらに企業研究を深めてください(4時間)。				
15	インターンシップの意義と夏季休業期間の過ごし方	前期の講義のまとめを行います。また職業観を養うためのインターンシップの参加方法、後期からの講義概要についても説明します。				受講後、配布資料(インターンシップ企業リスト)から企業研究を進めてください(4時間)。				
16	就職活動の流れ	自己のキャリア目標に応じた就職活動スケジュールを作成し、具体的な準備について考えます。				前期までのワークブックで記入してきたことを見直し臨んでください(4時間)。				
17	自己分析 実践編(自分史作成)	履歴書・エントリーシートを作成するための具体的な自己分析を行います。過去の自分と向き合い、特出する出来事を文章化します。				受講後、作成した自分史に基づき印象に残った出来事を文章化してください(4時間)。				
18	自己分析 実践編(他己分析と長所・短所)	履歴書・エントリーシートを作成するための具体的な自己分析を行います。周囲の知人、友人からの評価を参考にし、自分を客観的に分析します。				受講後、他者から言われた言葉を自己振り返りし、文章化してください(4時間)。				

授業計画（各回のテーマ等）		事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。	
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	就職活動サイト利用法 （実践的な利用法）	企業研究法の振り返り、業種・職種の理解、就職活動サイトの効率的な利用法などを解説します。	就職活動サイトにアクセスし、実際に情報検索、情報収集を行ってください(4時間)。
20	SPI試験対策 （受験と対策）	WEB形式のSPIテストの対策を行います。実際にコンピュータを利用したテストに臨みます。	配布テキスト「SPI3能力テスト対策必出問題完全攻略」により個々に対策し臨んでください(4時間)
21	先輩の就職活動報告会	内定した先輩から、具体的な採用試験の事例、就職活動の準備の工夫点などについて紹介して頂きます。	受講後、先輩の事例を参考に、第16回の講義で作成した日程をより具体化してください(4時間)。
22	企業研究会 （直接情報を得る）	実際に企業の人事担当者にお越し頂き、業界や企業についてご説明頂きます。	本講義には、事前に講演企業について企業研究を行って臨んでください(4時間)。
23	エントリーシート作成法 （エントリーシートの目的とねらい）	エントリーシートの3大質問、作成法について解説します。	受講後、3大質問の回答作成のワークに継続して取り組んでください(4時間)。
24	エントリーシート作成法 （エントリーシートの作成）	エントリーシートの3大質問に取り組みます。	<課題>実際にエントリーシートを作成してください。用紙は講義中に配布します(4時間)。
25	ビジネスマナー （就職活動に臨む姿勢と身だしなみ）	就職活動に臨む姿勢と身だしなみ、ビジネスマナー（挨拶や作法など）について解説します。実際にリクルートスーツを来て参加していただきます。	事前に、配布テキスト「就職活動ナビゲーション」就活マナーを読んで臨んでください(4時間)。
26	ビジネスマナー （合同企業説明会の歩き方）	合同企業説明会や会社説明会の参加方法、ビジネスマナーについて解説します。	受講後、配布テキスト「就職活動ナビゲーション」第6章を読んでおいてください(4時間)。
27	ビジネスマナー （電話・メール・手紙）	企業との連絡の仕方、電話・メール・手紙における一般常識や作法などについて解説します。実際にメール本文を作成するなどのワークに取り組みます。	受講後、配布テキスト「就職活動ナビゲーション」第6章を読んでおいてください(4時間)。
28	面接対策 （面接マナーと先輩事例紹介）	面接試験におけるマナーを学び、内定した先輩から面接試験に関わる経験談を聞かせて頂きます。面接対策の工夫点なども紹介します。	本講義には、事前に先輩の内定企業について企業研究を行って臨んでください(4時間)。
29	面接対策 （グループディスカッション対策）	採用試験で行われるグループディスカッションを体験し、グループディスカッションの評価ポイントについての理解を深めます。	受講後、自分の姿勢について自己評価し、自分のアピールポイントを考えてください(4時間)。
30	講義のまとめ （就職活動に向けて）	講義のまとめを行います。自己のキャリア形成に向けた目標について改めて確認し、具体的計画を立てます。また就職活動に向けて、大学内のサポート体制についても紹介します。	個々の具体的計画に基づき、進路選択（就職活動）に向けた準備を進めてください(4時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
「就職活動ナビゲーション（日経HR）」「ワークブック（1）（2）（松本大学キャリアセンター）」「SPI3能力テスト対策 必出問題完全攻略（懶学研メディアコン）」の3つのテキストを講義内にて配布します。個人で購入する必要はありません。		出席レポート：60% 課題：40% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づき姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「通るエントリーシートの法則」福沢恵子著日経HR編集部編（日経HR） ISBN：978-4-89112-141-9 「面接の質問「出た順」50」日経就職ナビ編集長 渡辺茂晃著日経HR編集部		社会に出るための準備をする講義です。主体的に取り組むことを心がけて下さい。またキャリアセンターが実施する就職合宿、就職対策講座などにも積極的に参加するようにして下さい。	

科目名	キャリア形成（実践）		学年学期	4年通年	単位数	2	ナバリング	KL46098 TL460108	研究室	
担当者	各教員		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスワ-			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
総観		○								
<b>授業概要</b>										
本講義は、大学卒業後のキャリア形成をより充実させることに主眼を置いた科目です。本講義では、さまざまなワークを通じて、学生の皆さんが初めて経験する「進路選択（就職活動）」の場面において生じたさまざまな課題や悩みを整理し、それらに対して迅速な対応をしていくことに力を入れていきます。また講義内では、その時々に応じた具体的な採用情報の提供なども行っていきます。										
<b>学修到達目標</b>										
「進路選択（就職活動）」の場面において生じたさまざまな課題や悩みを整理し、それらを解決していくスキル（課題解決力）を身に付けることが最大の目標です。その延長線上に、納得のできる進路が見えてくるはずです。										
<b>授業の進め方</b>										
教室での講義を主とします。また「セルフワーク」や「ロールプレイ」などを授業の一部に取り入れ、より実践に近い形で講義を進めていきます。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標などについて説明します。「進路選択（就職活動）」に関して、個々人のスケジュールの確認をします。				キャリア形成、キャリア形成で利用したテキストなどを見直してきて下さい(4時間)				
2	業界・企業研究（実践）	業界・企業の選択時に生じた迷いを踏まえながら、再度、業界・企業研究に取り組みます。それぞれの業界・企業に関する情報も紹介します。				現時点で志望している業界・企業の一覧を作成してきて下さい。業界・企業研究を進めて下さい(4時間)				
3	業界・企業研究（実践）	業界・企業の選択時に生じた迷いを踏まえながら、再度、業界・企業研究に取り組みます。それぞれの業界・企業に関する情報も紹介します。				現時点で志望している業界・企業の一覧を作成してきて下さい。業界・企業研究を進めて下さい(4時間)				
4	自己分析（実践）	実際の履歴書やエントリーシートを作成する際に生じた課題を踏まえながら、再度、自己分析に取り組みます。それぞれの課題に応じて、エピソードや事例の選定などを相互に検討していきます。				これまでに作成した履歴書などを見直し、自分の文章を客観的に評価してきて下さい(4時間)				
5	自己分析（実践）	実際の履歴書やエントリーシートを作成する際に生じた課題を踏まえながら、再度、自己分析に取り組みます。それぞれの課題に応じて、エピソードや事例の選定などを相互に検討していきます。				これまでに作成した履歴書などを見直し、自分の文章を客観的に評価してきて下さい(4時間)				
6	志望動機のとめ方（実践）	実際の履歴書やエントリーシートを作成する際に生じた課題を踏まえながら、再度、志望動機の作成に取り組みます。それぞれの課題に応じて、キーワードの整理、強みとの連携などを相互に確認していきます。				これまでに作成した履歴書などを見直し、自分の文章を客観的に評価してきて下さい(4時間)				
7	志望動機のとめ方（実践）	実際の履歴書やエントリーシートを作成する際に生じた課題を踏まえながら、再度、志望動機の作成に取り組みます。それぞれの課題に応じて、キーワードの整理、強みとの連携などを相互に確認していきます。				これまでに作成した履歴書などを見直し、自分の文章を客観的に評価してきて下さい(4時間)				
8	キャリア相談	実際の就職活動を通じて生じたさまざまな悩みを共有し、それに対する対応策を相互に検討していきます。				これまでの就職活動を振り返り、進路選択にあたって気になる点をまとめてきて下さい(4時間)				
9	面接対策（実践）	実際の面接試験で生じた課題を踏まえながら、再度、面接時の対応について学んでいきます。それぞれの課題に応じて、実践的な練習を重ねていきます。				面接時に聞かれた困った質問などについてまとめてきて下さい。				
10	面接対策（実践）	実際の面接試験で生じた課題を踏まえながら、再度、面接時の対応について学んでいきます。それぞれの課題に応じて、実践的な練習を重ねていきます。				面接時に聞かれた困った質問などについてまとめてきて下さい(4時間)				
11	グループディスカッション対策（実践）	実際のグループディスカッション試験で生じた課題を踏まえながら、再度、グループディスカッションのポイントについて学んでいきます。それぞれの課題に応じて、実践的な練習を重ねていきます。				グループディスカッションで課されたテーマについて、再度、自分の考え方をまとめてきて下さい(4時間)				
12	グループディスカッション対策（実践）	実際のグループディスカッション試験で生じた課題を踏まえながら、再度、グループディスカッションのポイントについて学んでいきます。それぞれの課題に応じて、実践的な練習を重ねていきます。				グループディスカッションで課されたテーマについて、再度、自分の考え方をまとめてきて下さい(4時間)				
13	報告書の作成	大学卒業後の進路が決まるまでの過程を振り返りながら、その過程をまとめた報告書の作成に取り組みます。				<課題> 報告書の作成を進めてきて下さい。用紙は講義中に配布します(4時間)				
14	報告書の作成	大学卒業後の進路が決まるまでの過程を振り返りながら、その過程をまとめた報告書の作成に取り組みます。				<課題> 報告書の作成を進めてきて下さい。用紙は講義中に配布します(4時間)				
15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返ります。卒業に向けたガイダンスを行います。				これまでの内容を復習するようにして下さい(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
講義用資料・プリントを配布します。				出席レポート：50% 課題：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
特になし				皆さんの「進路選択（就職活動）」に直結する内容ですので、主体的に講義に取り組むことを心がけて下さい。そうすることで皆さんの大学卒業後のキャリア形成がより充実したものになると思います。						

科目名	ワークインフォメーション（総合経営学部）	学年学期	4年後期	単位数	2	ナパリング	KL46099 TL460109	研究室	W-24
担当者	上野 隆幸・畑井 治文	必修選択	選択必修	科目種別	講義	オフィスア-	木曜日3限		
関連資格				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性	履修対象入学年度（読替科目）							
		A	B	C					
	総 観	○							
授業概要									
本講義ではこれから「社会人として、そして労働者として働く」皆さんに、働く上での諸問題をきちんと克服し、より良い働き方を実現してもらうための情報を提供します。大きく働く上での中心的な法律の説明、仕事と生活のバランスの取り方、社会保険の説明、働くことで問題が生じた際の解決方法、万が一転職や失業した際の手続き、等を扱います。									
学修到達目標									
社会で働く上で自らを守るために必要な、労働に関わる法律・手続き等の知識を修得してもらうことが最終的な目標です。									
授業の進め方									
毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。なお毎回の講義ではミニレポートを作成してもらいます。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	講義の内容や進め方について説明します。				働く上での不安をあらかじめ考えて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
2	日本の労働市場の現状と今後	日本の労働力人口の推移と今後の労働市場について説明します。				労働力人口減少の問題点を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
3	労働法概論 - 様々な労働関連法規 -	労働に関わる法律を広く浅く紹介します。				労働に関わる法律を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
4	労働基準法 - 最低賃金と賃金支払原則 -	労働基準法の「最低賃金」「賃金支払原則」等に関わる扱いについて説明します。				労働基準法第三章をあらかじめ読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
5	労働基準法 - 割増賃金・平均賃金・賞与 -	労働基準法の残業時の「割増賃金」やその根拠となる「平均賃金」等について説明します。				労働基準法第三七条・第三八条をあらかじめ読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
6	労働基準法 - 解雇・労働時間・休憩時間 -	労働基準法の解雇や労働時間等について説明します。				労働基準法第二章をあらかじめ読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
7	労働基準法 - 休日休暇 -	労働基準法の休日や休暇について説明します。				労働基準法第四章をあらかじめ読んで下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
8	労働基準法に関わる講演	長野労働局より講師を招き、労働基準法の実践について講演してもらいます。				労働基準法に関連する内容を、あらかじめ整理して下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
9	ワークライフバランス	育児休業や介護休業を中心にワークライフバランス全般について説明します。				育児休業についてあらかじめ調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
10	ワークライフバランスに関わる講演	長野労働局より講師を招き、ワークライフバランスの実践について講演してもらいます。				ワークライフバランス施策を整理して下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
11	社会保険 - 雇用保険・労災保険 -	法定労働保険である雇用保険と労働災害保険について説明します。				雇用保険と労働災害保険を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
12	社会保険 - 厚生年金保険・健康保険 -	法定社会保険である厚生年金保険と健康保険について説明します。				厚生年金保険と健康保険を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
13	労使関係と労働相談	職場でトラブルに遭った際や悩みが大きくなった際の相談窓口等について説明します。				パワハラ、セクハラ、マタハラを調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
14	転職のデメリット - 転職すべきか否か -	終身雇用制度における転職することのデメリットについて説明します。				日本の転職者の現状を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
15	退職・失業の際の手続き -	退職時や再就職時の手続きについて、雇用保険、年金保険、健康保険、税金を中心に説明します。				年金制度における第1号～3号被保険者を調べて下さい。プリントを復習して下さい。（4時間）			
テキスト		成績評価の方法・基準							
プリントを配布します。		出席レポート：60％ 定期試験：20％ 小テスト：20％ S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60％程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）							
「初任者・職場管理者のための労働基準法の本」労務行政研究所編（労務行政研究所） 「社会保険 これですっきりわかる！」井戸美枝著（日本実業出版社）		この講義で扱う内容は、皆さんが働く上で直接的に関連するものばかりです。積極的に講義に臨むとともに、講義の復習を欠かさないようにして下さい。							

科目名	社会人になるために		学年学期	4年後期	単位数	2	ナバリング	KL460100 TL460110	研究室	W-12
担当者	八木 雅子・林 昌孝・山根 宏文・白戸 洋		必修選択	選択必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
大学卒業後、職場や地域において社会人として自立して活躍するために必要な知識などを学ぶとともに、社会人としての心構えや考え方を学ぶことを目的とします。実際の現場で経験した内容をもとに、実践的な内容を扱っていきます。										
<b>学修到達目標</b>										
企業への入社や入社後の職場の人間関係などにおいて直面する様々な問題や課題に対処していく力を身につけている。										
<b>授業の進め方</b>										
講義は全体講義形式とクラス別講義形式、パネルディスカッション、などによって行います。講義は必要に応じて2コマ連続して行なうこともあるので講義計画を参考にして受講してください。なお、最初の講義の時に詳細な予定を示します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	オリエンテーション 講義スケジュール説明				計画表を配布します。(4時間)				
2	パネリストによる各職種の紹介と経験談	パネルディスカッション(パネラーの職種内容等説明)(4時間)				講演内容の整理、レポート作成の夜振り返りを行います。(4時間)				
3	パネリストの体験事例から学ぶ	パネルディスカッション(仕事と生きがい、会社生活等)(4時間)				講演の整理、レポート作成による振り返りを行います。(4時間)				
4	ビジネス文書作成	企業の報告書と報告書作成のポイント(課題として提出する)				資料配布をします。(4時間)				
5	レポートの振り返り	課題レポートの返却と講評				レポートで指摘された課題の確認をします。(4時間)				
6	製造業界の職場	社会人として直面する課題(製造業編)				製造業界についての情報収集、講演を聞いてレポート作成(4時間)				
7	運輸業界(航空業界)の職場	社会人として直面する課題(運輸業編)				運輸業界、海外での仕事についての情報収集、講演を聞いてレポート作成(4時間)				
8	建設業界の職場	社会人として直面する課題(建設業編)				建設業界、海外での仕事についての情報収集、講演を聞いてレポート作成(4時間)				
9	旅行業界の職場	社会人として直面する課題(福祉業編)				旅行の職場、職種についての情報収集、講演を聞いてレポート作成(4時間)				
10	講演を聞いてレポートにまとめる	小レポートの講評				レポートで指摘された課題の確認をします。(4時間)				
11	ビジネスマナー講座	研修と自己啓発				社会人のマナーについて考えてきてください。(4時間)				
12	自己啓発	自己啓発プログラムの作成(自己を取巻く環境と自己分析)				自分の性格、学生生活をまとめてきてください。(4時間)				
13	自己啓発	自己啓発プログラムの作成(課題として提出する)				自己啓発プログラムを作成します。(4時間)				
14	自己啓発	課題レポートの返却と講評				公表をもとに、自己分析を再検証し挑戦課題を発見します。(4時間)				
15	まとめ	まとめ				学生生活と社会人生活との違いを最終確認します。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
必要に応じてプリント資料を配布します。				レポート:100% レポートで評価します。 S:授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。 A:授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。 B:授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。 C:授業内容の6割程度を理解している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
なし				「社会人としての自覚」を考えることを目的とした講義なので積極的に参加してほしい。 講義計画に該当する内容をプリント資料から探し、読んでおいてください。						

科目名	教育指導入門		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KL260101 TL260111	研究室	W-31
担当者	室谷 心		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限		
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
	総 観○									
<b>授業概要</b>										
プレゼン、授業、セールス、面接、仕事でもプライベートでも自分の考えや思いを他人に伝えたい場面や伝えなければいけない場面は、誰にでも起こります。自分の真意を相手が正しく受け取ってくれるように、上手に情報発信する技法を考えましょう。										
<b>学修到達目標</b>										
こちらの意図が相手にきちんと伝わるようなプレゼンをできるようになる。 教育指導に関する問題を正しく捉えられるようになる。										
<b>授業の進め方</b>										
講義と実践を交えて進めます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	この授業の目的と進め方を解説し、必要に応じてグループ分けします。グループのメンバーの顔と名前を覚えましょう。				グループのメンバーの顔と名前を覚える。アイスブレイクを考える。(4時間)				
2	分かりにくい表現	身の回りの分かりにくい表現をさがし、それがなぜわかりにくいのか考える。				分かりにくい表現を探す。(4時間)				
3	“てにをは”	“てにをは”を考える。てにおはを変えるだけで文章の印象がどのように変わるか。				”てにおは”をいろいろ変えた文章を比較する。(4時間)				
4	分かりやすい	参考文献に従って、分かりやすい表現のルールを考える。				ルールを吟味する。(4時間)				
5	分かりやすいの実践と反省	分かりやすい表現の実践と反省。分かりやすい表現と分かりにくい表現を意識して作り比較検討する。				自分で分かりやすい表現を作ってみる。(4時間)				
6	プレゼン	プレゼンにおける分かりやすさとは何かを考える。				分かりやすいプレゼンを作ってみる。(4時間)				
7	説明術・基礎編	説明術・基礎編。参考文献「わかりやすい説明の技術」に基づいて説明術を考える。				課題のテーマを自分で説明してみる。(4時間)				
8	説明術・応用編	説明術・応用編。参考文献「わかりやすい説明の技術」に基づいてさらに説明術を考える。				課題のテーマを自分で説明してみる。(4時間)				
9	授業	授業におけるわかりやすさの再検討。				指導プランを考える。(4時間)				
10	プランの立て方	時間配分、話の流れの設定など、50分の授業プランの立て方を考える。				50分の授業プランを立ててみる。(4時間)				
11	題材と仕上げ方	50分の授業を想定し、題材の選択と仕上げ方の技術を学びます。				題材を自分仕様に仕上げる。(4時間)				
12	ICT機器の利用	パソコン、タブレット、カメラ、ビデオ、プロジェクターなどなど色々なツールの利用を考える。				カメラとパワーポイントを使ってみる。(4時間)				
13	技術の説明	“説明”してみよう1. 技術の説明を具体例を用いて考える。				技術を説明してみる。(4時間)				
14	文化の説明	“説明”してみよう2. 文化の説明を具体例を用いて考える。				文化を説明してみる。(4時間)				
15	まとめ	色々な説明のポイントを纏める。				授業内容全体を振り返り、試験に備える。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
なし				課題：30% 定期試験：70% 課題とは授業中の発表やレポートです S:教育指導に関する発展的な問題を考察できる。 A:教育指導に関する応用的な問題を考察できる。 B:教育指導に関する標準的な問題を考察できる。 C:教育指導に関する基礎的な問題を考察できる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
講義内で指示します。				教職を目指す学生を主な対象としていますが、授業の技法だけではなく、様々な形で情報発信を広く扱っていきます。						

科目名	職業指導論		学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	KL26093 TL260112	研究室	W-29
担当者	畑井 治文		必修選択	選択	科目種別	講義	オイスカー	火曜日3限		
関連資格	高一(商業)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
		総 観○								
<b>授業概要</b>										
学校と社会の円滑な接続を図るためには、学生の職業観・勤労観を育むとともに、職業に関する知識や技能を身に付けさせることが必要不可欠です。またそれらに加えて、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力を育てることも大切になってくるでしょう。本講義では、職業指導(進路指導・キャリア教育)の基礎的な理論や実践的な技術について解説していきます。										
<b>学修到達目標</b>										
職業指導(進路指導・キャリア教育)の基礎的な理論や実践的な技術を学ぶことによって、職業指導についての知識や関心を広げようになるのはもちろん、中学生や高校生が進路選択という大きな課題に直面した際、教師として具体的な支援ができるようになることが目標です。										
<b>授業の進め方</b>										
基本的には講義用プリントを配布して授業を進めます。各回とも教室での講義となりますが、可能な限り、インタラクティブな授業を展開できるように心がけていきます。授業内で実施した小テスト・課題などについては、随時、返却・解説をする予定です。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学修到達目標などについて説明します。また職業指導の定義、職業指導の概念の広がりについて解説します。				今回の内容を復習すると同時に、代表的な職業分類について調べてきて下さい。(4時間)				
2	職業の語義と種類	職業の要素について解説した上で、総務省や厚生労働省の職業分類体系をもとに、多種多様な職業の種類を紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、職業選択理論について調べてきて下さい。(4時間)				
3	職業指導(進路指導・キャリア教育)の基礎理論	職業選択理論、構造理論、発達理論など、職業指導にかかわる代表的な基礎理論について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、昨今の求人倍率の推移について調べてきて下さい。(4時間)				
4	産業構造・就業構造の変化	日本の産業構造の変化、それを受けた就業構造の変化について解説します。また昨今の労働市場の動向を整理しながら、企業の採用意欲の方向性なども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、いわゆる「七五三現象」について調べてきて下さい。(4時間)				
5	若年者の職業意識とキャリア行動	職業指導の対象となる「若年者」が抱く職業意識、それを踏まえたキャリア行動について解説します。職業指導の円滑化を図る上、「若年者」への理解を深めることは必要不可欠なポイントです。				今回の内容を復習すると同時に、高卒で就職を希望する学生の割合を調べてきて下さい。(4時間)				
6	高校におけるキャリア教育と職業指導	キャリア教育を進める際の組織や運営方法について解説した上で、高校における職業指導の流れや留意点なども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、キャリアカウンセリングの目的を調べてきて下さい。(4時間)				
7	キャリアカウンセリングの理論と技法	キャリアカウンセリングの導入の背景、キャリアカウンセリングの目的・機能・プロセスについて解説します。				今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
8	中間のまとめ	映像資料を用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。				小テストを復習すると同時に、企業で行われているMB0について調べてきて下さい。(4時間)				
9	企業で行われているキャリア開発支援	企業で行われているキャリア開発支援の取り組みを題材にしながら、若年者のキャリア行動を促すための手法について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、労働関連の法律の種類について調べてきて下さい。(4時間)				
10	職業指導の際に知っておくべき法律	若年者が職業選択を進めていく上で、さらには実際に職業生活を過ごしていく上で知っておくべき法律について解説します。				今回の内容を復習すると同時に、フリーターに関連する情報を収集してきて下さい。(4時間)				
11	ケーススタディ(若年者のフリーターの実態)	若年者の「フリーターの実態」に焦点をあて、収入、雇用安定、能力開発などの側面から非正規労働者が抱える問題について解説します。また国が進めている若年者支援の施策なども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、若年者の離転職に関連する情報を収集してきて下さい。(4時間)				
12	ケーススタディ(若年者の離転職の実態)	若年者の「離転職の実態」に焦点をあて、離転職が多い理由、離転職のその後について整理した上で、離転職を防ぐための手法を解説します。				今回の内容を復習すると同時に、ドイツで行われている見習制を調べてきて下さい。(4時間)				
13	欧米諸国のキャリア開発支援	学校生活から職業生活への移行タイプを整理した上で、欧米諸国におけるキャリア開発支援の取り組みについて解説します。				今回の内容を復習すると同時に、適性診断の種類について調べてきて下さい。(4時間)				
14	自己理解・適性診断の手法	自己理解の意義と目的について解説した上で、ワークシートを用いながら実際に自己理解を行います。また自己理解を進める上で参考となる適性診断の手法なども紹介します。				今回の内容を復習すると同時に、次回実施される小テストに備えて下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	定期試験対策プリントを用いながら、これまでの内容を振り返ります。また授業への理解を深めるために小テストを実施します。				小テストを復習すると同時に、定期試験に備えて下さい。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
講義用プリントを配布します。				出席レポート:20% 小テスト:30% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解して発展問題・課題が解ける。A:授業内容を理解して応用問題・課題が解ける。B:授業内容をおおよそ理解して応用問題・課題がほぼ解ける。C:授業内容の6割程度を理解している。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「キャリア開発と職業指導 大学・高校のキャリア教育支援」伊藤一雄・佐藤史人・堀内達夫編(法律文化社)				教師の立場として有用だけでなく、大学生である自分自身の進路選択を考える上でも良いきっかけを与えてくれるはずです。常に問題意識を持って授業に臨むようにして下さい。						

科目名	社会福祉実習指導		学年学期	3年後期	単位数	3	ナバリング	TC360113	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸・矢崎 久・今村 篤史		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	社会福祉士			履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度（読替科目）							
			A	B	C					
<b>授業概要</b>										
本科目では、主に実習の意義について理解します。相談援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得するものです。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握等、総合的に対応できる能力を目標とします。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養します。										
<b>学修到達目標</b>										
1.福祉に関する問題を知り、そのなかで福祉に対する関心を深めることを目標にします。 2.学生自身が問題意識をしっかりと持って実習に臨める基盤をつくることを目指します。										
<b>授業の進め方</b>										
巡回指導を通して、個別指導及び集団指導を行います。実習を効果的に進めるために「実習記録ノート」を作成し、実習指導に活用します。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	本科目の目的および内容を理解する。				配布資料を用いて各自で内容を整理する。（事前3時間事後2時間）				
2	社会福祉実習指導の目的理解	講義・演習・実習との関連性について理解する。				これまでの講義・演習での学びと実習との関連を考える。（事前3時間事後2時間）				
3	体験活動の報告	夏休みに行なった福祉体験活動について、どのような学びを得たのか報告する。				事前に体験レポートを作成する。（事前3時間事後2時間）				
4	体験活動の報告	夏休みに行なった福祉体験活動について、どのような学びを得たのか報告する。				事後に社会福祉士実習に向けて必要なことをまとめる。（事前3時間事後2時間）				
5	実習先分析	社会福祉士実習に関する実習先の分野、具体的な施設・機関等の名称や内容を理解する。				事後に、関心のある分野や施設・機関等を複数考えておく。（事前2時間事後3時間）				
6	実習先分析	関心のある実習先に関して、法的規定、サービス内容、従事する専門職等について内容を調べる。				事後にレポートを作成する。（事前2時間事後3時間）				
7	実習先分析	各自で調べた内容について発表を行うとともに、教員からの助言等を踏まえて、実習先決定に向けてより詳細に実習先の分析を行う。				実習先に関する追加情報の収集および実習に向けて個々の課題を明確にしておくこと。（事前2時間）				
8	実習先分析	各自で調べた内容について発表を行うとともに、教員からの助言等を踏まえて、実習先決定に向けてより詳細に実習先の分析を行う。				実習先に関する追加情報の収集および実習に向けて個々の課題を明確にしておくこと。（事前2時間）				
9	実習先の決定	各自が調べた実習分野に基づき実習先を確定していく。				実習先候補のリスト（名称・住所・連絡先等）を作成すること。（事前2時間事後3時間）				
10	実習関連書類の説明	社会福祉実習で必要となる書類等の内容を理解する。				どの資料が、どの時点で必要となるのかを把握しておくこと。（事前2時間事後3時間）				
11	実習関連書類の作成	学生票の作成について				事後に下書きを行うこと。（事前2時間事後3時間）				
12	実習関連書類の作成	実習計画書の作成 実習（先）に関する動機・目的を明確にする。				事後に「実習（先）に関する動機・目的」を作成すること。（事前2時間事後3時間）				
13	実習関連書類の作成	実習計画書の作成 実習（先）に関する動機・目的を踏まえ、どのような実習を行いたいのか、その方法も含めて各自の実習計画をたてる。				事後に様式に基づいた計画書（案）を作成すること。（事前2時間事後3時間）				
14	実習関連書類の作成	実習記録について、記録の意義および内容を理解するとともに、記録の書き方について学ぶ。				実習記録に関して、配布資料およびテキストを用いて復習しておくこと。（事前2時間事後3時間）				
15	まとめ	これまでの社会福祉実習指導での学びを確認するとともに、実習に向けて今後必要な準備等を各自で整理する。				実習に向けて必要な準備を行うこと。（事前3時間事後3時間）				
<b>テキスト</b>			<b>成績評価の方法・基準</b>							
「相談援助実習・相談援助実習指導 第2版」早坂聡久・増田公香編（弘文堂） ISBN:978-4-335-6116509（生協で購入してください。）			出席レポート：70% 課題：30% 社会福祉実習とあわせて、実習内容についての達成度を考慮して評価します。 S：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが95%以上 A：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが80%以上 B：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが70%以上 C：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが60%以上 出席レポートは実習記録を指します。							
<b>参考書</b>			<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>							
必要に応じて教員から適宜指示します。			実習は、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者による共同作業です。しっかりと協議し、確認しあいながら準備 実施と進めていきたいものです。							

科目名	社会福祉実習指導		学年学期	4年前期	単位数	3	ナバリング	TC460114	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸・矢崎 久・今村 篤史		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	社会福祉士				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性	A B C		履修対象入学年度(読替科目)				
<b>授業概要</b>										
本科目では、主に実習の意義について理解します。相談援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得するものです。また、社会福祉士として求められる知識、技術、価値・倫理、自己に求められる課題の把握等、総合的に対応できる能力を目標とします。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養します。										
<b>学修到達目標</b>										
1. 学生自身が問題意識をしっかりと持って実習に臨める基盤をつくることを目標にします。 2. 実習指導を通じて、社会福祉士にとって必要な知識、価値・倫理、技術の習得を促進することを旨とします。										
<b>授業の進め方</b>										
巡回指導を通して、個別指導及び集団指導を行います。実習を効果的に進めるために「実習記録ノート」を作成し、実習指導に活用します。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	職場実習	実習先(施設・機関等)の法的根拠、目的、組織、機構、機能、運営に関して理解する。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前3時間事後2時間)				
2	職場実習	実習先に関連する他施設、制度、社会資源について理解する。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前3時間事後2時間)				
3	職種実習	実習先で働く職員の職種ごとの業務内容および役割について理解する。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前3時間事後2時間)				
4	知識習得	実習先のサービス等に関連する技術について理解する。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
5	知識習得	地域連携を含めた社会資源を活用することを理解する。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
6	知識習得	利用者に対して共感的に接する技術を理解する。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
7	知識習得	場面や相手ごとにふさわしい対人関係に関して理解する。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
8	ソーシャルワーク実習	利用者やその関係者、実習先の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションを含めて、円滑な人間関係を形成する。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
9	ソーシャルワーク実習	利用者理解、利用者のニーズ把握とそれに基づく個別援助計画を作成する。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
10	ソーシャルワーク実習	利用者とその関係者(家族・親族・友人等)に対し適切に援助関係を形成する。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
11	ソーシャルワーク実習	利用者とその関係者(家族・親族・友人等)に対し権利擁護の観点から支援を考える。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
12	ソーシャルワーク実習	他職種連携をはじめとする、チームアプローチの必要性およびその構築方法を考える。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
13	ソーシャルワーク実習	実習先でのサービスの管理運営や経営管理の方法について学ぶ。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
14	ソーシャルワーク実習	実習先が地域とどのように関わっているのか、その具体的な働きかけや方法について学ぶ。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
15	ソーシャルワーク実習	社会福祉士としての知識、価値・倫理、技術について、実習先でどのように行われているのかを学ぶ。				実習指導者や担当教員から受けた指導を基に予習および復習を行うこと。(事前2時間事後3時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「相談援助実習・相談援助実習指導 第2版」早坂聡久・増田公香編(弘文堂) ISBN:978-4-335-61165-0(生協で購入してください。)				出席レポート:70% 課題:30% 社会福祉実習とあわせて、実習内容についての達成度を考慮して評価します。 S:出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが95%以上 A:出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが80%以上 B:出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが70%以上 C:出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが60%以上 出席レポートは実習記録を指します。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
必要に応じて教員から適宜指示します。				実習は、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者による共同作業です。しっかりと協議し、確認しあいながら準備 実施と進めていきたいものです。実習指導実施日は事前に通知します。						

科目名	社会福祉実習			学年学期	3年後期	単位数	6	ナバリング	TC360115	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸・矢崎 久・今村 篤史			必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	社会福祉士					履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
社会福祉実習は、相談援助実習を通して相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得するものです。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握等、総合的に対応できる能力を目標とします。現場実習を通して、関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的内容を実践的に理解します。											
学修到達目標											
180時間以上の実習および実習指導者により指導を受けながら、社会福祉士の知識、価値、技術を習得することを目標とします。											
授業の進め方											
実習時間は概ね1回8時間にわたり実習を行います。実習計画に基づき実習指導者と調整後、実行に移していきます。学生は、実習を行ったその日のうちに、毎回実習記録を作成し、実習先の実習指導者の指導・助言を受けます。											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	実習中の留意点	実習先（施設・機関等）の法的根拠、目的、組織、機構、機能、運営に関して理解する。					社会福祉演習・社会福祉実習指導等での学びを事前に確認しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
2	実習中の留意点	実習先で働く職員の職種ごとの業務内容および役割について理解する。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
3	実習中の留意点	実習先に関連する他施設、制度、社会資源について理解する。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
4	実習中の留意点	実習先のサービス等に関連する技術について理解する。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
5	実習中の留意点	地域連携を含めた社会資源を活用することを理解する。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
6	実習中の留意点	利用者に対して共感的に接する技術を理解する。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
7	実習中の留意点	場面や相手ごとにふさわしい対人関係に関して理解する。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
8	実習中の留意点	利用者やその関係者、実習先の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションを含めて、円滑な人間関係を形成する。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
9	実習中の留意点	利用者理解、利用者のニーズ把握とそれに基づく個別援助計画を作成する。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
10	実習中の留意点	利用者とその関係者（家族・親族・友人等）に対し適切に援助関係を形成する。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
11	実習中の留意点	利用者とその関係者（家族・親族・友人等）に対し権利擁護の観点から支援を考える。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
12	実習中の留意点	他職種連携をはじめとする、チームアプローチの必要性およびその構築方法を考える。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
13	実習中の留意点	実習先でのサービスの管理運営や経営管理の方法について学ぶ。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
14	実習中の留意点	実習先が地域とどのように関わっているのか、その具体的な働きかけや方法について学ぶ。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
15	実習中の留意点	社会福祉士としての知識、価値・倫理、技術について、実習先でどのように行われているのかを学ぶ。					実習中での学びを実習記録も含めてしっかり復習しておくこと。（事前3時間事後3時間）				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「相談援助実習・相談援助実習指導 第2版」早坂聡久・増田公香編（弘文堂） ISBN:978-4-335-61165-0（生協で購入してください。） 「実習記録ノート 一式」（別途、指示します。）					出席レポート：70% 課題：30% S：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが95%以上 A：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが80%以上 B：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが70%以上 C：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが60%以上 課題は実習の進捗に応じて指示しその作成状況を指します。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
なし					別途定める実習指導費を実習先に支払うため、実習終了後にその費用を徴収します。実習先への交通費は自己負担です。なお、実習に際しインフルエンザ等の予防接種は義務となっています。						

科目名	社会福祉実習		学年学期	4年前期	単位数	6	ナバリング	TC460116	研究室	W-25
担当者	尻無浜 博幸・矢崎 久・今村 篤史		必修選択	選択	科目種別	実験	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	社会福祉士				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
社会福祉実習は、相談援助実習を通して相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得するものです。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握等、総合的に対応できる能力を目標とします。現場実習を通して、関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的内容を実践的に理解します。										
<b>学修到達目標</b>										
180時間以上の実習および実習指導者により指導を受けながら、社会福祉士の知識、価値、技術を習得することを目指します。										
<b>授業の進め方</b>										
実習時間は概ね1回8時間にわたり実習を行い、実習計画に基づき実習指導者と調整後、実行に移すことを留意します。学生は、実習を行ったその日のうちに、毎回実習記録を作成し、実習先の実習指導者の指導・助言を受けます。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	実習中の留意点	実習先（施設・機関等）の法的根拠、目的、組織、機構、機能、運営に関して理解する。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
2	実習中の留意点	実習先で働く職員の職種ごとの業務内容および役割について理解する。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
3	実習中の留意点	実習先に関連する他施設、制度、社会資源について理解する。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
4	実習中の留意点	実習先のサービス等に関連する技術について理解する。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
5	実習中の留意点	地域連携を含めた社会資源を活用することを理解する。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
6	実習中の留意点	利用者に対して共感的に接する技術を理解する。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
7	実習中の留意点	場面や相手ごとにふさわしい対人関係に関して理解する。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
8	実習中の留意点	利用者やその関係者、実習先の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションを含めて、円滑な人間関係を形成する。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
9	実習中の留意点	利用者理解、利用者のニーズ把握とそれに基づく個別援助計画を作成する。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
10	実習中の留意点	利用者とその関係者（家族・親族・友人等）に対し適切に援助関係を形成する。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
11	実習中の留意点	利用者とその関係者（家族・親族・友人等）に対し権利擁護の観点から支援を考える。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
12	実習中の留意点	他職種連携をはじめとする、チームアプローチの必要性およびその構築方法を考える。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
13	実習中の留意点	実習先でのサービスの管理運営や経営管理の方法について学ぶ。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
14	実習中の留意点	実習先が地域とどのように関わっているのか、その具体的な働きかけや方法について学ぶ。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
15	実習中の留意点	社会福祉士としての知識、価値・倫理、技術について、実習先でどのように行われているのかを学ぶ。				実習指導者による指導を踏まえて毎回の実習後に予習および復習をしておくこと。（事前3時間事後3				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「相談援助実習・相談援助実習指導 第2版」早坂聡久・増田公香編（弘文堂） ISBN:978-4-335-61165-0（生協で購入してください。）				出席レポート：70% 課題：30% S：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが95%以上 A：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが80%以上 B：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが70%以上 C：出席レポートおよび課題の提出と内容のすべてが60%以上 課題は、実習の進捗に応じて指示し、その作成状況を指します。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>						
「実習記録ノート 一式」				実習にあたっては別途定める実習指導費を実習先に支払うため、実習終了後に、その費用を徴収します。実習先への交通費は自己負担です。なお、実習に際してインフルエンザ等の予防接種は義務となっています。						

科目名	生涯学習概論		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバ`リ`ン`グ	TB360117	研究室	W-20
担当者	向井 健		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア`ワ`ー	月曜日4限		
関連資格	学芸員、高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保健)、高一(保健)、養教一、中一(保健)、高一(保健)				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
広く地域に目を向けると、学校教育の枠にとどまらず、さまざまな場所で、様々な世代の人たちが互いに学びあっている姿があることに気がきます。そのような住民の学習活動を支えていくためには、社会教育・生涯学習にはどのようなことが求められるのでしょうか。身近な長野県や松本市における事例も紹介しながら、考えていきたいと思います。										
<b>学修到達目標</b>										
1、社会教育・生涯学習とは何かを知り、これからの社会教育・生涯学習のあり方について考えることができる。 2、地域の中で展開する住民の学習活動に目をむけ、そのような活動を支える社会教育・生涯学習の意義について考えることができる。										
<b>授業の進め方</b>										
資料・レジュメは適宜配布します。講義形式のほか、住民の学習実践過程の分析のグループワーク、身近な地域の生涯学習実践者をゲストスピーカーとして招き話を聞く特別講義、社会教育施設のフィールドワークにも取り組みます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	社会教育・生涯学習とは	社会教育・生涯学習の概念について学びます。何故、どんな時に、人は学びを求めたのか。「生きること」を励ます学びとは何か。持続可能な地域を創造する学びとは何か、ということを考えていきます。				事後学習：序章のふりかえり(4時間)				
2	社会教育・生涯学習の思想と方法	社会教育・生涯学習では、どのようなことを大事にしてきたのでしょうか。社会教育・生涯学習をめぐる思想や方法について学びます。				事後学習：第1章・プリントのふりかえり(4時間)				
3	社会教育・生涯学習の歴史	社会教育・生涯学習の歴史として、1950年代における共同学習運動を取り上げ、「表現すること」のもつ教育的意義について考えます。				事後学習：第1章・プリントのふりかえり(4時間)				
4	社会教育・生涯学習の歴史	社会教育・生涯学習の歴史として、1950～60年代に長野県で花開いた農村青年学習運動や信濃生産大学の事例を取り上げ、その意義について考えます。				事後学習：第2・4章のふりかえり(4時間)				
5	社会教育・生涯学習の歴史	社会教育・生涯学習の歴史として、1970年代後半の松川町で取り組まれた松下拓による健康学習実践の分析を通して「意識化」の論理について学びます。				事後学習：第6章・プリントのふりかえり(4時間)				
6	社会教育・生涯学習の行財政	住民の学習権を保障する社会教育・生涯学習に関わる行財政とその課題について考えます。また自分自身が住んでいる自治体の社会教育行政がどのようになっているのかを具体的に調べてもらいます。				事後学習：第3章・プリントのふりかえり(4時間)				
7	地域づくりに取り組む社会教育・生涯学習	公民館を核としながら住民主体の地域づくりを支える仕組みづくりに取り組んできた松本市の取り組みについて学びます。				事後学習：第7章のふりかえり(4時間)				
8	「地域と学校」をめぐる	「地域と学校」をめぐるどのような議論がなされてきたのかをフォローしながら、子ども・若者を育つコミュニティを培う社会教育・生涯学習の役割とは何か、ということについて考えます。				事後学習：プリントのふりかえり(4時間)				
9	住民の学びを支える社会教育施設	住民の学びを支える社会教育施設について学びます。とりわけこの回では、社会教育・生涯学習の観点から博物館について取り上げます。				事後学習：プリントの振り返り(4時間)				
10	ゲストスピーカーの話を聞く	実際にこの地域で活動されてきた地域住民もしくは社会教育職員の方にお話を聞きます。				事前学習：身近な地域の社会教育・生涯学習の状況について調べて質問事項を考える(4時間)				
11	社会的排除に取り組む社会教育・生涯学習	現代的課題としての社会的排除問題について学び、その課題解決に取り組む社会教育・生涯学習の意義について考えます。あわせて障がい者喫茶コーナーなどの取り組みなども紹介します。				事後学習：第5章の振り返り(4時間)				
12	3.11後の地域再生教育と社会教育・生涯学習	被災地におけるコミュニティの再生に果たした社会教育・生涯学習の役割を学ぶとともに、3.11以後社会にもとめられる社会教育・生涯学習とは何かを考えます。				事後学習：第8章の振り返り(4時間)				
13	社会教育施設フィールドワーク	特徴的な社会教育施設のフィールドワークを通して、そこがどのような「学びの場」における環境醸成に取り組んでいるのかを読み取り、報告してもらいます。				事後学習：フィールドワークの結果をまとめる(4時間)				
14	社会教育・生涯学習にかかわるしごととその力量形成	社会教育・生涯学習にかかわるしごとについて学ぶとともに、住民の学習を支えていく仕事をしていくために求められる力量形成のあり方について考えます。				事後学習：終章の振り返り(4時間)				
15	まとめ	講義を総括し、これから求められる社会教育・生涯学習について考えます。				事前学習：これまでの講義の振り返り(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「社会教育・生涯学習論」鈴木敏正ほか著(学文社)(別途、指示します。)				課題：30%、定期試験：70% 課題30%、定期試験70% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組むことができている。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組むことができる。B：授業のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「地域学習の創造：地域再生へ学びを拓く」佐藤一子著(東京大学出版会) ISBN：978-4130513272 「公民館で地域がよみがえる」白戸洋著(松本大学出版) ISBN：978-				長野県、そして松本市は社会教育・生涯学習が盛んな地域として全国的に知られています。身近な足元の住民の学習活動に目を向けてみましょう。きっと今まで見てきた地域が違った色をもって見えてくるはずです。						

科目名	博物館概論			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	TB260118	研究室	
担当者	栗山 究			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	学芸員			履修条件		【資格・免許取得希望者のみ履修可】					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
本授業では、私や私たちにとって博物館とは何かという基礎的な問いかけから出発し、博物館法をはじめとした国の諸制度に規定される施設運営に資する知見(定義、種類、目的、機能、現状、将来展望等)はもとより、歴史的かつ多面的視点から博物館を捉え直します。以上から、社会の中の多種多様な博物館の雑種性とその魅力を理解し、3・4年次に学芸員資格課程科目を専門的に修得する際の基盤となる思考の枠組みを身につけ、現代博物館の諸実践に資する知見の獲得をめざします。											
<b>学修到達目標</b>											
博物館は何のために存在し、どのような営みが展開されているのでしょうか。博物館を通し、私たちはどのような学びをつくりだすことができるのでしょうか。人間の営みの歴史的所産として博物館と呼ばれるものの展開過程を捉え、博物館を考える際の基本的な実践分析枠組みを理解し、博物館の実践の今日的あり方を論理的に考え、展望できるようになることが目標です。											
<b>授業の進め方</b>											
講義を基本に、その内容と関連して適時、受講者相互の学びあいが促されるようなグループワークやコメントペーパーでのやりとりを実施し、授業を展開します。希望に応じて、現地見学会を実施する予定です。話しあいの上、日程を確定します。											
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション：学芸員資格課程カリキュラムについて	学芸員資格課程カリキュラムの歴史を概観し、これから学芸員資格を取得するための3年間の展望を見通します。博物館学芸員の存在を核心に据え、その役割を検討します。					これから資格の取得をめざす博物館学芸員の役割とは何かを考えてきてください(4時間)				
2	グループワーク：博物館とは何か	博物館と呼ばれるものの関わりや経験・イメージから、その事業や役割をふりかえります。個々の事例から見えてくる多様性と雑種性の中からその範囲・範疇を考え、博物館のもつ魅力を相互に検討します。					資料を熟読し、事前・事後学習のために提示した課題に取り組んできてください(4時間)				
3	制度としての博物館1：博物館法を読む	国は博物館をどのように位置づけているのでしょうか。博物館の分類や運営のあり方の規定などを理解し、制度としての博物館の目的・定義・事業・種類・望ましいあり方を検討します。					資料を熟読し、事前・事後学習のために提示した課題に取り組んできてください(4時間)				
4	アウトキャンパス：現地見学会	松本大学周辺の実際の博物館施設を訪問し、地域社会に根ざした博物館の役割や学芸員の仕事のあり方を学び、今後の学習の基盤とします。訪問先や日程などは、受講者と相談の上、検討します。					資料を熟読し、事前・事後学習のために提示した課題に取り組んできてください(4時間)				
5	制度としての博物館2：法の条理と学芸員	制度から見えてくる博物館の理念を検討します。法解釈の多義性、学芸員という職員、法制度に内在する構造的矛盾・課題、市民生活との関連などを検討することで、博物館を幾つかの視座から捉え直します。					資料を熟読し、事前・事後学習のために提示した課題に取り組んできてください(4時間)				
6	歴史主義的博物館史：近代と博物館成立の諸条件	世界で博物館はどのように構築されてきたのでしょうか。欧州の社会思想と代表的施設を手がかりに、近代市民社会の特徴、近代博物館の構築過程を通史的に概観し、その意味や課題を多面的に検討します。					資料を熟読し、事前・事後学習のために提示した課題に取り組んできてください(4時間)				
7	博物館学的博物館史：棚橋源太郎の思考と実践	日本の博物館はどのように制度化されてきたのでしょうか。代表的施設や実践を事例に、近代日本の博物館と呼ばれるものの受容と構築の展開過程を通史的に概観し、その意味や課題を多面的に検討します。					資料を熟読し、事前・事後学習のために提示した課題に取り組んできてください(4時間)				
8	機能主義的博物館論、博物館の政治性と権力性	博物館は今日、資料の収集保管・調査研究・展示・出版・教育事業など多様な機能を有する文化・教育施設と言われます。こうした思考が生まれた時代背景とその形成過程を学び、その意味や課題を検討します。					資料を熟読し、事前・事後学習のために提示した課題に取り組んできてください(4時間)				
9	社会教育施設としての戦後博物館：現状と理念	日本の戦後の意味、教育制度の展開、博物館と生涯学習・社会教育・学校教育の関連を再考し、地域の公民館・図書館とともに社会教育施設である博物館の意味や課題を多面的に検討します。					資料を熟読し、事前・事後学習のために提示した課題に取り組んできてください(4時間)				
10	地域志向型博物館という実践分析枠組み	博物館は現在、地域博物館の方向性を鮮明にしています。地域社会・住民との関連から博物館を捉える実践枠組みを検討し、その形成過程、代表的施設の実践を事例に、その意味や課題を多面的に検討します。					資料を熟読し、事前・事後学習のために提示した課題に取り組んできてください(4時間)				
11	グループワーク2：地域における学芸員の実践分析	代表的な公立博物館の活動展開過程に即し、地域博物館を自覚して実践に取り組んだ学芸員の生涯に亘る実践過程を分析し、地域社会に根ざした博物館実践の在り方や課題をグループごとに検討しあいます。					グループ内で分担した事前学習資料をレジュメにまとめてきてください(4時間)				
12	地域社会に根ざした博物館の教育実践	中・南信地域と全国の代表的な博物館施設を事例に、現在の実践過程に学び、その背景にある課題や目的、地域の学芸員や博物館を支える人たちの実践から、地域社会に根ざした博物館の在り方を検討します。					資料を熟読し、事前・事後学習のために提示した課題に取り組んできてください(4時間)				
13	現代博物館の大衆文化化状況めぐって	観光や地域振興など、幾つかの実践分析概念が生まれてきた近年の社会的背景と現代博物館の課題を、住民の学習に即して検討します。社会の中の多彩な実践の在り様とその魅力を捉えなおします。					資料を熟読し、事前・事後学習のために提示した課題に取り組んできてください(4時間)				
14	まとめ1：これまでの学習の理解度の確認	人間の営みの歴史的所産として博物館と呼ばれるものの展開過程を捉え、博物館を考える際の基本的用語や実践分析枠組みを理解し、その今日的あり方を論理的に考え、展望します。					この授業で学んだことを振り返り、自分の考えをまとめてきてください(4時間)				
15	まとめ2：博物館実践調査の全体報告会	執筆した課題レポートを報告し、そこで人はなぜ何を集めたのか、ものを展示する、ものを見るときはどういう営みかといった問いを立て、分析します。自分はどうのように向き合い、活かしていくか、考えます。					課題レポート発表に向けた準備をしてきてください(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
各回テーマに応じ、担当教員が作成・編集した資料(レジュメ)を配布します。参考書は下記のほか、初回および各回の授業で紹介し、回覧します。						出席レポート：30% 課題：35% 小テスト：35% (1)出席レポートは、各回授業のコメントペーパーや講義時の積極的応答、グループワークや現地見学会の積極的参加やレジュメ作成等により判定します。 (2)課題レポートの内容や評価の視点は、第5回・第12回の授業内で説明します。第15回授業で実施予定の全体報告会での発表内容も評価に含みます。 (3)小テストは、第14回授業内で実施予定です。 上記(1)(2)は、単位認定の必要条件とし、上記3点の総和が60点以上を合格とし、S・A・B・C判定で評価します。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
「市民のなかの博物館」伊藤寿朗著(吉川弘文館) 「現代に生きる博物館」君塚仁彦・名見耶明編(明石書店) 「シリーズ現代博物館学 博物館の理論と教育」浜田弘明編(朝倉書店)						さまざまな博物館や関連施設を訪問する、実践の現場に参加する、紹介した文献を読みながら、自分なりに学んだ内容をふりかえり、その内容を探究していきこうとする姿勢や行動は、積極的に評価し、応援します。					

科目名	博物館資料保存論			学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	TB360119	研究室	非常勤
担当者	福嶋 紀子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	学芸員			履修条件		【資格・免許取得希望者のみ履修可】					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A B C									
<b>授業概要</b>											
多様な博物館の中で、特に人文科学系博物館の所蔵する資料群に注目して、その保存のあり方を考えます。歴史を中心とした人文科学系博物館では、人類の営みの痕跡である様々な歴史資料を収蔵しています。それらは研究の素材であると同時に、現代を生きる人々の共有すべき文化財でもあります。世界に1点しかない貴重資料の利活用のためには、保存処理の対策が重要となります。博物館資料を如何に保存し、利活用すべきか、教育普及活動との関連の中で、保存のあり方を考えます。											
<b>学修到達目標</b>											
博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得します。科学的な処置も含めて多様な博物館資料の保存対策を理解し、防災対策も含めて資料の保存に関する基礎的能力を養います。											
<b>授業の進め方</b>											
教室での講義を中心とします。受講生は授業終了までに身近な博物館を見学者として訪れて、博物館資料の種類を分析してください。見学した博物館について、授業の中で小レポートを課しますので、そのつもりで準備してください。											
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	博物館で収蔵する資料と史料	博物館資料の種類を大きく資料と史料に分け、人文科学系博物館の多くが所蔵する史料について詳述します。まずは収蔵資料にはどのようなものがあるか、具体例を見ながら検討します。					各自が見学する予定の博物館候補を探す。4時間				
2	地域アイデンティティの視覚的発現の場としての博物館	地方自治体が建設した博物館は、生い立ちに違いがあります。収蔵されている資料は永久保存が原則ですが、保存のみでは博物館の役割は果たせません。保存とは矛盾する利用提供について考えます。					見学対象の博物館の設立の経緯について調べる。4時間				
3	人文科学系博物館の資料とは	「モノをして語らしめる」とされる博物館のバックヤードは、情報の集積場所として、博物館に求められる役割を担う心臓部分です。ここに集積される資史料の集積経路をたどります。					博物館見学後のレポートを作成する。4時間				
4	博物館のモノ資料1: 民具	高度経済成長前の日本の暮らしと生産の様相を示す民具は、人力で行う生産活動の知識の英知でもあります。民具資料には地域特性があり、重複や欠如もあります。その収集・保存の方針について考えます。					各自が実際に見たことのある民具をリストアップする。4時間				
5	博物館のモノ資料2: 発掘遺物	開発行為に伴って発掘された遺物は、博物館以外の行き場所を失い、土中の環境から、展示室・収蔵庫への移管による環境の変化で劣化の進む遺物もあります。保存技術の最新情報を学習します。					考古学の発掘現場や発掘遺物について概説できるようになること。4時間				
6	博物館で収蔵する資史料1: 古代・中世資史料	日本の古代中世の資史料は地方に残ることはまれで、京都や奈良、鎌倉などの地に多く残されます。こうした国宝や文化財として重視される貴重資料の保存はどのようになされているのかを学習します。					京都・奈良の寺社の「宝物」の保存状況について理解すること。4時間				
7	博物館で収蔵する資史料2: 近世の地域資料	個人宅で所蔵されてきた地域資料が、博物館に移管された場合、博物館ではどのように利活用し保存していくのか、世界有数の資料の残存率を誇る日本の資料保存の取り組みと博物館につ学習します。					近世文書を授業で読み、分類・整理するための方法を学びます。4時間				
8	博物館で収蔵する資史料3: 近現代行政文書	近世の古文書と比べて、近代行政文書は顧みられることが少なく、市町村合併で多くの文書が失われました。さらに現代のデジタル資料の保存性も懸念されます。歴史的公文書を未来に伝える方法を考えます。					行政文書のライフサイクルと歴史的公文書について学ぶ。4時間				
9	消滅の危機にある紙資料	生活様式の変化や高齢化により、地域で保存されてきた資料は消滅の危機にあります。地域資料を保存する取り組みは、高度経済成長以後に始まります。史料保存運動の奇跡と博物館との関わりを学びます。					歴史資料の保存と公開のバランスについて考える。4時間				
10	災害と資史料レスキュー	近年各地で頻発する災害は、住環境のみでなく地域の歴史をも消滅させてしまいます。阪神淡路大震災以後各地で活発化したボランティアによる史料保存活動について概観し、史料レスキューの実態を学びます。					実際の被災資料の緊急保存の方法について、類例を調査する。4時間				
11	史料の保存と修復	博物館資料は、すべてが展示に使用できるわけではなく、保存のためにはレプリカや、修復が必要となります。その技法としてのリーフキャストリングなどを解説します。					史料の修復に必要な和紙について学び、世界中から注目されている理由を考える。4時間				
12	日常的な史料保全1: 温湿度管理	博物館資料にとって最適な保存環境とはどのようなものか、資料の生活環境を作り出すために留意すべき点について解説します。何故正倉院の保存環境は資料にとって快適とされたのでしょうか。					収蔵庫の温湿度調整の方法について学び、資料にとって快適な環境を理解する。4時間				
13	日常的な史料保全2: IPM	博物館資史料は、虫害の危機に晒されています。資史料をを食べる虫の種類と最新の防虫対策を学びます。また資料燻蒸に代わる防虫対策としてどのようなものがあるのか、虫の嫌う環境について考えます。					資料に付く虫の種類を学び、燻蒸が使われなくなった理由を考える。4時間				
14	景観保存と、歴史的環境	地域景観とヘリテージ。歴史編纂と文化財の保存活用について、自治体史編纂の取り組みから考えます。博物館は資料の消滅を防ぐことができるのかを考えます。					自治体史編纂事業について知っている身近な事例をあげておくこと。4時間				
15	資料保存を巡るMLA連携	博物館の中の記録史料は、人員不足により整理作業が行えず検索手段が確立できないなど、資料公開には不十分な体制です。資料保存施設として図書館・文書館と博物館との連携の必要について考えます。					博物館収蔵庫の役割について、資料保存施設の側面から考える。4時間				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>							
「なし(講義で資料を配布)」				受講態度: 50% 定期試験: 50% S: 授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づいて課題解決に取り組める。 A: 授業内容を理解し、自発的に課題を認識できる。B: 授業の概略を理解し、知識の活用を図ることが出来る。C: 基礎知識を理解し実践に備えることが出来る。							
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
「アーカイブ事典」小川千代子・高橋実・大西愛著(大阪大学出版会) ISBN: 978-4-87259-174-3				途中でレポートの提出を求めます。課題は授業の中で説明します。							

科目名	博物館展示論			学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング	TB360120	研究室	
担当者	原田 和彦			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	学芸員					履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
博物館の使命は文化財を収集・保管し、利用に供することにあります。その利用に供する主たる手段が展示です。展示についてはその活動をとらえて観覧者の教養等に資するだけでなく、近年では国民共有の知的資源を国民が主体的に利用しうる手段で提供することによって、その権利を保障するものであるという考え方も強まっています。本講義では、学芸員としての基礎ともいえるべき展示の意義、理論、方法についての知識・技術等の能力を習得してまいります。											
学修到達目標											
展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養うことを目標とします。											
授業の進め方											
教室での講義を中心とするが、実際の展示活動を理解するために適宜博物館等を利用した実地授業を行います。日程については、授業の中で相談します。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	博物館展示の意義	博物館における展示とは何か。陳列の違いとは何かを考えます。					博物館の展示を見学しておくこと。(4時間)				
2	コミュニケーションとしての展示	展示をつづじて来館者に何を伝えるのか、その意義を考えます。					印象に残った展示をまとめる。(4時間)				
3	調査研究の成果の提示	博物館における調査研究の意義を考えます。					博物館の年報を確認すること。(4時間)				
4	展示と展示論の歴史	欧米における展示とその歴史や、背景を考えます。					インターネット等で博物館ホームページを確認すること。(4時間)				
5	展示の政治性と社会性	展示が何を伝え、どのような影響を与えるかを考えます。					ルーブル美術館の歴史を調べること。(4時間)				
6	博物館展示の実際	特別展示ができるまでを考えます。					博物館学芸員から特別展示の話聞き取ること。(4時間)				
7	展示の諸形態	展示導線、展示のサインについて考えます。					展示手法について、配布した資料を復習すること。(4時間)				
8	展示の制作	特別展示で具体的にどのような造作が必要か考えます。					展示の演習具について、配布資料で復習すること。(4時間)				
9	関係者との協力	巡回展示などのような館相互で協力する展示を考えます。					巡回展示をインターネットで調べること。(4時間)				
10	展示の評価と改善・更新	各地の博物館で導入されている評価方法について考えます。					具体的な評価について自分なりに考えてみる。(4時間)				
11	展示の解説活動	ボランティアによる展示、展示交流員制度を考えます。					展示交流員の実際を調べること。(4時間)				
12	解説文・解説パネル	解説文の字数、大きさ、位置などを考えます。					配布資料により、キャプションの実際を知ること。(4時間)				
13	展示を用いた学習活動	学校の授業でどのように展示を用いるかを考えます。					配布資料をもとにして、その実際を知ること。(4時間)				
14	展示を用いた学習活動	博物館におけるワークショップと展示の連携について考えます。					配布資料をもとにして、その実際を知ること。(4時間)				
15	展示解説書	ワークシートの実際について考えます。					より良いワークシートとは何かを調べること。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
必要に応じて指示します。				定期試験：40% 出席レポート：60% 授業ごとに短い文書(出席レポート)を提出していただきます。 S：授業内容を高度に理解して発展的な課題に対応できる。A：授業内容を理解して応用的な課題に対応できる。B：授業内容をおおよそ理解して応用的な課題にはほぼ対応できる。C：授業内容の6割程度を理解している。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
必要に応じて指示します。				実際に博物館の展示を見学し、それを作った学芸員から話を聞くことが望ましいです。							

科目名	博物館教育論		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング	TB360121	研究室	
担当者	原田 和彦		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	学芸員				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
			A	B	C					
授業概要										
博物館における教育普及活動は、ワークショップ、地域連携、学校との連携、またボランティアとの協働など多岐にわたっています。この科目では、様々な博物館における教育普及プログラムの実践例をとおして、博物館教育の基礎を学びます。										
学修到達目標										
博物館における教育普及活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養います。										
授業の進め方										
講義形式で授業を進めるが、博物館で展開している学習支援活動を学ぶため、博物館の現場での見学、体験を予定しています。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	博物館とは何か	博物館の施設、職員、そして予算について概観する				いずれかの博物館のホームページで、どんな活動をしているのかを確認すること。(4時間)				
2	博物館の機能	博物館の使命、その評価について触れる				ホームページなどで博物館法を確認し、その教育的な機能について確認すること。(4時間)				
3	生涯学習とは	生涯学習社会について概観する(学校教育、社会教育など)				今日の人々の生活のなかで、生涯学習とは何かを関連図書で確認すること。(4時間)				
4	学びの多様性	座学からこだわりの学という近年の学びの動向に触れる				これまでの博物館体験について書きだしておくこと。(4時間)				
5	博物館における教育普及とは	博物館が持つ固有の性格から、その教育はどうあるべきかを概観する				いずれかの博物館のホームページから教育普及事業を調べること。(4時間)				
6	博物館と利用者	展示とワークショップ、利用者満足度(CS)について触れる				博物館にいつの感想等をまとめておくこと。(4時間)				
7	博物館と利用者	美術館における対話型鑑賞について				対話型鑑賞とは何か理解しておくこと。(4時間)				
8	博物館と利用者	歴史博物館での対話型鑑賞の可能性について				一方的ではなく、参加できる展示鑑賞とは何か考える。(4時間)				
9	博物館における学びの連携	小学校との連携について				小学校時代に博物館をどう利用したかまとめておくこと。(4時間)				
10	博物館における学びの連携	小学校への支援プログラム				博物館のホームページで学校授業の支援の活動を理解しておくこと。(4時間)				
11	博物館における学びの連携	市民参画の形態(友の会 同好会活動)				博物館のホームページで友の会の活動を確認しておくこと。(4時間)				
12	博物館における学びの連携	博物館におけるボランティア				文化庁のホームページから文化ボランティアの事例を見ること。(4時間)				
13	博物館における学びの連携	博物館におけるボランティア				一般的なボランティアという概念と、博物館のそれとの違いはなにかを考える。(4時間)				
14	博物館における学びの連携	地域社会との連携・そしてまちづくり				萩市博物館や長野市松代の事例などから、博物館がまちづくりに果たす役割を考える。(4時間)				
15	博物館における学びの特性	これまでの授業をつうじて、博物館での学びの意義についてまとめよう。				博物館での教育は、学校利用や地域づくりとどのように関係するのかをまとめる。(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
授業中にプリントを配布します。		定期試験：40%、出席レポート：60% 受講態度および授業のなかで行う小論文(出席レポート)を重視します。 S：授業内容を高度に理解して発展的な課題に対応できる。A：授業内容を理解して応用的な課題に対応できる。B：授業内容をおおよそ理解して応用的な課題にはほぼ対応できる。C：授業内容の6割程度を理解している。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「博物館教育論」小笠原喜康 ほか編(ぎょうせい) ISBN：9784324092460 そのほかの文献については、講義の中で紹介します。		開講中に必ず博物館を見学し、そこで働く学芸員にインタビューをすること、レポート作成の重要なヒントとなります。質問等は授業終了後に受け付けます。								

科目名	博物館実習		学年学期	4年通年	単位数	3	ナパリング	TB460122	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽		必修選択	選択	科目種別	実験実習	オフィスアワー	前期：月曜日4限、金曜日2限		
関連資格	学芸員				履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
この授業は、博物館学芸員の資格を目指す学生諸君のための実習です。したがって、学芸員資格取得に必要とされる他の科目をすべて履修済みの学生諸君のみが対象となります。この講義だけを受講することは認められません。毎週規則正しく講義が行われるという形式の授業ではありません。常に教務関係の掲示に注意を払い、担当教員あるいは教務委員会からの指示にしたがってください。										
学修到達目標										
完全ではないまでも、将来学芸員として活動するための実践的訓練を確実に経験し、最低限の準備が整うことが到達目標です。										
授業の進め方										
最初の集合日は掲示にて伝達しますので、必ず指定された日に集合してください。その際に、実習に向けて各自がするべき作業の指示を出します。まずは、実習生として受け入れ先があるかどうかから始まります。										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	実習への心構えとガイダンス	実際に博物館で活動するため、博物館で働くことの実践について説明する				事前の配付資料を熟読(2時間)。事後、授業での指摘項目を調べる(2時間)。				
2	実習先の選定とアプローチの実践	実習先をどのように選定するか、選定した後にどのように博物館とコンタクトをとるかについて、説明する				事前の配付資料を熟読(2時間)。事後、授業での指摘項目を調べる(2時間)。				
3	博物館見学(3館以上)	事前に担当教員から、見学すべき博物館とその際の課題が提示されるので、それにしたがって3館以上の博物館を見学する				事前の配付資料を熟読(2時間)。事後、授業での指摘項目を調べる(2時間)。				
4	資料取り扱い実習	博物館史料として、歴史資料・美術資料を取り上げ、それぞれの取扱方について詳述する。				事前の配付資料を熟読(2時間)。事後、授業での指摘項目を調べる(2時間)。				
5	事後報告(発表と討論)	実習の事後指導として、各がそれぞれの体験を発表する。そのうえで、全員で問題点や反省点について討論する				事前の配付資料を熟読(2時間)。事後、授業での指摘項目を調べる(2時間)。				
6	事後指導	担当教員が、巡回指導をもとにそれぞれの実習について整理する				事前の配付資料を熟読(2時間)。事後、授業での指摘項目を調べる(2時間)。				
7	実習ノートにもとづく事後指導	実習先博物館が記入した実習ノートの内容をもとに、担当教員からのコメント、他の実習生からのコメントを求め、討論することで、実習体験をより実りあるものとする				事前の配付資料を熟読(2時間)。事後、授業での指摘項目を調べる(2時間)。				
8	総括	各自の実習を総括し、全体としての評価を発表する				事前、各自の実習ノートを再読(2時間)。事後、授業での指摘項目を調べる(2時間)。				
9	実習	以上の他に、各自2週間の実習が入る				事前の配付資料を熟読すること				
テキスト		成績評価の方法・基準								
特になし		レポート：30% 実技：20% 課題：50% 事前指導・事後指導の出席レポート(30%)、実習ノートの内容(20%)、課題(50%)の総合で成績評価をします。S:実習において極めて高い能力を発揮し、課題を的確に処理した。A:実習において問題のない評価を得、課題に確実に対応した。B:実習において平均的な評価を得、課題への対応が満足できる程度であった。C:実習においてのそれなりの評価を得、課題にも対応した。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
特になし		いずれかの博物館で行われる実習では、社会人として扱われることとなります。社会人として最低限身につけておくべき素養(挨拶等を含めたマナーや常識)の有無も、実習可・不可の条件です。								